2009年度

シ　ラ　バ　ス
（講義概要）

白鷗大学
教育学部・発達科学部

シラバス（講義概要）

《本書の見方》
本書は目次とシラバス（講義概要）から構成されています。
該当するカリキュラムの目次を参照し、掲載頁のシラバス
（講義概要）をご覧ください。

本書の内容は2009年2月25日現在の内容を掲載しています。
最新の情報は本学ホームページより確認することができます。

児（児童教育専攻）. 目　　次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語科目〔必修〕	英会話Ⅰ	Asha Vannimmen	通年	2	1～		
		Glenn Hamada	通年	2	1～		
		Susan Bergman Miyake	通年	2	1～		
		Howard Alexander	通年	2	1～		
	英会話Ⅱ	Glenn Hamada	通年	2	2～		
		Susan Bergman Miyake	通年	2	2～		
		Howard Alexander	通年	2	2～		
外国語科目〔選択〕	英語Ⅲ	石河　不砂	通年	2	2～		
	英語Ⅳ	大木　俊英	通年	2	1～		
	英語Ⅴ	Wayne Sumida	通年	4	1～		
	英語Ⅵ	Wayne Sumida	通年	4	1～		
	英語Ⅷ	新川　清治	半期2コマ	4	2～		
	フランス語Ⅰ	Asha Vannimmen	通年4コマ	4	1～		
		Clemens Amann	通年4コマ	4	1～		
	スペイン語Ⅰ	高橋　節子	通年4コマ	4	1～		
	中国語Ⅰ	何　秋平	通年4コマ	4	1～		
	ドイツ語Ⅱ	石川　悦久	通年	4	2～		
	フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	4	2～		
	スペイン語Ⅱ	高橋　節子	通年	4	2～		
	中国語Ⅱ	平木　真快	通年	4	2～		
	ドイツ語Ⅲ	石川　悦久	通年	4	2～		
	フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	4	2～		
	スペイン語Ⅲ	高橋　節子	通年	4	2～		
	中国語Ⅲ	平木　真快	通年	4	2～		
	ドイツ語Ⅳ	石川　悦久	通年	4	2～		
	フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	4	2～		
	スペイン語Ⅳ	高橋　節子	通年	4	2～		
	中国語Ⅳ	平木　真快	通年	4	2～		
教養科目	歴史学A	村尾　元忠	半期	2	1～		
	歴史学B	村尾　元忠	半期	2	1～		
	地理学A	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学B	奥澤　信行	半期	2	1～		
	倫理学A	的場　哲朗	半期	2	1～		
	倫理学B	的場　哲朗	半期	2	1～		
	哲学A	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学B	渡辺　忠	半期	2	1～		
	文学A	向井　千代子	半期	2	1～		
	文学B	針生　進	半期	2	1～		
	美学A	益田　勇一	半期	2	1～		
	美学B	益田　勇一	半期	2	1～		
	社会学A	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	社会学B	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	法学A	河原　文敬	半期	2	1～		
	法学B	齋藤　和豊	半期	2	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教養科目	統計学A	沖津　直	半期	2	1 ～		
	統計学B	沖津　直	半期	2	1 ～		
	心理学A	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
		津野田　聡子	半期	2	1 ～		
		中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	心理学B	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
		津野田　聡子	半期	2	1 ～		
		中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	社会心理学A	細田　一秋	半期	2	1 ～		
	社会心理学B	細田　一秋	半期	2	1 ～		
	環境科学A	山野井　貴浩	半期	2	1 ～		
	環境科学B	山野井　貴浩	半期	2	1 ～		
	数学A	黒澤　和人	通年	4	1 ～		
	物理学A	師　啓二	半期	2	1 ～		
	物理学B	師　啓二	半期	2	1 ～		
	生物学A	上田　高嘉	半期	2	1 ～		
	生物学B	上田　高嘉	半期	2	1 ～		
基本科目〔必修〕	フレッシュマンセミナー	赤堀　侃司	半期	1	1 ～		
		荒井　洌	半期	1	1 ～		
		五十嵐　敦子	半期	1	1 ～		
		奥澤　信行	半期	1	1 ～		
		川瀬　善美	半期	1	1 ～		
		冨田　英也	半期	1	1 ～		
		福田　真奈	半期	1	1 ～		
		増田　仁	半期	1	1 ～		
基本科目〔選必〕	教育総論	馬場　将光	半期	2	1 ～		
	教育原理	石堂　常世	半期	2	1 ～		
		石堂　常世	半期	2	1 ～		幼保
	教育課程論	桑原　憲一	半期	2	3 ～		小学校
		福田　真奈	半期	2	3 ～		幼保
	教育制度論	馬場　将光	半期	2	1 ～		
	比較教育論	馬場　将光	半期	2	2 ～		
	教育哲学	石堂　常世	集中	2	2 ～		
	教育心理学概論	平田　乃美	半期	2	1 ～		
	コンピュータ実習	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
専門科目	保育内容研究（健康）	岩城　淳子	半期	2	3 ～		
	保育内容研究（人間関係）	中山　昌樹	半期	2	2 ～		
	保育内容研究（環境）	川添　敏弘	半期	2	3 ～		
	保育内容研究（言葉）	松本　和美	半期	2	3 ～		
	保育内容研究（音楽表現）	冨田　英也	半期	2	3 ～		
	保育内容研究（美術表現）	益田　勇一	半期	2	3 ～		
	保育内容研究（身体表現）	高橋　美穂子	半期	2	2 ～		
	保育内容演習（健康）	岩城　淳子	半期	1	3 ～		
	保育内容演習（人間関係）	中山　昌樹	半期	1	2 ～		
	保育内容演習（環境）	小原　政敏	半期	1	3 ～		
	保育内容演習（言葉）	福田　真奈	半期	1	3 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専門科目	保育内容演習（音楽表現）	冨田　英也	半期	1	3 ～		
	保育内容演習（美術表現）	小久保　裕	半期	1	3 ～		
	保育内容演習（身体表現）	高橋　美穂子	半期	1	2 ～		
	ソルフェージュ	荒井　弘高	通年	2	1 ～		
	歌唱表現	荒井　弘高	通年	2	2 ～		
		伊藤　裕美	通年	2	2 ～		
	音楽実技Ⅰ（基礎）	音楽担当教員	通年	2	1 ～		
	音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）	今田　政成	通年	2	2 ～		
	音楽実技ⅢＡ（応用）	音楽担当教員	通年	2	3 ～		
	音楽実技ⅢＢ（応用）	音楽担当教員	通年	2	4		
	リトミック入門	吉田　裕昭	半期	1	2 ～		
	リトミック応用	吉田　裕昭	通年	2	3 ～		
	造形	粕谷　圭司	通年	2	1 ～		
	絵画表現法	小久保　裕	通年	2	2 ～		
	造形教材研究	粕谷　圭司	半期	1	1 ～		
	基礎デザイン	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	スポーツと健康	－	通年	2	1 ～		本年度閉講
	子どもの体育	－	半期	2	2 ～		本年度閉講
	社会福祉	加藤　悦雄	半期	2	1 ～		
	社会福祉Ｂ	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	児童福祉	大川　健次郎	半期	2	1 ～		
	児童福祉Ｂ	山中　定雄	半期	2	1 ～		
	社会福祉援助技術論Ⅰ	宮武　正明	通年	4	1 ～		
	社会福祉援助技術論Ⅱ	宮武　正明	通年	4	2 ～		
	社会福祉援助技術演習	－	半期	2	2 ～		本年度閉講
	社会福祉援助技術演習Ⅰ	若林　ちひろ	通年	2	3 ～		
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	若林　ちひろ	通年	2	4		
	保育原理Ⅰ	荒井　洌	通年	4	1 ～		
	保育原理Ⅱ	福田　真奈	半期	2	2 ～		
	養護原理	山中　定雄	半期	2	2 ～		
	養護内容	中山　万里子	半期	1	2 ～		
	乳児保育	－	半期	2	2 ～		本年度閉講
	障害児保育	中谷　陽子	半期	1	3 ～		
	家庭支援論	荒井　洌	半期	2	3 ～		
	医学一般	海原　純子	通年	4	3 ～		
	小児保健	寺門　道之	通年	4	1 ～		
	小児保健実習	三田村　敬子	半期	1	2 ～		
	小児栄養演習	髙橋　美保	半期2コマ	2	3 ～		
	比較保育論	荒井　洌	半期	2	3 ～		
	社会保障論	百瀬　優	通年	4	3 ～		
	公的扶助論	百瀬　優	半期	2	2 ～		
	介護概論	豊田　省子	集中	2	3 ～		
	障害者福祉論	根岸　洋人	通年	4	2 ～		
	老人福祉	菅田　理一	通年	4	2 ～		
	地域福祉	加藤　悦雄	半期	2	2 ～		
	福祉施設経営論	川瀬　善美	半期	2	1 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専門科目	ケアマネジメント論	－	集中	2	3 ～		本年度閉講
	福祉デザイン	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	福祉計画論	－	半期	2	2 ～		本年度閉講
	発達心理学	福田　真奈	半期	2	2 ～		
	青年心理学	伊東　孝郎	半期	2	1 ～		
		落合　信寿	半期	2	1 ～		
	環境心理学	平田　乃美	通年	4	1 ～		
	認知心理学	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
	臨床心理学	伊東　孝郎	半期	2	2 ～		
	精神保健学	伊崎　純子	半期	2	1 ～		
	親子関係の心理	伊崎　純子	半期	2	1 ～		
	心理学基礎実験	伊崎　純子	通年	2	1 ～		
	心理測定法	落合　信寿	半期	2	1 ～		
	心理学研究法	心理学研究法担当教員	半期	2	1 ～		
	心理学実験調査法	平田　乃美	通年	2	1 ～		
	教育の測定と評価	平田　乃美	半期	2	3 ～		
	国語概説	井上　次夫	半期	2	2 ～		
	社会科概説	奥澤　信行	半期	2	2 ～		
	算数概説	後藤　達生	半期	2	2 ～		
	理科概説	小原　政敏	半期	2	2 ～		
		鈴木　宏昭	半期	2	2 ～		
	生活科概説	石井　智子	半期	2	2 ～		
	家庭科概説	増田　仁	半期	2	2 ～		
	国語科教育法	井上　次夫	半期	2	3 ～		
	社会科教育法	奥澤　信行	半期	2	3 ～		
	算数科教育法	後藤　達生	半期	2	3 ～		
	理科教育法	小原　政敏	半期	2	3 ～		
	生活科教育法	石井　智子	半期	2	3 ～		
	音楽科教育法	冨田　英也	半期	2	3 ～		
	図画工作科教育法	益田　勇一	半期	2	3 ～		
	家庭科教育法	増田　仁	半期	2	3 ～		
	体育科教育法	平野　智之	半期	2	3 ～		
	美術史	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	造形文化論	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	英語であそぼう	Lorraine Reinbold	半期	2	3 ～		
	児童文学	横田　順子	半期	2	1 ～		
	おもちゃ論	中谷　陽子	半期	2	2 ～		
	野外運動Ａ	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	野外運動Ｂ	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	救急法	鈴川　正之	半期	2	1 ～		
	レクリエーション実技	藤井　和彦	半期	1	2 ～		
	レクリエーション実習	藤井　和彦	集中	1	3 ～		
	課題研究Ａ	－	半期	2	3 ～		本年度閉講
	課題研究Ｂ	－	半期	2	3 ～		本年度閉講
	卒業研究	荒井　洌	通年	8	4		
		荒井　弘高	通年	8	4		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専門科目	卒業研究	五十嵐　敦子	通年	8	4		
		伊崎　純子	通年	8	4		
		伊東　孝郎	通年	8	4		
		今田　政成	通年	8	4		
		岩城　淳子	通年	8	4		
		海原　純子	通年	8	4		
		奥澤　信行	通年	8	4		
		粕谷　圭司	通年	8	4		
		川瀬　善美	通年	8	4		
		小久保　裕	通年	8	4		
		後藤　達生	通年	8	4		
		小原　政敏	通年	8	4		
		近藤　智靖	通年	8	4		
		髙橋　美保	通年	8	4		
		冨田　英也	通年	8	4		
		中谷　陽子	通年	8	4		
		馬場　将光	通年	8	4		
		平田　乃美	通年	8	4		
		増田　仁	通年	8	4		
		益田　勇一	通年	8	4		
教育学関係科目	教師論	五十嵐　敦子	半期	2	2 〜		
	幼児教育論	荒井　洌	半期	2	2 〜		
	道徳教育の研究	中山　和彦	半期	2	2 〜		
		人見　克也	半期	2	2 〜		
	特別活動の研究	桑原　憲一	半期	2	2 〜		
	教育方法論Ⅰ	五十嵐　敦子	半期	2	2 〜		
	教育方法論Ⅱ	－	半期	2	2 〜		本年度閉講
	生徒指導論	本間　研一	半期	2	2 〜		
	教育相談	伊崎　純子	半期	2	2 〜		
	総合演習	赤堀　侃司	半期	2	2 〜		
		冨田　英也	半期	2	2 〜		
		荒井洌・福田真奈	通年	2	2 〜		
		中谷陽子・荒井洌	通年	2	2 〜		
		五十嵐敦子・川瀬善美	通年	2	2 〜		
		川瀬善美・五十嵐敦子	通年	2	2 〜		
		増田　仁	半期	2	2 〜		
	日本国憲法	小野　義典	半期	2	1 〜		幼保
		齋藤　和豊	半期	2	1 〜		小学校
他学部・他学科等履修	教養特講Ⅰ（批判的思考Ｂ）	渡辺　忠	半期	2	1 〜		
	体育心理学	本多　麻子	半期	2	2 〜		
	レクリエーション理論Ⅰ	藤井　和彦	半期	2	2 〜		
	レクリエーション理論Ⅱ	－	半期	2	2 〜		本年度閉講
	競技スポーツ理論	竹島　克己	半期	2	1 〜		
	教育心理学	神戸　文朗	半期	2	1 〜		
	障がい児・者心理学	金丸　隆太	集中	2	1 〜		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
実習科目	教育実習の事前事後指導（幼稚園）	五十嵐　敦子	半期	1	3 ～		
	教育実習（幼稚園）	五十嵐　敦子	集中	4	3 ～		
	教育実習の事前事後指導（小学校）	益田　勇一	半期	1	3 ～		
	教育実習（小学校）	益田　勇一	集中	4	4		
	保育実習の事前事後指導	川瀬　善美	半期	1	2 ～		施設
		福田真奈・髙橋美保	半期	1	3 ～		保育所
	保育実習Ⅰ	川瀬善美・福田真奈	集中	4	2 ～		施設・保育所
	保育実習Ⅱ	髙橋　美保	集中	2	4		保育所
	保育実習Ⅲ	川瀬　善美	集中	2	4		施設
	社会福祉援助技術現場実習指導	川瀬　善美	半期	4	3 ～		
	社会福祉援助技術現場実習	川瀬　善美	集中	4	3 ～		
教職課程科目	初等国語	佐藤　髙司	半期	2	3 ～		
	初等社会科	高田　雄康	半期	2	3 ～		
	初等算数	後藤　達生	半期	2	3 ～		
	初等理科	小原　政敏	半期	2	3 ～		
	初等生活科	石井　智子	半期	2	3 ～		
	初等家庭科	増田　仁	半期	2	3 ～		
	初等教材研究Ａ（言語・文化系）	佐藤　髙司	半期	2	4		
	初等教材研究Ｂ（生活・人間系）	増田　仁	半期	2	4		
	初等教材研究Ｃ（表現・技術系）	益田　勇一	半期	2	4		
随意科目	学校経営と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	学校図書館メディアの構成	早野　喜久江	集中	2	2 ～		
	読書と豊かな人間性	後路　好章	集中	2	2 ～		
	学習指導と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	情報メディアの活用	石川　賀一	集中	2	2 ～		

児（児童教育専攻）.　目　次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語科目〔必修〕	英語コミュニケーションⅠ	Asha Vannimmen	通年	2	1～		
		Glenn Hamada	通年	2	1～		
		Susan Bergman Miyake	通年	2	1～		
		Howard Alexander	通年	2	1～		
	英語コミュニケーションⅡ	Glenn Hamada	通年	2	2～		
		Susan Bergman Miyake	通年	2	2～		
		Howard Alexander	通年	2	2～		
外国語科目〔選択〕	リーディングⅠ	石河　不砂	通年	2	1～		
	ライティングⅠ	大木　俊英	通年	2	1～		
	リーディングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～		
	ライティングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～		
	TOEIC	新川　清治	半期2コマ	2	2～		
	フランス語Ⅰ	Asha Vannimmen	通年4コマ	4	1～		
		Clemens Amann	通年4コマ	4	1～		
	スペイン語Ⅰ	高橋　節子	通年4コマ	4	1～		
	中国語Ⅰ	何　秋平	通年4コマ	4	1～		
	ドイツ語Ⅱ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅱ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅱ	平木　真快	通年	2	2～		
	ドイツ語Ⅲ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅲ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅲ	平木　真快	通年	2	2～		
	ドイツ語Ⅳ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅳ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅳ	平木　真快	通年	2	2～		
教養科目	歴史学A	村尾　元忠	半期	2	1～		
	歴史学B	村尾　元忠	半期	2	1～		
	日本史概論	村尾　元忠	半期	2	1～		
	外国史概論	清水　正義	半期	2	1～		
	地理学A	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学B	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学概論（地誌を含む）	奥澤　信行	半期	2	1～		
	倫理学A	的場　哲朗	半期	2	1～		
	倫理学B	的場　哲朗	半期	2	1～		
	応用倫理	渡辺　忠	半期	2	1～		
	倫理学概論	的場　哲朗	半期	2	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教養科目	哲学A	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学B	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学概論	渡辺　忠	半期	2	1～		
	文学A	向井　千代子	半期	2	1～		
	文学B	針生　進	半期	2	1～		
	論理学	渡辺　忠	半期2コマ	4	1～		
	批判的思考	渡辺　忠	半期	2	1～		
	国語表現法A	増田　良二	半期	2	1～		
	国語表現法B	増田　良二	半期	2	1～		
	美学A	益田　勇一	半期	2	1～		
	美学B	益田　勇一	半期	2	1～		
	比較文化論A	河合　正男	半期	2	1～		
	比較文化論B	河合　正男	半期	2	1～		
	文化人類学A	結城　史隆	半期	2	1～		
	文化人類学B	結城　史隆	半期	2	1～		
	社会学A	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	社会学B	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	法学A	河原　文敬	半期	2	1～		
	法学B	齋藤　和豊	半期	2	1～		
	統計学A	沖津　直	半期	2	1～		
	統計学B	沖津　直	半期	2	1～		
	心理学A	神戸　文朗	半期	2	1～		
		津野田　聡子	半期	2	1～		
		中谷　陽子	半期	2	1～		
	心理学B	神戸　文朗	半期	2	1～		
		津野田　聡子	半期	2	1～		
		中谷　陽子	半期	2	1～		
	社会心理学A	細田　一秋	半期	2	1～		
	社会心理学B	細田　一秋	半期	2	1～		
	政治学A	三浦　顕一郎	半期	2	1～		
	政治学B	三浦　顕一郎	半期	2	1～		
	情報社会科学A	森川　信男	半期	2	1～		
	情報社会科学B	森川　信男	半期	2	1～		
	日本国憲法	小野　義典	半期	2	1～		
		齋藤　和豊	半期	2	1～		
	解析学	黒澤　和人	半期	2	1～		
	環境科学A	山野井　貴浩	半期	2	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教養科目	環境科学Ｂ	山野井　貴浩	半期	2	1 ～		
	代数学	黒澤　和人	半期	2	1 ～		
	数学概論	黒澤　和人	半期	2	1 ～		
	物理学Ａ	師　啓二	半期	2	1 ～		
	物理学Ｂ	師　啓二	半期	2	1 ～		
	化学Ａ	髙林　久美子	半期	2	1 ～		
	化学Ｂ	髙林　久美子	半期	2	1 ～		
	生物学Ａ	上田　高嘉	半期	2	1 ～		
	生物学Ｂ	上田　高嘉	半期	2	1 ～		
	科学史Ａ	舩田　眞里子	半期	2	1 ～		
	科学史Ｂ	舩田　眞里子	半期	2	1 ～		
	情報処理	渋川　美紀	半期	2	1 ～		
	体育実技Ａ	体育担当教員	半期	1	1 ～		
		体育担当教員	半期	1	1 ～		
	体育実技Ｂ	体育担当教員	半期	1	1 ～		
		体育担当教員	半期	1	1 ～		
	健康科学	野間　明紀	半期	2	1 ～		
		廣瀬　文彦	半期	2	1 ～		
専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	赤堀　侃司	半期	1	1 ～		
		荒井　洌	半期	1	1 ～		
		五十嵐　敦子	半期	1	1 ～		
		奥澤　信行	半期	1	1 ～		
		川瀬　善美	半期	1	1 ～		
		冨田　英也	半期	1	1 ～		
		福田　真奈	半期	1	1 ～		
		増田　仁	半期	1	1 ～		
教科専門科目	国語概説Ⅰ（書写を含む）	井上　次夫	半期	2	1 ～		
	国語概説Ⅱ（書写を含む）	佐藤　髙司	半期	2	3 ～		
	社会科概説Ⅰ	奥澤　信行	半期	2	1 ～		
	社会科概説Ⅱ	高田　雄康	半期	2	3 ～		
	算数概説Ⅰ	後藤　達生	半期	2	1 ～		
	算数概説Ⅱ	後藤　達生	半期	2	3 ～		
	理科概説Ⅰ	小原　政敏	半期	2	1 ～		
		鈴木　宏昭	半期	2	1 ～		
	理科概説Ⅱ	小原　政敏	半期	2	3 ～		
	生活科概説Ⅰ	石井　智子	半期	2	1 ～		
	生活科概説Ⅱ	石井　智子	半期	2	3 ～		
	家庭科概説Ⅰ	増田　仁	半期	2	1 ～		
	家庭科概説Ⅱ	増田　仁	半期	2	3 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教科専門科目	音楽概説Ⅰ	冨田　英也	半期	2	1～		
	音楽概説Ⅱ（声楽）	荒井　弘高	半期	2	3～		
	音楽概説Ⅲ（器楽）	今田　政成	半期	2	3～		
	図画工作概説Ⅰ	益田　勇一	半期	2	1～		
	図画工作概説Ⅱ（立体）	粕谷　圭司	半期	2	3～		
	図画工作概説Ⅲ（平面）	小久保　裕	半期	2	3～		
	体育概説Ⅰ	体育担当教員	半期	2	1～		
	体育概説Ⅱ	近藤　智靖	半期	2	3～		
	ソルフェージュ	荒井　弘高	通年	2	1～		
	造形	粕谷　圭司	通年	2	1～		
	子どもの運動	内山　須美子	半期	1	2～		
教職専門科目	教師論	五十嵐　敦子	半期	2	2～		
	教育基礎論	石堂　常世	半期	2	1～		
		石堂　常世	半期	2	1～		幼保用
	教育心理学	平田　乃美	半期	2	1～		
	教育制度論	馬場　将光	半期	2	1～		
	教育課程論Ｐ	桑原　憲一	半期	2	3～		小学校用
		福田　真奈	半期	2	3～		幼保用
	国語科教育法	井上　次夫	半期	2	2～		
	社会科教育法	奥澤　信行	半期	2	2～		
	算数科教育法	後藤　達生	半期	2	2～		
	理科教育法	小原　政敏	半期	2	2～		
		小原　政敏	半期	2	3～		
	生活科教育法	石井　智子	半期	2	2～		
	音楽科教育法	冨田　英也	半期	2	2～		
	図画工作科教育法	益田　勇一	半期	2	2～		
	家庭科教育法	増田　仁	半期	2	2～		
	体育科教育法	平野　智之	半期	2	2～		
	教育法演習Ａ	佐藤　髙司	半期	1	3～		
	教育法演習Ｂ	増田　仁	半期	1	3～		
	教育法演習Ｃ	益田　勇一	半期	1	3～		
	保育内容指導法（健康）	岩城　淳子	半期	2	3～		
	保育内容指導法（人間関係）	中山　昌樹	半期	2	3～		
	保育内容指導法（環境）	川添　敏弘	半期	2	3～		
	保育内容指導法（言葉）	松本　和美	半期	2	3～		
	保育内容指導法（表現①）	冨田　英也	半期	2	3～		
	保育内容指導法（表現②）	益田　勇一	半期	2	3～		
	保育内容指導法（表現③）	高橋　美穂子	半期	2	3～		
	道徳教育の理論と方法Ｐ	中山　和彦	半期	2	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教職専門科目	道徳教育の理論と方法Ｐ	人見　克也	半期	2	1 ～		
	特別活動の理論と方法Ｐ	桑原　憲一	半期	2	2 ～		
	教育方法論Ｐ	五十嵐　敦子	半期	2	1 ～		
	生徒指導論（進路指導を含む）	本間　研一	半期	2	2 ～		
	教育相談Ｐ	伊崎　純子	半期	2	2 ～		
	総合演習	冨田　英也	半期	2	2 ～		
		赤堀　侃司	半期	2	2 ～		
		増田　仁	半期	2	2 ～		
		荒井洌・福田真奈	通年	2	2 ～		
		中谷陽子・荒井洌	通年	2	2 ～		
		五十嵐敦子・川瀬善美	通年	2	2 ～		
		川瀬善美・五十嵐敦子	通年	2	2 ～		
教科・教職関連科目	児童文学	横田　順子	半期	2	1 ～		
	歌唱表現	荒井　弘高	通年	2	2 ～		
		伊藤　裕美	通年	2	2 ～		
	音楽実技Ⅰ	音楽担当教員	通年	2	1 ～		
	音楽実技Ⅱ	今田　政成	通年	2	2 ～		
	音楽実技Ⅲ Ａ	音楽担当教員	通年	2	3 ～		
	音楽実技Ⅲ Ｂ	音楽担当教員	通年	2	4		
	リトミック入門	吉田　裕昭	半期	1	2 ～		
	リトミック応用	吉田　裕昭	通年	2	3 ～		
	絵画表現法	小久保　裕	通年	2	2 ～		
	造形Ⅱ	小久保　裕	半期	1	3 ～		
	造形教材研究	粕谷　圭司	半期	1	1 ～		
	幼児教育論	荒井　洌	半期	2	2 ～		
	比較教育論	馬場　将光	半期	2	2 ～		
	人権教育	横島　章	半期	2	3 ～		
	特別支援教育概論	中谷　陽子	半期	2	3 ～		
保育・福祉専門科目	社会福祉	加藤　悦雄	半期	2	1 ～		
	社会福祉Ｂ	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	社会福祉援助技術演習	宮武　正明	通年	2	2 ～		
		若林　ちひろ	通年	2	2 ～		
	児童福祉	大川　健次郎	半期	2	1 ～		
	児童福祉Ｂ	山中　定雄	半期	2	1 ～		
	保育原理Ⅰ	荒井　洌	通年	4	1 ～		
	保育原理Ⅱ	福田　真奈	半期	2	2 ～		
	養護原理	山中　定雄	半期	2	2 ～		
	発達心理学	福田　真奈	半期	2	2 ～		
	小児保健	寺門　道之	通年	4	1 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
保育・福祉専門科目	小児保健実習	三田村　敬子	半期	1	2 ～		
	小児栄養演習	髙橋　美保	半期2コマ	2	3 ～		
	精神保健学	伊崎　純子	半期	2	1 ～		
	家庭支援論	荒井　洌	半期	2	3 ～		
	保育内容総論	金崎　芙美子	半期	1	2 ～		
	保育内容演習（健康）	岩城　淳子	半期	1	2 ～		
	保育内容演習（人間関係）	中山　昌樹	半期	1	2 ～		
	保育内容演習（環境）	小原　政敏	半期	1	2 ～		
	保育内容演習（言葉）	福田　真奈	半期	1	2 ～		
	保育内容演習（表現①）	冨田　英也	半期	1	2 ～		
	保育内容演習（表現②）	小久保　裕	半期	1	2 ～		
	保育内容演習（表現③）	髙橋　美穂子	半期	1	2 ～		
	乳児保育	髙橋　美保	通年	2	2 ～		
	障害児保育	中谷　陽子	半期	1	3 ～		
	養護内容	中山　万里子	半期	1	2 ～		
	青年心理学	伊東　孝郎	半期	2	1 ～		
		落合　信寿	半期	2	1 ～		
	臨床心理学	伊東　孝郎	半期	2	2 ～		
	比較保育論	荒井　洌	半期	2	3 ～		
	社会福祉援助技術論Ⅰ	宮武　正明	通年	4	1 ～		
	社会福祉援助技術論Ⅱ	宮武　正明	通年	4	2 ～		
	社会福祉援助技術演習Ⅰ	若林　ちひろ	通年	2	3 ～		
	社会福祉援助技術演習Ⅱ	若林　ちひろ	通年	2	4		
	医学一般	海原　純子	通年	4	3 ～		
	社会保障論	百瀬　優	通年	4	3 ～		
	公的扶助論	百瀬　優	半期	2	2 ～		
	介護概論	豊田　省子	集中	2	3 ～		
	障害者福祉論	根岸　洋人	通年	4	2 ～		
	老人福祉	菅田　理一	通年	4	2 ～		
	地域福祉	加藤　悦雄	半期	2	2 ～		
保育・福祉関連科目	福祉施設経営論	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	ケアマネジメント論	－	集中	2	3 ～		本年度閉講
課題研究	ゼミナール	赤堀　侃司	通年	4	3 ～		
		荒井　洌	通年	4	3 ～		
		荒井　弘高	通年	4	3 ～		
		五十嵐　敦子	通年	4	3 ～		
		今田　政成	通年	4	3 ～		
		岩城　淳子	通年	4	3 ～		
		海原　純子	通年	4	3 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
課題研究	ゼミナール	奥澤　信行	通年	4	3 ～		
		粕谷　圭司	通年	4	3 ～		
		川瀬　善美	通年	4	3 ～		
		小久保　裕	通年	4	3 ～		
		後藤　達生	通年	4	3 ～		
		小原　政敏	通年	4	3 ～		
		渋川　美紀	通年	4	3 ～		
		髙橋　美保	通年	4	3 ～		
		冨田　英也	通年	4	3 ～		
		中谷　陽子	通年	4	3 ～		
		馬場　将光	通年	4	3 ～		
		福田　真奈	通年	4	3 ～		
		増田　仁	通年	4	3 ～		
		益田　勇一	通年	4	3 ～		
学科共通科目	造形文化論	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	おもちゃ論	中谷　陽子	半期	2	2 ～		
	福祉とボランティア	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	レクリエーション理論	藤井　和彦	半期	2	2 ～		
	レクリエーション実技	藤井　和彦	半期	1	2 ～		
	レクリエーション実習	藤井　和彦	集中	1	3 ～		
	野外運動Ａ（キャンプ）	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	野外運動Ｂ（雪上）	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	救急法	鈴川　正之	半期	2	1 ～		
	早期英語教育	Lorraine Reinbold	半期	2	2 ～		
	e- ラーニング	小林　正人	半期	1	1 ～		
		Jeffrey Miller	半期	1	1 ～		
	教育情報処理	渋川　美紀	半期	2	1 ～		
他学部・他学科等履修	教養特講Ⅰ（批判的思考Ｂ）	渡辺　忠	半期	2	1 ～		
	競技スポーツ理論	竹島　克己	半期	2	1 ～		
	障がい児・者心理学	金丸　隆太	集中	2	1 ～		
	心理学特別研究Ａ	結城　史隆	半期	2	3 ～		
	心理学特別研究Ｂ	結城　史隆	半期	2	3 ～		
実習科目	教育実習の事前事後指導Ｐ	五十嵐　敦子	半期	1	3 ～		（幼稚園）
		益田　勇一	半期	1	3 ～		（小学校）
	教育実習Ⅰ	五十嵐　敦子	集中	4	4		（幼稚園）
		益田　勇一	集中	4	3 ～		（小学校）
	教育実習Ⅱ	五十嵐　敦子	集中	2	3 ～		（幼稚園）
		益田　勇一	集中	2	3 ～		（小学校）
	教育実習Ⅲ	－	集中	2	4		本年度閉講

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
実習科目	保育実習の事前事後指導	川瀬　善美	半期	1	2 ～		施設
		福田真奈・髙橋美保	半期	1	3 ～		保育所
	保育実習Ⅰ	川瀬善美・福田真奈	集中	4	2 ～		施設・保育所
	保育実習Ⅱ	髙橋　美保	集中	2	4		保育所
	保育実習Ⅲ	川瀬　善美	集中	2	4		施設
	社会福祉援助技術現場実習指導	川瀬　善美	半期	4	3 ～		08 年度該当生まで
	社会福祉援助技術現場実習	川瀬　善美	集中	4	3 ～		08 年度該当生まで
随意科目	学校経営と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	学校図書館メディアの構成	早野　喜久江	集中	2	2 ～		
	読書と豊かな人間性	後路　好章	集中	2	2 ～		
	学習指導と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	情報メディアの活用	石川　賀一	集中	2	2 ～		

目　　次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語科目〔必修〕	英会話Ⅰ	Asha Vannimmen	通年	2	1～		
		Glenn Hamada	通年	2	1～		
		Howard Alexander	通年	2	1～		
	英会話Ⅱ	Glenn Hamada	通年	2	2～		
		Susan Bergman Miyake	通年	2	2～		
		Michael Morgan	通年	2	2～		
外国語科目〔選択〕	英語Ⅲ	石河　不砂	通年	2	2～		
	英語Ⅳ	大木　俊英	通年	2	1～		
	英語Ⅴ	Wayne Sumida	通年	4	1～		
	英語Ⅵ	Wayne Sumida	通年	4	1～		
	英語Ⅷ	新川　清治	半期2コマ	4	2～		
	フランス語Ⅰ	Asha Vannimmen	通年4コマ	4	1～		
		Clemens Amann	通年4コマ	4	1～		
	スペイン語Ⅰ	高橋　節子	通年4コマ	4	1～		
	中国語Ⅰ	何　秋平	通年4コマ	4	1～		
	ドイツ語Ⅱ	石川　悦久	通年	4	2～		
	フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	4	2～		
	スペイン語Ⅱ	高橋　節子	通年	4	2～		
	中国語Ⅱ	平木　真快	通年	4	2～		
	ドイツ語Ⅲ	石川　悦久	通年	4	2～		
	フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	4	2～		
	スペイン語Ⅲ	高橋　節子	通年	4	2～		
	中国語Ⅲ	平木　真快	通年	4	2～		
	ドイツ語Ⅳ	石川　悦久	通年	4	2～		
	フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	4	2～		
	スペイン語Ⅳ	高橋　節子	通年	4	2～		
	中国語Ⅳ	平木　真快	通年	4	2～		
教養科目	歴史学A	村尾　元忠	半期	2	1～		
	歴史学B	村尾　元忠	半期	2	1～		
	地理学A	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学B	奥澤　信行	半期	2	1～		
	倫理学A	的場　哲朗	半期	2	1～		
	倫理学B	的場　哲朗	半期	2	1～		
	哲学A	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学B	渡辺　忠	半期	2	1～		
	文学A	向井　千代子	半期	2	1～		
	文学B	針生　進	半期	2	1～		
	美学A	益田　勇一	半期	2	1～		
	美学B	益田　勇一	半期	2	1～		
	社会学A	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	社会学B	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	法学A	河原　文敬	半期	2	1～		
	法学B	齋藤　和豊	半期	2	1～		
	統計学A	沖津　直	半期	2	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教養科目	統計学Ｂ	沖津　直	半期	2	1 ～		
	心理学Ａ	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
		津野田　聡子	半期	2	1 ～		
		中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	心理学Ｂ	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
		津野田　聡子	半期	2	1 ～		
		中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	社会心理学Ａ	細田　一秋	半期	2	1 ～		
	社会心理学Ｂ	細田　一秋	半期	2	1 ～		
	環境科学Ａ	山野井　貴浩	半期	2	1 ～		
	環境科学Ｂ	山野井　貴浩	半期	2	1 ～		
	数学Ａ	黒澤　和人	通年	4	1 ～		
	物理学Ａ	師　啓二	半期	2	1 ～		
	物理学Ｂ	師　啓二	半期	2	1 ～		
	生物学Ａ	上田　高嘉	半期	2	1 ～		
	生物学Ｂ	上田　高嘉	半期	2	1 ～		
基本科目〔必修〕	フレッシュマンセミナー	金田　健史	半期	1	1 ～		
		齋藤　一人	半期	1	1 ～		
		齊藤　武利	半期	1	1 ～		
基本科目〔選必〕	教育総論	馬場　将光	半期	2	1 ～		
	教育原理	石堂　常世	半期	2	1 ～		
	教育課程論	赤堀　侃司	半期	2	3 ～		
	教育制度論	馬場　将光	半期	2	1 ～		
	比較教育論	馬場　将光	半期	2	2 ～		
	教育哲学	石堂　常世	集中	2	2 ～		
	教育心理学概論	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	コンピュータ実習	－	通年	2	1 ～		本年度閉講
専門科目	実技理論・実習　陸上運動Ⅰ	竹島　克己	半期	1	1 ～		
	実技理論・実習　陸上運動Ⅱ	竹島　克己	半期	1	1 ～		
	実技理論・実習　器械運動Ⅰ	吉田　茂	半期	1	1 ～		
	実技理論・実習　器械運動Ⅱ	吉田　茂	半期	1	1 ～		
	実技理論・実習　水泳	椿本　昇三	集中	1	2 ～		
	実技理論・実習　柔道	蓬田　正郎	半期	1	2 ～		
	実技理論・実習　ダンスⅠ	内山　須美子	半期	1	1 ～		
	実技理論・実習　ダンスⅡ	内山　須美子	半期	1	1 ～		
	実技理論・実習　バスケットボール	齋藤　一人	半期	1	1 ～		
	実技理論・実習　バレーボール	大関　孝雄	半期	1	2 ～		
	実技理論・実習　野球（ソフトボール）	栗山　英樹	半期	1	2 ～		
	実技理論・実習　テニス	野間　明紀	半期	1	1 ～		
	実技理論・実習　ラグビー	齊藤武利・Paulo Nawalu	半期	1	2 ～		
	実技理論・実習　サッカー	小谷　克彦	半期	1	1 ～		
	実技理論・実習　体つくり運動	山田　美穂	半期	1	2 ～		
	体育原理	吉田　茂	半期	2	1 ～		
	体育心理学	本多　麻子	半期	2	2 ～		
	体育経営管理学	藤井　和彦	半期	2	2 ～		
	体育社会学	中村　祐司	半期	2	2 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専門科目	スポーツ産業論	栗山　英樹	半期	2	3 ～		
	スポーツ行政論	中村　祐司	半期	2	2 ～		
	運動学Ⅰ	吉田　茂	半期	2	1 ～		
	運動学Ⅱ	吉田　茂	半期	2	1 ～		
	スポーツコーチング総論	吉田　茂	半期	2	2 ～		
	レクリエーション理論Ⅰ	藤井　和彦	半期	2	2 ～		
	レクリエーション理論Ⅱ	－	半期	2	2 ～		本年度閉講
	競技スポーツ理論	竹島　克己	半期	2	1 ～		
	体育測定評価	野間　明紀	半期	2	2 ～		
	生理学	金田　健史	半期	2	2 ～		
	運動生理学Ⅰ	金田　健史	半期	2	2 ～		
	運動生理学Ⅱ	金田　健史	半期	2	2 ～		
	公衆衛生学	益子　詔次	集中	2	1 ～		
	学校保健Ⅰ	久保　元芳	半期	2	1 ～		
	学校保健Ⅱ	久保　元芳	半期	2	1 ～		
	精神保健学	伊崎　純子	半期	2	1 ～		
	発育発達学	金田　健史	半期	2	2 ～		
	トレーニング論	齊藤　武利	半期	2	2 ～		
	トレーニング実習Ⅰ	竹島　克己	半期	1	2 ～		
	トレーニング実習Ⅱ	齊藤　武利	半期	1	3 ～		
	スポーツ医学Ⅰ	大畠　襄	半期	2	3 ～		
	スポーツ医学Ⅱ	－	半期	2	3 ～		本年度閉講
	スポーツリハビリテーション論	齊藤武利・廣瀬文彦	半期	2	2 ～		
	解剖学	早川　敏之	半期	2	3 ～		
	造形文化論	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	英語であそぼう	Lorraine Reinbold	半期	2	3 ～		
	児童文学	横田　順子	半期	2	1 ～		
	おもちゃ論	中谷　陽子	半期	2	2 ～		
	野外運動Ａ	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	野外運動Ｂ	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	救急法	鈴川　正之	半期	2	1 ～		
	レクリエーション実技	藤井　和彦	半期	1	2 ～		
	レクリエーション実習	藤井　和彦	集中	1	3 ～		
	課題研究Ａ	－	半期	2	3 ～		本年度閉講
	課題研究Ｂ	－	半期	2	3 ～		本年度閉講
	卒業研究	内山　須美子	通年	8	4		
		海原　純子	通年	8	4		
		金田　健史	通年	8	4		
		近藤　智靖	通年	8	4		
		齋藤　一人	通年	8	4		
		齊藤　武利	通年	8	4		
		竹島　克己	通年	8	4		
		藤井　和彦	通年	8	4		
		吉田　茂	通年	8	4		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教育学関係科目	教師論	五十嵐　敦子	半期	2	3 ～		
		石堂　常世	半期	2	3 ～		
	教育本質論	中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	教育心理学	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
		神戸　文朗	半期	2	1 ～		
	体育科教育法Ⅰ	近藤　智靖	半期	2	3 ～		
	体育科教育法Ⅱ	近藤　智靖	半期	2	3 ～		
	保健科教育法	七木田　文彦	半期	2	3 ～		
	体つくり運動指導法	近藤　智靖	半期	2	2 ～		
	道徳教育の研究	中山　和彦	半期	2	2 ～		
	特別活動の研究	本間　研一	半期	2	2 ～		
	教育工学	赤堀　侃司	半期	2	2 ～		
	生徒指導Ⅰ	榎本　和生	半期	2	2 ～		
	生徒指導Ⅱ	榎本　和生	半期	2	2 ～		
	総合演習	総合演習担当教員	半期	2	2 ～		
	日本国憲法	齋藤　和豊	半期	2	1 ～		
他学部・他学科等履修	教養特講Ⅰ（批判的思考Ｂ）	渡辺　忠	半期	2	1 ～		
	福祉施設経営論	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	障がい児・者心理学	金丸　隆太	集中	2	1 ～		
実習科目	教育実習の事前事後指導（保体）	近藤　智靖	半期	1	3 ～		
	教育実習（中学校）	近藤　智靖	集中	4	4		
	教育実習（高等学校）	近藤　智靖	集中	2	4		
随意科目	運動と健康（運動処方論）	大畠　襄	半期	2	3 ～		健康運動指導士希望者のみ
	スポーツ栄養学	鈴木　いづみ	半期	2	3 ～		
	スポーツ指導のバイオメカニクス	川村　卓	半期	2	3 ～		
	スポーツ科学実験演習	体育担当教員	集中	1	2 ～		
	学校経営と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	学校図書館メディアの構成	早野　喜久江	集中	2	2 ～		
	読書と豊かな人間性	後路　好章	集中	2	2 ～		
	学習指導と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	情報メディアの活用	石川　賀一	集中	2	2 ～		

目　　次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語科目〔必修〕	英語コミュニケーションⅠ	Asha Vannimmen	通年	2	1～		
		Glenn Hamada	通年	2	1～		
		Howard Alexander	通年	2	1～		
	英語コミュニケーションⅡ	Glenn Hamada	通年	2	2～		
		Susan Bergman Miyake	通年	2	2～		
		Michael Morgan	通年	2	2～		
外国語科目〔選択〕	リーディングⅠ	石河　不砂	通年	2	1～		
	ライティングⅠ	大木　俊英	通年	2	1～		
	リーディングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～		
	ライティングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～		
	TOEIC	新川　清治	半期2コマ	2	2～		
	フランス語Ⅰ	Asha Vannimmen	通年4コマ	4	1～		
		Clemens Amann	通年4コマ	4	1～		
	スペイン語Ⅰ	高橋　節子	通年4コマ	4	1～		
	中国語Ⅰ	何　秋平	通年4コマ	4	1～		
	ドイツ語Ⅱ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅱ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅱ	平木　真快	通年	2	2～		
	ドイツ語Ⅲ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅲ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅲ	平木　真快	通年	2	2～		
	ドイツ語Ⅳ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅳ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅳ	平木　真快	通年	2	2～		
教養科目	歴史学A	村尾　元忠	半期	2	1～		
	歴史学B	村尾　元忠	半期	2	1～		
	日本史概論	村尾　元忠	半期	2	1～		
	外国史概論	清水　正義	半期	2	1～		
	地理学A	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学B	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学概論（地誌を含む）	奥澤　信行	半期	2	1～		
	倫理学A	的場　哲朗	半期	2	1～		
	倫理学B	的場　哲朗	半期	2	1～		
	応用倫理	渡辺　忠	半期	2	1～		
	倫理学概論	的場　哲朗	半期	2	1～		
	哲学A	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学B	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学概論	渡辺　忠	半期	2	1～		
	文学A	向井　千代子	半期	2	1～		
	文学B	針生　進	半期	2	1～		
	論理学	渡辺　忠	半期2コマ	4	1～		
	批判的思考	渡辺　忠	半期	2	1～		
	国語表現法A	増田　良二	半期	2	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教養科目	国語表現法Ｂ	増田　良二	半期	2	1 ～		
	美学Ａ	益田　勇一	半期	2	1 ～		
	美学Ｂ	益田　勇一	半期	2	1 ～		
	比較文化論Ａ	河合　正男	半期	2	1 ～		
	比較文化論Ｂ	河合　正男	半期	2	1 ～		
	文化人類学Ａ	結城　史隆	半期	2	1 ～		
	文化人類学Ｂ	結城　史隆	半期	2	1 ～		
	社会学Ａ	川上　代里子	半期	2	1 ～		
		山本　厚太郎	半期	2	1 ～		
	社会学Ｂ	川上　代里子	半期	2	1 ～		
		山本　厚太郎	半期	2	1 ～		
	法学Ａ	河原　文敬	半期	2	1 ～		
	法学Ｂ	齋藤　和豊	半期	2	1 ～		
	統計学Ａ	沖津　直	半期	2	1 ～		
	統計学Ｂ	沖津　直	半期	2	1 ～		
	心理学Ａ	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
		津野田　聡子	半期	2	1 ～		
		中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	心理学Ｂ	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
		津野田　聡子	半期	2	1 ～		
		中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	社会心理学Ａ	細田　一秋	半期	2	1 ～		
	社会心理学Ｂ	細田　一秋	半期	2	1 ～		
	政治学Ａ	三浦　顕一郎	半期	2	1 ～		
	政治学Ｂ	三浦　顕一郎	半期	2	1 ～		
	情報社会科学Ａ	森川　信男	半期	2	1 ～		
	情報社会科学Ｂ	森川　信男	半期	2	1 ～		
	日本国憲法	齋藤　和豊	半期	2	1 ～		
	解析学	黒澤　和人	半期	2	1 ～		
	環境科学Ａ	山野井　貴浩	半期	2	1 ～		
	環境科学Ｂ	山野井　貴浩	半期	2	1 ～		
	代数学	黒澤　和人	半期	2	1 ～		
	数学概論	黒澤　和人	半期	2	1 ～		
	物理学Ａ	師　啓二	半期	2	1 ～		
	物理学Ｂ	師　啓二	半期	2	1 ～		
	化学Ａ	髙林　久美子	半期	2	1 ～		
	化学Ｂ	髙林　久美子	半期	2	1 ～		
	生物学Ａ	上田　高嘉	半期	2	1 ～		
	生物学Ｂ	上田　高嘉	半期	2	1 ～		
	科学史Ａ	舩田　眞里子	半期	2	1 ～		
	科学史Ｂ	舩田　眞里子	半期	2	1 ～		
	情報処理	渋川　美紀	半期	2	1 ～		
専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	金田　健史	半期	1	1 ～		
		齋藤　一人	半期	1	1 ～		
		齊藤　武利	半期	1	1 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教科専門科目	陸上運動Ⅰ	竹島　克己	半期	1	1 ～		
	陸上運動Ⅱ	竹島　克己	半期	1	1 ～		
	器械運動Ⅰ	吉田　茂	半期	1	1 ～		
	器械運動Ⅱ	吉田　茂	半期	1	1 ～		
	ダンスⅠ	内山　須美子	半期	1	1 ～		
	ダンスⅡ	内山　須美子	半期	1	1 ～		
	バスケットボール	齋藤　一人	半期	1	1 ～		
	テニス	野間　明紀	半期	1	1 ～		
	サッカー	小谷　克彦	半期	1	1 ～		
	水泳	椿本　昇三	集中	1	1 ～		
	柔道	蓬田　正郎	半期	1	2 ～		
	剣道	荒井　一美	半期	1	2 ～		
	バレーボール	大関　孝雄	半期	1	2 ～		
	野球（ソフトボール）	栗山　英樹	半期	1	2 ～		
	ラグビー	齊藤武利・Paulo Nawalu	半期	1	2 ～		
	体つくり運動	山田　美穂	半期	1	2 ～		
	体育原理	吉田　茂	半期	2	1 ～		
	体育心理学	本多　麻子	半期	2	2 ～		
	体育・スポーツ経営学	藤井　和彦	半期	2	2 ～		
	スポーツ行政論	中村　祐司	半期	2	2 ～		
	スポーツ社会学	中村　祐司	半期	2	2 ～		
	運動学Ⅰ	吉田　茂	半期	2	1 ～		
	運動学Ⅱ	吉田　茂	半期	2	1 ～		
	スポーツコーチング総論	吉田　茂	半期	2	2 ～		
	生理学	金田　健史	半期	2	1 ～		
	運動生理学	金田　健史	半期	2	2 ～		
	公衆衛生学	益子　詔次	集中	2	1 ～		
	学校保健Ⅰ	久保　元芳	半期	2	1 ～		
	学校保健Ⅱ	久保　元芳	半期	2	1 ～		
	精神保健学	伊崎　純子	半期	2	1 ～		
教科関連科目	スポーツ科学入門	体育担当教員	半期	2	1 ～		
	解剖学（基礎）	早川　敏之	半期	2	1 ～		
	競技スポーツ理論	竹島　克己	半期	2	1 ～		
	発育発達学	金田　健史	半期	2	2 ～		
	トレーニング論Ⅰ	齊藤　武利	半期	2	2 ～		
	トレーニング論Ⅱ	齊藤　武利	半期	2	3 ～		
	スポーツ指導者論Ⅰ	齋藤　一人	半期	2	2 ～		
	スポーツ指導者論Ⅱ	内山　須美子	半期	2	3 ～		
	スポーツ生理学	金田　健史	半期	2	2 ～		
	スポーツ医学概論	大畠　襄	半期	2	2 ～		
	スポーツ産業論	栗山　英樹	半期	2	3 ～		
	スポーツマーケティング	藤井　和彦	半期	2	3 ～		
	健康・スポーツの測定と評価	野間　明紀	半期	2	3 ～		
	スポーツリハビリテーション論（テーピング含む）	齊藤武利・廣瀬文彦	半期	2	3 ～		
	障害者スポーツ	齊藤　武利	半期	2	3 ～		
	運動と健康（運動処方論）	大畠　襄	半期	2	3 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教科関連科目	スポーツ栄養学	鈴木　いづみ	半期	2	3 ～		
	スポーツ指導のバイオメカニクス	川村　卓	半期	2	3 ～		
	トレーニング実習Ⅰ	竹島　克己	半期	1	2 ～		
	トレーニング実習Ⅱ	齊藤　武利	半期	1	3 ～		
	ニュースポーツ	藤井　和彦	半期	1	3 ～		
	野外運動Ｃ（アドバンス）	体育担当教員	集中	1	2 ～		
	体育・スポーツ実践事例研究	藤井　和彦	半期	2	2 ～		
	スポーツ科学実験演習	体育担当教員	集中	1	2 ～		
	スポーツインターンシップ	近藤　智靖	集中	1	2 ～		
	専門演習Ａ１	内山　須美子	半期	1	3 ～		
		金田　健史	半期	1	3 ～		
		近藤　智靖	半期	1	3 ～		
		齋藤　一人	半期	1	3 ～		
		齊藤　武利	半期	1	3 ～		
		竹島　克己	半期	1	3 ～		
		藤井　和彦	半期	1	3 ～		
		吉田　茂	半期	1	3 ～		
	専門演習Ａ２	内山　須美子	半期	1	3 ～		
		金田　健史	半期	1	3 ～		
		近藤　智靖	半期	1	3 ～		
		齋藤　一人	半期	1	3 ～		
		齊藤　武利	半期	1	3 ～		
		竹島　克己	半期	1	3 ～		
		藤井　和彦	半期	1	3 ～		
		吉田　茂	半期	1	3 ～		
	専門演習Ｂ１	内山　須美子	半期	1	3 ～		
		金田　健史	半期	1	3 ～		
		近藤　智靖	半期	1	3 ～		
		齋藤　一人	半期	1	3 ～		
		齊藤　武利	半期	1	3 ～		
		竹島　克己	半期	1	3 ～		
		藤井　和彦	半期	1	3 ～		
		吉田　茂	半期	1	3 ～		
	専門演習Ｂ２	内山　須美子	半期	1	3 ～		
		金田　健史	半期	1	3 ～		
		近藤　智靖	半期	1	3 ～		
		齋藤　一人	半期	1	3 ～		
		齊藤　武利	半期	1	3 ～		
		竹島　克己	半期	1	3 ～		
		藤井　和彦	半期	1	3 ～		
		吉田　茂	半期	1	3 ～		
教職専門科目	教師論	五十嵐　敦子	半期	2	2 ～		
		石堂　常世	半期	2	2 ～		
	教育基礎論	赤堀　侃司	半期	2	1 ～		
		中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	教育心理学	神戸　文朗	半期	2	1 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教職専門科目	教育心理学	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
	教育制度論	馬場　将光	半期	2	1 ～		
	教育課程論Ｓ	赤堀　侃司	半期	2	3 ～		
	保健体育科教育法Ⅰ	近藤　智靖	半期	2	2 ～		
	保健体育科教育法Ⅱ	近藤　智靖	半期	2	3 ～		
	保健体育科教育法Ⅲ（保健）	七木田　文彦	半期	2	3 ～		
	保健体育科教育法Ⅳ	近藤　智靖	半期	2	3 ～		
	道徳教育の理論と方法Ｓ	中山　和彦	半期	2	1 ～		
	特別活動の理論と方法Ｓ	本間　研一	半期	2	2 ～		
	教育方法論Ｓ	赤堀　侃司	半期	2	1 ～		
	生徒指導論（進路指導を含む）	榎本　和生	半期	2	2 ～		
	教育相談Ｓ	榎本　和生	半期	2	2 ～		
	総合演習	総合演習担当教員	半期	2	2 ～		
	比較教育論	馬場　将光	半期	2	2 ～		
	人権教育	横島　章	半期	2	3 ～		
学科共通科目	造形文化論	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	おもちゃ論	中谷　陽子	半期	2	2 ～		
	福祉とボランティア	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	レクリエーション理論	藤井　和彦	半期	2	2 ～		
	レクリエーション実技	藤井　和彦	半期	1	2 ～		
	レクリエーション実習	藤井　和彦	集中	1	3 ～		
	野外運動Ａ（キャンプ）	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	野外運動Ｂ（雪上）	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	救急法	鈴川　正之	半期	2	1 ～		
	早期英語教育	Lorraine Reinbold	半期	2	2 ～		
	e- ラーニング	小林　正人	半期	1	1 ～		
		Jeffrey Miller	半期	1	1 ～		
	教育情報処理	渋川　美紀	半期	2	1 ～		
他学部・他学科等履修	教養特講Ⅰ（批判的思考Ｂ）	渡辺　忠	半期	2	1 ～		
	福祉施設経営論	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	障がい児・者心理学	金丸　隆太	集中	2	1 ～		
	心理学特別研究Ａ	結城　史隆	半期	2	3 ～		
	心理学特別研究Ｂ	結城　史隆	半期	2	3 ～		
実習科目	教育実習の事前事後指導Ｓ	近藤　智靖	半期	1	3 ～		（保体）
	教育実習Ⅰ	近藤　智靖	集中	4	3 ～		
	教育実習Ⅱ	近藤　智靖	集中	2	3 ～		
	教育実習Ⅲ	－	集中	2	4		本年度閉講
随意科目	学校経営と学校図書館	紺野　順子	集中	1	2 ～		
	学校図書館メディアの構成	早野　喜久江	集中	2	2 ～		
	学習指導と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	読書と豊かな人間性	後路　好章	集中	2	2 ～		
	情報メディアの活用	石川　賀一	集中	2	2 ～		

英（英語教育専攻）.　目　次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語科目〔必修〕	英語スタディースキルズ	宮里　恭子	半期2コマ	2	1～		
		Lorraine Reinbold	半期2コマ	2	1～		
	オーラルプレゼンテーション	Jeffrey Miller	通年	2	1～		
		Harry Harris	通年	2	1～		
		Michael Morgan	通年	2	1～		
外国語科目〔選択〕	リーディングⅠ	石河　不砂	通年	2	1～		
	ライティングⅠ	大木　俊英	通年	2	1～		
	リーディングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～		
	ライティングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～		
	TOEIC	新川　清治	半期2コマ	2	2～		
	フランス語Ⅰ	Asha Vannimmen	通年4コマ	4	1～		
		Clemens Amann	通年4コマ	4	1～		
	スペイン語Ⅰ	高橋　節子	通年4コマ	4	1～		
	中国語Ⅰ	何　秋平	通年4コマ	4	1～		
	ドイツ語Ⅱ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅱ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅱ	平木　真快	通年	2	2～		
	ドイツ語Ⅲ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅲ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅲ	平木　真快	通年	2	2～		
	ドイツ語Ⅳ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅳ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅳ	平木　真快	通年	2	2～		
教養科目	歴史学A	村尾　元忠	半期	2	1～		
	歴史学B	村尾　元忠	半期	2	1～		
	日本史概論	村尾　元忠	半期	2	1～		
	外国史概論	清水　正義	半期	2	1～		
	地理学A	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学B	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学概論（地誌を含む）	奥澤　信行	半期	2	1～		
	倫理学A	的場　哲朗	半期	2	1～		
	倫理学B	的場　哲朗	半期	2	1～		
	応用倫理	渡辺　忠	半期	2	1～		
	倫理学概論	的場　哲朗	半期	2	1～		
	哲学A	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学B	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学概論	渡辺　忠	半期	2	1～		
	文学A	向井　千代子	半期	2	1～		
	文学B	針生　進	半期	2	1～		
	論理学	渡辺　忠	半期2コマ	4	1～		
	批判的思考	渡辺　忠	半期	2	1～		
	国語表現法A	増田　良二	半期	2	1～		
	国語表現法B	増田　良二	半期	2	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教養科目	美学A	益田　勇一	半期	2	1～		
	美学B	益田　勇一	半期	2	1～		
	比較文化論A	河合　正男	半期	2	1～		
	比較文化論B	河合　正男	半期	2	1～		
	文化人類学A	結城　史隆	半期	2	1～		
	文化人類学B	結城　史隆	半期	2	1～		
	社会学A	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	社会学B	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	法学A	河原　文敬	半期	2	1～		
	法学B	齋藤　和豊	半期	2	1～		
	統計学A	沖津　直	半期	2	1～		
	統計学B	沖津　直	半期	2	1～		
	心理学A	神戸　文朗	半期	2	1～		
		津野田　聡子	半期	2	1～		
		中谷　陽子	半期	2	1～		
	心理学B	神戸　文朗	半期	2	1～		
		津野田　聡子	半期	2	1～		
		中谷　陽子	半期	2	1～		
	社会心理学A	細田　一秋	半期	2	1～		
	社会心理学B	細田　一秋	半期	2	1～		
	政治学A	三浦　顕一郎	半期	2	1～		
	政治学B	三浦　顕一郎	半期	2	1～		
	情報社会科学A	森川　信男	半期	2	1～		
	情報社会科学B	森川　信男	半期	2	1～		
	日本国憲法	齋藤　和豊	半期	2	1～		
	解析学	黒澤　和人	半期	2	1～		
	環境科学A	山野井　貴浩	半期	2	1～		
	環境科学B	山野井　貴浩	半期	2	1～		
	代数学	黒澤　和人	半期	2	1～		
	数学概論	黒澤　和人	半期	2	1～		
	物理学A	師　啓二	半期	2	1～		
	物理学B	師　啓二	半期	2	1～		
	化学A	髙林　久美子	半期	2	1～		
	化学B	髙林　久美子	半期	2	1～		
	生物学A	上田　高嘉	半期	2	1～		
	生物学B	上田　高嘉	半期	2	1～		
	科学史A	舩田　眞里子	半期	2	1～		
	科学史B	舩田　眞里子	半期	2	1～		
	情報処理	小林　正人	半期	2	1～		
	体育実技A	体育担当教員	半期	1	1～		
	体育実技B	体育担当教員	半期	1	1～		
	健康科学	野間　明紀	半期	2	1～		
専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	小林　正人	半期	1	1～		
		向井　千代子	半期	1	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教科専門科目	コミュニケーションⅠA	Jeffrey Miller	半期	2	2 ～		
		Harry Harris	半期	2	2 ～		
		Michael Morgan	半期	2	2 ～		
	コミュニケーションⅠB	Harry Harris	半期	2	2 ～		
		Michael Morgan	半期	2	2 ～		
		Lorraine Reinbold	半期	2	2 ～		
	コミュニケーションⅡA	Harry Harris	半期	2	3 ～		
		Lorraine Reinbold	半期	2	3 ～		
	コミュニケーションⅡB	Harry Harris	半期	2	3 ～		
		Lorraine Reinbold	半期	2	3 ～		
	リーディング＆ボキャブラリーⅠ	Harry Harris	半期	2	1 ～		
		Lorraine Reinbold	半期	2	1 ～		
	リーディング＆ボキャブラリーⅡ	Harry Harris	半期	2	2 ～		
		Lorraine Reinbold	半期	2	2 ～		
	リーディング＆ボキャブラリーⅢ	Harry Harris	半期	2	3 ～		
	ライティング初級	Asha Vannimmen	半期	2	1 ～		
		Harry Harris	半期	2	1 ～		
		Michael　Sorey	半期	2	1 ～		
	ライティング中級	Asha Vannimmen	半期	2	1 ～		
		Harry Harris	半期	2	1 ～		
		Michael　Sorey	半期	2	1 ～		
	ライティング上級	Harry Harris	半期	2	2 ～		
		Lorraine Reinbold	半期	2	2 ～		
	アカデミックライティング	Lorraine Reinbold	半期	2	3 ～		
	英文法Ⅰ	向井　千代子	半期	2	1 ～		
	英文法Ⅱ	小林　正人	半期	2	1 ～		
	英文法Ⅲ	新川　清治	半期	2	2 ～		
	英語学概論	小林　正人	半期	2	1 ～		
	音声学演習	Lorraine Reinbold	半期	2	1 ～		
	音声学	小林　正人	半期	2	1 ～		
	英文学概論	向井　千代子	半期	2	1 ～		
	米文学概論	針生　進	半期	2	1 ～		
	英米文学A	向井　千代子	半期	2	2 ～		
	英米文学B	向井　千代子	半期	2	2 ～		
	英米文学C	Jeffrey Miller	半期	2	3 ～		
	異文化理解	宮里　恭子	半期	2	1 ～		
	異文化間コミュニケーション論	宮里　恭子	半期	2	2 ～		
	英語圏地域研究	Jeffrey Miller	半期	2	2 ～		
教職専門科目	教師論	五十嵐　敦子	半期	2	2 ～		
		石堂　常世	半期	2	2 ～		
	教育基礎論	赤堀　侃司	半期	2	1 ～		
		中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	教育心理学	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
		神戸　文朗	半期	2	1 ～		
	教育制度論	馬場　将光	半期	2	1 ～		
	教育課程論S	赤堀　侃司	半期	2	3 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教職専門科目	英語科教育法Ⅰ	滝沢　謙三	半期	2	1 ～		
		宮里　恭子	半期	2	1 ～		
	英語科教育法Ⅱ	滝沢　謙三	半期	2	2 ～		
		藤森　吉之	半期	2	2 ～		
	英語科教育法Ⅲ	滝沢　謙三	半期	2	2 ～		
		藤森　吉之	半期	2	2 ～		
		宮里　恭子	半期	2	2 ～		
	英語科教育法Ⅳ	Jeffrey Miller	半期	2	3 ～		
		滝沢　謙三	半期	2	3 ～		
	道徳教育の理論と方法Ｓ	中山　和彦	半期	2	1 ～		
	特別活動の理論と方法Ｓ	本間　研一	半期	2	2 ～		
	教育方法論Ｓ	赤堀　侃司	半期	2	1 ～		
	生徒指導論（進路指導を含む）	榎本　和生	半期	2	2 ～		
	教育相談Ｓ	中谷　陽子	半期	2	2 ～		
	総合演習	神戸　文朗	半期	2	2 ～		
		滝沢　謙三	半期	2	2 ～		
		向井　千代子	半期	2	2 ～		
	比較教育論	馬場　将光	半期	2	2 ～		
	人権教育	横島　章	半期	2	3 ～		
英語教育関連科目	教材研究	宮里　恭子	半期	2	2 ～		
	コミュニカティブ英語指導法	Jeffrey Miller	半期	2	2 ～		
	小学校英語教育	宮里　恭子	半期	2	2 ～		
	英語コミュニケーション教育特講	滝沢　謙三	半期	2	1 ～		
	英語で話す日本文化	Lorraine Reinbold	半期	2	2 ～		
	課題研究Ａ	滝沢　謙三	半期	2	3 ～		
		向井　千代子	半期	2	3 ～		
	課題研究Ｂ	小林　正人	半期	2	3 ～		
		宮里　恭子	半期	2	3 ～		
ビジネス英語関連科目	国際ビジネス英語Ⅰ	塚越　千由	半期	2	1 ～		
	国際ビジネス英語Ⅱ	塚越　千由	半期	2	1 ～		
	時事英語Ⅰ	河合　正男	半期	2	1 ～		
		藤森　吉之	半期	2	1 ～		
	時事英語Ⅱ	河合　正男	半期	2	1 ～		
		藤森　吉之	半期	2	1 ～		
	ビジネス実務	堀　眞由美	半期	2	1 ～		
	貿易商務論Ⅰ	塚越　千由	半期	2	1 ～		
	貿易商務論Ⅱ	塚越　千由	半期	2	1 ～		
学科共通科目	造形文化論	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	おもちゃ論	中谷　陽子	半期	2	2 ～		
	福祉とボランティア	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	レクリエーション理論	藤井　和彦	半期	2	2 ～		
	レクリエーション実技	藤井　和彦	半期	1	2 ～		
	レクリエーション実習	藤井　和彦	集中	1	3 ～		
	野外運動Ａ（キャンプ）	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	野外運動Ｂ（雪上）	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	救急法	鈴川　正之	半期	2	1 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
学科共通科目	早期英語教育	Lorraine Reinbold	半期	2	2 ～		
	e- ラーニング	小林　正人	半期	1	1 ～		
		Jeffrey Miller	半期	1	1 ～		
	教育情報処理	渋川　美紀	半期	2	1 ～		
他学部・他学科等履修	教養特講Ⅰ（批判的思考Ｂ）	渡辺　忠	半期	2	1 ～		
	福祉施設経営論	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	競技スポーツ理論	竹島　克己	半期	2	1 ～		
	人格心理学	伊東　孝郎	半期	2	1 ～		
	障がい児・者心理学	金丸　隆太	集中	2	1 ～		
	心理学特別研究Ａ	結城　史隆	半期	2	3 ～		
	心理学特別研究Ｂ	結城　史隆	半期	2	3 ～		
実習科目	教育実習の事前事後指導Ｓ	滝沢　謙三	半期	1	3 ～		（英語）
	教育実習Ⅰ	滝沢　謙三	集中	4	3 ～		
	教育実習Ⅱ	滝沢　謙三	集中	2	3 ～		
	教育実習Ⅲ	－	集中	2	4		本年度閉講
随意科目	学校経営と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	学校図書館メディアの構成	早野　喜久江	集中	2	2 ～		
	読書と豊かな人間性	後路　好章	集中	2	2 ～		
	学習指導と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	情報メディアの活用	石川　賀一	集中	2	2 ～		

心（心理学専攻）.

目　　次

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
外国語科目〔必修〕	英語コミュニケーションⅠ	Glenn Hamada	通年	2	1～		
		Susan Bergman Miyake	通年	2	1～		
	英語コミュニケーションⅡ	Jeffrey Miller	通年	2	2～		
		Michael Morgan	通年	2	2～		
外国語科目〔選択〕	リーディングⅠ	石河　不砂	通年	2	1～		
	ライティングⅠ	大木　俊英	通年	2	1～		
	リーディングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～		
	ライティングⅡ	Wayne Sumida	通年	2	2～		
	TOEIC	新川　清治	半期2コマ	2	2～		
	フランス語Ⅰ	Asha Vannimmen	通年4コマ	4	1～		
		Clemens Amann	通年4コマ	4	1～		
	スペイン語Ⅰ	高橋　節子	通年4コマ	4	1～		
	中国語Ⅰ	何　秋平	通年4コマ	4	1～		
	ドイツ語Ⅱ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅱ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅱ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅱ	平木　真快	通年	2	2～		
	ドイツ語Ⅲ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅲ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅲ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅲ	平木　真快	通年	2	2～		
	ドイツ語Ⅳ	石川　悦久	通年	2	2～		
	フランス語Ⅳ	Clemens Amann	通年	2	2～		
	スペイン語Ⅳ	高橋　節子	通年	2	2～		
	中国語Ⅳ	平木　真快	通年	2	2～		
教養科目	歴史学A	村尾　元忠	半期	2	1～		
	歴史学B	村尾　元忠	半期	2	1～		
	日本史概論	三浦　顕一郎	半期	2	1～		
		村尾　元忠	半期	2	1～		
	外国史概論	清水　正義	半期	2	1～		
	地理学A	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学B	奥澤　信行	半期	2	1～		
	地理学概論（地誌を含む）	奥澤　信行	半期	2	1～		
	倫理学A	的場　哲朗	半期	2	1～		
	倫理学B	的場　哲朗	半期	2	1～		
	応用倫理	渡辺　忠	半期	2	1～		
	倫理学概論	的場　哲朗	半期	2	1～		
	哲学A	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学B	渡辺　忠	半期	2	1～		
	哲学概論	渡辺　忠	半期	2	1～		
	文学A	向井　千代子	半期	2	1～		
	文学B	針生　進	半期	2	1～		
	論理学	渡辺　忠	半期2コマ	4	1～		
	批判的思考	渡辺　忠	半期	2	1～		
	国語表現法A	増田　良二	半期	2	1～		
	国語表現法B	増田　良二	半期	2	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
教養科目	美学A	益田　勇一	半期	2	1～		
	美学B	益田　勇一	半期	2	1～		
	比較文化論A	河合　正男	半期	2	1～		
	比較文化論B	河合　正男	半期	2	1～		
	文化人類学A	結城　史隆	半期	2	1～		
	文化人類学B	結城　史隆	半期	2	1～		
	社会学A	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	社会学B	川上　代里子	半期	2	1～		
		山本　厚太郎	半期	2	1～		
	法学A	河原　文敬	半期	2	1～		
	法学B	齋藤　和豊	半期	2	1～		
	統計学A	沖津　直	半期	2	1～		
	統計学B	沖津　直	半期	2	1～		
	心理学A	神戸　文朗	半期	2	1～		
		津野田　聡子	半期	2	1～		
		中谷　陽子	半期	2	1～		
	心理学B	神戸　文朗	半期	2	1～		
		津野田　聡子	半期	2	1～		
		中谷　陽子	半期	2	1～		
	社会心理学A	加藤　司	半期	2	1～		
		細田　一秋	半期	2	1～		
	社会心理学B	加藤　司	半期	2	1～		
		細田　一秋	半期	2	1～		
	政治学A	三浦　顕一郎	半期	2	1～		
	政治学B	三浦　顕一郎	半期	2	1～		
	情報社会科学A	森川　信男	半期	2	1～		
	情報社会科学B	森川　信男	半期	2	1～		
	日本国憲法	齋藤　和豊	半期	2	1～		
	解析学	黒澤　和人	半期	2	1～		
	環境科学A	山野井　貴浩	半期	2	1～		
	環境科学B	山野井　貴浩	半期	2	1～		
	代数学	黒澤　和人	半期	2	1～		
	数学概論	黒澤　和人	半期	2	1～		
	物理学A	師　啓二	半期	2	1～		
	物理学B	師　啓二	半期	2	1～		
	化学A	髙林　久美子	半期	2	1～		
	化学B	髙林　久美子	半期	2	1～		
	生物学A	上田　高嘉	半期	2	1～		
	生物学B	上田　高嘉	半期	2	1～		
	科学史A	舩田　眞里子	半期	2	1～		
	科学史B	舩田　眞里子	半期	2	1～		
	情報処理	渋川　美紀	半期	2	1～		
	体育実技A	体育担当教員	半期	1	1～		
	体育実技B	体育担当教員	半期	1	1～		
	健康科学	野間　明紀	半期	2	1～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専攻必修科目	フレッシュマンセミナー	伊東　孝郎	半期	1	1 ～		
		田多　英興	半期	1	1 ～		
専攻専門科目	基礎心理学A	田多　英興	半期	2	1 ～		
	基礎心理学B	田多　英興	半期	2	1 ～		
	心理学研究法	心理学研究法担当教員	半期	2	2 ～		
	心理統計法	飯田　成敏	半期	2	2 ～		
	心理学基礎実験演習	田多・神戸・平田	半期2コマ	4	2 ～		
	心理学実験調査法	田多・神戸・平田	半期2コマ	4	2 ～		
	学習心理学	飯田　成敏	半期	2	2 ～		
	認知心理学	神戸　文朗	半期	2	2 ～		
	発達心理学Ⅰ	津野田　聡子	半期	2	2 ～		
	発達心理学Ⅱ	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	青年心理学	伊東　孝郎	半期	2	2 ～		
	生理心理学	田多　英興	半期	2	2 ～		
	比較心理学	田多　英興	半期	2	2 ～		
	人格心理学	伊東　孝郎	半期	2	2 ～		
	臨床心理学	伊東　孝郎	半期	2	2 ～		
	健康心理学	本多　麻子	半期	2	2 ～		
	心身医学	海原　純子	半期	2	2 ～		
	障がい児・者心理学	金丸　隆太	集中	2	1 ～		
	医療心理学	－	半期	2	2 ～		本年度閉講
	カウンセリング論	伊東　孝郎	半期	2	3 ～		
	環境心理学Ⅰ	平田　乃美	半期	2	3 ～		
	環境心理学Ⅱ	平田　乃美	半期	2	3 ～		
	心理測定法	落合　信寿	半期	2	3 ～		
	臨床心理学検査実習Ⅰ	伊崎　純子	半期	1	3 ～		
	臨床心理学検査実習Ⅱ	－	半期	1	3 ～		本年度閉講
	臨床心理学相談実習Ⅰ	伊東　孝郎	半期	1	3 ～		
	臨床心理学相談実習Ⅱ	－	半期	1	3 ～		本年度閉講
	脳と心理	津野田　聡子	半期	2	3 ～		
	人間工学	舩田　眞里子	半期	2	3 ～		
	教育の測定と評価	平田　乃美	半期	2	3 ～		
	親子関係の心理	伊崎　純子	半期	2	3 ～		
	原書講読A	伊崎　純子	半期	2	3 ～		
	原書講読B	－	半期	2	3 ～		本年度閉講
	原書講読C	神戸　文朗	半期	2	3 ～		
	交流分析	－	集中	2	3 ～		本年度閉講
	精神分析学	－	半期	2	3 ～		本年度閉講
	臨床心理実務倫理	伊東　孝郎	半期	2	3 ～		
	芸術療法	伊東　孝郎	半期	2	3 ～		
	心理療法論	－	半期	2	3 ～		本年度閉講
	体育心理学	本多　麻子	半期	2	3 ～		
	心理学特別研究A	伊東　孝郎	半期	2	3 ～		
		神戸　文朗	半期	2	3 ～		
		田多　英興	半期	2	3 ～		
		平田　乃美	半期	2	3 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
専攻専門科目	心理学特別研究	結城　史隆	半期	2	3 ～		
	心理学特別研究Ｂ	伊崎　純子	半期	2	3 ～		
		伊東　孝郎	半期	2	3 ～		
		神戸　文朗	半期	2	3 ～		
		田多　英興	半期	2	3 ～		
		平田　乃美	半期	2	3 ～		
		結城　史隆	半期	2	3 ～		
教科専門科目	国際関係概論	嶌　信彦	半期	2	1 ～		
	ミクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）	沖津　直	半期	2	1 ～		
		吉川　薫	半期	2	1 ～		
	マクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）	沖津　直	半期	2	1 ～		
		吉川　薫	半期	2	1 ～		
	マーケティングⅠ	内堀　敬則	半期	2	1 ～		
		藤井　信之	半期	2	1 ～		
	マーケティングⅡ	内堀　敬則	半期	2	1 ～		
		藤井　信之	半期	2	1 ～		
教職専門科目	教師論	五十嵐　敦子	半期	2	2 ～		
		石堂　常世	半期	2	2 ～		
	教育基礎論	赤堀　侃司	半期	2	1 ～		
		中谷　陽子	半期	2	1 ～		
	教育心理学	神戸　文朗	半期	2	1 ～		
		神戸　文朗	半期	2	1 ～		
	教育制度論	馬場　将光	半期	2	1 ～		
	教育課程論Ｓ	赤堀　侃司	半期	2	3 ～		
	社会科教育法Ⅰ	熊田　禎介	半期	2	2 ～		
	社会科教育法Ⅱ	熊田　禎介	半期	2	2 ～		
	社会科教育法Ⅲ	熊田　禎介	半期	2	2 ～		
	社会科・公民科教育法	熊田　禎介	半期	2	2 ～		
	公民科教育法	熊田　禎介	半期	2	2 ～		
	道徳教育の理論と方法Ｓ	中山　和彦	半期	2	1 ～		
	特別活動の理論と方法Ｓ	本間　研一	半期	2	2 ～		
	教育方法論Ｓ	赤堀　侃司	半期	2	1 ～		
	生徒指導論（進路指導を含む）	本間　研一	半期	2	2 ～		
	教育相談Ｓ	中谷　陽子	半期	2	2 ～		
	総合演習	神戸　文朗	半期	2	2 ～		
		滝沢　謙三	半期	2	2 ～		
		向井　千代子	半期	2	2 ～		
	比較教育論	馬場　将光	半期	2	2 ～		
	人権教育	横島　章	半期	2	3 ～		
学科共通科目	造形文化論	－	半期	2	1 ～		本年度閉講
	おもちゃ論	中谷　陽子	半期	2	2 ～		
	福祉とボランティア	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	レクリエーション理論	藤井　和彦	半期	2	2 ～		
	レクリエーション実技	藤井　和彦	半期	1	2 ～		
	レクリエーション実習	藤井　和彦	集中	1	3 ～		
	野外運動Ａ（キャンプ）	体育担当教員	集中	2	1 ～		

科目区分	科目名	担当教員	開設	単位	履修年次	掲載頁	備考
学科共通科目	野外運動Ｂ（雪上）	体育担当教員	集中	2	1 ～		
	救急法	鈴川　正之	半期	2	1 ～		
	早期英語教育	Lorraine Reinbold	半期	2	2 ～		
	e- ラーニング	小林　正人	半期	1	1 ～		
		Jeffrey Miller	半期	1	1 ～		
	教育情報処理	渋川　美紀	半期	2	1 ～		
他学部・他学科等履修	教養特講Ⅰ（批判的思考Ｂ）	渡辺　忠	半期	2	1 ～		
	福祉施設経営論	川瀬　善美	半期	2	1 ～		
	競技スポーツ理論	竹島　克己	半期	2	1 ～		
実習科目	教育実習の事前事後指導Ｓ	黒澤　和人	半期	1	3 ～		（社・公）
	教育実習Ⅰ	黒澤　和人	集中	4	3 ～		
	教育実習Ⅱ	黒澤　和人	集中	2	3 ～		
	教育実習Ⅲ	黒澤　和人	集中	2	4		本年度閉講
随意科目	学校経営と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	学校図書館メディアの構成	早野　喜久江	集中	2	2 ～		
	読書と豊かな人間性	後路　好章	集中	2	2 ～		
	学習指導と学校図書館	紺野　順子	集中	2	2 ～		
	情報メディアの活用	石川　賀一	集中	2	2 ～		

103301

科　目　名	リーディングⅠ / 英語Ⅲ
教　員　名	石河　不砂

〔講義目的〕
英語力を強化したい学生のための選択コースである。
リーディング・リスニングを重点に、総合的な向上を目指す。
Charlie Brown and Friends　他のテキストを使用するなど楽しい授業になるよう心がけたい。

〔講義内容〕
テキスト以外にも教育・健康・環境などに関する身近なトピックも取り入れ、英語を介して幅広い知識を身につけて欲しい。

〔講義のすすめ方〕
・予習を前提とした授業となる。
・学生が積極的に授業参加できるよう、プレゼンテーションを取り入れる。
・必要に応じ参考資料はハンドアウトする。

〔教　　材〕
Enjoy English with
Charlie Brown and Friends
Nan'un-do　　2,205(税込)　　他

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験結果と平常点で総合的に評価する。

定期試験　2回
70％
小テスト・プレゼンテーション・出席など
30％

〔履修のポイント・注意点〕
定期試験受験資格は原則として全授業数の2/3以上。
30分以上の遅刻は欠席となる。
遅刻２回で欠席１回とする。

〔科目内容の位置付け〕
中級レベル

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英Ⅰ、英Ⅱと関連する。

104504

科　目　名	Writing Ⅰ・ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ Ⅰ・英語Ⅳ
	経営専攻「Writing Ⅰ」 法学部「英語Ⅳ(ライティング)」 教育学部「ライティングⅠ」 発達科学部「英語Ⅳ」
教　員　名	大木　俊英

〔講義目的〕
日本語を英語に直訳するという方法でなく、自分の考えを直接英語で表現できるようにする。

〔講義内容〕
ある話題についての短い作文を繰り返し、段階的に英作文の技術を習得していく。作文した内容をパワーポイントを利用して英語で口頭発表する。

〔講義のすすめ方〕
設定されたトピックの作文、その修正が中心となる。

〔教　　材〕
初講日に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況、授業への参加度、提出課題などにより、総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕
授業中の演習が主となるので、高い出席率と積極的な授業への参加が要求される。

〔科目内容の位置付け〕
初級レベル。

105401

科　目　名	Reading Ⅱ / 英X・Reading Ⅱ / 英語Ⅴ・リーディングⅡ / 英語Ⅴ
	ビジネスコミュニケーション専攻、経営専攻「Reading Ⅱ」 教育学部「リーディングⅡ」 ビジネスコミュニケーション学科「英語X」 経営学科、発達科学部「英語Ⅴ」
教　員　名	Wayne Sumida

〔講義目的〕

This is an elective reading course for the student who would like to develop his or her reading skills by reading in English. It is hoped that by the end of the course the student will have improved his or her ability to read in English.

Since this is an elective course, it is expected that only students who want to improve their ability to read in English will take the course. Regular attendance, attention to reading and preparation for each lesson, completion of homework, and a good class attitude will be expected.

〔講義内容〕

The emphasis in this course will be on reading in English. Through the reading assignments there will be opportunities for vocabulary development, discussion, and writing in English.

〔講義のすすめ方〕

There will be an extensive amount of reading to complete in the course. Students taking the course should be prepared to do a lot of reading, both inside and outside of class time.

Some tasks will require independent work during and after class time using the computer and the Internet. Students who take the course must be able to use the computer responsibly and work only on class assignments during the class period.

There will be homework assignments to prepare for each lesson and to review ideas covered in class. Class preparation and homework completion are expected and required for successful completion of the course.

There will be discussion of reading assignments. Students will be expected to speak in English and contribute to the discussion of any readings assigned.

Students will also have to write in English in order to confirm comprehension of reading assignments.

There will be quizzes and a final exam.

〔教　　材〕

The textbook(s) for the course will be announced at the first class session. Students are expected to bring textbooks to every class session.

〔成績評価の方法・基準〕

Grades will be based on the following:

Attendance	10%
Course assignments	80%
Quizzes	10%

Regular attendance is required to pass the course.

〔履修のポイント・注意点〕

The course will be conducted entirely in English. The successful student in this course will come to each class with a good attitude and be prepared to participate with enthusiasm. Only through active involvement will the student be able to benefit personally from this course and make a positive contribution to the class. In addition, the student will be asked to take responsibility for his or her study and to help others do the same by cooperating with others in the class.

〔科目内容の位置付け〕

This course is for the student who would like to improve his or her English reading skills.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

English writing courses are an excellent complement to this reading course. Knowing what good writers do to successfully convey a message in print will help the language learner to become a better reader.

106401

科　目　名	Writing Ⅱ / 英 XI・Writing Ⅱ / 英語Ⅵ・ライティングⅡ / 英Ⅵ
	ビジネスコミュニケーション専攻、経営専攻「Writing Ⅱ」 教育学部「ライティングⅡ」 ビジネスコミュニケーション学科「英語ⅩⅠ」 経営学科、発達科学部「英語Ⅵ」
教　員　名	Wayne Sumida

〔講義目的〕

This is an elective writing course for the student who would like to develop his or her writing skills. It is hoped that by the end of the course the student will have an increased confidence in his or her ability to express ideas and opinions in written English.

This is a computer-based writing course. Students taking this course will be asked to use a computer and resources available on the Internet to complete work assignments. Students should know how to do a website search on the Internet, be familiar with the word processing program Microsoft Word, and know how to save and send files.

〔講義内容〕

The emphasis will be on working with the concept of writing as a process. From the initial stage of getting an idea to the final re-write leading to a finished product, writing is an exercise that requires re-evaluation and revision. Students will be asked to consider the steps to take as they work toward producing a finished piece of writing.

〔講義のすすめ方〕

There will be an extensive amount of writing and reading to complete in the course. Students taking the course should expect to work hard to complete all of the required assignments.

Students will be asked to write essays on themes that are related to their own life experiences.

There will be textbook and reading assignments to complete as homework. Discussion of the reading assignments will be conducted online.

There will be writing tasks to complete during class time.

Students must be able to work independently and use self-initiative. Students are expected to ask questions when they need to clarify the requirements for any writing assignment.

All assignments and due dates will be posted in the online classroom.

〔教　　材〕

The textbook(s) for the course will be announced on the first day of class.

Other information necessary for the course will be available in the online classroom.

〔成績評価の方法・基準〕

Grades will be based on the following:

Attendance	10%
Reports	40%
In-class writing	30%
Participation	10%
Textbook homework	5%
Writing folder	5%

〔履修のポイント・注意点〕

The course will be conducted entirely in English. This may be a first-time experience for some and may require that the learner change his or her perspective as to what language learning is about. Students working in this challenging environment will be expected to take the initiative in trying to improve his or her English language skills. Students can expect support from the teacher and classmates, but improvement will come only through individual persistence, initiative, and effort.

The successful student in this course will come to each class with a good attitude and be prepared to participate with enthusiasm. Only through active involvement will the student be able to benefit personally from this course and make a positive contribution to the class. In addition, the student will be asked to take responsibility for his or her study and to help others do the same by cooperating with others in the class. This is not a lecture-style course.

〔科目内容の位置付け〕

This course is for the student who would like to improve his or her writing skills. By actually working to produce a finished product in writing, it is hoped that the student writer will come to a better appreciation of the effort necessary to do this.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

English reading courses are an excellent complement to this writing course. Extensive reading can help the student to become better acquainted with how messages are conveyed in print and can also help students to improve their vocabulary.

108301

科　目　名	TOEIC Ⅱ・TOEIC/ 英語Ⅷ
	ビジネスコミュニケーション専攻､経営専攻「TOEIC Ⅱ」 教育学部「TOEIC」 経営学科､発達科学部 (2006 年度以前入学者)「英語Ⅷ」
教　員　名	新川　清治

〔講義目的〕
英語コミュニケーション能力を客観的に示す世界的指標となっている TOEIC において、600点レベルを目指す。

〔講義内容〕
パート毎に出題傾向に即した問題を扱う。

〔講義のすすめ方〕
問題の演習と解説、リスニングの訓練を繰り返す。毎回、事前に指定した範囲の小テストを行う。

〔教　　材〕
TOEIC テスト新公式問題集

〔成績評価の方法・基準〕
小テスト　40%
定期試験　60%

〔履修のポイント・注意点〕
授業での演習や解説は自己学習のきっかけを与えるものであり、自己学習なしに効果は期待できない。自宅で学習する意欲のない者は履修を遠慮してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
TOEIC 試験対策中級レベル。

113001

科　目　名	英語スタディースキルズ
	English Study Skills
教　員　名	Lorraine Reinbold・宮里　恭子

〔講義目的〕

The purpose of this course is to prepare students for skill based English courses that they will take during their four years in the English Teaching Program. Since secondary school EFL education is still focused on “learning about English” due mainly to the present state of university entrance examinations、it is necessary to supplement learners’ fundamental English skills to elevate their English levels to “learning in English” by providing intensive training called “English Study Skills.”

In this course、students will develop the four English language skills and learn to present their own opinions. Specifically、students will read to grasp the main idea of a passage without translating into Japanese and reproduce the information in their own words using paraphrasing techniques. They will also write short essays、give presentations、have discussions after learning the logical structures of academic English. In addition、learners’ English listening abilities are to be strengthened by having classes conducted mostly or entirely in English.

〔講義内容〕

Lesson plans are based upon developing the four basic skills that are reading and writing、and speaking and listening. Students who successfully complete English Study Skills should be able to:

● Improve reading efficiency
● Take notes
● Paraphrase and summarize short passages
● Write clearly formatted、well-structured、and coherent paragraphs
● Learn basic research techniques
● Learn through discussions
● Give effective presentations
● Manage their studies

〔教　　材〕

Study Skills for College English
慶応義塾大学経済学部英語部会
慶応大学出版会、2007

〔成績評価の方法・基準〕

● Attendance and Class participation:　40%
● Assignments and/or Quizzes/Exam:　60%

Please note:

.Students will be required to go to the Self-Access Learning Center in the library to read Graded Readers and listen to the accompanying CDs.

.According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course.　Being late three times will count as one absence.

.Late homework will not be accepted without a valid reason.　If you are absent, ask a friend or the instructor about the assignment.

.Students who plagiarize can fail the course.

〔履修のポイント・注意点〕

This is the only required English course in the program. All classes are mostly conducted in English and Study Skills is specifically designed to give you fundamental knowledge for surviving in the other advanced English courses. Successful completion of this introductory course to skill-based English (reading, writing, speaking and listening) classes in the English Education program will enable students to understand and do well in subsequent courses.

If you feel lost, do not be afraid to ask for help. Please ask so that you can help yourself. Remember, the instructors are here to assist you with your learning.

〔科目内容の位置付け〕

English Study Skills is a required subject and prerequisite for all skill based courses in the English Program.

114001

科　目　名	オーラルプレゼンテーション
教　員　名	Jeffrey Miller・Harry Harris・Michael Morgan

〔講義目的〕
[Course Objectives]
Oral Presentation is a fully-integrated English speaking (oral) and listening (aural) comprehension course designed to involve the learners in using English actively and naturally. As many of the learners plan to become future English teachers、the course will emphasize learner-centered、communicative activities、pair and group work、and vocabulary acquisition strategies、to work toward greater fluency in authentic English.

This learner-centered course should be "very active and enjoyable" as it focuses on student speaking and listening "output" with little teacher lecture "input." Although there will be some outside-of-class work expected、it will be using authentic English so it will be different from usual homework.

Through repeated but fun practice speaking and listening、learners will develop confidence in their ability to communicate in English.

〔講義内容〕
[Course Contents]
The course will meet once a week for two semesters、but will use only one core textbook (see Course Material below) for the entire year. The course will center on oral、student speaking、and aural、listening comprehension.

For oral practice、students will frequently present to the class on such topics as their free-time activities、favorite movies、future dreams、etc.、with class Q & A afterward. Pair-work、group discussions、role play and other communicative activities will keep the students talking in as authentic situations as possible.

For aural practice、in addition to the textbook dictation and other listening activities will improve the learners' ability to "catch" and understand English as it is really spoken.

Outside of class、students will regularly visit the English Lounge and listen to the textbook self-study CD.

〔講義のすすめ方〕
[Course Progress]
Oral presentation will have two main elements (oral and aural) subdivided into: in-class and outside-of-class tasks. To successfully pass the course、students must complete both the inside-of-class and outside-of-class parts of the oral and aural elements.

The oral element will have frequent student one-to-many presentations (e.g. "A Trip" or oral book reports、etc.、) and paired or small group discussions coordinated by the teacher. (The teacher will rarely lecture about English、but instead have the students practice authentic English as much as possible.) Outside of class、the students are expected to regularly visit the English Lounge to interact with the exchange students.

The aural element will follow the 20 lesson textbook with progressively more difficult listening tasks、authentic English audio selections、dictation etc. Successful language learning needs frequent practice、but as the course only meets once a week、students are expected to listen to the textbook self-study CD for 20 minutes four times a week outside of class (e.g. before going to sleep at night or in the train or in their car).

〔教　　材〕
[Course Materials]
All students are expected to purchase the core textbook: "Impact Listening 2" (ISBN 9789620058028) including a self-study CD by Jill Robbins and Andrew MacNeil、published by Pearson Longman. The textbook will be supplemented with additional teacher-selected material.

〔成績評価の方法・基準〕
[Course Grading]
Weekly classwork (often presentations)、pair-work、discussions、periodic visits to the English Lounge、quizzes and written homework

will make up 50 percent of the final grade. Attendance will be 30 percent of the grade、and a final exam will be 20 percent of the final grade.

〔履修のポイント・注意点〕
[Successful Study Points]
The small size of the class (from 12 to 18 learners) provides opportunities for each student to speak out often during each class. However、only with courage will students be able to make use of these chances.

English is a skill (like soccer、driving or cooking)、so mastering it requires practice. When practicing it is natural to make mistakes、however、if we become too worried about making mistakes we are afraid to say anything. It is far better to try and say much、of which 70 to 80 percent is correct、than to say little of which 90 to 100 percent is correct! Be confident、even native speakers make mistakes in their own mother tongue.

Success in English (sports、driving、etc.、) will only come by actively trying again and again until you can do it. Never give up!

〔科目内容の位置付け〕
[Related Subsequent Courses]
Communication I A and II A as well as Communication I B and II B

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
[Prerequisites]
English Study Skills

130101

科　目　名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ／英会話Ⅰ
	授業形態：演習 / 幼・保コース開講の場合の授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	Glenn Hamada　Susan Miyake　Howard Alexander　Asha Vannimmen

〔講義目的〕

This is the first of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication I should be able to:

● Show improving fluency and pronunciation.

● Use basic structures to talk about who、what、when and where、and more successfully about how and why.

● Carry out basic speech functions such as introduction、inviting、apologizing、and asking for information、confirmation、and clarification.

● Answer simple comprehension questions and identify numbers、letter names、time phrases、common names、and other word groups with increasing accuracy.

● Comprehend contractions and other sound reductions with increasing accuracy.

● Show increasing sensitivity to both verbal and non-verbal communication. For example, in contexts where cues show a change in mood or emotion、and respond with more appropriate gestures.

〔講義内容〕

The following list of lessons is taken from Cultivating the Seeds*:

1）First Impressions and Acceptance Part 1
2）First Impressions and Acceptance Part 2
3）Positive Attitude Part 1
4）Positive Attitude Part 2
5）Building Confidence Part 1
6）Building Confidence Part 2
7）Giving Love Part 1
8）Giving Love Part 2
9）Friendships Part 1
10）Friendships Part 2
11）One Step Back、Two Steps Forward Review
12）Forgiving Others Part 1
13）Forgiving Others Part 2
14）Kindness Part 1
15）Kindness Part 2

*Instructors using other selected textbooks will announce and explain the content of lessons in their first class.

〔講義のすすめ方〕

Class time will be planned to include numerous opportunities for individual、pair、and group English practice.

〔教　　材〕

Instructors will use their own communicative approach to teach their students. For classes、each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following、or other textbooks: Fifty-Fifty: Book 1; Impact Topics; Cultivating the Seeds; and Top Notch 1.

〔成績評価の方法・基準〕

Grades will be determined based on the following criteria:

1）Attendance: 30%
2）Participation: 30%
3）Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to the university policy、students who miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition、regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

〔履修のポイント・注意点〕

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates、teacher、and the course will result in improved English skills and general knowledge.

科　目　名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ／英会話Ⅰ
教　員　名	Asha Vannimmen・Glenn Hamada・Howard Alexander

〔講義目的〕
This is the first of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication Ⅰ should be able to:

● Show improving fluency and pronunciation.

● Use basic structures to talk about who、what、when and where、and more successfully about how and why.

● Carry out basic speech functions such as introduction、inviting、apologizing、and asking for information、confirmation、and clarification.

● Answer simple comprehension questions and identify numbers、letter names、time phrases、common names、and other word groups with increasing accuracy.

● Comprehend contractions and other sound reductions with increasing accuracy.

● Show increasing sensitivity to both verbal and non-verbal communication、for example in contexts where cues show a change in mood or emotion、and respond with more appropriate gestures.

〔講義内容〕
The following list of lessons is taken from Cultivating the Seeds*:

1）First Impressions and Acceptance Part Ⅰ
2）First Impressions and Acceptance Part Ⅱ
3）Positive Attitude Part Ⅰ
4）Positive Attitude Part Ⅱ
5）Building Confidence Part Ⅰ
6）Building Confidence Part Ⅱ
7）Giving Love Part Ⅰ
8）Giving Love Part Ⅱ
9）Friendships Part Ⅰ
10）Friendships Part Ⅱ
11）One Step Back, Two Steps Forward Review
12）Forgiving Others Part Ⅰ
13）Forgiving Others Part Ⅱ
14）Kindness Part Ⅰ
15）Kindness Part Ⅱ

*Instructors using other selected textbooks will announce and explain the content of lessons in their first class.

〔講義のすすめ方〕
Class time will be planned to include numerous opportunities for individual、pair、and group English practice.

〔教　　材〕
Instructors will use their own communicative approach to teach their students. For classes、each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following、or other textbooks: Fifty-Fifty: Book 1; Impact Topics; Cultivating the Seeds; and Top Notch 1.

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be determined based on the following criteria:

1）Attendance: 30%
2）Participation: 30%
3）Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to the university policy、students who miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition、regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

〔履修のポイント・注意点〕
Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates、teacher、and the course will result in improved English skills and general knowledge.

130113

科　目　名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ／英会話Ⅰ
教　員　名	Glenn Hamada・Susan Bergman Miyake

〔講義目的〕
This is the first of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication I should be able to:

● Show improving fluency and pronunciation.

● Use basic structures to talk about who、what、when and where、and more successfully about how and why.

● Carry out basic speech functions such as introduction、inviting、apologizing、and asking for information、confirmation、and clarification.

● Answer simple comprehension questions and identify numbers、letter names、time phrases、common names、and other word groups with increasing accuracy.

● Comprehend contractions and other sound reductions with increasing accuracy.

● Show increasing sensitivity to both verbal and non-verbal communication、for example in contexts where cues show a change in mood or emotion、and respond with more appropriate gestures.

〔講義内容〕
The following list of lessons is taken from Cultivating the Seeds*:

1）First Impressions and Acceptance Part Ⅰ
2）First Impressions and Acceptance Part Ⅱ
3）Positive Attitude Part Ⅰ
4）Positive Attitude Part Ⅱ
5）Building Confidence Part Ⅰ
6）Building Confidence Part Ⅱ
7）Giving Love Part Ⅰ
8）Giving Love Part Ⅱ
9）Friendships Part Ⅰ
10）Friendships Part Ⅱ
11）One Step Back、Two Steps Forward Review
12）Forgiving Others Part Ⅰ
13）Forgiving Others Part Ⅱ
14）Kindness Part Ⅰ
15）Kindness Part Ⅱ

*Instructors using other selected textbooks will announce and explain the content of lessons in their first class.

〔講義のすすめ方〕
Class time will be planned to include numerous opportunities for individual、pair、and group English practice.

〔教　　材〕
Instructors will use their own communicative approach to teach their students. For classes、each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following、or other textbooks: Fifty-Fifty: Book 1; Impact Topics; Cultivating the Seeds; and Top Notch 1.

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be determined based on the following criteria:

1）Attendance: 30%
2）Participation: 30%
3）Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to the university policy、students who miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition、regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

〔履修のポイント・注意点〕
Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates、teacher、and the course will result in improved English skills and general knowledge.

131101

科　目　名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ／英会話Ⅱ
	授業形態：演習
教　員　名	Glenn Hamada　Susan Miyake　Howard Alexander

〔講義目的〕

This is the second of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication Ⅱ should be able to:

● Meet Communication Ⅰ speaking and listening objectives, demonstrating command of these new skills in individual, pair, or group endeavors, such as presentations and discussions.

● Initiate a conversation and use their own ideas and opinions to further the conversation; use information received in a conversation to expand a discussion; ask basic follow up questions and talk about the answers they receive.

● Identify and summarize/paraphrase key points from dialogs, conversations, and other adapted listening material with increasing accuracy and provide correct answers to simple comprehension questions about a listening selection.

● Pick out reasons and cause/effect relationships in selections, with greater accuracy.

● Use simple and compound sentences with occasional use of complex sentences and attempt to use more complex structures such as modals.

● Pick out verbal cues that tell the speakers' moods or emotions, with greater accuracy.

● Show some sensitivity to the need for variation in register, whether it be formal/informal, polite/casual, direct/indirect, and have a few alternate ways of expressing themselves in communicative encounters, according to such factors as degree of imposition, social position, and gender.

〔講義内容〕

The following list of lessons is taken from Cultivating the Seeds*:

1）Courage Part Ⅰ
2）Courage Part Ⅱ
3）Honesty and Truth Part Ⅰ
4）Honesty and Truth Part Ⅱ
5）Heart of the Family Part Ⅰ
6）Heart of the Family Part Ⅱ
7）One Step Back、Two Steps Forward Review
8）Personal Responsibilities Part Ⅰ
9）Personal Responsibilities Part Ⅱ
10）Learning From Mistakes Part Ⅰ
11）Learning From Mistakes Part Ⅱ
12）Making Right Choices Part Ⅰ
13）Making Right Choices Part Ⅱ
14）Making Right Changes Part Ⅰ
15）Making Right Changes Part Ⅱ

*Instructors using other selected textbooks will announce and explain the content of lessons in their first class.

〔講義のすすめ方〕

Class time will be planned to include numerous opportunities for individual、pair、and group English practice.

〔教　　材〕

Instructors will use their own communicative approach to teach their students. For classes、each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following、or other、textbooks: Fifty-Fifty: Book 2; Impact Topics; Cultivating the Seeds; and Top Notch.

〔成績評価の方法・基準〕

Grades will be determined based on the following criteria:

1）Attendance: 30%
2）Participation: 30%
3）Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to university policy、students who

miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition、regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

〔履修のポイント・注意点〕
Message to Students

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates、teacher、and the course will result in improved English skills and general knowledge.

131109

科　目　名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ／英会話Ⅱ
教　員　名	Michael Morgan

〔講義目的〕
Overview and General Objectives
The course aims to improve skills in all four areas of the language.
Speaking/Listening: The course materials and teaching methodology will encourage the maximum amount of speaking and listening time. The key objective will be to improve communicative ability.
Reading/Writing: The course materials will include sports-related topics. The key objective will be not only to improve these two skills but also to expand the vocabulary range of the students.

〔講義内容〕
Course Approach
The instructor will use relatively simple English during class time. Students must assume some responsibility for improving their communicative strategies and techniques as well as their reading and writing skills.

As this is the first year of this course、a lot of the lessons will involve a certain amount of 'action research' with the emphasis on what works best for the students involved. Thus、the course will include all or some of the following.

A. General Communicative English
1. Guided Conversation
2. Information-gap Tasks
3. Functional English
B. Formal Presentations
C. Practical Presentations
D. The Science Of Sport
E. Vocabulary

〔講義のすすめ方〕
A.1. The students will: use the questions to 'interview' their partners、give their own answers to their partners questions、make notes on their partners answers、use the notes to write complete sentences、give a brief presentation about their partners、using the sentences 2. The students will: ask suitable questions of their partners to obtain the missing information、make notes of the missing information and later check for accuracy、consult with a number of their classmates and make notes、use the notes to solve the problem posed by the task. 3. The students will learn how to use English to: recommend、offer to do things、respond to statements、complain about purchases、complain about behavior、ask for and give advice、ask for and give opinions、agree and disagree、make phone calls、make appointments、ask for and give instructions. B. The students will: research the topic by using library materials or computers、write and rewrite their presentations with checks/input from the instructor、give their presentations to the class. C. The students will: research the topic、memorize the instructions/explanations、give instructions to the class、listen and follow the instructions given by their classmates、listen to the explanations given by their classmates、make notes on the explanations. D. The students will: listen to the instructor's explanation、make notes on this mini-lecture、take part in any activity that it may involve、hopefully use the activities and games with their future students. 2. The students will be provided with handouts on topics that explain the science of sport along with a set of reading comprehension questions. The students will: read through the handout、answer the questions in complete sentences. E. The students will expand their vocabulary particularly in the following areas: everyday/general topics、functional phrases、parts of the body、functions of body parts and organs、basic first aid、gym and ground English instructions.

〔教　　材〕
A. General Communicative English
1. Guided Conversation: The materials provided by the instructor will be in the form of questions about general/everyday topics which will encourage and facilitate dialogue between pairs of students.
2. Information-gap Tasks: The materials will be provided by the instructor、and the tasks will involve both pair-work and group role-playing activities.
3. Functional English: The materials will be

provided by the instructor.
*Also、a number of communication strategies will be introduced or reinforced.
B. The topics for these presentations will include the following: The history of a particular sport、A profile of a sports personality、Health、How to improve your stamina/muscle strength、the function of a body part or organ.
C. Hopefully、some of these activities will take place either at the ground or in the gym.
The topics for these presentations will include: stretching exercises、skill practice activities for a specific sport、rules for a specific sport、instruction on basic first aid
D. The instructor will introduce a number of games and activities that explain the science of sport.
E. A key objective of this course is to build a relevant vocabulary.

〔成績評価の方法・基準〕
Student Evaluation
Grades will be based on the following criteria:
Attendance　30%
Assignments　40%
Exam　30%

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
Prerequisite
Students must have completed English Communication 1 in order to take this course.

131110

科　目　名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ／英会話Ⅱ
教　員　名	Susan Bergman Miyake　Glenn Hamada

〔講義目的〕
This is the second of a two-course series designed to help students develop English speaking and listening skills for use in different contexts. Students who successfully complete English Communication Ⅱ should be able to:

● Meet Communication Ⅰ speaking and listening objectives、demonstrating command of these new skills in individual、pair、or group endeavors、such as presentations and discussions.

● Initiate a conversation and use their own ideas and opinions to further the conversation; use information received in a conversation to expand a discussion; ask basic follow up questions and talk about the answers they receive.

● Identify and summarize/paraphrase key points from dialogs、conversations、and other adapted listening material with increasing accuracy and provide correct answers to simple comprehension questions about a listening selection.

● Pick out reasons and cause/effect relationships in selections、with greater accuracy.

● Use simple and compound sentences with occasional use of complex sentences and attempt to use more complex structures such as modals.

● Pick out verbal cues that tell the speakers' moods or emotions、with greater accuracy.

● Show some sensitivity to the need for variation in register、whether it be formal/informal、polite/casual、direct/indirect、and have a few alternate ways of expressing themselves in communicative encounters、according to such factors as degree of imposition、social position、and gender.

〔講義内容〕
The following list of lessons is taken from Cultivating the Seeds*:

1) Courage Part Ⅰ
2) Courage Part Ⅱ
3) Honesty and Truth Part Ⅰ
4) Honesty and Truth Part Ⅱ
5) Heart of the Family Part Ⅰ
6) Heart of the Family Part Ⅱ
7) One Step Back、Two Steps Forward Review
8) Personal Responsibilities Part Ⅰ
9) Personal Responsibilities Part Ⅱ
10) Learning From Mistakes Part Ⅰ
11) Learning From Mistakes Part Ⅱ
12) Making Right Choices Part Ⅰ
13) Making Right Choices Part Ⅱ
14) Making Right Changes Part Ⅰ
15) Making Right Changes Part Ⅱ

*Instructors using other selected textbooks will announce and explain the content of lessons in their first class.

〔講義のすすめ方〕
Class time will be planned to include numerous opportunities for individual、pair、and group English practice.

〔教　　材〕
Instructors will use their own communicative approach to teach their students. For classes、each instructor will prepare his/her own materials and/or select from among the following、or other、textbooks: Fifty-Fifty: Book 2; Impact Topics; Cultivating the Seeds; and Top Notch.

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be determined based on the following criteria:

1) Attendance: 30%
2) Participation: 30%
3) Assignments and /or Quizzes/Exam: 40%

According to university policy、students who

miss more than 1/3 of class sessions will fail the course. In addition、regular attendance and positive attitude are encouraged to help improve student learning opportunities.

〔履修のポイント・注意点〕
Message to Students

Instructors have their own teaching methodology and philosophy which they have determined to be in the best interests of their students. Students should take full advantage of the English environment of the class to practice understanding and using English actively. Positive attitude towards classmates、teacher、and the course will result in improved English skills and general knowledge.

131113

科　目　名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ
	English Commnication II
教　員　名	Jeffrey Miller・Michael Morgan

〔講義目的〕
[Course Objectives]
This two-semester course for psychology majors will focus primarily on using English in practical speaking and listening situations. Depending on the ability level of the students, a variety of activities will be used to simulate "real-life" communication experiences.

Students are expected to be active and attend classes regularly. Language learning is like a sport or music skill, only through continuous practice is the learner able to master the skill.

〔講義内容〕
[Course Contents]
Students will learn to make simple oral presentations, ask and answer questions based on these oral presentations, discuss topics, and give their own impromptu opinions. Each student will be expected to use English in every class, with much attention on rapid and accurate responses.

The instructor will speak little, however the students will be expected to speak in English much. (Thus the traditional passive, "eye English," language learning methodology will be replaced by a much more active oral-aurally focused approach.)

〔講義のすすめ方〕
[Course Progress]
Classes will meet weekly for individual, pair-work, and group-work assignments. Homework will be assigned periodically. There will be both a mid-term and comprehensive final examination.

〔教　　材〕
[Course Materials]
There will be no single textbook, but the instructor will select a variety of material from a number of sources (depending on the level of the learners). These photocopied materials will be dated and kept in a folder that is brought to class each time.

〔成績評価の方法・基準〕
[Course Grading]
Weekly class oral presentations, pair-work, group-work, discussions, homework, and occasional pop quizzes will make up 40% of the grade. Regular attendance will be 20 % of the grade, and the mid-term and final examinations will make up 40% of the grade.

Students who miss more than 33% of the classes will not pass.

〔履修のポイント・注意点〕
[Successful Study Points]
For the class to be “enjoyable” and “informative” students MUST participate actively in class. A strong “Yes, we can” attitude will enable each student to succeed, and have fun time doing so.

151001

科　目　名	フランス語Ⅰ
教　員　名	Clemens Amann

〔講義目的〕
Bonjour という挨拶の言葉から出発して、この授業でフランス語の基礎を勉強します。話す、読む、聞く、書く、という外国語の４つの能力を養う。それと同時にフランスの日常生活への知識を深める。フランス語を通してヨーロッパの日常生活、EU なども紹介する。語彙と単語、文法項目を最低限に絞り、簡単な会話あるいは短い文章をもとにして、発音から簡単な文型までフランス語を身につけられるように勉強する。フランス語の発音は難しいという人が少なくないが最初から文字と音の間の関係に注意し、聞き取りで音を区別できるようにすることを心掛ければ、フランス語は分かりやすくなる。

〔講義内容〕
自己紹介、自分の家族／友だちを紹介する、自分自身の一日、人の外見、時間、天気などを述べる、フランスについて、また自国のことについても話す、さまざまなテーマに触れながら基本的なフランス語を使う。文法は語学に必要だが、文法のためにフランス語を勉強するわけではない。言いたいこと、聞きたいことをフランス語でどういう風に表現できるかということに、この授業は重点をおいている。

〔講義のすすめ方〕
一　すでに学んだ語彙と単語の復習
一　会話や本文のプレゼンテーション：発音、単語と文型、
一　日本語とフランス語の比較
一　理解したかどうかを確認する
一　会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題
一　その日学習したフランス語を応用する

〔教　　材〕
教科書：未定
辞　書：未定

〔成績評価の方法・基準〕
学年中６回のテスト：前期３回、後期３回
出席回数
授業中の努力
評価の基準：出席／授業中の努力：40％
前期３回、後期３回の小テスト：60％

〔履修のポイント・注意点〕
出席重視。遅刻厳禁。
授業に積極的に参加することによって、外国語に興味を持つようになり、退屈せずに楽しく勉強できる。
クラスの授業態度によっては名簿順の固定座席にする、または私語の多い学生を固定座席にすることもある。
学生は各自が必ず自分のノートを作成すること。そのノートはテストのとき持ち込み可。

〔科目内容の位置付け〕
フランス語への入門。語彙と単語、文法項目は全国で実施される仏語検定試験５級程度である。受験を希望する学生にアドバイスをし、試験準備を手伝う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
フランス語　Ⅱ、Ⅲ

151003

科　目　名	フランス語Ⅰ
教　員　名	Asha Vannimmen

〔**講義目的**〕
フランス語の基本の発音と挨拶から勉強し、読み、書き、聞き、話すを身につけます。フランスとヨーロッパの日常生活について学びます。

〔**講義内容**〕
挨拶、自己紹介、家族について、食事やレストランでの会話、疑問文、曜日、時刻、場所や道順など

〔**講義のすすめ方**〕
学んだ単語の復習
会話や本文のプレゼンテーション
理解したかどうかを確認する
会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題
その日学習したフランス語を応用する

〔**教　　材**〕
教科書：Salut,tout facile!
辞書：パスポート　白水社

〔**成績評価の方法・基準**〕
学年中６回のテスト：前期３回、後期３回
出席　１０％
授業の努力と宿題　４０％
テスト　５０％

〔**履修のポイント・注意点**〕
授業に積極的に参加することによって、外国語に興味を持つようになり、退屈せずに楽しく勉強できる。

〔**科目内容の位置付け**〕
フランス語の基本を学び、フランス語Ⅱに進めるように頑張りましょう。

152001

科　目　名	スペイン語Ⅰ
教　員　名	髙橋　節子

〔講義目的〕
①スペイン語が正しく発音できるようになること。
②スペイン語文法の初歩の初歩を学ぶこと（時制は現在形のみ、命令、再帰動詞など）
③単語を300前後覚えること。

〔講義内容〕
導入から始まって30課まで、簡単な文章を書いたり読んだりできるようになります。
スペイン語Ⅰはあくまでも入門で、本当の勉強はその後の選択科目としてのスペイン語Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを自主的に選択することから始まります。入門なので、単なる知識の詰め込みにならずに、スペイン語の全体像をつかみ、言語を学ぶとはどういうことなのかを語っていきたいと思っています。時間があれば、スペイン語のビデオを見たり、歌を聞いたりする予定です。

〔講義のすすめ方〕
①出席及び復習を兼ねた小テスト
②文法のポイントの説明
③単語の発音と意味
④例文の提示（すべて口頭で行います。みなさんはそれを聞き取って書いてください）
⑤プリントの練習問題
⑥西作文（スペイン語の作文）を黒板に書き検討する。
⑦ビデオを見て、重要表現を説明し、内容を検討する。

〔教　　材〕
プリントを使用します。プリントはきちんとまとめておくように各自工夫してください。また、聞き取りや口語的な表現にも慣れてもらうように、ビデオ教材を平行して使用します。みなさんの読解力が上がってきたら会話部分の訳を宿題として課します。
辞書はどれでもかまいませんが、最初の授業でいくつか紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
①良好な授業態度が評価の前提です。良好な授業態度が取れない学生は退出してもらいます。
②授業内試験を10回実施して、平均６割以上を合格とします。そのほか、単語試験を年数回実施します。こちらは9割以上が合格ラインです。定期試験は実施しません。
③不定期にノートの提出を求めます。プリントをきちんを整理しておいてください。

授業内試験は回数が多いので大変ですが、範囲が狭いのでそれほどの負担にならないと思います。かえってしっかり復習ができるので、次の段階の足固めとなり、知らず知らずのうちに実力がついてくることになります。

〔履修のポイント・注意点〕
ここ数年、私語が目立ちます。私語は、他の学生が良好な授業環境で授業を受ける権利を侵害する行為です。悪質な場合には単位を認定しません。
授業は全部出席するのが当たり前です。数回欠席するとすぐに分からなくなってしまいますので、注意して下さい。
単語の量がどんどん増えて行きます。授業中の例文はすべて口頭で与えられますから、単語が分からないと書き取ることもできなくなってしまいます。予習はする必要はありませんが、復習は必ずするようにして下さい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目はありません。授業に出席し、ふつうに勉強していれば何ら問題のない授業内容です。
興味のある人には、NHK のラジオ講座やテレビ講座をお勧めします。図書館にもスペイン語の視聴覚教材が置いてありますので利用してください。

備考
髙橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。
（http://www.hakuoh.ac.jp/~takataka/）

153001

科　目　名	中国語Ⅰ
教　員　名	何　秋平

〔講義目的〕
1．中国語の発音の勉強。
2．簡単な中国語会話の訓練。
3．基本的な中国語の文法を把握するための勉強。

〔講義内容〕
1．中国語の発音や音に関する勉強。
2．生活に密接な関係のある単語の暗記。
3．中国語の一般的な例文の解読。
4．簡単な会話練習。具体的には自己紹介、あいさつ、買いもの、電話をかける、道をたずねる、病院で医者に見てもらう時の話、本を借りるなどを含む。
5．辞典を引きながら短い文章を読む能力を養成。

〔講義のすすめ方〕
1．発音の練習は指導の下でくり返して進めていきます。
2．テキスト中の会話や例文をよく読むことによって完全暗記。
3．一年間の授業が終了の時にテキスト中の短い文章を読める。

〔教　　材〕
1．《漢語レッスン》光生館
2．プリント、授業進行にあわせて配布。
3．辞典《プログレッシブ中国語辞典》小学館

〔成績評価の方法・基準〕
1．定期試験（前後期）
2．小テスト
3．出席率
4．中国語検定協会試験準四級合格者

〔履修のポイント・注意点〕
1．授業に遅刻なしで出席すること。
2．個人が普段の練習を重視すること。
3．授業後講義した内容をよく復習すること。また、授業前、講義する予定の部分を前もって目を通すこと。

〔科目内容の位置付け〕
中国語学習の初級課程

155001

科　目　名	ドイツ語Ⅱ
教　員　名	石川　悦久

〔講義目的〕
一応、ドイツ語Ⅰを履修した学生を対象にしますが、ドイツ語Ⅰでの既習文法事項のうち重要事項の復習、および補足を要すると思われる文法事項についての再説を組み入れながらドイツ語の更なる習得を図る。その上でドイツ語の平易な読み物、よく知られたドイツ歌曲にも触れるなどして、ドイツないしはドイツ文化の一端を垣間見られるようにしたいと考えている。

〔講義内容〕
前半は、文法事項のついたレーゼブーフをテキストにして、ドイツ語基本文法を確認しつつドイツ語文章を読んでいく。その際、英語と比較してドイツ語に特徴的な点、例えばドイツ語発音、格変化、人称語尾変化、枠構造の文型等に留意しながらドイツ語の基本を再確認する。
　後半は、読み物中心にドイツ語を通じてドイツ文化の一端に触れられるようにしたいと考えている。

〔講義のすすめ方〕
前半は、原則的にテキストに即し適宜補足説明を加えていく。その際、発音重視の観点から、学生一人一人に単語・語句・語形変化・文章等を発音してもらいドイツ語の感覚を養ってもらう。かつ、小テスト形式を導入して、既習事項の筆記による確認を図る。
　後半は、ドイツ語文章の解読を中心に、担当者を決めて訳読していき、適宜補足説明を加える。

〔教　　材〕
テキストは改めて指示する。他の教材については適宜プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点と試験の結果を総合的に考慮して評価する。語学は日頃の努力の観点から、出席状況と授業中の態度を重視する。

〔履修のポイント・注意点〕
語学の修得は日々の努力の積み重ねである。したがって、欠席や遅刻は原則許されないものと考える。出席状況を重視する所以である。既習事項の復習に努めてもらいたい。そして、積極的に授業に参加してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
一応ドイツ語Ⅰを終了し、更にドイツ語Ⅲに進むための中級程度レベル。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
更にドイツ語Ⅲに進み、より本格的にドイツおよびドイツ文化に触れるためにドイツ語Ⅲの履修が勧められる。

156001

科　目　名	フランス語Ⅱ
教　員　名	Clemens Amann

〔講義目的〕
フランス語Ⅰで勉強した項目を掘り下げ、語彙と単語を増やし、初級のレベルを徹底的に身につける。『勉強したのに、どうして簡単なことさえ話せないのだろう』という疑問を持つ人が少なくない。それは知識の量に対して実際に話すトレーニングが少なすぎるからである。その問題を超えるため、まず自分が言いたいこと、あるいは表現したいことを考えてから、そのテーマに沿った授業の進め方をする。フランス語を実際的に授業中に使い、表現できる範囲を広げる。

〔講義内容〕
人の外見、嗜好、性格をのべる、住まいと日常の環境、フランスの街、地域、モード、食生活について話す、フランス人の意見、ライフスタイルなど、それぞれの授業に一つのテーマをあげる。そのテーマについて簡単なフランス語で話すことができるように、テーマに会わせて語彙と単語を復習し増やし、適切な文型を勉強する。
経験したことを語り、未来のこと、仮定することを言う、助言する、依頼する、コメント、さまざまな言語能力を実際的な場面で使える授業をめざす。もちろん、フランス語で言えないこと、分からないことを伝える表現も学ぶ。

〔講義のすすめ方〕
一　会話や本文のプレゼンテーション：テープ、ビデオ、文章、いずれかを通して紹介する
一　発音、単語と文型、日本語とフランス語の比較
一　内容、新しい単語を理解したかどうかを確認する：おおよその理解から詳しい理解へ
一　会話中や本文中に出てきた単語と文型に関する練習問題：理解から使用へ
一　その日学習したテーマについて簡単なフランス語で話す、短い文を書く

〔教　　材〕
主な教材はプリントを配る
教科書：未定
辞　　書：授業中説明する

〔成績評価の方法・基準〕
出席回数
授業中の努力
週に一回だけの授業なので、宿題が復習のために欠かせない。
評価の基準：出席／授業中の努力：60％
　　宿題：40％

〔履修のポイント・注意点〕
フランス語だけではなく、外国語は耳と口を通して学び、下手か、上手かは別にして、通じるように話してみると違和感を超えることができる。積極的にフランス語を話して、間違っても、通じればよいという考えをもってください。(間違ったところは書くとき、宿題のとき直すことができる)
ノートと単語帳を作成する。

〔科目内容の位置付け〕
入門から初級に。語彙と単語、または文法項目は全国で実施されている仏検定試験４級にでてくる問題をカバーする。受験を希望する学生には適切なアドバイスをし、試験準備を手伝う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
フランス語　Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ

157001

科　目　名	スペイン語Ⅱ
教　員　名	髙橋　節子

〔講義目的〕
①多少長い文でもすらすら読めるようになること
②スペイン語文法の基礎を修得すること
③単語の量を増やすこと
　スペイン語Ⅰでは初歩の初歩しか扱っていないので、スペイン語Ⅰを終了した方はできるだけスペイン語Ⅱも受講して、スペイン語の基礎を学んでほしいと思います。若い時に自主的に学んだ知識は、たとえ忘れてしまったようでも脳の深い部分に残っているものです。

〔講義内容〕
　スペイン語Ⅰで学んだ時制は現在形だけでしたが、スペイン語Ⅱでは残りの時制（点過去、線過去、現在完了、等）を重点的に学んでいきます。時制の数が多く、活用も複雑になるのでマスターするのに苦労すると思いますが、少しずつ習得していってください。
　コミュニケーション能力の大部分は実は単語量で決まります。基礎語彙の500語をマスターすれば辞書を引く回数が半減して、語学のおもしろさが見えてきます。スペイン語では頻度数上位1000語で81.0％が理解可能ですから、初心者は文法よりもむしろ単語の習得に励んだ方がいいという意見もあるくらいです。授業では、単語の習得を目的とした問題もたくさんだします。

〔講義のすすめ方〕
①出席と復習を兼ねた小テスト
②文法のポイントの説明
③単語の学習
④ビデオを見てどのような状況で会話が交わされているかを理解する。
⑤意味を考える。
⑥読みの練習
⑦練習問題
⑧次回予定のビデオを見て、どのような状況で会話が交わされているのかだいたい理解し、予習の際の参考にする。

〔教　　材〕
昨年副教材として使用したビデオ教材の続き（Viaje al Espanol 2）を使います。この教材は量が多いので、文法的に重要な項目を扱っている課を中心に授業を進めて行きます。初心者にとって予習は難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意します。それを参考にしながら予習をしてきてください。意味の確認はグループ単位で行います。三人くらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認をしてもらいます。

〔成績評価の方法・基準〕
①良好な授業態度が評価の前提です。良好な授業態度が取れない学生は、成績評価の対象にはなりません。
②基本的には予習をしてきたかどうかで合否を決定します（60％）。それ以外に、授業開始時に行う小テストの成績を判断材料とします（40％）。

〔履修のポイント・注意点〕
　週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習（＝自主学習）が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かっても、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。

〔科目内容の位置付け〕
　昨年度スペイン語Ⅰを終了した人が主な対象者となりますが、以前スペイン語Ⅰを終了してブランクがある人も歓迎します。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　前提科目はスペイン語Ⅰ。ただし、スペイン語Ⅰが未修得でもラジオ講座などで知識を補っていきなりスペイン語Ⅱを受講してもかまいません。

備考
　髙橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。
（http：//www.hakuoh.ac.jp/~takataka/）

158001

科　目　名	中国語Ⅱ
教　員　名	平木　真快

〔講義目的〕
本講は、①中級文法を理解する②中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う、以上２項目を達成することを目的とする。

〔講義内容〕
語学は中級から俄然面白くなる、というのが私の持論。
質：深みのある内容、複雑な文法構造。
量：予習のし甲斐のある分量。
質量ともに、存在感のある内容を読解する快感に酔おうではないか。

< 春学期 >
第１回：オリエンテーション
第２回：煙草減給法。
第３回：煙草減給法。
第４回：サイン新法。
第５回：サイン新法。
第６回：笑的倶楽部。
第７回：笑的倶楽部。
第８回：子虚烏有的城市。
第９回：子虚烏有的城市。
第10回：オウム学舌上法庭。
第11回：オウム学舌上法庭。
第12回：自食其果。
第13回：自食其果。
第14回：文法余話。
第15回：試験
< 秋学期 >
第１回：ロンドン魚雨。
第２回：ロンドン魚雨。
第３回：請不要生病。
第４回：請不要生病。
第５回：薬片当硬幣。
第６回：薬片当硬幣。
第７回：ゴミ紀念碑。
第８回：ゴミ紀念碑。
第９回：歴史名人与広告。
第10回：歴史名人与広告。
第11回：出題乎？
第12回：出題乎？
第13回：用老鼠対付示威者。
第14回：用老鼠対付示威者。
第15回：試験

〔講義のすすめ方〕
全員起立・礼→出欠→音読→簡化字を常用漢字に変換する→和訳→文法解釈→全員起立・礼。

〔教　　材〕
教科書（テキスト）:『中国語読物・天南地北』、矢放昭文、白帝社、1442円
※テキストは拡大コピーを無料で差し上げます。
参考図書は特になし。

〔成績評価の方法・基準〕
（試験成績が70％）＋（出欠が25％）＋（ノート成績が５％）＝100％
綜合成績60点以上を合格とする。
テストは年間２回実施する。

〔履修のポイント・注意点〕
(1) 履修要領：
①原文と発音記号をノートに写す。
②辞典を頼りに、自力で和訳する。訳せなくても無理に訳して下さい。
③授業中に、誤訳の訂正及び加筆をする。
(2) 注意事項：
①授業は定刻開始。
②点呼の際、返事なき者は欠席とする。
③遅刻３回＝欠席１回。
④教室での着帽・授業中の飲食・私語は非常識。
※予習の方法：初回に詳述する。

〔科目内容の位置付け〕
外国語は、関連学科の基礎を成すものであって、これ無くしては研究を主体的に展開することはできない。道具としての語学をマスターする方法は２つある。
①頭を使う：単語の意味と発音を確認してから、文の構造を分析する。
②手を使う：理解したことは文字化しなさい。沢山書けば書いただけ力はつく。語学は量だ。沢山読んで、聞いて、書いて、口を動かし、マメに辞書をひいて下さい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
(1) 前提科目：日本語。
母国語の習得に限りない興趣を抱かない者は、外国語の学習に向かない。母国語に対する言語感覚の鋭さは、外国語の上達に比例する。
(2) 関連科目：学術・芸術・実用の諸知識等全域に及ぶ。
※前提科目の前提：常識と思いやり。
※学術・芸術・実用は相互に関連する。

160001

科　目　名	ドイツ語Ⅲ
教　員　名	石川　悦久

〔講義目的〕
ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、基本文法は異文化の問題としてどこまでも付きまとう難解さを秘めている。そこで随時文法説明を補足するが、主眼はドイツ語原文を通じて直接ドイツおよびドイツ文化の一端に触れることにある。
　ドイツ文化の誇る文学、音楽、哲学、思想等枚挙にいとまない諸分野のうちからいくつかを取り上げ、ドイツ語原文を通じてその発想法に直接触れることを心がけたい。
　なおドイツ音楽特にバッハとモーツァルトをこよなく愛する担当者の趣味が入るが、カンタータやオペラの一節を教材として使うことも考えている。

〔講義内容〕
今年度は、ドイツ文学と哲学・思想にわたる名著名文の誉れ高いニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』を初めからじっくりとドイツ語原文で味わいます。
　内容的にはドイツのみならず背景としての近現代のヨーロッパの思想文化の問題にも触れられ、格好の読み物の一つだと考えられます。内容説明を織り交ぜながら、じっくりと取り組んで行きたいと思います。
　ちなみに日本語訳も多数出ています。
　別案として、ドイツ政府に公開の『ドイツの実情』をテキストに、今日のドイツの実情に触れることも考えている。授業参加者の希望によりテキスト変更も考えられる。

〔講義のすすめ方〕
原則的に担当者を決めてテキストを訳読し、適宜補足説明を加えていく。その際、内容により自由討論や意見交換をすることも考えられる。
　ただし、必要に応じては適宜重要文法単元の補足をしていくつもりでもある。

〔教　　材〕
テ　キ　ス　ト：Fr. Nietzsche、Also sprach Zarathustra、Hanser
翻　　訳：岩波文庫・中公文庫他多数あり
　テキストを含め、その他の教材については適宜プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
原則的に試験は行なわない。語学は日頃の努力の観点から、出席状況と授業中の態度を重視する。平常授業の参加度を重視し総合的に考慮して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
授業に欠席せず、訳読担当分の準備に励み、授業に積極的に参加してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
ドイツ語Ⅱを発展させて更に上級レベルを目指すものであるが、語学学習の観点を超えて更に法律・政治・歴史・哲学・文学等への橋渡しになるものと位置づけたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
語学としては、ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、内容的には、思想、文学、歴史、哲学、比較文化等などにも関連する。

161001

科　目　名	フランス語Ⅲ
教　員　名	Clemens Amann

〔講義目的〕
フランスを見る、聞く、読むという目的でビデオ教材をもとにし、フランスの都市、地域、生活と文化を勉強する。簡単なフランス語を通じて現在のフランスを知り、それぞれのテーマに関して基礎の語彙と単語を学んび、ビデオの内容を聞き取り、簡単な文でまとめる。

〔講義内容〕
パリだけではなく地域も、観光のフランスだけではなく、フランスの日常、地理、風景についても様々の話を紹介します：例えば、南フランスの音楽フェスティバル、ブドウ畑とチェーズの生産、アルザス地方のクリスマスマーケット、ブルターニュ地方の民俗フェスティバル、フランスの映画と音楽など。

〔講義のすすめ方〕
ー　毎回のビデオを見せる前に、聞き取りに必要な単語、質問を説明する。
ー　第一番目の聞き取り：ビデオを見ながら、主な内容を確かめる。
ー　学生は二人、三人で聞き取りの理解率をチェックする。
ー　第二番目の聞き取り：ビデオの文章をことば通りに穴埋めで完全させる。
ー　ビデオの内容を簡単なフランス語でまとめる。

〔教　　材〕
プリント配布
辞書については授業中説明する

〔成績評価の方法・基準〕
出席、授業中の積極的な参加、毎回の宿題
出席回数
評価の基準：　出席／授業中の努力：６０％
　　宿題：４０％

〔履修のポイント・注意点〕
ノートを作成する

〔科目内容の位置付け〕
フランス語　I, II では会話が中心になっていることに対してこの授業ではフランスについての情報をフランス語で理解出来るように勉強する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
フランス語　I, II,

162001

科　目　名	スペイン語Ⅲ
教　員　名	髙橋　節子

〔講義目的〕
　スペイン語文法の基礎を一通り終了し、さらに学習を続けたい人のための講座です。
　以下の三つを目標とします。
①長い文がすらすらと読めるようになること
②重要な文法事項の復習・定着
③語彙を増やし定着させること

〔講義内容〕
①文法事項（特に動詞の活用）の説明
②語彙の説明
③スペイン語を読んで理解する。

〔講義のすすめ方〕
①出席と復習を兼ねた小テスト
②グループ内で小テストの答え合わせ
③文法のポイントの説明
④単語の発音と意味
⑤読みの練習
⑥グループ内でテキストの意味を検討する。

〔教　　材〕
　前期はスペイン語Ⅱで使用したビデオ教材の続きを勉強する予定です。
　後期はスペイン語学習者用に書き下ろされた探偵小説を読む予定です。これは語彙が厳選されていますので、単語の量を増やすにはもってこいだと思います。
　プリントを使用します。欠席した場合には、次の授業時までにプリントを研究室に取りにきて下さい。

〔成績評価の方法・基準〕
　良好な授業態度が評価の前提です。良好な授業態度が取れない学生は、成績評価の対象にはなりません。
　基本的には予習をしてきたかどうかで合否を決定します。それ以外に、授業開始時に行う小テストの成績を判断材料とします。

〔履修のポイント・注意点〕
　例年、少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。
　週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習が非常に重要になります。予習をせずに授業に臨んで日本語の訳だけ分かっても、それはもはやスペイン語の勉強とは言えません。予習は場合によっては難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意します。それを参考にしながら予習をしてきてください。意味の確認はグループ単位で行います。三人くらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認をしてもらいます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　前提科目はスペイン語Ⅰ。スペイン語Ⅱは終了していることが望ましいのですが、終了していなくても自分である程度補えば理解可能な内容にするつもりです。また、スペイン語Ⅱを履修した後ブランクがある人も歓迎します。ちなみに、昨年は、まったくのスペイン語初心者がいきなり参加して、他のメンバーに助けられながらがんばっていました。

備考
　髙橋のホームーページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。
（http：//www.hakuoh.ac.jp/~takataka/）

163001

科　目　名	中国語Ⅲ
教　員　名	平木　真快

〔講義目的〕
本講は、①中級文法を理解する②中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う、以上２項目を達成することを目的とする。

〔講義内容〕
語学は中級から俄然面白くなる、というのが私の持論。
質：深みのある内容、複雑な文法構造。
量：予習のし甲斐のある分量。
質量ともに、存在感のある内容を読解する快感に酔おうではないか。

< 春学期 >
第１回：オリエンテーション
第２回：煙草減給法。
第３回：煙草減給法。
第４回：サイン新法。
第５回：サイン新法。
第６回：笑的倶楽部。
第７回：笑的倶楽部。
第８回：子虚烏有的城市。
第９回：子虚烏有的城市。
第10回：オウム学舌上法庭。
第11回：オウム学舌上法庭。
第12回：自食其果。
第13回：自食其果。
第14回：文法余話。
第15回：試験
< 秋学期 >
第１回：ロンドン魚雨。
第２回：ロンドン魚雨。
第３回：請不要生病。
第４回：請不要生病。
第５回：薬片当硬幣。
第６回：薬片当硬幣。
第７回：ゴミ紀念碑。
第８回：ゴミ紀念碑。
第９回：歴史名人与広告。
第10回：歴史名人与広告。
第11回：出題乎？
第12回：出題乎？
第13回：用老鼠対付示威者。
第14回：用老鼠対付示威者。
第15回：試験

〔講義のすすめ方〕
全員起立・礼→出欠→音読→簡化字を常用漢字に変換する→和訳→文法解釈→全員起立・礼。

〔教　　材〕
教科書（テキスト）:『中国語読物・天南地北』、矢放昭文、白帝社、1442円
※テキストは拡大コピーを無料で差し上げます。
参考図書は特になし。

〔成績評価の方法・基準〕
（試験成績が70％）＋（出欠が25％）＋（ノート成績が５％）＝100％
綜合成績60点以上を合格とする。
テストは年間２回実施する

〔履修のポイント・注意点〕
(1) 履修要領：
①原文と発音記号をノートに写す。
②辞典を頼りに、自力で和訳する。訳せなくても無理に訳して下さい。
③授業中に、誤訳の訂正及び加筆をする。
(2) 注意事項：
①授業は定刻開始。
②点呼の際、返事なき者は欠席とする。
③遅刻３回＝欠席１回。
④教室での着帽・授業中の飲食・私語は非常識。
※予習の方法：初回に詳述する。

〔科目内容の位置付け〕
外国語は、関連学科の基礎を成すものであって、これ無くしては研究を主体的に展開することはできない。道具としての語学をマスターする方法は２つある。
①頭を使う：単語の意味と発音を確認してから、文の構造を分析する。
②手を使う：理解したことは文字化しなさい。沢山書けば書いただけ力はつく。語学は量だ。沢山読んで、聞いて、書いて、口を動かし、マメに辞書をひいて下さい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
(1) 前提科目：日本語。
母国語の習得に限りない興趣を抱かない者は、外国語の学習に向かない。母国語に対する言語感覚の鋭さは、外国語の上達に比例する。
(2) 関連科目：学術・芸術・実用の諸知識等全域に及ぶ。
※前提科目の前提：常識と思いやり。
※学術・芸術・実用は相互に関連する。

164001

科　目　名	ドイツ語Ⅳ
教　員　名	石川　悦久

〔**講義目的**〕
ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、基本文法は異文化の問題としてどこまでも付きまとう難解さを秘めている。そこで随時文法説明を補足するが、主眼はドイツ語原文を通じて直接ドイツおよびドイツ文化の一端に触れることにある。
　ドイツ文化の誇る文学、音楽、哲学、思想等枚挙にいとまない諸分野のうちからいくつかを取り上げ、ドイツ語原文を通じてその発想法に直接触れることを心がけたい。
　なおドイツ音楽特にバッハとモーツァルトをこよなく愛する担当者の趣味が入るが、カンタータやオペラの一節を教材として使うことも考えている。

〔**講義内容**〕
今年度は、ドイツ文学と哲学・思想にわたる名著名文の誉れ高いニーチェの『ツァラトゥストラはこう語った』を初めからじっくりとドイツ語原文で味わいます。
　内容的にはドイツのみならず背景としての近現代のヨーロッパの思想文化の問題にも触れられ、格好の読み物の一つだと考えられます。内容説明を織り交ぜながら、じっくりと取り組んで行きたいと思います。
　ちなみに日本語訳も多数出ています。
　別案として、ドイツ政府公開の『ドイツの実情』をテキストに、今日のドイツの実情に触れることも考えている。授業参加者の希望によりテキスト変更も考えられる。

〔**講義のすすめ方**〕
原則的に担当者を決めてテキストを訳読し、適宜補足説明を加えていく。その際、内容により自由討論や意見交換をすることも考えられる。
　ただし、必要に応じては適宜重要文法単元の補足をしていくつもりでもある。

〔**教　　材**〕
テ　キ　ス　ト：Fr. Nietzsche、Also sprach Zarathustra、Hanser
翻　　訳：岩波文庫・中公文庫他多数あり
　テキストを含め、その他の教材については適宜プリントを配布する。

〔**成績評価の方法・基準**〕
原則的に試験は行なわない。語学は日頃の努力の観点から、出席状況と授業中の態度を重視する。平常授業の参加度を重視し総合的に考慮して評価する。

〔**履修のポイント・注意点**〕
授業に欠席せず、訳読担当分の準備に励み、授業に積極的に参加してもらいたい。

〔**科目内容の位置付け**〕
ドイツ語Ⅱを発展させて更に上級レベルを目指すものであるが、語学学習の観点を超えて更に法律・政治・歴史・哲学・文学等への橋渡しになるものと位置づけたい。

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
語学としては、ドイツ語Ⅱまで履修した学生を対象とするが、内容的には、思想、文学、歴史、哲学、比較文化等などにも関連する。

165001

科　目　名	フランス語Ⅳ
教　員　名	Clemens Amann

〔講義目的〕
フランスを見る、聞く、読むという目的でビデオ教材をもとにし、フランスの都市、地域、生活と文化を勉強する。簡単なフランス語を通じて現在のフランスを知り、それぞれのテーマに関して基礎の語彙と単語を学んび、ビデオの内容を聞き取り、簡単な文でまとめる。

〔講義内容〕
パリだけではなく地域も、観光のフランスだけではなく、フランスの日常、地理、風景についても様々の話を紹介します：例えば、南フランスの音楽フェスティバル、ブドウ畑とチェーズの生産、アルザス地方のクリスマスマーケット、ブルターニュ地方の民俗フェスティバル、フランスの映画と音楽など。

〔講義のすすめ方〕
ー　毎回のビデオを見せる前に、聞き取りに必要な単語、質問を説明する。
ー　第一番目の聞き取り：ビデオを見ながら、主な内容を確かめる。
ー　学生は二人、三人で聞き取りの理解率をチェックする。
ー　第二番目の聞き取り：ビデオの文章をことば通りに穴埋めで完全させる。
ー　ビデオの内容を簡単なフランス語でまとめる。

〔教　　材〕
プリント配布
辞書については授業中説明する

〔成績評価の方法・基準〕
出席、授業中の積極的な参加、毎回の宿題
出席回数
評価の基準：　出席／授業中の努力：６０％
　　宿題：４０％

〔履修のポイント・注意点〕
ノートを作成する

〔科目内容の位置付け〕
フランス語　I, II では会話が中心になっていることに対してこの授業ではフランスについての情報をフランス語で理解出来るように勉強する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
フランス語　I, II,

166001

科　目　名	スペイン語Ⅳ
教　員　名	髙橋　節子

〔講義目的〕
　スペイン語文法の基礎を一通り終了し、さらに学習を続けたい人のための講座です。
　以下の三つを目標とします。
①長い文がすらすらと読めるようになること
②重要な文法事項の復習・定着
③語彙を増やし定着させること

〔講義内容〕
①文法事項（特に動詞の活用）の説明
②語彙の説明
③スペイン語を読んで理解する。

〔講義のすすめ方〕
①出席と復習を兼ねた小テスト
②グループ内で小テストの答え合わせ
③文法のポイントの説明
④単語の発音と意味
⑤読みの練習
⑥グループ内でテキストの意味を検討する。

〔教　　材〕
　スペイン語学習者用に書き下ろされた探偵小説を読む予定です。これは語彙が厳選されていますので、単語量を増やすにはもってこいだと思います。内容も面白いので先が読みたくなります。
　皆さんのレベルに合わせて読むスピードを調整します。
　プリントを配布します。

〔成績評価の方法・基準〕
　基本的には予習をしてきたかどうかで合否を決定します。それ以外に、授業開始時に行う小テストの成績を判断材料とします。

〔履修のポイント・注意点〕
　例年、少人数の授業なので、和気あいあいとした雰囲気の中で充実した授業になります。
　週一回と語学の授業としては大変少ない回数しかないので、予習が非常に重要になります。予習は場合によっては難しいこともありますので、文法事項の説明、意味のヒント、練習問題などをつけたプリントを用意します。それを参考にしながら予習をしてきてください。
　意味の確認はグループ単位で行います。３～４人くらいで一つのグループを作り、お互いの予習内容を検討しながら意味の確認をしてもらいます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　前提科目はスペイン語Ⅲです。

備考
　髙橋のホームページには過去の受講生の成績、授業を受けての感想、教材のプリント、試験内容、学習の手引きなどが載っていますので、参考にして下さい。
（http：//www.hakuoh.ac.jp/~takataka/）

167001

科　目　名	中国語Ⅳ
教　員　名	平木　真快

〔講義目的〕
本講は、①中級文法を理解する②中国の新聞・雑誌を独力で読解する能力を養う、以上２項目を達成することを目的とする。

〔講義内容〕
語学は中級から俄然面白くなる、というのが私の持論。
質：深みのある内容、複雑な文法構造。
量：予習のし甲斐のある分量。
質量ともに、存在感のある内容を読解する快感に酔おうではないか。

< 春学期 >
第１回：オリエンテーション
第２回：煙草減給法。
第３回：煙草減給法。
第４回：サイン新法。
第５回：サイン新法。
第６回：笑的倶楽部。
第７回：笑的倶楽部。
第８回：子虚烏有的城市。
第９回：子虚烏有的城市。
第10回：オウム学舌上法庭。
第11回：オウム学舌上法庭。
第12回：自食其果。
第13回：自食其果。
第14回：文法余話。
第15回：試験
< 秋学期 >
第１回：ロンドン魚雨。
第２回：ロンドン魚雨。
第３回：請不要生病。
第４回：請不要生病。
第５回：薬片当硬幣。
第６回：薬片当硬幣。
第７回：ゴミ紀念碑。
第８回：ゴミ紀念碑。
第９回：歴史名人与広告。
第10回：歴史名人与広告。
第11回：出題乎？
第12回：出題乎？
第13回：用老鼠対付示威者。
第14回：用老鼠対付示威者。
第15回：試験

〔講義のすすめ方〕
全員起立・礼→出欠→音読→簡化字を常用漢字に変換する→和訳→文法解釈→全員起立・礼。

〔教　　材〕
教科書（テキスト）:『中国語読物・天南地北』、矢放昭文、白帝社、1442円
※テキストは拡大コピーを無料で差し上げます。
参考図書は特になし。

〔成績評価の方法・基準〕
（試験成績が70％）＋（出欠が25％）＋（ノート成績が５％）＝100％
綜合成績60点以上を合格とする。
テストは年間２回実施する。

〔履修のポイント・注意点〕
(1) 履修要領：
①原文と発音記号をノートに写す。
②辞典を頼りに、自力で和訳する。訳せなくても無理に訳して下さい。
③授業中に、誤訳の訂正及び加筆をする。
(2) 注意事項：
①授業は定刻開始。
②点呼の際、返事なき者は欠席とする。
③遅刻３回＝欠席１回。
④教室での着帽・授業中の飲食・私語は非常識。
※予習の方法：初回に詳述する。

〔科目内容の位置付け〕
外国語は、関連学科の基礎を成すものであって、これ無くしては研究を主体的に展開することはできない。道具としての語学をマスターする方法は２つある。
①頭を使う：単語の意味と発音を確認してから、文の構造を分析する。
②手を使う：理解したことは文字化しなさい。沢山書けば書いただけ力はつく。語学は量だ。沢山読んで、聞いて、書いて、口を動かし、マメに辞書をひいて下さい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
(1) 前提科目：日本語。
母国語の習得に限りない興趣を抱かない者は、外国語の学習に向かない。母国語に対する言語感覚の鋭さは、外国語の上達に比例する。
(2) 関連科目：学術・芸術・実用の諸知識等全域に及ぶ。
※前提科目の前提：常識と思いやり。
※学術・芸術・実用は相互に関連する。

200101

科　目　名	歴史学Ａ
	歴史とは何か
教　員　名	村尾　元忠

〔講義目的〕
歴史とは何か。歴史は何を目的としているのか。歴史を学ぶということはどのような意味があるのか。こうした疑問に対して先人達はどのようなことを考えていたかを知り、自らの歴史の見方を育てることを目的とする。

〔講義内容〕
第１回　講義の概要、目的、などの説明
第２回　歴史は偶然か必然か
第３回　承前
第４回　歴史は繰り返す
第５回　承前
第６回　歴史は鑑である
第７回　承前
第８回　歴史は神の証
第９回　文明は田舎に興る
第10回　承前
第11回　歴史は歩み降る
第12回　承前
第13回　ヴィルトゥは不滅
第14回　民族の一般精神
第15回　纏め

〔講義のすすめ方〕
歴史の父と云われるヘロドトスヲ始めとする古代中世の歴史家達を紹介すると共に、その歴史の見方についての概略を述べる。話題にする主な歴史家達は、ヘロドトス、トウキュディデス、ポリュビオス、リヴィウス、司馬遷、慈円、アウグスティヌス、イブン＝ハルドゥン、マキャベッリなどである。

〔教　　材〕
教科書は使用しない。参考図書は必要に応じて講義中に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
項目のきりのよいところでノートの整理を主眼とした小レポートを課す。この小レポートは４回行う。それぞれのレポートの評価は主観採点による。講義内容に対応したものであるか４０％、講義内容を理解した整理となっているか４０％、読みやすいか２０％とする。成績はこの小レポートの平均とする。ただし、学則によって正当と認める欠席を除き欠席が３分の１を越えた者は評価しない。

〔履修のポイント・注意点〕
項目のきりのよいところでノートの整理を主眼とした小レポートを課す。この小レポートは４回行う。それぞれのレポートの評価は主観採点による。講義内容に対応したものであるか４０％、講義内容を理解した整理となっているか４０％、読みやすいか２０％とする。成績はこの小レポートの平均とする。ただし、学則によって正当と認める欠席を除き欠席が３分の１を越えた者は評価しない。

〔科目内容の位置付け〕
この講義は教養のためのものである。話を聴き、歴史とは何かという普段考えてみないことを考えてみること、それが教養を高めることになる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
中等教育で世界史を履修していれば馴染みの人名や事件が登場するが、これは前提ではない。この講義で馴染めばよいことである。関連科目については「他の学問は歴史学の材料に過ぎない」（１４世紀イスラムの歴史家イブン＝ハルドゥン）という言葉で言い尽くされている。

200201

科　目　名	歴史学Ｂ
	歴史とは何か
教　員　名	村尾　元忠

〔講義目的〕
歴史とは何か。歴史は何を目的としているのか。歴史を学ぶということはどのような意味があるのか。こうした疑問に対して先人達はどのようなことを考えていたかを知り、自らの歴史の見方を育てることを目的とする。

〔講義内容〕
第１回　講義の概要、目的、などの説明
第２回　民族の一般精神
第３回　野蛮から文明へ
第４回　人間性の発展
第５回　認識の学
第６回　全ては理性が支配する
第７回　愛と共感
第８回　歴史叙述は芸術である
第９回　過去が明るくなるのではない
第10回　自分自身の精神の発見
第11回　自然環境が歴史を決定する
第12回　承前
第13回　最終社会への前史
第14回　歴史は経済の流出物ではない
第15回　纏め

〔講義のすすめ方〕
ヨーロッパの近代はルネサンスに端を発するといえよう。それはキリスト教社会に於いて、歴史を神の証から人間の営みへと意識を変えることであり、人間的合理性の追求へと視点を移すことであった。ここではヴォルテール、モンテスキュー、ヘルダー、ニーブーア、ヘーゲル、ランケ、モムゼン、ドロイゼン、ブルクハルト、マルクス、マックスウェーバー、などの先達を紹介する。中には哲学者である人達も含まれるが、歴史の世紀と云われる１９世紀のヨーロッパを語るには、哲学の分野からの発言を避けて通るわけにはいかないのである。

〔教　　材〕
教科書は使用しない。参考図書は必要に応じて講義中に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
項目のきりのよいところでノートの整理を主眼とした小レポートを課す。この小レポートは４回行う。それぞれのレポートの評価は主観採点による。講義内容に対応したものであるか４０％、講義内容を理解した整理となっているか４０％、読みやすいか２０％とする。成績はこの小レポートの平均とする。ただし、学則によって正当と認める欠席を除き欠席が３分の１を越えた者は評価しない。

〔履修のポイント・注意点〕
予習は特に必要としない。講義を聴いてそれを自らの問題意識として反芻することが大切である。

〔科目内容の位置付け〕
この講義は教養のためのものである。話を聴き、歴史とは何かという普段考えてみないことを考えてみること、それが教養を高めることになる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
中等教育で世界史を履修していれば馴染みの人名や事件が登場するが、これは前提ではない。この講義で馴染めばよいことである。関連科目については「他の学問は歴史学の材料に過ぎない」（１４世紀イスラムの歴史家イブン＝ハルドゥン）という言葉で言い尽くされている。

200301

科　目　名	日本史概論
	武士の時代前期
教　員　名	村尾　元忠

〔講義目的〕
　この講義では平安時代から鎌倉時代における武士を主題としてその様態を語る。その目的は歴史上に生きた人々に、あるいは、その時の社会に理解を深めることである。こうした他者への理解は人間性をより幅広いものとする。それは即ち教養を高めるということである。

〔講義内容〕
第１回　講義の概要、目的、などの説明
第２回　武士とは何か
第３回　平将門の社会的性格
第４回　藤原秀郷の立場
第５回　清和源氏
第６回　前九年後三年の役
第７回　源義家
第８回　院政
第９回　保元の乱
第10回　平治の乱
第11回　平家物語の清盛像
第12回　治承寿永の乱
第13回　鎌倉幕府成立時期の考え方
第14回　北条政子
第15回　レポート

〔講義のすすめ方〕
　人を語ることに主眼をおく。従って一般的に重要とされる事項を網羅的に並べることはせず、私の歴史認識に必要と思われることをとりあげる。

〔教　　材〕
　教科書は使用しない。参考図書は必要に応じて講義中に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
　期末のレポートによる。レポートは複数の課題を提示する。その中から一つを選んで論述する。評価は主観採点による。おおむね内容の論理性に６０％、文章構成の巧拙に２０％、レポートとしての様式具備の程度に２０％とする。

〔履修のポイント・注意点〕
　予習は特に必要としない。講義を聴いてそれを自らの問題意識として反芻することが大切である。

〔科目内容の位置付け〕
　この講義は教養のためのものである。話を聴きながら、歴史という学問の方法論を感じ取ってほしい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　中等教育で日本史を履修していることが望ましいが、必要条件ではない。歴史という学問は様々な学問の総合であるから他の全ての科目が関連するが、強いて挙げれば哲学・文学・社会学・法学などであろうか。

200302

科　目　名	日本史概論
	前近代までの日本の歴史
教　員　名	三浦　顕一郎

〔講義目的〕
前近代までの日本の歴史を学ぶ。

〔講義内容〕
第Ⅰ部　原始・古代
第１回　日本文化のあけぼの
第２回　律令国家の形成
第３回　律令国家の発展
第４回　貴族政治と国風文化

第Ⅱ部　中世
第５回　鎌倉幕府の成立
第６回　鎌倉幕府の滅亡
第７回　室町幕府の成立
第８回　戦国時代

第Ⅲ部　近世
第９回　織豊政権
第10回　幕藩体制の成立
第12回　幕藩体制の展開
第13回　幕藩体制の動揺

第14回　まとめ・質疑応答

〔講義のすすめ方〕
講義形式。

〔教　　材〕
『詳説・日本史』山川出版社（高校の日本史Ｂの教科書）

〔成績評価の方法・基準〕
学期末の定期試験により成績評価を行う。試験時間は90分を予定しており、持ち込みは一切不可とする。
また、複数回、自由提出のレポートあるいは感想文の出題を行う。これは成績評価に加点するための任意提出のものであり、提出するか否かは諸君の判断に委ねる。試験だけの成績評価に自信があれば提出せずともよし、自信がなければ提出するとよかろう。
なお、出席状況は成績評価の対象としない。オリンピックではないので、参加すること自体に特に意義を認めない。出席だけしてボーッとしていることは、人生の貴重な時間の無駄遣いである。成績評価に当たっては学習したか否かを重視し、それのみ（すなわち試験とレポート）を成績評価の対象とする。

〔履修のポイント・注意点〕
出席する以上は真剣に講義を聴くこと。

〔科目内容の位置付け〕
教職課程を対象とした教養科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は全くない。関連科目としては、この科目が扱う時代以降を対象とする日本政治史および日本法制史。

200401

科　目　名	外国史概論
	イギリス史の流れ
教　員　名	清水　正義

〔講義目的〕
本年度はイギリス史を講義する。イギリスは長い間、議会制民主主義、産業資本主義のお手本の国と考えられてきた。事実、イギリスにおいては中世以来の王権と議会との抗争の中で議会の独自的地位が確保されてきた。その場合、議会の権限とは何よりも王権の制限という文脈で理解され、このことは良くも悪しくもイギリス議会制度の特徴となって現在にいたっている。イギリスはまた近代世界において大英帝国として結実する最大の植民地帝国を作り上げ、また世界に先駆けて産業革命を成し遂げることで、近代世界の経済をリードする立場にあった。こうしたイギリスの地位は現代までイギリス国民の歴史意識に大きな影響を持つとともに、多様な人種民族構成を有する今日のイギリス国民のあり方をも規定している。翻ってわが国においてイギリスは政治、経済の先進国であったのみならず、文化、芸術の分野でもさまざまな影響を与えている。言語としての英語の重要性は言うまでもないが、それと同時に夏目漱石以来のイギリス文学を通じてのヨーロッパ近代理解の問題があり、また戦後世界においては社会福祉の面でイギリスの先進性が見られた他、経済の分野では長い間「イギリス病」など不名誉な表現がされた非効率社会が８０年代以降の政策努力の中で次第に克服され、新たな角度から日本の政治経済に影響を与えるようになってきている。講義ではこうしたイギリス政治、経済のダイナミズムを取り上げて、日本とちょうど対極にある島国イギリスの歴史が私たちに投げかけている問題を考えてみたい。

〔講義内容〕
1. 二つの島と四つの国
2. ケルトとアングロ・サクソン
3. ノルマン侵攻とイギリス封建制
4. 中世イングランド議会制度の発展
5. バラ戦争とテューダー朝の成立
6. テューダー絶対王政と宗教改革
7. スチュアート朝の成立と議会
8. 市民革命
9. ハノーヴァー朝の政治と社会
10. 産業革命
11. 19世紀のイギリス
12. 大英帝国の歴史
13. 帝国主義と第一次世界大戦
14. 第二次世界大戦
15. 大英帝国の終焉と戦後のイギリス

〔講義のすすめ方〕
通常の講義スタイルをとる。イギリス史の概略を鳥瞰するとともに、その中で問題にされている課題が何であるかを考えていきたい。

〔教　　材〕
テキストは指定しない。
参考文献
『概説イギリス史』（有斐閣）
『イギリス史』（山川出版社）
その他の参考文献は授業中に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
授業内テスト（５回）　３０％
定期試験　　７０％
講義への欠席が目立つ場合は失格とする。

〔履修のポイント・注意点〕
歴史学とは暗記のことだと考えている人が多いと思う。確かにそれは違う。しかし歴史的感覚を持つためには、一定の歴史的知識を頭の中に入れておかないでは話にならない。暗記もまた必要だ。そこで外国の地名、人名、事件名など非常に基本的なものはなるべく紹介して覚えてもらうようにしたい。受講生はひとたびは高校生に返ったつもりで、歴史の勉強をしてもらうことになる。

〔科目内容の位置付け〕
この授業は教養の外国史であり、この程度は知っておいてもらいたいという内容のものである。高校で歴史が得意で、いまさらという人は受講する必要性は薄いが、歴史の物語を聞くのが好きという人には向いている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本講義をさらに大きな視野から鳥瞰したものが専門科目の西洋政治史である。

201601

科　目　名	地理学Ａ
	地域の自然環境と人々の暮らし
教　員　名	奥澤　信行

〔講義目的〕
「地理学」と聞いただけで、中学校での地名や統計の暗記に終始した「地理」学習から、無味乾燥な科目と考えている諸君も多いことと思う。また高校で「地理」を履修する機会を得られずに、その面白さを知らずに現在に至っている学生もいるであろう。しかし「地理学」は、地表面でみられる自然現象や社会現象を多方面から分析することで、その現象の展開される空間（地域）の特殊性を明らかにした上で、その成立要因を考察することを目的としており、決して暗記のみで理解できる学問ではない。
　本講では「地域の存立要因は何か？」ということを常に念頭に置きながら、地理学的なものの見方・考え方を論じてみたい。

〔講義内容〕
Ⅰ地理学とは？
①自然地理学と人文地理学
②面的スケールの捉え方と地図
③地域の概念規定
Ⅱ自然環境
①生活舞台としての平野
②世界の気候区分と人々の生活
③日本の気候区分
Ⅲ人口問題
①分布・構成と移動
②地球規模での人口問題
③わが国の人口問題
Ⅳ村落の変容
①形態と機能による分類
②近隣都市と村落の関係
③村落の産業構造の変容

〔講義のすすめ方〕
授業内容の順に従って講義を行うが、地理学で扱う事象は、日々刻々変化するので、最新の話題を取り上げる場合には、若干前後することがある。

〔教　　材〕
教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書　『地理学の見方・考え方』
日本大学地理学教室編　古今書院

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と定期試験の成績で評価する。毎時間出席カードを配布するが、これを点数化するので、出席が評価に影響を及ぼすことになる。また学生諸君の所持するＩＤカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。半期の授業のため、５回以上欠席した場合には評価の対象外となる。なお出席点は評価の20％とする。定期試験は論述式で解答する形式で、ノート等の持ち込みは一切不可である。

〔履修のポイント・注意点〕
かなりの早口で授業を進めるので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、きちんとした講義録を作成できるはずである。なお授業態度に問題のある学生を黙認することはなく、授業中にその場で厳しく指導する。また然るべき理由のない遅刻は認めないので、それなりの常識を持った学生の受講を希望する。

〔科目内容の位置付け〕
高校で地理を履修していない学生にも理解できる内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本講は基礎的レベルの内容であるため、前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容について扱う「地理学Ｂ」についてもなるべく受講してもらいたい。また小学校教員免許状取得希望者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を薦める。

科　目　名	地理学Ｂ
	都市と農村の地域差
教　員　名	奥澤　信行

〔講義目的〕
「地理学Ａ」からの継続科目として、下記の内容について講義する。ここでの内容は、より具体的な事例を挙げて説明するので、その事象が確認できる地理的空間（地域）の特異性をより明確に理解できるであろう。また地理的なものの見方を地理的事象から日常生活にまで拡大することで、物事をより客観的に判断できる能力を身に付けることを目的とする。

〔講義内容〕
Ⅰ都市と都市化
①都市の魅力
②都市の形態と機能
③都市構造と都市システム
④周辺地域を含んだ都市圏の捉え方
⑤企業の支店立地と都市の階層性
Ⅱ農業生産の地域的変容
①農業生産の歴史的変遷
②農産物の地域的特色
③農山村のリゾート開発
Ⅲ地域の見方
①等質地域と機能地域
②形式地域と実質地域
③地域のイメージと認知度
④東京大都市圏の地域構造
⑤栃木県の地域構造

〔講義のすすめ方〕
授業内容の順に従って講義を行うが、地理学で扱う事象は、日々刻々変化するので、最新の話題を取り上げる場合には、若干前後することがある。

〔教　　材〕
教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書　『地理学の見方・考え方』
日本大学地理学教室編　古今書院

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と定期試験の成績で評価する。毎時間出席カードを配布するが、これを点数化するので、出席が評価に影響を及ぼすことになる。また学生諸君の所持するＩＤカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。半期の授業のため、５回以上欠席した場合には評価の対象外となる。なお出席点は評価の20％とする。定期試験は論述式で解答する形式で、ノート等の持ち込みは一切不可である。

〔履修のポイント・注意点〕
かなりの早口で授業を進めるので、聞き落としのないように注意してもらいたい。板書はノートを取りやすいように配慮するので、きちんとした講義録を作成できるはずである。なお授業態度に問題のある学生を黙認することはなく、授業中にその場で厳しく指導する。また然るべき理由のない遅刻は認めないので、それなりの常識を持った学生の受講を希望する。

〔科目内容の位置付け〕
高校で地理を履修していない学生にも理解できる内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本講は基礎的レベルの内容であるため、前提となる科目はない。ただし本講で触れない内容について扱う「地理学Ａ」についてもなるべく受講してもらいたい。また小学校教員免許状取得希望者のうち、社会科教育に関心のある学生は、地理的分野での知識拡充の意味からも本講の受講を薦める。

201801

科　目　名	地理学概論・地理学概論（地誌を含む）
	社会科地理学習と日本地誌
教　員　名	奥澤　信行

〔講義目的〕
本講は、教養科目であると同時に、「中学校教諭（社会）一種免許状」取得希望の学生にとって、教職課程の「教科に関する科目」の一つとなっている。したがって同じく教養科目として設定されている「地理学Ａ・Ｂ」よりも中学校での指導を念頭に置いた内容である。すなわち中学校社会科の「地理的分野」における地理学の位置付けと、現場での指導事項について論ずる。「地理的分野」が中学校において、生徒や一部教師から「暗記科目」として軽んじられている現状を打破するためにも、地理的事象の成立要因を考えることの重要性を認知してもらいたい。

〔講義内容〕
Ⅰ地理学史
①古代および中世の地理学者と地理観
②近現代の地理学者と地理観
③わが国における地理観の変遷
Ⅱ地理学の分類
①自然地理学
②人文地理学
Ⅲ社会科教育の変遷
①学習指導要領における社会科の目標
②社会認識の形成
Ⅳ地理教育と地理学
①地理教育の重要性
②自然環境の扱い
③地域性の把握
Ⅴ日本地誌
①西南日本
②中央日本
③東北日本
④世界の中の日本

〔講義のすすめ方〕
講義が中心であるが、中学校や高校の教育現場の実例を適宜取り上げて、受講生とディスカッションを行う。地理あるいは社会科の指導内容に限定せず、教育問題全般について触れてみたい。

〔教　　材〕
教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。また授業中に指摘した地名を確認するために、中学や高校で使用した地図帳を持参してもらいたい。

参考書　『新訂図説日本地理』
山村順次編　大明堂
『図説日本の生活圏』
伊藤喜栄著　古今書院

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と定期試験の成績で評価する。毎時間出席カードを配布するとともに、学生証による出席も併用する。双方で差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。半期科目であるので、５回以上欠席した場合には、評価の対象とならない。また試験は論述式で５題程度出題し、ノート等の持ち込みは認めない。なお出席点は全体の25％程度とする。

〔履修のポイント・注意点〕
将来教職に就くか否かは別として、教職課程を履修するからには、それなりの覚悟ができていることと思う。教育現場の実態について具体例を挙げながら説明するので、受講生も真摯な態度で授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関する問題が発生した時点で、即座に授業で取り上げるので、常に社会に関心を向け、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。

〔科目内容の位置付け〕
中学校社会科地理的分野で扱う指導内容を基礎的なレベルで講義する。教職課程履修者向けの講義を行うので、地理学そのものについて学びたい学生には「地理学Ａ・Ｂ」の受講を勧める。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「地理学Ａ・Ｂ」を履修済みまたは履修中が望ましい。また世界各地の地誌を扱う「地誌学概論」を履修することで、本講の日本地誌と合わせて地誌の見方を深く学ぶことができる。

203101

科　目　名	倫理学Ａ
	人間の現実は不条理と矛盾に満ちている
教　員　名	的場　哲朗

〔講義目的〕
２０世紀初頭に出現した実存の思想を紹介しながら、「人間のあり方とはどのようなものなのか」という基本的な問題を皆さんと一緒に考えてみたい。昨年は19世紀の思想家キルケゴールとニーチェを中心に講義したので、今年は20世紀を代表とするヤスパース、ハイデガー、サルトルについて講じたい。人間疎外、不条理、矛盾なとがテーマとなる予定。自分の常識を打ち壊したいと思っている学生は是非受講してもらいたい。

〔講義内容〕
１、はじめに　　現代思想の中の実存思想
２、発掘されたキルケゴールとニーチェの思想
３、ヤスパースの生涯と思想
４、『哲学』Ⅰ
５、『哲学』Ⅱ
６、ハイデガーの生涯と思想
７、『存在と時間』Ⅰ
８、『存在と時間』Ⅱ
９、サルトルの生涯と思想
10、『存在と無』Ⅰ
11、『存在と無』Ⅱ
12、実存思想から何を学ぶか

〔講義のすすめ方〕
パワーポイントを使って上記三人の哲学者の生涯とその倫理思想について説明する。講義の最後に、その日の講義についての質問・感想・要望などを書いて提出し、次の講義の冒頭でそれに応えながら、講義をすすめていく。毎回質問等を提出して欲しい。

〔教　　材〕
テキストは特に指定しない。講義中に資料を配布する予定。しかし資料は断片にすぎないので、できれば図書館などでじっくりと哲学書と格闘してもらいたい。
参考書や研究書などのガイドブックはたくさんあります。しかし、ガイドブックで山に登った気分になるか、それとも自分の足で実際に山に登るか、それを決めるのはあなたです。ですが、若いのですから、実際に自分の足で山に登ることを、つまり哲学書を読むことをすすめます。

〔成績評価の方法・基準〕
学期末の筆記試験。論述形式で行う。当然ながら、出席状況も考慮します。

〔履修のポイント・注意点〕
出席について：講義の冒頭で出席をとります。受講生が多いので一回の講義ですべての名前を呼ぶことはできませんから、毎回名簿２ページずつ読み上げることになります。自分の名前が呼ばれる日には必ず出席すること。
受講者の心構えについて：物事を建前で済ませたくないと思う批判の精神があればそれで十分。特別な知識は必要ありません。「理想や夢はほんとうに自分を成長させるのだろうか、むしろ束縛となるのではないだろうか。」「挫折や涙は人生にとって否定的な価値に思えるが、しかしむしろ積極的な価値を持っているのではないだろうか。」「目標は実はそれがなくなったときにその真価が問われるのではないだろうか。」等、ちょっと考えてもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
特別な予備知識は必要ない。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目として哲学・文学・美学等をあげたい。

203201

科　目　名	倫理学Ｂ
	生の原点とは何か？
教　員　名	的場　哲朗

〔講義目的〕
　実存思想の源泉となった二つの哲学、ディルタイの解釈学とフッサールの現象学に的を絞って話を進めます。ディルタイは生の立場を取り、フッサールは超越論的な立場を取りながら、互いに影響を与え合います。講義では、二人の思想発展を辿りつつ、この二つの思想の今日的な意味を学びたいと思います。

〔講義内容〕
1、はじめに――現代思想の中の解釈学と現象学
2、ディルタイと生の解釈学
3、ディルタイの生涯と思想
4、生の哲学の構想――『精神諸科学序説』
5、生と形而上学批判――『精神諸科学序説』
6、ディルタイ学派と倫理学
7、フッサールと超越論的現象学
8、フッサールの生涯と思想
9、超越論的現象学の構想――『イデーン』
10、超越論的自我の哲学――『イデーン』
11、現象学の学派と倫理学
12、マックス・シェーラーの倫理学
13、むすび――解釈学と現象学の残した問題とは何か

〔講義のすすめ方〕
パワーポイントを使って講義する。資料などはその都度配布する。

〔教　　材〕
・テキストは特に指定しない。
・参考書：参考書や研究書などのガイドブックはたくさんあります。しかし、急峻な山を自分の足で登るか、それともそうしたガイドブックで登った気になるのか、それを決めるのはあなたです。ですが、若いのですから、実際に自分の足で登ってみましょう。

〔成績評価の方法・基準〕
学期末の筆記試験と出席で成績を付ける。試験は論述形式で行う。出席は講義の冒頭でとります。受講者が多い場合は、出席簿の２ページずつ読み上げていくので、自分の名前が呼ばれる講義には必ず出席すること。

〔履修のポイント・注意点〕
物事を建前で済ませたくないと思う批判の精神があればそれで十分。特別な知識は必要ありません。「理想や夢はほんとうに自分を成長させるのだろうか、むしろ束縛となるのではないだろうか。」「挫折や涙は人生にとって否定的な価値に思えるが、しかしむしろ積極的な価値を持っているのではないだろうか。」「目標は実はそれがなくなったときにその真価が問われるのではないだろうか。」等、ちょっと考えてもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
特別な予備知識は必要ない。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目として哲学・文学・美学等をあげたい。

203301

科　目　名	応用倫理
	自己決定の倫理
教　員　名	渡辺　忠

〔講義目的〕
(1) 日常生活で出会う様々な倫理問題に賢明な意思決定ができるようになるためのトレーニング
(2) レジュメ作成を通しての、文献の批判的読解のトレーニング
(3) ミニットペーパー作成による、意見形成と議論のトレーニング
(4) 課題レポート作成を通しての、小論文作成トレーニング

〔講義内容〕
応用倫理の内容は多岐にわたる。先鋭化する生命科学・医療分野の行為(中絶、安楽死、遺伝子操作、クローン技術、…)の倫理性に関する問いを扱う生命倫理、深刻化する環境問題を背景に、世代間の公平性や動物・自然の「権利」、経済行動への制約などを議論する環境倫理、戦争行為をはじめとする暴力行使の正当性やテロリズム批判の根拠を吟味する戦争の倫理など、およそこの世界で倫理的問題を提起しうるものなら何であれ「××倫理」にできそうなほどである。

今年度は、自己決定の倫理と題して、様々な局面における行為の自己決定・自己責任の問題を考える。予定している主題は、スポーツにおけるドーピングを範型とするドラッグ使用の問題、身体の自己所有権・裁量権、性的志向の多元主義的な理解や表現の自由とポルノグラフィや売春など性産業の問題、死の自己決定など。合理性と道徳の連関、古典的なリベラリズムと共同体主義やフェミニズムなどの論点を吟味する。固有に応用倫理的な議論にとどまらず、ときとしてメタ倫理的な議論や哲学的な論点に移行することも敢えて避けるつもりはない。

第一回〜第五回：ドーピング・ドラッグ
第六回〜第十回：性的自己決定
第十一回〜　　：死の自己決定

〔講義のすすめ方〕
はじめに教材毎に簡単な説明と解説講義をする。履修者は、相当量の配布教材を事前に熟読し、レジュメ作成・提出を通して批判的に理解したうえで授業に参加し、自らの意見を公表して討論に加わることが求められる。授業の最後には自らの意見を毎回ミニットペーパー(「出席カード」)に記入する。この過程を繰り返す。理想的には、私の講義が少なく履修者の発言機会が多い双方向的な授業にしたい。履修者には学期末に論文形式のレポート提出が求められる。

〔教　　材〕
教科書は用いず、テーマに沿った印刷教材を事前に配布する。必要な参考書はその都度紹介するが、全般的なものとして、以下を指定する。

P. シンガー『実践の倫理(第二版)』昭和堂
加藤尚武『現代倫理学入門』講談社

〔成績評価の方法・基準〕
(1) やむをえない事情(証明が必要)がある場合を除き、5回以上欠席すると自動的に失格となる。
(2) 評価の50%は平常点による。必須提出物の状況、授業への取組・貢献度を判断する。
(3) 評価の残り50%は学期末課題レポート(五段階評価)による。
(4) 以上を総合した最終成績は、試験規則第三条にしたがい評定する。
(5) 任意提出のレポートなどは加点の方向でのみ評価し、成績に上乗せする。

〔履修のポイント・注意点〕
知識を伝えることを目的とする授業ではない。単なる「聴講」は意味がないと心得てほしい。扱う主題は興味ぶかいものではあるが、難しくもあるので、事前の教材研究が決定的に重要である。問題意識をもって積極的に取り組むことが不可欠である。授業のイニシアティブは履修者の方にある。授業をお仕着せの結論に収束させるつもりはない。自由に議論することを好む諸君はこの授業を歓迎するだろう。テキトーにやって単位だけとるつもりの諸君は、慌てることになるだろう。また、科目の趣旨からも、質問や異論反論を歓迎する。いつでも授業を中断してよい。ただ、時間の制約はあるのでオフィスアワーも活用してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
市民的教養の基礎的部分にかかわる科目。問題意識の開発や批判的思考態度、倫理的意思決定能力の育成を目的とした一般教養科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
日本語が理解できれば十分。さらに、できれば「批判的思考」や「論理学」を事前に受講しているとなおさら好都合だ。ほかに「倫理学 A/B」や「哲学 A/B」などが関連科目。

203401

科　目　名	倫理学概論
	道徳法則は普遍的なものか
教　員　名	的場　哲朗

〔講義目的〕
道徳や倫理は時代や地域によって変化するのでしょうか、それとも変化しないのでしょうか。世界を見てみますと、人生観や世界観、さらに労働観や恋愛・結婚観等は多種多様です。とすれば、道徳も倫理も多種多様ということになりそうです。しかし他方で、人を傷つけたり、約束を守ったり、嘘をついたりすることの問題となると、意外に時代や地域を越えた普遍的な法則がありそうな気もします。はたして真実はどちらなのでしょうか。この問題は倫理学の根幹にかかわる難しいものですが、本講義では、道徳法則の普遍性を力強く説いたカントの倫理学をテキストにして倫理(共同体の中の決まりごと)や道徳（個々人の良心から発した行為）などの倫理的問題を皆さんと一緒に考えてみたい。

〔講義内容〕
カントの『実践理性批判』から学ぶ倫理学
１、はじめに――カント倫理学について
以降、次のペースで『実践理性批判』の重要な箇所を読みます。
２、13-39頁
３、41-72頁
４、72-112頁
５、112-144頁
６、144-184頁
７、184-218頁
８、219-246頁
９、246-281頁
10、282-293頁
11、295-321頁
12、倫理学の中のカント倫理学
13、現代と倫理学

〔講義のすすめ方〕
・カントの『実践理性批判』（岩波文庫）をテキストにして、「道徳は普遍的なものか、そうでないのか」、あるいは「道徳の基礎は何か」といった問題について解説していきます。
・テキストの読み方は次の手順です。まず、重要な箇所を学生に読んでもらい、それについて解説し、最後に倫理学の諸問題と関係づけて議論するという仕方を取ります。テキストを読んで積極的に発言したい人は教室の前列の方に着席して下さい。積極的に講読し発言する学生はもちろん高く評価します。
・カントの著作は難解ですから、けっしてひとりでは読めません。ですから、必ずテキストを購入し、授業に出席すること。

〔教　　材〕
カント『実践理性批判』（岩波文庫）各自購入のこと。

〔成績評価の方法・基準〕
出席(絶対的条件)と学年末試験とで成績を付けます。
教室の前列に着席し、講読や議論に積極的に関与してくれる学生は高く評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
・倫理学概論の講義は倫理学ＡＢよりも専門的で難解な内容です。受講する学生はこの点をしっかりと自覚すること。
・講義はテキストを読み進めながら行うので、出席は絶対的条件になります。出席の条件が前提となって試験の成績を付けますので、欠席せざるを得ない学生は特に注意して下さい。
・出席は講義の冒頭で取ります。受講生が多い場合は、出席簿の2ページずつ読み上げていきます。自分の名前が呼ばれる講義日をしっかりと頭においてください。それから、欠席の理由を述べる人がありますが、これは欠席の理由であって、出席の理由とはならないことを特に銘記して下さい。
・必ずテキストを購入し、授業に出席すること。

〔科目内容の位置付け〕
どのような分野であれ、倫理的な考え方は重要です。そうした視点から、倫理的な考え方の基礎をしっかりと作り上げることを目指します。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
倫理学ＡＢ、美学など

204601

科　目　名	哲学A
	心と人物のメタフィジクス
教　員　名	渡辺　忠

〔講義目的〕
(1) 哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え「哲学する」こと
(2) レジュメ作成を通しての、文献の批判的読解のトレーニング
(3) ミニットペーパー作成による、意見形成と議論のトレーニング
(4) 課題レポート作成を通しての、小論文作成トレーニング

〔講義内容〕
人物とその同一性について考える。とくに、一方で、今日優勢な自然主義的世界観・人間観におけるその位置づけと、他方で、直観的事実としての自己の存在の特異性とを対比して、どう考えればよいのか模索する。その過程で、心身問題・主観性・同一性・様相・可能的世界・付随性・本質・時間などの形而上学的概念や諸問題を検討する。
第一回～第三回：心身問題・自然主義
第三回～第六回：人物の同一性と持続の形而上学
第七回～第十四回：人物・動物・身体

〔講義のすすめ方〕
事前に印刷教材を配布する。半期で10本程度の資料を読む予定。教材毎にはじめに簡単な説明と解説講義をする。履修者は、相当量の配布教材を事前に熟読し、レジュメ作成・提出を通して批判的に理解したうえで授業に参加し、自らの意見を公表して討論に加わることが求められる。授業の最後には自らの意見を毎回ミニットペーパー(「出席カード」)に記入する。この過程を繰り返す。理想的には、私の講義が少なく履修者の発言機会が多い双方向的な授業にしたい。履修者には学期末に論文形式のレポート提出が求められる。

〔教　　材〕
教科書はない。印刷教材を配布。以下は参考書。
Lynne　R.Baker,
　　Persons and Bodies, (Cambridge U.P.)
D. パーフィット、
　　『理由と人格』(勁草書房　1998)
R. スウィンバーン／S. シューメイカー、
　　『人格の同一性』(勁草書房　1998)
P. チャーチランド、『認知哲学』(産業図書)
D. デネット、『心はどこにあるのか』(草思社)
　　『解明される意識』(青土社)
D. チャルマーズ、『意識する心』(白揚社)
永井均、『私・今・そして神』(講談社現代新書)
　　『転校生とブラックジャック』(岩波書店)

〔成績評価の方法・基準〕
(1) やむをえない事情(証明が必要)がある場合を除き、5回以上欠席すると自動的に失格となる。
(2) 評価の50%は平常点による。必須提出物の状況、授業への取組・貢献度を判断する。
(3) 評価の残り50%は学期末課題レポート(五段階評価)による。
(4) 以上を総合した最終成績は、試験規則第三条にしたがい評定する。
(5) 任意提出のレポートなどは加点の方向でのみ評価し、成績に上乗せする。

〔履修のポイント・注意点〕
知識を伝えることを目的とする授業ではない。単なる「聴講」は意味がないと心得てほしい。扱う主題は興味ぶかいものではあるが、難しくもあるので、事前の教材研究が決定的に重要である。レジュメを作りながら教材を徹底的に読みこむことが第一に求められる。「読む修行」と思えばよい。ついで、問題を徹底して考えることが求められる。「考える修行」である。授業のイニシアティブは履修者の方にある。「通念」「常識」は気にしなくてよい。緻密な論理性と斬新な哲学的直観さえあれば、グロテスクな見解も首尾一貫しているかぎり歓迎される。重要なのは専門性などではなく、素人の直観であり、「素手で考える」無謀さだからだ。質問や異論反論を歓迎する。いつでも授業を中断してよい。(ただ、時間の制約はあるのでオフィスアワーも活用してほしい。)自由に議論することを好む諸君はこの授業を歓迎するだろう。テキトーにやって単位だけとるつもりの諸君は、慌てることになるだろう。

〔科目内容の位置付け〕
哲学は「勉強」したり、段階を踏んで身につけたりするものではない。斬新な問題意識と、読み、考え続ける「修行」に耐える根気とがあれば、十分である。ただ、哲学全般について一通りさらっておきたい人は「哲学概論」もどうぞ。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
日本語が理解できれば十分、前提科目はない。関連科目は第一に「哲学B」。そのほか「批判的思考」「応用倫理」「哲学概論」「論理学」など。

204701

科　目　名	哲学Ｂ
	死のメタフィジクスと価値論
教　員　名	渡辺　忠

〔講義目的〕
(1) 哲学の基本的な問題について文献資料を読みながら考え「哲学する」こと
(2) レジュメ作成を通しての、文献の批判的読解のトレーニング
(3) ミニットペーパー作成による、意見形成と議論のトレーニング
(4) 課題レポート作成を通しての、小論文作成トレーニング

〔講義内容〕
死について考える。現代哲学の中には、心を脳というハードウェアに載ったソフトウェアのように見る考え方がある。そうだとすると、そのような心は「死ぬ」ことがあるのだろうか。「誰」が死ぬのだろうか。宗教とは別の意味で「死後の生」が可能だろうか。また、古代の哲学者は、死後の非存在は誕生前の非存在の対称的な鏡像にすぎず、後者と同様前者もなんらおそれるに足りないと言った。だが、本当に死は何でもないものなのだろうか。死の意味と価値を考えることは、生の意味と価値を考えることでもある。授業では「死の形而上学」に関する文献資料を読み、問題そのものを考えていく。
第一回～第五回：人物の同一性と死
第六回～：死・生の価値・時間

〔講義のすすめ方〕
事前に印刷教材を配布する。半期で10本程度の資料を読む予定。教材毎にはじめに簡単な説明と解説講義をする。履修者は、相当量の配布教材を事前に熟読し、レジュメ作成・提出を通して批判的に理解したうえで授業に参加し、自らの意見を公表して討論に加わることが求められる。授業の最後には自らの意見を毎回ミニットペーパー(「出席カード」)に記入する。この過程を繰り返す。理想的には、私の講義が少なく履修者の発言機会が多い双方向的な授業にしたい。履修者には学期末に論文形式のレポート提出が求められる。

〔教　　材〕
教科書はない。印刷教材を配布。以下は参考書。
D. パーフィット
『理由と人格』(勁草書房　1998)

〔成績評価の方法・基準〕
(1) やむをえない事情(証明が必要)がある場合を除き、5回以上欠席すると自動的に失格となる。
(2) 評価の50%は平常点による。必須提出物の状況、授業への取組・貢献度を判断する。
(3) 評価の残り50%は学期末課題レポート(五段階評価)による。
(4) 以上を総合した最終成績は、試験規則第三条にしたがい評定する。
(5) 任意提出のレポートなどは加点の方向でのみ評価し、成績に上乗せする。

〔履修のポイント・注意点〕
知識を伝えることを目的とする授業ではない。単なる「聴講」は意味がないと心得てほしい。扱う主題は興味ぶかいものではあるが、難しくもあるので、事前の教材研究が決定的に重要である。レジュメを作りながら教材を徹底的に読みこむことが第一に求められる。「読む修行」と思えばよい。ついで、問題を徹底して考えることが求められる。「考える修行」である。授業のイニシアティブは履修者の方にある。「通念」「常識」は気にしなくてよい。緻密な論理性と斬新な哲学的直観さえあれば、グロテスクな見解も首尾一貫しているかぎり歓迎される。重要なのは専門性などではなく、素人の直観であり、「素手で考える」無謀さだからだ。質問や異論反論を歓迎する。いつでも授業を中断してよい。(ただ、時間の制約はあるのでオフィスアワーも活用してほしい。)自由に議論することを好む諸君はこの授業を歓迎するだろう。テキトーにやって単位だけとるつもりの諸君は、慌てることになるだろう。

〔科目内容の位置付け〕
哲学は「勉強」したり、段階を踏んで身につけたりするものではない。斬新な問題意識と、読み、考え続ける「修行」に耐える根気とがあれば、十分である。ただ、哲学全般について一通りさらっておきたい人は「哲学概論」もどうぞ。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
日本語が理解できれば十分、前提科目はない。関連科目は第一に「哲学Ａ」。そのほか「批判的思考」「応用倫理」「哲学概論」「論理学」など。

204901

科　目　名	哲学概論
	哲学ってどんなこと？
教　員　名	渡辺　忠

〔講義目的〕
(1) 哲学の諸問題について自ら「哲学する」ことを通しての、論理的・批判的思考のトレーニング
(2) ミニットペーパー作成による、意見形成と議論のトレーニング
(3) 課題レポート作成を通しての、小論文作成トレーニング

〔講義内容〕
14歳の少年少女がふと抱くような疑問から哲学の様々な問題を考える。教科書に沿って「私たちの心を超えた世界を知ることができるのか」「他人の心を知ることができるのか」「心と脳の関係はどのようなものか」「いかにして言葉は意味をもつのか」「私たちは自由意志をもっているのか」「道徳の基礎はどのようなものか」「どのような不平等は正しくないのか」「死とはどのようなものか」「人生には意味はあるのか」という順に考えていく。
第一回：導入
第二回：外部世界の知識
第三回：他人の心
第四回～第六回：心身問題
第七回：言葉と意味
第八回：決定論と自由意思
第九回～第十一回：メタ倫理
第十二回～第十三回：配分的正義
第十四回～：死と人生の意味

〔講義のすすめ方〕
教科書の文章はやさしく書かれているので、履修者は事前に該当部分を読んでおくことが求められる。授業は講義形式で、該当する章の解説・補足にとどまらず、主題についての「変奏」も含む。履修者は授業中に必死で頭を使い、自ら「哲学する」ことが必要だ。受講中いつでも講義を中断して質問や意見を述べてよい。授業時間の最後には自らの意見を「出席カード」(ミニットペーパー)に記入する。学期末には自らの考えを課題レポートで提出することが要求される。

〔教　　材〕
教科書
T. ネーゲル『哲学ってどんなこと?』昭和堂
参考書
永井均『翔太と猫のインサイトの夏休み』ちくま学芸文庫
今井・山本『哲学原典資料集』東京大学出版会

〔成績評価の方法・基準〕
(1) やむをえない事情(証明が必要)がある場合を除き、5回以上欠席すると自動的に失格となる。
(2) 評価の50%は平常点。授業への取組・貢献度(発言、「出席カード」記入状況)を判断する。
(3) 評価の残り50%は学期末課題レポート(五段階評価)による。
(4) 以上を総合した最終成績は、試験規則第三条にしたがい評定する。
(5) 任意提出のレポートなどは加点の方向でのみ評価し、成績に上乗せする。

〔履修のポイント・注意点〕
教科書該当箇所を予習で読んでおくことが最低限の義務である。まとまった形でなくてよいから、自らの考えを予め心にとめておいて授業に出席してほしい。授業中はテーマについて全力で考え、「出席カード」に必ず意見を記入すること。意見記入がない場合には平常点は0点とみなす。

〔科目内容の位置付け〕
基礎的・基本的内容の科目。担当者の哲学系諸科目の中では入門科目の位置づけであり、初めて哲学に触れる人のとるべき科目である。また、社会・公民の教員免許取得を目指す人の「教科に関する科目」でもある。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
前提科目はない。日本語ができ、考えることが嫌いでなければ十分である。関連科目は「哲学 A/B」「応用倫理」「倫理学概論」「倫理学 A/B」など。但し、これらと内容や授業形式が一部重なることがありうる。

206101

科　目　名	文学A
教　員　名	向井　千代子

〔講義目的〕
19世紀イギリスの小説を中心に講義する。19世紀はイギリスが帝国として一番繁栄した時代であるが、国内では労働者階級と金持ち階級の格差が開き、様々な社会問題も抱えていた。そんな中でイギリスの小説は特にリアリズム小説という分野で発展を遂げた。イギリスという遠い国で作られた文学の話になるが、そこには国と時代を超えた共通の問題もあるので、文学を通じて人生や人間関係、個人と社会とのかかわりといった問題について考える機会を提供できたらと考えている。

〔講義内容〕
　扱う作家はメアリー・シェリーから始まり、ジェイン・オースティン、チャールズ・ディッケンズ、ブロンテ姉妹、トマス・ハーディなど。それぞれ個性は違うが、どの作家もイギリスではよく知られた作家たちである。作家と作品の説明、作品の一部の抜粋の鑑賞及び批評家の意見の紹介などを中心とした講義をする。原作は英語で書かれているが、授業では翻訳書をもとに鑑賞する。中心となるのはすべて小説であるので、小説についての一般的な知識の説明もしたい。

〔講義のすすめ方〕
　作家の紹介、作品の紹介、時代背景の説明から入り、ヴィデオなどがあればヴィデオ鑑賞もした上で、批評家の意見を紹介する。文学においては各人の意見が大切のであるので、できれば毎回受講者の感想を書く機会を与えたい。またヴィデオを見せる場合には、その内容についての小テストを行なう場合もある。

〔教　　材〕
教科書は使わない。資料は授業のときに印刷配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績は授業中に提出した感想文やコメント、小テストの成績を参考にして総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　講義科目の場合、どうしても受け身的になって講義を聞かずに雑談をしたり、居眠りをしたりしがちである。このようなことを防ぐために教員も極力参加型の授業になるように工夫するつもりである。しかし、授業態度の悪い学生に対しては、他の学生の迷惑になるので退席してもらうつもりである。授業というのは教師と学生の双方あってこそ成立するものなので、お互いによい関係を保って楽しい授業になるように協力をお願いする。
　文学の場合、知識として文学者の名前を覚えるだけでは不十分である。文学の授業を取って本を読まないというのはおかしいので、授業以外の時間に興味を持った作家があれば図書館などで本を借りて積極的に読んでほしい。もし興味を持った作家や作品があったら、レポートを書いて自主的に提出していただければ、それもプラス評価として成績評価に加えたい。

〔科目内容の位置付け〕
一般教養的な科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
文学B

206201

科　目　名	文学Ｂ
	アメリカ文学と自然
教　員　名	針生　進

〔講義目的〕
そこに描かれたさまざまな「自然」に注目した米文学の通史を浮かびあがらせたい。親しみやすいこともあり、小説作品を主にとりあげる。

〔講義内容〕
プリマスに上陸したピューリタンたちを迎えた冬のニューイングランド。あるいは温暖なカルフォルニアで暮らしていた飼い犬のバックが連れてこられたアラスカの氷原。このような苛酷な自然環境もあれば、美しい谷間も広がり、大河も流れる。アメリカ本土を離れて大海にも出なければならない。そして人間が自ら作り出した、都会のなかのジャングルもある……。上でもふれたように、その方が受講生には知識の整理がしやすいのではと思い、論点や事項中心の文学論ではなく、文学史という枠内で話を進めたい。

〔講義のすすめ方〕
17世紀の植民地時代から話しはじめる。それ以降の細かい講義区分は今のところたてていないけれど、半期科目という制約もあり、20世紀初頭の作品まで見られればいいだろう。作品名や作者名を並べるだけの講義にはしたくないので、原作からの引用も頻繁に行いたい。とはいっても、そのごく一部しか教室ではとりあげられないので、受講生には、翻訳でよいので（興味を感じたものだけでも）各作品に直接ふれることを期待する。そのためにも、翻訳があり、かつ本学図書館に蔵書がある、あるいは文庫本などで購入しやすい作品を主にとりあげていきたい。

〔教　　材〕
特に教科書は使わず、こちらでまとめた教材を配付する。

〔成績評価の方法・基準〕
個々の作品についての受講者個人の印象や見解などは点数化にはなじまないとの判断からレポートは要求しない。いかに多くの正確な知識を身につけたかを問う筆記試験（学期末の試験期間内に行う）の結果が成績評価に大きく関わる。試験の結果が思わしくない場合でも、レポートなどを提出させて試験の点数に加算、換算するような措置は講じない。出席率を評価する度合いについては受講者数が確定してから決めたい。

〔履修のポイント・注意点〕
受講に際して予備知識の有無は特に問わない。最低限の常識（人間理解）とアメリカという国についての最低限の知識があればよいだろう（どの辺りが最低限度かが問題ではあるけれど）。一般教養科目の一つとして、専門科目が並ぶなかの休息地をこの講義も提供するだろうが、日ごろから小説の類にはあまり縁がない（だから悪いというのではない）諸君には息抜きどころか苦痛でしかないだろう。

〔科目内容の位置付け〕
前期に開講されている「文学Ａ」とこれとは同じ分野ではあれ、扱う内容が異なる、それぞれに独立した科目であり、「Ａ」のみ、あるいは「Ｂ」のみの受講も可である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「文学Ａ」

207301

科　目　名	論理学
	推論と証明の技法
教　員　名	渡辺　忠

〔講義目的〕
記号論理（古典的第一階述語論理）による初等的な証明の技法を体得するとともに、いくつかの重要なメタ論理学的定理について学習し、論理学や形式的方法についての概観を得ること。理論的で厳密な思考態度を身につけること。

〔講義内容〕
論理学は、人が合理的に考えたり話したりしているときに従っているはずの、暗黙の規範を対象とする学問である。二千年以上の歴史があるが、19世紀末の大革命を経た現代論理学は、数学に範をとり、記号を用いて話を進める。論理学とは「合理的思考規範の記号を用いた探究」であり、今日では「論理学」といえば、端的にこのような数学的な記号論理学を意味する。
第一回～第十回：命題論理
第十一回～第二十四回：述語論理
第二十五回：健全性定理・完全性定理

〔講義のすすめ方〕
論証の科学としての論理学の問題関心を説明した後、教科書に沿って命題論理・述語論理の順に解説と演習をする。形式言語の構成、その解釈、タブロー法、健全性定理・完全性定理、決定可能性など。タブロー法は他のどんな証明法よりも修得が容易である。
　講義が３、演習が７くらいの割合。新しい事項を解説する講義の後、例題の演習をし、続いて練習問題の演習をする。受講者が黒板で練習問題や宿題に解答し、私が解説する。授業はこれを繰り返す。数学の授業に似ている。問題演習の際、私は受講者の間を回って歩き質問を受ける。できるかぎり個人的な指導をしていきたい。

〔教　　材〕
教科書
丹治信春『タブローの方法による論理学入門』（朝倉書店）
参考書
E. J. レモン『論理学初歩』（世界思想社）
前原昭二『記号論理入門』（日本評論社）
野矢茂樹『論理学』（東京大学出版会）
戸田山和久『論理学をつくる』（名古屋大学出版部）

〔成績評価の方法・基準〕
授業回数の１／３を越えて欠席すると、やむを得ない事情がある場合（証明が必要）をのぞき、自動的に失格となる。試験は４回行い、その試験時間に応じた加重平均で成績を評価する。受験しない試験の得点は０点とみなす。また、すすんで黒板で解答した場合や任意課題への解答を提出した場合などは、授業への積極的貢献とみなし、ボーナスポイントとする。

〔履修のポイント・注意点〕
授業のスタイルは数学に似ているが、高校までの数学の知識は前提しない。受講に当たっては何の予備知識も要らず、数学の得意不得意も関係ない。高校数学よりはるかに易しい。ただ、はじめてかけ算九九をおぼえる小学生程度の努力は必要で、聴いているだけでは決して理解できるようにならないから、必ず「手を使って」練習する必要がある。理解度は紙と鉛筆の消費量にほぼ比例する。
　後期週２回授業。教科書・教材を必ず持参すること。欠席はわからなくなる一番の原因なので極力避けること。欠席明けには質問に来るなどして、必ず遅れを取り戻すように。オフィスアワーを活用のこと。就職活動で欠席しがちな４年生は単位取得が困難かもしれない。きっちり勉強して知的な基礎体力を付けたい人向き。

〔科目内容の位置付け〕
形式的方法の初歩。論理学の中では、入門的・初等的レベル。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目はない。関連科目は「批判的思考」「哲学」「数学」情報系科目など。
　平成22年度に渡辺の担当する「心理学特別研究A,B」を受講しようとする教育学部生は履修しておくことが望ましい。

208001

科　目　名	批判的思考
	論証のトレーニング
教　員　名	渡辺　忠

〔講義目的〕
論理的に考え、話し、議論するために必要な基礎知識とスキルを身につけること

〔講義内容〕
自然言語による論証（演繹的な判断推理）についての講義と演習。
第一回～第二回：論証とは何か
第三回～第五回：論証構造の分析
第六回～第十回：論証の評価
第十一回～第十三回：演繹論証の類型と誤謬推理
第十四回～：反論の仕方、その他

〔講義のすすめ方〕
配布教材の解説、例題の説明、練習問題プリントの演習、模範解答の説明、宿題の配布と説明。これを繰り返す。言葉の上での知識ではなく、実践的技能の修得のため、演習中心とする。かなりの枚数の解説・練習問題・宿題のプリントを用いる。授業内容はきわめて多く、進度は速い。積極的に取り組まなければ何一つものにならないだろう。

〔教　　材〕
教科書は用いず、印刷教材を用意する。以下は参考書。自習書・演習書として取り組むとよい。
野矢茂樹『新版・論理トレーニング』『論理トレーニング101題』（産業図書）
香西秀信『反論の技術』（明治図書）
宇佐見寛『新版・論理的思考』（メヂカルフレンド社）

〔成績評価の方法・基準〕
半期の授業なので、９回以上出席しなければ評価の対象にならない。やむを得ない事情がある場合（証明が必要）をのぞき、受講者の責任で欠席多数となった場合は、自動的に失格となる。出席は成績評価の必要条件であり十分条件ではない。成績判定は、定期試験を含む４回のテストで判定する。評価は、各得点の（試験時間割合にもとづく）加重平均による。受験しなかったときの得点は０点とする。

〔履修のポイント・注意点〕
授業に出席しないと、勉強のしようがない。きちんと出席し、講義を集中して理解し、問題に真剣に取り組み、宿題を仕上げることが必要。結構たいへんである。

科目の趣旨からも、質問や異論を歓迎する。質問し反論する態度の育成も、批判的思考という科目の教育目的である。科目担当者を無謬の権威と考えないこと。「とりあえず反論してみる」くらいの気持ちで。そのような授業中断は歓迎するが、時間の制約もあるので、オフィスアワー（３号館３階346研究室ドアに表示）も活用すること。

〔科目内容の位置付け〕
知的コミュニケーションのための基礎的素養を培う科目。学問体系以前のところに位置する、基礎的・基本的トレーニング。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
日本語が理解できれば十分で、前提科目はない。関連科目は、全ての科目。特に関連が深いのは「論理学」で、できればこちらも受講してほしい。教養特講Ⅰ/特講Ⅰ「批判的思考Ｂ」は、07年度「批判的思考」の非演繹的論証に関する部分を独立・拡充させ、初等的な科学哲学のトレーニングとしたもの。

209101

科　目　名	国語表現法A
教　員　名	増田　良二

〔講義目的〕
本講座では、国語で適切に、また効果的に表現する能力を育成することを目的としている。
　言語活動には、「話す」「聞く」「読む」「書く」という四つの領域があり、これらはひとつひとつが独立しているというより、相互に関連し合ってこそ、より効果的な表現が可能となる。「国語表現」は、話し言葉による表現と読むこと、書くことによる文章表現という二つの形態に大別することができる。
　しかし、この「話すこと」と「書くこと」の二つの行動は、全く異質なものではなく、言葉によって表現することでは共通している。勿論、異質な面もあるので、それぞれの特色を理解し、その良さを生かすことによって、豊かな言語生活を送ることができるものである。
　従って、本講座では、「話すこと」「聞くこと」を中心としながら、学生一人一人の表現能力を高めることに力を入れたい。
　更に、社会生活を送るためには、話し言葉による表現力とともに、書くことによる表現力も重要であるので、実用文やレポートなどを書く力を養うことや待遇表現（敬語）の構造の把握とその実践力を養うことにも力を入れたい。

〔講義内容〕
次のような内容を予定している。
1．表記法について
・国語の表記法とその特色についての理解
・仮名づかいや送り仮名など表記上の基本的事項についての理解
2．待遇表現（敬語）について
・敬語の種類・特色についての理解とその実践
3．実用文の書き方について
・手紙文や公用文の書き方についての理解とその実践
4．レポート等の書き方について
・レポート作成の基本的事項についての理解
5．話し言葉について
・話し言葉の特色とそれをいかした話し方についての理解
・話し方の種類とその実践
・若者の言葉の特色についての理解

〔講義のすすめ方〕
上記の内容について、補助教材プリントを用いながら講義を行うとともに、原則として、毎時間演習等を行うことを予定している。
講義と演習は４対６の割合で展開するので、積極的・意欲的に授業に取り組んでほしい。

〔教　　材〕
毎時間、必要に応じて関連する補助教材プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は、下記①の提出物の内容と毎時間での授業（演習等）への取り組みの態度などを総合して行う。
①国語表現力を養うための授業時に行う課題・演習の提出物　100％

〔履修のポイント・注意点〕
国語表現法の授業であるので、授業には積極的に取り組み、表現力を更に高めていくよう心がけること。

〔科目内容の位置付け〕
特定の前提科目はありません。身につけた国語表現力を様々な科目履修に活用してほしい。

209201

科　目　名	国語表現法Ｂ
教　員　名	増田　良二

〔講義目的〕
　本講座では、国語で適切に、効果的に表現する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、表現する能力を育成することを目的としている。
　言語活動には「話す」「聞く」「読む」「書く」という四つの領域があるが、なかでも、「読む」「書く」という領域は、学生にとって、論文やレポート等の作成上、重要な位置を占めている。
　そこで、本講座では、「国語表現法Ａ」との関連を図りながら、要約文や小論文等を書く力を養うことを中心に講義と演習を行っていく予定である。
　特に、問題の分析から、その解決を図るまでの方法を習得することを重んじながら、小論文作成能力を高めていくことに力を入れたい。
　このためには、要約文の作り方を重点的に行いながら、様々なジャンルの文章表現法を分析することによって、表現能力をより一層高めることに力を入れたい。

〔講義内容〕
次のような内容を予定している。
１．要約文の作り方とその演習
・小論文作成など表現力の基礎として、要約文を作る手順やその書き方についての理解
・様々な文章の読解を行いながら、より的確な要約文作成の実践
２．論説文について
・論説文の特徴についての理解
・論説文の構成とその書き方についての理解とその実践
３．意見文について
・意見文の特徴についての理解
・意見文の構成とその書き方についての理解とその実践
４．記録文、報告文について
・それぞれの役割と特徴等についての理解
・情報の収集と整理の仕方について
５．説明文について
・説明文の役割と特徴等についての理解
６．広告文（宣伝文）について
・それぞれの役割と特徴等についての理解

〔講義のすすめ方〕
上記の内容について、補助教材プリントを用いながら、講義を行うとともに、原則として、毎時間演習等をも行うことを予定している。
講義と演習は４対６の割合で展開するので、積極的・意欲的に授業に取り組んでほしい。

〔教　　材〕
毎時間、必要に応じて関連する補助教材プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は、下記①の提出物の内容と毎時間での授業（演習等）への取り組みの態度などを総合して行う。
①国語表現力を養うための授業時に行う課題演習の提出物　100％

〔履修のポイント・注意点〕
国語表現法の授業であるので、授業には積極的に取り組み、各人がその表現力を更に高めていくよう心がけること。

〔科目内容の位置付け〕
「国語表現法Ａ」を履修してから受講することが望ましい。

210401

科　目　名	美学A
	美や芸術の源流を探る
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
古代ギリシアからルネサンスに到るまでの美や芸術に関する思考の歴史を辿る。
それぞれの時代を代表する思想家が残した文献から、美や芸術に関する言説を拾い集め、当時それらがどのように考えられていたのかを概観する。今日われわれが抱いている美や芸術のイメージとはかなり異なる考え方が存在したことに気づかされる。自分自身にとって美や芸術がどのような意味を持ちうるのか、社会においてそれらがどのような役割を果たしうるのかを考察するための基礎を構築することを目指す。

〔講義内容〕
1．美学とは(1)
　美学という学問名称の由来
2．美学とは(2)
　美と芸術
3．プラトン(1)
　生涯と著作／イデア論／魂の三部分説
4．プラトン(2)
　美のイデア／美の階層／エロス
5．プラトン(3)
　模倣的技術としての芸術／芸術の意義
6．プラトン(4)
　『国家』における芸術の位置づけ
7．アリストテレス(1)
　生涯と著作／質料一形相論／自然美と芸術美
8．アリストテレス(2)
　ミメーシスとカタルシス
9．プロティノス（新プラトン主義の美学）
　流出説と存在の階層／ヌース的なものとしての美
10．アウグスティヌス（初期キリスト教の美学）
　生涯と著作／神の美／美と永遠
11．トマス・アクィナス（中世の美学）
　美の超越性／美の体験
12．イコノクラスム
　イコン（聖画像）破壊の歴史的・思想的背景
13．ルネサンスと遠近法(1)
　キリスト教における自然観の変化
14．ルネサンスと遠近法(2)
　遠近法という世界の捉え方

〔講義のすすめ方〕
要点をスライドで写し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

〔教　　材〕
教科書は使用しない。参考図書については必要に応じて紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験による評価。
定期試験　　100％

〔履修のポイント・注意点〕
美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくることが予想される。資料を配布してできるだけ補うようにするが、わからない用語等については自ら調べるように努力してほしい。自分にとって芸術がどのような意味を持つのかを考えながら授業に参加してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
美学の入門となる内容。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
哲学史、世界史の知識があると理解が深まる。関連科目としては「哲学A／B」「倫理学A／B」があげられる。

210501

科　目　名	美学Ｂ
	近代美学の成立と展開
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
　近代美学の成立と展開の過程を概観する。
　認識論の一部門として出発した美学は、次第に学問としての独立性を獲得していくが、ニーチェに到って伝統的美学は解体され、多様な方向性を示す20世紀の美学へと引き継がれる。秩序立てて、論理的に思考する習慣を獲得するとともに、自分自身にとって美や芸術がどのような意味を持ちうるのか、社会においてそれらがどのような役割を果たしうるのかを考察するための基礎を構築することを目指す。

〔講義内容〕
1．１７世紀という時代
　近世の幕開け―デカルトとガリレオ―
2．バウムガルテン(1)
　感性的認識の学としての美学
3．バウムガルテン(2)
　美と完全性
4．カント(1)
　先験的感性論／先験的分析論
5．カント(2)
　美的判断の特色（無関心の満足）
6．カント(3)
　美的判断の特色（主観的普遍妥当性）
7．カント(4)
　美的判断力の特色（目的なき合目的性／範例的必然性）
8．ロマン主義の芸術観(1)
　市民革命とロマン主義
9．ロマン主義の芸術観(2)
　シュレーゲル兄弟
10．ロマン主義の芸術観(3)
　フランスのロマン主義とドイツのロマン主義
11．ヘーゲル
　絶対者／弁証法／芸術の歴史的展開
12．ニーチェ(1)
　永遠回帰と芸術
13．ニーチェ(2)
　力への意志と芸術／芸術の生理学
14．ハイデガー
　存在者の存在の開示としての芸術

〔講義のすすめ方〕
要点をスライドで写し、解説を加える。前提となる基礎知識や用語解説等については資料を配布して補うようにする。

〔教　　材〕
教科書は使用しない。参考図書については必要に応じて紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験による評価。
　定期試験　　100％

〔履修のポイント・注意点〕
美や芸術に関するできるだけ多くの考え方を紹介したいので、授業時間内だけでは十分に説明しきれない事柄も出てくることが予想される。資料を配布してできるだけ補うようにするが、わからない用語等については自ら調べるように努力してほしい。自分にとって芸術がどのような意味を持つのかを考えながら授業に参加してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
近代美学の入門となる内容。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
哲学史、世界史の知識があると理解が深まる。関連科目としては「美学Ａ」「哲学Ａ／Ｂ」「倫理学Ａ／Ｂ」があげられる。

211601

科　目　名	比較文化論Ａ
教　員　名	河合　正男

〔講義目的〕
　諸外国の異なった社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものにして行くためにも重要である。
　授業では、前期（A）後期（B）を通じ世界の主要地域の特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で我が日本が目指すべき将来の姿について考えたい。

〔講義内容〕
　40年近い外交官生活の中で私が勤務経験した地域、すなわち北米、東南アジア、中東、西欧の4地域につき、前期、後期に分けて講義する。
　前期（A）においては、統合を進めつつ新たな価値観を模索する西欧社会、及び不安定の続く中東地域について学ぶ。アフリカについても適宜触れる。

〔講義のすすめ方〕
講義レジュメを事前に配布するので予習して来ること。
また、講義では受講生の積極的参加を重視し、講義ごとにアンケートを行う。
受講生の意見、質問を受けるとともに、適宜前回講義についての簡単な理解度テストを行う。

〔教　　材〕
「異文化を知るこころ」世界思想社刊 2000円＋税 , を一つの参考書とするも、学生諸君自身で関係地域の解説書を適宜読んで欲しい。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験は行わず、小論文形式の期末レポートを全員に課す。
授業の理解度など受講態度及び出席率も評価する。
原則として、３割以上の欠席は不合格とする。
成績評価配分：期末レポート６０％、授業内テスト２０％、出席率２０％

〔履修のポイント・注意点〕
できるだけ講義対象地域についての解説書や新聞を読み、質問及び意見を準備して来て欲しい。
授業中に発言する機会を得られなかった場合には、メモの形で提出していただいて結構である。

〔科目内容の位置付け〕
異文化学習についての入門的科目であるが、世界史についての基本的知識を持つと共に、講義対象地域について関心を持って考えていく姿勢が重要である。

211701

科　目　名	比較文化論Ｂ
教　員　名	河合　正男

〔**講義目的**〕
諸外国の異なった社会、文化について学ぶことは、我々の視野を広めるばかりでなく、我々自身を、さらには日本という国をより良く理解することにもなる。世界を広く理解し、日本の置かれた立場を認識しておくことは、我々の社会をより一層活力のあるものにして行くためにも重要である。
授業では、前期（A）後期（B）を通じ世界の主要地域の特性及び日本との関係について学び、最終的には学生諸君とともに世界の中で我が日本が目指すべき将来の姿について考えたい。

〔**講義内容**〕
40年近い外交官生活の中で私が勤務経験した地域、すなわち北米、東南アジア、中東、西欧の４地域につき、前期、後期に分けて講義する。
後期（B）においては、北米、特に世界の動向に決定的影響力を発揮しようとしているアメリカ、及び、今なお多くの不安定要因を抱えながらも今後世界の中で最も高い成長が見込まれるアジア、特に東アジア地域について学ぶ。中南米についても適宜触れる。

〔**講義のすすめ方**〕
講義レジュメを事前に配布するので予習して来ること。
また、講義では受講生の積極的参加を重視し、講義ごとにアンケートを行う。
受講生の意見、質問を受けるとともに、適宜前回講義についての簡単な理解度テストを行う。

〔**教　　材**〕
「異文化を知るこころ」世界思想社刊 2000円＋税、を一つの参考書とするも、学生諸君自身で関係地域の解説書を適宜読んで欲しい。

〔**成績評価の方法・基準**〕
定期試験は行わず、小論文形式の期末レポートを全員に課す。
授業の理解度など受講態度及び出席率も評価する。
原則として、３割以上の欠席は不合格とする。
成績評価配分：期末レポート６０％、授業内テスト２０％、出席率２０％

〔**履修のポイント・注意点**〕
できるだけ講義対象地域についての解説書や新聞を読み、質問及び意見を準備して来て欲しい。授業中に発言する機会を得られなかった場合には、メモの形で提出していただいて結構である。

〔**科目内容の位置付け**〕
異文化学習についての入門的科目であるが、世界史についての基本的知識を持つと共に、講義対象地域について関心を持って考えていく姿勢が重要である。

212001

科　目　名	文化人類学Ａ / 特講Ⅰ（文化人類学Ａ）
教　員　名	結城　史隆

〔講義目的〕
文化人類学は「人間」とは何かと考える学問である。その対象は時間的にはサルからヒトになった約500万年前から、空間的には今この地球上に生きている世界中の人々を含んでいる。
このような多様性をもった「人間」をさまざまな視点から比較考察し、その本質に迫ることをこの講義の目的としている。
「文化人類学Ａ」では、人類の進化の過程や、環境に適応した食糧生産の方法と食生活、さらに家族や結婚などのような社会組織についての講義を行う。アジアの森の中で、アフリカの半乾燥地帯で、アンデスの高原で人々はどのように生きているのであろうか。世界のさまざまな文化や人間の身近な問題について学びたい人に受講して欲しい。

〔講義内容〕
１．文化の特徴：「文化」って何？
２．異なる文化への眼差し：「未開人」を考える
３．文化人類学の誕生：「人間」の理解へむけて
４．フィールドワーク：異文化を調査すること
５．サルからヒトへ：ヒトはいつ殺人を犯し、あの世を考えるようになったのだろうか？
６．採集狩猟民の世界：狩人たちはどのようにして何を獲ってきたのか
７．牧畜民の世界：家畜を中心として生活で、彼らは何を食べているのだろうか？
８．焼畑耕作民の世界：焼畑耕作って本当に環境破壊なの？
９．男と女：男女の役割について考える
10．家族：家族にはどんな種類があるのか？
11．結婚：あなたにとって結婚とは何ですか。恋愛結婚のほうが世界では少ないのです
12．親族：親戚って誰のこと？
13．親族名称：イトコ（従兄弟）は何種類ありますか。一種類だけはありません
14．交換と贈与：あなたはなぜクリスマスやバレンタインデーに贈りものをするの？

〔講義のすすめ方〕
授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているので、その実体験にもとづいた事例や写真の紹介で理解の手助けとしたい。
講義の最初に前回の講義の重要点を中心としたリアクション・ペーパー（確認のための小テスト）を10分くらいで書いてもらう。自分の手書きノートのみを参照可とする。
★小テストのときにコピーの持込んだ人はその場で受講失格となる。★
遅刻してリアクション・ペーパーを書けなかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

〔教　　材〕
特になし

〔成績評価の方法・基準〕
授業の目的は単位を与えることではなく、受講者の知識、体験、能力を向上させることにある。
★全回出席することを大前提とする★
したがって、第１回目から必ず出席すること。（「他の授業を見ていました」というのは理由として認めない。シラバスをよく読んであらかじめ決めること。）
授業をやむを得ず欠席した場合は、その理由と欠席した講義の内容を要約した「欠席講義要旨」を提出してもらう。（友人などに話を聞き、ノートを見せてもらって書くこと。）
成績評価は講義内容の理解度を重要視し、毎回のリアクションペーパーに対する回答の点数の合計によって行う。合計点数が基準点に達しないと、毎回出席していても失格になるので注意。（中間発表で成績評価を掲示する。）とにかく、講義内容の理解度を評価の中心にするので、ただ出席しているだけでは意味がない。
定期試験、再試験、追試験、成績不良救済のためのレポート提出などは一切行わない。
★最上級生であっても特別扱いはしないので、該当者はそのことを承知の上で履修すること。★

〔履修のポイント・注意点〕
講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。講義は頭を整理し、理解しながらノートに要点を書くこと。集中力がないと、よいリアクションペーパーを書くことはできない。新しい知識に無関心で、努力も苦労もせずにただ単位だけを取得したいと安易に考えている人は、受講しないほうがよい。

〔科目内容の位置付け〕
特になし

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

212101

科　目　名	文化人類学Ｂ / 特講Ⅰ（文化人類学Ｂ）
教　員　名	結城　史隆

〔講義目的〕
文化人類学は「人間」とは何かと考える学問である。その対象は時間的にはサルからヒトになった約500万年前から、空間的には今この地球上に生きている世界中の人々を含んでいる。
このような多様性をもった「人間」をさまざまな視点から比較考察し、その本質に迫ることをこの講義の目的としている。
人間が他の動物と異なっていることの一つに、言語を持っていること、精神世界、神や来世などの宗教心をもっていることが上げられる。この「文化人類学Ｂ」では、人間の言語の特質や広い意味での精神世界を中心に授業を進める。

〔講義内容〕
1．文化人類学の誕生
2．言語の特質
3．非言語コミュニケーション
4．民間信仰（アニミズム）
5．民間信仰（トーテミズム、マナ）
6．シャーマニズム
7．病因と伝統医療
8．呪術
9．人生と通過儀礼
10．強化儀礼
11．神話
12．ハレとケガレと祭
13．一神教
14．宗教が誕生するとき

〔講義のすすめ方〕
授業はパワーポイントを使って講義形式をとる。さまざまな地域においてフィールド調査を行っているので、その実体験にもとづいた事例や写真の紹介で理解の手助けとしたい。
講義の最初に前回の講義の重要点を中心としたリアクション・ペーパー（確認のための小テスト）を10分くらいで書いてもらう。自分の手書きノートのみを参照可とする。
★小テストのときにコピーの持込んだ人はその場で受講失格となる。★
遅刻してリアクション・ペーパーを書けなかった場合は、欠席扱いとなるので注意。

〔教　　材〕
特になし

〔成績評価の方法・基準〕
授業の目的は単位を与えることではなく、受講者の知識、体験、能力を向上させることにある。
★全回出席することを大前提とする★
したがって、第１回目から必ず出席すること。（「他の授業を見ていました」というのは理由として認めない。シラバスをよく読んであらかじめ決めること。）
授業をやむを得ず欠席した場合は、その理由と欠席した講義の内容を要約した「欠席講義要旨」を提出してもらう。（友人などに話を聞き、ノートを見せてもらって書くこと。）
成績評価は講義内容の理解度を重要視し、毎回のリアクションペーパーに対する回答の点数の合計によって行う。合計点数が基準点に達しないと、毎回出席していても失格になるので注意。（中間発表で成績評価を掲示する。）とにかく、講義内容の理解度を評価の中心にするので、ただ出席しているだけでは意味がない。
定期試験、再試験、追試験、成績不良救済のためのレポート提出などは一切行わない。
★最上級生であっても特別扱いはしないので、該当者はそのことを承知の上で履修すること。★

〔履修のポイント・注意点〕
講義はできるだけわかりやすくするつもりなので、「人間」の多様性と普遍性を理解し楽しんで欲しい。講義は頭を整理し、理解しながらノートに要点を書くこと。集中力がないと、よいリアクションペーパーを書くことはできない。新しい知識に無関心で、努力も苦労もせずにただ単位だけを取得したいと安易に考えている人は、受講しないほうがよい。

〔科目内容の位置付け〕
特になし

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

220101

科　目　名	社会学A
教　員　名	山本　厚太郎

〔講義目的〕
高校までの諸君の勉学は、知識の詰め込みが主体であった。「正しい」とされるものをいかに記憶するかということが優先されてきたのではないだろうか。大学で学ぶということは、それとはかなり異なる（と、私は思いたい）。何よりも問題を提起する力が求められる。どうして、なぜそうなっているのか？もっと良い方法は？考え方は？こうした諸君の問いかけこそが次代の進歩を生み出す原動力なのだ。
社会学は現在を見つめる学問である。それゆえ「……ということになっている」とつい見なしてしまうことにも光をあてて考えていく。たとえば家族だ。なぜ我々は主に“核家族”という家族形態で暮しているのか。そのことに疑問を持つ学生は決して多くはないだろう。しかし、この家族の形ももちろん社会の、経済の、政治の変遷の影響下にある。その変容を検証し、将来の予測をも打ち立てるところに、この社会学の醍醐味がある。
社会学の根本はつまるところ「個人と社会」の問題を捉え、解析していくところにあるのだ。
ごく当然のように、諸君の周囲に存在する全ての物事が学問の対象となる。
私の講義ではそれを見つめ直していくことによって、現代社会の有り様を把握し、同時に諸君の問いかける力、考える力を高めていきたい。

〔講義内容〕
1．社会学という考え方
2．コトバと私たち
3．コミュニケーションと私たち
4．テレビ（メディア）と私たち
5．情報社会と私たち
6．まとめ

〔教　　材〕
教科書　使用せず。プリント配布
参考書　追って指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
レポートまたはテスト。講義中の積極性も評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。
ひとつのテーマを２週にわたって講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、１回目を休むと、２回目は内容についていけなくなるおそれあり。
なお、履修希望の学生がここ数年であまりにも増加したため、受講の人数を制限することになりました。御理解下さい。

〔科目内容の位置付け〕
基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会学的な考察力は必須であると思う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
なし。旺盛な知的好奇心のみ。

220102

科　目　名	社会学A
	社会学入門
教　員　名	川上　代里子

〔講義目的〕
「社会学とは何か」と考えたとき、社会学は他の社会科学の分野よりも漠然としてつかみどころのないもののように見えるかもしれません。社会学の研究対象は幅広く、視点や方法も多様であり、社会学の全体像を短期間で把握するのは、非常に難しいといえるでしょう。
そのため本講義では、我々の身近な問題を取り上げ、そのような問題を社会学がこれまでどのように扱ってきたかについて考察することから始めたいと思います。そしてその後各自でも、その問題について考えてもらいます。ただ単に「社会学についての知識」を詰め込むのではなく、社会学的にものを考える能力、つまり各自が自分の身近に起こっている問題を、個々の問題として終わらせず、それを社会的文脈に関連づけて考察する能力を身につけることができれば、それは他の分野の研究にも役に立つと思います。
さらに講義全体を通して、社会にはさまざまな社会的な「力」が作用して、社会の仕組みを形作っているのだということを実感して欲しいと思います。

〔講義内容〕
社会学入門
社会学の調査研究方法
行為と集団
文化と社会
産業と組織
政治と社会
＊詳細や構成については、変更があるかもしれませんが、追って指示します。

〔講義のすすめ方〕
講義内容のテーマと関連した身近な問題を取り上げ、そのような問題を、社会学がこれまでどのように扱ってきたかについて紹介します。その上で、その問題について各自で考え意見をまとめてもらう予定です。

〔教　　材〕
参考文献
松田健『テキスト現代社会学』ミネルヴァ書房
アンソニー・ギデンズ『社会学』而立書房　など

〔成績評価の方法・基準〕
テスト70％
平常点30％

〔履修のポイント・注意点〕
平常点について：講義の際に、特定の問題について、自分なりに考え意見を書いてもらうことがあると思います。その際、「どのような意見を述べたか」によって評価が決まることはないので、安心して下さい。まずは簡単で良いので自分なりの意見を持ち、それをフィードバックしてもらうことで、一方向的な講義になることを避けたいと思います。

〔科目内容の位置付け〕
入門的な科目です。これまで、社会学というものにまったく触れたことのない学生に、「社会学的に考える」ということを経験して欲しいと思います。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会学Ａ・Ｂを続けて履修しても良いように、両講義では異なるトピックを取り上げます。
ただし、社会学Ａ、Ｂのどちらかのみを受講する学生のために、内容に多少の重複があるのは了承してください。

220201

科　目　名	社会学Ｂ
教　員　名	山本　厚太郎

〔講義目的〕
社会学Ａを参照して下さい。

〔講義内容〕
１．社会学とは
２．家族と私たち
３．少子高齢化社会と私たち
４．地域社会と私たち
５．食と私たち
６．豊かさと私たち
７．まとめ

〔講義のすすめ方〕
なお、社会学Ａを受講した学生が社会学Ｂを連続して受講する場合、後期の冒頭のみ重複があるのを容赦されたい。
ＡＢを通して学んでいくと、現代日本の姿がはっきり見えてくると思う。

〔教　　材〕
教科書　使用せず。プリント配布
参考書　追って指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
レポート１回。講義中の積極性も評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
ビデオや新聞などを利用し、タイムリーなテーマを選んで進めていく。
ひとつのテーマを２週以上に渡って講義し、諸君と共に考察するスタイルをとる予定なので、１回目を休むと、２回目は内容についていけなくなるおそれあり。
なお、受講学生数の上限を設けることとなりました。御理解をお願いします。

〔科目内容の位置付け〕
基本的な科目である。大学で何を専攻するにしろ、社会学的な考察力は必須であると思う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
なし。旺盛な知的好奇心のみ。

220202

科　目　名	社会学Ｂ
	続・社会学入門
教　員　名	川上　代里子

〔講義目的〕
「社会学とは何か」と考えたとき、社会学は他の社会科学の分野よりも漠然としてつかみどころのないもののように見えるかもしれません。社会学の研究対象は幅広く、視点や方法も多様であり、社会学の全体像を短期間で把握するのは、非常に難しいといえるでしょう。
そのため本講義では、我々の身近な問題を取り上げ、そのような問題を社会学がこれまでどのように扱ってきたかについて考察することから始めたいと思います。そしてその後各自でも、その問題について考えてもらいます。ただ単に「社会学についての知識」を詰め込むのではなく、社会学的にものを考える能力、つまり各自が自分の身近に起こっている問題を、個々の問題として終わらせず、それを社会的文脈に関連づけて考察する能力を身につけることができれば、それは他の分野の研究にも役に立つと思います。
さらに講義全体を通して、社会にはさまざまな社会的な「力」が作用して、社会の仕組みを形作っているのだということを実感して欲しいと思います。

〔講義内容〕
社会学入門
社会学の調査研究方法
経済と社会
エスニシティ
社会意識
マスメディアとコミュニケーション
＊詳細や構成については、変更があるかもしれませんが、追って指示します。

〔講義のすすめ方〕
講義内容のテーマと関連した身近な問題を取り上げ、そのような問題を、社会学がこれまでどのように扱ってきたかについて紹介します。その上で、その問題について各自で考え意見をまとめてもらう予定です。

〔教　　材〕
参考文献
松田健『テキスト現代社会学』ミネルヴァ書房
アンソニー・ギデンズ『社会学』而立書房　など

〔成績評価の方法・基準〕
テスト70％
平常点30％

〔履修のポイント・注意点〕
平常点について：講義の際に、特定の問題について、自分なりに考え意見を書いてもらうことがあると思います。その際、「どのような意見を述べたか」によって評価が決まることはないので、安心して下さい。まずは簡単で良いので自分なりの意見を持ち、それをフィードバックしてもらうことで、一方向的な講義になることを避けたいと思います。

〔科目内容の位置付け〕
入門的な科目です。これまで、社会学というものにまったく触れたことのない学生に、「社会学的に考える」ということを経験して欲しいと思います。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会学Ａ・Ｂを続けて履修しても良いように、両講義では異なるトピックを取り上げます。
ただし、社会学Ａ、Ｂのどちらかのみを受講する学生のために、内容に多少の重複があるのは了承してください。

222601

科　目　名	法学A／法学入門
	民事法の基本的な仕組み
教　員　名	河原　文敬

〔**講義目的**〕
法律学の基本的な事項を私法の分野（民法や商法が主にその分野です）を対象にして説明します。法律学を通して物の見方の多様性を知ることは、今後の学習にとって意義があると考えます。

〔**講義内容**〕
憲法の仕組み（私法制度の位置付け）・・2回
民事事件と刑事事件の相違・・・・1回
契約（主として売買契約）、債権の担保・・3回
権利の主体（自然人、法人）、成年後見制度不法行為（国家賠償法を含む）・・２回
労働に関する法制度・・2回
家族制度（婚姻、親子、養子制度、相続等）・・2回
自己決定に関する判例・・2回
復習的説明・・・1回

概ね上記の予定で講義を実施しますが、変更の際には講義中に伝えます。

〔**講義のすすめ方**〕
主として民法の分野の事例を取上げて説明をする。その基本として国の基本法である憲法の仕組みにも言及する。はじめに仮説的な事例を取上げて法的な思考の特徴を説明する。次に以下の項目を中心に解説する。なお、法学はいくつかの資格試験の科目になっているので、その点も考慮して解説をする予定である（具体的には社会福祉士試験「法学」の過去の出題を念頭において、基本事項を説明する)。

〔**教　　材**〕
教材：開講時までに掲示等で知らせる。
　　現時点では下記の文献を予定しています。
　　池田・犬伏・野川他著『法の世界へ　第4版』（有斐閣　2007年）
　参考書については、開講時に紹介します。

〔**成績評価の方法・基準**〕
期末試験によって評価します（中間試験や講義中のレポートも予定しています)。
具体的な評価方法は受講生の数が確定した時点で変更もあります。

〔**履修のポイント・注意点**〕
真面目に学習してください。講義に出て教員の話を聴くこと。
　講義中は携帯電話等を使わないこと。

〔**科目内容の位置付け**〕
一般教育科目のひとつです。

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容)**〕
高校あるいは中学の「現代社会」「政治経済」の法律に関する予備知識があれば十分で
す。あるいはそうした科目への関心があればよいです。他に前提科目はありません。
関連科目として法学B、憲法があります。

222701

科　目　名	法学Ｂ
教　員　名	齋藤　和豊

〔**講義目的**〕
　この講義では、法律学に必要な知識のうち、主として国家と国民との関係を規律する法規範である公法に共通する法的仕組みを学習の対象とする。具体的には、憲法、及び、行政法が、学習の対象となる。

〔**講義内容**〕
　講義の内容は、以下の通りを予定している。但し、履修者の希望、人数等を理由に予定が変更する場合もある。

1. ガイダンス・法律の学習方法
2. 憲法の全体像
3. 精神的自由権（1）：表現の自由
4. 精神的自由権（2）：信教の自由と政教分離
5. 参政権
6. 社会権
7. 包括的基本権
8. 行政法の全体像
9. 法律による行政の原理と裁量統制
10. 行政の行為形式
11. 行政争訟法制度（1）：行政不服審査法
12. 行政争訟法制度（2）：行政事件訴訟法
13. 行政手続法
14. 国務請求権：国家の責任と国家補償法制度
15. 定期試験

〔**講義のすすめ方**〕
　講義形式で授業を進める。必要に応じて、適宜、レジュメ等を配布する。

〔**教　　材**〕
　必ず条文を参照するための六法（種類は問わない。）を持参すること。教科書は特に指定しないが、社会福祉関係や教職等の資格を取得するために必要と思われる一般的な教科書を講義中に紹介する。受講者は、是非、実際に本を手に取り自分に合った教科書を見つけて欲しい。

〔**成績評価の方法・基準**〕
　成績評価は、原則として期末試験の点数で評価を行う。但し、レポートをはじめとする提出物を課した場合、これを成績評価に加味する場合がある。

〔**履修のポイント・注意点**〕
　履修者は、法律の初学者であることを前提として講義を進め、資格試験の解説を主たる目的とはしない。ただし、履修者の多くが社会福祉関係や教職等の資格の取得を目的としていることも考慮して講義を進める予定である。

〔**科目内容の位置付け**〕
　法学は、法律学を学習するために必要不可欠な科目である。一般教養として法的なものの見方や考え方を養うと同時に、目的達成の一助として欲しい。

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
　法律学系の科目全般

223901

科　目　名	統計学A
教　員　名	沖津　直

〔講義目的〕
現代は高度な情報化社会であり、私達のまわりにはいろいろな多くの情報があふれている。政府、官庁、企業、研究所などで、統計調査によって得られるデータ、多くの業務統計や実験データが収集され、それらをもとに、政策、意志決定、予測が行われている。このような情報社会の高度化の傾向は、今後もますます拡大され、精密化されていくものと思われる。また、他方でインターネットなどの情報技術は非常に速いスピードで発達・拡充を続けており、私達の生活のテンポは速くなっている。
情報化社会とは、いうまでもなく情報そのものが最も重要な役割をはたし、かつ価値をもつ社会でもある。正確で十分な情報を生かすことができる者が、成長・発展することができよう。これだけ情報の氾濫した社会に生きるわれわれとしては、情報の読み方・考え方の方法を習得することが必要になってくるわけである。

〔講義内容〕
1．序論
2．統計データのまとめ方
3．位置の特性値
4．散らばりの特性値
5．確率
6．確率分布

〔講義のすすめ方〕
統計学は記述統計学と推測統計学に分けられる。前者では、まず収集されたデータをどのように整理し、生かしていくかを学んでいく。データを度数分布表にまとめ、分布をグラフにする。そして、分布の特性値である平均値、分散、標準偏差、中央値、最頻値、幾何平均などについて学習します。これらの作業・計算を通じて、分布の状態を正確に把握することができる。統計図表の見方、書き方、使い方についても学習します。
次に、確率の考え方、確率の概念、確率の公理、確率計算の基本定理などについて学習する。

〔教　　材〕
テキスト「統計学入門」沖津　直著　八千代出版
参考書「統計学」　山根太郎著　　東洋経済新報社
「初等統計学」　P.G. ホーエル　村上訳　培風館

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験の結果　75％
出席状況、学習態度など　25％

〔履修のポイント・注意点〕
統計学は常に自分でデータを扱い図表やグラフを作成し計算し、統計的知識をつみあげていくことが重要である。毎回、宿題や練習問題を解いて、正確に理解することが求められる。

〔科目内容の位置付け〕
集団現象の統計的処理には欠かせない科目である。人文、社会、自然科学系のあらゆる分野の学問に使用されている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提とする科目は特にないけれども、高校卒業程度の数学がわかっている方が理解しやすいし望ましい。しかし、これから学んでいくんだという意欲がもっと重要と思う。

224001

科　目　名	統計学Ｂ
教　員　名	沖津　直

〔講義目的〕
現代は高度な情報化社会である。私達のまわりには、いろいろな多くの情報があふれている。政府、官庁、企業、研究所などでも、統計調査によって得られるデータ、多くの業務統計や実験データが収集され、それらをもとに、政策、意志決定、予測が行われている。この情報化の傾向は、ますます拡大され、精密化されていくものと思われる。他方でインターネットなどの情報技術は非常に速いスピードで発達・拡充を続けている。

情報化社会とは、いうまでもなく情報そのものが最も重要な役割をはたし、かつ価値をもつ社会でもある。正確で十分な情報を生かすことができる者が、成長・発展することができよう。これだけ情報の氾濫した社会に生きるわれわれとしては、情報の読み方・考え方の方法を習得することが必要になってくるわけである。

〔講義内容〕
1．序論
2．統計データのまとめ方
3．位置の特性値
4．散らばりの特性値
5．確率
6．確率分布

〔講義のすすめ方〕
統計学は記述統計学と推測統計学に分けられる。前者では、まず収集されたデータをどのように整理し、生かしていくかを学んでいく。データを度数分布表にまとめ、分布をグラフにする。そして、分布の特性値である平均値、分散、標準偏差、中央値、最頻値、幾何平均などについて学習します。これらの作業・計算を通じて、分布の状態を正確に把握することができる。統計図表の見方、書き方、使い方についても学習します。

次に、確率の考え方、確率の概念、確率の公理、確率計算の基本定理などについて学習する。

〔教　　材〕
テキスト「統計学入門」沖津　直著　八千代出版
参考書「統計学」 山根太郎著　　東洋経済新報社
「初等統計学」 P.G. ホーエル　村上訳　培風館

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験の結果　75％
出席状況、学習態度など　25％

〔履修のポイント・注意点〕
統計学は常に自分でデータを扱い図表やグラフを作成し計算し、統計的知識をつみあげていくことが重要である。毎回、宿題や練習問題を解いて、正確に理解することが求められる。

〔科目内容の位置付け〕
集団現象の統計的処理には欠かせない科目である。人文、社会、自然科学系のあらゆる分野の学問に使用されている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提とする科目は特にないけれども、高校卒業程度の数学がわかっている方が理解しやすいし望ましい。しかし、これから学んでいくんだという意欲がもっと重要と思う。

225201

科　目　名	心理学Ａ
	こころと行動
教　員　名	神戸　文朗

〔講義目的〕
心理学という広い学問領域の中で、一般教養の心理学として何を伝えるかということはなかなか難しいことです。多くの入門書を見ると、知覚、学習、発達、人格、社会、といった個別領域の紹介に留まっており、それら領域を一人の（あるいは集団としての）人間のもつ多元的な能力や特徴の一部として捉えようとするものは多くはないように思います。そこで、私の心理学Ａ、Ｂでは、人間とは何かという問題意識を持ち続ける中で各領域の知識を関連付けながら紹介したいと思います。これにより、皆さん自身の中で個別的な知識を超えた総合的な人間観が確立できることを望んでいます。さて、心理学は「こころ」を科学的に研究する学問といわれますが、「こころ」は直接的に見ることも触ることもできません。そこで心理学では従来から人間（より広くは動物）の行動を通して「こころ」を知ろうとしてきました。心理学Ａでは、人間にとって行動とはどのような意味を持ち、どのような性質を持っているのか、という問いを中心に講義を展開していくつもりです。これによって人間と他の動物との生物学的機構の共通性が明らかになるでしょう。一方、特定の行動が選択され、特定のタイミングで出現するのは脳内での複雑な情報処理の結果であるといえます。心理学Ｂでは、環境から入ってくる情報がどのように処理され、どのように貯蔵され、更にはどのように環境からの情報を超えたより高度な情報処理へと進んでいくかを追いかけていこうと思います。これによって、われわれの高度な認知的能力がいかなる方法で実現されているかについて展望できればと思います。

〔講義内容〕
行動とは何か
反射
本能行動
意識と行動
遺伝と環境
行動の獲得
条件づけと条件づけ手続き
技能学習
社会的学習
動機づけと情動
生理的欲求
情動と本能行動
高次の欲求
コミュニケーション行動
音声
表情とジェスチャー
社会の中の人間
社会化
社会的認知
態度と説得
対人関係
集団と個人
個人差
知能
性格とパーソナリティ

〔教　　材〕
講義内容に示されたテーマ順に、教材を利用しながら説明します。皆さんは熱心にノートを取ることを期待されています。教材としては鹿取・杉本・鳥居編「心理学第３版」（東大出版）を使います。同書は説明、図、表等を参照する目的で使用するものであって、講義の進め方は必ずしも同書の配列どおりではありません。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は基本的には定期試験の結果に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

〔履修のポイント・注意点〕
熱心にノートをつけることによって人間とはどのような存在なのかという点に更に興味が湧いてくることを期待します。

〔科目内容の位置付け〕
基礎領域の心理学。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目はありません。心理学Ａと心理学Ｂで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので両心理学を受講することを望みます。認定心理士資格取得希望者は同一教員の心理学Ａ（心理学専攻の学生の場合は基礎心理学Ａ）と心理学Ｂ（心理学専攻の学生の場合は基礎心理学Ｂ）を共に履修する必要があります。日本心理学会ではＡとＢを共に履修した場合に限りＡ領域での４単位を認めています。

225202

科　目　名	心理学Ａ
	心理学の基礎
教　員　名	津野田　聡子

〔講義目的〕
本講義では、心理学における複数の基礎的なトピックについて取り上げ、概説する。本講義の目的は、心理学の基礎を理解することを通して、日常場面における心理的なことがらについて自ら考察できるようになることである。

〔講義内容〕
講義で取り上げる主なトピックは次の通りである。

心理学とは
進化的側面と心理
発達：乳幼児期の発達心理、青年期の発達心理
動機づけと情動：行動を引き起こすもの
性格：性格の分類、性格検査
知能：知能のモデル、知能検査
感覚：外界の情報を取り入れること
知覚：外界をどうとらえるか

〔講義のすすめ方〕
基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行う。必要に応じて視覚的補助資料等も用いる予定である。

〔教　　材〕
教科書：「はじめて出会う心理学　改訂版」・長谷川寿一、東條正城、大島尚、丹野義彦、廣中直行・有斐閣アルマ
参考図書：適宜、講義において紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は、学期末の定期試験（70％）、出席状況（30％）による。

〔履修のポイント・注意点〕
教員による講義形式の科目ではあるが、受講にあたっては、講義をもとに自ら積極的かつ発展的に考えようとする気持ちを持って受講していただきたい。

〔科目内容の位置付け〕
基礎的な内容の心理学に位置付けられる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は特にないが、心理学Ａと心理学Ｂで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので、両心理学を受講することを望む。特に、認定心理士資格取得希望者は、同一教員の心理学Ａと心理学Ｂを共に履修すること。

225203

科　目　名	心理学Ａ
	－現代人は生涯、学習し続ける－
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
・大学で、4年の歳月をかけて君に勝ち取ってもらいたいものは、もはや“高い学歴”ではない。
・アルベルト・オリヴェリオが言うように「『若い頃に何年もかけて勉強したことが、生涯にわたって役に立つものだ』という考え方は、変化の流れが今よりずっとゆっくりしていた昔のことである。それに対して現在では、時代の流れや変化の波が急速に訪れるために、新しい能力を身につけ、新たな視点から現実を眺め、考え方を変化させていく必要に迫られている」のである。
・そう、大学でしっかりと握り締めて欲しいものは、「必要に応じて自らの能力を高めていく学習、つまり生涯学習し続ける力とそのノウハウ」なのである。
・授業では、特に心理学Ａでは、この時代に生まれた「人間としての自分」を知ることを、心理学Ｂでは、現代社会が変わり、人間の生き方そのものも新しい時代を迎えたいま、「現代を生きる人間としての自分」をうまく適応させていくことを、学ぼうとしている。

〔講義内容〕
①心理学Ａは、心理学Ｂにて自由に自らの生き方を模索するために、分厚い教科書が教えようとしている人間の姿を、その仕組み、構造図、概念、実際の行動やこころと言われている物の基礎様式に沿って学ぶものである。
②心理学Ｂは、Ａからの学習内容が継続的に流れるように組み立て、生涯役立つ「学習法」を、古典的な解釈にさらに新たなメタ認知的アプローチを加えて学ぶものである。

〔講義のすすめ方〕
・以前から、大学で心理学の授業を面白く学ぶためには、理論の証明、検査や実験を自分達の手で試行錯誤しながらやってみることである。
・勿論講義が中心になるが、事情の許す限り諸検査や実験等を実施したいと思う。
・そのためには、学生諸君が皆一丸となって積極的に授業に出席し、楽しんで実験等に力を発揮してくれることを期待する。

〔教　　材〕
教科書：「心理学〔第3版〕」・鹿取 / 杉本編・東京大学出版会・2400＋ tax
参考図書：「学ぶ技術」・A. オリヴェリオ著、川本訳・創元社・2000＋ tax

〔成績評価の方法・基準〕
①出席状況
②期末試験
③特に、不正出席や“カードタッチのみの退室”は厳罰に処す。
④「白鷗大学試験規程」に沿い、授業数の１/３以上を欠席したものは、その時点で受験資格を失う。

〔履修のポイント・注意点〕
注意：心理学の講義は複数開講されるので、登録した授業とは異なった授業に間違って出席しないように。
　その場合、どちらからも単位を与えることは出来ないので、十分に気をつけて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
特になし。

225301

科　目　名	心理学Ｂ
	私たちの認知能力
教　員　名	神戸　文朗

〔**講義目的**〕
心理学という広い学問領域の中で、一般教養の心理学として何を伝えるかということはなかなか難しいことです。多くの入門書を見ると、知覚、学習、発達、人格、社会、といった個別領域の紹介に留まっており、それら領域を一人の（あるいは集団としての）人間のもつ多元的な能力や特徴の一部として捉えようとするものは多くはないように思います。そこで、私の心理学Ａ、Ｂでは、人間とは何かという問題意識を持ち続ける中で各領域の知識を関連付けながら紹介したいと思います。これにより、皆さん自身の中で個別的な知識を超えた総合的な人間観が確立できることを望んでいます。さて、心理学は「こころ」を科学的に研究する学問といわれますが、「こころ」は直接的に見ることも触ることもできません。そこで心理学では従来から人間（より広くは動物）の行動を通して「こころ」を知ろうとしてきました。心理学Ａでは、人間にとって行動とはどのような意味を持ち、どのような性質を持っているのか、という問いを中心に講義を展開していくつもりです。これによって人間と他の動物との生物学的機構の共通性が明らかになるでしょう。一方、特定の行動が選択され、特定のタイミングで出現するのは脳内での複雑な情報処理の結果であるといえます。心理学Ｂでは、環境から入ってくる情報がどのように処理され、どのように貯蔵され、更にはどのように環境からの情報を超えたより高度な情報処理へと進んでいくかを追いかけていこうと思います。これによって、われわれの高度な認知的能力がいかなる方法で実現されているかについて展望できればと思います。

〔**講義内容**〕
感覚と知覚
感覚の種類
視覚とその目的
様々な視覚現象
認知障害
記憶
短期記憶と長期記憶
宣言的記憶と非宣言的記憶
記憶障害
言語
文の構造
言語野
言語障害
思考
スキーマ
知識とイメージ
問題解決
思考の座

〔**教　　材**〕
講義内容に示されたテーマ順に、教材を利用しながら説明します。皆さんは熱心にノートを取ることを期待されています。教材としては鹿取・杉本・鳥居編「心理学第３版」（東大出版）を使います。同書は説明、図、表等を参照する目的で使用するものであって、講義の進め方は必ずしも同書の配列どおりではありません。

〔**成績評価の方法・基準**〕
成績評価は基本的には定期試験の結果に基づきます。判定基準は得られた得点分布に基づきます。

〔**履修のポイント・注意点**〕
熱心にノートをつけることによって人間とはどのような存在なのかという点に更に興味が湧いてくることを期待します。

〔**科目内容の位置付け**〕
基礎領域の心理学。

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
前提科目はありません。心理学Ａと心理学Ｂで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので心理学を受講することを望みます。認定心理士資格取得希望者は同一教員の心理学Ａ（心理学専攻の学生の場合は基礎心理学Ａ）と心理学Ｂ（心理学専攻の学生の場合は基礎心理学Ｂ）を共に履修する必要があります。日本心理学会ではＡとＢを共に履修した場合に限りＡ領域での４単位を認めています。

225302

科　目　名	心理学Ｂ
	心理学の基礎
教　員　名	津野田　聡子

〔講義目的〕
本講義は心理学Ａと同様、心理学における複数の基礎的なトピックについて取り上げ、概説する。本講義の目的についても心理学Ａと同様、心理学の基礎を理解することを通して、日常場面における心理的なことがらについて自ら考察できるようになることである。本講義では心理学Ａよりもやや専門性の高い内容もあつかう。

〔講義内容〕
講義で取り上げる主なトピックは次の通りである。

記憶：記憶のモデル、記憶の歪み、記憶の障害
学習：学習のモデル
脳と心：脳の機能区分、脳イメージング
神経心理：脳損傷と脳機能障害
社会心理：社会的ジレンマ
ストレス：ストレスとコーピング
心理療法

〔講義のすすめ方〕
基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行う。必要に応じて視覚的補助資料等も用いる予定である。

〔教　　材〕
教科書：「はじめて出会う心理学　改訂版」・長谷川寿一、東條正城、大島尚、丹野義彦、廣中直行・有斐閣アルマ
参考図書：適宜、講義において紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は、学期末の定期試験（70％）、出席状況（30％）による。

〔履修のポイント・注意点〕
教員による講義形式の科目ではあるが、受講にあたっては、講義をもとに自ら積極的かつ発展的に考えようとする気持ちを持って受講していただきたい。

〔科目内容の位置付け〕
基礎的な内容の心理学に位置付けられる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は特にないが、心理学Ａと心理学Ｂで通常の基礎領域の心理学をカバーしているので、両心理学を受講することを望む。特に、認定心理士資格取得希望者は、同一教員の心理学Ａと心理学Ｂを共に履修すること。

225303

科　目　名	心理学Ｂ
	「(生涯) 学習社会に生きるための心理学」
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
①大学で、4年の歳月をかけて君に勝ち取って貰いたいものは、もはや“高い学歴”ではない。
②アルベルト・オリヴェリオが言うように「『若い頃に何年もかけて勉強した事が、生涯にわたって役立つものだ』という考え方は、変化の流れが今よりずっとゆっくりしていた昔のことである。それに対して現在では、時代の流れや変化の波が急速に訪れるために、新しい能力を身につけ、新たな視点から現実を眺め、考え方を変化させていく必要に迫れられている」。
③そう、大学でしっかりと握り締めて欲しいものは、「必要に応じて自らの能力を高める学習、つまり生涯学習し続ける力とそのノウハウ」なのである。
④授業では、特に心理学Ａでは、この時代に生まれた「人間としての自分」を知ることを、心理学Ｂでは、現代社会が変わり、人間の生き方そのものも新しい新しい時代を迎えた今、「現代を生きる人間としての自分」をうまく適応させて行くことを、学ぼうとしている。

〔講義内容〕
①心理学Ａで「人間のこころと言われている物の基礎概念」を学んだのを受けて、心理学Ｂでは自由に自らの生き方を摸索する。
②心理学Ｂは、Ａでの学習内容が継続的に流れるように組み立て、生涯役に立つ「学習法」を古典的な解釈は勿論、新たなメタ認知的アプローチを加えて学ぶものである。

〔講義のすすめ方〕
①大学で心理学の授業を面白く学ぶためには、理論の証明・諸検査・実験等を自分達の手で試行錯誤しながらやってみることである。
②勿論講義が中心になるが、事情の許す限り実験や検査、KJ 法によるデータ取り等を実施したい。
③そのためには、学生諸君が皆一丸となって積極的に授業に出席し、楽しんで実験棟に力を発揮してくれることを期待する。

〔教　　材〕
教科書：(心理学Ａに続いて)「心理学〔第2版〕」・鹿取／杉本編・東京大学出版会・2400＋tax
参考図書：「学ぶ技術」・A. オリヴェリオ著、川本訳・創元社・2000＋ tax

〔成績評価の方法・基準〕
①出席状況
②期末試験
③特に、不正出席や“カードタッチのみの退室”は厳罰に処す。
④「白鷗大学試験規程」に沿い、授業数の1/3以上を欠席した学生は、その時点で受験資格を失う。

〔履修のポイント・注意点〕
注意：「心理学」の講義は全学で複数開講されているので、あなたが登録した授業とは別の授業に間違って出席しないように。その場合、どちらの授業からも単位が与えられないので、十分気をつけて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
特になし。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
心理学ＡおよびＢはそれぞれ独立して履修できるが、両方を履修する学生も多いことから、一年を通して学んで納得できるスタイルに組み立てられているので、参考に。

226501

科　目　名	社会心理学Ａ
	社会的行動を探る
教　員　名	細田　一秋

〔講義目的〕
「人間は生物・心理・社会的存在である。」といわれます。私たちを理解するために、さまざまな学問が誕生しました。あなたがこれから学ぼうと企てている「社会心理学」も、そのひとつです。この学問は、内なる心理と外なる社会にまたがっており、とめどなく広範にわたる研究領域をかかえています。
半期の少ない授業回数ですから、次の２項目にしぼって、講義を進めます。まず「内なる心理」として、社会的行動をひき起こす心理過程を体系的に解説します。ついで「外なる社会」へのかかわりとして、具体的な対人行動を紹介してゆきます。
授業のなかで、あなた自身の対人関係が見直せるように、社会心理学的な方法論・物の見方を修得してほしいと希望します。単位を無事に取得するだけでなく、「社会」人としてあなたが向上すること、願っています。

〔講義内容〕
第１回：講義の進め方と概要
第２回：心理学のなかでの位置づけ
第３回：研究の方法
第４回：社会的行動のメカニズム
第５回：動物行動学からのアプローチ
第６回：古典的条件づけからのアプローチ
第７回：オペラント条件づけからのアプローチ
第８回：社会的行動（親和行動）
第９回：社会的行動（友人選択）
第10回：社会的行動（対人魅力）
第11回：社会的行動（印象形成）
第12回：社会的行動（集団の影響）
第13回：社会的行動（リーダーシップ行動）
第14回：社会的行動（説得的コミュニケーション）
第15回：定期試験

〔講義のすすめ方〕
受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ないでしょう。でも、教室では活発な意見交換を期待します。教科書は使用しません。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

〔教　　材〕
教科書：使用しません。
参考書：
「人間関係の心理学（第2版)」斉藤勇　誠信書房　2310円
「現代社会心理学」末永、安藤　東京大学出版会　3000円
「社会心理学キーワード」山岸俊男　有斐閣　1600円
「グラフィック学習心理学－行動と認知」春木、山内　サイエンス社 2550円

〔成績評価の方法・基準〕
評価方法：定期試験を１回、学期末に実施します。ただし、2/3以上出席した学生にのみ、受験資格をあたえます。
判定基準：定期試験の得点で、成績を100％評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
履修のポイント：社会心理学はあなた自身を研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知見を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人をみる眼」とが格段に進歩します。
注意点：単位を得るには2/3以上の出席が必要です。教科書を用いませんので、教室では細心の注意を払ってノートを採って下さい。

〔科目内容の位置付け〕
家庭・地域社会・学校・会社という人間関係の大海に、私たちは生きています。「社会心理学」はこの海でのとても実用的な舟といえます。また、未来の組織人として必須の科目でもあります。基本的な事項しかふれられませんが、その一端をぜひ学んでほしいと願っています。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
前提科目：ありません。「心理学」をすでに学んでいれば申し分ないですが、それを前提とした講義ではありません。「社会心理学」を理解するために必要な心理学の基礎知識は、講義のなかで徹底してカバーしてゆきます。
関連科目：半期の短い講義であるため、補完科目として「社会心理学Ｂ」の受講を薦めます。その他の関連科目について触れておきます。基礎科目として「心理学」の受講を薦めます。職場における実践的な対人関係を「産業心理学」で学べます。「経営組織論」では組織行動が起こるシステム環境が理解されます。マスとしての既存社会は

強烈な行動決定因です。社会が私たちをどう育み・歪めるか「社会学」で学んで下さい。

226503

科　目　名	社会心理学A
	人間関係でもめ事が起こる：「対人ストレス」について
教　員　名	加藤　司

〔講義目的〕
本講義の目的は、社会心理学に関する関心を深め、関心のある領域について自ら学ぶ姿勢を養うことである。講義を聴講し、単に、学術用語を暗記することは、本講義の目的ではない。本講義を聴講し、関心を抱いたトピックスについて、図書館などへ行き、積極的に自ら学んでほしい。

〔講義内容〕
本講義では、「対人ストレス」という領域を中心に、社会心理学のさまざまなトピックスを取り上げ、説明する。対人ストレスとは、人間関係で生じるストレスフルな出来事のことであり、日常生活で経験する対人ストレスについて、どのようなストレス解消方法を用いることが適切であるのかなどについて話をする。講義で取りあげる内容は、対人ストレスばかりではなく、社会心理学に関するいくつかのトピックスについても取りあげ解説する。

〔講義のすすめ方〕
講義は、テキストを中心に、テキストの前から順番に進めていく予定である。講義に先立ち、予習や復習の必要はない。出席はとらない。また、ノートを取るかとらないかも学生の自主性に任せるが、できれば、暗記をすることが目的ではないので、関心のある領域について、その意義を理解し、より関心を深めてほしい。

〔教　　材〕
テキストとして、「対人ストレスコーピングハンドブック」、2008年、加藤司（著）、ナカニシヤ出版　ISBN　978-4-7795-0222-4を用いる。

〔成績評価の方法・基準〕
成績は試験の結果によって決定する。試験の解答は、テキストの索引（ゴシック体表記）から出題される。つまり、索引の単語が試験の解答となるような問題が出題される（学術用語を覚える必要はない）。暗記することが本講義の目的ではないため、テキスト、自筆ノートの持ち込みが可能である。ただし、コピー類は一切不可である（友人のノートをコピーしたり、テキストをコピーしたりしたものは不可）。留学生は電子辞書の持ち込みを可とする。試験のための講義ではないため、試験のための勉強をするようなことは望んでいない。

226601

科　目　名	社会心理学Ｂ
	社会的行動の源を探る
教　員　名	細田　一秋

〔講義目的〕
「すべての学問は人間の理解をめざす。」と言われます。「人間とは何か？」を解くために、さまざまな学問が誕生しました。あなたが学ぼうとしている「社会心理学」も、その１つです。講義では、社会のなかで欲求し願望を実現してゆくあなたやあなたにとってかけがえのない人々を、モティベーションを軸に探ってゆきます。
モティベーションは「行動の原因」を意味します。今ここで、ある行動が引き起こされる、このメカニズムを「動機づけ」の視点から講義します。家庭や学校、職場で、あなた自身を行動へと突き動かす生理的動機・内発的動機・社会的動機について、さらに職場への応用として「ワーク・モティベーション」について学んでください。
あなたが素朴に信じている社会的行動の原因に関する信念を、動機づけ理論にのっとって再構築できることを目標に、講義をすすめます。単位を無事に取得するだけでなく、「社会」人としてあなたが向上すること、願っています。

〔講義内容〕
第１回：講義の進め方と概要
第２回：社会心理学のなかでの位置づけ
第３回：動機づけの機能と構造
第４回：社会的行動と飢餓・渇動機
第５回：社会的行動と性動機
第６回：社会的行動と感性動機・好奇心
第７回：活動性動機
第８回：対人関係の原型としての愛着動機
第９回：やる気のもと達成動機
第10回：援助行動をひき起こす動機
第11回：攻撃行動をひき起こす動機
第12回：ワーク・モティベーション（欲求５階層理論）
第13回：ワーク・モティベーション（動機づけ・衛生理論）
第14回：ワーク・モティベーション（目標設定理論と公平理論）
第15回：定期試験

〔講義のすすめ方〕
受講者数との関係から、講義形式を採らざるを得ないでしょう。でも、教室では活発な意見交換を期待します。教科書は使用しません。参考図書を下に記しましたので、積極的に活用して下さい。

〔教　　材〕
教科書：使用しません。
参考書：
「人間関係の心理学（第2版）」斉藤勇　誠信書房　2310円
「社会心理学キーワード」山岸俊男　有斐閣　1600円
「動機づけの基礎と実際」加川元通　川島書店　4400円
「産業・組織心理学入門」岡村一成　福村出版　2310円

〔成績評価の方法・基準〕
評価方法：試験を１回、学期末に実施します。ただし、2/3以上出席した学生のみ受験資格をあたえます。
判定基準：定期試験の得点で、成績を100％評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
履修のポイント：社会心理学はあなた自身を研究対象とする学問です。自分の行動をいつも意識（反省）する癖をつけましょう。そして、各回に学んだ知見を、自分を材料に確かめて下さい。講義の理解と「人をみる眼」とが格段に進歩します。
注意点：単位を得るには2/3以上の出席が必要です。教科書を用いませんので、教室では細心の注意を払ってノートを採って下さい。

〔科目内容の位置付け〕
家庭・地域社会・学校・会社という人間関係の大海に、私たちは生きています。「社会心理学」はこの海でのとても実用的な舟といえます。また、未来の組織人として必須の科目でもあります。基本的な事項しかふれられませんが、その一端をぜひ学んでほしいと願っています。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：ありません。「心理学」をすでに学んでいれば申し分ないですが、それを前提とした講義ではありません。「社会心理学」を理解するために必要な心理学の基礎知識は、講義のなかで徹底してカバーしてゆきます。
関連科目：半期の短い講義であるため、補完科目として「社会心理学Ａ」の受講を薦めます。その他の関連科目について触れておきます。基礎科目として「心理学」の受講を薦めます。職場におけ

る実践的な対人関係を「産業心理学」で学べます。「経営組織論」では組織行動が起こるシステム環境が理解されます。マスとしての既存社会は強烈な行動決定因です。社会が私たちをどう育み・歪めるか「社会学」で学んで下さい。

226603

科　目　名	社会心理学Ｂ
	恋愛の科学
教　員　名	加藤　司

〔講義目的〕
本講義の目的は、社会心理学に関する関心を深め、関心のある領域について自ら学ぶ姿勢を養うことである。講義を聴講し、単に、学術用語を暗記することは、本講義の目的ではない。本講義を聴講し、関心を抱いたトピックスについて、図書館などへ行き、積極的に自ら学んでほしい。

〔講義内容〕
本講義では、「男女の恋愛」と「男女の別れ」をテーマに講義を行う。本講義では、愛し合ったふたりがなぜ別れてしまうのか、別れないようにするためにどうすればいいのか、別れてしまったらどうすればいいのか、浮気や不倫、そのような問題を中心に、恋愛について、さまざまなトピックスを取り上げ、説明する。恋愛に関する講義では、多くの場合、科学的ではない立場からの説明が多いが、本講義では科学的な立場から、恋愛について説明する。

〔講義のすすめ方〕
講義は、テキストを中心に、テキストの前から順番に進めていく予定である。講義に先立ち、予習や復習の必要はない。出席はとらない。また、ノートを取るかとらないかも学生の自主性に任せるが、できれば、暗記をすることが目的ではないので、関心のある領域について、その意義を理解し、より関心を深めてほしい。

〔教　　材〕
（仮）「離婚の心理学」、2009年9月発売予定、加藤司（著）、ナカニシヤ出版を用いる。テキストは現在発売されていないため、最初の講義で紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績は試験の結果によって決定する。試験の解答は、テキストの索引（ゴシック体表記）から出題される。つまり、索引の単語が試験の解答となるような問題が出題される（学術用語を覚える必要はない）。暗記することが本講義の目的ではないため、テキスト、自筆ノートの持ち込みが可能である。ただし、コピー類は一切不可である（友人のノートをコピーしたり、テキストをコピーしたりしたものは不可）。留学生は電子辞書の持ち込みを可とする。試験のための講義ではないため、試験のための勉強をするようなことは望んでいない。

227802

科　目　名	政治学Ａ
	比較政治①
教　員　名	三浦　顕一郎

〔講義目的〕
比較政治の理論と実際を学ぶ。第1回の講義で詳述するように、政治現象を持たない社会（人間の集まり）は存在しない。しかし、その政治の現れ方は、地球上の各地で様々である。その様々な政治のあり方を学び、それによって我々のイメージしている政治のあり方を再検討することが本講義の目的である。

〔講義内容〕
第１回　政治とは何か

第Ⅰ部　国家元首の比較
第２回　君主制
第３回　大統領制
第４回　比較政治の古典を読む―アリストテレス『国制』

第Ⅱ部　選挙の比較
第５回　選挙の制度
第６回　比例性と代表性
第７回　選挙と政党組織
第８回　日本の選挙制度
第９回　理論的考察―比較の意味

第Ⅲ部　議会の比較
第10回　議会の制度
第11回　議会の動態
第12回　日本の議会
第13回　理論的考察―比較の仕方

第14回　まとめ・質疑応答

〔講義のすすめ方〕
講義形式。

〔教　　材〕
特に指定しない。推薦図書を適宜教示する。

〔成績評価の方法・基準〕
学期末の定期試験により成績評価を行う。試験時間は90分を予定しており、持ち込みは一切不可とする。
また、複数回、自由提出のレポートあるいは感想文の出題を行う。これは成績評価に加点するための任意提出のものであり、提出するか否かは諸君の判断に委ねる。試験だけの成績評価に自信があれば提出せずともよし、自信がなければ提出するとよかろう。
なお、出席状況は成績評価の対象としない。オリンピックではないので、参加すること自体に特に意義を認めない。出席だけしてボーッとしていることは、人生の貴重な時間の無駄遣いである。成績評価に当たっては学習したか否かを重視し、それのみ（すなわち試験とレポート）を成績評価の対象とする。

〔履修のポイント・注意点〕
出席する以上は真剣に講義を聴くこと。

〔科目内容の位置付け〕
一般教養科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は全くない。関連科目は政治学Ｂ。

227902

科　目　名	政治学Ｂ
	比較政治②
教　員　名	三浦　顕一郎

〔講義目的〕
比較政治の理論と実際を学ぶ。第Ⅰ部の講義で詳述するように、現代の世界では、ほとんどすべての国が民主主義を標榜している。しかし、各国の政治は様々である。なぜ等しく民主主義を標榜しながら、その政治形態は異なるのであろうか。世界の様々な政治形態を知り、そのことを通じて現代世界の民主主義について考えることが本講義の目的である。

〔講義内容〕
第１回　政治の二側面

第Ⅰ部　民主主義の比較
第２回　民主主義とは何か
第３回　民主主義の諸制度
第４回　比較政治の古典を読む―モンテスキュー『法の精神』

第Ⅱ部　権力分立の比較
第５回　議院内閣制と大統領制
第６回　リーダーシップの比較
第７回　日本のリーダーシップ
第８回　理論的考察―比較の意義

第Ⅲ部　その他
第９回　官僚制度の比較
第10回　司法制度の比較
第11回　政府間関係の比較
第12回　外交の比較
第13回　理論的考察―制度の意義
第14回　まとめ・質疑応答

〔講義のすすめ方〕
講義形式。

〔教　　材〕
特に指定しない。推薦図書を適宜教示する。

〔成績評価の方法・基準〕
学期末の定期試験により成績評価を行う。試験時間は90分を予定しており、持ち込みは一切不可とする。
また、複数回、自由提出のレポートあるいは感想文の出題を行う。これは成績評価に加点するための任意提出のものであり、提出するか否かは諸君の判断に委ねる。試験だけの成績評価に自信があれば提出せずともよし、自信がなければ提出するとよかろう。
なお、出席状況は成績評価の対象としない。オリンピックではないので、参加すること自体に特に意義を認めない。出席だけしてボーッとしていることは、人生の貴重な時間の無駄遣いである。成績評価に当たっては学習したか否かを重視し、それのみ（すなわち試験とレポート）を成績評価の対象とする。

〔履修のポイント・注意点〕
出席する以上は真剣に講義を聴くこと。

〔科目内容の位置付け〕
一般教養科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は全くない。関連科目は政治学Ａ。

229201

科　目　名	情報社会科学Ａ
	コンピュータとコミュニケーション―情報ネットワーク化時代の情報革新―
教　員　名	森川　信男

〔講義目的〕
私達を取り巻く社会は、特にここ四半世紀における情報化の進展、とりわけインターネット化、ブロードバンド化、ユビキタス化の展開に伴って、大きな変革と革新を強く迫られて来ている。
　本講義では、社会における情報化の進展、すなわち情報技術の革新と情報思考の展開について、特に「情報ネットワーク化時代の情報革新」についての基礎的な知識と理解を深める。

〔講義内容〕
１．情報革新と社会変革
２．組織環境の本質と変容
３．コンピュータの基本構成と発展経緯
４．コンピュータの発展段階
５．発展段階からみたコンピュータの進化特性
６．コミュニケーションの本質と特性
７．コミュニケーションの類型と変容
８．先進組合事例情報の創出－提供メカニズム

〔講義のすすめ方〕
本講義では、以上の如き内容の講義を行なうが、授業は毎時間「参加共創型」方式で実施する。情報技術の発展に関しては、ビデオを活用した授業となる。

〔教　　材〕
森川信男著『コンピュータとコミュニケーション―情報ネットワーク化時代の情報革新―』学文社、2006年。

〔成績評価の方法・基準〕
授業への出席と参加を重視する。「平常小テスト（50％）」と「期末小テスト（50％）」によって評価する。

〔科目内容の位置付け〕
現代社会において、職業生活と日常生活を遂行していくための基礎的な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特別にはないが、社会における情報化の進展に関する基礎的な知識は、今日では大抵の科目にとってきわめて重要な事柄である。
　情報社会科学Ｂと一緒に履修することが望ましい。

229301

科　目　名	情報社会科学Ｂ
	社会システムと社会情報―情報ネットワーク化時代の基本社会―
教　員　名	森川　信男

〔講義目的〕
私達を取り巻く社会は、特にここ四半世紀における情報化の進展、とりわけインターネット化、ブロードバンド化、ユビキタス化の展開に伴って、大きな変革と革新を強く迫られて来ている。
　本講義では、社会における情報化の進展、すなわち情報技術の革新と情報思考の展開について、特に「情報ネットワーク化時代の社会組織」についての基礎的な知識と理解を深める。

〔講義内容〕
１．「情報」の本質
２．情報技術の革新
３．情報技術の複合化
４．情報化社会の基本思考基盤
５．情報化社会の社会思考基盤
６．情報化社会の社会形成原理
７．ＩＣＴ化と経営革新
８．ＩＣＴ化と社会革新

〔講義のすすめ方〕
本講義では、以上の如き内容の講義を行なうが、授業は毎時間「参加共創型」方式で実施する。情報技術の発展に関しては、ビデオを活用した授業となる。

〔教　　材〕
森川信男著『社会システムと社会情報―情報ネットワーク化時代の基本社会―』（仮題）
学文社、2009年。

〔成績評価の方法・基準〕
授業への出席と参加を重視する。「平常小テスト（50％）」と「期末小テスト（50％）」によって評価する。

〔科目内容の位置付け〕
現代社会において、職業生活と日常生活を遂行していくための基礎的な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特別にはないが、社会における情報化の進展に関する基礎的な知識は、今日では大抵の科目にとってきわめて重要な事柄である。
　情報社会科学Ａと一緒に履修することが望ましい。

231001

科　目　名	日本国憲法／憲法・行政法入門
教　員　名	齋藤　和豊

〔**講義目的**〕
　この講義では、実際に裁判所に持ち込まれた具体的事例を題材としつつ、日本国憲法で採用された基本原理、及び、それを具体化するための法的仕組みを学習の対象とする。

〔**講義内容**〕
　講義の内容は、以下の通りを予定している。但し、履修者の希望、人数等を理由に予定が変更する場合もある。

　1. ガイダンス・憲法の全体像
　2. 精神的自由権（1）：表現の自由
　3. 精神的自由権（2）：信教の自由と政教分離
　4. 精神的自由権（3）：学問の自由と大学の自治・教育を受ける権利
　5. 憲法と経済
　6. 参政権
　7. 包括的基本権
　8. 行政法の全体像
　9. 法律による行政の原理と裁量統制
　10. 行政の行為形式
　11. 行政手続法
　12. 行政争訟法制度（1）：行政不服審査法
　13. 行政争訟法制度（2）：行政事件訴訟法
　14. 国務請求権：国家の責任と国家補償法制度
　15. 定期試験

〔**講義のすすめ方**〕
　講義形式で授業を進める。必要に応じて、適宜、レジュメ等を配布する。

〔**教　　材**〕
　必ず条文を参照するための六法（種類は問わない。）を持参すること。教科書は特に指定しないが、憲法・行政法の学習に必要と思われる一般的な教科書を講義中に紹介する。受講者は、是非、実際に本を手に取り自分に合った教科書を見つけて欲しい。

〔**成績評価の方法・基準**〕
　成績評価は、原則として期末試験の点数で評価を行う。但し、レポートをはじめとする提出物を課した場合、これを成績評価に加味する場合がある。

〔**履修のポイント・注意点**〕
　履修者は、法律の初学者であることを前提として講義を進める。高校までの学習で、憲法に関しては多くの予備知識があるかもしれない。しかし、大学における憲法の講義は、法理論が重視されることから、高校における憲法の授業とは大きく異なるという点は、確認をして欲しい。

〔**科目内容の位置付け**〕
　憲法・行政法は、多数ある法規範の中でも、公法における中心的な法規範となる。半期という時間的制約からも入門的内容に留まるが、本格的に法律学を学んでいく際の手がかりを提供できればと考えている。

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
　法律学系の科目全般

231003

科　目　名	日本国憲法
	憲法を考える上で、「重要なことは何なのか？」を探る。
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	小野　義典

〔講義目的〕
本講義の目標は、日本国憲法の本質を理解することにある。憲法の本質の理解に当って、その必要となる事柄を、教授することを予定している。具体的には、憲法上の諸問題、憲法判例、様々な学説などを交えながら講義を進めることである。また同時に、教養ある大学人の育成と、教員採用試験への対策を行うことも、考えている。

本講義の概要は、第一に、憲法の史的展開（憲法史・立法過程を含む制定経緯など）、第二に、日本国憲法の三大原理である、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に、日本国憲法を概観すること、第三に、日本国憲法が我が国の実社会に対して、どのような影響を与えているのかを考える、という三点にある。

講義に際して、教員は、平易な言葉で、分かりやすく、かつ、双方向の対話を心掛ける。

〔講義内容〕
講義内容は以下の通りであり、順番に進めていく予定である。

1. オリエンテーション（開講に当っての説明、講義概観）とイントロダクション（講義導入）
講義を受講する際の注意事項等を伝達する。また、憲法を学ぶ際の重点を講義する。

2. 憲法史
日本国憲法が制定されるまでの経緯を概観する。また、憲法の概念が生じた欧米の思想を教授する。

3. 日本国憲法上諭、前文
上諭、前文についての法規範性、裁判規範性などを考え、大日本帝国憲法との比較も行う。

4. 天皇
国民主権と天皇の関係、象徴天皇制の問題、天皇の国事行為など、憲法上の諸規定を講義する。

5. 平和主義
「戦力」についての学説を理解し、また、国際協調主義と平和主義の整合性などと共に、統治行為論も検討する。

7. 基本的人権（1）人権総論・国民の権利義務
人権保障の歴史と、日本国憲法の人権保障について、権利義務関係と保障範囲を考える。

7. 基本的人権（2）包括的人権・平等権
幸福追求権と平等原則、平等権について、学説や判例を交えて考える。

8. 基本的人権（3）自由権・社会権
人権の中でも、歴史のある自由権と、生存権を中心とした社会権を、判例を通じて理解する。

9. 基本的人権（4）新しい人権・受益権
新しい人権であるプライバシー権や名誉権、また、受益権などを理解する。

10. テーマ別講義
憲法上の諸問題で、受講者の関心が比較的高かった問題や、直近の事例について、判例や学説を検討する。

11. 三権分立
統治の機能である、司法（特に裁判所）・立法（特に国会）・行政（特に内閣）のしくみを理解する。

12. 選挙・政党
民主政の主要なアクターである政党について、選挙の役割と選挙制度を併せて理解する。

13. 財政・地方自治
国家財政の制度、続いて、地方自治の本旨を理解する。

14. 最高法規性
最高法規としての憲法の役割、及び、憲法と条約の関係などを理解する。

15. 定期試験（90分間）

※講義の内容は、場合によって、多少の変動もありうることを了解されたい。

〔講義のすすめ方〕
教員の黒板への要点板書、及び口述筆記により講義を進行させる予定である。講義は、教科書の各章を基準として進む。日本国憲法の条文にも言及することが多々ある。従って、教科書の所持が必須である。また、講義中、受講者は、教員の板

書と並んで、教員が述べる、講義の重要部分に関して、詳細にノートして欲しい。講義進行の詳細を、第一回目の講義の際に述べる。

なお、本講義は、私語厳禁である。

〔教　　材〕
＜教科書＞
抱喜久雄・野畑健太郎編『憲法学事始』（一学舎）

＜参考書＞
野畑健太郎・池田実編著『テキストブック日本国憲法』（嵯峨野書院）

※参考文献を、講義中に幾つか推薦する。

※憲法関係のものに留まらず、さまざまな書籍や新聞・雑誌等の活字に親しむことが望ましい。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は、期末試験の点数で評価を行う。点数配分は、期末試験100点を満点とするものである。期末試験の未受験者に、教員は、成績評価を行わない。期末試験受験が成績評価の条件となるので、十分注意すること。但し、出席点、レポートをはじめとする提出物も成績評価に加味することがある。評価方法の詳細を、第一回目の講義の際に述べるので、出席のこと。

・成績評価の方法は、「履修規定」に準ずる。

・受験資格は、「保育士資格規定」に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
評価方法でも述べた通り、期末試験受験が成績評価の条件となるので、注意すること。

・全回出席を原則とする。

オフィス・アワー：
教員への連絡を行いたい場合は、講義前後にコンタクトを取るか、あるいは、教員メールアドレス宛にメールを送信すること。なお、シラバスがＷＥＢ上にて公開になっている関係上、この場にメールアドレスを記載することが出来ないので、第一回目の講義の際に、受講者に直接伝える。

〔科目内容の位置付け〕
全学年を対象としている。もちろん、1年生からでも履修出来るように配慮しているので、安心して欲しい。

・保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。法学の初学者であることを前提にして、講義を進める。

但し、社会科学の基礎となる知識を要求する科目である関係上、中等教育で培ったはずの、「公民」や「日本史」「世界史」「政治経済（政治分野）」の知識が必要になることが多分にある。良い機会であるから、これまで学んだ知識をまとめる意味でも、もう一度見直すことも検討して欲しい。

また、時事問題にも触れる機会が多くなることが予想されるので、普段から、新聞・雑誌・ＴＶなどで、問題意識を持ってニュースに触れることが望ましい。

232001

科　目　名	解析学
	Excel で学ぶ微分積分学
教　員　名	黒澤　和人

〔講義目的〕
　社会科学系の学生にとって必要とされる数学の主要なテーマである微分法と積分法を取り上げ、基礎から応用までの全体を概観する。
　ついては、表計算ソフトの Excel を使い、問題を数値的に処理する方法を考える。
　また、同じく Excel のグラフ描画機能を使い、結果をビジュアルに表現し、意味の理解に役立てる方法を考える。

〔講義内容〕
［微分法］
・１変数関数のグラフ
・１変数関数の微分法
・代数方程式の解法
・２変数関数のグラフ（曲面のグラフ）
・２変数関数の微分法（偏微分法）
［積分法］
・１変数関数の積分
・２変数関数の積分（重積分）
［微積分の応用］
・最適解を求める
・関数の級数展開
・フーリエ解析
・微分方程式の解曲線

〔講義のすすめ方〕
　表計算ソフトの Excel を利用して、数値実験とビジュアル図形の描画を行う。
　各単元とも、デモンストレーションを見た後、自分で実際に Excel を操作し、練習問題を解くということを繰り返していく。

〔教　　材〕
　毎回プリントを配布する予定である。
　参考文献は、必要に応じて提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　出席状況、授業での課題処理の状況、宿題の提出状況、期末の最終レポートの結果、等を点数化して評価する。

出席・提出物の回数　　２０％
授業内課題の処理状況　２５％
宿題の処理状況　　２５％
期末の最終レポート　　３０％

〔履修のポイント・注意点〕
　高校の微積との違いは次の通り。
・紙と鉛筆を使ってひたすら式の変形に明け暮れるようなことはしない。
・すべてを数値的に処理し、具体的に分かりやすい形で結果を表示することに主眼を置く。
・偏微分、重積分、フーリエ解析といった新しい話題が追加される。
　宿題やレポートは、Word や Excel で作ってもらう。式を見栄え良く表示する方法も指導する。
　メモを取るためにノートは必要である。

〔科目内容の位置付け〕
　数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目である。
　社会科学系学生にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示される。
　表計算ソフト Excel への習熟が期待できる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　関数のグラフの描画という基本からやり直すので、高校での微積の学習や Excel の受講経験の有無は問わない。
　前提科目：なし。
　関連科目：代数学、数学概論、統計学、物理学、経済学、心理学、情報・メディア系科目。

240101

科　目　名	環境科学Ａ
	文系のための環境科学入門
教　員　名	山野井　貴浩

〔講義目的〕
現在、地球規模で起こっている環境問題について、どのような仕組みで起こっているのかを理解し、地球人としてどのように振舞うことが必要なのかを考える。

〔講義内容〕
環境科学とはどのような学問であるかについて紹介する．次いで，地球が抱えている様々な環境問題についてひとつずつ詳しく紹介する。必要に応じて高校生物や高校化学の復習も行う。

＜講義で扱う環境問題＞

・地球温暖化
・大気汚染
・酸性雨
・水環境
・生物多様性の消失

〔講義のすすめ方〕
初学者でも充分理解できるように説明する。レポートを書くために、板書事項をノートにとる必要がある。

〔教　　材〕
必要に応じてプリントを配布する。参考書があればその都度、授業で紹介する予定である。

〔成績評価の方法・基準〕
・出席 10%：毎回授業後に感想を提出。
　3分の1以上の欠席は不可。
・レポート 40%
・定期試験 50%

〔履修のポイント・注意点〕
レポートを複数回提出してもらうが、レポートの書き方は丁寧に説明する。
この講義を通して、レポートの書き方も身に付けてもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
多数の選択教養科目の１つであり、副題の通り、文系のための環境科学入門である。講義内容を理解すれば、教員採用試験等の一般教養で出題される環境問題に関する問題に充分答えられるようになるはずである。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
環境科学Ｂも合わせて履修すると理解が深まるはずである。

240201

科　目　名	環境科学Ｂ
	文系のための環境科学入門
教　員　名	山野井　貴浩

〔講義目的〕
現在、地球規模で起こっている環境問題について、どのような仕組みで起こっているのかを理解し、地球人としてどのように振舞うことが必要なのかを考える。

〔講義内容〕
環境科学Ａで扱いきれなかった環境問題を扱う。

＜講義で扱う環境問題＞

・オゾン層破壊
・土壌汚染
・エネルギー問題
・ゴミ問題
・ダイオキシンと環境ホルモン
・遺伝子組み換え食品

〔講義のすすめ方〕
初学者でも充分理解できるように説明する。レポートを書くために、板書事項をノートにとる必要がある。

〔教　　材〕
必要に応じてプリントを配布する。参考書があればその都度、授業で紹介する予定である。

〔成績評価の方法・基準〕
・出席 10%：毎回授業後に感想を提出。
　3分の1以上の欠席は不可。
・レポート 40%
・定期試験 50%

〔履修のポイント・注意点〕
レポートを複数回提出してもらうが、レポートの書き方は丁寧に説明する。
この講義を通して、レポートの書き方も身に付けてもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
多数の選択教養科目の１つであり、副題の通り、文系のための環境科学入門である。講義内容を理解すれば、教員採用試験等の一般教養で出題される環境問題に関する問題に充分答えられるようになるはずである。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
環境科学Ａと合わせて履修すると理解が深まるはずである。

241501

科　目　名	数学A
	Excel で学ぶ大学教養数学
教　員　名	黒澤　和人

〔講義目的〕
　社会科学系の学生にとって必要とされる数学の主テーマである線形代数と微積分法を取り上げ、基礎から応用までの全体を概観する。
　ついては、表計算ソフトの Excel を使い、問題を数値的に処理する方法を考える。
　また、同じく Excel のグラフ描画機能を使い、結果をビジュアルに表現し、意味の理解に役立てる方法を考える。

〔講義内容〕
［前期：線形代数］
・図形の移動
・行列と行列式
・アフィン変換
・連立一次方程式の数値解法
・固有値と固有ベクトル
・ＣＧ（コンピュータ・グラフィックス）の数理
・曲線と曲面
・マルコフ過程
・実験計画法
［後期：微積分法］
・１変数関数のグラフ
・１変数関数の微分法
・代数方程式の解法
・２変数関数のグラフ（曲面のグラフ）
・２変数関数の微分法（偏微分法）
・１変数関数の積分
・２変数関数の積分（重積分）
・最適解を求める
・関数の級数展開
・フーリエ解析
・微分方程式の解曲線

〔講義のすすめ方〕
　表計算ソフトの Excel を利用して、数値実験とビジュアル図形の描画を行う。
　各単元とも、デモンストレーションを見た後、自分で実際に Excel を操作し、練習問題を解くということを繰り返していく。

〔教　　材〕
　毎回プリントを配布する予定である。
　参考文献は、必要に応じて提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　出席状況、授業での課題処理の状況、宿題の提出状況、期末のレポートの結果、等を点数化して評価する。

　出席・提出物の回数　　２０％
　授業内課題の処理状況　２５％
　宿題の処理状況　　２５％
　期末の最終レポート　　３０％

〔履修のポイント・注意点〕
　高校の数学との違いは次の通り。
・紙と鉛筆を使ってひたすら式の変形に明け暮れるようなことはしない。
・すべてを数値的に処理し、具体的に分かりやすい形で結果を提示することに主眼を置く。
・線形打数では、行列や連立一次方程式の多次元への拡張、曲面、ＣＧ、マルコフ過程といった新しい話題が追加される。
・微積分法では、偏微分、重積分、フーリエ解析といった新しい話題が追加される。
　宿題やレポートは、Word や Excel で作ってもらう。式を見栄え良く表示する方法も指導する。
　メモをとるためにノートは必要である。

〔科目内容の位置付け〕
　数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目である。
　社会科学系学生にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示される。
　表計算ソフト Excel への習熟が期待できる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　前期は、図形の移動とその描画という基本から、また後期は、関数のグラフの描画という基本から、それぞれやり直すので、高校での数学の学習や Excel の受講経験の有無は問わない。
　前提科目：なし。
　関連科目：数学Ｂ、統計学、物理学、経済学、心理学、情報・メディア系科目。

241701

科　目　名	代数学
	Excel で学ぶ線形代数学
教　員　名	黒澤　和人

〔講義目的〕
　社会科学系の学生にとって必要とされる数学の主テーマである線形代数学を取り上げ、基礎から応用までの全体を概観する。
　ついては、表計算ソフトの Excel を使い、問題を数値的に処理する方法を考える。
　また、同じく Excel のグラフ描画機能を使い、結果をビジュアルに表現し、意味の理解に役立てる方法を考える。

〔講義内容〕
［基礎］
・図形の移動
・行列と行列式
・アフィン変換
・連立一次方程式の数値解法
・固有値と固有ベクトル
［応用］
・ＣＧ（コンピュータ・グラフィックス）の数理
・曲線と曲面
・マルコフ過程
・実験計画法

〔講義のすすめ方〕
　表計算ソフトの Excel を利用して、数値実験とビジュアル図形の描画を行う。
　各単元とも、デモンストレーションを見た後、自分で実際に Excel を操作し、練習問題を解くということを繰り返していく。

〔教　　材〕
　毎回プリントを配布する予定である。
　参考文献は、必要に応じて提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　出席状況、授業での課題処理の状況、宿題の提出状況、期末のレポートの結果、等を点数化して評価する。

　出席・提出物の回数　　２０％
　授業内課題の処理状況　２５％
　宿題の処理状況　　２５％
　期末の最終レポート　　３０％

〔履修のポイント・注意点〕
　高校の行列との違いは次の通り。
・紙と鉛筆を使ってひたすら式の変形に明け暮れるようなことはしない。
・すべてを数値的に処理し、具体的に分かりやすい形で結果を表示することに主眼を置く。
・行列や連立一次方程式の多次元への拡張、曲面、ＣＧ、マルコフ過程といった新しい話題が追加される。
　宿題やレポートは、Word や Excel で作ってもらう。式を見栄え良く表示する方法も指導する。
　メモをとるためにノートは必要である。

〔科目内容の位置付け〕
　数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目である。
　社会科学系学生にとって必要不可欠な計算および表現の道具としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示される。
　表計算ソフト Excel への習熟が期待できる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　図形の移動とその描画という基本からやり直すので、高校での行列の学習や Excel の受講経験の有無は問わない。
　前提科目：なし。
　関連科目：数学概論、解析学、統計学、物理学、経済学、心理学、情報・メディア系科目。

241801

科　目　名	数学概論
	大学生のための教養数学
教　員　名	黒澤　和人

〔講義目的〕
　数学の主要なテーマをいくつか取り上げ、解説し、演習し、数学の全体像を概観する。
　各分野における数理的なものの見方や、理論の適用の仕方などを知る。
　身の回りのさまざまな現象の理解に役立てる。

〔講義内容〕
0）高校数学の復習、整理、見直し
1）数学モデル
2）記号論理
3）集合論
4）ブール代数とその応用
5）無限・連続の数学
6）有限・離散の数学
7）数理パズル＆ゲーム
8）群と文様
9）確率の世界と統計の世界
10）複雑ネットワーク

〔講義のすすめ方〕
　表計算ソフトの Excel を使い、問題を数値的に処理する。
　また、同じく Excel のグラフ描画機能を使い、結果をビジュアルに表現し、意味の理解に役立てることを考える。
　必要に応じて、インターネット上のビジュアルな数学のデモンストレーション・サイトも利用する。

〔教　　材〕
　毎回プリントを配布する予定である。
　参考文献は、必要に応じて提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
　出席状況、授業での課題処理の状況、宿題の提出状況、期末のレポートの結果、等を点数化して評価する。
　出席・提出物の回数　　２０％
　授業内課題の処理状況　２５％
　宿題の処理状況　　２５％
　期末の最終レポート　　３０％

〔履修のポイント・注意点〕
　紙と鉛筆を使ってひたすら式の変形に明け暮れるようなことはしない。
　Excel を使って問題を数値的に処理し、具体的に分かりやすい形で結果を表示することに主眼を置く。
　実験科学やもの作りの学など、他の科学分野との相違点や相互関係について考え、数学とは何かを突き詰めようとする。
　宿題やレポートは、Word や Excel で作ってもらう。式を見栄え良く表示する方法も指導する。
　メモをとるためにノートは必要である。

〔科目内容の位置付け〕
　数理的なものの見方・考え方を養い、専門科目への入門・導入的な役割を果たす科目である。
　社会科学系学生にとって必要不可欠な「表現の道具」としての数学が、記号や言葉遣いとともに、分類整理して提示される。
　表計算ソフト Excel やインターネット活用への習熟が期待できる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　高校数学の復習、整理、見直しから入るので、高校での数学の履修状況や Excel の受講経験の有無は問わない。
　前提科目：なし。
　関連科目：論理学、代数学、解析学、統計学、物理学、経済学、心理学、情報・メディア系科目など。

242801

科　目　名	物理学A
	核エネルギーがキーワード
教　員　名	師　啓二

〔講義目的〕
科学技術の発達はわれわれの生活を便利で豊かなものとしたが、一方では、それに伴って生じたエネルギーや環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みをある程度は理解することができる。「物理学 A」および「物理学 B」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学 A」では、物質の成り立ち・仕組みを主なテーマとしている。そして、その関連事項として、原子力エネルギーを利用する上での問題点、核融合エネルギーの平和利用、また最近話題となったニュートリノ天文学など具体的な話題を紹介し、ビデオ等を適宜使いつつ、分かりやすく解説する。それによって、目に見えない原子・分子の構造から広大な宇宙の構造まで統一した物理学の視点で眺めて見ることが出来るであろう。

〔講義内容〕
ほぼ以下に示すテーマの順に講義を行うが、なるべく最新の話題を紹介したいので、変更もありえる。

1．物質の構成について	4週
2．核分裂エネルギー	2週
3．チェルノブイリ事故について	1週
4．原子力発電と環境	2週
5．核融合エネルギーの平和利用	1週
6．太陽	1週
7．宇宙の誕生と起源	2週
8．地球の誕生	1週

〔講義のすすめ方〕
身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」を分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオを見ながら質問事項を記したレポートに答えてもらう。

〔教　　材〕
毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕
課題　1回（学期末に提出すること）
判定基準　出席率67％以上で、レポート（15%）＋課題（85%）の評価が60点（100点満点）以上であること。就職活動や教育実習で何回か休む可能性のある学生は欠席回数に特に注意を払うこと。

〔履修のポイント・注意点〕
毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻 2 回で欠席 1 回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。携帯電話・PHS 等は電源を切っておくこと。本科目のためには予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

〔科目内容の位置付け〕
「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方を学ぶ講義である。入門的・導入レベルの内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：なし
関連科目：「物理学 B」
取り上げているテーマが違っているので、「物理学 B」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学 B」の講義も聞いていれば、物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、将来、例えば放射能汚染についての知識があったために命が助かるということも有り得るだろう。

242901

科　目　名	物理学Ｂ
	自然の仕組みを理解しよう
教　員　名	師　啓二

〔講義目的〕
科学技術の発達はわれわれの生活を便利で豊かなものとしたが、一方では、それに伴って生じたエネルギーや環境汚染の問題が深刻なものとなりつつある。そもそも科学技術は自然界の法則を巧みに利用したものであるから、科学技術を正しく利用するという立場をとるならば、「暮らしの知恵」として、自然界の法則や仕組みについてある程度知っておく必要がある。物理学は実験を手段とし、数式を用いて、この自然界の法則や仕組みを厳密に調べる学問である。しかし、厳密性は失われるが、数式をあまり用いなくても、簡単な原理から自然界の仕組みをある程度は理解することができる。「物理学Ａ」および「物理学Ｂ」は、いずれも身のまわりの自然現象を題材にして、数式にあまり頼ることをせずに、自然の法則や仕組みを学んで行こうという講義科目である。

「物理学Ｂ」では、物体間に働く力、惑星探査、天体観測、宇宙実験、熱エネルギー、エントロピーおよびナノテクノロジーなどについて具体的な話題を紹介し、ビデオなどを適宜使いつつ、分かりやすく解説する。それにより、物理学的な視点での新しい考え方・物の見方を身につけることができれば、現象の複雑さに対して、自然界を支配する法則の単純さや美しさに驚くことであろう。

〔講義内容〕
ほぼ以下に示すテーマの順に講義を行うが、最新の話題も紹介したいので、変更もありえる。

１．力について	１週
２．天体の運動	１週
３．ケプラーの法則・火星	１週
４．ボイジャーの惑星探査・海王星	１週
５．惑星系の成り立ち	１週
６．スペース・シャトルの宇宙実験	２週
７．宇宙望遠鏡	１週
８．熱エネルギー	２週
９．エントロピー・散逸構造	１週
10．複雑系・カオス	１週
11．ナノテクノロジー	１週
12．物理実験シミュレーション	１週

〔講義のすすめ方〕
身近な物理現象を取り上げ、物理の基本法則に基づいて、「どうしてそのようなことが起こるのか」を分かりやすく解説する。講義に関連した内容のビデオを見せることもあるが、その場合、ビデオを見ながら質問事項を記したレポートに答えてもらう。受講者が少ない場合は簡単な学生実験を行いたいと考えている。

〔教　　材〕
毎回講義のときに、必要に応じて資料を配布する。教科書は指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕
課題　１回（学期末に提出すること）
判定基準　出席率67％以上で、レポート（15%）＋課題（85%）の評価が60点（100点満点）以上であること。就職活動や教育実習で何回か休む可能性のある学生は欠席回数に特に注意を払うこと。

〔履修のポイント・注意点〕
毎回必ず出席をとる。30分以上遅刻した場合は欠席とみなす。遅刻２回で欠席１回にカウントする。私語厳禁。授業中、教室内では帽子をとり、静粛にして、飲食はしないこと。携帯電話・PHS等は電源を切っておくこと。本科目のためには予備知識はいらない。高校で物理を選択していなくても全く構わない。

〔科目内容の位置付け〕
「簡単な基礎知識から自然がどのように理解できるか」という、ものの見方を学ぶ講義である。入門的・導入レベルの内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：なし
関連科目：「物理学Ａ」
取り上げているテーマが違っているので、「物理学Ａ」の講義の知識を前提とはしないが、「物理学Ａ」の講義も聞いていれば、物理学のほぼ全般にわたる統一的な理解が得られる。専門家向けの講義ではないのですぐに役に立つという内容ではないが、「自然を見る目」は確実に変わることだろう。一見複雑な現象も単純な原理から理解できるということが分かればよい。

244101

科　目　名	化学Ａ
	基礎化学
教　員　名	髙林　久美子

〔講義目的〕
ますます複雑さを増す現代社会は様々な情報があふれています。その中には誤った情報、不正確な情報がたくさん混ざっています。自分が本当に必要な正しい情報を得るためには、ある程度の基本的な知識が必要となります。化学の基本的な知識もその一つです。しかし「化学」と言うと難しい化学記号が思い浮かんで拒絶反応を示す人も少なくありません。この化学Ａの講義では、多岐にわたる化学の分野の最も初歩的な入門編として基本を学ぶだけでなく、化学的なものの見方、考え方を身につけ、現代社会の諸問題を理解するための下地を作ることを目的とします。

〔講義内容〕
化学の起源・測定の体系
物質とエネルギー
原子と分子
原子の構造
周期表
化学結合（Ⅰ）
化学結合（Ⅱ）
化学反応式
反応熱
気体状態
溶液の化学（Ⅰ）
溶液の化学（Ⅱ）
酸・塩基及び塩
化学平衡
定期試験

〔講義のすすめ方〕
化学の基礎概念を理解することを主眼とします。内容が理解できたかどうかほぼ毎回（3回目から14回まで12回）簡単な小テストを行い、理解度を確認します。多少は覚える事柄もありますが、暗記するより理解することを目指します。高校の「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」と重複する部分がかなりあります。

〔教　　材〕
教科書　「化学　基本の考え方を中心に」シャーマン他　東京化学同人 2900円

参考書　「視覚でとらえるフォトサイエンス化学図説」数研出版編集部編　数研出版　840円

授業中に教科書の例題や練習問題を行います。
また、試験にも教科書の持込を可とします。

〔成績評価の方法・基準〕
小テスト　５点×１２回×２／３＝40点
定期試験　60点

計　100点

〔履修のポイント・注意点〕
高校で化学を履修しなかった人でも基本からやるので大丈夫です。ほぼ毎回（3回目から14回まで12回）小テストを行いますが、できなかったときは教科書を復習すること。計算をすることが多いので電卓をもってきてください。

〔科目内容の位置付け〕
化学はいうまでもなく理系科目でありますが、本講義は化学の初歩的な入門レベルであり、文系の学生を対象としたものです。高校で化学を履修しなかった人又は理系科目が苦手であると思っている人でも十分理解できるように配慮しています。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提・関連科目は特にありませんが、現代社会において、新聞やテレビなどに出てくる話題を理解するうえで最低限要求される知識です。化学的なトピックスを解説する「化学Ｂ」もあわせて履修するとさらに効果的です。また、環境科学等他の理系科目を理解するためにも役に立ちます。

244201

科　目　名	化学Ｂ
	生活の中の化学
教　員　名	髙林　久美子

〔講義目的〕
ますます複雑さを増す現代社会は様々な情報があふれています。その中には誤った情報、不正確な情報がたくさん混ざっています。自分が本当に必要な正しい情報を得るためには、ある程度の基本的な知識が必要となります。化学の基本的な知識もその一つです。しかし「化学」と言うと難しい化学記号が思い浮かんで拒絶反応を示す人も少なくありません。この化学Ｂの講義では、新聞やテレビなどに登場する私たちの日常生活の興味深い現象・事象を解説し、化学的知識を身につけるとともに、化学的なものの見方を養うことを目指します。

〔講義内容〕
水の化学（水と生命）
休養の化学（睡眠の化学）
運動の化学（ダイエットの化学）
栄養素の化学(1)（タンパク質）
栄養素の化学(2)（炭水化物・脂質）
食品の化学(1)（食品衛生・特定保健用食品）
食品の化学(2)（遺伝子組み換え食品）
遺伝子の化学（親から子へ）
免疫の化学(身体を守るしくみ)
化粧品の化学(1)（皮膚と紫外線）
化粧品の化学(2)（香りと色の化学）
環境の化学(1)（地球環境問題）
環境の化学(2)（内分泌かく乱化学物質）
エネルギーの化学（エネルギーの変遷）
定期試験

〔講義のすすめ方〕
生活の中の現象や事柄を化学の目でみて、基礎概念を理解することを主眼とします。

〔教　　材〕
教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験（１回）60％
レポート（１回）30％
出席点　　10％
　ただし、レポートを提出しなかった者、出席が規定に満たなかった者は定期試験の受験資格を失うこととします。

〔履修のポイント・注意点〕
高校で化学を履修しなかった人でも基本からやるので大丈夫です。新聞やテレビでの情報に敏感になるよう努力しましょう。

〔科目内容の位置付け〕
化学はいうまでもなく理系科目ですが、本講義は化学の初歩的な入門レベルであり、文系の学生を対象としたものです。高校で化学を履修しなかった人又は理系科目が苦手であると思っている人でも十分理解できるように配慮しています。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提・関連科目は特にありませんが、現代社会において、新聞やテレビなどに出てくる話題を理解するうえで最低限要求される知識です。化学の基本事項を講義する「化学Ａ」もあわせて履修するとさらに効果的です。また、環境科学等他の理系科目を理解するためにも役に立ちます。

245401

科　目　名	生物学Ａ
	環境と生物
教　員　名	上田　高嘉

〔講義目的〕
科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

〔講義内容〕
・生命の誕生と生物の進化
・動物の発生
・動物の行動
・生物体の調節
・環境保全

〔講義のすすめ方〕
講義が中心であるが、身近な問題、例えば地球温暖化を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

〔教　　材〕
教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。参考書はその都度紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
定期テスト、レポート、出席状況、聴講態度等により総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕
高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

〔科目内容の位置付け〕
生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は特に必要ないが、物理学、化学、地学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

245501

科　目　名	生物学Ｂ
教　員　名	上田　高嘉

〔講義目的〕
科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、どのように生きればいいのか混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが重要であり、生物学はその大きな助けになるように思える。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。講義の最後には身近な生物学上の問題を取り上げ議論したいと考えているが、そのためには少なくとも私の持っている知識を共有していただく必要があり、そのための講義内容になっている。

〔講義内容〕
・ウイルスについて
・細胞の構造と機能
・遺伝子と染色体
・性について
・生命工学

〔講義のすすめ方〕
講義が中心であるが、身近な問題、例えば万能細胞等生命操作を取り上げて議論していただくことも考えている。少しでも興味を持っていただけるよう努力したい。

〔教　　材〕
教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する。参考書はその都度紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
定期テスト、レポート、出席状況、聴講態度等により総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕
高校で生物を選択していなくても一向に構わない。単なる知識の積み重ねになることなく、考える力を身につけることを心掛けてほしい。

〔科目内容の位置付け〕
生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は特に必要ないが、物理学、化学、地学等関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。

246901

科　目　名	科学史A
教　員　名	舩田　眞里子

〔講義目的〕
　数と計算は自然科学、社会科学、情報科学、工学のいずれの分野でも重要な役割を果たしてきました。情報化社会の担い手を目指す学生、ならびに情報化社会で心地よく過ごすための素養を身に付けたいと願う学生を対象に、数と計算を切り口とした科学史を開講します。この科目では、数と計算の歩みを通して、自ら考える力を養い、科学の論理性、問題解決の手法、真理探究の精神、観察と経験から得られる主観性と客観性などを学びます。

〔講義内容〕
　次の内容の講義を行います。
　　第１回　本講義の進め方と内容の紹介
　　第２回　数えることの始まりと課題
　　第３回　位取り記数法と課題
　　第４回　有理数の導入と課題
　　第５回　零の発見と課題
　　第６回　無理数の発見と課題
　　第７回　素数と課題
　　第８回　ユークリッドの原論
　　第９回　ユークリッドのアルゴリズム
　　第10回　アバカスの歴史
　　第11回　シーザ暗号と課題
　　第12回　講義の内容に関する議論

〔講義のすすめ方〕
　教科書を手掛かりに各講義日ごとに、まとまったテーマで講義を行い、受講者が自ら考えるような問題を提起します。各問題について、各自の考えを述べ、受講者同士で議論ができれば大変望ましいと思います。困難な問題に遭遇したとき、「人類はどのように解決してきたか」を学びます。そのような知識の習得を通して、受講者は自ら考え、解決策を見つける努力をしてください。

〔教　　材〕
教科書
・「数と計算の歩み」、五十嵐善英、舩田眞里子、バーバラ神山、牧野書店、2009
参考書：
・「Mind of Science」、M. A. Plastow、五十嵐善英共立出版、1989
・「零の発見」、吉田洋一、岩波出版、1939
・「数について」、デーデキント著、河野伊三郎訳、岩波書店、1961
・「ユークリッド原論」、ユークリッド著、中村幸四郎 他訳、共立出版、1971

〔成績評価の方法・基準〕
　講義中に提起した課題についての討論、出席状況、期末試験で総合的に評価します。
(1) 出席は 2/3 以上。
(2) 期末試験受験は必須。
(3) 合格基準は点数の合計が 60 点以上。

〔履修のポイント・注意点〕
　講義中に提起された課題について、自ら考え、意見を述べることが大切です。古代ギリシャ時代は代数学が発達していなかったため、古代ギリシャ数学は記号をあまり用いないで言葉による記述が中心でした。この科目も同様で、受講者は自らの言葉で、理路整然と自分の考えを述べれるようになることを目指しています。

〔科目内容の位置付け〕
　科学・技術に関心をもち、自ら考える力を養うことを目指します。問題を解決する手法と努力を惜しまない姿勢を身につけるための科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　特に前提科目はありませんが、中学校で学ぶ数学と論理力が要求されます。さらに、知的好奇心を持っていることが望ましい科目です。しかし、その基準に達していないと思っている学生も、この科目の受講を歓迎します。この科目を受講し、講義中に与えられた課題について自ら考えて、論理力と問題解決の力をつけてください。物事に関心を示し、自ら考え、努力することに楽しみが感じられるようになることを期待しています。

247001

科　目　名	科学史Ｂ
教　員　名	舩田　眞里子

〔講義目的〕
数と計算は自然科学、社会科学、情報科学、工学のいずれの分野でも重要な役割を果たしてきました。情報化社会の担い手を目指す学生、ならびに情報化社会で心地よく生きるための素養を身に付けたいと願う学生を対象に、今日のサイバー社会に至るまでの数と計算の発達過程を講義します。数と計算の発達史を通して、自ら考える力を養い、科学の論理性、問題解決の手法、真理探究の精神、観察と経験から得られる主観性と客観性を学びます。また、サイバー社会がどんな方向に進んでいくかを考える教材を提起します。

〔講義内容〕
次の内容の講義を行います。
第１回　講義の内容と講義の進め方
第２回　小数記法と課題
第３回　対数の導入と課題
第４回　計算機械と課題
第５回　実数、複素数と課題
第６回　ブール代数と課題
第７回　近代までの暗号と課題
第８回　電子計算機の誕生と課題
第９回　シャノンの情報理論と課題
第10回　プログラミング言語と課題
第11回　データ構造とアルゴリズム
第12回　インターネット と課題
第13回　情報セキュリティと課題
第14回　問題提起とディスカッション

〔講義のすすめ方〕
教科書を手掛かりに各講義日ごとに、まとまったテーマで講義を行いますが、受講者が自ら考えて頂く問題を提起する。それぞれの問題について、各自の考えを述べ、受講者同士で議論をすることが望まれます。困難な問題に遭遇したとき、人類はどのように解決したかを学びます。そのような知識の習得を通して、受講者は自ら考え、解決策を見つける努力をしてください。

〔教　　材〕
教科書
・「数と計算の歩み」、五十嵐善英、舩田眞里子、バーバラ神山、牧野書店、2009
参考書：
・「Mind of Science」、M. A. Plastow、五十嵐善英共立出版、1989
・「零の発見」、吉田洋一、岩波出版、1939
・「数について」、デーデキント著、河野伊三郎訳、岩波書店、1961
・「ユークリッド原論」、ユークリッド著、中村幸四郎 他訳、共立出版、1971

〔成績評価の方法・基準〕
講義中に提起された課題についての討論、出席状況、期末試験で総合的に評価します。
(1) 出席は 2/3 以上。
(2) 期末試験受験は必須。
(3) 合格基準は点数の合計が 60 点以上。

〔履修のポイント・注意点〕
講義中に提起された課題について、自ら考え、意見を述べることが大切です。古代ギリシャ時代は代数学が発達していなかったため、古代ギリシャ数学は記号をあまり用いないで言葉による記述が中心でした。この科目も同様で、受講者は自らの言葉で、理路整然と自分の考えが述べることを目指してください。

〔科目内容の位置付け〕
科学・技術に関心をもち、自ら考える力を養うことを目指します。問題を解決する手法と努力を惜しまない姿勢を身につけるための科目であるといえます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本講義は、「科学史 A」の続きであり、「科学史 A」を履修済みであることが望ましいですが、前提科目ではありません。中学校で学ぶ程度の数学と論理力が要求されます。しかし、その基準に達していないと思っている方も、この科目の受講を歓迎します。この科目を受講し、講義中に与えられた課題について自ら考えて、論理力と問題解決の力をつけて欲しいと思います。物事に関心を示し、自ら考え、努力することが苦痛にならなくなることを期待します。

250001

科　目　名	情報処理
	授業形態：演習 / 幼・保コース開講の場合の授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	渋川　美紀

〔講義目的〕
　マルチメディア・パソコンやインターネットの発達により音と映像が気軽に加工できるようになり、コンピュータは情報をつかんで仕事に活かすだけでなく、個人の趣味のためにはもちろん、創造的な仕事をする上でもなくてはならないものになりました。
　そこで、私たちはただその機能を使いこなすだけでなく、自分にあったもの（教材など）を作り出せる道具の一つとしてコンピュータを活用できるようになることが大切です。そこで、本講義では日本語ワープロ (Microsoft Word)、電子メール (E-mail)、スプレッド・シート (Microsoft Excel) などのソフトウエアによる実習を行うことにより、まず基本的な情報処理や一般常識を学び、ひいては情報をたくみに処理し、自分にあったシステムを構築することを考えていきたいと思います。すぐに役に立つ知識はもちろん、世の中の変化に対応できる普遍的知識も身につけて下さい。

〔講義内容〕
第１回 Word の実習・文書作成の基本操作
第２回 Word の実習・文書の装飾、図形描画
第３回 Word の実習・表の作成他
第４回 Excel の実習・表計算
第５回 Excel の実習・表計算
第６回 Excel の実習・グラフ
第７回 Excel の実習・グラフ
第８回 Excel の実習・関数
第９回 Excel の実習・関数
第10回 Excel の実習・データベース
第11回 Excel の実習・VBA
第12回 Excel の実習・VBA
第13回 PowerPoint の実習
第14回その他
第15回定期試験（90分）または授業を実施する。

〔講義のすすめ方〕
　テキスト・プリント・その他を使用して実習を行います。例題を解いたのち、課題を作成するという形式ですすめていきます。

〔教　　材〕
　教科書「情報科学の基礎と応用」・同友館・2,800円

〔成績評価の方法・基準〕
・成績評価の方法は「履修規程」に準じます。
・受験資格は『保育士資格規定』に準じます。（幼・保コース）
・成績は出席状況・実習課題によって判断します。

〔履修のポイント・注意点〕
　全回出席を原則とします。欠席や遅刻をしないようにしましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう（欠席扱いにします）。出欠は出席カードで調べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取ってください。また、遅刻３回で欠席１回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

〔科目内容の位置付け〕
　保育士資格、幼稚園・小中高教諭免許取得のための重要な科目です。レポートの作成・データの分析には必ず必要となるので、全ての科目の基礎となる科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　前提科目はありません。コンピュータについての知識がなくても結構です。また、本講義に続く内容をもつ教育情報処理以外は特別な関連科目はありませんが、パソコンが文房具化している現代においてはほとんどの科目が関連科目であるとも言えます。

250007

科　目　名	情報処理
教　員　名	小林　正人

〔講義目的〕
1．コンピュータと Microsoft Office の操作の基本を理解し、トラブルへの対処能力を養うこと。
2．英語で書かれた情報を検索し、ウェブを英語学習に活用すること。
3．自分自身と自分の情報を守り、ネットワークでの社会規範を守ること。
4．プログラミングの考え方を身につけること。
5．タッチタイピングができるようになること。
6．コンピュータでの英語教育の教材作り。

〔講義内容〕
1．パソコンの構成と基本操作
2．インターネットのしくみと電子メール
3．Word の実習
4．Excel の実習
5．PowerPoint の実習
6．かんたんなプログラミング
7．フリーウェアを活用した音声、画像の加工
8．動的ウェブページの作成と、サイト構築ツールの実習

〔講義のすすめ方〕
　プリントや教育管理ソフト Moodle を使用して実習を行う。例題を解いたのち、英語に関連した課題を作成するという形式で進める。

〔教　　材〕
プリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と課題の提出、および情報倫理の小テスト。

〔履修のポイント・注意点〕
・コンピュータ上での実習が大きな比重を占めるので、出席し、かつ授業に主体的に参加することが大切である。
・ゲーム等実習と無関係な作業をしている場合は欠席の扱いとする。

〔科目内容の位置付け〕
入門レベル。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目はない。レポートやプレゼンテーションはコンピュータで作成することになるので、ほとんどの科目に関係している。

科　目　名	体育実技Ａ
	授業形態：実技
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。
　教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。
　本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。
　実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

〔講義内容〕
〇室内スポーツ
　バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
〇屋外スポーツ
　サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
〇その他
　ダンス運動やウォーキング、マシンや用具をを使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

〔講義のすすめ方〕
〇オリエンテーション（第１回目）
　人数調整を行い、担当教員を決定する。
〇第２回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

〔教　　材〕
〇必要な資料はその都度配布する。
〇原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリエンテーション時に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出欠席（50％）、授業への参加態度（25％）に加え、技術の習熟・上達度、レポート等の状況（25％）を考慮して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
〇実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。
〇靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。
〇夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第１回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

〔科目内容の位置付け〕
教員免許（幼稚園、小学校）及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育実技Ｂ、健康科学、体育概説など

261102

科　目　名	体育実技Ａ
	授業形態：実技 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。
　教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。
　本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。
　実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

〔講義内容〕
〇室内スポーツ
　バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
〇屋外スポーツ
　サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
〇その他
　ダンス運動やウォーキング、マシンや用具をを使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

〔講義のすすめ方〕
〇オリエンテーション（第１回目）
　人数調整を行い、担当教員を決定する。
〇第２回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

〔教　　材〕
〇必要な資料はその都度配布する。
〇原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリエンテーション時に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出欠席（50％）、授業への参加態度（25％）に加え、技術の習熟・上達度、レポート等の状況（25％）を考慮して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
〇実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。
〇靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。
〇夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第１回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

〔科目内容の位置付け〕
教員免許（幼稚園、小学校）及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育実技Ｂ、健康科学、体育概説など

261103

科　目　名	体育実技Ａ
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。
　教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。
　本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。
　実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

〔講義内容〕
○室内スポーツ
　バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
○屋外スポーツ
　サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
○その他
　ダンス運動やウォーキング、マシンや用具をを使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

〔講義のすすめ方〕
○オリエンテーション（第１回目）
　人数調整を行い、担当教員を決定する。
○第２回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

〔教　　材〕
○必要な資料はその都度配布する。
○原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリエンテーション時に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出欠席（50％）、授業への参加態度（25％）に加え、技術の習熟・上達度、レポート等の状況（25％）を考慮して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。
○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。
○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第１回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

〔科目内容の位置付け〕
教員免許（幼稚園、小学校）及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育実技Ｂ、健康科学、体育概説など

261201

科　目　名	体育実技Ｂ
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。
　教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。
　本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。
　実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

〔講義内容〕
○室内スポーツ
　バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
○屋外スポーツ
　サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
○その他
　ダンス運動やウォーキング、マシンや用具をを使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

〔講義のすすめ方〕
○オリエンテーション（第１回目）
　人数調整を行い、担当教員を決定する。
○第２回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

〔教　　材〕
○必要な資料はその都度配布する。
○原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリエンテーション時に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出欠席（50％）、授業への参加態度（25％）に加え、技術の習熟・上達度、レポート等の状況（25％）を考慮して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。
○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。
○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第１回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

〔科目内容の位置付け〕
教員免許（幼稚園、小学校）及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育実技Ａ、健康科学、体育概説など

261202

科　目　名	体育実技Ｂ
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。
　教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。
　本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。
　実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

〔講義内容〕
○室内スポーツ
　バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
○屋外スポーツ
　サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
○その他
　ダンス運動やウォーキング、マシンや用具をを使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

〔講義のすすめ方〕
○オリエンテーション（第１回目）
　人数調整を行い、担当教員を決定する。
○第２回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

〔教　　材〕
○必要な資料はその都度配布する。
○原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリエンテーション時に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出欠席（50％）、授業への参加態度（25％）に加え、技術の習熟・上達度、レポート等の状況（25％）を考慮して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。
○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。
○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第１回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

〔科目内容の位置付け〕
教員免許（幼稚園、小学校）及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育実技Ａ、健康科学、体育概説など

261203

科　目　名	体育実技Ｂ
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
「生涯スポーツの時代」といわれる今日、教育や保育の活動を通じ、「誰もが、それぞれの体力や技術に応じて、生涯に渡り運動やスポーツを楽しむことのできる力」を身につけられる様な指導や支援を行っていくことが必要である。
　教育学部に学ぶ学生には将来の教育者・保育者としての活動にこの様な視点を据えることを学ぶだけでなく、学生時代に自らが「今持つ力の中で運動やスポーツを楽しむ」という経験を積んでもらいたい。
　本講義では、自らの興味関心に基づき、スポーツを選択し楽しむと同時に、今後運動やスポーツ活動を支援していく際に必要な基礎知識、応用的なプレイや試合・ゲームの楽しみ方などを学習して行く。また、単に自分がプレイを楽しむだけでなく技術や能力が異なる集団の中で、その特性や状況を考慮した活動のあり方について考える力を養う。
　実技種目は多くの仲間と交流できる良い機会でもあるため、積極的に授業に参加し、新しい仲間との関係づくりを目指してもらいたい。

〔講義内容〕
○室内スポーツ
　バスケットボール、バレーボール、バドミントンなどの他、体育館で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
○屋外スポーツ
　サッカー、テニス、ソフトボールなどの他、屋外で行える軽運動や体つくり運動、ニュースポーツ種目などを適宜取り入れながら進める。
○その他
　ダンス運動やウォーキング、マシンや用具をを使ったフィットネス運動の他、基礎体力を高めるための運動を行う。

※オリエンテーション時に、各担当教員の実施する種目についての説明を受け、履修希望者数に基づき人数調整を行う。

〔講義のすすめ方〕
○オリエンテーション（第１回目）
　人数調整を行い、担当教員を決定する。
○第２回目以降、各担当教員別クラスに分かれ実技を行っていく。

〔教　　材〕
○必要な資料はその都度配布する。
○原則として用具は大学のものを使用するが、個人で準備するものがあれば（服装・シューズ等を含めて）初回のオリエンテーション時に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出欠席（50％）、授業への参加態度（25％）に加え、技術の習熟・上達度、レポート等の状況（25％）を考慮して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
○実技科目であるため、運動のできる服装を準備すること（普段着での参加は不可）。
○靴についても同様に、屋外用・体育館用各々を必要に応じて準備し、使い分けること。
○夏場は大量に汗をかくことも多い。また冬は運動後に身体が冷えることなども考慮し、年間を通じてタオルや着替えの準備などにも配慮すること。

※実技科目につき、希望者多数の場合には人数調整を行うことがある。第１回の授業時にオリエンテーションを行い、履修者を決定するので必ず参加すること（掲示に注意）。

〔科目内容の位置付け〕
教員免許（幼稚園、小学校）及び保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育実技Ａ、健康科学、体育概説など

265003

科　目　名	健康科学
	授業形態：講義
教　員　名	野間　明紀

〔講義目的〕
学生自身が健康に関する正しい知識を身につけ、また運動およびスポーツに関する科学的理解も深めることを目的として、運動の基本的原理、基礎的知識、健康の概念、栄養と肥満、睡眠、アルコールとタバコ等について講義します。

〔講義のすすめ方〕
1）健康について
　①健康の定義
　②健康の条件
2）運動の基礎知識
　①運動と健康
　②発育発達と健康
　③運動の生理的機能
　④運動と体力
　⑤運動と価値
3）栄養と肥満
　①エネルギーと出納バランス
　②身体の組成
　③肥満の判定
　④肥満の分類
　⑤肥満の原因
　⑥肥満と成人病
4）睡眠
　①睡眠とそのパターン
　②タバコの作用と害
5）アルコールとタバコ
　①アルコールの作用と害
　②タバコの作用と害
※講義の順番は変更することがあります。

〔教　　材〕
特になし

〔成績評価の方法・基準〕
・テスト（１回）と出欠席で評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
・２／３以上の出席が必要です。
・遅刻は２回で欠席１回となります。

〔科目内容の位置付け〕
１から４年度の選択科目です。
　スポーツ演習Ａ、Ｂと合わせ６単位まで卒業所要単位として認められます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
スポーツ演習Ａ、Ｂ

265005

科　目　名	健康科学
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	廣瀬　文彦

〔講義目的〕
　授業で得た知識を実践し、自身が健康で生活できるようになることが目的になります。
　さらに将来役に立つと思われる、子供の健康に関する知識についても取り上げます。

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション
第２回　メタボリックシンドローム１
第３回　メタボリックシンドローム２
第４回　身体活動・運動１
第５回　身体活動・運動２
第６回　休養・心の健康つくり１
第７回　休養・心の健康つくり２
第８回　歯の健康１
第９回　歯の健康２
第10回　栄養・食生活１
第11回　栄養・食生活２
第12回　体力つくり１
第13回　体力つくり２
第14回　まとめ
第15回　期末テスト

※授業の進行状況によって、順番が前後することがあります。
※気になるトピックスについて取り上げる場合があります。

〔講義のすすめ方〕
授業内で配布するプリントと下記に示す参考サイトの内容を中心に講義形式で進めます。
講義では、解説を聞きながら各自がプリントにポイントを記入していくことになります。
出席確認は「講義の感想・質問票」を毎回提出することで行います。
主要な感想や質問については次回の講義の冒頭で再度取り上げ、解説します。

〔教　　材〕
参考図書
健康運動指導士 養成講習会 テキスト
財団法人 健康・体力つくり事業財団

参考サイト
e- ヘルスネット
http://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/
財団法人　健康体力つくり事業財団　体力つくり
http://www.health-net.or.jp/zaidan/tairyoku/tairyoku_index.html

〔成績評価の方法・基準〕
期末テスト　６０％
出席点　　３０％
レポート　　１０％

※授業の進行状況によって、レポートを課さない場合があります。

〔履修のポイント・注意点〕
授業中に紹介した参考サイトを、予習および復習に積極的に活用してください。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格に関わる科目であるため、「免許及び資格取得の手引き」を参照し、必要単位数等に留意すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特にありません。

500301

科　目　名	教養特講Ⅰ（批判的思考Ｂ）/ 特講Ⅰ（批判的思考Ｂ）
	考え方のトレーニング
教　員　名	渡辺　忠

〔講義目的〕
正しく考え、話し、決定するために必要な基礎知識とスキルを身につけること

〔講義内容〕
自然言語による論証（非演繹的な論証や科学哲学）についての講義と演習。
第一回～第三回：論証とは何か
第四回～第六回：非演繹論証の類型と構造の分析・評価
第七回～第九回：非演繹論証と合理的決定
第十一回～：確率や帰納に関するさまざまな誤謬推理、反論の仕方、その他

〔講義のすすめ方〕
配布教材の解説、例題の説明、練習問題プリントの演習、模範解答の説明、宿題の配布と説明。これを繰り返す。言葉の上での知識ではなく、実践的技能の修得のため、演習中心とする。かなりの枚数の解説・練習問題・宿題のプリントを用いる。授業内容はきわめて多く、進度は速い。積極的に取り組まなければ何一つものにならないだろう。

〔教　　材〕
教科書は用いず、印刷教材を用意する。参考書は以下のものをすすめる。
戸田山和久『科学哲学の冒険』(NHK ブックス）
内井惣七『科学哲学入門』(世界思想社)

〔成績評価の方法・基準〕
半期の授業なので、９回以上出席しなければ評価の対象にならない。やむを得ない事情がある場合（証明が必要）をのぞき、受講者の責任で欠席多数となった場合は、自動的に失格となる。出席は成績評価の必要条件であり十分条件ではない。成績判定は、定期試験を含む４回のテストで判定する。評価は、各得点の（試験時間割合にもとづく）加重平均による。受験しなかったときの得点は０点とする。

〔履修のポイント・注意点〕
授業に出席しないと、勉強のしようがない。きちんと出席し、講義を集中して理解し、問題に真剣に取り組み、宿題を仕上げることが必要。結構たいへんである。
　科目の趣旨からも、質問や異論を歓迎する。質問し反論する態度の育成も、批判的思考という科目の教育目的である。科目担当者を無謬の権威と考えないこと。「とりあえず反論してみる」くらいの気持ちで。そのような授業中断は歓迎するが、時間の制約もあるので、オフィスアワー（３号館３階346研究室ドアに表示）も活用すること。

〔科目内容の位置付け〕
知的コミュニケーションのための基礎的素養を培う科目。学問体系以前のところに位置する、基礎的・基本的トレーニング。内容は07年度「批判的思考」の後半・非演繹的論証部分を独立・拡充させ、初等的な科学哲学のトレーニングとしたもの。07年度以前に「批判的思考」を受講した学生は、かなりの内容が重複するので注意されたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
日本語が理解できれば十分で、前提科目はないが、前期の「批判的思考」を受講しておくことを勧める。関連科目は、全ての科目。

A08202

科　目　名	国際ビジネス英語Ⅰ / 商業英語Ⅰ
教　員　名	塚越　千由

〔講義目的〕
今日のビジネス社会において、コミュニケーション手段としての英語の重要性が極めて高くなっています。
わが国をめぐる国際環境は大きく変化し、わが国の国際社会の一員としての果たすべき役割は大変大きなものになっています。とくに企業は国際化が要請され、グローバルな企業活動を展開しなければならなくなっているからです。海外に製造拠点や販売拠点を持つ企業は、企業内のコミュニケーションにも英語を用いています。企業においてはどのような業務に携わっていようとも社員の誰もが海外と関わりを持つ時代になっています。
特に、ＩＴ（情報技術）の発達と普及がさらに加速させています。インターネットを通じ得ることができる情報も、それを理解するためにはある程度の英語力が必要です。また、簡潔で的確なＥメールを相手にわかりやすく正確に作成し、自分の意図を相手に伝えることが必要になります。
ビジネスで活用できる英語力の養成を目指します。また広範にわたる国際ビジネスに必要な知識の習得も目指します。

〔講義内容〕
初級クラスの日商ビジネス英語検定公式テキストを使用し、国際ビジネスのためのコミュニケーション（総務関係、貿易ビジネス）について、ビジネスレター・ファクシミリ・電子メールを取り上げ、その読解力と書き方を養成します。

1. 英文レターライティングの基礎
　①ビジネス英語の特徴とその学び方
　②ビジネスレターの構成
2. 英文ビジネスＥメールの基礎
　Ｅメールの構成、書き方
3. 総務関係通信文
　①ビジネスレター
　　支店開設通知、招待状、推薦状、履歴書
　②ファクシミリ
　　面会依頼、出張手配
　③電子メール
　　人事異動通知、住所移転通知
4. ビジネス英会話の基礎
　アポイントメントを取る、工場訪問、など
5. 海外取引の基礎
　海外取引の流れ、輸出入業務、輸出入取引関係書類
6. 貿易ビジネス関係通信文の概要
　①取引先の選定、取引申込み
　②引合い、オファー
　③契約成立、船積みと決済

〔講義のすすめ方〕
はじめに、ビジネスの様々な局面における実務や必要な用語を学びます。次に文例を検討し、ビジネス文に慣用の表現を学びます。
練習を中心にビジネス英語の読解力と表現力の養成を行います。

〔教　　材〕
教科書：日商ビジネス英語検定公式テキスト
　　およびプリント
参考書：授業時適宜紹介します

〔成績評価の方法・基準〕
平常点：50%（出席率、授業時小テスト）
テスト：50%（前期末）

〔履修のポイント・注意点〕
国際ビジネス英語Ⅰは、国際ビジネス英語の半分の範囲を取り扱っていますので、国際ビジネス英語Ⅱの履修が望ましい。

〔科目内容の位置付け〕
これから実社会でビジネスに携わるものにとって、必須の科目といえます。本講義で取り扱う内容は基本的なもので、入門レベルです。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：なし
関連科目：貿易商務論、その他国際ビジネス関係科目

A08301

科　目　名	国際ビジネス英語Ⅱ / 商業英語Ⅱ
教　員　名	塚越　千由

〔講義目的〕

国際ビジネスの中心的活動である、貿易取引を中心に、英語による文書や口頭によるコミュニケーションの養成を目的とします。

〔講義内容〕

国際ビジネス英語Ⅱでは、国際ビジネス英語Ⅰを基礎としてさらに実際的なビジネス英語の運用力を養成します。現実のビジネス環境にできるだけ近く演習できるように心掛けたいと思います。

授業は下記内容について、テープまたはＣＤなども使い、レターおよび電子メールのビジネス文章表現の研究、ケース・スタディーを中心に行います。

1. ビジネス・ライティングの技法
2. ビジネス通信文の構成
   ①ビジネスレター　②ファクシミリ ③電子メール
3. 輸出入取引交渉
   ①取引関係の樹立 (取引先の発見、信用照会と回答、取引申込みと応答)
   ②売買契約の成立 (引合いと応答、オファーと応答、注文と応答)
4. 売買契約の履行
   ①信用状 (開設と訂正)
   ②船積 (船積通知、決済)
   ③クレーム処理 (クレームの提起、クレームの調整)
5. 総務関係通信
   ①支店開設通知、招待状、推薦状、履歴書
   ②面会依頼、出張手配
   ③人事異動通知、住所移転通知

〔講義のすすめ方〕

国際ビジネスの上記の各ケースにおいて、状況説明に基づき、ビジネス通信文の構成を検討します。次にビジネス通信文の文例により、ビジネス文に慣用の表現を研究し、最後にレター、電子メールの読解・作成練習をします。

〔教　　材〕

教科書：日商ビジネス英語検定公式テキスト
　　およびプリント
参考書：授業時に適宜紹介します

〔成績評価の方法・基準〕

平常点：50% （出席率、授業時小テスト）
期末テスト：50% （レポート形式）

〔履修のポイント・注意点〕

毎回の授業の積み重ねがビジネス英語上達の方法です。

〔科目内容の位置付け〕

これから実社会でビジネスに携わるものにとって、必須の科目といえます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

前提科目：特にはありませんが、国際ビジネス英語Ⅰを履修しておくことが望ましい。
関連科目：貿易商務論、その他国際ビジネス関係科目

A15301

科　目　名	ビジネス実務 / 秘書学
教　員　名	堀　眞由美　　東海林　忠博

〔講義目的〕
本講義は、多岐にわたるビジネス業務を通して、ビジネス実務の基礎的な知識・技能を学習し、社会人としての必要な自覚、実践的な能力を磨くことを目的とする。社会の仕組みや社会人としてのマナー、ビジネスの場で職務を遂行するために必要となる知識、求められるビジネス能力の基礎を理解し、「働く」ということを前向きにとらえ、職業人生の目標に向かって努力できる真摯な姿勢を修得する。

〔講義内容〕
1．ビジネス実務とは・検定試験ガイダンス
2．社会人の基礎要件（身だしなみ、服装）
3．コミュニケーション能力（1）（挨拶・敬語・話し方と聞き方）
4．コミュニケーション能力（2）（指示の受け方・報告の仕方）
5．来客応対（1）
6．来客応対（2）
7．電話応対（1）
8．電話応対（2）
9．社内でのマナー
10．訪問先でのマナー
11．接客のマナー・外国人客の接遇
12．慶弔と贈答（1）
13．慶弔と贈答（2）
14．ビジネス文書の基本
15．ケース・スタディ

〔講義のすすめ方〕
ビジネス実務の基礎を DVD を用いてわかりやすく解説していく。

〔教　　材〕
テキスト：内藤京子監修『DVD で学ぶ！できる人のビジネスマナー』西東社、1、350円

〔成績評価の方法・基準〕
テスト　　学期1回（定期）
判定基準　　（出席率30％、定期試験70％）

〔履修のポイント・注意点〕
学習したことを単に知識で終わらせないために、ビジネスの現場で実践できるよう日常の様々な場面で活用してほしい。あわせて、ビジネス関連の検定試験に挑戦してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
本講義は、インターンシップの実習（在学中に自ら将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと）や就職活動の事前学習として履修してほしい。ビジネス関連の検定試験のガイダンスも行う予定である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特に指定しない。

A31001

科　目　名	マーケティングⅠ
教　員　名	藤井　信之

〔講義目的〕
本講座は社会人となった時、実務で活かせるマーケティングの理論やプロセスを学べるように設計した。
実務で効果的にマーケティングを実行するためには、どのような知識あるいはスキルを持つ必要があるか。
もちろん現場における経験が重要であることはいうまでもないが、それと同じくらい理論やプロセスも重要である。
理論やプロセスはマーケティング実践の中で得られた知見であるから、まずそれを最初に理解してそれに基づいて行動することが有効であろう。
さらに、実行したことによって、知見を得て経験を積み、その理論を修正していく過程が意思決定の確実性を高めるのに重要になる。

以上のことを考慮して、本講座の主眼は、マーケティングの「型」や「定石」をまず頭に入れてもらうことにおいてある。

〔講義内容〕
予定している内容は以下の通り。なお詳細については最初の講義時にプリントを配布する。

１マーケティングの基本概念
２マーケティング機会の分析
　・マーケティング機会の分析の考え方
　・４つの要素（顧客、競合、自社、マクロ環境）の分析
３マーケティング戦略の構築
　・マーケティング戦略構築プロセス
　・セグメンテーション
　・ターゲット市場の選定
　・ポジショニングの設定
４マーケティングミックスの立案
　・製品戦略
　・価格戦略
　・プロモーション戦略
　・流通戦略

〔講義のすすめ方〕
可能な限り新しい事例をプリントで渡し、若干の解説を加える。
社会現象や経済環境の変化等と密接に連関を持つ分野であるので、毎日の新聞記事、ニュース報道などを頭の中にストックしておくこと。

〔教　　材〕
マーケティングの書籍は入門から専門書まで数多く出版されている。
主に講義に使う書籍や参考文献等については講義でその都度指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
講義期間中の課題と定期試験の合計で評価を決定する。
（状況如何で変更することもある）

〔履修のポイント・注意点〕
必ず予習をしてくること。また関連書の精読を心がけること。

いい加減な気持ちで講義に参加しないこと。他の学生の迷惑になる。
定時には着席しておくこと。
講義中は退席を認めない。
講義時間中は静粛を保つこと。
私語する学生は教室からの速やかなる退去を命ずる。場合によっては履修を取り消す措置をとる。

以上の事柄を遵守できないものは参加しないこと

〔科目内容の位置付け〕
ビジネスの中心活動になる。重要度はわかるでしょう。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
経済学、経営各論、統計学、情報関係科目など履修後、あるいは平行して履修していることが理解を助ける。

A31002

科　目　名	マーケティングⅠ
教　員　名	内堀　敬則

〔講義目的〕
市場環境が刻々と変化するなかにあって、企業が競争優位を維持し、持続的に利益を確保していくためには、顧客のニーズを探り、それを満たすように行動すること、すなわちマーケティング活動に取り組むことが欠かせなくなっている。
本講義では、マーケティング論の基本的な理論やコンセプトを理解しながら、社会人として顧客や組織に接する局面で有効な考え方や形式を身につけることを目的とする。
そのためにも、マーケティング戦略を策定・遂行するうえでのさまざまなツールとその問題点を明らかにしながら、具体的な企業や産業のケーススタディを提示し、理論と実態の両面についてより一層深く理解できるような構成とする。

〔講義内容〕
以下のような論点を扱う。なお、授業の進行状況と受講生の理解度を考慮し、変更する可能性がある。

第１回　オリエンテーション
第２回　マーケティングの役割とは何か
第３回　マーケティングミックスとその基本プロセス
第４回　製品・サービスとは何か
第５回　価格の役割と戦略的価格デザイン
第６回　流通チャネルの機能とデザイン
第７回　プロモーション戦略の選択
第８回　「マーケティング戦略会議」４Ｐデザインの実践
第９回　組織をデザインするための要件
第10回　市場志向組織の基本類型
第11回　事業収益性の決定要因
第12回　製品ポートフォリオ管理
第13回　事業の定義
第14回　総括
第15回　試験

〔講義のすすめ方〕
毎回パワーポイントを用いながら、各種データや映像などさまざまなメディアを挿入するなどして立体的な講義を展開する。また、自ら考え、より深い理解を得ることを狙い、講義終了後にショートレポートの提出を課し、その内容に対し翌週の講義の冒頭に解説を行う。

〔教　　材〕
（教科書）
石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎(2007)「ゼミナール　マーケティング入門」、日本経済新聞社
（参考書）
相原修著(2007)「マーケティング入門」、日経文庫ベーシック
野口智雄(2007)「マーケティングの基本」、日経文庫ビジュアル

〔成績評価の方法・基準〕
毎回の講義で課すショートレポート、出席状況及び定期試験の結果を総合的に評価する。
定期試験と平常点はほぼ同等の比重で評価を行う。
なお、授業への積極的な参加と意見の発表を特に重視したい。

〔履修のポイント・注意点〕
常に新聞や経済誌などで企業の最新のマーケティング事情をチェックし、自分なりの見方を持つこと。
指名されたときはどんな内容でも良いので意見を述べること。
単に教室に座っている「受け身」の姿勢では出席の意味はない。
なお、私語する学生は座席変更や退出を命じる。
また、携帯電話の利用を発見した場合、没収する。

〔科目内容の位置付け〕
マーケティング論の基本的な理論やコンセプトを理解することを狙う。

A31101

科　目　名	マーケティングⅡ
教　員　名	藤井　信之

〔**講義目的**〕
本講座では「マーケティングⅠ」での学習をふまえて、より実践的な手法を学習する。「消費者行動」と「マーケティング・リサーチ」というマーケティングにおける重要な２つの領域を取り扱っていく。
　消費者行動を知りたい、研究したいという動機はいろいろある。生産者や流通業者の立場からは、特定の商品がなぜ選ばれるのか、消費者はいかにして商品を選択しているのか、という疑問を抱くだろう。また消費者保護の視点からは、消費者の商品購入に関して販売や契約の仕方、広告などの情報提示がきちんと行われているか、消費者の不利益にはなっていないか、という関心を持つかもしれない。こういった関心に基づいて消費者行動の研究は行われてきている。
　マーケティング・リサーチは、消費者行動研究で得られた成果を利用しながら、「消費者のニーズ」を発見するという課題の解を探すためのツールである。最近のＩＴ革命がすさまじいスピードで進行しているなか、今までとは比較にならないような膨大な量の情報が消費者の手許に集まり、商品を購入する際に役立っている。このようにタフになった消費者のニーズにどのように満足させていくかを探求するのがキーポイントになる。こうした顧客ニーズをとらえるためにマーケティング・リサーチは不可欠なものになっている。

〔**講義内容**〕
予定している内容は以下の通り。なお詳細については最初の講義時にプリントを配布する。
第１部　消費者行動論
　１　消費者行動の概略
　２　消費者の意思決定過程と情報処理
　３　消費者個人の内的要因と心理学的機能
　４　消費者を取り巻く外部環境要因

第２部マーケティング・リサーチ
　１　消費者志向のマーケティングとマーケティング・リサーチ
　２　リサーチデザイン
　３　データの収集方法の決定
　４　サンプルデザイン
　５　データ分析・結果の解釈

〔**講義のすすめ方**〕
可能な限り新しい事例を毎回プリントで渡し、若干の解説を加える。社会現象や経済環境の変化等と密接に連関を持つ分野であるので、毎日の新聞記事、ニュース報道などを頭の中にストックしておくこと。

〔**教　　材**〕
参考文献等については講義でその都度指示する。

〔**成績評価の方法・基準**〕
講義期間中の課題と定期試験の合計で評価を決定する。

〔**履修のポイント・注意点**〕
必ず予習をしてくること。また関連書の精読を心がけること。
　講義時間中は静粛を保つこと。私語する学生は教室からの速やかなる退去を命ずる。場合によっては科目の履修を取り消す措置をとることもある。
　当然のことだが飲食は禁止する。

A31102

科　目　名	マーケティングⅡ
教　員　名	内堀　敬則

〔講義目的〕
マーケティング戦略を策定する際には、アプローチする市場について事前に分析することは欠かせない。また、近年ではブランド力のマネジメントなど市場において資源をいかに構築するかに注目が集まっている。
本講義では、「マーケティングⅠ」で学習したフレームワークをベースに、消費者行動、競争構造など市場についての理解を深めると同時に、マーケティングを論じる際に注目されるようになっている今日的な課題について検討する。

〔講義内容〕
以下のような論点を扱う。なお、授業の進行状況と受講生の理解度を考慮し、変更する可能性がある。

第１回　オリエンテーション
第２回　消費者対応の考え方
第３回　市場細分化マーケティング
第４回　競争の場の枠組み
第５回　産業の収益性と競争構造
第６回　取引関係の構造
第７回　「統合」と「取引」
第８回　取引コストと資源蓄積
第９回　さまざまな競争形態
第10回　競争形態の産業への影響
第11回　戦略的ジレンマ
第12回　産業のライフサイクルその１　ディファクトスタンダードと産業の離陸、
第13回　産業のライフサイクルその2　産業の成長、成熟、衰退
第14回　総括
第15回　試験

〔講義のすすめ方〕
毎回パワーポイントを用いながら、各種データや映像などさまざまなメディアを挿入するなどして立体的な講義を展開する。
また、自ら考え、より深い理解を得ることを狙い、講義終了後にショートレポートの提出を課し、その内容に対し翌週の講義の冒頭に解説を行う。

〔教　　材〕
（教科書）
石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎(2007)「ゼミナール　マーケティング入門」、日本経済新聞社
（参考書）
相原修著(2007)「マーケティング入門」、日経文庫ベーシック
野口智雄(2007)「マーケティングの基本」、日経文庫ビジュアル

〔成績評価の方法・基準〕
毎回の講義で課すショートレポート及び定期試験の結果を総合的に評価する。
定期試験と平常点はほぼ同等の比重で評価を行う。
なお、授業への積極的な参加と意見の発表を特に重視したい。

〔履修のポイント・注意点〕
常に新聞や経済誌などで企業の最新のマーケティング事情をチェックし、自分なりの見方を持つこと。
指名されたときはどんな内容でも良いので意見を述べること。
単に教室に座っている「受け身」の姿勢では出席の意味はない。
なお、私語する学生は座席変更や退出を命じる。
また、携帯電話の利用を発見した場合、没収する。

〔科目内容の位置付け〕
「マーケティングⅠ」で学んだ基礎理論をベースに、市場の実態やマーケティング論の最新動向についてより深く理解することを狙う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「マーケティングⅠ」を履修していることが望ましい。

A84001

科　目　名	ミクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）
教　員　名	吉川　薫

〔講義目的〕
①需要と供給のメカニズム、そしてそれらを調整する価格の機能などミクロ経済学の基本的な考え方、基礎的な理論を学習するとともに、その現実経済への応用について考察する。
②これにより現実の様々な経済現象や経済問題について論理的に考える力を養う。
③最終的に、経済学的な考え方の基本を理解し、それを現実の経済問題を考えるうえで役立てられるようにする。

〔講義内容〕
経済学とはどのような学問かを概説した後、ミクロ経済学の基礎を講義する。
１．ミクロ経済学とは
２．需要と供給
３．需要曲線と消費者行動
４～５．消費者行動の理論
６．費用の構造と供給行動
７．市場取引と資源配分
８．独占の理論
９．企業と産業の経済学
10～11．市場の失敗と補正
12～13．不完全情報の経済学
14．国際貿易と海外直接投資
15．まとめ（試験）

〔講義のすすめ方〕
・テキスト等にしたがって複雑な経済の動きや現実の経済問題をミクロ経済学の基礎理論からどのように考えればよいかできるだけ分かりやすく説明するようにしたい。

〔教　　材〕
教科書　「入門／経済学」（第3版）伊藤元重著　日本評論社
　授業には教科書を持参して下さい。
参考書　「経済学をまなぶ」（中公新書）岩田規久男著　中央公論社
　　「入門経済学」（第２版）Ｊ．Ｅ．スティグリッツ著　東洋経済新報社
　　「基礎コース経済学」塩澤修平著　新世社
　　「ゼミナールミクロ経済学入門」岩田規久男著　日本経済新聞社
　　「クルーグマンミクロ経済学」P.クルーグマン、ロビン・ウェルス著　東洋経済新報社
　「経済学をまなぶ」（中公新書）は経済学とはどのようなものかを知るうえで役立ちます。それ以降に掲げた参考書は授業や教科書の内容がよくわからないときやさらに詳しく知りたい場合などに利用する。

〔成績評価の方法・基準〕
・成績評価：定期試験1回、出席状況
・成績評価の方法：定期試験…80%、出席率…20%

〔履修のポイント・注意点〕
・授業の前後にテキストを十分読むとともに、自分自身でよく考えるため演習問題を解いてみること。
・なお、マクロ経済学Ⅰも合わせて受講するようにすること。
・講義中の私語は厳禁。

〔科目内容の位置付け〕
・ミクロ経済学の入門編であり、経済を論理的に見る目を養うため身につけておくべき基礎科目である。
・他の経済や経営に関連した科目を学ぶうえでも基礎となる科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：数学（関数・微分など）がわかっていると理解が容易になる。
関連科目：ミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論Ⅰ、Ⅱなど経済関連科目、および企業論、交通論など。
　ミクロ経済学Ⅱはミクロ経済学Ⅰを受講後、受講するとよい。
　公務員試験などでも必須の科目である。

★旧カリ経済学として履修する場合は、「マクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学Ⅰ」の両方を受講すること。

A84003

科　目　名	ミクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）
教　員　名	沖津　直

〔講義目的〕
この講義では、価格を中心とした経済原理である価格理論を学習する。財ヤサービスの価格が市場でどのように決定され、それらが私達の経済生活にどのように関連しているのかなどを学習する。一通り学ぶことによって、現実の経済現象やその動きがわかってくるし、テレビや新聞の経済記事に接してその内容が理解できるようになるだろう。また、進学や公務員・就職試験に非常に役立つだろう。

〔講義内容〕
授業は以下の順序で進めますが、実際の経済で起こっている現象を例にあげてなるべくわかりやすく説明します。
1．ミクロ経済学とは
2．需要・供給
3．需要曲線と消費者行動
4．費用の構造と供給活動
5．市場取引と資源配分
6．消費者行動の理論
7．消費者行動理論の展開
8．生産と費用
9．一般均衡と資源配分
10．不完全競争市場（独占、複占、寡占、独占的競争）
11．市場の失敗
12．ミクロ経済学Ⅰの総括

〔講義のすすめ方〕
テキストなどにしたがってミクロ経済学の基礎を講義していきますが、各章のおわりに練習問題も解いて実力がつくように配慮します。

〔教　　材〕
教科書　開講時に指示します。
参考書　「ミクロ経済学」 2版　伊藤元重著　日本評論社
「入門経済学」　伊藤元重著　東洋経済
「基礎コース経済学」 塩澤修平著　新世社

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験の結果７５％
出席状況、学習態度等　２５％

〔履修のポイント・注意点〕
教科書をよく読んで自分で考えること。演習問題を解くことをお勧めします。

〔科目内容の位置付け〕
経済社会の見方・捉え方を教えてくれる科目であり、経済を論理的に見る目を養ってくれる基礎的な科目でもあります。その他の経済や経営に関連した科目を学ぶうえでも重要な科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は特にありませんが、関数や微分などの数学がわかっていると理解が容易になります。関連科目はマクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論、企業論などです。資格試験では必須の科目です。

A84101

科　目　名	マクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）
教　員　名	吉川　薫

〔講義目的〕
①マクロ経済学の基本的な考え方、基礎的な理論を学習するとともに、その現実経済への応用について考察する。
②これによりマクロ経済学の基本的な考え方や用語を理解し、現実の様々な経済現象や経済問題について論理的に考える力を養う。
③最終的に、マクロ経済学の基本的な考え方を用いて、現実の経済問題や経済政策を自分自身で考察できるようにする。

〔講義内容〕
1．マクロ経済学とは
2．マクロ経済学における需要と供給
3．有効需要と乗数メカニズム
4．貨幣の機能①
5．貨幣の機能②
6．マクロ経済政策
7．インフレと失業
8．財政政策のマクロ経済分析
9～10. 財政・金融政策のメカニズム
11. 総需要と総供給：物価の決定
12～13. 国際金融と国際マクロ経済学
14. 経済成長と経済発展
15. まとめ（試験）

〔講義のすすめ方〕
・なるべく現実の経済問題や日本経済の現状に関連付けて、マクロ経済学の基礎理論を講義する。
・テキスト等にしたがって複雑なマクロ経済の動きや現実のマクロ経済政策についてマクロ経済学の基礎理論からどのように考えればよいかできるだけ分かりやすく説明する。

〔教　　材〕
教科書　「入門／経済学」（第３版）伊藤元重著　日本評論社
　授業には教科書を持参して下さい。
参考書　「経済学をまなぶ」（中公新書）岩田規久男著　中央公論社
　「ケインズ」（ちくま新書）吉川　洋著　筑摩書房
　「入門経済学」（第２版）J.E.スティグリッツ著　東洋経済新報社
　「基礎コース経済学」塩澤修平著　新世社
　「目からウロコの経済学入門」山﨑好裕著　ミネルヴァ書房
　「入門マクロ経済学（第４版）」中谷　巌著　日本評論社
「経済学をまなぶ」（中公新書）は経済学とはどのようなものかを知るうえで役立つ。それ以降に掲げた参考書は授業や教科書の内容がよくわからないときやさらに詳しく知りたい場合などに利用するとよい。

〔成績評価の方法・基準〕
・成績評価：定期試験１回、出席状況
・成績評価の方法：定期試験…80%、出席率…20%

〔履修のポイント・注意点〕
・授業の前後にテキストを十分読むとともに、自分自身でよく考えるため演習問題を解いてみること。
・なお、ミクロ経済学Ⅰを合わせて必ず受講すること。

〔科目内容の位置付け〕
・マクロ経済学の入門編であり、経済全体を論理的に見る目を養うため身につけておくべき基礎科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：特にないが、数学（関数・微分など）がわかっていると理解が容易になる。
関連科目：マクロ経済学Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論Ⅰ、Ⅱなど経済関連科目および金融論、財政学など。
　マクロ経済学Ⅱはマクロ経済学Ⅰを受講後、履修するとよい。
　公務員試験などでも必須の科目である。

★旧カリ経済学として履修の場合は、「マクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学Ⅰ」の両方を受講すること。

A84103

科　目　名	マクロ経済学Ⅰ（国際経済を含む）
教　員　名	沖津　直

〔講義目的〕
この講義では、所得を中心にとした所得理論となります。一国全体の国内総生産あるいは国民総所得がどのように決定されるのかなどを学習します。私達の日々の暮らしや経済社会の様相と深く関わっている科目です。マクロ経済学は１９３６年にJ.M.ケインズによって創立されました。それは有効需要の原理あるいは国民所得決定の理論に基礎をおいています。ミクロ経済学と違って経済全体の集計量の大きさに関心を集中する科目です。

〔講義内容〕
１．マクロ経済学とは
２．マクロ経済学の捉え方
３．マクロ経済における需要と供給
４．有効需要と乗数メカニズム
５．貨幣の機能と信用創造
６．貨幣需要と利子率
７．財政政策の基本的構造
８．財政・金融政策とマクロ経済

〔講義のすすめ方〕
テキストなどにしたがってマクロ経済学の基礎を講義していきますが、各章のおわりに練習問題も解いて実力がつくように配慮します。

〔教　　材〕
教科書　開講時に指示します。
参考書　「マクロ経済学」　伊藤元重著　日本評論社
「入門経済学」　伊藤元重著　東洋経済
「基礎コース経済学」　塩澤修平著　新世社

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験の結果　７５％
出席状況、学習態度等　２５％

〔履修のポイント・注意点〕
教科書をよく読むとともに、自分で考えるために練習問題を解いてみること。ミクロ経済学Ⅰと合わせて受講すること。

〔科目内容の位置付け〕
－国の経済全体の状況を把握し、経済全体を論理的に見る目を養う基礎科目である。グラフを見ながら理解すると効率的である。練習問題を丹念に解くことも重要です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は特にありませんが、関数や微分等が解っていると理解が容易になります。関連科目は、マクロ経済学Ⅰ、現代日本経済論などです。

B02001

科　目　名	国際関係概論 / 国際関係論 (概論)
教　員　名	嶌　信彦

〔講義目的〕
1990年の冷戦終結後、国際社会は一見すると「アメリカ－極支配」の様相を呈してきた。
しかし、実情は民族・地域紛争、内戦が続発し、ついに2001年9月11日には、国際的テロ組織によって、アメリカへ史上最大規模のテロ攻撃が行なわれ、“新しい戦争”と呼ばれるに至った。たしかにアメリカは、軍事、政治、経済などで“一極支配”をしてきたようにみえるが、アメリカのバブルが崩壊し、世界に21世紀型恐慌をもたらした。と同時に新大統領にアメリカ初の黒人系バラク・オバマ氏を選び新たな変革とチャレンジの時代を迎えている。
そのアメリカに対し、ＥＵは加盟が27ヵ国に拡大、経済と通貨、思想、文化などで対抗軸になりつつある。またロシアは石油価格の高騰で存在感を高めている。
一方、アジアでは中国が経済発展を軸に大きな存在感をましつつある。おそらく、2010～2020年には、アジアに中国の時代がやってこよう。その中国を追うインド、ブラジルの動きにも世界は注目している。
そんな21世紀の半ば位までをみすえながら、21世紀の日・米・中関係などを中心に、ヨーロッパ（ＥＵ)、ロシア、イスラム圏などの動きにも目をこらしつつ、ダイナミックでスピードある国際情勢の動きをとらえてゆきたい。
国際情勢を読み解くことは、ゲーム以上にエキサイティングで、そのシナリオを推理するためには様々な知識も必要だ。情報、知識を結びつけ、それらを情報の「点」から「線」「面」「立体」にまで仕上げていくことで「考える力」がついてくると思う。現代で日々動く国際情勢を学生と共に考え、論じてゆきたい。

〔講義内容〕
国際関係を理解するうえに必要な政治、経済、軍事、民族、文化、宗教などの諸要素を複眼的にとらえる“物の考え方”ができるように講義を行ないたい。情報と情勢を解きあかす基本的な手法、考え方、技術なども提示したい。

〔講義のすすめ方〕
現在、毎日のようにおきている国際的事件を素材に、国際関係を考える方法論を伝えたい。2009年は、初の黒人系大統領を選んだアメリカの”変革”の行方と、金融からスタートした21世紀型の恐慌によって、アメリカ、ロシア、イラク、朝鮮半島、中国、ＥＵ、イスラム圏などに、今後予想もしない大きく新しい動きが次々と起こることが予想される。それらの日々の事件を歴史、宗教、地政学、国家、成り立ち、民族、文化などの視点をまじえながら、学んでゆく。講義に際しては、新聞やテレビビデオなどを利用するとともに、学生諸君の積極的発言を求め、自らのものの考え方を表現できるようになることも重視したい。

〔教　　材〕
「首脳外交－先進国サミットの裏面史」
　嶌信彦著（文春新書）
「新・冷戦後」　嶌信彦著（集英社）
「嶌信彦の一筆入魂」　嶌信彦著（財界研究所）
　ほか毎日の新聞、テレビニュースなど

〔成績評価の方法・基準〕
毎回、授業テーマに関し意見、感想の小論を提出（200～400字程度）　60％
出席率　20％
期末試験　10％
授業内での発言　10％

〔履修のポイント・注意点〕
たんなる国際関係の知識を修得することより、現在の国際情勢の実情や先行きの見通しを考える力をつけることに力点をおくつもりである。このため、学生諸君はなるべく毎日の新聞やテレビニュースに関心をもつとともに、自分で考えをまとめ、それを言葉や文章にして表現するカを身につけてもらえると嬉しい。

〔科目内容の位置付け〕
国際関係論は、問題となっている国際問題を考えるにあたって、関係各国の外交政策をはじめ、地政学的な特色に外交史、歴史、民族、文化など様々な視点からとらえることに特色がある。その意味で複雑だが、ダイナミックであり、深さもあり、推理、推論も重要できわめてエキサイティングなテーマだと思う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
講義では1990年の冷戦終結後の国際情勢をテーマにするケースが多いと思うので、できれば、冷戦下の米ソの対立や自由主義圏対社会主義圏の特色などを知っておいてもらうとありがたい。歴史や民族、宗教史なども本で読んで欲しい。

B04301

科　目　名	貿易商務論Ⅰ
教　員　名	塚越　千由

〔講義目的〕
国際ビジネスの基本である、貿易ビジネス（輸出取引、輸入取引）をいかに円滑に遂行するかについての方策を研究します。
現在はマネジメント能力の１つとして、貿易取引に関する知識はますますその需要を増しています。そこで、貿易取引のスペシャリスト養成のためではなく、ジェネラリスト養成を目的とします。

〔講義内容〕
風俗・習慣・法律など多くのことが異なる外国との取引においては、どのような点に留意し取引をまとめ、実践していかなければならないかを研究します。貿易マーケティング、貿易売買契約の成立、契約履行過程における諸問題を取り扱います。
現在、インタ - ネットの普及により、電子商取引が国際ビジネスに大きな影響を持つようになってきました。国際電子商取引の内容・問題点などについても考察したいと思います。
（なお本講義はジェネラリスト養成を目的としますが、貿易スペシャリストを希望する受講生があれば、貿易実務検定、国際貿易ビジネス検定などの対策にもなるよう配慮します。）
講義内容は下記のとおりです。
1. 貿易取引の概要
①貿易取引の現状と課題（最近の世界貿易・日本貿易、国際収支）
②貿易取引形態（取引当事者、特殊貿易）
③貿易制度（輸出管理、輸入管理、国際条約、国際規則）
④貿易取引のプロセス（海外市場調査、取引先選定、引合い、取引一般条件協定、オファー、承諾・売買契約成立、契約履行）
2. 輸出マーケティングの実務
①海外市場調査・目標市場の選定
②輸出マーケティングの４P
・Product（商品開発、商品戦略
・Price（貿易価格設定、価格戦略、為替相場と為替リスク・ヘッジ）
・Place（商的流通経路の設立、代理店契約、国際ロジスティックス、貿易運送）
・Promotion（プロモーション手段、短期・長期プロモーション）
3. 輸入マーケティングの実務
輸入商品調査、輸入商品の流通、輸入ビジネスの形態
4. 国際電子商取引（B to B モデル、B to C モデル、国際電子商取引の問題点）

〔講義のすすめ方〕
授業全般に亘って講義レジュメやパワーポイントを使用し、また適宜資料プリントやビデオを利用して、できるだけわかりやすく講義するつもりです。

〔教　　材〕
教科書：プリントを使用
参考書：「グローバル・マーケティング」四訂版、城座 良之・片山 立志・清水 敏行共著、税務経理協会
「貿易売買」、新堀聡著、同文館

〔成績評価の方法・基準〕
テスト：70%　（レポート形式）
平常点：30%　（レポート、出席率など）

〔履修のポイント・注意点〕
テレビ・新聞などを通じ、日本の国際ビジネス活動に注意を払い、どのような現状を呈し、問題点が生じているかを常に考えてください。
貿易取引に関する知識としては、「貿易商務論Ⅰ・Ⅱ」両方の内容が必須になります。両方を履修して下さい。

〔科目内容の位置付け〕
わが国の国際社会の一員としての果たすべき役割は大変大きなものになっています。とくに企業は国際化が要請され、グローバルな企業活動を展開しなければならなくなっています。わが国の国際ビジネスの基本である貿易取引の実践には欠かせない学問分野です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
国際ビジネス関係科目の他に、商学総論、流通論、マーケティング論、経営戦略論、金融論、保険論、商法など。また国際ビジネス実践のためにはコミュニケーション技術が必須ですから、ビジネス英語は特に重要な関連科目です。

B04401

科　目　名	貿易商務論Ⅱ
教　員　名	塚越　千由

〔講義目的〕
国際ビジネスの基本である、貿易ビジネス（輸出取引、輸入取引）をいかに円滑に遂行するかについての方策を研究します。
現在はマネジメント能力の１つとして、貿易取引に関する知識はますますその需要を増しています。そこで、貿易取引のスペシャリスト養成のためではなく、ジェネラリスト養成を目的とします。

〔講義内容〕
風俗・習慣・法律など多くのことが異なる外国との取引においては、どのような点に留意し取引をまとめ、実践していかなければならないかを研究します。貿易マーケティング、貿易売買契約の成立、契約履行過程における諸問題を取り扱います。
貿易商務論Ⅱでは、主に国際売買契約の成立、契約履行過程における諸問題を取り扱います。
（なお本講義はジェネラリスト養成を目的としますが、貿易スペシャリストを希望する受講生があれば、貿易実務検定、国際貿易ビジネス検定などの対策にもなるよう配慮します。）
講義内容は下記のとおりです。
1. 貿易取引とトレード・タームズ
①トレード・タームズの働き
②トレード・タームズの国際規則
③インコタームズの条件
FOB、CIF、FCA、CIP、EXW、DES、DDP、その他
2. 国際売買契約
①売買契約の成立
②一般条件の取り決め
③個別条件の内容
品質、数量、価格、船積、保険、決済
3. 決済と貿易ファイナンスの手配（信用状、貿易ファイナンス）
4. 国際運送手配（海上運送、航空運送、複合運送）
5. 保険手配（貨物保険、貿易保険、製造物責任保険）
6. 契約の履行
①輸出通関と船積み（輸出通関手続、船積み手続き）
②貿易決済（荷為替手形の作成、輸出決済、輸入決済）
③輸入通関と荷受け（輸入通関と関税制度、輸入貨物の荷受け）
④紛争解決（保険クレーム、貿易クレーム、クレーム処理）

〔講義のすすめ方〕
授業全般に亘って講義レジュメやパワーポイントを使用し、また適宜資料プリントやビデオを利用して、できるだけわかりやすく
講義するつもりです。

〔教　　材〕
教科書：プリントを使用
参考書：「貿易売買」、新堀聡著、同文館
「貿易実務ハンドブック（ベーシック版）」、日本貿易実務検定協会［編］

〔成績評価の方法・基準〕
テスト：70%（レポート形式）
平常点：30%（レポート、出席率など）

〔履修のポイント・注意点〕
テレビ・新聞などを通じ、日本の国際ビジネス活動に注意を払い、どのような現状を呈し、問題点が生じているかを常に考えてください。
貿易取引に関する知識としては、「貿易商務論Ⅰ・Ⅱ」両方の内容が必須になります。両方を履修して下さい。

〔科目内容の位置付け〕
わが国の国際社会の一員としての果たすべき役割は大変大きなものになっています。とくに企業は国際化が要請され、グローバルな企業活動を展開しなければならなくなっています。わが国の国際ビジネスの基本である貿易取引の実
践には欠かせない学問分野です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
国際ビジネス関係科目の他に、商学総論、商学総論、流通論、マーケティング論、経営戦略論、金融論、保険論、商法など。また国際ビジネス実践のためにはコミュニケーション技術が必須ですから、ビジネス英語は特に重要な関連科目です。

B05901

科　目　名	時事英語Ⅰ
教　員　名	藤森　吉之

〔講義目的〕
ニュース英語を読み論理的な読解力を養うことを目指す。

〔講義内容〕
禁煙タクシー
赤福の問題
食品の値上げ
ネットカフェ難民
日本の教科書の新しい試み
次世代のミサイル防衛システム
空港での外国人指紋採取と顔写真撮影
（＊内容は一部変更になる場合もある。）

〔講義のすすめ方〕
英文記事を読み内容を把握する。内容について英語での意見交換やプレゼンテーションもおこなう。

〔教　　材〕
You Can Read the News in English（三修社）

〔成績評価の方法・基準〕
（25点）出席
（25点）英語での意見交換とプレゼンテーション
（25点）小テスト
（25点）期末テスト

上記の合計が：
90点以上で“Ｓ（合格）”
80点以上で“Ａ（合格）”
70点以上で“Ｂ（合格）”
60点以上で“Ｃ（合格）”
59点以下で“Ｄ（不合格）”

〔履修のポイント・注意点〕
遅刻は欠席扱いとする。

〔科目内容の位置付け〕
時事英語Ⅱの前提という位置づけ。

B05902

科　目　名	時事英語Ⅰ
	Explain the Japanese culture and society in English
教　員　名	河合　正男

〔講義目的〕
This course will accept both Japanese and foreign students.
The purpose of this course is to improve students' ability to explain and debate in English the Japanese culture and society as well as current events.

〔講義内容〕
I was a diplomat for about 40 years. My last post was the Ambassador of Japan to Norway.
In those years、I really felt it important to explain the Japanese society and to express clear opinions on current problems to foreigners. Such ability is important in international businesses、too.
I expect Japanese students to develop this ability and foreign students to analyze and understand deeply the Japanese society.
I hope that both Japanese and foreign students help each other in the class.

〔講義のすすめ方〕
・All discussions will be conducted in English in principle.
・Reading English language newspaper articles as well as other written documents
　and discussing the subjects.
・Presentation on an assigned subject by one student and discussion in each class.
・Homework of a short composition for each class.
・Writing a report in several pages on an assigned subject at the end of the semester.
　Foreign students will be assigned longer paper than Japanese students.

〔教　　材〕
Articles in English language newspapers、including foreign papers and magazines、will be used.
Reference book: "THE JAPAN BOOK" published by Kodansha International.

〔成績評価の方法・基準〕
Grading will be based on active participation in class-room discussions、and on both short composition and semester end report. Attendance will also be counted.

〔履修のポイント・注意点〕
Japanese students do not have to worry about mistakes they make in English.
Important thing is positive attitude to express one's opinions and to persuade others in English. However、in order to explain the Japanese society to foreigners、they should study and think about their own culture and society seriously.
Foreign students should deepen their understanding of the Japanese society while in Japan、and bring it back to their countries.

B06001

科　目　名	時事英語Ⅱ
教　員　名	藤森　吉之

〔講義目的〕
ニュース英語を読み論理的な読解力を養うことを目指す。

〔講義内容〕
京都の景観保護条例
在来種の危機
赤ちゃんポスト、九州の慈恵病院に設置開始
浅田真央17歳、女王に
ＤＶＤ規格、ブルーレイの勝利で東芝が撤退を決断
乱射事件を受け、銃規制強化へ
企業のメタボリックシンドローム対策
（＊内容は一部変更になる場合もある。）

〔講義のすすめ方〕
英文記事を読み内容を把握する。内容について英語での意見交換やプレゼンテーションもおこなう。

〔教　　材〕
You Can Read the News in English（三修社）

〔成績評価の方法・基準〕
(25点）出席
(25点) 英語での意見交換とプレゼンテーション
(25点）小テスト
(25点) 期末テスト

上記の合計が：
90点以上で“Ｓ（合格）”
80点以上で“Ａ（合格）”
70点以上で“Ｂ（合格）”
60点以上で“Ｃ（合格）”
59点以下で“Ｄ（不合格）”

〔履修のポイント・注意点〕
遅刻は欠席扱いとする。

〔科目内容の位置付け〕
時事英語Ⅰで習得した英文記事の読み方をさらに発展・定着させるという位置づけ。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
時事英語Ⅰ

B06002

科　目　名	時事英語Ⅱ
	Explain the Japanese culture and society in English
教　員　名	河合　正男

〔講義目的〕
This course will accept both Japanese and foreign students.
The purpose of this course is to improve students' ability to explain and debate in English the Japanese culture and society as well as current events.

〔講義内容〕
I was a diplomat for about 40 years. My last post was the Ambassador of Japan to Norway.
In those years、I really felt it important to explain the Japanese society and to express clear opinions on current problems to foreigners. Such ability is important in international businesses、too.
I expect Japanese students to develop this ability and foreign students to analyze and understand deeply the Japanese society.
I hope that both Japanese and foreign students help each other in the class.

〔講義のすすめ方〕
・All discussions will be conducted in English in principle.
・Reading English language newspaper articles as well as other written documents
　and discussing the subjects.
・Presentation on an assigned subject by one student and discussion in each class.
・Homework of a short composition for each class.
・Writing a report in several pages on an assigned subject at the end of the semester.
　Foreign students will be assigned longer paper than Japanese students.

〔教　　材〕
Articles in English language newspapers、including foreign papers and magazines、will be used.
Reference book: "THE JAPAN BOOK" published by Kodansha International.

〔成績評価の方法・基準〕
Grading will be based on active participation in class-room discussions、and on both short composition and semester end report. Attendance will also be counted.

〔履修のポイント・注意点〕
Japanese students do not have to worry about mistakes they make in English.
Important thing is positive attitude to express one's opinions and to persuade others in English. However、in order to explain the Japanese society to foreigners、they should study and think about their own culture and society seriously.
Foreign students should deepen their understanding of the Japanese society while in Japan、and bring it back to their countries.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
For Jiji Eigo Ⅱ、prior enrollment in Jiji Eigo Ⅱ is highly recommended.

h00101

科　目　名	保育実習の事前事後指導
	授業形態：実習 / 授業回数：23 回（45 時間）
教　員　名	◎（施設）川瀬　善美 ／（保育所）福田真奈、髙橋美保

〔講義目的〕
保育実習Ⅰには、保育所における実習と居住型児童福祉施設での実習の2つがある。
ここでは、居住型児童福祉施設の実習の事前事後指導について記載する。
居住型児童福祉施設等の生活に参加することにより、子ども（知的障害者）への理解を深めるとともに、居住型児童福祉施設等の機能と保育士の職務について事前に学ぶ。
また実習後に行う事後指導においては実習で得られた知識・技術を体系化し、保育士となるための自覚を深める。全体発表会（予定）では、それを踏まえ後輩にアドバイスすると共に、今後より望ましい保育者像に近づくよう努力する。
なお、保育所の実習の自薦事後指導については「保育実習の事前事後指導」のシラバスも合わせて参照のこと

〔講義内容〕
○居住型児童福祉施設等における実習の事前指導
１回　実習予定施設について理解する
２回　養護の一日の流れを理解する
３回　利用児者の観察やかかわり方、ニースを把握する事について理解する・援助計画を理解する
４回　生活援助の方法、養護技術を習得する・保護者・家庭とのコミュニケーションの方法を理解する
５回　地域社会とのかかわり方について理解する
６回　記録のとり方を理解する
７回　安全・及び疾病予防について理解する
８回　保育士としての倫理について理解する
９回　児童福祉施設の現状と課題
10回　児童福祉施設の現状と課題　その２

11回　事後指導
12回　事後指導　その２

〔講義のすすめ方〕
各時間毎に講義内容で揚げた項目について解説を行う。又必要に応じて実習先毎に少グループでの討論を行う。

〔教　　材〕
必要に応じて適時指示する

〔成績評価の方法・基準〕
必要な書類・レポート等の提出状況及び受講態度を加味し評価を行う。
各講義については、担当教員がそれぞれ評価し、総合評価する。単位付与は３年次以降となる。
なお、一度でも事前指導を欠席した学生には、保育実習の参加を認めない。
また、保育実習に参加しなかった場合や事後指導を欠席した場合、単位は付与しない。

〔履修のポイント・注意点〕
毎回出席を原則とし、欠席・遅刻等については事前に書面をもって連絡のこと。無断欠席があった場合は不可とする。
２から３年次の２年連続での履修となる。
また、必要に応じて13回、14回、15回の授業を追加して行う場合もある。その際は、10回目の授業時に受講生に指示する。

〔科目内容の位置付け〕
実習に参加するために必要な単位数・及び教科目を各自確認のこと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育士関係科目全般。

科　目　名	保育実習の事前事後指導
	授業形態：実習 / 授業回数：23 回（45 時間）
教　員　名	（施設）川瀬善美／◎（保育所）福田真奈・高橋美保

〔講義目的〕

〔講義目的〕

① 平易な科目内容

保育実習の意義・課題、指導計画の立案、教材研究、保育士の役割、保育実習総括などに関して講義する。

② 講義の目的

保育実習Ⅰと連動しており、保育士資格を取得するものは必ず履修しなければならない。内容に「居住型児童福祉施設等における実習の事前事後指導」と「保育所における実習の事前事後指導」を含む。ここでは「保育所における実習の事前事後指導」について述べる。

事前指導では、保育実習の意義を学び、実習生としての心構えを促す。児童福祉施設としての保育所の目的や機能、そこで生活する乳幼児の日常と保育士としての役割や職業倫理、さらには子どもの最善の利益の具体化などについて教授する。

これまで学習してきた教科理論を基礎として、保育現場での実践に活かす応用力を養うため、指導計画の立案や教材研究なども行なう。

事後指導では実習で得られた知識や技術を体系化し、4年生大学卒業の保育士としての自覚を深め、ふさわしい質の高い保育者養成を目指す。

③ 最終到達目標

保育実習を円滑に進めていくための知識、技術を習得し、学習内容、課題を明確にし、保育実習に臨む。

実習終了後に実習で得られた知識や技術を体系化し、新たな学習課題を明確化する。

事後指導での振り返りを踏まえ、国家資格として現在求められている保育者像に近づくよう自己研鑽に努める。

〔講義内容〕

保育所実習Ⅰにおける保育所における実習の事前事後指導

事前指導

第１回　保育所実習の意義、目的、内容を理解する

第２回　実習施設の概要を理解し、保育所での一日の流れと生活の日課を知る

第３回　実習生としての心構えを培う

第４回　実習の課題を明確化する

第５回　実習記録の意義、方法を理解し、書き方を身につける

第６回　子どもの関わりや観察を通して、乳幼児の発達を理解する

第７回　保育課程、指導計画を理解し、指導計画を立案する

第８回　教材を研究する

第９回　保育士として職業倫理について学ぶ

事後指導

第10回　保育実習総括

第11回　実習の振り返り

〔講義のすすめ方〕

講義の内容にそって進めるが、自分達で準備し、調べたことを発表しあう機会も設ける。

〔教　　材〕

白鷗大学教育学部保育所実習ガイドブック

保育所実習ノート

保育所保育指針

〔成績評価の方法・基準〕

出席状況、受講態度、態度への取り組み（提出物等を含む）で評価する。

保育実習Ⅰにおける事前事後指導は施設実習と保育所実習の担当教員がそれぞれ評価し、そのうえで総合評価する。単位の付与は3年次以降となる。

〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を基本とする。

欠席や遅刻等については、事前に書面で連絡すること。

全体での講義、自己学習、グループ学習など、状況に応じて授業の形態が変わる。

主体的に取り組み、実習に向けての自己の意識や意欲を高めていくことが求められる。

履修にあたっての注意事項及び一定の条件については「教育職員免許状および資格取得の手引き」で確認すること。

〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

既習の教科全ての知識や技能が基礎となる。

科　目　名	保育実習Ⅰ
	授業形態：実習 / 実習日数：22 日間（180 時間）
教　員　名	（施設）川瀬善美・（保育所）福田真奈

〔講義目的〕
保育士資格取得を志望する学生は、必ず履修しなければならない。
保育実習Ⅰの目的は、大学において学んだ理論や知識、技術を、保育現場で体験することにある。
理論から実践という流れを通して、体験的に保育や養護について学び、将来の保育士としての自覚を深め、必要な資質の向上に努めたい。

〔講義内容〕
１．児童福祉施設の内容や機能を理解する
２・教科全体の知識や技術を基礎にして、総合的な応用力を養う
３．保育士としての職業倫理を構築する
４．子どもへの理解を深める

本学での実習日数は、保育所における実習11日間、及び居住型児童福祉施設等（以下施設という）での実習11日間、計22日間である。
実習期間中は、保育実習先で指導を受けることが前提となる。
保育実習Ⅰは、保育所での実習と施設での実習を合せ、4単位である。

〔講義のすすめ方〕
１．事前指導は講義、演習形式ですすめる。
２．実習は各施設および保育所で行う。
３．事後指導は、他者の実習体験を聞き学びあう。

〔教　　材〕
教材については、実習先で指示されたものを使用する。したがって実習先でのオリエンテーション時に確認すること。

〔成績評価の方法・基準〕
実習先による「保育実習評価票」での評価と、「保育実習ノート」の内容を、総合的に評価する。
保育実習に参加しなかった場合や、実習後の「保育実習の事前事後指導」を欠席した場合は、単位付与はない。
施設実習は主に２年次2月から3月（一部3年次5月）、保育所実習は３年9月夏期休業期間中の実習となり、年次をまたぐため単位付与は３年次以降となる。

〔履修のポイント・注意点〕
「保育実習の事前指導」を受講した者が履修できる。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得には欠かせない重要な科目である。
学生としての自覚を持ち、責任と情熱をもった実習態度で臨むことが求められる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
全ての教科目

h02101

科　目　名	保育実習Ⅱ
	保育所実習
	授業形態：実習 / 実習日数：11 日間（90 時間）
教　員　名	高橋美保

〔講義目的〕
保育実習Ⅰをふまえ、保育所における責任実習を通して、乳幼児の生活と発達についてより一層の理解を深める。
また、保育者の業務や役割を把握し、保育の展開方法や技術を実践しながら学ぶ。
さらに、保育所の置かれている今日的な状況について、その社会的役割や機能に対する理解を深める。
保育実習Ⅱでは、保育理論と実践の統合を体験的に学ぶことが目的である。

〔講義内容〕
1. 保育所の概要や現状を知り、取り組んでいる課題について学ぶ
2. 子ども・家庭・保育者の関係や、連携の図り方を学ぶ
3. 保育の指導計画を立案し、そのいかし方や評価についての工夫を学ぶ
4. 保育における実践記録のあり方を学ぶ
5. 保育所の社会的な役割やその機能についての理解を深める。

〔講義のすすめ方〕
1．事前指導（1回）
① 保育所の社会的役割や機能などについて（子育て支援）
② 責任実習の指導案作成
③ 教材研究

2．実習園でのガイダンス

3．実習での理解
① 保育所の概要
② 子ども・親・保育者関係の観察
③ 集団としての生活内容と生活リズムの整備
④ 家庭や地域社会との関係
⑤ 保育指導計画の理解と計画・実践・評価の工夫
④ 実習日誌の記録

5．事後指導（1回）
他者の実習体験を聞いて学ぶ

〔教　材〕
1. 保育所実習ガイドブック（白鷗大学発達科学部編）
2. 保育所保育指針
3. 参考書、資料などは、ガイダンス時に紹介する

〔成績評価の方法・基準〕
実習園からの評価表、実習日誌、事前指導と事後指導の出席状況から総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
繰り返しのきかない限られた時間を、最善の方法で有効に実習を行わなければならない。そのためには、計画を立て、実行し、可能な限り子ども理解に努めるなど、自己学習が求められる。2度目の実習に臨む態勢づくりを心がけたい。
健康に留意し、担当保育士の指導を素直に受けながら、積極的に実習に望む姿勢が望まれる。
履修にあたっての注意事項および一定の条件については、「教育職員免許状および資格取得の手引き」で確認のこと。

〔科目内容の位置付け〕
実習の参加要件についての必要な単位数や教科目は、必ず自分で確認すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育士関連科目全般
遊びの具体例などの情報を入手し、習熟しておくこと。
さらに、遊びと５領域の関連について理解を深めておくこと。
「保育所保育指針」を熟読し、特に子どもの発達の目安を頭に入れておくこと。

h02201

科　目　名	保育実習Ⅲ
	施設実習
	授業形態：実習 / 実習日数：11 日間（90 時間）
教　員　名	川瀬善美

〔講義目的〕
1．児童福祉施設、その他の社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技能を修得する。
2．家庭と地域の生活実態にふれて、子どもと家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援を行うために必要とされている能力を養う。

〔講義内容〕
1．養護全般に参加し、養護技術を修得する。
2．子どもの個人差について理解し、対応方法を修得する。特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応方法について学ぶ。
3．援助計画を立案し、実践する。
4．子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。
5．地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。
6．子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
7．保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
8．児童福祉施設等の保育士に求められる資格・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。

〔講義のすすめ方〕
実習の事前指導としては各時間ごとに講義内容に揚げた項目について解説を行う。また必要に応じてグループ討論や、施設見学等を行う。事後指導としては、実習についての報告会、指導を行う。

〔教　　材〕
必要に応じて指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
保育実習Ⅲの実習施設からの実習評価、保育実習Ⅲの実習ノート、事前事後指導の出席状況等を総合的に勘案し評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
保育士資格関連科目であるので、前回出席を求める。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格関連科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育実習Ⅰ

h10102

科　目　名	社会福祉援助技術現場実習指導
	授業形態：演習　※ 08 年度入学生の該当生まで
教　員　名	川瀬　善美

〔講義目的〕
1．社会福祉援助技術現場実習の意義について理解させる。
2．社会福祉援助技術現場実習を通じて、本学で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際的に理解できるように指導する。
3．実践的な技術等を会得できるように指導する。
4．福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題の把握等、総合的に対応できる能力を修得できるよう指導する。

〔講義内容〕
1．実習オリエンテーション
2．視聴覚学習
3．現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種福祉サービスの利用体験を含む）
4．社会福祉援助技術現場実習巡回指導
5．実習記録に基づく実習総括レポートの作成
6．実習の評価全体総括会

〔講義のすすめ方〕
1．社会福祉援助技術現場実習への自己トレーニング計画の策定
2．社会福祉実践現場における実践の仕組みの理解
3．現場実習に入っても困らない直近の社会福祉政策の動向の理解
4．ボランティア体験の推奨
5．プレ実習
6．社会福祉実践と資格制度の理解
7．実習におけるルールと社会福祉実践の倫理原則

〔教　　材〕
必要に応じて指示し、また資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
実習記録の提出状況・内容、授業の出席状況・態度等を勘案し総合的に評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
社会福祉援助技術現場実習を有効にかつ成果も多いものにするため主体的な授業参加を望む。

〔科目内容の位置付け〕
社会福祉士受験資格取得必修

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会福祉援助技術現場実習

科　目　名	社会福祉援助技術現場実習
	授業形態：実習　※ 08 年度入学の該当者まで
教　員　名	川瀬善美

〔講義目的〕
1）現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2）上記の「知識」「技術」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資格・能力・技術を習得する。
3）職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4）具体的体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5）関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

〔講義内容〕
1．実習生みずから健康管理を行う。
2．実習ノートの記載などを通し、記録の記載について学ぶ。
3．利用者を理解し、そのニーズを把握する能力を高める。
4．利用者及び関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティアとの基本的なコミュニケーションや人との付き合いなど円滑な人間関係を形成する能力を高める。
5．利用者やその関係者と援助関係を作る能力を強める。
6．利用者やその関係者の問題解決能力を高めるように援助する能力を高める。
7．福祉専門職として職業倫理や職員としての規定を学び、組織の一員として仕事を計画し責任をはたす能力を強める。
8．地域（コミュニティ）への働きかけについて学び、援助能力を強める。
9．実習生自らを客観視し、解決するべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

〔講義のすすめ方〕
配属された施設・機関・団体に於いて、本学の定める規定に基づいて23日間の実習を行う。

〔教　　材〕
本学が作成した「社会福祉援助技術現場実習の手引き」

〔成績評価の方法・基準〕
学内での実習への取り組む態度、実習先での評価及び実習後の実習事後指導に於ける実習生自らの評価等を勘案して行う。

〔履修のポイント・注意点〕
実習生としての自覚を持ち、社会福祉援助技術現場実習事前指導において、指導された諸注意事項を遵守すること。

〔科目内容の位置付け〕
本実習は、社会福祉士受験資格取得のための必須科目と位置づけられる。

K00101

科　目　名	フレッシュマンセミナー
	授業形態：演習
教　員　名	赤堀侃司・荒井洌・五十嵐敦子・奥澤信行・川瀬善美・冨田英也・福田真奈・増田仁

〔講義目的〕

最近の大学生は、その多くが大学で学んでいる人のことを「生徒」と呼んでいる。「生徒」とは中学校と高校に在学している人のことを指すのであって、大学に籍を置くは「学生」である。こうした状況は、大学を高校の延長のように考えている人が多いことを物語っている。「生徒」とは「ひたすら懸命に生きている人」のことで、様々な知識を年長者（教師）から授けられる状態にあることを意味している。つまり中学校から高校までは、受け身の勉強でも許されるのである。

しかし「学生」になるとそのような状況は認められなくなる。「学んで生きる」と書くように、自らが積極的に学問にチャレンジしなければならないのである。したがって前述の「生徒」のままで大学生活を送っている状況は、なんとも情けないといえる。

そこで大学に入学して間もないフレッシュマンに、大学での学び方や大学生活の望ましい過ごし方、将来の進路選択、さらには人間関係の構築の重要性などを指導するのがこの科目である。高校までの生活が、周囲の人々によって比較的保護された状態であったのに対して、大学生活は自らの手で物事に対処しなければならない。その際に本科目で取り上げる内容が有効となるであろう。

〔講義内容〕

この科目の担当はクラス担任であるが、専攻としての共通指導事項と、担当者独自の指導内容に大別できる。指導内容の概略は以下の通りである。

①大学生としての心構え
②授業の受け方とレポート作成の留意点
③良好な人間関係へのアドバイス
④将来の進路選択
⑤図書館の見学と利用法
⑥白鷗幼稚園での園児の観察
⑦担当者ごとの指導

上記の①～⑥は共通指導事項であり、⑦については担当者がそれぞれの内容で授業を進める。具体的には、教育問題や社会問題を取り上げたテキストの輪読と発表、プレゼンテーションの技術指導など、大学生活で不可欠な内容となっている。

〔講義のすすめ方〕

［講義内容］の①～④については、講義形式となるが、適宜受講者の意見を取り入れてディスカッションを行う。⑤と⑥については、図書館や幼稚園へ足を運んで、図書の検索や園児の活動状況の観察を行う。⑦については担当者により異なるが、受講者も発表や実習など積極的に授業に参加することになる。

〔教　　材〕

担当者ごとの指導内容に関して、開講後指示がある。

〔成績評価の方法・基準〕

レポートの提出状況や内容、輪読等のレジュメおよび発表内容などに出席点を加味する。なおこの科目は必修科目であるので、特に出席を重視する。

〔履修のポイント・注意点〕

半期14回の授業すべてに出席することが大切である。また積極的に授業に参加する姿勢が求められる。

〔科目内容の位置付け〕

大学生活の導入教育として位置付けられた科目である。大学生活４年間を有意義に過ごし、希望の進路を実現するための指針となる科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

１年前期に設定されている科目であるため、前提科目はない。ただしその後に履修する科目に対する受講の心構えを身に付けることができるであろう。

K00110

科　目　名	フレッシュマンセミナー
教　員　名	金田　健史・齋藤　一人・齊藤　武利

〔講義目的〕
学生生活は自分自身の判断に任されることがこれまでの生活より格段に多くなることは間違いない．充実した学生生活を送れるかどうかは、一年次のスタートが大事になることは十分認識しておくべきであろう．本授業は大切な一歩を踏み出すため、各クラス担任が毎週様々な内容で大学生活のガイダンスを行うものである．

〔講義内容〕
［講義のすすめ方］と同一内容．

〔講義のすすめ方〕
下記の内容について、講義、演習、見学、グループ学習、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に授業を進める予定である．まず、スポーツや健康に関する本、テレビ、新聞などあらゆる情報源から知識を吸収し、それらをまとめて研究発表することに慣れようとするものである、
　①オリエンテーション
　②学習計画の検討（履修科目の指導）
　③自己学習、読書、図書館の利用について
　④レポートの書き方について
　⑤興味あるスポーツ、健康関係の知識について研究
　⑥グループ討議、発表
　⑦研究発表

〔教　　材〕
図書全般、新聞、雑誌、インターネットによる検索などスポーツ健康に関するあらゆるもの．

〔成績評価の方法・基準〕
出席、グループへの貢献度、発表内容、レポートの完成度を評価する．

〔履修のポイント・注意点〕
大学生活の第一歩です．学生相互の協力、教師から学ぶ、自分で研究するという基本的姿勢が望まれる．出席が重視される．

〔科目内容の位置付け〕
卒業必修科目．より充実した学生生活にするための案内となる．学業の基本となる調査、研究、発表の基本を学ぶ．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし．

K00112

科　目　名	フレッシュマンセミナー
教　員　名	小林　正人・向井　千代子

〔講義目的〕
　この授業は、講義・発表・グループワーク・プレゼンテーションなどを通して、大学生活全体のガイダンスと、大学での勉強の方法を身につけることを目標とする。
　半期のみの科目であるが、積極的に参加すれば、日頃から問題意識をもって考える習慣がつき、また今後一緒に学ぶ仲間をよく知ることもでき、今後４年間のよい礎となるだろう。

〔講義内容〕
　大学入学後、勉強の仕方の違いにとまどったり、目標を見失ったりして大学生活につまずく学生が少なくない。本授業は、比較的少人数での議論を中心としたゼミナール形式で、大学生活や大学の学習スタイルに親しんでいくことで、スムースに大学での勉強になじむ手伝いをしようとするものである。

〔講義のすすめ方〕
　まず大学生活全般に関するオリエンテーションや、履修を中心とした学習計画の検討から始め、次に課題図書を読んで各自がレポートを作成し発表する。
　つぎにテーマ別にグループを作り、グループでの議論によってグループ・レポートを作成する。
　最後にそのレポートに基づいたプレゼンテーションを行い、議論をする。

〔教　　材〕
開講後に適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席、授業への参加、レポート、プレゼンテーションによって総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　ゼミナール形式の科目であるので、無届で欠席せず、欠席の連絡をメール等で行うこと。
　また１時限目の科目であるが、遅刻しないよう心がけること。

〔科目内容の位置付け〕
１年次配当の必修科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　前提科目はない。在学中の学生生活や勉強法の基礎がためをする科目なので、積極的に参加してほしい。

K00115

科　目　名	フレッシュマンセミナー
教　員　名	伊東　孝郎・田多　英興

〔講義目的〕
大学という新たなキャンパスで、学生生活が始まる。高校までは生徒と呼ばれてきたが、これからは学生となる。生徒の徒の字は「ひたすら、無駄に」という意味であるが、学生は「自ら学んで生きる」者であり、主体的に学問に取り組みながら自分の生き方を真剣に模索することになる。試行錯誤を繰り返して自分の将来に対する確固たる足場を構築してもらいたい。
本科目は新入生にとって、これから４年間の大学生活を有意義に過ごすための道標となるであろう。また心理学専攻の学生としての自覚も身につけてもらいたい。
「学び」を中心に据えて、スタディ・スキルを学びつつ、学生同士での議論やグループ学習、その他さまざまな交流を通して、主体的に学ぶ体験をするとともに、心豊かな人間関係のあり方についても考える機会を得ることであろう。

〔講義内容〕
本科目では大学での「学び」の基礎について実習する。また教員と学生、あるいは学生同士が緊密な交流を通じて、学習から研究へと学び方を深化させるための基本的な態度を修得する。
具体的には、授業に対する姿勢、ノートの取り方、図書や情報の収集・検索・整理、レポートの作成、プレゼンテーションの方法などについて取り上げる。また、進路に関する話題や情報を積極的に取り上げ、ディスカッションを積み上げることで、キャリア意識を高め、自己実現を図るための布石としたい。

〔講義のすすめ方〕
講義、演習、見学、グループ学習、プレゼンテーション、ディスカッションなどにより、主として以下の内容について学習する。担当者の専門性をより活かすため、若干内容が異なる場合がある。

○大学での学びと大学生活について
授業への取り組み・レポート作成・キャリアデザイン・交友・社会との関わり・アルバイトなどについて議論を深める。

○施設見学
大学図書館・進路指導室・おもちゃライブラリーを見学し、同時に利用の仕方について学ぶ。

○グループ学習
グループごとにテーマを設定し、学習し、プレゼンテーションを行う。

○収集課題
心理学に関連すると思われる時事問題に関して、情報を収集する。（インターネット、新聞、雑誌等）

〔教　　材〕
教科書：
・学習技術研究会 編著「知へのステップ〈改訂版〉－大学生からのスタディ・スキルズ」くろしお出版　2002
・キャリアデザイン・ハンドブック（入学時に配布）
その他、必要な場合は適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
全回出席を基本とする。規定の回数以上欠席した学生は評価の対象とならない。本セミナーは必修科目であるため、単位未修得の場合、卒業できないことを念頭に置いてもらいたい。評価は、授業態度・発表への取り組み・提出物の内容などにより、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
本科目は、クラス単位で行われる数少ない科目であり、この科目にどのような態度で臨むかによって、今後の学生生活は大きく左右されるであろう。積極的に関与し、教員や学生とコミュニケーションを密にすることが、将来必ずプラスに作用するはずである。また学生同士の対話の中から、人間関係を円滑にする術を体得してもらいたい。心理学という人間を扱う学問を学ぶ以上、円滑な人間関係スキルの維持と発展を常に心がけること。

〔科目内容の位置付け〕
1年次配当必修科目であり、心理学専攻学生としての自覚と、大学での学びと学生生活の基礎を形成するための科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本科目で学ぶ内容は、今後履修する科目すべての基礎といえる。

K00501

科　目　名	教育総論
	授業形態：講義
教　員　名	馬場　将光

〔講義目的〕
本講義は２つの目的をもつ。１つは学生諸君が日本における教育学全般の基礎的な知識、考え方を身につけることであり、２つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、将来教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することである。

〔講義内容〕
講義内容は、おおむね次のようになる。
1. 教育の意義
2. 学校教育の目的・目標
3. 教授の理論
4. 学習理論
5. 教育課程
6. 学習指導要領と教科書
7. 生徒指導・管理
8. 道徳教育、人権・同和教育
9. 学校と教職員の管理
10. 学校・学級の経営
11. 生涯教育、社会教育
12. 障害児教育
13. 教育行政
14. 学校の歴史
15. 現代の教育と教育改革

〔講義のすすめ方〕
講義はテキストにそって、毎時間テキストの１もしくは２章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすく解説をしていく。講義の内容は１回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。
講義の概要は、毎時間、テキストの内容をまとめた印刷物に記載する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

〔教　　材〕
以下のテキストを使用する。
テキスト：時事通信社　内外教育研究会編
「教職教養の重点研究」
（時事通信社）￥1800円＋税
参考書：真野宮雄・増田実共編
「現代教育概論」
（学術図書出版社）￥2200円＋税

〔成績評価の方法・基準〕
・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には５点を加算する。ノートは後日返却する。
・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原則として60％できていることとする。
・次の課題の中から10課題を選び、各課題について1000字前後の解説を提出したものには、試験の成績に10点を加算する。これはあくまで任意であって義務ではない。提出の締め切りは前期６月20日、後期12月20日とする。この解説はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。提出先は馬場研究室とする。
課題：教職員の種類、教職員の職務と資格、教員の選考と採用、分限処分、懲戒処分、服務、職務命令、教職の専門性、研修、教員給与、勤務時間・休日・休暇、時間外勤務、労働基本権、人事委員会、不利益処分に関する不服申し立て、公務災害、学習指導要領、教科書、部活、生活指導、道徳教育、学校行事。

〔履修のポイント・注意点〕
・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
・講義は時間的に正確に始まる。正当な理由のない遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
・話はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。黒板に書かない代わり、板書する内容をプリントして、前もってもしくは毎時間に配布する。

〔科目内容の位置付け〕
・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
・話は結構楽しくて、面白いよ！いや、ほんと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提・関連科目：教育課程論、比較教育論、
教育制度論

K00801

科　目　名	教育制度論
	授業形態：講義
教　員　名	馬場　将光

〔講義目的〕
本講義は２つの目的をもつ。１つは学生諸君が日本における教育学、教育制度論の基礎的な知識、考え方を身につけることであり、２つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することにある。

〔講義内容〕
講義内容は、おおむね次のようになる。
1. 教育と教育制度
2. 教育制度の基本原理
3. 教育体系の基本問題
4. 乳幼児期の保育制度
5. 児童期の教育制度
6. 青年期の教育制度
7. 高等教育
8. 障害児教育制度
9. 私学制度
10. 生涯学習支援制度
11. 教育行財政制度
12. 学校経営組織
13. 教員制度
14. 社会変化と教育改革

〔講義のすすめ方〕
講義はテキストににそって、毎時間１章ずつ進む。講義の内容は具体的な事例を紹介しながらわかりやすい解説をしていく。講義の内容は１回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。
講義の概要は、毎時間、印刷物で配布する。さらに宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

〔教　　材〕
以下のテキストを使用する。
教育制度研究会編
「要説　教育制度（新訂版）」
（学術図書出版）￥2400＋税

〔成績評価の方法・基準〕
・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には５点を加算する。ノートは後日返却する。
・学期末に定期試験を行う。合格の基準は原則として60％できていることとする。
　提出先は馬場研究室とする。

課題：職員会議、校長のリーダーシップ、職務命令、分掌組織、主任、教育課程の編成、補助教材、休日、生徒指導、体罰、学校事故、服務、教職員の時間外勤務、研修、初任者研修、学校施設、学校管理規則、学校評議員、指導主事、教科書、学校事務、職員団体、学級経営。

〔履修のポイント・注意点〕
・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
・講義は時間通り正確に始まる。正当な理由がない限り遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
・話の調子はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。その代り板書する内容をプリントして、前もってもしくは毎時間に配付する。

〔科目内容の位置付け〕
・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
・話は意外に面白く楽しいよ！！

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：教育総論、教育原理
関連科目：教育課程論、比較教育論

K00901

科　目　名	比較教育論
	授業形態：講義
教　員　名	馬場　将光

〔講義目的〕
本講義は３つの目的をもつ。１つは学生諸君が日本の教育の特徴を把握することである。人は自分を見失った時にはあるいは自分がどういう人間であるかを知るためには、他人と自分とを比較せよ、とよくいわれる。日本の教育のかたちを知るためには、日本の教育と他国の教育とを比較することが重要である。この比較法をつかって、日本の教育のかたちを考察する。２つは現代の国際化時代においては他国の教育のかたちを理解し、他国の人の考え方を知ることは相手を知るうえで大切である。一口でいえば外国教育の理解である。３つは教員の資格をとり教職につこうとするものにとって、将来教員選考試験をパスするための基礎的な知識を学習することにある。

〔講義内容〕
講義内容は、おおむね次のようになる。
１. 比較教育の目的・方法・課題
２. 半日制の学校（ドイツ）
３. 子供中心の学校（フランス）
４. 新たな発展を求める学校（エクアドル）
５. 明るくて楽しい学校（ブラジル）
６. 変革のうねりのなかの学校（ロシア）
７. 揺れる社会主義大国の学校（中国）
８. 課外活動を楽しむ学校（イギリス）
９. 多民族・多文化尊重の学校（オーストラリア）
10. 多様のなかの平等を模索する学校（アメリカ）
11. アジアの優等生の学校（シンガポール）
12. 心の教育を重んじる国の学校（タイ）
13. 木陰の学校（インド）
14. 先生様の国の学校（韓国）

〔講義のすすめ方〕
講義はテキストににそって、毎時間１章ずつ進む。受講生は個人またはグループでそれぞれ１章を担当し、その内容をレポートにまとめ、発表をする。授業の内容は１回ごとにまとまっていて、次の時間と継続することはない。
発表の概要は、毎時間、印刷物にまとめて、配布する。また宿題をしばしば出すので、翌週その提出を忘れないようにする。

〔教　　材〕
以下のテキストを使用する。
二宮　皓編「世界の学校」
（学事出版）￥2500＋税

〔成績評価の方法・基準〕
・テキストの概要をまとめたノートを定期試験を受けるときに提出する。ノート提出者には５点を加算する。ノートは後日返却する。
・学期末には定期試験に代えてレポートを提出するものとする。レポートの執筆はすべて手書きとする。ワープロ使用は認めない。
提出先は馬場研究室とする。
レポートの課題は次の通り。
「最低５ケ国についてある問題について比較し、そこにはどのような共通点と差異点があるかを指摘し、その理由を考察せよ。」「ある問題」とは、例えば学校制度、教育課程・教育内容、教育方法、課外活動、宗教教育、学校生活、進級試験、大学入試、教育改革、就学前教育、親と学校との関係、教員養成、私立学校と公立学校、その他自分が関心のある問題をいう。１口でいえばなんの問題でもよい。

〔履修のポイント・注意点〕
・出席をとる。毎時間、出席データ収集端末機で出席を確認する。
・講義は時間通り正確に始まる。正当な理由がない限り遅刻は認めない。遅刻入室は禁止する。
・話の調子はゆっくりなので、講義の話をよく聞き、そしてメモを的確にとるようにする。黒板はほとんど使わない。

〔科目内容の位置付け〕
・講義の内容、レベルとも教育学の基礎的、基本的なものであるから、そんなにむずかしくはない。きちんと出席をしてきちんと復習をすれば、理解できる。
・話は意外に面白く楽しいよ！！いや、ほんと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目：教育総論、教育原理、教育制度論、
　　教育課程論

K01001

科　目　名	教育哲学
	授業形態：講義
教　員　名	石堂　常世

〔講義目的〕
1．本講義では、人間形成の哲学を講義する。
　その際、「子どもが大人になる」とはどういうことかという問題意識から掘り起こしていく。
2．本講義では、可能な限り西洋および日本の古典的名著を援用し、それらの人間観にみられる教育的価値の多様性や対峙性を考察させ、人間の教育について哲学的に種々の見方が、ときには対立する見方があることを理解させる。
3．教育の現象に流されず、教育の理念の価値を理解できるように指導する。その手法としては、具体的な体験・事例・実態の考察から入り、次第に人間教育や人間陶冶の原理的・根本的な次元に進んでいけるようにする。
4．本講義を通して、自己体験型の教育観や評論家的な教育論の枠から脱皮し、「人間的熟成」ということの意味を生涯にわたって持ち続けることのできるような持続性のある教育力を養いたい。
5．教育の本質を、日本の思想史の中に発掘するため、日本人を形成してきた「人としての道」に関する古典を学ばせる。
　「山高きがゆえに貴からず」(『実語教≫)などのメタファー（比喩）による古来からの教えを味読する。
6．教育の目的論を、わが国の国民教育の展開の中において考察させる。
　「学制」の被仰出書、「教育勅語」、「教育基本法」の教育観を学ぶ。
7．教育の目的を、西欧哲学の認識論、倫理学、人間存在論、行動論に探り、その特色を学ばせる。

〔講義内容〕
第１回　序：授業計画　教育学全体からみた教育哲学の位置
第２回　教育哲学の手法と基底について
第３回　教育の意味の多様性と対峙性
第４回　語源にみる「教育」の意味
第５回　「徳」を育むという教育の古典的価値
第６回　メタファーにみる教育の哲学　そのⅠ
　　事例研究：『実語教』
第７回　メタファーにみる教育の哲学　そのⅠ
　　事例研究：『童子問』
第８回　メタファーにみる教育の哲学　そのⅠ
　　事例研究：『国家』の「洞窟の比喩」
第９回　ルソーにみる自然主義の教育論：新教育論
第10回　新カント派の教育目的と人間観
第11回　デュルケムにみる社会学的尺度応用の教育論
第12回　デューイのプラグマティズムの教育論
第13回　幼児教育の原理としての新教育論
第14回　ポストモダン思想家の教育論・子ども論
第15回　試験

〔講義のすすめ方〕
講義式であるが、レポートをしばしば出し、授業中に発表をさせ、自主的な授業構成にする。

〔教　　材〕
授業中に毎回、プリント資料を配布するので、大切に熟読すること。
教科書：山崎・石堂監修『教育哲学へのいざない』(学術図書)
毎回、参考文献を示唆するので、できれば図書館で読むか、購入していただきたい。

〔成績評価の方法・基準〕
総合点
1．授業中に出すレポートの点数（４段階評価）(20%)
2．学期末試験（80%)
出席状況を、上記の１と２の合算について加味したり、減点したりする。

〔履修のポイント・注意点〕
・専門科目なので、できれば３～４年生が相応しい。
・夏季集中講義となる。8月18・19・20・21日と24日の計5日間を出席できない者は、登録してはいけない。

〔科目内容の位置付け〕
教育哲学は、教育学の諸領域の中では高度な領域である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
教育原理を履修していること。

K11004

科　目　名	保育内容演習（健康）
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	岩城　淳子

〔講義目的〕
乳幼児期における課題の一つに、親や保護者によって庇護された生活から、自ら考え行動できる生活へと移行していくことがあげられる。保育者には、子どもが他律的な健康管理から自律的な健康管理へつながる道すじを提示し、導いていくことが求められている。この講義では、乳幼児期の健康生活を理解することと、その基礎となる自分自身の健康観を確立することを目的とする。

〔講義内容〕
第１回　健康の概念
第２回　生活環境の変化が、子どもの心と体に与える影響
第３回　乳幼児期の発育発達の概要
第４回　形態の発育
第５回　機能と心の発達
第６回　生活リズム
第７回　基本的生活習慣の確立
第８回　睡眠・食事・排泄・清潔・着脱
第９回　生活習慣の自立への援助と躾の考え方
第10回　安全管理と安全教育
第11回　保育環境の安全、子どもの怪我や事故の実態、その原因と対策
第12回　保育者の心身の健康が、保育活動に与える影響
第13回　現代の社会と子どもの健康
第14回　健康観の理解
第15回　定期試験（９０分間）

〔講義のすすめ方〕
テーマによりグループ別の作業やディスカッションを取り入れる。

〔教　　材〕
『乳幼児の健康』（大学教育出版）

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。
定期試験　40％
課題提出　20％
出席状況　40％

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
この科目で得られた知見を、保育内容指導法（健康）において、さらに発展させることが望ましい。

K11101

科　目　名	保育内容演習（人間関係）
	子どもの人間関係能力の育ち
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	中山　昌樹

〔講義目的〕
この演習では、前期の保育内容研究をふまえ、「遊びを核にした保育」を実践するための具体的・技術的側面を重視した内容を目指したい。

〔講義内容〕
テキストやビデオを使い演習をすすめる。
具体的には、以下のようなポイントにより、そこでの環境構成や保育者の援助についてを考える。

１から３時　　：「制作コーナー」について
４から６時　　：「ごっこ遊び（ままごと）コーナー」について
７から８時　　：保育室の「広場」について
９から１０時　：“挑戦したくなる”ような場について
１１から１２時：子ども集団に働きかける援助について
１３から１５時：保育者から子どもへの“言葉かけ”について

全て「人間関係」にとって重要な場面である。
演習なので、その都度、考えを記述したり、グループで話し合ったりということが求められる。

〔講義のすすめ方〕
なるべく具体的な保育場面を想定したいので、ビデオなどの視覚的教材を使用したい。

〔教　　材〕
テキスト（「保育環境プランニングブック２３・４・５歳児の保育環境」、2001・７、株式会社チャイルド本社）の他、ビデオやプリントした資料を使用する。

〔成績評価の方法・基準〕
定期テストと一部出欠状況などの受講態度により行う。

〔履修のポイント・注意点〕
純粋に子どもたちの成長にとってどのような園生活が必要かということを考えてほしい。その上で、そのための具体的な技術を身につける動機づけを高めてほしい。

〔科目内容の位置付け〕
領域の１つでもある「人間関係」、子どもの人とかかわる能力の成長を、具体的に保育の現場で実現させるための演習である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
なるべく、前期の保育内容研究（人間関係）を受講した上で履修してもらいたい。

K11204

科　目　名	保育内容演習（環境）
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	小原　政敏

〔講義目的〕
子どもの成長を促す多様な環境のうち主に自然環境・物的環境についてその実態と子どもの成長との関連を体験的に演習し、保育士としての職務に必要な環境を整備するための基礎的・基本的技能を修得する。

〔講義内容〕
１、講座のオリエンテーション及び大学隣接河川敷公園を活用した園外保育計画作成
２、紙工作Ⅰ　　紙による動くおもちゃの作製
３、紙工作Ⅱ　　紙による動物・植物の造形
４、折り紙工作Ⅰ　簡単な折り紙による動物・植物の作製
５、折り紙工作Ⅱ　折り紙による多少複雑な造形の作製
６、切り紙Ⅰ　　切り紙による動物・植物の作製
７、切り紙Ⅱ　　切り紙による多少複雑な造形の作製
８、あやとりⅠ　　一人あやとりによる造形
９、あやとりⅡ　　二人あやとりによる造形
10、草の茎や実などを利用した遊びの工夫（大学隣接河川敷公園を活用を予定）
11、ドングリを中心とした造形
12、落ち葉とドングリを利用した造形
13、身近な日常生活で用いられる簡単な材料を用いた造形
14、自作ゲームの創作と遊び方の工夫
15、筆記試験（９０分間で論文作成）

〔講義のすすめ方〕
大学校内・近隣河川敷公園などの自然・植物・環境を活用し、保育士として必要な環境活用の技能を学生が実習を通して習得する。ものづくり・おもちゃ製作を通して子どもが興味関心を高め、子どもの成長を刺激できる物的環境充実のための基礎技術を習得する。

〔教　　材〕
教科書　保育内容シリーズ　環境
　　矢田貝公昭監修、一藝社
参考書　必要に応じて紹介する。
VTR・補助プリント
パソコンソフト

〔成績評価の方法・基準〕
子どもの成長と環境の関係の理解力、子どもの身体的・精神的・社会的発達に有効な環境づくりへの意欲と実践を評価する。
筆記試験　学期末の定期試験
レポート　提出された内容について評価
（必要に応じて指示する。）
判定基準（講義内容で変更することもある）
・試験点数　　45％
・出席率　　15％
・レポート　　40％

〔履修のポイント・注意点〕
自然環境は子どもの成長に大きな影響を与えている。保育園・幼稚園・小学校・家庭・地域社会・地域の自然環境に目を向けて現実の保育環境を観察し、より良い保育環境作りや改善へ積極的に取り組むことが大切である。子どもが自然環境や物的環境に興味関心を持つような指導技術を具体的なものづくりを通して習得すること。

〔科目内容の位置付け〕
この科目は、幼稚園教育要領の５つの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の一つである。
　また、保育内容の環境を体験的に学習する科目でもある。
　環境は、物的環境と心理的環境に分けられるが、ここでは主に自然環境や物質的環境を実習を通して理解を深める。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　保育内容研究（環境）
関連科目
・教養科目として「環境科学」がある。

K11304

科　目　名	保育内容演習（言葉）
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	福田　真奈

〔講義目的〕
①　平易な科目内容
　保育所保育指針における領域「言葉」、言葉の発達、言葉と文化財、言葉の育つ環境、保育の言葉に関する問題に関して講義する。

②　講義の目的
　子どもの言葉は独立して発達していくのではなく、身体の発達、情緒、認知、自我、社会性などの発達と絡み合いながら、子どもの生活の中で獲得されていく。
　保育内容演習（言葉）では、言葉の発達について基礎的な知識を教授するとともに、子どもが言葉を獲得し人とコミュニケーションをしていく中で、どのような力の育ちにつながるのかについてもふれていく。その他、子どもの言葉の発達を支える保育者の役割や環境づくり、文化財の活用、教材研究、保育の言葉に関する問題点についても教授する。
　言葉への知識や理解を深めるだけでなく、自分自身が自分をどのように表現し、人とやりとりをしているかを見つめなおすとともに、子どもを取り巻く環境を豊かにする言葉とはどのようなものなのかを考えていってほしい。

③　最終到達目標
　領域「言葉」の内容を理解する。
　乳幼児期の言葉の発達を多角的に捉え、理解する。
　言葉の重要性をふまえて、その指導と援助について具体的な方法を考えることができる。

〔講義内容〕
第１回　領域言葉とは（保育所保育指針・幼稚園教育要領より）
第２回　コミュニケーションとは
第３回　言葉の発達①言葉の誕生
第４回　言葉の発達②乳児期
第５回　言葉の発達③幼児期
第６回　言葉の発達④言葉を育てる
第７回　言葉と文化財①絵本、素話
第８回　言葉と文化財②紙芝居など
第９回　保育者の言葉とは
第10回　言葉の育つ環境と生活
第11回　保育の言葉に関する問題（言葉の遅れ・障害のある子どもへの対応）
第12回　保育の言葉に関する問題（異文化の子どもへの援助）
第13回　教材研究①手作りカルタなど
第14回　教材研究②
第15回　試験

〔講義のすすめ方〕
　講義を行なっていくと共に、絵本等を発表し、教材研究にて各自が教材を作成する機会も設ける。

〔教　　材〕
テキストは後日提示する。
保育所保育指針　幼稚園教育要領

〔成績評価の方法・基準〕
学期末試験　（評価の50％）
小レポート、授業への参加姿勢　（評価の30％）
小テスト　（評価の20％）

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を基本とする。
受験資格は『白鷗大学試験規則』に準ずる。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための必要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　保育原理、保育内容五領域の科目に関する講義を受けていることが望ましい。

K20001

科　目　名	ソルフェージュ
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	荒井　弘高

〔講義目的〕

本学にて開設されている、音楽関係科目の教授内容を効果的かつすみやかに展開させるために必要な、音楽の基礎的な知識・技能を修得することを目的とする。

音楽はまず「うたう」ことから始まる。声楽教本・音楽理論書等を教材とし、「うたう」ことを中心に、楽譜を読むために必要な基礎知識、正しい音程・リズムの習得、音楽的聴覚訓練、ハーモニー感覚を養う訓練等を行う。同時に発声法を学び、子どもの歌・世界の歌等の鑑賞・歌唱法（美しい日本語の発語法指導を含む）を行う。また、簡易伴奏法を学び、音楽の美しさ・楽しさ・喜びを体験する。

さらにリズム教育を兼ね、ハンドベル・アンクルン（竹のハンドベル）の演奏法指導を行う。同時に歌の伴奏に用いる方法を指導する。

これらを通して、豊かな感性と表現力のある人間を育成することを目標とする。

〔講義内容〕

第１回　音楽を学ぶ上での心構え　楽典①
「歩いて行こう」歌唱法①
第２回　楽典②　「歩いて行こう」歌唱法②
覚えて書く聴音①
リズムトレーニング①
第３回　楽典③　覚えて書く聴音②
「きれいなこころのみずうみ」歌唱法①
リズムトレーニング②
第４回　「きれいなこころのみずうみ」歌唱法②
覚えて書く聴音③
リズムトレーニング③　コンコーネ１番
第５回　「もしもｺｯｸさんだったなら」歌唱法①
覚えて書く聴音④
リズムトレーニング④　コンコーネ１番
第６回　「もしもｺｯｸさんだったなら」歌唱法②
覚えて書く聴音⑤
リズムトレーニング⑤　コンコーネ２番
第７回　「春が来た」「春の小川」」歌唱法①
覚えて書く聴音⑥　コンコーネ２番
リズムトレーニング課題消化①
第８回　「春が来た」「春の小川」」歌唱法②
覚えて書く聴音⑦　コンコーネ３番
リズムトレーニング課題消化②
第９回　「われは海の子」「富士山」」歌唱法①
覚えて書く聴音⑧　コンコーネ３番
リズムトレーニング課題消化③
第10回　「われは海の子」「富士山」」歌唱法②
コールユーブンゲン①　コンコーネ４番
楽典④
第11回　「雪」「紅葉」」の歌唱法指導①
コールユーブンゲン②　コンコーネ４番
楽典⑤
第12回　「雪」「紅葉」」歌唱法②
コールユーブンゲン③　コンコーネ５番
楽典⑥
第13回　「ホルデイリディア」歌唱法①
コールユーブンゲン課題消化①
コンコーネ５番　楽典⑦
第14回　「ホルデイリディア」歌唱法②
コールユーブンゲン課題消化②
コンコーネ１番から５番
第15回　コールユーブンゲン課題消化試験
第16回　子どもの頃歌って遊んだ「歌」発表会
コンコーネ６番
第17回　「子どもの歌」自作自演発表会
コンコーネ６番
第18回　アンクルン（竹のハンドベル）製作①
第19回　アンクルン製作②
第20回　アンクルン演奏法①　簡易伴奏解説①
第21回　アンクルン演奏法②　簡易伴奏解説②
第22回　アンクルン演奏法③及び発表会
第23回　発声法①　コンコーネ７番①
「七つの子」歌唱法①
「ホルデイリディア」合唱表現法①
第24回　発声法②　コンコーネ７番②
「七つの子」歌唱法②
「ホルデイリディア」合唱表現法②
第25回　発声法③　コンコーネ８番①
「てるてる坊主」」歌唱法①。
「ほたるこい」の合唱表現法①
第26回　発声法④　コンコーネ８番②
「てるてる坊主」歌唱法②
「ほたるこい」合唱表現法②
第27回　発声法⑤　コンコーネ９番①
「蛙の夜まわり」」歌唱法①
「ほたるこい」合唱表現法③
第28回　発声法⑥　コンコーネ９番②
「蛙の夜まわり」歌唱法②
「ほたるこい」合唱表現法④
第29回　「ほたるこい」発表会　童謡歌唱法
第30回　課題曲による歌唱法試験

.

〔講義のすすめ方〕
　講議内容にしたがって課題を設け、うたうことを中心に授業をすすめる。

〔教　　材〕
改訂版「声楽教本」　圭文社　2,000円
音楽の基礎　圭文社　1,800円
アンクルン　2,000円

〔成績評価の方法・基準〕
・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。
・出席を重視し平常点（50％）、講義内容ごとの課題消化度及び試験（50％）により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
・全回出席を原則とする。
・実技系の科目では、その基礎能力が　どのくらいあるかが、その後の展開に大きく影響する。うたって弾ける先生をめざし、少しでも音楽的基礎能力が向上するよう、努力すること。

〔科目内容の位置付け〕
・保育士資格取得のための重要な科目である。
・本学音楽関係科目の基礎科目である。他の音楽関係科目を履修する者は、最初に当授業を必ず履修すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　１年次においては、当授業において基礎を学びながら音楽実技Ⅰを履修する事が望ましい。その後音楽実技においては、音楽実技Ⅱ・音楽実技ⅢＡ・音楽実技ⅢＢへと４年間履修が可能である。また、リトミック・歌唱表現の専門科目、保育内容指導法（音楽表現）、音楽科概説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音楽科教育法へと展開できる。

K20101

科　目　名	歌唱表現
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	荒井　弘高　伊藤　裕美

〔講義目的〕
「日本の名歌を訪ねて」をテーマに、そのルーツを探り、とかく忘れがちな日本の文化に触れ、歌唱表現法の研究を行いながら、自らの感性を高めることを目的とする。
　主な内容は童謡・歌曲等を教材とし、個人の能力に合わせ発声指導を行いながら、歌唱における美しい日本語の発語法を学び、作品が作られた時の状況・社会的背景を加味した歌唱表現を、歌唱・伴奏両面から研究する。

〔講義内容〕
第１回　発声法の修得１
　　わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究１
第２回　発声法の修得２
　　わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究２
第３回　発声法の修得３
　　わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究３
第４回　発声法の修得４
　　わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究４
第５回　発声法の修得５
　　わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究５
第６回　発声法の修得６
　　わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究６
第７回　発声法の修得７
　　わらべうた・戦前の童謡歌唱表現研究７
第８回　発声法の修得８
　　文部省唱歌の歌唱表現研究１
第９回　発声法の修得９
　　文部省唱歌の歌唱表現研究２
第10回　発声法の修得10
　　文部省唱歌の歌唱表現研究３
第11回　発声法の修得11
　　文部省唱歌の歌唱表現研究４
第12回　発声法の修得12
　　文部省唱歌の歌唱表現研究５
第13回　発声法の修得13
　　文部省唱歌の歌唱表現研究６
第14回　発声法の修得14
　　文部省唱歌の歌唱表現研究７
第15回　発表会形式による試験
第16回　発声法の修得15
　　戦後の童謡歌唱表現研究１
第17回　発声法の修得16
　　戦後の童謡歌唱表現研究２
第18回　発声法の修得17
　　戦後の童謡歌唱表現研究３
第19回　発声法の修得18
　　戦後の童謡歌唱表現研究４
第20回　発声法の修得19
　　戦後の童謡歌唱表現研究５
第21回　発声法の修得20
　　戦後の童謡歌唱表現研究６
第22回　発声法の修得21
　　戦後の童謡歌唱表現研究７
第23回　発声法の修得22
　　戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究１
第24回　発声法の修得23
　　戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究２
第25回　発声法の修得24
　　戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究３
第26回　発声法の修得25
　　戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究４
第27回　発声法の修得26
　　戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究５
第28回　発声法の修得27
　　戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究６
第29回　発声法の修得28
　　戦後の童謡・新しい子どものうた歌唱表現研究７
第30回　発表会形式による試験

〔講義のすすめ方〕
・我が国の「うた」の歴史を把握するため、前期は戦前、後期は戦後作曲された作品を中心に歌唱表現法の研究を行う。同時にＣＤ・ＤＶＤ等による鑑賞を行う。なお童謡演奏会等を鑑賞する機会も設けたい。
・この講義は、学生自身お互いに伴奏を弾き合い、「ピアノ」「歌唱」両面より歌唱表現法の研究を行なう。

〔教　　材〕
・音楽リズム「幼児のうた楽譜集」　東京書籍　1,200円
・改訂版「声楽教本」　圭文社　2,000円
・その他必要に応じ指示した教材を各自用意する。

〔**成績評価の方法・基準**〕
・成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。
・受験資格は、「保育士資格規程」に準ずる。
・出席を重視（50％）し、発表会形式による試験（50％）により評価する。

〔**履修のポイント・注意点**〕
・全回出席を原則とする。
・実技科目であるので、常に動きやすい服装で受講すること。
・授業内において習得した技術は、日常反復練習すること。

〔**科目内容の位置付け**〕
・当授業は専門科目であるため、受講希望者は音楽の基礎知識が必要とされる。

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
・ソルフェージュ受講済みが前提条件である。
・ソルフェージュの授業で音楽の基礎知識を学び、当授業と音楽実技を受講することにより、教育現場の先生に求められる「うたって弾ける」技術を十分身につけることが出来る。勿論教育実習では大いに役立つであろう。また保育内容研究・演習（音楽表現）、音楽概説Ⅱ・Ⅲ、音楽科教育法へと容易に展開できる。

K20801

科　目　名	音楽実技ⅢＢ（応用）
	授業形態：演習
教　員　名	音楽担当教員

〔講義目的〕
①ピアノを使いこれまで学んできた土台を基に、より確かな技術の習得と演奏法の向上を目指す。
②子供達の「感じる心」を育む上で音楽との関わりは大切なものの１つである。個々の音楽に対する感動の経験が指導者となる上での感性をも高めることにもなる。
　本科目では、実際の教育現場において各自が即対応できる為に楽器を使いこなせる技術・表現力・即興性を習得することを目的とする。
③指導現場において即対応できる能力を身につける。各曲は暗譜で仕上げる。
　教員採用試験・就職試験にも対応できる能力の修得。

〔講義内容〕
第１回　授業のガイダンス（チェックシート＝CSの説明・演奏時のポイント・留意点等の説明）
第２回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰの未習曲・春夏のうた又はⅢうみ・春がきた）
第３回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰの未習曲・春夏のうた又はⅢ茶つみ・夕やけこやけ）
第４回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰの未習曲・春夏のうた又はⅢ春の小川・ふじ山）
第５回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰの未習曲・春夏のうた又はⅢとんび・スキーの歌）
第６回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰの未習曲・行事のうた又はⅢとんび・スキーの歌）
第７回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱの未習曲・行事のうた又はⅢ冬げしき・おぼろ月夜）
第８回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱの未習曲・行事のうた又はⅢ冬げしき・おぼろ月夜）
第９回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱの未習曲・行事のうた又はⅢこいのぼり・ふるさと）
第10回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱの未習曲・秋冬のうた又はⅢわれは海の子・ひらいたひらいた）
第11回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱの未習曲・秋冬のうた又はⅢうさぎ・さくらさくら）
第12回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱの未習曲・秋冬のうた又はⅢ夕やけこやけ・越天楽今様）
第13回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱの未習曲・秋冬のうた又はⅢもみじ・越天楽今様）
第14回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱの未習曲・秋冬のうた又はⅢ虫のこえ）
第15回　発表会（演奏会形式）・後期課題曲の選曲
第16回　課題曲の指導
第17回　課題曲の指導・課題曲に関するレポート提出
第18回　課題曲の指導
第19回　課題曲の指導・連弾曲の選曲
第20回　課題曲の指導・連弾パート別の指導
第21回　課題曲の指導・連弾パート別の指導
第22回　課題曲の指導・連弾パート別の指導
第23回　課題曲の指導・連弾の指導
第24回　課題曲の指導・連弾の指導
第25回　課題曲の指導・連弾の指導
第26回　連弾曲の発表会
第27回　課題曲の指導
第28回　課題曲の指導
第29回　課題曲の指導
第30回　試験（演奏会形式）

〔講義のすすめ方〕
・各自の課題曲を授業の中で個別指導する。
・前期は幼児曲・小学校のうたを中心に行う。余裕のある者はジブリ・ディズニー等にも取り組む。後期は各自が決めた自由曲・連弾曲に取り組む他、前期に続きうたの曲も行う。詳細は担当教員と相談し決定する
・指の分離・運指法習得の為、毎回ハノン・バイエル後半の教材を練習する。
・弾き歌い時には指導現場を想定し、曲への導入の仕方・歌詞の説明・演奏しながら次の歌詞を言う練習等も行う。

〔教　　材〕
　授業にて指示する。（ハノン等に関しては担当教員が各学生のレベルに合わせて指定する）
　Ａ４のクリアファイルを用意すること。

〔成績評価の方法・基準〕
　能力の個人差も考慮した上で、日々の課題への取り組み方や前期実技発表、後期実技試験における到達度を評価する。

＜判定基準＞
出席率　30%

平常点　20%
試験（前期発表も考慮）　50%

〔履修のポイント・注意点〕
・本科目は実技が中心となる。従って各自、日々の練習・努力に努めること
・チェックシートⅠ・Ⅱ・Ⅲはピアノレッスンノートに貼付し授業時において担当教員の確認印をもらうこと
・採用試験等においての実技試験の対応も各自の申告により随時行う
「継続は力なり」である。能力を問わず意欲ある者の受講を望む

〔科目内容の位置付け〕
応用レベル

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
音楽実技Ⅰ・Ⅱ・ソルフェージュ既習者対象

K21201

科　目　名	リトミック入門
	授業形態：演習
教　員　名	吉田　裕昭

〔講義目的〕
リトミックは、スイスの作曲家・教育者Ｅ・Ｊ＝ダルクローズにより創始されたユニークな音楽教育法である。しかし、その目的は「感性を磨き、身体と精神の一致・調和のとれた人格形成を目指す」ことにある。すべての可能性・能力発展の源泉を身体行動の中に求め、それを通じて諸感覚機能の発展を促し、創造性・想像性の上にたった教育活動の中に、人間性を高めていこうとするものである。すなわち、人間教育こそがリトミックの目指すところであり、領域“表現”の狙いと合致するところでもある。

本来、リトミックは「リズム」といわれる身体活動、「ソルフェージュ」「即興演奏」の３分野から成り立っている。聴覚を使ってしか感じることの出来ない、抽象芸術である音楽を、全身体を使い、体験を通して具体的に学ぶというものである。

この講義では、幼児・児童教育におけるリトミックの価値を認識し、指導者としての実力向上を目指すとともに、リトミックをまさに身をもって体験し、自分自身の感覚を研ぎ澄まし、感性を養うことを目的として進めていく。

〔講義内容〕
この時間は、リトミックの本来の姿を体験し、音楽の３要素の中で、最も強い影響力を持つリズムとそれに伴うニュアンス、より深く音楽を感じ取り、聴き取るためのソルフェージュ力の体得を目指す。

「リズム」に関しては、次の項目を取り上げる。
テンポ・強弱・拍・リズムパターン・拍の分割

「ソルフェージュ」に関しては、次の項目を取り上げる。音の記憶・ピッチ・終止感・全音半音・音階

〔講義のすすめ方〕
講義とともに、音楽がどのように出来ているかを、歌い、全身体を動かし、実感として理解できるように進めていく。

〔教　　材〕
「アロノフ先生のリトミック教室」
フランシス・ウェバー・アロノフ著
吉田裕昭訳　ドレミ楽譜出版社

〔成績評価の方法・基準〕
出席点40％（提出物も含む）遅刻・早退は減点。規定の回数を超えて欠席した場合は、試験を受けられない。平素の授業における態度・学期末試験の成績60％により、評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
受講の際は、動きやすく、床に直接座っても差しさわりのない服装で参加すること。Ｇパン、スカートは認めない。裸足で行うが、場合によっては、底の薄い上履きの着用を認める。この講義は、知識を得ることだけが目的ではなく、自分自身で経験をつむことが何よりも大切なので、積極的に参加し、自分の個性を十分に発揮して、楽しく受講することを望む。

〔科目内容の位置付け〕
この科目は、日本では、子供のための教育・楽器を学ぶ際の導入方法という認識が多いが、本来、音楽を学ぶ学生のソルフェージュ能力の向上を目指して、始められたものである。そして、その後の研究により、全ての年齢層の人に対応できる生涯教育として再認識されつつある。また、近年は音楽療法の分野でリトミックの価値が高く認められている。

また、リトミックの指導者には、国際免許制度があり、リトミックを取り入れている国々（アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・スイス・イタリア・スペイン・ポーランド・オーストラリア・カナダ等々）では、その資格が公的に認められているところも多い。現在までに、日本人の資格取得者は、約百名。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
ある程度（バイエル位）のピアノの技術、基本的音楽理論の知識は必要。また、それに対する向上心。

心理学・教育学・教育心理学・幼児心理学等の基本的な知識も必要。また、それに対する好奇心・探究心。

幼児教育、児童教育、音楽療法、音楽教育の分野で、多数のリトミック指導者が活躍している。将来的に最もニーズが期待されるのは、音楽療法の分野であろう。

K21301

科　目　名	リトミック応用
	授業形態：演習
教　員　名	吉田　裕昭

〔講義目的〕
リトミックは、スイスの作曲家・教育者Ｅ・Ｊ＝ダルクローズにより創始されたユニークな音楽教育法である。しかし、その目的は「感性を磨き、身体と精神の一致・調和のとれた人格形成を目指す」ことにある。すべての可能性・能力発展の源泉を身体行動の中に求め、それを通じて諸感覚機能の発展を促し、創造性・想像性の上にたった教育活動の中に、人間性を高めていこうとするものである。すなわち、人間教育こそがリトミックの目指すところであり、領域“表現”の狙いと合致するところでもある。
　本来、リトミックは「リズム」といわれる身体活動、「ソルフェージュ」「即興演奏」の３分野から成り立っている。聴覚を使ってしか感じることの出来ない、抽象芸術である音楽を、全身体を使い、体験を通して具体的に学ぶというものである。この講義では、幼児・児童教育におけるリトミックの価値を認識し、指導者としての実力向上を目指すとともに、リトミックをまさに身をもって体験し、自分自身の感覚を研ぎ澄まし、感性を養うことを目的として進めていく。

〔講義内容〕
この時間は、「リトミック入門」の続きとして、まず自身の感覚の更なる向上を目指し、幼児・小学生への歌を活用した指導法を研究する。
　「リズム」に関しては、次の項目を取り上げる。「入門」で取り上げた項目の復習・拍子・フレーズ・アナクルシス・カノン・休符・補足リズム
　「ソルフェージュ」に関しては、次の項目を取り上げる。「入門」で取り上げた項目の復習・半音の働き・音程・和音

〔講義のすすめ方〕
リトミックの指導法を学びつつ、教師の役割・子供をひきつける方法等を確認していく。

〔教　　材〕
「アロノフ先生のリトミック教室」
フランシス・ウェバー・アロノフ著
吉田裕昭訳
ドレミ楽譜出版社

〔成績評価の方法・基準〕
指導法を学ぶので、欠席は他の受講生に多大な迷惑をかけることとなる可能性があるため、大きく減点する。規定の回数よりも少ない欠席回数でも、講義に影響ありと判断した場合は、直ちに受講禁止とすることがある。出席50％・平素の授業における態度25％・学期末試験の成績25％により、評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
受講の際は、動きやすく、床に直接座っても差しさわりのない服装で参加すること。Ｇパン、スカートは認めない。裸足で行うが、場合によっては、そこの薄い上履きの着用を認める。この講義は、知識を得ることだけが目的ではなく、自分自身で経験をつむことが何よりも大切なので、積極的に参加し、自分の個性を十分に発揮して、楽しく受講することを望む。

〔科目内容の位置付け〕
この科目は、日本では、子供のための教育・楽器を学ぶ際の導入方法という認識が多いが、本来、音楽を学ぶ学生のソルフェージュ能力の向上を目指して、始められたものである。そして、その後の研究により、全ての年齢層の人に対応できる生涯教育として再認識されつつある。また、近年は音楽療法の分野でリトミックの価値が高く認められている。
　また、リトミックの指導者には、国際免許制度があり、リトミックを取り入れている国々（アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・スイス・イタリア・スペイン・ポーランド・オーストラリア・カナダ等々）では、その資格が公的に認められているところも多い。現在までに、日本人の資格取得者は、約百名。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
ある程度（バイエル位）のピアノの技術、基本的音楽理論の知識は必要。また、それに対する向上心。
　心理学・教育学・教育心理学・幼児心理学等の基本的な知識も必要。また、それに対する好奇心・探究心。
　幼児教育、児童教育、音楽療法、音楽教育の分野で、多数のリトミック指導者が活躍している。将来的に最もニーズが期待されるのは、音楽療法の分野であろう。

K21501

科　目　名	造形
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	粕谷　圭司

〔講義目的〕
子供にとっての造形活動は成長発達に欠くことの出来ない重要な自己表現活動である。それらの活動は自主的、主体的活動であり、このような時期に各子供の発達や年齢に応じた造形に関わる活動を援助することは重要なことである。実際には言葉の獲得や心身の発達や各感覚器官の発達等その過程においての変化を十分に理解することが前提となる。

〔講義内容〕
当講義においては以下の６点について材料研究と教材研究を中心に進める。
　第１週　オリエンテーション実習内容と受講にあたっての心構えについて説明する。
　第２週　陶芸（土鈴）　土鈴の歴史や技術についての説明。実習。
　第３週　陶芸（日用品）陶器生産地についての解説。製作にあたっての注意。実習。
　第４週　紙版画　　版画の種類と技術の説明。実習（人物画）。
　第５週　紙版画　　人物画の描き方を注意しながら進める。実習。
　第６週　紙版画　　陰影の付け方についての指導。実習。
　第７週　紙版画　　紙版画についての説明。実習。
　第８週　紙版画　　インク、紙の種類等の説明。摺り。
　第９週　ガラス絵　トレースで絵の具の説明。実習。
　第10週　ガラス絵　彩色。実習。
　第11週　ガラス絵　彩色。実習。
　第12週　ガラス絵　額縁製作。
　第13週　ガラス絵　製作修了。
　第14週　色彩　　トーナルカラー使用。色の三原色や性質について学ぶ。
　第15週　色彩　　実習。
　第16週　色彩　　色の性質。実習。
　第17週　陶芸　　絵付け　釉薬等の説明をした後絵付け、窯詰め。
　第18週　水彩画　（静物画）各グループごとに描く。
　第19週　水彩画　　構図等の説明。実習。
　第20週　水彩画　　陰影の指導
　第21週　水彩画　　水彩画の彩色について解説。実習。
　第22週　水彩画　　彩色。
　第23週　水彩画　　彩色。終了。
　第24週　採点　　水彩画提出にあたって個人的に指導しながら採点する。
　第25週　陶芸　　焼きあがった鈴に着色をする。
　第26週　面作り　　お面についての解説。
　第27週　面作り　　実習。
　第28週　面作り　　着色。終了。
　第29週　面作り　　各自面をかぶってそれの合わせた形作りで遊ぶ。
　第30週　指導法　　一年間を通して学んだことを幼児教育にどのようの実践するかを考え、各自発表させる。

〔講義のすすめ方〕
各課題制作前に材料の特質や扱い方について説明し、あくまでも基本的な技術的説明とし、学生が使い方や表現方法等を発見する場としたい。

〔教　　材〕
必要に応じてプリント等を用意する。
　講義形態の特色は実技演習である。
　各課題について材料費を徴収する（通年1000円程度）

〔成績評価の方法・基準〕
課題作品提出による評価（６課題）
　基本的に全作品提出が基準となる。
　判定基準　出席20％　評価80％

〔履修のポイント・注意点〕
講義形態は実技演習である為一つの課題には３回-６回で作品完成となる。課題制作のなかで、保育者として指導方法等を考える意識を持ちながら学んでほしい。

〔科目内容の位置付け〕
造形分野の基本

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
・美学…美術教育に幅広い視野を持つ
・造形教材研究
・絵画表現法

K21601

科　目　名	絵画表現法
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	小久保　裕

〔講義目的〕

子どもの時、誰もが嬉々として絵を描きます。子どもにとって、その行為は大切なコミュニケーションの手段である。子供の絵画活動は幼児期に身体表現の1つとしてのスクリブル（なぐり描き）として始まります。そして、次第にイマジネーションの働きが活発になり、目と心で感じ始めます。その活動は手の働きを通して考える人間へと成長する為の必要不可欠な営み、創造活動になっていくのです。その過程で絵を描く為の諸条件、見る目、感じる心、そして表現する意志と手だてが会得されていきます。
それが子どもの創造力や「生きる力」の源泉となるのです。

この講義ではデッサン（素描）や絵画実技を中心に、子どもの絵の見方、考え方を学びます。絵を描く楽しさや厳しさを体験しつつ、かつて誰もがそうであったような、のびやかなアーティストの魂を呼び覚まし、創造する喜びを子ども達と共感できる能力を培っていただきたい。

〔講義内容〕

第１回　オリエンテーション
第２回　子どもの絵画表現
第３回　ドローイングとペインティング
　　様々な画材説明
第４回　パスと水彩による造形 ①
　　マーブリングとスクラッチ
第５回　パスと水彩による造形 ②
　　スパッタリングとスタンピング
第６回　パスと水彩による造形 ③
　　バチックとフロッタージュ
第７回　パスと水彩による造形 ④
　　ドットペインティング
第８回　パスと水彩による造形 ⑤
　　デカルコマニーからのお面作り
第９回　鉛筆デッサン ①
　　幾何形体を描く
第10回　鉛筆デッサン　②
　　樹木を描く
第11回　鉛筆デッサン　③
　　静物を描く
第12回　油彩「静物」 ①
　　木炭デッサン
第13回　油彩「静物」 ②
　　油絵の具について
第14回　油彩「静物」 ③
　　溶き油について
第15回　油彩「静物」 ④
　　筆とペインティングナイフについて
第16回　鑑賞
第17回　石膏デッサン　①
　　構図とプロポーション
第18回　石膏デッサン　②
　　トーンとムーブマン
第19回　石膏デッサン　③
　　空間について
第20回　子供の絵　①
　　特質と発達過程について
第21回　子供の絵　②
　　指導における留意点
第22回　子供の絵　③
　　鑑賞と評価のあり方
第23回　透明水彩と不透明水彩について
第24回　ドットペインティング　①
　　指を使って
第25回　ドットペインティング ②
　　綿棒を使って
第26回　油彩「人物」　①
　　木炭デッサン
第27回　油彩　「人物」　②
　　構図について
第28回　油彩　「人物」　③
　　様々な技法について
第29回　油彩　「人物」　④
　　キャンバスについて
第30回　美術館鑑賞　　授業実施

〔講義のすすめ方〕

油絵などによる絵画制作を中心とした授業です。互いの作品批評やディスカッションも交え、個々人の資質や能力に応じた指導を心がけます。また、教室のみでなく野外や美術館などにも出かけ、自由な空間の中で創造し、鑑賞する喜びを味わえる授業をめざします。

〔教　　材〕

テキストは使用せず、プリントを配布する。
画材については適宜説明します。

〔成績評価の方法・基準〕

履修規程に準ずる。提出された作品、レポートの質と完成度による。また、結果作品のみでなく、制作過程も重視する。
受験資格は「保育士資格規程」に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
絵は上手に描くことが目的ではありません。
大切なのは常識にとらわれずに自分の形と色で自由に描くこと。そして、描くことを通して自己を見つめ、解き放つことです。
全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
絵画実技は入門的内容であり特別な経験は必要ない。保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提はない。関連科目として「造形」「造形教材研究」「美学」「保育内容演習（表現②）」「造形Ⅱ」。

K21701

科　目　名	造形教材研究
	授業形態：演習
教　員　名	粕谷　圭司

〔講義目的〕
造形に関する基本的な知識や技能を身につけると共に教育指導のなかで扱う教材やそれらを展開することを学びながら、造形活動を通して楽しさや喜びを体験することを目的とする。

〔講義内容〕
主に実技演習内容となる
課題項目
①陶芸
②木版画
③石膏による造形

〔講義のすすめ方〕
課題制作前に課題に関する技術的説明をして、指導法を学ぶ。

〔教　　材〕
必要に応じてプリント資料を用意する。
　材料費が必要となる（1000円程度)。

〔成績評価の方法・基準〕
出席を重視する
　課題作品提出による評価
判定基準　出席20％
点数80％

〔履修のポイント・注意点〕
知識技術の習得に加える造形活動の楽しさや喜びを味わい心を養う場としたい。
創造する積極的姿勢を期待する。

〔科目内容の位置付け〕
教材の技術的修得

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
美学
造形
絵画表現法

K30001

科　目　名	社会福祉
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	加藤　悦雄

〔講義目的〕
「福祉」という言葉は「幸福」「生活の安定・充足」等の意味をもつ。私たちは長い人生の旅をするわけであるが、誰もが無難に「しあわせな生活」を送れようとは限らない。その過程では病気をしたり、障がいを抱えたり、老いの問題など、安定した生活を脅かす様々な要因を指摘できる。人間の福祉を脅かす問題を「社会的」（人びとの支え合い）に解決し、一人ひとりの「よりよい生活」の実現を創ることが社会福祉の目的である。本講義では現代社会における社会福祉の意義とはたらきについて幅広く学ぶことを目的とする。

〔講義内容〕
1　生活上の困難と福祉ニーズ
2　社会保障・社会福祉制度－日本のセーフティーネット－
3　社会福祉の歴史
4　社会福祉法制度の基盤－日本国憲法・社会福祉法－
5　社会福祉の法制度①－生活保護－
6　社会福祉の法制度②－障がい者福祉－
7　社会福祉の法制度③－高齢者福祉－
8　社会福祉の法制度④－地域福祉－
9　社会福祉の法制度⑤－虐待・ＤＶ等暴力への対応－
10　社会福祉施設の最低基準・サービス評価
11　社会保険制度
12　社会福祉の専門職と援助技術①
13　社会福祉の専門職と援助技術②
14　社会福祉の専門職と援助技術③
15　社会資源を活用できる援助者を目指して

〔講義のすすめ方〕
テキスト・配布資料・視聴覚教材を用いて主として講義形式ですすめる。

〔教　　材〕
教科書　『保育福祉小六法2009年版』
　　みらい　1,700円
参考書　『保育士をめざす人の社会福祉』
　　みらい　2,000円
　　『国民の福祉の動向』
　　厚生統計協会　1,600円
　　『はじめての社会保障』
　　有斐閣　1,800円

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験（70％）・ミニレポート（15％）・出席状況（15％）により成績評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
社会福祉に関する新聞記事や番組、あるいは身近な福祉の諸問題にも関心をもってください。
本講義で取り扱う福祉専門職に必要な基本的な知識と、私たちの生活の身近にある福祉問題との連続性（つながり）を意識すると、
さらに学びを深めることができると思います。

〔科目内容の位置付け〕
学問分野（社会福祉・保育）の基盤に位置する内容です。

K30101

科　目　名	社会福祉Ｂ
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	川瀬　善美

〔講義目的〕
1997年国が打ち出した「社会福祉基礎構造改革」は社会福祉をそれまでものと様相を一変させた。
第一には「措置制度」から「契約制度」への転換である。次に「応能型負担」から「応益型負担」への転換である。同時に大幅な規制緩和と民間参入の促進である。
この事により、社会福祉に市場原理が持ち込まれ、福祉サービスは商品となった。そして、福祉サービス利用者は、消費者となった。
その結果、消費者保護を目的に契約時の情報公開・提供、苦情受付窓口設置・処理、サービスの第三歳評価を受けることなどが義務付けられた。サービスの質の向上である。
民間事業者も含め、サービス提供主体の多様化が図られ、サービスの自己評価や第三者評価、質の高い人材の養成・確保などが求められることとなった。
他方地方分権が叫ばれ、特に「三位一体改革」以降地方自治体の役割が大きくなり、地域福祉の推進が求められることとなった。その結果、市町村地域福祉計画や都道府県地域福祉支援計画を始めとするの諸計画策定が義務付けられ、「障害者自立支援法」の成立も相まって、障害者関連事務等の市町村への移譲も行なわれた。
このような状況下にあって、国民の一人として、人間らしく質の高い豊かな生活実現させていくた、自分自身が主体的に参加・参画して行くことが求められる。
それらをふまえ社会福祉についてのさまざまなファクターについて学ぶ。

〔講義内容〕
１回　社会福祉支援活動における専門性と倫理
２回　社会福祉専門職と資格制度
３回　社会福祉専門職と資格制度
４回　社会福祉６法とその体系　社会福祉法
５回　社会福祉６法とその体系　児童福祉法　その１
６回　社会福祉６法とその体系　児童福祉法　その２
７回　社会福祉６法とその体系　老人福祉法と介護保険　その１
８回　社会福祉６法とその体系　老人福祉法と介護保険　その２
９回　社会福祉６法とその体系　障害者福祉法と障害者自立支援法　その１
10回　社会福祉６法とその体系　障害者福祉法と障害者自立支援法　その２
10回　社会福祉６法とその体系　障害者福祉法と障害者自立支援法　その２
11回　社会福祉６法とその体系　生活保護法　その１
12回　社会福祉６法とその体系　生活保護法　その２
13回　社会福祉６法とその体系　生活保護法　その２
14回　我が国の社会福祉の現状と課題
15回　諸外国の福祉事情

〔講義のすすめ方〕
通常の講義スタイルを取る。
変化する社会福祉状況に即応できるようその時々に話題となっている福祉問題についてもトピックス的に内容に加えて行く。

〔教　　材〕
教科書　千葉茂明・宮田伸郎編
「新社会福祉概論」みらい
「保育六法2003」　〃
参考書　なし
指定図書　なし

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験と出席状況によって行う。
試験方式は講義中に発表する。

〔履修のポイント・注意点〕
社会福祉は刻々と変化しつづけており、制度も変化しています。そこで日常的に新聞等に掲載の福祉関連記事の切り抜き・スクラップをかならず行う事を薦める。

〔科目内容の位置付け〕
社会福祉士資格取得希望は、試験出題範囲内であり必修であると云う事を認識しておくこと。また保育士資格取得希望者も変化しつづける社会福祉を正確に理解することが就職するいかんに問わず求められると云う事を認識しておくこと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会福祉と併せて履修すること。

K30401

科　目　名	児童福祉
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	大川　健次郎

〔講義目的〕
現代社会において、少子化問題や子ども虐待など子どもにかかわる問題が注目されている。このような状況の中で、子どもが健全に育ち、また、子どもを健全に育てるための施策が必要とされている。子どもは家庭・地域・社会の中で最も影響を受けやすいといえる。そこで、まず子どもの権利について十分に学んでおく必要がある。子どもは、「育てられる」立場であり、同時に子ども自身が「育つ」立場でもある。そこで、児童福祉の理念や子どもが社会の中でどのように位置づけられてきたかという「子ども観」を理解することが第一の目的となる。
　その上で、現在の児童福祉施策の状況を把握することを第二の目的とする。児童福祉施策は、要保護児童に対応する施策や要保護となる前の予防的な施策など幅広い。また、子どものみを対象としているのではなく、親・家庭への支援も含まれる。現代の子どもを取り巻く状況、それに対応する施策の現状と課題の理解は不可欠なものである。
　第三には子どもへの支援の担い手についての理解である。各専門職の概要、専門職間の連携などである。

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション「児童福祉とは」
第２回　現代社会と児童・家庭
第３回　児童福祉の理念と意義
第４回　児童福祉の歴史的展開
第５回　児童福祉に関する法制度と実施体制
第６回　児童福祉施策の現状と課題①少子化と子育て支援サービス
第７回　児童福祉施策の現状と課題②要保護児童施策
第８回　児童福祉施策の現状と課題③少年非行
第９回　児童福祉施策の現状と課題④ひとり親家庭等
第10回　児童福祉施策の現状と課題⑤健全育成
第11回　児童福祉施策の現状と課題⑥母子保健
第12回　児童福祉施策の現状と課題⑦保育
第13回　児童福祉施策の現状と課題⑧障害児
第14回　児童福祉従事者と児童福祉の実践
第15回　児童福祉の課題

〔講義のすすめ方〕
講義形式を中心に進める

〔教　　材〕
保育士養成講座編纂委員会編『児童福祉』全国社会福祉協議会出版部

〔成績評価の方法・基準〕
授業の参加20％　試験80％

K30501

科　目　名	児童福祉Ｂ
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	山中　定雄

〔講義目的〕
今日の社会において、児童もまた危機の中にある。児童の権利に関する条約に謳われた『児童の最善の利益』をどのようにして守るのかを、今、真剣に問わなければならない。
　様々な制度改革の中にあって、児童福祉も大きく転換しようとしている。家庭、地域、親、そして子ども、それらが直面している現状を検証し、課題と対応を考える。

〔講義内容〕
1　子どもたちを取り巻く現状
2　現代の家族・児童問題
3　児童福祉の法体系と児童福祉法
4　日本の児童福祉政策
5　児童福祉援助の視点
6　児童福祉と家族支援
7　児童福祉の現状　　貧困
8　児童福祉の現状　　要保護児童（1）
9　児童福祉の現状　　要保護児童（2）
10　児童福祉の現状　　健全育成
11　保育と制度改正
12　保育と子育て支援
13　２１世紀の児童福祉の課題
14　これからの子育て
15　試験

〔講義のすすめ方〕
児童問題の今日的話題や問題を取り上げながら、これからの児童福祉を考える。

〔教　　材〕
現代の児童福祉　　古川孝順・田澤あけみ　編
　　有斐閣　　２０００

福祉六法　　出版社は問わない

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験　　９０％
出席率　　１０％

〔履修のポイント・注意点〕
広く社会的関心を持ち、情報の収集と科目の関連を考えながら学んで欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
保育士選択必修、社会福祉士必修

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会福祉、保育原理、社会福祉援助技術、養護原理、家庭支援論など

K31101

科　目　名	社会福祉援助技術論Ⅱ
	授業形態：講義
教　員　名	宮武　正明

〔講義目的〕
社会福祉援助技術Ⅰで学んだ援助技術の基礎的な理解をさらに深め、社会福祉援助技術を体系的に習得、専門的レベルにまで知識を深めることを目的にする。
援助過程の力動性とその中で働く要因を分析し、援助過程の相互作用と援助者の役割と機能について理解を深める。
３年次に行なわれる社会福祉現場実習での臨床性に耐えうる知識と理解を構築するようにする。

〔講義内容〕
1. 直接援助技術の意義、適応領域と対象分野
2. 個別援助技術の実際①
（インテーク面接）
3. 個別援助技術の実際②
（アセツメント・プランニング）
4. 個別援助技術の実際③
（インターベンション）
5. 個別援助技術の実際④
（モニタリング・エバリュエーション）
6. 個別援助技術の事例研究①
（相談機関・医療相談の事例）
7. 個別援助技術の事例研究②
（児童家庭・障害者・高齢者の事例）
8. 個別援助技術と記録
9. 集団援助技術の実際①
（求められている場所・準備期）
10. 集団援助技術の実際②
（開始期・作業期・終結期）
11. 集団援助技術の事例研究①
（機関・医療現場の事例）
12. 集団援助技術の事例研究②
（児童家庭・障害者・高齢者の事例）
13. 集団援助技術と記録
14. 直接援助技術を統合する
15. 前期のまとめ（テスト）
16. 間接援助技術の意義、適応領域と対象分野
17. 社会福祉調査法の理論と技術①
（調査票の作成）
18. 社会福祉調査法の理論と技術②
（実施と集計）
19. 社会福祉計画法の理論と技術①
（市町村等の計画）
20. 社会福祉計画法の理論と技術②
（小地域の場合）
21. 地域援助技術の事例研究①
（市区町村の事例）
22. 地域援助技術の事例研究②
（小地域活動の事例）
23. 地域援助技術の事例研究③
（子育て支援ネットワークの事例）
24. 社会活動法の理論と技術①
（一人を支える）
25. 社会活動法の理論と技術②
（地域を支える）
26. 社会福祉運営管理の理論と技術①
（スーパービジョン）
27. 社会福祉運営管理の理論と技術②
（施設経営）
28. ケアマネジメントによる直接援助
29. 集団援助技術・地域援助技術と記録
30. 後期のまとめ（テスト）

〔講義のすすめ方〕
講義を主体にするが、具体的事例を多用して討議して論議を深める。

〔教　　材〕
テキストは使用しません。
毎回プリントを配付します。
各自で綴じて保存して下さい。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験による。60点以上を合格。

〔履修のポイント・注意点〕
社会福祉士受験資格の指定科目であるので、受験資格に必要な履修日数が必要。２／３以上の出席日数が必要。

〔科目内容の位置付け〕
社会福祉援助技術論Ⅰに連続する講座であるので、社会福祉援助技術論Ⅰを履修したものが受講可能。

K31201

科　目　名	社会福祉援助技術演習
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	宮武　正明　若林ちひろ

〔講義目的〕
1. 保育活動に必要な社会福祉援助技術の基本的人間観、価値、倫理を理解する
2. 社会福祉援助技術の技法と態度について理解する
3. 人権の尊重、自立支援、権利擁護などの基本姿勢を理解する
4. 社会福祉援助技術の具体的展開過程について、事例を用いて検討し、その力動性を理解する
5. 実際の保育場面で社会福祉援助技術を活用できる臨床性を身につける

〔講義内容〕
保育士養成課程で社会福祉援助技術を学ぶことは、保育所や児童福祉施設などの保育現場において、児童の成長、発達のために行う育児相談、発達相談、家族相談など子育て支援に対応できる能力を涵養することにある。
保育士は近年、保健師とともに、児童虐待の早期発見の機会が多く、子供の安全や社会的保護についての役割と責任が一層重くなってきている。
子供の行動の異常の発見、日常の親子関係が示す危機のサインをとらえる能力、親の態度と行動の観察など、保育活動をベースに広く児童をとりまく社会関係全体への目配りが必要である。狭く児童の心身の成長に関心を限定することなく、広く児童をとりまく家庭環境、地域環境、20歳までの児童養護などへの視野をもつことが求められている。
社会福祉援助技術は、個人と社会の相互作用、相互関係の中で、人権の尊重、自己実現、自己選択などの人間的発達を促進する援助技術であり、社会福祉援助技術を学ぶことは、保育士に期待されている社会的養護の第一線の実践者として、充分な知識と資質を与えてくれるものである。

〔講義のすすめ方〕
〔前期〕
1. 保育士が社会福祉援助技術を学ぶ理由
2. 社会福祉援助技術と社会福祉の関係
3. 社会福祉援助技術の歴史
4. 社会福祉援助技術の基本構成要素
5. 社会福祉援助技術の価値
6. 社会福祉援助技術の知識、技術
7. 個別援助技術の構成要素
8. 個別援助技術の原則（バイステックの原則）
9. 個別援助技術の事例検討
10. 事例解説
11. 個別援助技術の事例検討
12. 事例解説
13. 個別援助技術の事例検討
14. 事例解説
15. 個別援助技術の社会的機能

〔後期〕
1. 集団援助技術の意義と役割
2. 集団援助技術の構成要素
3. 集団援助技術の展開過程
4. 集団援助技術の事例検討
5. 事例解説
6. 集団援助技術の事例検討
7. 事例解説
8. 集団援助技術の事例検討
9. 事例解説
10. 地域援助技術の意義と役割
11. 地域援助技術の構成要素
12. 地域援助技術の事例検討
13. 事例解説
14. 社会福祉援助技術の社会的機能
15. 定期試験

〔教　　材〕
テキストは使用しません。
毎回プリントを配付します。
各自で綴じて保存して下さい。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験による。出席 2 / 3 以上、
得点60点以上合格

〔履修のポイント・注意点〕
討議に積極的に参加すること

〔科目内容の位置付け〕
保育士養成科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「社会福祉」を受講していることが必要

K31301

科　目　名	社会福祉援助技術演習Ⅰ
	授業形態：演習
教　員　名	若林　ちひろ

〔講義目的〕
社会福祉援助技術Ⅰ、Ⅱで得た知識を、具体的実践力、臨床能力に高め、専門職能力を獲得することを目的にする。
ロールプレイなどにより、具体的実践場面での援助活動の精度を高める演習を行う。

〔講義内容〕
相談援助の方法（面接技法）の習得
集団援助技術、のすすめ方の習得
地域援助技術の具体的方法の習得
社会福祉調査の具体的方法の習得
施設運営管理の方法の習得
スーパービジョン体験
コンサルテーションの習得
ネットワーク形成実習

〔講義のすすめ方〕
ロールプレイによる再現演習
事例検討による援助方法の習得
具体的計画立案と実行による調査技術
集団援助技術の習得
地域援助技術の習得

〔教　　材〕
「社会福祉援助技術演習」
　福祉士養成講座委員会編
　中央法規　￥2、500＋税

〔成績評価の方法・基準〕
演習中の報告、発言により評価する。
出席率２／３以上。

〔履修のポイント・注意点〕
討議に積極的に参加し、発言することによって理解が深まるので、討論に積極的に参加すること。

〔科目内容の位置付け〕
社会福祉士受験資格の指定科目であるので、受験資格に必要な履修日数が必要。２／３以上の出席日数が必要。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会福祉援助技術論Ⅰを履修した学生が受講可能。

K31401

科　目　名	社会福祉援助技術演習Ⅱ
	授業形態：演習
教　員　名	若林　ちひろ

〔講義目的〕
社会福祉援助技術の展開過程の中で、社会福祉のもつ人権尊重、権利擁護、自立支援などについての福祉思想が、具体的な利用者の相談活動、面接活動、評価技能、サービス支援活動などにいかに役立ち活用できるか、についての相関性を追究し、社会福祉援助技術のスキルアップを目的にする。社会福祉援助技術演習Ⅰに引継いで、社会福祉援助技術の実際場面での実践能力の向上を目指し、その精度を高める。

〔講義内容〕
利用者の問題のアセスメントの方法の習得
プランニングの方法の習得
インプリメンテーションの方法の習得
契約の方法の習得
記録の方法の習得
エンパワーメント強化の方法習得
社会計画の方法の習得
社会活動の方法の習得
ネットワーク形成の方法の習得

〔講義のすすめ方〕
具体的場面設定による計画立案作業
グループ討議による討論深化
具体的作業プランの作成実習
現場実践者によるスーパービジョン

〔教　　材〕
その都度指定する。

〔成績評価の方法・基準〕
演習中の報告、発言、レポートにより評価する。
出席率２／３以上。

〔履修のポイント・注意点〕
積極的に討論に参加し、知識と技能を高める機会にすることが望まれる。

〔科目内容の位置付け〕
社会福祉士受験資格の指定科目になっている。
出席率重視。２／３以上の出席が必要。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会福祉援助技術演習Ⅰを習得したものが受講可能。

K31701

科　目　名	保育原理Ⅰ
	授業形態：講義 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	荒井　洌

〔講義目的〕
子育ては、人間にとって永遠の営みです。子育ては、それ自体が人間存在の起点でもあり、目的でもあります。現代社会において営まれている乳幼児保育は、この人間にとっての永遠の行為から導き出されるべきものと考えます。
ですから、私たちが乳幼児保育のありようについて学ぶとき、常に、この原点ともいうべきことがらに立ち返るようにしなければならないと思います。喜びとしての子育て、すなわち働きがいとしての幼児保育について、未来へのロマンを胸にしながら、授業に参加していただきたいと思います。

〔講義内容〕
（前期）
1. 保育の世界へのいざない
2. 人間の誕生・子どもの発育
3. 子育て、そして保育の魅力
4. 幼児保育界のあらまし
5. 世界の流れ・日本の流れ
6. Kindergarten の系譜
7. Infant school の系譜
8. 保育思想の流れ（西洋その1）
9. 保育思想の流れ（西洋その2）
10. 保育思想の流れ（西洋その3）
11. 保育思想の流れ（日本その1）
12. 保育思想の流れ（日本その2）
13. 保育思想の流れ（日本その3）
14. 現在の保育界の課題
15. 定期試験（90分）

（後期）
16. 保育の内容のとらえ方（その1）
17. 保育の内容のとらえ方（その2）
18. 子どものグルーピングの方法（その1）
19. 子どものグルーピングの方法（その2）
20. 保育の環境についての考え方
21. 生活の場としての園舎
22. 遊びの場としての園舎
23. 自然環境としての園庭
24. 外遊びの場としての園庭
25. 子どものアイデンティティーについて
26. 子育てサロンとしての園のあり方
27. 保育者としての働きがい
28. 保育政策の動向（日本）
29. 保育政策の動向（諸外国）
30. 定期試験（90分）

〔講義のすすめ方〕
講義は、次のようなポイントを押さえながら行います。
・保育思想の流れ（西洋）
・保育思想の流れ（日本）
・子育てサロンとしての園のあり方
・保育政策の動向（日本・諸外国）

〔教　　材〕
テキスト
『園生活における知育』
荒井洌著（明治図書）
『保育者のための 世界名作への旅』
荒井洌著（冨山房インターナショナル）

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価の方法は、「履修規定」に準じます。
受験資格は、「保育士資格規定」に準じます。

〔履修のポイント・注意点〕
幼児保育のチャームポイントを見つけ出すような姿勢で、テキストを読み取り、また講義に耳を傾けてください。
全回出席が原則です。

〔科目内容の位置付け〕
幼児保育について学んでいくための基礎的な理念や知識です。確実に理解するよう努めてください。
保育士資格取得のための重要な科目です。

K31801

科　目　名	保育原理Ⅱ
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	福田　真奈

〔講義目的〕
①　平易な科目内容
　保育の本質や原理、子ども理解、子どもの発達と保育、保育の内容や方法、保育者の援助、保育者の役割などに関して講義する。

②　講義の目的
　保育者になるための基本的な知識や考え方や仕組みについて総合的に教授する。保育は主として乳幼児期の子どもを「人間」として育てる営みである。したがって保育原理は単なる保育についての知識を獲得するに止まらず、一人ひとりの学生に人間関係をベースとした、温かくやさしい「保育の心」を養い育てることをねらう。そのために乳幼児期の健全な心身の成長を促しうる専門的知識や技術を学ばなければならない。それらを通し、それぞれの学生なりに保育観、子ども観、人間観を形成されることを期待したい。

③　最終到達目標
　子どもや保育に関する知見を多角的に捉えなおす。
　保育の原理をさらに深めるとともに、保育の今日的課題を理解する。
　自分自身の子ども観、保育観を磨き、保育者の役割について考察しうる力を身につける。

〔講義内容〕
第１回　保育とは何をすることか
第２回　保育内容とは
第３回　子どもの経験の内容を問う
第４回　子ども理解とは
第５回　子どもの発達と保育
第６回　子どもの年齢と保育の実際
第７回　保育の歴史
第８回　保育方法と保育形態
第９回　環境を通して行う保育
第10回　保育者の援助
第11回　指導計画
第12回　保育の実践と評価
第13回　多様な保育ニーズへの対応
第14回　保育者の役割
第15回　試験

〔講義のすすめ方〕
　講義をおこなっていくとともに、必要に応じて、グループワーク、ディスカッションを取り入れる。

〔教　　材〕
後日提示する。
保育所保育指針、幼稚園教育要領

〔成績評価の方法・基準〕
学期末試験　（評価の50％）
課題への取り組み　（評価の30％）
小テスト及び小レポート　（評価の20％）
受験資格は『白鷗大学試験規則』に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を基本とする。

〔科目内容の位置付け〕
　保育士資格取得のための重要な科目である。
　保育原理Ⅰの内容を更に深め、基礎的な事項を学ぶ。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　保育原理Ⅰ、保育内容演習（五領域）の科目に関する講義を受けていることが望ましい。

K32101

科　目　名	養護原理
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	山中　定雄

〔講義目的〕
社会福祉の基礎構造改革に伴う制度改正は、児童養護の危機的状況とは、ある意味無関係に進行している。このことは児童の分野に限らず、真に福祉的施策を必要とする人々からの乖離でもあるが、それゆえ、施策に対しては真剣に注目しておく必要がある。そして、連日散見される児童虐待や育児放棄・非行、また、児童を守るべき『施設」での権利侵害など、児童を取り巻く環境は本来、家庭が持つ子供の『養育』機能の低下あるいは脆弱化によってもたらされているともいえるが、一方ではこれまで果たしてきた地域社会による子育て支援の機能も、社会経済状況の変化と相俟って弱体化している現実のなかで、児童養護の現場における責任と役割は極めて重要な位置付けを持つ。
　児童相談所・児童養護施設をはじめとする社会的養護の重要性は一段と強化されなければならない。
　講義では児童の『養護』とは何か、今何が不足しているのかなど、少し広い視野で考える。

〔講義内容〕
1　児童福祉と養護
2　児童福祉法・児童憲章・児童の権利に関する条約、児童の最善の利益と児童の意見表明権
3　児童養護の体系
4　児童相談所の機能と役割
5　児童養護の歴史　　欧米
6　児童養護の歴史　　日本
7　児童養護の今日的課題
8　施設養護の基本原理
9　児童福祉施設の種別と機能　Ⅰ
10　児童福祉施設の種別と機能　Ⅱ
11　児童福祉施設（通所型）の種別と機能
12　施設養護の実際　援助と指導　Ⅰ
13　施設養護の実際　援助と指導　Ⅱ
14　児童福祉施設の運営管理
15　試験

〔講義のすすめ方〕
児童の問題に関しては社会の動向にも気を配りながら、理論を現場で強化する学び方をしてほしい。
　そのため、テキストだけでなく多くの時事問題を考えながら進めます。

〔教　　材〕
小田兼三・石井勲編
「養護原理」第３版
現代の保育学５　ミネルヴァ書房

〔成績評価の方法・基準〕
課題レポート　　４０％
定期試験　　５０％
出席率　　１０％

〔履修のポイント・注意点〕
法定資格化された保育士としての専門性と、そのことの意味と重要性を意識し、また、施設実習に向けての基礎知識獲得を目指してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
保育の本質・目的の理解に関する科目
　施設実習に向けての基礎知識修得

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会福祉、児童福祉、社会福祉援助技術、児童家庭福祉、養護内容など

K32201

科　目　名	養護内容
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	中山　万里子

〔講義目的〕
児童養護とは、十分かつ適切に養育（＝家庭での子育て）されない子ども（＝要保護児童）の、人間として当然の幸福を実現するための社会的なしくみと方法を意味します。
養護問題は、親の死亡・病気・貧困という伝統的な原因から、現在はより複雑なそれに変容しており、施設職員としての保育士は、増大する新たなニーズに対応できる援助技術や専門知識を、向上・更新し続けることが求められます。
この授業では、施設職員の果たすべき役割を理解すること、実践的な援助技術の基礎を学ぶこと、を目的とします。

〔講義内容〕
第１回…児童養護とは？（児童養護のしくみと問題）
第２回…児童養護施設とは？
第３回…乳児院とは？
第４回…施設養護の指針（児童の権利ノート、職員の実践指針）
第５回…アドミッションケア（十分な説明と同意への努力、迎え方）
第６回…インケア（日常生活への援助、受容・傾聴・共感・寄り添い）
第７回…インケア（個人と集団への援助、プライバシーの保護、体罰の禁止）
第８回…インケア（遊び、余暇、行事、生活の質、年少・年長児への援助）
第９回…インケア（問題行動への援助、職員間の連携・専門職との連携、信頼関係の構築）
第10回…インケア（家庭復帰・家族への援助・社会資源との連携）
第11回…リービングケア・アフターケア（自立への援助）
第12回…施設職員の専門性（求められる態度や人間像）
第13回…里親制度（養育里親・里子と里親への援助）
第14回…里親制度（専門里親・被虐待児への援助）
第15回…筆記試験

〔講義のすすめ方〕
具体的な場面をイメージしやすいよう、適宜ビデオ視聴を採り入れます。
個々の事例において、子ども・親・職員、それぞれの立場に自分を置き換え、共感する努力をした上で、「子どもの最善の利益」は何かを考えます。また、職員として具体的にどのような援助をするのか、各自の意見をまとめてもらいます。

〔教　　材〕
毎時、資料及び講義のレジュメプリントを配布。参考図書・サイト等は、必要に応じ紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
出欠（30％）、学習態度・小レポート・ノート（30％）・筆記試験（40％）等により総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
随時、最新の児童養護関連ニュースを採り上げます。新聞・雑誌・インターネットなどで日頃から情報収集する習慣を身につけ、問題意識を持つよう心がけて下さい。保育者の立場からのみならず、「もし自分がその子だったら」「その子の親だったら」、という目線で想像力を働かせることが不可欠です。
養護問題は施設児童に限りません。一般家庭にも、同様の問題を抱える児童が数多く存在します。施設就職希望者のみならず幼稚園・保育園等に就職希望の人も、各現場の潜在的要保護児童の存在に着目し、援助技術を身につけて下さい。

〔科目内容の位置付け〕
主として「児童福祉」「養護原理」で学ぶ知識を元に、施設職員としての実践的援助技術を学ぶ演習科目です。

K32501

科　目　名	乳児保育
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	髙橋　美保

〔講義目的〕
乳児は発達の連続である。ここでは3 歳未満児を乳児という。
前期は、生活をとおして子どもの「育つ力」を発達の視点で捉え、事例を基に具体的に学修する。運動機能や情緒、言葉や人間関係などの発達過程において、子どもはどのような環境でどんな力を獲得するのかを理解し、保育者の関わり方や役割について自覚する。
後期は、生活への援助や遊びの展開など、具体的な事例を交えて演習形式で学ぶ。その学びをとおして、現代の保育についての課題を把握し、解決の方法を探る。

〔講義内容〕
1回　乳児保育の意義
2回　乳児保育の現状と歴史
3回　保育所保育指針を読む(1)
4回　乳児の生活と発達(1)
　　おおむね6か月未満
　　① 発育・発達の特徴
5回　　② 生活や遊びの援助
6回　乳児の生活と発達(2)
　　おおむね6か月から1歳3か月未満
　　① 発育・発達の特徴
7回　　② 生活や遊びの援助
8回　乳幼児の生活と発達(3)
　　おおむね1歳3か月から2歳未満
　　① 発育・発達の特徴
9回　　② 生活や遊びの援助
10回　乳幼児の生活と発達(4)　おおむね2歳
　　① 発育発達の特徴
11回　　② 生活や遊びの援助
12回　乳児保育の発達と保育
　　① 保育計画、指導計画
13回　　② 計画作成の実際
14回　　③ 環境構成の実際
15回　発表、前期定期試験
16回　保育所保育指針を読む(2)
17回　乳児保育の環境とその特徴
18回　保育所の環境、施設、設備
19回　保育環境をデザインする　「遊びと保育」
20回　　① 手作り遊具の製作
21回　　② 教材研究の発表
22回　保育の計画
　　① 発達区分別保育計画（ねらいと内容）
23回　　② 指導計画
24回　　③ 保育の評価　（職員の協力体制）
25回　　④ 指導計画の作成
26回　乳児保育における保健活動
　　① 事故やケガとその対応
27回　　② 家庭や保育所での健康や安全の留意点
28回　地域における乳児保育の役割と連携
29回　グループ研究と発表
30回　後期定期試験

〔講義のすすめ方〕
乳幼児の発達の特徴や援助のポイントをより具体化的に理解するために、ビデオ教材なども用いて進める。また、保育所保育指針を読み解きながら、生活や遊び、保健、家庭との連携などの取り組みや環境構成についても考える。

〔教　　材〕
教科書：　やさしい乳児保育
　　伊藤輝子他編　青踏社　1995円
資料：　　適宜、配布する
指定図書：保育所保育指針
参考書：　乳児保育の実践と子育て支援
　　榊原洋一・今井和子編
　　ミネルヴァ書房　2800円
　　随時紹介していく

〔成績評価の方法・基準〕
出席(10%) 課題レポート(20%) 製作(20%)
前・後期試験(50%)で総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
乳児とのふれあい体験を持って、授業に臨んで欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
保育という営みは、それぞれの領域に分けられないことが多い。
したがって、生活全体を視野に入れて学習する必要がある。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
発育・発達学はもちろん、小児保健や小児栄養との継続履修で、一層の学習効果が期待できる。

K32601

科　目　名	障害児保育
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
1．社会は激しく変化し、教育・保育において従来「障害児教育・保育」といわれてきた領域は、今「特別支援保育・教育」という概念で、新たな転換期を迎えた。
2．学生諸君が将来の専門職を目指し、この分野に十分な認識を持ち、機会を得て障害児との関わりを深めようとする姿勢は、非常に重要なことである。
3．一般的には日常的な関わりの少ない分野である可能性が高い。講義および演習を通して、十分に理解を深め、履修生が積極的に障害のある子ども達に関わって学習の機会を得、その発達をしっかり支援するような立案が出来るようになることを授業の目的とする。

〔講義内容〕
本講義は15回の授業を、次のような学習のプロセスで全うすることにしている：

１～２　「障害」および「障害児」の理解を発達の概念のなかで学ぶ
３～４　特別支援教育のなかの「障害児保育」の位置づけを歴史の視点も含め、理解する
５　保育―教育、心理、医学、保育行政の協力体制が目指す早期対応と研究活動
６～７　障害児を取り巻く社会・保育・家庭の現状理解と連携
８～１０　障害児保育の実際
１１　健常児に対する「障害児理解啓発教育」の試み
１２～１３　障害児の心身の活動を豊かにする「おもちゃと遊び」の工夫
１４～１５　障害児の保護者のための支援（含む、カウンセリング）

〔講義のすすめ方〕
その１・正しい知識と認識をもってもらうために、まずは講義を行う。
その２・学生の暮らしの周辺から障害乳幼児に関する資料を集め、それによって実感を養い、機会があれば、保育実習や子育て支援センターなどで障害の実際を手伝えるよう、心得を学ぶ。
その３・幼い障害児達の楽しい支援のための遊び材や保育計画の立案を「演習」形式で学び、グループ活動として実践してみる。

〔教　材〕
テキスト：「よくわかる臨床発達心理学」（第3版）
麻生、浜田（編）、ミネルヴァ書房
（￥2600＋ tax）

〔成績評価の方法・基準〕
・成績評価の基準は、「履修規程」に準ずる。
・受験資格は、「保育士資格規程」および「白鷗大学試験規則」に準ずる。
・出席状況評価にあたり、欠席のあった場合には理由書を提出すること。
・真剣に取り組まない学生は、学期の途中でも「不可」評価することがある。

〔履修のポイント・注意点〕
・「障害児保育」の分野には未開拓の分野も多く、新たな情報や試案をしっかり受け止め記憶するために、
ノートをとる習慣を持つこと。
・授業ではテキストのほかに資料配付も多い。
・資料の保存と併せて、しっかりノートをとること。
・全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
・保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

K32701

科　目　名	家庭支援論
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	荒井　洌

〔講義目的〕
「子育て家庭支援」という社会的なテーマが、大きくクローズアップされてきました。
　このことは、家庭における育児力の低下のためといった消極的な意味合いからだけではなく、本来が家庭と社会的なサポートとによってなされるべき子育てが、明るく、さわやかに、積極的に考えられるようになった結果といえるでしょう。
　保育施設が、直接的な子どもの保育を行うことの背景には、「子育て家庭支援」という根本的な課題があることを、この「家庭支援論」の授業を通して、認識を深めてください。

〔講義内容〕
1.「子育て家庭支援」という課題
2.幼少年期における家庭生活
3.子育てと家庭生活
4.老年期における家庭生活
5.世界各地の子育て文化
6.北欧諸国に見る育児サポート
7.保育施設のモデルとしての家庭
8.社会的エネルギー源としての家庭
9.未来の社会を支える家庭
10.家庭についての歴史的な見方
11.家庭生活への期待
12.保育施設と家庭との連動
13.子育て家庭支援のための工夫
14.子育てをエンジョイする方向
15.定期試験(90分)

〔講義のすすめ方〕
　以下のようなポイントを押さえたいと思います。
・ライフ・サイクルにおける家庭、とりわけ、子育て中の家庭について。
・社会的エネルギー源としての家庭。
・子育てが、よりエンジョイできる保育システムへの展望。
・「子育て家庭支援」のための保育者の役割と、さまざまな具体的な試み。

〔教　　材〕
テキスト
『ファミリー・サポートの保育園』
　荒井洌著（明治図書）

〔成績評価の方法・基準〕
・成績評価の方法は、「履修規定」に準じます。
・受験資格は、「保育士資格規定」に準じます。

〔履修のポイント・注意点〕
　家庭を視野に入れたこの教科は、保育士になるうえで、内容的に不可欠な科目として位置づけられています。熱心に受講してください。
　全回出席を原則とします。

〔科目内容の位置付け〕
　保育士資格取得のために欠かすことのできない、重要な科目です。

K33001

科　目　名	医学一般
	授業形態：講義
教　員　名	海原　純子

〔講義目的〕
医学的知識は将来教育やスポーツの現場で必須の知識となるはずである。基本的な人体のしくみ、生理機能、疾患の正確な知識がなくてはならない。
ここでは単なる机の上の知識としての医学ではなく、より実践的で役に立つ医学を学んでもらうことを目的にする。また体だけでなく体と心、ストレスと疾患などホリスティックな視点から医学を捉えていきたい。

〔講義内容〕
1. 人体の構造
2. 予防医学
3. 一般臨床医学の概要
4. 現代社会と疾患・生活習慣病・ガン
　ストレスと病気・神経疾患
5. タバコとお酒
6. 感染症
7. 環境障害
8. 公衆衛生の現状（人口動態など）
9. リハビリテーション
10. 保健医療対策
11. 医療法と保健医療機関

〔講義のすすめ方〕
毎回必要なテーマを提示し紹介する。ビジュアルを的確に意味知るため図やスライドを使用する。授業は印刷物、黒板への書き込みなどを主体とする。

〔教　　材〕
特に指定なし。
そのつど印刷物配布。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験（70％）
出席及び授業参加の姿勢（30％）

〔履修のポイント・注意点〕
自分でも問題意識を持って参加して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
今後社会人として生きていく上の基礎知識としての医学を学んで欲しい。

K33101

科　目　名	小児保健
	授業形態：講義 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	寺門 道之

〔講義目的〕
将来、接するであろう小児に関する基本的な保健の知識を、しっかり身につけておき、児童教育の現場で、余裕持って、小児に接する事が出来るようになる事を目的としたい。一回の講義では、教科書を１０ページ程度の速さで進みたい。

〔講義内容〕
第１回　小児保健の基本
第２回　身体発育 (1)
第３回　身体発育 (2)
第４回　生理機能 (1)
第５回　生理機能 (2)
第６回　運動機能 (1)
第７回　運動機能 (2)
第８回　精神発達 (1)
第９回　精神発達 (2)
第10回　栄養 (1)
第11回　栄養 (2)
第12回　生活 (1)
第13回　生活 (2)
第14回　生活 (3)
第15回　中間試験
第16回　環境・委託保育
第17回　新生児
第18回　思春期
第19回　健康と病気、異常
第20回　事故と応急処置
第21回　感染症と予防接種
第22回　小児の病気 (1)
第23回　小児の病気 (2)
第24回　小児の病気 (3)
第25回　小児の病気 (4)
第26回　小児の病気 (5)
第27回　小児の病気 (6)
第28回　母子保健の現状
第29回　母子保健行政 (1)(2)
第30回　期末試験

〔講義のすすめ方〕
教科書に沿って進めます。
パワーポイントを用いて、教科書の文字からだけでは、イメージできない事について、写真、図を用いて、説明します。必要に応じて、資料を配布することもあります。
質疑応答の時間や、討議の時間も持ちたいと考えています。常識の程度を知るために、こちらから、学生にどんどん質問します。

〔教　　材〕
新・小児保健　第13版　今村栄一・巷野悟郎　編著　診断と治療社発行（Ｈ２１年2月改訂版発行）

〔成績評価の方法・基準〕
試験問題は、前期・後期とも、それぞれ５０問。一問につき、４つの項目を読み、その正誤を判定してもらいます。
中間試験・期末試験ともに６０点以上を合格とする。
具体的には、50問中30問以上正解を合格とする

〔履修のポイント・注意点〕
講義の中で、大事な点を強調しますし、強調した点が理解されているかを、問います。

K33201

科　目　名	小児保健実習
	授業形態：実習 / 授業回数：23 回（45 時間）
教　員　名	三田村　敬子

〔講義目的〕
小児保健の講義で、小児の健全な心身の発育をはかり、病気や事故から守る知識を得ているが、その知識を活かし実践するための実技と対応を学ぶ。実際の基本的な手技を習得し実例を学ぶことによって、小児をとりまく医学的・社会的な変化に対応でき、愛情のある柔軟な保育者の姿勢を養う。

〔講義内容〕
1. 小児保健実習総論
2. 小児の体
3. 小児の身体発育
4. 小児の健康状態の把握
5. 小児の発達
6. 小児の発達
7. 日常生活支援
8. 日常生活支援
9. 日常生活支援
10. 感染症とその予防
11. 感染症とその予防
12. 事故とその予防
13. 事故とその予防
14. 事故とその予防
15. 小児の病気
16. 小児の病気
17. 応急手当
18. 応急手当
19. 心肺蘇生
20. 心肺蘇生
21. 虐待
22. 小児保健の推進
23. 試験

実習の例
成長曲線、統計データの利用、身体計測、沐浴、調乳、手洗い、バイタルサイン、心肺蘇生、誤嚥防止グッズ、

〔講義のすすめ方〕
・パワーポイントなどを使用した講義
・実技
・学生自身の母子手帳、レポート等をとりあげた実習
・ディスカッション
・プレゼンテーション
・ビデオ等の視聴覚教材

〔教　　材〕
・参考書：最新　保育保健の基礎知識
　巷野悟郎監修
　日本保育園保健協議会編集
　日本小児医事出版社　2800円
・母子手帳

〔成績評価の方法・基準〕
・テスト　学期１回
・小テスト
・レポート 学期２回程度（ワープロソフトを使用）
・判定基準　出席重視（20時限以上の出席必須）

〔履修のポイント・注意点〕
・学生自身の母子手帳を用意すること。
・実習科目なので、積極性・想像力を期待する。
・小児保健講義内容を復習しておくこと。
・日常でも小児保健に関する情報に関心をもつこと。

〔科目内容の位置付け〕
小児保健講義の応用。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
・小児保健講義と関連。
・一般的な保育の中でも、リスクに対応し、予防的な配慮をするのに役立つ。

K33501

科　目　名	小児栄養演習
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	髙橋　美保

〔講義目的〕
小児期における栄養摂取が乳汁から離乳食、幼児食から普通食へと、人の成長にともなった食事摂取機能の発達に関わっていることを学修する。また栄養量や質、与え方についても、発達段階にそった進め方を考え対応する力を身につける。
食事は、子どもが自立を獲得していくプロセスであることを認識し、集団ならではの食育活動や、食生活を通した子育て支援のあり方についても言及する。
したがってこの授業の目的は、食生活を正しく導く保育者としての力を培うことにある。

〔講義内容〕
第１回　小児の健康な生活と食生活
　①講義：国民運動としての食育の意義と必要性
　②演習：日常の食生活の検討
第２回　小児の発育・発達と食生活
　①講義：身体の発育、運動機能の発達
　　咀嚼機能の発達、心の発達
　②演習：身体発育と栄養状態の評価
第３回　食生活における調理学の基礎知識献立
　①講義：小児の集団での調理、衛生の基礎知識
　②実習：調理の基本
第４回　妊娠・授乳期の栄養と食生活
　①講義：胎児に影響する母体の要因
　　哺乳行動の発達とその援助
　②実習：乳汁栄養とその実際 (調乳)
第５回　乳児期の栄養と食生活 (1)
　①講義：吸うことから食べることへの発達
　②実習：離乳の意義とその実際
第６回　乳児の栄養と食生活 (2)
　①講義：咀嚼行動の発達とその援助、
　②実習：離乳の進め方と食品の選び方
第７回　幼児期の栄養と食生活 (1)
　①講義：食行動の発達とその援助
　②実習：食べものと与え方
　　(食事摂取基準と食品構成)
第８回　幼児期の栄養と食生活 (2)
　①講義：食習慣の発達と援助、健康への対策
　②実習：間食の必要性とその実際
第９回　栄養に関する基礎知識
　①講義：栄養素、栄養生理、代謝の基礎知識
　②演習：栄養教育
第10回　学童期・思春期の栄養と食生活
　①講義：心身の特徴と食生活
　②実習：学校給食と弁当
第11回　病気、障害をもつ子どもの食生活
　①講義：主な病気や障害の特徴と援助
　②実習：病気や障害の子どもの食生活と実際
第12回 食と文化
　①講義：子どもをめぐる行事と食事
　②実習：行事食
第13回 児童福祉施設における食生活
　①講義：児童福祉施設の特徴と食生活の基本
　②演習：児童福祉施設での給食や食育活動
第14回 保育所・幼稚園で進める食育 (1)
　①講義：食育計画の考え方、作り方、進め方
　②演習：グループワーク
第15回 保育所・幼稚園で進める食育 (2)
　①個人発表
　②定期試験

〔講義のすすめ方〕
講義と栄養実習、講義とグループワークなど、オムニバス形式で行う。実習で得た食行動観察の結果や、事例研究の発表も取り入れる。

〔教　　材〕
教科書：　心とからだを育てる小児栄養
　　岸田忠昭、高橋美保編
　　保育出版　2500円
参考図書：　随時紹介していく

〔成績評価の方法・基準〕
課題レポート (20％)　授業の状況 ((10％)　定期試験 (50％)　グループワーク (10％) と発表 (10％) で、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
食育をとおして生き方や人間形成、食文化などを理論的に考察し、活動評価の拠り所を探っていく。そのためには自らの生活を振り返り、生活力や食習慣を確立して授業に臨むことが基になる。

〔科目内容の位置付け〕
「保育の対象の理解に関する科目」で演習科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
小児の健やかな心と身体の成長・発達を促すためには、欠かせない科目である。
「発達心理学」「小児保健」「家庭支援論」などとの関連性が深い

K33601

科　目　名	比較保育論
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	荒井　洌

〔講義目的〕
　世紀が改まった今、私たちは何かしらの飛躍を期待し、また、今までのそれよりも、視界が大きく広がる高みへの上昇を願います。
　しかし、そのことは、自らの努力によるセンスと知性の向上を条件とします。
　この、自らを含めた飛躍という大いなる課題に立ち向かうとき、私たちは広く世界に目を向けた、比較文化論的なものの見方の有力であることに気がつきます。惰性的な視覚からの脱出に、インスピレーションを与えてくれるからです。
　保育の世界に生きる者として、世界を広く見渡しながら、明るく、美しい保育のありようを、さわやかに、おおらか、にデザインしていきましょう。

〔講義内容〕
1. 広く世界を見わたす必要
2. 日常性へのクエスチョンマーク
3. 子育てをめぐるさまざまなデザイン
4. 職場と家庭との関係
5. 保育施設と家庭との関係
6. 自然の保存と園庭のあり方
7. 生活文化の場としての園舎
8. 保育のテーマとしての“美”
9. 食事のあり方について
10. 集合の魅力と個性の問題
11. 北欧の保育政策の注目点
12. 子育てサロンとしての園
13. 世界史的視点に立って
14. スタッフの養成教育について
15. 定期試験（90分）

〔講義のすすめ方〕
“アイデンティティー”（identity）という概念があります。自分自身の存在状況を知るということについて言い表している、とても意味深い概念です。
　比較文化論的に保育のありようを見たり考えたりすることは、人が人間同士の触れ合いの中で、自らの存在状況というものを知っていく営みに似ています。
　つまり、日本の中だけで保育のありようを考えていると、今までになかった視点で、より本質的な理解に接近したアイデンティティーを持つことにはなかなかなれないのです。
　外国のことなどを勉強すれば、少しは疲れ、少しは汗をかくのですが、努力して高みに登れば、地平線が見えてきます。
　そして、また努力を重ねると、地平線はより広がって見えてきます。
　幼児保育の世界が広やかに見えてくることは、とてもうれしいことです。
　加えて保育の勉強を通じて、他の国々の人々の生活文化を知ることにもなり、勉強の喜びが倍化します。期待して下さい。

〔教　　材〕
テキスト
『幼児保育への新しい地平線』
　荒井洌著（明治図書）

〔成績評価の方法・基準〕
学期末に試験を行います。
出席率を重視します。

〔履修のポイント・注意点〕
　世界に通用する幼児保育のキー・ワードを学び、保育のあり方についての理解をより深めてください。

K34001

科　目　名	社会保障論
	授業形態：講義
教　員　名	百瀬　優

〔講義目的〕
国民生活に不可欠となっている社会保障について、その体系、歴史、理念、財政、機能を説明するとともに、個々の社会保障制度の仕組みを詳しく解説する。特に、年金保険・医療保険・雇用保険・労災保険・介護保険の5つから構成されている我が国の社会保険制度を中心に講義を行っていきたい。社会保障制度に関する基本的な知識を身に付けること、現在の課題や改革の方向性について理解することが、講義の目標となる

〔講義内容〕
1．社会保障とは？
2．社会保障の体系
3．社会保障の概念と範囲
4．社会保障の規模
5．各制度の概要①
6．各制度の概要②
7．社会保障の歴史的発展と沿革（海外）
8．社会保障の歴史的発展と沿革（日本）
9．社会保障の理念
10. 社会保障の財政
11. 社会保障の機能
12. 社会保障の国際的動向
13. 公的年金①
14. 公的年金②
15. 公的年金③
16. 公的年金④
17. 企業年金
18. 労働保険①
19. 労働保険②
20. 労働保険③
21. 医療保険①
22. 医療保険②
23. 医療保険③
24. 介護保険①
25. 介護保険②
26. 民間保険
27. 社会保険の管理運営
28. 社会保障改革①
29. 社会保障改革②
30. まとめ

〔講義のすすめ方〕
レジュメを配布し、それに沿って講義形式で行う。

〔教　　材〕
初回の講義の際に指示をする。教科書は、椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣アルマを予定している。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験と出席状況によって判断する。また、講義中に行う小テストの点数も考慮する。

〔履修のポイント・注意点〕
我々が日常生活を営んでいく上でも、社会福祉の現場でも、必要不可欠な知識である。授業中や終了後の質問を歓迎する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
公的扶助論を履修していることが望ましい。

K34101

科　目　名	公的扶助論
	授業形態：講義
教　員　名	百瀬　優

〔講義目的〕
日本の公的扶助制度である生活保護制度について、歴史を踏まえながら、その理念と意義および特徴を説明する。同時に、制度の仕組みと近年の動向について解説を行う。さらに、生活保護および関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方についても講義で取り上げたい。これらの基礎的な知識を学ぶことを通じて、現代日本の生活問題及び貧困問題を考える上で基本となるような視点を作ることを目指したい。

〔講義内容〕
1．イントロダクション（社会保障とは？公的扶助とは？）
2．公的扶助の概念と範囲
3．公的扶助の歴史（イギリスと日本）
4．生活保護の目的および基本原理
5．保護の原則
6．保護の種類と内容
7．保護施設、被保護者の権利と義務
8．不服申立てと訴訟
9．保護基準の決め方と保護費支給額の算定方式
10. 財源と費用
11. 生活保護の実施体制と関連機関
12. 生活保護の最近の動向
13. 低所得対策の概要とその他の関連施策
14. 生活保護における相談援助活動
15. まとめ

〔講義のすすめ方〕
レジュメを配布し、それに沿って講義形式で行う。適宜、ビデオ教材も使用する。

〔教　　材〕
初回の講義の際に指示をする。参考図書として、生活保護制度研究会『保護のてびき』第一法規を使用する予定である。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験と出席状況によって判断する。また、講義中に行う小テストの点数も考慮する。

〔履修のポイント・注意点〕
講義は半期だが、どの福祉現場でも最低限必要とされる知識である。授業中や終了後の質問を歓迎する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
1年次に社会福祉・社会福祉Bを受講していることが望ましい。

K34201

科　目　名	介護概論
	授業形態：講義
教　員　名	豊田　省子

〔講義目的〕
・全15回の授業を通して介護の目的・対象・方法について考え自分なりの介護観を構築できる。
・社会福祉士国家試験の受験に必要な知識の修得をめざす。

【目標】
・介護の概念を理解できる。
・介護を必要とする人々を理解できる。
・対象にあった介護の方法を考える。
（1）「demand」と「needs」の違いを考える。
（2）なぜそのようにするのかという根拠（エビデンス）に基づいた方法を模索できる。
（3）対象の「思い」や「考え」を尊重した介護の方法を選択できる。
（4）実施に先立ってリスク管理を思考できる。
・介護に携わる一員として必要な職業倫理を理解できる。
（1）基本的人権を尊重する精神を確認できる。
（2）他職種の職業倫理と共に、社会福祉士の職業倫理を理解できる。
（3）「その人らしさ」とは何かを考える。
（4）生涯学習の必要性を理解できる。
・専門職の連携を考えられる。
・今日の介護における現状と課題を考えられる。
（1）現状の課題における背景を考え、将来を展望できる。
（2）介護が科学であるべきことが理解でき、研究的態度を志向できる。

〔講義内容〕
第　1回：介護の概念（1）介護のイメージ作り
第　2回：介護の概念（2）介護とは・自立とは
第　3回：対象の理解（1）
第　4回：対象の理解（2）
第　5回：対象の理解（3）
第　6回：対象の理解（4）
第　7回：介護過程の展開と技術
第　8回：日常生活に必要な介護技術（1）
第　9回：日常生活に必要な介護技術（2）
第１０回：日常生活に必要な介護技術（3）
第１１回：技術におけるリスク管理
第１２回：福祉用具の概念と活用
第１３回：関係職種との連携
　　チーム・アプローチ
第１４回：職業倫理・生涯学習
第１５回：まとめ　- 介護観の構築 -

〔講義のすすめ方〕
社会福祉士の受験に必要な内容を網羅しつつ、ひとり一人の身近な問題として、活発な議論をしながら進めたいと考えています。
・授業中に頻繁に発言を求めます。あなたが考えていることを積極的に言語化してみましょう。
・自分の意見と「どこが同じ」で「どこが違う」のかを考えながら他者の意見を聴いてみましょう。
・他者の意見や考え方を受け止めた上で、時にはクリティークに考えてみることも必要です。

〔教　　材〕
・テキストとして、何かを指定することはしません。購入希望者には、中央法規出版の社会福祉士養成講座「介護概論」をお勧めします。
・授業の中で、読んで頂きたい本を紹介します。
・それらのほとんどを、図書館にご購入頂いています。十分に活用して下さい。
・重要な部分は、資料として配付することを予定してします。

〔成績評価の方法・基準〕
・日頃の授業態度や授業カードによって参画の度合いを評価します：２０％
・筆記試験８０％

〔履修のポイント・注意点〕
・毎回、「授業カード」を配布します。ご意見・ご要望・質問・感想など自由に書いて提出して下さい。授業への参画の度あいとして評価します。出席の根拠としますので、後日の提出はできません。

〔科目内容の位置付け〕
・「社会福祉士」をめざす人にとっては、必修科目の一つです。
・高齢社会の今日、介護と無縁で一生を過ごすことは不可能ではないでしょうか。その意味において、介護を少し学んでおいても無駄にはならないでしょう。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
受験希望者は、「社会福祉原論」「障害者福祉論」「児童福祉論」「老人福祉論」「地域福祉論」「社会保障論・公的扶助論」「社会福祉援助技術」などと併せて履修することが必要です。

K34301

科　目　名	障害者福祉論
	障害のある人の自立と支援の方法
	授業形態：講義
教　員　名	根岸　洋人

〔講義目的〕
障害を持つ人々の存在は太古の昔から知られている。そしてその処遇は、その時代背景とともに変化してきている。現代を生きる我々には何が必要とされ、どんな課題が積み上げられているのだろうか。本講義では障害者福祉に関する基本的事項を理解し、歴史的背景にたつ現代の問題点を学習していく。
到達目標
1. 障害のある人の暮らしを理解し、現代社会の問題点と関連づけ説明することができる
2. 障害者福祉の制度を理解し、その意義、問題点を指摘できる
3. 歴史や制度を関連づけて障害のある人の自立とその支援方法を説明できる

〔講義内容〕
前期
第１回　オリエンテーション
第２回　障害の定義・理念
第３回　障害別の視点から　知的障害①
第４回　障害別の視点から　知的障害②
第５回　障害別の視点から　身体障害①
第６回　障害別の視点から　身体障害②
第７回　障害別の視点から　精神障害
第８回　障害をめぐる基本的施策（障害者基本法とその周辺）
第９回　障害者自立支援法による施策
第10回　障害者の所得保障
第11回　障害のある人の雇用・就労
第12回　障害のある人の教育
第13回　バリアフリーとユニバーサルデザイン
第14回　諸外国の障害者福祉
第15回　まとめ

後期
第１回　オリエンテーション
第２回　障害理解の到達点
第３回　知的障害者の地域生活を考える
第４回　障害児の放課後問題
第５回　障害者の権利擁護・成年後見制度
第６回　障害者と家族
第７回　諸外国の障害者福祉
第８回　発達障害とその支援
第９回　障害者運動とその歴史・発展
第10回　障害表記・差別表現・欠格条項
第11回　障害者と映画・文学
第12回　就労支援の問題点
第13回　障害と社会福祉士・国家試験
第14回　援助者の基本姿勢・連携
第15回　まとめ

〔講義のすすめ方〕
基本的に講義形式ですすめていく。
前期は障害者福祉の理念、障害別の課題等から障害者福祉の基礎的事項と概要を理解する。授業において障害者福祉論が対象とする領域の全体像がつかめるように概論的に構成する。
後期は障害者福祉の法制度、諸外国との比較、問題点に焦点を当てて授業を行う。前期で取り上げた内容をさらに深めていくためにひとつひとつの項目に焦点をあて、各論的に構成する。障害者福祉論Ｂでは様々な問題についてトピックス的に取り上げ、毎回テーマが変更するような90分完結型の講義で学習していく。

〔教　　材〕
社会福祉の新潮流３「障害者福祉論」基本と事例
　　学文社

〔成績評価の方法・基準〕
授業内のリアクションペーパーによる参加（３０％）、期末試験（７０％）

K34401

科　目　名	老人福祉
	授業形態：講義
教　員　名	菅田　理一

〔講義目的〕
高齢化の著しいわが国における援助活動の社会的・歴史的背景を概観し、社会福祉の諸理論と高齢者福祉論の諸問題を整理しながら、ソーシャルワーカーの養成を目指す。社会福祉の専門的援助を必要とする高齢者の具体例をとりあげる事例研究も合わせて行ない、高齢者福祉の援助技術に求められる基本的な倫理と高度な技術の習得に努める。

〔講義内容〕
第１回　高齢者福祉とは
第２回　高齢者の身体的・心理的・社会的特性１
第３回　高齢者の身体的・心理的・社会的特性２
第４回　少子高齢社会と社会的問題
第５回　高齢者の居住世帯と家族の介護問題
第６回　高齢者の社会生活における諸問題
第７回　老年期の生活困難の特性と構造
第８回　高齢者保健福祉制度の発展１
第９回　高齢者保健福祉制度の発展２
第10回　老人福祉法の内容
第11回　介護保険法の目的と仕組み
第12回　年金制度１
第13回　年金制度２
第14回　雇用制度
第15回　高齢者の生きがいと社会参加
第16回　介護保険法による在宅サービス
第17回　介護保険法による施設サービス
第18回　成年後見制度と福祉サービス利用援助事業
第19回　ボランティア活動と社会福祉協議会
第20回　非営利民間活動の実態
第21回　シルバーサービスの現状１
第22回　シルバーサービスの現状２
第23回　介護サービスにおけるリスクマネジメント
第24回　住宅制度
第25回　高齢者保健制度の仕組み
第26回　高齢者保健サービスの内容
第27回　福祉、保健、医療の連携
第28回　ケアマネジメント１
第29回　ケアマネジメント２
第30回　これからの高齢者福祉

〔講義のすすめ方〕
教科書に沿って、高齢者福祉の基礎知識を学ぶ。受講生に問題意識を高めて頂くために、グループ討議も交えて進めていきたい。さらに社会福祉士国家試験の準備として過去問題の検討も行う。なお、資格養成カリキュラム改正にともない、教科書（2009年3月下旬刊行予定）が大幅に改訂されるため、講義内容変更の場合がある。

〔教　　材〕
教科書：『新　社会福祉士養成講座　第13巻　高齢者福祉論』、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版
指定図書：とくになし。
参考書：テーマごとに授業中に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
試験（各学期末１回）：60％
出席（授業態度含む）：40％

〔履修のポイント・注意点〕
グループ討議の際は、積極的な発言を期待する。

〔科目内容の位置付け〕
社会福祉の分野の一つである高齢者福祉の諸問題を概観するとともに、高齢者への具体的援助方法を検討する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
ソーシャルワーカーは、社会福祉の分野を俯瞰的に捉えられる視点を持つことが必要である。受講生の皆さんには、本科目で取り上げるテーマと公的扶助や児童福祉、障害者福祉の各分野の授業で取り上げられるテーマとの関連についても意識して頂き、社会福祉に対する広い視野を持って頂きたい。

K34501

科　目　名	地域福祉
	授業形態：講義
教　員　名	加藤　悦雄

〔講義目的〕
　私たちは対面的な人間関係を用いなくても、生存に必要な衣食住を確保できるという意味で、都市を中心に言わば利便的な社会生活システムに身を置くことになった。しかしその一方で、今や暮らしの豊かさを実感する人びとよりも、近年の「自己責任」の席巻も相俟って、社会的孤立や断絶、生きる意味の喪失等に苛まれる人びとが生み出されているようだ。私たちは今後どのような地域社会をデザインするべきなのか。
　この授業では私たちの暮らしを覆う閉塞感や地域社会における福祉問題を認識し、それらを打開するためコミュニティワーカーの立場にたって、とくに福祉コミュニティ（福祉を契機とする人と人との絆）を形成する方法について考察を進める。

〔講義内容〕
1．現代社会を象徴する福祉問題とは
2．人間の福祉ニーズと地域社会
3．コミュニティとは何か
4．コミュニティとソーシャルワーカー
5．地域福祉の目標（ケアリングコミュニティの構築）
6．地域福祉の推進主体（社会福祉協議会等）
7．コミュニティ形成の方法①（実践プロセス）
8．コミュニティ形成の方法②（コミュニティワークの技法）
9．コミュニティ形成の方法③（コミュニティワークの技法）
10．コミュニティ形成の方法④（地域福祉計画）
11．コミュニティ形成の方法⑤（地域生活支援）
12．コミュニティ形成の方法⑥（地域生活支援）
13．ボランティア活動
14．福祉教育の推進
15．コミュニティ形成と人間性の回復

〔講義のすすめ方〕
講義を中心に、一部演習を取り入れながら進める。

〔教　　材〕
教科書：『社会福祉基礎シリーズ⑨コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣1,900円
参考書：『地域福祉計画』有斐閣1,800円
　　『ソーシャル・インクルージョンの社会福祉』ミネルヴァ書房3,500円
　　『若者のための政治マニュアル』講談社現代新書720円

〔成績評価の方法・基準〕
テスト・レポート・出席状況を総合して評価する。

K34801

科　目　名	福祉施設経営論
	授業形態：講義
教　員　名	川瀬　善美

〔講義目的〕
1997年厚生省が提供し具現化した「社会福祉基礎構造改革」は、社会福祉領域に於けるタイニングポイントとなった。
　そのポイントは
1）社会福祉の実施主体を公的セクターや社会福祉法人に限定していたものを、民間営利企業にまでその範囲を拡げること
2）社会福祉サービスの提供・給付にあたって必要度の判定・費用負担等を行政が公的責任のもとに一括して行う方式をサービス提供者と利用者が相対で交渉し民法上の契約制度に基づきサービス利用を行う
3）「応能型負担」から「応益型負担」へ改める事によって福祉領域における公平概念のシフト変更を行う
4）憲法第25条に基づく生存権を具体化していく為の体系としての社会福祉にあって、規制緩和を行う事によって自由に利用するサービスの質・量、内容を選択すると云う事へのシフト変更などである。
　この事により福祉は措置から契約へと転換されたと云う事だけではなく戦後続いてきた社会福祉の恩恵を受ける段階から利用する段階へ、そして今まさしく消費するだんかいへと変化し、そしてそれによりその性格を変質させたと云う事を理解する。

〔講義内容〕
今まで措置制度により一律に提供実施されてきた福祉サービスは今後は消費者保護と云う規制は受けるものの「市場原理」に基づき、支払われる対価によって、その量・質・内容が決定されサービスの上限が必然的に撤廃される事となった。
　その際、サービス提供を行う側として必要なマネージメントとは何かを学ぶ。
1）顧客管理
2）Ｃ．Ｓ
3）コスト管理
4）情報公開と情報管理
5）プライバシー保護
6）商品開発
7）苦情処理・リスク管理
8）自己点検・自己評価・第３者評価

〔講義のすすめ方〕
通常の講義スタイルをとる。実在の福祉施設のケースモデルを取り上げ、ケーススタディも行う。

〔教　　材〕
教科書　なし
指定図書　なし
参考 〃　　なし
講義の中で紹介する。
また必要に応じて、レジメ等を作成し配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験に出席状況を加味して行う。
試験は論述式で、講義で取り上げたテーマより出題する。

〔履修のポイント・注意点〕
本講義は社会福祉領域に関する講義である事を認識して受講してほしい。したがって、社会福祉に関する基礎的な知識を合せて取得する事が望ましい。

〔科目内容の位置付け〕
社会福祉士受験資格取得、保育士資格取得希望者には履修することを勧めたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会福祉・社会福祉Ｂを併せて履修することを勧める。

K40001

科　目　名	発達心理学
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	福田　真奈

〔講義目的〕
①　平易な科目内容
　身体・運動、認知、遊び、言語、情緒、自己・他者意識、社会性などの発達心理学における基礎的内容について講義する。

②　講義の目的
　人間は生涯を通して発達してゆく存在である。この講義では、保育者として関わることの多い乳幼児期に重点をおきながら、様々な側面から子どもの発達について理解できるよう、発達心理学の原理、身体・運動、認知、遊び、言語、情緒、自己・他者意識、社会性、人間関係などを教授する。
　さらに子どもの発達においては、これらの諸側面が複雑に関連すると共に、大人をはじめとする環境が発達において重要な役割を持つことについてもふれていく。そして生涯発達における乳幼児期の重要性について認識することを通して、この時期の子どもの発達を援助する保育者の役割の意義について考えていきたい。

③　最終到達目標
　発達心理学の原理など基礎的事項を理解する。
　乳幼児期における子どもの発達の全体像をイメージできる。
　発達心理学という観点から子ども理解をする。

〔講義内容〕
第１回　発達心理学とは何か
第２回　発達の原理
第３回　乳幼児の心理
第４回　からだと運動
第５回　知覚
第６回　認知と思考
第７回　記憶・学習
第８回　情緒と欲求
第９回　ことばとコミュニケーション
第10回　人間関係
第11回　自己
第12回　遊びの発達
第13回　道徳性と向社会性
第14回　父親と母親
第15回　試験

〔講義のすすめ方〕
配布資料、ＤＶＤなどの視覚教材を使用しながら、講義、説明をする。

〔教　　材〕
後日提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
学期末試験　（評価の50％）
課題の提出、授業への参加姿勢　（評価の30％）
小テスト　（評価の20％）
受験資格は『白鷗大学試験規則』に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を基本とする。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための必要な科目である。
発達心理学における基礎的事項の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
心理学　教育心理学など

K40101

科　目　名	青年心理学
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
青年期は「疾風怒濤」の時期といわれるほど、悩み苦しみに満ちたものである。一方で青年期はまた、それまでとはうって変わった素晴らしい成長と出会いが待ち受けている時期でもある。当然、この時期に成し遂げなければならない発達上の課題が多々存在する。人は青年期に、この課題とどう向き合うかによって、その後の人生が決定づけられるといっても過言ではない。
本講義では、受講生の多くがそのただ中にいる青年期の、心理的特徴について学び、理解することを目的とする。同時に、受講生自らの成長につながる思索と体験の機会を提供する。

〔講義内容〕
1. 青年期とは
2. エリクソンの発達理論
3. こどもの発見
4. 青年期の発達課題
5. 青年期のさまざまな悩み
6. 青年期の性
7.「周辺人」としての青年
8. NEET（若年無業者）と引きこもりについて
9. 青年期の問題行動
10. 自殺について
11. 青年による犯罪
12. 青年期の人間関係
13. アサーション・トレーニング
14. まとめ
15. 定期試験

〔講義のすすめ方〕
本講義においては、青年期に関する知識を単に伝達するにとどまらず、自ら考え、ディスカッションを行い、体験的に理解するという形式も取り入れて講義を進める。

〔教　　材〕
特に指定しない。必要に応じて講義中に知らせ、また印刷物を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学期末の試験（70％）と出席状況（30％）による。

〔履修のポイント・注意点〕
先に述べたように、本講義は体験型学習の側面もあわせ持つ。自ら積極的に授業に参加する覚悟をもって受講すること。

〔科目内容の位置付け〕
人間発達の重要な時期である青年期の心理を学ぶことは、将来、人間の発達に関するどのような分野を学ぶにしても、きわめて重要である。もちろん、青年期を主な研究テーマと考えている者にとっては、必須の科目である。
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。
また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目（E. 教育心理学・発達心理学）に区分される予定の科目である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
心理学専攻の学生は、「基礎心理学 A」「基礎心理学 B」をすでに受講済みであること。

K40102

科　目　名	青年心理学
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	落合　信寿

〔講義目的〕
人間の発達段階において、青年期は重要な時期であり、一個人の人生において非常に大きな意味を持っている。
本講義では、人間の発達段階における青年期の特徴、青年期の心理・行動特性、青年期と社会との関係、青年期の不適応行動などについて学習し、青年期の特徴と青年期における様々な問題に関する理解を深めることをねらいとする。

〔講義内容〕
1．青年心理学とは何か
2．青年期の誕生とその歴史
3．発達段階における青年期の位置づけ
4．青年期の思考と感情（1）
5．青年期の思考と感情（2）
6．思春期の身体発達
7．青年期の悩み
8．ジェンダーと性
9．青年期と恋愛
10．青年期と家族
11．青年期における友人関係
12．青年期における心理・行動の問題（1）
13．青年期における心理・行動の問題（2）
14．まとめ
15．定期試験（90分間）

〔講義のすすめ方〕
本講義で採り上げるテーマは、履修者にとって過去に経験したことや、現在気にかけていることなど、極めて身近な話題であると思われる。本講義の一部では、青年期の心理的問題に関わるビデオ教材を視聴し、それに関するレポート課題を課すことにより、青年期の心理的問題について履修者自身に深く考察してもらいたいと考えている。

〔教　　材〕
教科書は特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。適宜ビデオ等の視聴覚教材を用いる。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価の方法は、「履修規程」に準ずる。受験資格は「保育士資格規程」に準ずる。成績は、学期末の定期試験（50％）、レポート課題（20％）、出席状況（30％）により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
本講義は、保育士資格の取得における選択必修科目「保育の対象の理解に関する科目」である。資格取得希望者は、全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目として、「心理学 A」、「心理学 B」を受講していると、より講義内容の理解が容易になると思われる。

K40201

科　目　名	環境心理学
	授業形態：講義
教　員　名	平田　乃美

〔講義目的〕
1）人間 - 環境の相互作用の視点から人間の知覚・認知・行動の特性と背景を理解する
2）心理学領域で発展してきた環境の測定・評価の手法について学ぶ
3）1）、2）を生活空間の改善やデザインに応用するための環境心理学的視点について考える

〔講義内容〕
環境心理学は、心理学の諸理論及び心理学の領域で発展してきた測定手法を生かして、環境と人間行動との関わりを明らかにしようとする学際的な研究領域です。この領域では、人間の行動に効果をもつ「環境」について、個々の要因分析とともに、全体としての効果やその文脈が検討されます。本授業では、人間 - 環境の相互作用から生じる人間の知覚・認知・行動の特性と背景を学び、それらの知見を生活空間の改善や景観のデザインに応用するための環境心理学的視点・手法について考えます。

［授業計画］
研究史
(1) 人間と環境
(2) 環境心理学の諸相
環境の認知
(1) 感覚・知覚・記憶の基礎知識
(2) 視覚の特性を経験する
環境の測定・評価
(1) 測定・評価のための基礎知識
(2)SD 法による景観評価
錯視体験
(1) エイムズの部屋
環境の経験
(1) 閉眼歩行
(2) パーソナルスペース
(3) 身体部位の文字認識
環境との対話
(1) 場所との対話
(2) サウンドスケープ
空間心理学
(1) 空間認知
(2) 認知地図
色彩心理学
(1) 色彩とはなにか
(2) 色彩の知覚
(3) 色彩のイメージと心理的効果
実験美学
(1) 美しさの評定
(2) デザインの性質と情動的評価
環境の評価
(1) タイトスペース
(2) 都市のイメージ
環境の認知
(1) 認知地図
(2) 距離認知

〔講義のすすめ方〕
環境の測定、評価、記述等の技法については、一部実習形式を取り入れて学びます。実習課題には数名程度のグループで取り組みますが、報告書は各自作成・提出します。

〔教　　材〕
授業で紹介されたテーマについて更に関心がある場合は毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験　70％（相対評価）
課　　題　30％（絶対評価）

〔履修のポイント・注意点〕
［出席について］
出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

［課題について］
指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

［成績について］
評価基準の個別対応は一切ありません。
個別の結果について、成績発表前の問い合せには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

［資料について］
講義資料のスライド（動画、写真等）を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格申請では、「選択科目」（社会心理学・産業心理学）区分の科目です。

K40301

科　目　名	認知心理学
	授業形態：講義
教　員　名	神戸　文朗

〔講義目的〕
認知心理学という言葉で表される領域は非常に広範ですが、その中でも幾つかの領域は神経科学やコンピュータ科学等の隣接科学と結びついて現在の心理学の hottest spot を形成しています。この領域をよく理解するためには高度の数学的、工学的、大脳生理学的・神経学的・心理学的な背景知識が必要で、私自身もよくそれをするものではありません。
しかしこの大きな心理学の流れが半世紀の間にどのように誕生し、現在に到ったかを知ることは、現代心理学の問題意識を理解する上で不可欠と思います。「認知心理学」ではこの学問の進歩を推し進めてきた理論家の学説の紹介を主とし、それらから現在に至る研究の動向にも触れてみたいと思います。

〔講義内容〕
1．現代心理学における認知心理学の意義
2．反行動主義の流れと認知心理学の誕生
3．認知革命を構成する主要な所見の幾つか
　1．フィルター理論と２段階情報処理
　2．記憶の３段階説
　3．知覚的循環
　4．二元符号化理論と表象の性質
　5．イメージ論争と心的回転
　6．パターン認知とカテゴリー化
　7．スキーマとスクリプト
4．現代の問題意識
　1．特徴の検出と特徴統合
　2．作動記憶システムと関連脳領域及び中央処理実行系
　3．視知覚とイメージの共通成分はあるか？
5．関連する知見
　1．神経伝達の仕組み
　2．並列分散処理

〔講義のすすめ方〕
図を含む様々な資料を配布する予定です。授業はこの資料に基づいて進行しますので決して持ってくることを忘れないこと。

〔教　　材〕
単一の教科書等は指定しません。多数の資料を配布します。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は基本的に定期試験の内容に基づきます。判定基準は試験の結果得られた得点分布に基づきます。受験資格の決定には出席率を厳格に適用します。

〔履修のポイント・注意点〕
ここで述べられる内容は私の心理学Ｂを受講した人以外はほとんど初めて聞く内容だと思います。なるべく分かりやすく説明するつもりですので、最後まで興味を持って挑戦を続けてください。そのためには、資料を忘れないこと、そして黒板への書きこみだけでなく口頭での説明もノートをしてください。

〔科目内容の位置付け〕
心理系専門科目に該当すると考えます。認定心理士区分：選択科目Ｄ

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
この科目は私の「心理学Ｂ」の内容を引き継ぐものですので、これを受講することを期待します。

K40401

科　目　名	臨床心理学
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
臨床心理学とは、人間存在を深く見つめ、理解するための学問である。それはまた、単なる理論にとどまらず、悩みや問題を抱えている人の「こころ」を援助する活動とともにある学問といえる。この100年余りの間に、さまざまな理論と実践を、我々は手にしてきた。
本講義においては、臨床心理学の基礎的な理論を学ぶ。同時に、対人援助の心理学的技法の基礎についても、一部体験的に学習することとする。

〔講義内容〕
1.臨床心理学とは
2.臨床心理学の歴史
3.発達段階における課題と問題
4.「こころ」のメカニズム
5.心理アセスメント1　面接法
6.心理アセスメント2　観察法
7.心理アセスメント3　検査法
8.コミュニティー援助
9.精神の病理と障がい
10.心理療法の基礎1　精神分析
11.心理療法の基礎2　パーソン・センタード・アプローチ
12.心理療法の基礎3　行動療法
13.心理療法の基礎4　遊戯療法と芸術療法
14.事例研究
15.定期試験（90分間）

〔講義のすすめ方〕
本講義は、人間の「こころ」の深部をとり扱う、デリケートなものである。人間一般を知るには、まず自分自身を知る必要がある。自らを見つめる作業こそが、人間の心理について学ぶための入り口なのである。
講義の中では、こうした作業（ワーク）を指示することもある。若い受講生にとって大変な作業ではあるが、この学問から学ぶことの重要性を考え、真摯にかつ積極的に受講してほしい。

〔教　　材〕
教科書：特に指定しない
参考書：下山晴彦編　「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房　2003
他、必要に応じて講義中に適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
受験資格は、「白鷗大学試験規則」に準ずる

〔履修のポイント・注意点〕
本講義は、臨床心理学という膨大な知と実践の領域の入門編である。講義では、時間的制約から、そのごく一部を紹介するにとどまるが、自ら積極的に関連する書物にあたるなど、学習を深めてくれることを期待する。
全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
人間を深く学ぶ臨床心理学は、心理学という科学的な学問分野の中にあって、技法を通しての実践（援助）という「直接の効果」を期待されることの多い、特殊な学問である。将来、教育や福祉の分野に進む学生にとっては、きわめて得るところの大きい学問領域であるといえる。
同時に、自己との対話もさまざまな場面で行うことになる。真摯にワークを行うことで、自己理解も深まることが期待される。
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。
また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目（G.臨床心理学・人格心理学）に区分される予定の科目である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。
保育士資格取得者にとっては、資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
心理学専攻の学生の場合、すでに「基礎心理学A」「基礎心理学B」を受講済みであること。

K40501

科　目　名	精神保健学
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	伊崎　純子

〔講義目的〕
1）精神保健の意味するものを理解する
2）発達段階に応じた成長と生じやすい問題を理解し、保育における対処のあり方について学ぶ
3）精神障害の人々やその家族の人権と福祉について考える

〔講義内容〕
第１回　イントロダクション：精神保健とは
第２回　精神保健の概要
第３回　発達と精神保健１：胎児期と乳児期
第４回　発達と精神保健２：幼児期から思春期まで
第５回　生活環境と精神保健１：家族関係と住まい
第６回　生活環境と精神保健２：文化と保育所
第７回　発達障害１：知的障害・広汎性発達障害・ことばの障害
第８回　発達障害２：多動性障害・習癖障害
第９回　子どものうつ病・強迫性障害
第10回　睡眠障害・登園拒否・児童虐待
第11回　保育所における精神保健活動・子育て支援
第12回　地域精神保健活動と乳幼児精神医学
第13回　障害児保育
第14回　まとめ
第15回　定期試験（90分間）

〔講義のすすめ方〕
この講義では、各発達段階より特に乳幼児期に注目するが、子育て中の家族および家族をとりまく地域の精神保健までをその範疇とする。概ねテキストに従って、総論、子どもをとりまく環境、各発達段階において生じやすい諸問題と保育士として適切な対応の仕方について概説する。その他、専門機関との連携が必要だと考えられる子どもの発達障害に関してとりあげる。また、講義中にテキストを補足して、摂食障害、神経症、統合失調症などの精神障害についてもとりあげる。

〔教　　材〕
教科書は、講義中に使用するので必ず購入すること。
教科書
『精神保健』改訂・保育士養成講座編纂委員会編　全国社会福祉協議会・1800円＋税
参考書
『教育・保育双書　精神保健』　秋山和夫ほか監修　北大路書房
『これからのメンタルヘルス』　安藤延男、村田豊久著　ナカニシヤ出版

〔成績評価の方法・基準〕
受験資格は、『白鷗大学保育士資格の取得に関する規程』に準ずる。
成績評価の方法は、『履修規程』に準ずる。
出席10%　期末テスト90%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格　必修科目【保育の対象の理解に関する科目】に該当する。
保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
最終的には、3年次開講科目である「障害児保育」や2年次選択必修科目である「臨床心理学」もあわせて受講するとより理解が深まると思われる。

K40502

科　目　名	精神保健学
教　員　名	伊崎　純子

〔講義目的〕
1）精神保健の意味するものを理解する
2）発達段階に応じた成長と生じやすい問題を理解し、対応について学ぶ
3）精神障害の人々やその家族の人権と福祉について考える

〔講義内容〕
第１回　イントロダクション一心の健康とは一
第２回　総論としての精神保健
第３回　思春期の発達の様子と高機能自閉症：身近な『レインマン』
第４回　勉強ができない：知能検査の功罪、ルーマニアの孤児たち
第５回　精神病的な混乱：統合失調症
第６回　摂食障害と心身症：『17歳のカルテ』にみる狂気、ストレス関連疾患としての心身症
第７回　非社会的な問題行動：不登校、ひきこもり、パニック障害
第８回　反社会的な問題行動①：抑うつと自殺、性的な問題、パーソナリティ障害
第９回　反社会的な問題行動②：いじめ、嘘や盗み
第８回　反社会的な問題行動：性的な問題、いじめ、嘘や盗み
第10回　スクールカウンセリング：カウンセリングの基礎的な技法
第11回　大学生以降：学生相談室とカウンセリング
第12回　運動による心の健康づくり、地域精神保健
第13回　ストレスアセスメントと対処法：ストレスチェック、ストレスへの対処について
第14回　誤ったコーピング：喫煙、アルコール、インターネット、薬への依存を解消する
第15回　総括

〔講義のすすめ方〕
この講義は、中・高の教職に関連する科目であることから、各発達段階のうち、主に思春期以降の精神保健について注目する。思春期以前の発達および精神保健については概説にとどめ、総論、思春期以降に生じやすい諸問題（摂食障害、強度脅迫障害、不登校、ひきこもりなど）の理解とその対応について学ぶ。特に、自閉症のなかでも「高機能自閉症」や知的障害の中でも「境界知能」など、幼少期には目立たなかった諸問題に関しても触れていく。さらに、「健康運動指導士資格」に関連する科目であることから、ストレスと健康づくりについても詳述していく。

〔教　　材〕
教科書は、講義中に使用するので必ず購入すること。
教科書
『可能性のある子どもたちの医学と心理学』石川　道子ほか著　ブレーン出版・2800円＋税
参考書
『教育・保育双書　精神保健』・秋山和夫ほか監修・北大路書房
『これからのメンタルヘルス』・安藤延男、村田豊久著　ナカニシヤ出版

〔成績評価の方法・基準〕
出席10%　期末テスト90%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
特になし

〔科目内容の位置付け〕
中学校教諭一種免許状（保健体育）・高等学校教諭一種免許状（保健体育）必修科目【教科に関する科目：学校保健（小児保健、精神保健、学校安全および救急処置を含む)】に該当する。さらに健康運動指導士資格にも関連する科目でもある。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
最終的には、選択科目である「発育発達学」や必修科目である「教育心理学」「生徒指導」とあわせて受講するとより理解が深まると思われる。

K41001

科　目　名	親子関係の心理
	授業形態：講義
教　員　名	伊崎　純子

〔講義目的〕
1）親子関係の中でも先行研究の多い母子関係に焦点をあて、知識を深める
2）父子関係、里親と里子の関係、障害児とその親との関係についても理解する

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション
第２回　不妊・妊娠から出産期の関係（関係性の世代間伝達）
第３回　乳幼児期の関係①（情緒的応答性・情動調律）
第４回　乳幼児期の関係②（分離個体化）
第５回　分離個体化の VTR 鑑賞
第６回　児童期の関係（父子関係）
第７回　思春期・青年期の関係（第２の分離個体化）
第８回　成人期（巣立ち）・壮年期の関係（老人介護）
第９回　里親と里子の関係①
第10回　里親と里子の関係②（VTR 鑑賞）
第11回　障害児とその親の関係①
第12回　障害児とその親の関係②（VTR 鑑賞）
第13回　親－乳幼児心理療法と子育て支援
第14回　乳幼児精神保健について
第15回　まとめ

〔講義のすすめ方〕
乳幼児をめぐる心理療法論では、最早期における関係性が注目されている。母子をひとつのユニットと捉え、関係そのものにアプローチをしようとする視点である。この講義では、関係性の世代間伝達、情緒的応答性、情動調律、分離個体化、虐待といったキーワードをもとに、母子関係を対象とした研究及び理論を紹介する。また研究数は少ないものの、重要である父子関係、また里親と里子の関係、障害児とその親の関係といった話題にも触れていきたい。

〔教　　材〕
参考書　多くは推薦図書として、第１回目の講義内で指示
『親－乳幼児心理療法』・D.N. スターン著・岩崎学術出版社
『母子と家族への援助』・吉田敬子著・金剛出版
『完璧な親なんていない！』・J.W. キャタノ著・ひとなる書房
『母親の就労と子どもの発達』・E.E. ゴットフライドら著・ブレーン出版
『きっとだいじょうぶーサラと歩いた日々』・奇恵英著・西日本新聞社　など

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験は実施しない
レポートは学期中に３回提出
その他、不定期に講義の感想を提出
３分の２以上の出席が確認できない場合は評価の対象外とする。
最終的には出席20%　提出物20%　レポート内容60%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
特になし

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格申請では、「領域Ｅ・教育心理学・発達心理学」の副次主題に区分される科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

K41101

科　目　名	心理学基礎実験
教　員　名	伊崎　純子

〔講義目的〕
1）心理学実験の手続きや考え方を学習する
2）データ処理やルールに沿ったレポートの書き方を実際に体験する
3）レポートをルールにそって書き、メールで添付し提出できる技術を獲得する

〔講義内容〕
第１回　　オリエンテーション
第２/３回　ミュラー・リヤーの錯視
第４/５回　大きさの恒常性
第６/７回　レポート返却ならびに解説①
第８/９回　鏡像描写
第10/11回　語の記銘
第12/13回　レポート返却ならびに解説②
第14/15回　奥行知覚のてがかり
第16/17回　明るさの対比
第18/19回　レポート返却ならびに解説③
第20/21回　心理尺度の構成：一対比較法による
第22/23回　性格の認知：向性検査を手がかりとして
第24/25回　レポート返却ならびに解説④
第26/27回　今後の課題とまとめ

〔講義のすすめ方〕
オリエンテーションで詳細は説明するが、二週かけてひとつのテーマ／実験方法について概略的な講義をしたのち、決められたテーマと手続きに沿って基本的な実験を行い、心理学実験の手続きや考え方、データの処理の方法、レポートの書き方のルールなどを学ぶ。一年かけて心理学の基礎的テーマについて習熟するとともに、研究の基本的手法を修得することを目標とする。具体的には、知覚、認知、社会、学習、生理、臨床、人格などの領域で、基礎的な実習を行う。最後にまとめとして、各自興味のある問題を想定し、仮説と方法を計画する課題に取り組んでもらう。

〔教　　材〕
教科書は講義内で使用するので必ず購入すること。
教科書　『教材心理学』（第4版）
木下冨雄編集・ナカニシヤ出版
2000円＋税
参考書　（レポートを書く際に役立つと思われるもの）
『心理学実験を愉しむ』
宮原英種ほか監修
ナカニシヤ出版
『心理学実験ノート』
心理学実験ノート編纂委員会編
二瓶社
『実験とテスト＝心理学の基礎（実習編）』
心理学実験指導研究会編・培風館
『実験とテスト＝心理学の基礎（解説編）』
心理学実験指導研究会編・培風館
『心理学のための実験マニュアル』・利島保ほか編著・北大路書房

〔成績評価の方法・基準〕
実験ごとにレポートの提出が必須。
出席50%　レポート50%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
実験という演習の性格上、遅刻するとクラスメイトに迷惑がかかり、欠席するとレポートも書けなくなるので、遅刻は認めない。またやむを得ず欠席する場合は、補講を行うようにするので、事前に教員に相談すること。無断欠席で、レポートのみを提出しても評価しない。
※実験器具の関係上、定員は30名程度とする。認定心理士資格希望者で高年次の学生を優先するが、資格希望者は若い年次での受講が望ましい。履修者の決定は、初回授業で行う。

〔科目内容の位置付け〕
心理学の基礎的な科目である。認定心理士必修科目（基礎科目：心理学実験・実習）である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「心理学研究法」「心理測定法」で実験計画に関わる統計の考え方などの概要を把握してから受講すると、より知識を深めることができ、実験ならびにレポート作成の体験が意義あるものとなろう。

K41201

科　目　名	心理測定法
	授業形態：講義
教　員　名	落合　信寿

〔講義目的〕
科学としての心理学を成立させる方法論的基礎として、心理測定に関わる理論的背景について学習する。
また、データ解析法に関する実習を通じて、心理統計の技法や心理測定法に関する理解を深める。

〔講義内容〕
1．心理測定とは何か
2．尺度水準と記述統計
3．基本統計量とその概念
4．散布度と標準化
5．統計的仮説検定の基礎
6．質的データの分析（1）
7．質的データの分析（2）
8．相関と回帰
9．平均値の差の検定
10．分散分析
11．SD（Semantic Differential）法と因子分析（1）
12．SD（Semantic Differential）法と因子分析（2）
13．測定の信頼性と妥当性
14．まとめ
15．定期試験

〔講義のすすめ方〕
本講義では、心理学を科学的に捉えるための手法として、心理測定データの扱い方とデータ解析の手法について学習する。コンピュータ室において、代表的な統計パッケージのひとつであるSPSSを用いて、履修者に実際にデータ解析を行ってもらう実習形式をとり、講義を進める予定である。

〔教　　材〕
教科書は特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学期末の定期試験（50％）と出席（30％）ならびに実習課題の提出（20％）により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
本講義はコンピュータを用いた実習形式をとるため、Windows OSと表計算ソフトウェアMicrosoft Excelを扱う初歩的な知識と経験があることが望ましい。なお、統計パッケージSPSSの扱い方については講義中に実施するので、履修前に扱い方を理解しておく必要はない。

〔科目内容の位置付け〕
本講義は「認定心理士」資格選択必修科目（基礎科目B．心理学研究法）である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うことが望ましい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目として、「心理統計法」、「心理学研究法」において心理統計の基礎を理解してから本講義を履修すると、より講義内容の理解が容易になると思われる。

K41301

科　目　名	心理学研究法
	授業形態：講義
教　員　名	伊崎・伊東・神戸・田多・平田　オムニバス方式

〔講義目的〕
1)　心理学における科学的・実証的な研究手法について理解する
2)　実験計画法、仮説検証や統計的検定の基本的な考え方と適用の実際を学ぶ
3)　臨床・教育現場における心理学研究の実際について考える

〔講義内容〕
第1回 - 第2回　科学としての心理学 (1)：心理学研究とは何か（担当：田多）
心理学研究の目的は、人間の行動や諸能力を科学的・実証的方法によって究明することにある。本講義では、科学的な思考形式、厳密な条件統制や結果測定など、特に実験心理学の基礎となる概念について理解を深める。また、研究実践における実験室の倫理（実験動物の扱い、個人情報、説明と同意、社会に対する説明責任など）についても理解を深める。

第3回 - 第5回　科学としての心理学 (2)：記述統計（担当：平田）
心理学における測定データの数値化や記述の技法（尺度の水準、数値の整理、母集団と標本、代表値、標準偏差）について学ぶ。また、SD 法やサーストン法などの各種測定尺度、項目分析などの統計手法の基本的な考え方や適用についても解説する。

第6回 - 第8回　科学としての心理学 (3)：推測統計（担当：伊崎）
心理学研究における統計学的に全体の傾向を推測する手法（カイ2検定、t 検定、分散分析、相関係数）について学ぶ。また、臨床心理学の検定手法を概観して、子どもや母子を対象としたデータ収集や数値化における留意点、倫理問題などについても理解を深める。

第9回 - 第11回　心理学研究の実践 (1)：実験計画法（担当：神戸）
心理学研究における諸概念（独立変数・従属変数の概念、操作的定義）や、データ解析、科学的なレポート作成までの過程を概説する。

第12回 - 第14回 心理学研究の実践 (2)：臨床・教育現場における心理学（担当：伊東）
小学校から大学までの学校教育における相談活動、および心理検査法の理論と実際について学ぶ。学校臨床を中心とした事例について、カウンセラー・子ども・教師の各視点から多面的に解説する。また、各種の心理検査法について実施・解釈の技法を概説する。

第15回　予備日

〔講義のすすめ方〕
本講義では、心理学教員（5名）各2-3回のオムニバス方式で、心理学における各種研究法を概観する。
前半は科学的思考や統計的手法の基礎知識について、後半は心理学研究の活用や実践について学ぶ。

〔教　　材〕
（参考書）『心理学研究法入門』　南風原朝和ほか編　東京大学出版会

〔成績評価の方法・基準〕
担当教員（5名）の平均値による相対評価とする。

〔履修のポイント・注意点〕
「認定心理士」資格取得を希望する場合は、履修要項等を熟読して、各自が計画的な履修を行うこと。

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格申請では「基礎科目Ｃ」に区分される科目であり、心理学研究を開始するための基礎科目と位置づけられる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
心理学専攻の学生の場合は、すでに「基礎心理学A」「基礎心理学 B」を受講していること。

K41401

科　目　名	心理学実験調査法
	授業形態：実験
教　員　名	田多・神戸・平田

〔講義目的〕
1)　心理学領域の研究手法を具体的に学び、その手続きを実習する
2)　仮説と実験・調査の結果を客観的に記述・検証する科学的枠組みを学ぶ
3)　1)、2) を通して、心理学研究に従事するための基礎能力を養う

〔講義内容〕
次の6つの課題について、講義・実験または調査・データ処理（統計処理、コンピュータ実習）を通して、心理学研究の手法を学びます。

【1】行動観察：行動の定量化
観察はあらゆる科学の出発点であるが、心理学においても有力な方法で、さまざま観察法が開発されています。ここでは、ビデオ刺激や実際の場面を設定して行動観察をし、その行動の定量化を、自由記述の段階から、組織化してコード化する方法、目録や評定法、ひいては特定の、例えばまばたきの頻度などの行動に注目した定量化の方法を学習します。

【2】SD 法によるイメージの測定
商品パッケージや人物顔写真等の刺激を用いて、被験者が対象に抱くイメージや印象の評定を行います。形容詞対を選定して作成した評価尺度を用いてデータを収集し、因子分析によって認知次元の確認を行います。ここでは、普段心の中にあって目に見えないイメージを視覚的に表現する技法を習得します。

【3】一対比較法：好き・嫌いの順位づけ
一対比較法とは3つ以上の対象（物体や概念）を心理的尺度（ものさし）上の位置関係（ここでは順位関係）で示そうとする試みの一つです。この方法では、対象を組み合わせてペアをつくり、そのペアのいずれがある心理的な見方からするとより強いか（例：より魅力的、より不快）を多くの人に、すべてのペアについて判断してもらう必要があります。ここでは音声や商品パッケージ、人物顔・風景写真等の対象を用いて、実験およびデータ処理を実習します。

【4】心的回転：認知過程の分析
心的回転実験は当初、現実の物体を回転させるのと同じように「心の中」でも物体（即ち、物体のイメージ）を回転させるという主張を確かめるために考案されました。しかし現在では物体や形態の認識のための方法として心的回転はどこまで一般的か、どのような条件が心的回転に関与しているか、更には脳内のどのような情報処理経路が心的回転に関与しているか、など問題意識は広まっています。ここでは、心的回転現象が実際に出現するかを確かめよう。

【5】態度尺度の構成
態度尺度の構成では、物理量としては測定できないが社会的実体として知覚される対象に対する「好ましさ」の程度を測定する心理尺度を構成します。調査票作成の過程ではインフォームドコンセントの重要性について、データ分析過程では項目分析や平均値の差の検定などに基づく尺度の「信頼性と妥当性」について学習します。

【6】プロトコル分析：言語データの解析
プロトコルとは、いわゆる発話データを意味しますが、臨床心理学の内観報告法や社会学のエスノメソドロジーにおける談話記録とは厳密には異なるものです。ここでは信頼性・妥当性の高い科学的なデータとして、実験状況下での被験者の発話を記述・分析する手法について考えます。

〔講義のすすめ方〕
実習はグループで行いますが、結果の検証、統計的検定、報告書作成は個別に行います。

〔成績評価の方法・基準〕
実験・調査レポート（全6回）　100%（絶対評価）
原則として全課題に参加の上、指定期限内に毎回レポートを提出した場合のみ、成績評価対象となります。

〔履修のポイント・注意点〕
※ コンピュータ台数の関係上、定員25名程度のグループに分かれて実習します。グループ編成・実習予定の変更は、初回授業または掲示された日時の説明会で確認してください。説明会に欠席した場合は、履修登録できません。

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格では、「基礎科目 B」（心理学研究法）に区分される科目です。

K41402

科　目　名	心理学実験調査法
教　員　名	平田　乃美

〔講義目的〕
1)　リカート法による態度尺度の構成を学ぶ
2)　マグニチュード推定法とカテゴリー評定法による重さの感覚尺度の構成を学ぶ
3)　1)、2) の課題を通して、心理学的実験と心理学的調査の方法論を学習する

〔講義内容〕
この授業では、２つの「心理尺度の構成」課題を通して、心理学的な実験と調査の方法論を学び、仮説と実験結果を客観的に記述する心理学研究の基礎能力を養います。実習は数名のグループで行いますが、実験結果の検証、統計的検定、レポート作成までは各自が個別に行います。

「心理尺度の構成」
(1) 態度尺度の構成
態度尺度の構成では、物理量としては測定できないが社会的実体として知覚される対象に対する「好ましさ」の程度を測定する心理尺度を構成します。
ここでは調査の研究法として、調査票の作成過程では「インフォームドコンセント」の重要性について、調査結果の分析過程では項目分析や平均値の差の検定などに基づく「測定の標準化の要件」すなわち「母集団および尺度の信頼性と妥当性」について学習します。

(2) 重さの感覚尺度の構成
感覚尺度の構成では、物理量に対応して生起する心理量を測定する心理尺度を構成します。
ここでは実験の研究法として、Y= f (X)、物理量（重量 X）を独立変数、心理量（重さの判断 Y）を従属変数とする因果（原因と結果）の関係を検討すること（関数の決定）を学びます。また、関数の決定（対数関数とベキ乗関数の当てはめ）では課題の中で、線形回帰の適用について解説します。
具体的には、直接法（マグニチュード推定法）と間接法（カテゴリー評定法）の２手法の実験データに基づく感覚尺度を構成して、仮説（物理量と心理量の関係性）と２尺度の論理的な関係式（関数関係）とを検証します。

〔講義のすすめ方〕
実験はグループで実習しますが、結果の検証、統計的検定、レポート作成は各自個別に行います。

〔教　　材〕
初めて心理学実験に参加する受講生も多いかと思いますので、できる限り分かりやすい配付資料を準備します。実験計画法や心理測定法について更に詳しく学びたい方は、配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕
実験レポート　100％（絶対評価）

〔履修のポイント・注意点〕
実験参加の上、期限内にレポートを提出した場合のみ、成績評価対象となります。
※実験器具の関係上、定員30名程度とします。履修者の決定は、初回授業または掲示された日時の説明会で行います。

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格申請では、「基礎科目」（心理学実験実習）に区分される科目です。

K41501

科　目　名	教育の測定と評価
	授業形態：講義
教　員　名	平田　乃美

〔**講義目的**〕
1）教育測定と記述の知識・技術を学ぶ
2）教育評価の意義と知識・技術を学ぶ
3）上記を踏まえて、教育実践における教育測定の技術と評価の重要性について理解を深める

〔**講義内容**〕
教育測定とは、教育効果の客観的な情報を得ること、つまり学力テストや偏差値等に代表される教育効果の数値化といえます。そのため測定においては、科学的な信頼性や妥当性が保証されねばなりません。そして教育評価は、客観的に測定された現象の意味を学習に役立つ情報として、学習者や教師自身の指導計画にフィードバックすることといえます。
　本授業では、教師をはじめ他者を評価する立場にある者にとって欠かすことのできない、教育の測定評価に関する専門知識・技術について紹介します。また、教育効果として見落とされがちな学力以外の成果についても実際の教育実践記録等を通して考えます。

［授業計画］
1．研究史：教育における測定評価の意義
2．知能検査を考える -IQ の歴史 -
3．知能検査を考える - 現状と展望 -
4．学力評価を考える
　- 少数大課題方式、評定段階の設定 -
5．学力評価を考える
　- 細目積上げ方式、学力テストの尺度論 -
6．絶対評価と相対評価
7．古典的テスト理論
　- タウ等価測定、平行測定 -
8．信頼性と妥当性 - 項目分析 -
　-G－P 分析、I－T 分析、S－P 表の作成 -
9．信頼性と妥当性？測定誤差
　- 論理的・内容的妥当性の問題 -
10. 教育目標のタキソノミー
11. 教育成果を考える？情報処理の技術
　- 偏差値、標準得点、視覚的表現 -
12. 教育成果を考える - 評価者と学習者 -
- 学習者に有益なフィードバックであるために -
13. －15. まとめ

〔**講義のすすめ方**〕
講義の区切り毎に課題（データ処理や学習内容の要約）を実施して、理解度の確認や議論の材料にもちいます。成績評価の対象ではありませんが、内容の振り返りや学習方略の改善、試験対策等に各自活用してください。

〔**教　　材**〕
授業で紹介されたテーマについて更に関心がある場合は毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔**成績評価の方法・基準**〕
筆記試験　100％（相対評価）

〔**履修のポイント・注意点**〕
［出席について］
出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

［課題について］
指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

［成績について］
評価基準の個別対応は一切ありません。
個別の結果について、成績発表前の問い合せには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

［資料について］
講義資料のスライド（動画、写真等）を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

〔**科目内容の位置付け**〕
認定心理士資格では、「教育心理学・発達心理学」（教育測定）に区分される科目です。

K51503

科　目　名	国語科教育法
	授業形態：講義
教　員　名	井上　次夫

〔講義目的〕
国語科の新学習指導要領（小学校）に示されている指導内容（平成20年版においては三領域「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」及び一事項「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の構成）について解説を行う。
また、国語科教材研究の意義・方法について概説し、それを踏まえて表現教材や理解教材、言語事項の研究を具体的な活動例を通して行う。
以上が国語科教育法で講義する主な内容であるが、これを受講することによって国語科の学習指導を行う際の教材研究の視点や学習指導案作成上の要点を体得してもらいたい。

〔講義内容〕
本科目では、以下の内容について研究する。
1．講義ガイダンス
2．国語科の内容の構成とその特色
3．単元の研究
　〇単元の構成、単元の意義、単元の目標
4．教材の研究
　〇文章の形態、文章の主題、文章の構成、文章の叙述、文章の言語要素
5．授業の研究
　〇学習過程、三読法、学習目標、学習活動
6．学習指導の研究
　〇単元観、目標、指導計画、本時（目標、学習活動、教師の支援）、発問計画、板書計画、評価
7．模擬授業
　〇授業記録を作成し、それをもとに学習指導を振り返り、授業分析について考察する

〔講義のすすめ方〕
講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。
本科目では、模擬授業の実施を目指しているため、受講生は毎回の授業が次の授業へと継続、発展していくことを認識しておくこと。

〔教　　材〕
文部省『小学校学習指導要領解説国語編』（平成20年8月）東洋館出版社　その他については、最初の授業時に連絡を行う。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況、授業内テスト、課題プリントや講義ノート等の提出物、授業での質疑応答、発表等授業への貢献度により評価する。
〇出席　　20％
〇テスト　50％
〇提出物　20％
〇授業への貢献度　10％

〔履修のポイント・注意点〕
出席をとる。授業の３分の２以上出席した受講生を評価対象とする。なお、失礼な遅刻は３回で欠席１回と数える。
授業内容は積み上げ方式になっているため、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。特に、授業を欠席した場合、各自で授業内容を補う工夫が望まれる。
また、期末に「講義要点ノート（授業ノートとは別に、毎時間の要点、感想・意見等を記入したもの）」を提出してもらう予定である。作成法は授業で解説する。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目として位置付けられている。国語教師には特に実践的指導力の基礎が必要だという認識のもとに授業に臨むこと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
国語表現法Ａ・Ｂ、国語概説

K51603

科　目　名	社会科教育法
	授業形態：講義
教　員　名	奥澤　信行

〔講義目的〕
小学校における社会科の授業展開について第３学年からの各学年ごとの指導計画や指導案の作成について講義する。小学校の社会科は、分野別にみると地理に関する内容に多くの時間が配当されている。第３・４学年で学ぶ「学区における地域の見方」をベースにして、その面的スケールを拡大することで、学校所在地の市町村から都道府県の学習へと発展させ、さらに国家のあり方を学ぶことになる。そして確固たる国家観を形成することで、世界各国と我が国との関係を理解することが可能となる。このように地理学習を主体として、さらに歴史と公民の分野を付加することで、我が国の姿を正しく捉えるように指導することが、社会科学習の目標といえる。本講では、こうした社会科の学習目標を見据えて、実際に児童を指導する際の教材の扱いや指導方法についての講義を進めた後、実際に教壇に立つことを想定した模擬授業も行う。模擬授業にあっては、学習内容に関わることに留まらず、実際に教室内で起こるであろう事態を想定した実践的な授業展開についても指導したい。

〔講義内容〕
Ⅰ社会科の指導方法
　①動機づけと課題意識
　②児童の主体性と教師の指導性
　③社会科学的認識の指導
Ⅱ各学年における指導計画
　①第３・４学年の指導計画
　②第５学年の指導計画
　③第６学年の指導計画
Ⅲ指導計画の作成
　①年間指導計画
　②単元ごとの指導計画と指導案
Ⅳ模擬授業

〔講義のすすめ方〕
上記のⅠからⅢは、講義により授業を進めるが、Ⅳの模擬授業は、グループごとに代表者が教壇に立ち、これを互いに論評する形で行う。

〔教　　材〕
　教科書は特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書　『小学校学習指導要領解説（社会編）』
文部科学省　日本文教出版

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と定期試験の成績の他に、授業態度や提出物の状況も加味して評価する。毎時間出席カードを配布するが、これを点数化するので、出席が評価に影響を及ぼすことになる。また学生諸君の所持するＩＤカードによる出席も併せて利用するが、出席カードとの間に差異が生じた場合には、出席カードによるデータを優先する。半期の授業のため、５回以上欠席した場合には評価の対象外となる。なお出席点は評価の20％程度の扱いとする。定期試験は論述式で解答する形式で、ノート等の持ち込みは一切不可である。

〔履修のポイント・注意点〕
小学校教員免許取得希望者を対象としているため、教育現場の実態に触れつつ授業を進める。したがって受講生諸君も常に学校や教育に関わる社会問題には関心を持って、自分なりの考えをまとめる努力をしてもらいたい。また概説とは異なり、「教壇に立つ」ことを前提としたより実践的な内容となるので、教員への志望をより明確にして授業に臨むことが大切である。

〔科目内容の位置付け〕
小学校社会科の学習内容を実際に授業を展開することを前提として説明する。また模擬授業の実施で、「教えること」の技術的な側面にも言及する。「教壇に立つ」にあたっての基本的レベルの内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「社会科概説」を履修済みであることが望ましい。また小学校社会科における地理的分野が中心となるため、地理学全般を把握する意味から、教養科目の「地理学Ａ・Ｂ」の履修を薦める。

K51703

科　目　名	算数科教育法
	授業形態：講義
教　員　名	後藤 達生

〔講義目的〕
小学校教育において算数科のはたす役割は大きい．教壇に立って子供たちに向かい合うとき，算数が目指すものや，その特質をきちんと理解していることが重要です．この講義では算数科の学習指導を行うときの基本的な考え方や基礎となる理論を正しく理解することを目的としています．
小学校算数の内容は「Ａ数と計算」「Ｂ量と測定」「Ｃ図形」「Ｄ数量関係」の４領域に区別されていますが，これらの内容と，その概要を大きくとらえておくことも大切です．また，算数科の著しい特質として指導の系統性があげられます．加法を例にとっても，整数から始まって小数，分数へと段階を追って進んでいきます．さらに，それぞれの教材が相互にどのように関連しているのかを理解することは、個々の授業作りに当たってもきわめて重要です．
具体的な例を通して学習指導案を作成することも，この講義のもうひとつの大切な目的です．典型的な教材を取り上げて学習指導案の書き方を解説します．

〔講義内容〕
第１回　算数科の目標
第２回　算数科の特質
第３回　学習指導案と評価
第４回　数と記数法
第５回　加法と減法
第６回　乗法と除法（整数）
第７回　乗法と除法（小数）
第８回　分数と演算
第９回　量と測定（1）
第10回　量と測定（2）
第11回　平面図形
第12回　立体図形
第13回　数量関係（1）
第14回　数量関係（2）
第15回　テスト

〔講義のすすめ方〕
講義中心に進めるが出席を確認するために毎回小テストを行う．期末試験では類題が出題されるので要注意．

〔教　　材〕
〔教科書〕「小学校学習指導要領解説・算数編　平成20年8月（文部科学省）」東洋館出版社，250円
〔参考書〕「小学校算数科指導の研究」平岡忠、建帛社，2205円

指導案作成のための資料などは適宜配布する．

〔成績評価の方法・基準〕
出席点(30%)，レポート(10%)，毎回の講義での小テストおよび学期末試験(60%) による．

〔履修のポイント・注意点〕
小学校教師を目指す学生を対象として講義する．授業で取り上げられる多くの例題を通して教えるべきことの要点を正確にとらえてほしい．

〔科目内容の位置付け〕
小学校教員免許状関連の「教職に関する科目」．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は算数概説、関連科目としては算数概説 II/ 初等算数がある．

K51803

科　目　名	理科教育法
	授業形態：講義
教　員　名	小原　政敏

〔講義目的〕
小学校理科の内容と理科の教育方法について理解を深め、理科の授業を実施できる知識技能を習得することが目的である。実験を多くし、実験を通して理科への興味関心を高め、理解を深めることができる指導力の育成を目指している。

〔講義内容〕
1）講義
・理科における学習指導の方法と安全管理
・理科における学習評価の方法
・理科授業の構成要素と授業設計
・理科の学習指導案の作成方法
2）実験
・電気の導体と不導体及び電気回路
・電圧・電流・抵抗とオームの法則
・磁気の性質と電流の作る磁気の性質
・電流の働きとエネルギーの保存・太陽電池の性質
・テコとテコの原理
・振り子と等時性
・力の性質と加速度
・重力加速度の測定と万有引力
・エネルギーと力学的エネルギーの保存
・熱の伝導・熱膨張・熱エネルギー
3）期末考査（６０分）

〔講義のすすめ方〕
小学校理科の内容のなかで主な項目を学生実験をしながら理解し、指導力の向上を図る。子どもが理解しやすく興味関心を高められる指導はどうすれば可能なのかを受講生自身が工夫することを期待する。班別実験を通して実験計画・結果の発表・意見交換をしながら理解を互いに深める機会としたい。模擬授業を実施して教育実習にも対応できるようしたいが、学習内容が多く時間設定ができないので、模擬授業は理科概説Ⅱに回す。

〔教　　材〕
教科書　小学校理科指導の研究　建帛社
参考書　小学校学習指導要領解説理科編
VTR・パソコンソフト

〔成績評価の方法・基準〕
科学的思考力、自然科学に対する興味関心、理科を楽しくしようとする意欲等を評価する。
筆記試験　学期末の定期試験
レポート　提出・内容について評価
（必要に応じて指示する。）

判定基準
・試験点数60％
・出席率　15％
・レポート25％

〔履修のポイント・注意点〕
理科の指導では、内容の説明に加えて自然の様々な現象について実験を通して理解することが不可欠である。実験技術や安全に配慮した実験方法に習熟するとともに、自らも様々な実験を工夫する意欲や態度が必要である。授業の実験は限定されてしまうので参考書などで、より幅広く実験の知識を増やしていくことが必要である。
小学生の自然についての素朴な疑問に答えるには、教師が自然について本質的な深い科学的理解をしていなければ不可能である。日々の生活の中で意図的に理科の内容について注意をむけ感心を持ち続けて教師として理科の知識・理解・技能を高めていく努力を期待したい。

〔科目内容の位置付け〕
理科の大きな特徴は、教科内容の説明に合わせて自然現象について実験をして確認してみることである。理科教育では実験は欠かせない存在であり、教師自身が実験に興味関心を示し、実験の技能を高めることによって子ども達に理科の面白さを伝えたい。
新学習指導要領では、小学校・中学校・高等学校全ての校種において理数系の科目の充実を目指している。理数系への子ども達の関心が低下していることには小学校の教員の責任が問われる。理科に関する知識・技能を学ぶ機会は極めて限られている。その意味でこの科目は貴重な存在である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　理科概説Ⅰ
関連科目
・「理科概説Ⅱ」
・教養科目として「生物学」「物理学」「環境科学」がある。
・大学で開設していない自然科学の科目も幅広く学んでおくことが大切である。

K51903

科　目　名	生活科教育法
	授業形態：講義
教　員　名	石井 智子

〔講義目的〕
① 基礎的内容科目である「生活科概説Ⅰ/ 生活科概説」を踏まえ、教科生活科を指導する上での実践的な能力を高める。
② 基礎的内容科目である「生活科概説Ⅰ/ 生活科概説」を踏まえ、「子どもの学び」「子どもを見る目、教師の役割」等に着目して、子どもの生活圏である地域の教育素材・人材の教材開発や栽培活動、現職教諭による授業実践発表等を通し、子どもにとって魅力ある生活科となる指導内容、計画立案、指導法、評価法、教材研究法等について理解と実践力を高める。
③ 「生活科教育法」を通して、教師としての資質の基礎を養う。

〔講義内容〕
第1回の授業で、講義目的や授業方針等の説明と各回の授業予定を提示する。
○ 教科の理解を深める講義
・子どもにとっての生活科の意義
・生活科の教科・学年目標、９内容と指導計画
・子どもの学びの筋道に沿った単元計画、活動計画作成
・教師の役割・・子ども理解と支援
○ 教材研究と指導法演習
・栽培活動と情報交換・発表活動と相互評価
・大学周辺の教材開発と探検活動案作成、発表活動と相互評価
・子どもの作品・表現等による子ども理解
・現職教諭から学ぶ生活科授業実践研究

〔講義のすすめ方〕
○ 既習「生活科概説Ⅰ/生活科概説」の内容を踏まえ、子どもの思いや願いを大切にした実践事例・単元展開案の活用や現職教諭の実践発表を基に、演習、作業、教材開発のためのフィールドワーク等の体験を重視する。

〔教　　材〕
○ 小学校学習指導要領解説・生活編（平成２０年８月）・文部科学省・日本文教出版・101円
第１回授業から使用するので持参すること（第１回授業で販売予定）
○ 自作プリント、実践事例、活動展開案、年間指導計画等（随時）
○ その他は第１回授業で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
○ 毎回の授業にて提出のレポート、小テスト等（出席状況）（３０％）
○ 演習等での作成物・作品、発表・表現活動での作品・相互評価、栽培活動での作成物、ポートフォリオ作成と自己評価等（７０％）

〔履修のポイント・注意点〕
○ 第１回授業で配付する授業予定表に示される内容に関連する「小学校学習指導要領解説・生活編」を読み予習するとともに、既習「生活科概説Ⅰ/生活科概説」で作成したポートフォリオで復習しておくこと。
○ 授業内容に関係する実践事例や資料等を自主的に収集し活用すること。
○ 作成方針に基づきポートフォリオを作成すること。

〔科目内容の位置付け〕
○ 生活科の基礎的内容の「生活科概説Ⅰ/ 生活科概説」の履修者を対象とする。
○ 既習「生活科概説Ⅰ/生活科概説」を踏まえ、子どもの生活圏である地域の教育素材・人材の教材開発や栽培活動、情報交換や発表活動と相互評価、現職教師の授業実践研究等の実践を通した応用的な内容を主とし、計画立案、指導法、評価法、教材研究法等について理解と実践力を高める。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
○ 前提科目：生活科概説Ⅰ/ 生活科概説
○ 関連科目：生活科概説Ⅱ/ 初等生活科

K52003

科　目　名	音楽科教育法
	授業形態：講義
教　員　名	冨田　英也

〔講義目的〕
生きる力をはぐくみ、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす指導ができるような教育者を目指している。表現及や鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養えるような教育者を目標としている。これらを達成するべく、小学校教諭としての資質と能力を身に付け、的確な音楽教科の指導が行えるよう育成する。

〔講義内容〕
小学校音楽の変遷と学習指導要領を理解し、他の教科との連携を考えながら、教材研究や指導計画の立案と学年毎の模擬授業等の体験を行い、音楽の授業のあり方、展開の仕方、指導法を学ぶ。また、この授業を通して人間の根源的な心や愛情を大切にし、豊かな感性と表現力を育む。

〔講義のすすめ方〕
第１回、我が国の音楽教育の変遷、小学校教育における音楽科の役割。
第２回、児童期までの音楽的発達段階。
第３回、音楽科教育の目標と学習指導要領。
第４回、小学校音楽の指導内容、歌唱・器楽・創作等々の表現能力を育てるには。
第５回、鑑賞指導の意義と鑑賞教材の研究、価値を認識できる能力を養う。
第６回、音の響きからイメージを増幅させ創作する創造的音楽の重要性。
第７回、教材研究Ⅰ（低学年の歌唱・器楽・鑑賞教材、日本の伝統音楽、共通教材その他）。
第８回、教材研究Ⅱ（中学年の歌唱・器楽・鑑賞教材、日本の伝統音楽、共通教材その他）。
第９回、教材研究Ⅲ（高学年の歌唱・器楽・鑑賞教材、日本の伝統音楽、共通教材その他）。
第10回、学習指導案の意義と注意点、及び低学年の学習指導案の作成。
第11回、中学年、高学年の学習指導案の作成。
第12回、歌唱を中心とした模擬授業の試み。
第13回、器楽を中心とした模擬授業の試み。
第14回、鑑賞を中心とした模擬授業の試み。
第15回、まとめ、音楽の授業のあり方、教諭としての資質、指導法等々が身に付いたか
評価する。

〔教　　材〕
・小学校課程のための教科教育法　音楽編　　教育芸術社　　１、４７０円
・小学校学習指導要領解説　平成２０年８月　総合版　文部科学省（教育芸術社）

〔成績評価の方法・基準〕
レポート提出（指導案の作成）、模擬授業、学期末試験、等々の総合的評価
　出席３０％、試験・レポート７０％

〔履修のポイント・注意点〕
豊かな感性や表現力は授業だけで得られるものではなく、育ってきた環境と日常生活の中で培っていくものである。先ずは自分自身が音楽を楽しみ音楽を愛好し、思考し創意工夫をして、客観的にそして博愛的精神をもって子どもとかかわることが大切である。
模擬授業にあっては、先ず自分の得意分野を含めて計画し、失敗を恐れることなく何度もチャレンジすることが成功に繋がっていくこととなる。

〔科目内容の位置付け〕
小学校教諭資格取得関連科目、子どもの目線で子どもの立場になって物事を考え理解する視点が必要である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
音楽概説Ⅰ、音楽実技Ⅰ（ピアノ）、音楽実技Ⅱ（子どもの音楽）、ソルフェージュ、
（音楽理論、ピアノ演奏技術、動揺や子どもの歌、等々）

K52103

科　目　名	図画工作科教育法
	授業形態：講義
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
　図画工作科は表現領域と鑑賞領域に分かれ、表現領域には「材料や場所をもとにした造形活動（造形遊び）」「絵や立体に表わす」といった内容が含まれ、鑑賞領域には表現活動の一環として友だちが作った作品を見ること、制作と関連した芸術作品を鑑賞することが含まれる。この講義では、図画工作科の学習内容、基礎的な技法・材料・道具についての知識、学習指導案の作成方法などについて学ぶとともに、教科内容の適切な指導法について考察する。

〔講義内容〕
1．造形遊びの指導
2．絵に表す活動の指導
3．版に表す活動の指導(1)
　凸版形式／凹版形式
4．版に表す活動の指導(2)
　平版形式／孔版形式
5．立体に表す活動の指導
6．陶芸の指導
7．鑑賞の指導
8．色彩の基礎理論
9．造形の材料と道具
10．観点別評価基準
11．学習指導案の作成
12．鑑賞指導のための美術史(1)
　西洋：古代～中世
13．鑑賞指導のための美術史(2)
　西洋：ルネサンス～近代
14．鑑賞指導のための美術史(3)
　日本の美術

〔講義のすすめ方〕
　要点をスライドで写し、解説を加える。必要に応じて参考資料を配布し、映像資料も使用する。

〔教　　材〕
　教科書は使用しない。
　参考書：『小学校図画工作科指導の研究』宮脇理監修、建帛社、2004年。
　　：『小学校学習指導要領解説　図画工作編』文部科学省、2008年。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験による評価。
　定期試験　100％

〔履修のポイント・注意点〕
　問題意識をもって受講して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
　小学校教員免許を取得する学生のための科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　図画工作概説Ⅰ

K52203

科　目　名	家庭科教育法
	授業形態：講義
教　員　名	増田　仁

〔講義目的〕
本講義では、まず家庭科の学習指導要領のそれぞれの領域、具体的には家族領域・食物領域・被服・住居領域・消費者教育・環境問題領域について解説を行っていく。同時に各領域の学習指導案の書き方についても言及していく。
授業の半ばでは、現代の家庭科教育法の課題を衣食住それぞれの領域ごとに考察する。最後に現在の少子高齢化社会において今後ますます重視される傾向にある家庭生活の分野に焦点を当てながら、家族の「多様化」・環境問題・地域文化の育成といったトピックを取り上げて検討を行う。その際、家政学や家族社会学等の分野で蓄積されてきた知見を踏まえ、統計データを提示しながらその社会的背景について解説を加える。以上の講義を通して家庭構成員全員にとって望ましい家庭生活・地域生活とは何か、について学生一人一人が考えを深める授業内容にしていく。

〔講義内容〕
1、オリエンテーション
2、学習指導要領の解説と学習指導案の作成方法1――家族領域――
3、学習指導要領の解説と学習指導案の作成方法2――食物領域――
4、学習指導要領の解説と学習指導案の作成方法3――被服・住居領域――
5、学習指導要領の解説と学習指導案の作成方法4――消費者教育・環境問題領域――
6、家庭科の歴史と学習指導要領の変遷1
7、家庭科の歴史と学習指導要領の変遷2
8、現在の家庭科教育法の課題1――女性の「労働」をどう捉えるか――
9、現在の家庭科教育法の課題2――人々の食生活と「食育」――
10、現在の家庭科教育法の課題3――「住むこと」をめぐって――
11、これからの家庭科教育法1――家族の「多様化」に向けて――
12、これからの家庭科教育法2――環境問題への取り組み――
13、これからの家庭科教育法3――賢い「生活者」になるために――
14、これからの家庭科教育法5――地域の中で生きること――
15、まとめ

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義形式であるが、授業中にリアクションペーパー等で受講者の意見をきく機会やビデオ教材を視聴する機会を設ける。

〔教　　材〕
指定図書：
文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』2008年、95円。
柳昌子・野村康代編著「家庭科の授業と家政学（小学校編）」北大路書房、1989年、2,200円。

参考文献：
『小学校家庭科教科書』東京書籍および開隆堂。
酒井晴美著『教科書が書いた家族と女性の戦後50年』労働教育センター、1995年、1,800円。
井上輝子・江原由美子編、1999年、『女性のデータブック』有斐閣、3,200円。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（20％）とレポートの内容（80％）から総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
これまでどのような家庭科教育が実践され、これからどのような家庭科教育を行っていけばいいのか、社会と家庭との関係に注目しながら受講してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
基礎的内容の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「家庭科概説」

K52303

科　目　名	体育科教育法
	授業形態：講義
教　員　名	平野　智之

〔講義目的〕
本授業では、小学校の体育科教育実践に向けた基礎理論を理解するとともに、基礎理論を踏まえた授業設計の能力を身につける。また、授業観察（ＶＴＲ）による授業研究を行い、授業を分析する力も身につける。
可能であれば、模擬授業を実施し、検討することで理解を深めたい。

〔講義内容〕
発育発達論、体育科の目標論・内容論・方法論・評価論等を学んだうえで、実際に授業設計を行う。また、授業観察（ＶＴＲ）による授業研究を実施する。
可能な場合、模擬授業を実施する。

〔講義のすすめ方〕
前半は講義、後半は具体的に指導計画を立案する。
可能な場合、作成された指導計画をもとに模擬授業を実施する。
また、随時、小レポートを課す。

〔教　　材〕
適宜、作成した資料（パワーポイントによる提示や文献等）を使用する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況（10％）、レポート（30％）、学習指導計画（60％）の結果を総合して評価する。

K63301

科　目　名	体育原理
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
「体育とは何か」に問いかけ、明確な答えを得ることは、そう簡単なことではない。それは、体育の概念が、「身体の教育」として明治以降に外国から導入され、時代と共に変遷して来たことにもよる。学校教育の中で、あるいは生涯教育の中で、体育の概念はどのように考えられて来たのかを理解し、指導者として、運動財の理解を深め、それを如何に教えるべきかを理解することが本講義の目的である。

〔講義内容〕
主要な内容は以下のようなものである。
1. 体育とは何か
2. 体育と体育学
3. 遊びとは何か
4. 身体形成とは何か
5. 運動文化とは何か
6. スポーツと教育

〔講義のすすめ方〕
『体育原理講義』大修館をテキストとして上記の内容を講義し、関連する質問用紙に解答する。

〔教　　材〕
上記のテキストを使用するとともに、独自の資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
問題群の中からテーマを選択してレポートする。また、平常の質問用紙に対する解答の評価を行なう。合格の基準は60％以上とする。

〔履修のポイント・注意点〕
テキストを使用するので、予習や復習を常に行なって下さい。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目。教員免許取得に必要な単位。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

K63401

科　目　名	体育心理学
教　員　名	本多　麻子

〔講義目的〕
1）スポーツや運動に関する心理的特性，動機づけ，パーソナリティ，運動学習などを中心として，体育心理学・スポーツ心理学の基本的内容を理解する．
2）スポーツ場面におけるパフォーマンス向上，および心身の健康の維持・増進という2つの視点から，精神身体活動を理解する．
3）スポーツや運動に関する心と身体の相関関係について理解を深める．

〔講義内容〕
主な講義内容は以下の通りである．
1）スポーツと動機づけ (1)：内発的動機づけ，外発的動機づけ
2）スポーツと動機づけ (2)：原因帰属，学習性無力感，目標理論
3）スポーツとパーソナリティ (1)：パーソナリティ理論，心理的競技能力
4）スポーツとパーソナリティ (2)：攻撃性，運動アディクション，ランナーズハイ
5）スポーツと感情 (1)：感情理論，フロー体験，至適運動強度
6）スポーツと感情 (2)：不安，ストレス，運動・スポーツに伴う心理的効果
7）運動学習・スキルの習得 (1)：スキルの習得段階，運動学習理論
8）運動学習・スキルの習得 (2)：効果的な練習方法，フィードバック方略
9）スポーツとコンディショニング (1)：緊張，“あがり”による心身の変化
10) スポーツとコンディショニング (2)：緊張，“あがり”による心身の変化の理論と対処方略
11) メンタルトレーニング (1)：メンタルトレーニングの基礎
12) メンタルトレーニング (2)：アセスメント，リラクセーション，イメージトレーニング
13) スポーツ選手の健康問題と心理的サポート (1)：スポーツ傷害，女性アスリート特有の諸問題
14) スポーツ選手の健康問題と心理的サポート (2)：スポーツ選手のバーンアウト，行動変容
15) 試験

〔講義のすすめ方〕
上記の内容について，配布資料とパワーポイントを用いて講義を進める．適宜，スポーツに関する心理検査を実施する．その結果や解釈を小レポートとして提出する．

〔教　　材〕
毎回資料を配布する．参考文献は授業中に紹介する．教科書は指定しない．

〔成績評価の方法・基準〕
出席および小レポート40%，定期試験60%として評価する．

〔履修のポイント・注意点〕
毎回，授業時間内に小レポートを提出することによって，出席および講義内容の理解の確認とする．

〔科目内容の位置付け〕
中学校・高等学校一種免許状（保健体育）関連科目である．「認定心理士」資格申請を希望する場合は受講することが望ましい．本講義では，体育心理学，スポーツ心理学の基礎的内容を扱う．スポーツ，運動，心身の健康をキーワードとした心と身体の関連を学ぶ基礎的科目として位置づけられる．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目は特にないが，心理学，生理学，スポーツ医学等，関連科目の履修を勧める．

K64201

科　目　名	スポーツ産業論
教　員　名	栗山　英樹

〔講義目的〕
スポーツ経営の重要性の増す近年、専門家が求められる時代を迎えた。プロ野球の経営危機に代表されるように、スポーツ経営の専門家の育成が遅れたことが大きな要因で、この分野の人材が多く求められている。
しかし、まだスポーツ産業論がアメリカの大学で始まって、40年あまり、学問としてもまだこれからという分野である。机上の話しではなく、現場で実際にどんな経営の問題に直面しているかなど、研究することにより、時代の求める人材育成の一つとなることを目的とする。

〔講義内容〕
①スポーツ産業論概要
②アメリカスポーツ　ＭＢＬ、ＮＦＬ、ＮＨＬ、
　ＮＢＡの今。
③ヨーロッパサッカーの現状
④日本プロ野球
⑤Ｊリーグ
⑥日本の国技相撲
⑦ゴルフ、テニスなど国内プロスポーツ
⑧アマチュアスポーツのプロ化
⑨スポーツジムなどの経営
⑩健康ブームに乗る商品
　などスポーツの生み出す経営的要素の徹底研究

〔教　　材〕
プリント配布

〔成績評価の方法・基準〕
出欠席、理解度で評価
テスト、レポートあり。

K64301

科　目　名	スポーツ行政論
教　員　名	中村　祐司

〔講義目的〕
諸外国におけるスポーツ振興政策も紹介しつつ、サッカーくじの導入やワールドカップ日韓共催などを契機に、国や地方自治体のスポーツ環境がどのように変容し、どのような課題に直面しているのかを明らかにする。財政難や行政のスリム化傾向の中で、従来のスポーツ行政組織機構の再編や統合などの動きにも注目する。そして、スポーツに関わるサービスをめぐって、公的セクター（行政）、私的セクター（民間企業）、ボランタリーセクターがパートナーシップ関係を構築していくための方策を探る。とくに、総合型地域スポーツクラブの設立・運営をめぐり、クラブが掲げる理念の共有、実際に直面する課題の解決策、住民の参画方法や地域コミュニティ活性化の方途、さらには企業からの支援の在り方などについても考察する。

〔講義内容〕
1．スポーツ行政研究の意義
2．先進諸国におけるスポーツ行政の趨勢
3．イギリスのスポーツ政策の変容
4．日本におけるスポーツ行政の歴史
5．日本におけるスポーツ振興策の課題
6．オーストラリアのスポーツ行政と産業振興
7．スポーツ行政と地域社会
8．ローカルガバナンスと地域スポーツ活動
9．総合型地域スポーツクラブの実践と課題
10．スポーツ行政をめぐる現代的課題

〔講義のすすめ方〕
まず、スポーツ行政を研究する意義について受講生に共通の認識を持たせるようにする。そして、中央政府と地方自治体がどのような意図とスタンスでスポーツ振興に取り組んでいるのかを、諸外国の事例も含めて明らかにする。さらに、政府が提供するスポーツ政策とこれを実質的に担う私的セクター（民間企業）やボランタリーセクター（市民団体など）がどのような課題に直面しているのかを把握する。なお、受講生に対する質問を心掛け、教員による一方通行的な説明に終始せず、受講者と一緒に課題解決に向けて知恵を出し合うような授業にしたいと思う。

〔教　　材〕
必要に応じて資料を適宜配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況、講義時間中に作成する小レポート（2～3回程度）、定期試験によって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
国と地方自治体が提供するスポーツ行政とスポーツ政策に関わる課題への問題意識を持って授業に臨んでほしい。質問の時間もできるだけ確保したいので、事実確認以上に考え方や視点をめぐる質問を積極的に行ってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
講義を行う教員の基本的スタンスについては「体育社会学」と同様であるが、どちらかといえばこの授業では取り上げたテーマを深く追求することを心掛け、スポーツをめぐる行政や政策の課題をかなり突き詰めて考察する。個々のテーマの基本的前提や概略説明については「体育社会学」においてやっていきたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
実際のスポーツ活動に従事しているかいないかにかかわらず、また、好き嫌いにかかわらず、スポーツに関わる政府の活動や政策に何らかの関心を有していることを受講の前提としたい。また、関連科目として「体育社会学」がある。

K65001

科　目　名	運動学Ⅰ
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
人間の運動の意味や価値を理解し、運動の持つ教育的意義を人間学的な視点から理解することが、本講義の主要な目的である。
　特に、学校体育はスポーツ運動を文化として伝承し、人間の生活を豊かにし、生涯学習の一環として伝承されるものであることを理解してほしい。従って、運動学Ⅰでは、学校体育で伝承されてきたスポーツ教材に焦点を絞り、運動財の意味や価値を問うとともに、運動方法学の内容を含む運動の発生を中心として講義する。

〔講義内容〕
『教師のための運動学』の内容について講義する。プロローグ、第Ⅰ－Ⅱ章の主たる内容となる運動の発生、構造、伝承に関する内容が中核である。またこれらの具体的内容であるⅣ章「新しい運動理論を生かした運動指導」を講義する。

〔講義のすすめ方〕
『教師のための運動学』大修館、吉田、三木編著をテキストとし、順次説明を加えながら講義を進める。
　運動学Ⅰでは、上記テキストの前半部分を中心に、学習指導のための補足資料を配布しつつ進める。

〔教　　材〕
『教師のための運動学』を購入し、予習することを進める。質問事項は所定の用紙に書いてあらかじめ提出することとする。
　配付資料の活用

〔成績評価の方法・基準〕
記述式テストによる成績評価。60％以上を合格とする。

〔履修のポイント・注意点〕
テキストを購入し、予習をすること。
　質問事項を提出すること。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目。教員免許のための必修単位。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

K65101

科　目　名	運動学Ⅱ
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
スポーツ運動の特性や教材としてそれらがどのように人間教育に資するのかを理解することが、運動学Ⅱにおける講義の目的である。
スポーツを構成する動き方の構造を明らかにし、構造特性を基にどのように学習をすすめるべきかを中心に、スポーツ運動学の内容を講義する。

〔講義内容〕
『教師のための運動学』の新しい運動理論を生かした運動指導の内容を中核として講義する。
スポーツ種目は、その勝敗の判定や競技の方法によって、測定競技、判定競技、評定競技に分けられる。また、競技の仕方によっては個人競技、対人競技、集団競技などの区分も可能である。これらのスポーツを構成する動き方の構造を明らかにし、構造特性を基にどのように学習をすすめるかを中心に、スポーツ運動学の内容を、テキスト『教師のための運動学』第Ⅱと Ⅲ章を中心に配付資料を加えて講義する。

〔講義のすすめ方〕
基本的にはテキストを解説し、質問事項に回答するなど、運動学Ⅰと同様に進める。

〔教　　材〕
運動学Ⅰと同様のテキストを使用する。
『教師のための運動学』
大修館、吉田、三木編著

〔成績評価の方法・基準〕
中間レポートおよび中間テスト、最終レポートにより評価する。また、平常の質問用紙の提出回数をカウントする。

〔履修のポイント・注意点〕
テキストを予習し、質問用紙を提出する。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目。教員免許のための必要単位。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
運動学Ⅰを履修している必要がある。

K65401

科　目　名	ｽﾎﾟｰﾂｺｰﾁﾝｸﾞ総論
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
生涯スポーツが叫ばれている今日、種々のスポーツ種目において、またどのような競技レベルにおいても「競技力」の向上は、誰もが望むものである。コーチングとは、競技力の向上を目指して計画的、意図的に行われる行為として、指導者が、また選手自身が行う目的々な行為である。
　コーチング総論では、これらの目的々行為が、どのように計画され、実行され、評価されるのかを全体的に知るものである。

〔講義内容〕
講義内容としては以下の内容が含まれる
1.コーチングの目的と機能
2.コーチング計画
3.コーチングの内容
4.コーチング能力の育成
5.コーチングの評価
特に、コーチングの能力の育成については、
自主的に研修する必要がある。

〔講義のすすめ方〕
上記の内容について、順次講義を行うとともに、課題に応じたレポートを作成して提出する。

〔教　　材〕
配布資料をもとに講義を行う。また適当な著書を紹介するので興味のある人は購入してほしい。

〔成績評価の方法・基準〕
講義内容に応じた平素のレポートの評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
自主的な調査研究、レポートなどの提出を積極的に行うこと。

〔科目内容の位置付け〕
選択必修科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
各種の実技・実習、運動学の履修を前提として、自主的に取り組むこと。

K66201

科　目　名	競技スポーツ理論
教　員　名	竹島　克己

〔講義目的〕
勝敗を争う競技スポーツについて学ぶ。競技は身体的要素、精神的要素両面を鍛えることによって自分自身に勝ち、競う相手に勝とうというものである。競技で勝つために必要なあらゆることを学ぶ。

〔講義内容〕
1）競技スポーツの歴史
2）コーチング理論
3）トレーニング理論
4）生理学
5）運動生理学
6）栄養学（スポーツに適した食事・サプリメントについて）
7）運動力学（歩行・ランニング動作・水中動作などについて）
8）スポーツ関連の仕事
スポーツは姿勢・呼吸・歩行・ジョギング・ランニングなど基本が大事です。基本を踏まえた上で技術を積み上げていく姿勢を良く理解してほしい。これら、競技に役に立つ話題を抜粋し提供し、また最新のスポーツにおける出来事を含めて講義する。

〔講義のすすめ方〕
専門的立場から陸上競技長距離の話題は多くなるが、学生からも自分自身の経験をふまえて発表の機会を与える。広く他の経験、知識を自分のために役立てるようにしてほしい。
競技スポーツに関するレポートを作成する。

〔教　　材〕
特になし。資料は配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
1）参加度　出席を評価する
授業への取り組む姿勢
2）授業目的達成度
競技スポーツに関するレポート完成度
授業ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕
本授業を受講し理解、応用、実施する姿勢を望む。特に指導する側の観点で思考する姿勢を望む。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目。１～４年の選択科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

K66801

科　目　名	生理学
	※「運動生理学を含む」
教　員　名	金田　健史

〔講義目的〕
本講義では、体育科学、健康科学を学ぶために必要となる生命活動の基礎と本質を学習するとともに、身体運動と身体諸機能との関連を理解するための基礎学問としての生理学の重要性も理解する．したがって、神経、筋、呼吸、循環、血液、内分泌などの基礎となる生理機能について概説し、今後必要とされる学校体育の授業や健康・スポーツ関連の現場において、欠くことのできないベースとなる知識の確立を目指す．さらに、運動生理学の基礎的な知識を加えて説明していく．

〔講義内容〕
1．生理学の概要、導入
2．神経の構造と機能
3．活動電位の伝導、シナプス伝達
4．筋の機能（筋肉の構造、骨格筋の収縮）
5．興奮収縮連関、筋収縮の型
6．筋の機能（エネルギー供給系、筋線維のタイプ）
7．運動に関わる筋の機能（筋収縮と筋力発揮）
8．呼吸循環系の機能（心臓の構造、機能）
9．呼吸循環系の機能（心電図の意味と記録法）
10．呼吸循環系の機能（呼吸器の構造、機能）
11．運動と呼吸循環系の関わり（心拍数、心拍出量、血圧）
12．神経系の機能（脳・神経系の働き、脳・脊髄の構造、機能）
13．末梢神経系、運動単位
14．代謝（基礎代謝．安静時代謝）
15．試験

〔講義のすすめ方〕
授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である．

〔教　　材〕
○生理学テキスト　第4版（文光堂）
○生理学　Minor textbook　第6版（金芳堂）
○高校時代に生物、化学等を受講していた学生は教科書を活用することもよい．
○健康・体力のための運動生理学（杏林書院）

〔成績評価の方法・基準〕
出席および、学期末試験において評価する．

〔履修のポイント・注意点〕
高校時代における生物、化学等の知識は役立つと思われるが、そうでない学生でもプリント、映像から理解できるようにおこなう．しっかりと予習、復習をすることで十分に知識は得られるものと考えている．一年次前期に開講される解剖学（基礎）を受講した後、履修することが望ましい．

〔科目内容の位置付け〕
専門科目、教員免許取得に必要となる単位
健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
解剖学（基礎）、競技スポーツ理論、運動生理学、スポーツ生理学、スポーツ科学実験演習，専門演習 AB

K67301

科　目　名	公衆衛生学
教　員　名	益子　詔次

〔講義目的〕
人間は環境との関わりの中で生きている。しかも、個人の健康状態は集団の健康に、集団の健康は個人の健康に相互に影響を及ぼしている。科学が進歩しているにもかかわらず地球環境が取り返しのつかない事態を引き起こしつつある。この授業では環境や生活に関わる基本的知識を学習する。
将来への責任を含めて、生きていくうえでの住みやすい環境について考える景気となる授業をめざす。

〔講義内容〕
１　公衆衛生学の対象範囲、進め方、評価
２　環境衛生ー空気（組成、測定法）
３　環境衛生ー住居（衛生学的条件、換気、採光、照度）
４　環境衛生ー衣服、気候
５　上水道、下水道（歴史、処理プロセス、水質検査、水質基準）
６　公害　（種類、発生の原因、人体への影響、法案）
７　疫学（感染症の成立条件、対策、予防接種、消毒）
８　食品衛生　（学校給食、食中毒、食品添加物）
９　労働衛生　（疲労と災害発生、職業病）
１０　老人学（老化現象、加齢に伴う機能低下）
１１　塵芥処理（都市問題、産業廃棄物）
１２　人口問題　（人口静態、人口動態、少子高齢化社会）
１３　社会福祉の現状
１４　公衆衛生の歴史
１５　試験

〔講義のすすめ方〕
各回のテーマについて講義をする。

〔教　　材〕
資料、ビデオなどを用いる

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況　２０％、レポート１０％、試験７０％の割合で評価

〔履修のポイント・注意点〕
文字を書く習慣が少なくなっているので、板書を多くいします、ノートを必ず用意して下さい。
周りの迷惑になるので私語を慎む、同じ人が２回注意された場合（イエローカード２枚）は教室より退場して下さい。

K67601

科　目　名	学校保健Ⅰ
教　員　名	久保　元芳

〔講義目的〕
本講義は，学校において子どもの健康を守ったり増進したりするために行なわれる保健活動「学校保健」の概要について学ぶことを目的とします。

〔講義内容〕
第　１週　健康の考え方
第　２週　学校保健の目的，領域構造，担当者
第　３週　子どもの健康と発育発達（小児保健を含む）
第　４週　健康診断
第　５週　健康観察，健康相談
第　６週　養護教諭とその役割
第　７週　学校における感染症の予防
第　８週　子どもの心の健康問題とその対応（精神保健を含む）
第　９週　障害のある子どもの健康
第１０週　学校環境衛生
第１１週　学校安全①（学校における事故災害，救急処置）
第１２週　学校安全②（安全教育，学校の防犯）
第１３週　学校給食
第１４週　教職員の健康
第１５週　期末試験

〔講義のすすめ方〕
各回のテーマについての講義を中心に行なうが、適宜、グループワークやディスカッション等を取り入れる。

〔教　　材〕
参考図書：「学校保健ハンドブック」，教員養成系大学保健協議会編，ぎょうせい
「学校保健マニュアル」，高石昌弘・出井美智子編，南山堂

〔成績評価の方法・基準〕
学期末テスト　70％（全講義回数の2/3以上出席していない者は受験できない）
レポート　　30％

〔履修のポイント・注意点〕
学校保健の内容は広範なものです。自らの学習でさらに理解を深める努力を期待しています。

〔科目内容の位置付け〕
中学校・高等学校教諭免許状（保健体育）の取得を目指す者の必修科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
公衆衛生学

K67701

科　目　名	学校保健Ⅱ
教　員　名	久保　元芳

〔講義目的〕
本講義は，学校保健の中でも特に保健教育を中心にしてその理論と実際を学ぶことを目的とします。

〔講義内容〕
第１週　現代社会における保健学習への期待
第２週　わが国の保健学習の歩み
第３週　青少年の危険行動の実態とその防止
第４週　ヘルスプロモーションの理念に基づく保健学習とは
第５週　すぐれた保健授業とは－授業観の問い直し－
第６週　保健学習の担当教師に求められる資質・能力
第７週　中学・高校学習指導要領の「保健」内容マップづくり①
第８週　中学・高校学習指導要領の「保健」内容マップづくり②
第９週　「保健」内容マップの発表・評価
第10週　保健の教育内容と教材，「保健教科書」の機能と役割
第11週　多様な指導方法の工夫①（ブレインストーミング，ディスカッション等）
第12週　多様な指導方法の工夫②（ケーススタディ，ロールプレイング等）
第13週　指導案づくりと授業の展開
第14週　保健学習の評価①（教育的機能，観点別評価等）
第15週　保健学習の評価②（多様な評価方法，評価から評定等）

〔講義のすすめ方〕
各週のテーマに基づいた講義に加え，グループワーク，ディスカッション，実習等を多く取り入れる。

〔教　　材〕
購入図書：
①「中学校学習指導要領解説 保健体育編」，文部科学省，東山書房
②「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」，文部科学省，東山書房
参考図書：
①「新版 保健の授業づくり入門」，森昭三・和唐正勝編著，大修館書店
②「実践力を育てる中学校保健学習のプラン」，（財）日本学校保健会
③「意志決定・行動選択の力を育てる高等学校保健学習のプラン」，（財）日本学校保健会

〔成績評価の方法・基準〕
①出席状況　20％（全講義の2/3以上の出席が必須）
②内容マップの完成度・発表　40％
③レポート　40％

〔履修のポイント・注意点〕
グループワークや実習などの活動を多く取り入れた授業になっていますので，学生の積極性に期待しています。

〔科目内容の位置付け〕
中学校，高等学校の保健体育教師を目指す学生に有益になるよう，内容を構成しています。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
学校保健Ⅰ

K68001

科　目　名	発育発達学
教　員　名	金田　健史

〔講義目的〕
本講義では、人間の成長や発育発達をさまざまな視点から捉え、子どもの成長を大きく捉えるとともに、各ステージでの特徴的な変化を取り上げて講義を進めていく.
また、発達段階そのときどきでの変化に注目して、からだの中で一体どのような変化が時々刻々と起こりながら、子どもが成人へと変わっていくのかを受講生自身で考え進めることを目的としている.

〔講義内容〕
1．講義の概要に関するオリエンテーション
2．成長、発育、発達とは
3．いろいろな成長パターン、成長曲線
4．胎児期の発育発達
5．乳幼児期の発育発達
6．児童期の発育発達
7．思春期、青年期の発育発達
8．子どもの形態的変化とその特徴
9．運動機能の発達とその特徴（1）
10. 運動機能の発達とその特徴（2）
11. 感覚機能の発達とその特徴
12. 認知機能の発達とその特徴
13. 子どもの発育発達と遺伝的・環境的要因
14. 発育、発達研究における配慮や注意点、計画の意義と問題点
15. 試験

〔講義のすすめ方〕
適宜、プリント等による資料、パソコンを用いる説明、ビデオや DVD による映像を用いて行う予定である. 本授業では、講義を受けるというだけでなく、学生自身も考え、意見を出しあって一緒に発育発達について考えていく.

〔教　　材〕
〇からだの発達（大修館書店）
〇事典・成熟・運動（大修館書店）
〇小児のスポーツ医学（金芳堂）

〔成績評価の方法・基準〕
出席および、学期末試験が評価のベースとなるが、授業における活発な意見、質問等を含む授業態度、レポート課題の取り組みなどから総合的に判断する.

〔履修のポイント・注意点〕
基本的な知識は非常に大切であり、不可欠なものであるが、それ以上にこれまで学習してきた人間のからだについての知識をさらに深めたいという姿勢が強く望まれる.
漠然と講義を聴くというイメージで講義を受講するものには向いていない.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

K68601

科　目　名	トレーニング実習Ⅰ
教　員　名	竹島　克己

〔講義目的〕
トレーニングとは体力を向上させるためにある。
体力は次のように分類される。
1）行動体力
1．行動を起こす能力
2．行動を持続する能力
3．行動を調節する能力
2）防衛体力
1．物理化学的ストレスに対する抵抗力
2．生物的ストレスに対する抵抗力
3．生理的ストレスに対する抵抗力
4．精神的ストレスに対する抵抗力
　人間の体は適切なトレーニングによってこれらの能力は改善される。トレーニングの目的は高度の競技スポーツから健康維持のためとおおきな幅がある。また自分自身の体力向上と指導者となったときに適切な指導ができるよう、本授業に取り組み、トレーニングに対する知識と経験を身につけてほしい。

〔講義内容〕
1）ガイダンス
2）体操の方法
3）マッサージの方法
4）体格の測定
5）自重を使った体力トレーニングの方法
6）サーキットトレーンニングの方法
7）動きのトレーニング
8）ウエイトトレーニングの基礎
9）遊びを取り入れた体力トレーニングの方法
10）各種トレーニングの継続実施と経過測定
11）各種トレーニングの実施前後、実施経過での測定結果の評価
12）対象の違いによる健康へ向けた運動への取り組み方の違いを考慮に入れたプログラムの作成（幼児・青少年）
13）対象の違いによる健康へ向けた運動への取り組み方の違いを考慮に入れたプログラムの作成（中高年・高齢者）

〔講義のすすめ方〕
授業ノートを作成し体格の変化・体力の変化・トレーニングの進行度を自己点検しながら自分に適したトレーニング強度を探る。様々なトレーニングを体験しながらトレーニング・準備運動・アフターケアーの方法を体得する。

〔教　　材〕
筆記用具。トレーニングノート。

〔成績評価の方法・基準〕
1）参加度　出席を評価する
授業への取り組み・態度・参加の程度
2）貢献度　授業の準備・かたづけ・デモンストレーションへの貢献度
3）技能・運動水準
技能・能力の到達度
4）授業目的達成度
トレーニング科学に関するレポート・実習ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕
正しいトレーニングの技術を体得するためには、安全と健康に留意し慎重に何事も取り組む必要がある。けがをする事なく、させることなく服装・履物などにも気を配って参加してほしい。アクセサリーは、はずしてくること。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目、２年生から４年生の選択科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
トレーニング論・トレーニング実習Ⅱ

K68701

科　目　名	トレーニング実習Ⅱ
教　員　名	齊藤　武利

〔講義目的〕
スポーツ現場における様々なトレーニング方法のうち、一般な体力要素に視点を当てて、体力トレーニング法（主に筋力トレーニング）の実際について、各種の器具を用いて実施する。また、学校教育におけるスポーツ指導の観点から、指導者の視点に立って体力測定の方法などの課題についても、解説を行う。

〔講義内容〕
体力の構成要素である形態と機能について、それぞれの構成要素それぞれについて正しい測定方法を学習し、実践を行い、体力測定と記録、評価法の実際について整理する。特に、器具を使用したトレーニング（筋力トレーニングや心肺機能のトレーニング）について重点的に実技、実習を行う。計測したDATAに基づいて受講生同士での検討や議論も行う予定である。

・体力測定の意義
・筋力トレーニング（静的・動的レジスタンストレーニング）の実際
・フリーウェイトを用いた測定法と注意点
・正しいリフティング技術の習得
・スポーツ医科学と器具を用いたトレーニング方法への応用など
・持久的トレーニングの評価法と実際
・フィットネステストの紹介と実践
・対象者に応じた各種フィットネステストと様々なトレーニング
・高齢者に対する（特に、転倒（介護）予防）評価とトレーニング
・中高年（特に、運動療法が必要となる）に対する評価とトレーニング
・女性に対するフィットネス評価とトレーニング

〔講義のすすめ方〕
実習形式の授業のため、必ず出席し、毎回出される課題については、安全にかつ、確実に実施しなければならない。実施した課題をグループで記録し、その結果について検討し、レポートとして提出する。

〔教　　材〕
特別に、教科書等は指定しない。必要に応じて資料を配布する。
　個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

〔成績評価の方法・基準〕
全体の２／３以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。器具を使用したトレーニング実習のため、安全への配慮から、授業の導入部は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。
成績の評価基準
出席　50％
各種レポート課題の提出　30％
その他総合評価　20％

〔履修のポイント・注意点〕
受講する学生は、トレーニング実習Ⅰ、の単位を取得済み、あるいは、トレーニング論Ⅰ、Ⅱの単位習得済みの学生が履修が望ましい。安全への配慮から、上履きはなど、トレーニングに適切な服装での参加が必要である。

K70701

科　目　名	児童文学
	授業形態：講義
教　員　名	横田　順子

〔講義目的〕
児童文学における様々なジャンルの作品を取り上げ、それぞれの特質を習得したうえで、児童文学がもつ独自性を理解する。また作品を通して、子どもたちが抱えている問題についても考えたい。

〔講義内容〕
第一回　　寺村輝夫『ぼくは王さま』
第二回　　イソップ寓話
第三回　　イソップ寓話
第四回　　昔話
第五回　　昔話
第六回　　トーベ・ヤンソン「ムーミン」シリーズ
第七回　　トーベ・ヤンソン「ムーミン」シリーズ
第八回　　E. L. カニグズバーグ『クローディアの秘密』
第九回　　E. L. カニグズバーグ『クローディアの秘密』
第十回　　那須正幹『六年目のクラス会』
第十一回　梨木香歩『西の魔女が死んだ』
第十二回　矢玉四郎『はれときどきぶた』
第十三回　矢玉四郎『はれときどきぶた』
第十四回　モーリス・センダック『かいじゅうたちのいるところ』
第十五回　定期試験

〔講義のすすめ方〕
作者や作品の解説と、作品の講読により、講義形式で行う。授業内では一部の抜粋でしか作品を読めない場合も多いので、授業前後に自分でじっさいに作品を手に取り、読むようにしてほしい。

〔教　　材〕
教科書は使用せず、授業の時にプリントを配布する。

参考図書
・神宮輝夫監修『ほんとうはこんな本が読みたかった！』原書房
・神宮輝夫・野上暁監修『暗くなるまで夢中で読んで』原書房
・本多英明・桂宥子・小峰和子編著『たのしく読める英米児童文学』ミネルヴァ書房

その他の参考文献については、授業の時に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験　80％
出席状況など平常点　20％

単位取得のためには、授業回数の３分の２以上の出席が必要である。

〔履修のポイント・注意点〕
遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用等は厳禁である。授業妨害にあたる行為には厳しく対処する。

K70801

科　目　名	おもちゃ論
	――― 科学的、歴史的視点からの接近 ―――
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
＊注：幼児保育のためのおもちゃ研究だと捉えないでほしい。

遊びは地球上の地域・人々の年齢・時代を問わない大切な人間の精神・身体の活動である。
次の各分野に視野を広げて、意欲的に人間の遊びとその媒体を果たしてきた「おもちゃ」について学ぶことを目指している。
①歴史性：人類の知の歴史を遊びやおもちゃの中に発見する
②文化性：自ら地球市民の感覚で遊びを考察
③伝承性：遊びは重要な伝承文化の一分野
④自然性：自然が育む豊かな遊びの再発見

〔講義内容〕
（1）遊びは精神の開放をもたらすものであるから、将来幼児・児童・生徒の教育現場で活躍を期する学生にとっては価値や効用の高い活動であることを認識する。
（2）現在のせつな的・狭義的なおもちゃへの認識を一掃して、おもちゃ文化論の視点から、改めて納得のいく「定義づけ」に挑戦する。
（3）本来「遊び」は広く充実した内容を持つ人間の営みであり、「遊び」は創意工夫の実験の場であり、知恵の貯蔵庫でもあることを実証する。
（4）多くの遊びを検証・体験し、「遊び」を媒体にした地球上の人びとの交わりの世界には境界線がないことを実感する（グローバルな視点から）。

〔講義のすすめ方〕
講義は、講義内容に示される４つのポイントを検証しながら、次のように進める：
①受講生の持つ「遊びやおもちゃに対する意識」はかなりバラバラだと想定されるので、それを把握する作業からはじめる。
②とにかくたっぷりとおもちゃ（主に中谷コレクションから）に接して、おもちゃの４分野（歴史性、文化性、伝承生、自然性）を確認し、そこからあらためて「おもちゃや遊びの定義づけ」を皆で行う。
③恐らく受講生の既知の範囲を超える遊びやおもちゃの世界との出会いがあると思われる。それらを遊び・体験することによって、より広い遊びの魅力を味わって欲しい。
④遊びやおもちゃに国境のない世界が存在することを改めて知ってほしい。
⑤まとめとして、遊びの概念を体験、聞き取り、資料分析などから研究する。

〔教　　材〕
①おもちゃそのもの。（希少価値のものには取り扱い注意を）

②諸外国、アンティークのジャンルからの資料、参考書。

〔成績評価の方法・基準〕
①「体験を原則にした遊び」に真剣に取り組まない学生には、学期途中でも「不可」評価することがある。
②大学規程に沿い、出席状況の著しく悪い学生には、学期途中でも「不可」評価をする。
③おもちゃ研究に消極的な学生には、学期途中での退席（放棄）を求める。

〔履修のポイント・注意点〕
《注意》受講生の人数制限をします！！

①授業の趣旨に沿った「活動のし易い教室」の関係から、受講生の人数制限を行なう。
②人数制限の方法は、新学期授業公開の第１週に、受講希望者にアンケート配布について掲示し、実施し、学生の授業登録期間前に結果を提示する。
③詳細は、アンケート用紙に記載するので、読んでください。

〔科目内容の位置付け〕
①人間の有史以前からと想像されるおもちゃ文化に興味をいだいてもらうこと。
②学生の自主的研究態度を期待し、おもちゃと向き合うことを堪能してもらうこと。
③おもちゃを作成することの出来る次元の高い営みの出来る人物を期待していること。
④保育教材など、幼児のための遊び材集めが目的だという学生には、遠慮願いたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

K71501

科　目　名	救急法
	授業形態：講義
教　員　名	鈴川　正之

〔講義目的〕
1．心肺蘇生法と簡単な救急処置を理解し実施できる。
2．救急医療の成り立ち（傷病者の発生から病院での治療まで）を理解し、かかわりのある職種の役割を述べることができる。
3．現在の救急医療のさまざまな問題点を理解できる。
4．大学のある小山地区の救急医療の向上を通して、安全で暮らしやすい社会を作ることに貢献できる。

〔講義内容〕
第１回　イントロダクション　救急とは、救急医療とは
　全体の講義内容を概括します。市民参加型の救急医療と、現在日本全国で起こっている救急搬送拒否の問題を取り上げて、イントロダクションにしたいと思います。
第２回　心肺蘇生法の基礎
　心肺蘇生法をもう一度復習します。今まで習ってきた心肺蘇生法を思い出してもらい、最新の心肺蘇生法との違いを指摘することができるのが目標です。
第３回　心肺蘇生法の理論
　心肺蘇生法を理論的に解析します。なぜ胸を押すのか、なぜ100回 / 分なのかなど、またなぜ蘇生法が更新されたのかなど、について理論武装します。
第４回　電気ショックとは
　心肺蘇生法の目玉の一つである電気ショックは、一般市民の人が行うことのできる医療行為です。どうして医師でないのにやってもいいのか、その理論と実際はなどについて学習します。
第５回　小児に特有な救急疾患とその処置１（内因性）
　小児に関わる職種を目指す方も多いと思いますので、小児の心肺蘇生法、小児が多くかかる救急疾患について、簡単な処置法や病院のかかり方についてまとめる予定です。
第６回　小児に特有な救急疾患とその処置２（外因性）
　小児の死亡率の1位を占める不慮の事故への対策、簡単な処置法、救急車の呼び方など、外因性疾患についてまとめる予定です。
第７回　救急医療体制、メディカルコントロール体制、消防機関、救急車、救急救命士の役割
　救急医療というものが、医師や救急車だけで成り立っているのではないことを理解し、現場から病院までの医療体制やそれに関わる職種の役割について勉強します。
第８回　救急における看護の役割（自治医大看護学部）
　救急医療において、看護師はどのような役割を果たしているのか、看護とは何かについて、現職の看護師から、直接お話を伺ってディスカッションをしたいと思います。
第９回　救急救命士とは、予防救急とは（鹿沼消防署）
　現職の救急救命士の方とディスカッションをしながら、さまざまな医療関連職種のつながりとそれぞれの役割について理解を深めます。また、予防救急の概念についても勉強します。
第10回　有害動植物に関係する救急処置（救急救命東京研修所）
　救急医療の中の特殊分野である、有害動植物や、中毒などについて、専門家から話を聞く機会を作りたいと思います。
第11回　救急処置１
　成人の救急処置（内因性）を勉強するとともに、蘇生法を復習します。
第12回　救急処置２
　成人の救急処置（外因性）を勉強します。副子固定や三角巾の使い方についても勉強する予定です。
第13回　普通救命講習１（小山消防署）
第14回　普通救命講習２（小山消防署）
　２回連続で、大学の地域の消防署である小山消防本部の協力で、普通救命講習を受講します。救命講習の試験に合格して受講証を入手することが、この科目の合格のための必須条件です。
第15回　評価（テスト）
　最終テストを行って評価します。

なお、講師の都合で、講義内容が前後することがあります。

〔講義のすすめ方〕
　講義目的と講義内容に沿って、実習を多く組み込みながら、救急医療とはどのようなものかが理解できるようにするつもりです。そのなかで、救急医療のさまざまな問題点を提示し、救急医療とは「病気になったら病院に行って直してもらう」という単純なものではなく、予防からアフタケアまで、現場から病院まで、さらにそれらがスムーズに連携するためのシステム作り、などいろいろ

な視点から解決を図る必要がある、ということを理解できるように、ディスカッションをしながら、講義を進めたいと思っています。
また、外部講師を多く依頼して、実際に現場で活躍している人たちの話をお聞きして、議論が深められるようにするつもりです。

〔教　　材〕
特に指定しませんが、最近の新聞には目を通して、救急医療の問題が指摘されていることを理解するように努めてください。

〔成績評価の方法・基準〕
テスト（学期末）2/3
出席　1/3
かつ、普通救命講習に合格すること。

〔履修のポイント・注意点〕
実習の場合は積極的に参加すること。
講義の場合はディスカッションに積極的に参加すること。
将来、自分が教育する立場に立った時に、恥ずかしくなく教えられるように、授業には自分で責任を持って出席すること。

〔科目内容の位置付け〕
最低限必要な予備知識
新聞などのマスコミの情報に常に接していることと、それを正しく理解し必要に応じて自分の意見を言うことができる態度を身につけていること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
救急処置を理解していることは、将来出合うであろう緊急の場面で落ち着いて行動できるようになることが期待できる。また、救急医療の問題点を理解していることは、救急医療を賢く利用する国民となることが期待でき、教職などを目指す人たちに有用であると考えられる。

K71801

科　目　名	レクリエーション実技
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
多様なレクリエーション活動の展開のために必要な実践技能を身につけることをねらいとする。
対象者の中にある「楽しさ」や「喜び」を最大限に引き出す活動を展開するということを常に意識しつつ、その為の計画の作成から実践、評価までを実習・演習形式で体験する。まずは与えられた時間的条件の中で、「レクリエーション支援者」として立ち振る舞えることを目標に各種活動に挑戦する。より高度な到達目標としては対象者の特性に応じて、工夫されたオリジナリティあふれる支援計画を作成できるようになることを目指す。
実技科目ではあるが、授業は必要に応じて教室での支援案作成なども織りまぜながらグループ活動を中心に進めていく。

〔講義内容〕
①アイスブレーキング(1)緊張を解きほぐすアクティビティ
②アイスブレーキング(2)出会いのアクティビティ
③イニシアティブ・ゲーム(1)協力と課題解決のアクティビティ
④活動的なアクティビティから軽運動・屋外運動へ
⑤ニュー・スポーツ(リングテニス他)
⑥チャレンジ・ザ・ゲーム(1)
⑦チャレンジ・ザ・ゲーム(2)
⑧イニシアティブ・ゲーム(2)発展編
⑨レクリエーションプログラムの企画と運営
⑩グループ発表(1)
⑪グループ発表(2)
⑫グループ発表(3)
⑬グループ発表(4)
⑭グループ発表の振り返り
⑮まとめとレポート課題発表
※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕
実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。特に後半からまとめにかけては、実際のレクリエーション活動のシミュレーションとして、自分たちで場の設定、プログラムの考案、進行ができるような形を目指す。適宜実技の感想やレポート課題を課す。

〔教　　材〕
グループワークやアクティビティ集などの書籍を適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末のレポート課題、学期中の感想やレポート提出数回。
成績評価は期末のレポート得点（50％）＋出席点（20％）＋日常的な授業への参加姿勢（30％）を勘案して総合的に判定する。日常的な授業への参加姿勢は、学期中に適宜課す感想やレポートの提出も含む。
期末レポートは、レクリエーション実技に関する論述２題程度と支援プログラム作成等の内容で考えている。

〔履修のポイント・注意点〕
レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目であるが、資格を取らない場合でもレクリエーションに関心のある学生の履修を歓迎する。
「レクリエーション」はそこに参加する一人ひとりの楽しもうという姿勢が極めて重要である。このことを理解した上で存分に楽しもうという意識を持って授業に臨んでいただきたい。
履修年次は２年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕
レクリエーション実技の初級編であるが、唯一の科目であり、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
レクリエーション理論

K71803

科　目　名	レクリエーション実技
	授業形態：演習
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
多様なレクリエーション活動の展開のために必要な実践技能を身につけることをねらいとする。
対象者の中にある「楽しさ」や「喜び」を最大限に引き出す活動を展開するということを常に意識しつつ、その為の計画の作成から実践、評価までを実習・演習形式で体験する。まずは与えられた時間的条件の中で、「レクリエーション支援者」として立ち振る舞えることを目標に各種活動に挑戦する。より高度な到達目標としては対象者の特性に応じて、工夫されたオリジナリティあふれる支援計画を作成できるようになることを目指す。
実技科目ではあるが、授業は必要に応じて教室での支援案作成なども織りまぜながらグループ活動を中心に進めていく。

〔講義内容〕
①アイスブレーキング(1)緊張を解きほぐすアクティビティ
②アイスブレーキング(2)出会いのアクティビティ
③イニシアティブ・ゲーム(1)協力と課題解決のアクティビティ
④活動的なアクティビティから軽運動・屋外運動へ
⑤ニュー・スポーツ(リングテニス他)
⑥チャレンジ・ザ・ゲーム(1)
⑦チャレンジ・ザ・ゲーム(2)
⑧イニシアティブ・ゲーム(2)発展編
⑨レクリエーションプログラムの企画と運営
⑩グループ発表(1)
⑪グループ発表(2)
⑫グループ発表(3)
⑬グループ発表(4)
⑭グループ発表の振り返り
⑮まとめとレポート課題発表
※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕
実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。特に後半からまとめにかけては、実際のレクリエーション活動のシミュレーションとして、自分たちで場の設定、プログラムの考案、進行ができるような形を目指す。適宜実技の感想やレポート課題を課す。

〔教　　材〕
グループワークやアクティビティ集などの書籍を適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末のレポート課題、学期中の感想やレポート提出数回。
成績評価は期末のレポート得点（50％）＋出席点（20％）＋日常的な授業への参加姿勢（30％）を勘案して総合的に判定する。日常的な授業への参加姿勢は、学期中に適宜課す感想やレポートの提出も含む。
期末レポートは、レクリエーション実技に関する論述２題程度と支援プログラム作成等の内容で考えている。

〔履修のポイント・注意点〕
レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目であるが、資格を取らない場合でもレクリエーションに関心のある学生の履修を歓迎する。
「レクリエーション」はそこに参加する一人ひとりの楽しもうという姿勢が極めて重要である。このことを理解した上で存分に楽しもうという意識を持って授業に臨んでいただきたい。
履修年次は２年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕
レクリエーション実技の初級編であるが、唯一の科目であり、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
レクリエーション理論

K71805

科　目　名	レクリエーション実技
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
多様なレクリエーション活動の展開のために必要な実践技能を身につけることをねらいとする。
対象者の中にある「楽しさ」や「喜び」を最大限に引き出す活動を展開するということを常に意識しつつ、その為の計画の作成から実践、評価までを実習・演習形式で体験する。まずは与えられた時間的条件の中で、「レクリエーション支援者」として立ち振る舞えることを目標に各種活動に挑戦する。より高度な到達目標としては対象者の特性に応じて、工夫されたオリジナリティあふれる支援計画を作成できるようになることを目指す。
実技科目ではあるが、授業は必要に応じて教室での支援案作成なども織りまぜながらグループ活動を中心に進めていく。

〔講義内容〕
①アイスブレーキング(1)緊張を解きほぐすアクティビティ
②アイスブレーキング(2)出会いのアクティビティ
③イニシアティブ・ゲーム(1)協力と課題解決のアクティビティ
④活動的なアクティビティから軽運動・屋外運動へ
⑤ニュー・スポーツ(リングテニス他)
⑥チャレンジ・ザ・ゲーム(1)
⑦チャレンジ・ザ・ゲーム(2)
⑧イニシアティブ・ゲーム(2)発展編
⑨レクリエーションプログラムの企画と運営
⑩グループ発表(1)
⑪グループ発表(2)
⑫グループ発表(3)
⑬グループ発表(4)
⑭グループ発表の振り返り
⑮まとめとレポート課題発表
※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕
実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。特に後半からまとめにかけては、実際のレクリエーション活動のシミュレーションとして、自分たちで場の設定、プログラムの考案、進行ができるような形を目指す。適宜実技の感想やレポート課題を課す。

〔教　　材〕
グループワークやアクティビティ集などの書籍を適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
期末のレポート課題、学期中の感想やレポート提出数回。
成績評価は期末のレポート得点（50％）＋出席点（20％）＋日常的な授業への参加姿勢（30％）を勘案して総合的に判定する。日常的な授業への参加姿勢は、学期中に適宜課す感想やレポートの提出も含む。
期末レポートは、レクリエーション実技に関する論述２題程度と支援プログラム作成等の内容で考えている。

〔履修のポイント・注意点〕
レクリエーション・インストラクター資格取得のための必修科目であるが、資格を取らない場合でもレクリエーションに関心のある学生の履修を歓迎する。
「レクリエーション」はそこに参加する一人ひとりの楽しもうという姿勢が極めて重要である。このことを理解した上で存分に楽しもうという意識を持って授業に臨んでいただきたい。
履修年次は２年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕
レクリエーション実技の初級編であるが、唯一の科目であり、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
レクリエーション理論

K71901

科　目　名	レクリエーション実習
	授業形態：実習
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
レクリエーション実習はレクリエーション・インストラクター資格取得のために開設されている科目であり、レクリエーション理論及び実技の学習を踏まえて、実際にレクリエーション活動が現場でどの様に展開されているのかを体験学習することをねらいとしている。在学中３回の事業参加とあわせて、資格取得のために必要な実習単位を満たすためのものであり、以下の全てに該当する学生のみに開講する。
①レクリエーション・インストラクター資格取得の申請を行っている者
②レクリエーション理論及びレクリエーション実技の単位を取得している者（合計３単位）
③教育実習（幼稚園・小学校・中学校・高等学校のいずれかひとつ）、保育実習、介護実習、及びスポーツ・インターンシップ等の実習を行う予定のない者
　特に③に関して、在学中に何らかの実習の予定がある場合は、その実習をもってレクリエーション実習の単位と置き換えることができるため、改めてこの実習を履修する必要はない。

〔講義内容〕
レクリエーション実習は原則として各個人単位で行うこととする。履修人数にあわせて、実習先を確保し、調整作業を行っていく。また、大学が準備する機会の他に個人的に実習受け入れ先を確保できる場合（例えば母校の高校のキャンプ実習に同行できるなど）は、そこでの実習も認める。
　レクリエーション実習として認定される主な条件は以下の通りである。
①大学組織とは別の外部組織で行う実習であり、実習担当者が存在すること。
②参加者や施設の利用者などとのコミュニケーションをとる場面が設定されていること。
③１日８時間程度を原則として３日間以上の期間であること。
　具体的な実習先としては、幼稚園や学校等教育機関の実施するキャンプ等の校外学習へ補助員として参加する、社会福祉協議会や福祉施設でのボランティア活動、公共スポーツ施設等における職場体験、ＹＭＣＡ等の民間団体の主催するキャンプやスキー教室等の短期プログラムへのリーダー参加、等が考えられる。

〔講義のすすめ方〕
オリエンテーションを実施するので掲示連絡等に注意しておくこと。実習先の開拓から実習決定、実習の実施、事後のふり返り等の手順を説明する。

〔教　　材〕
その都度手順を示す資料を配付し、それを中心に進めていく。

〔成績評価の方法・基準〕
実習に対する自己評価を含めた事前・事後のレポート（50％）及び実習先担当者からの評価票（50％）にて評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
上記の履修条件等をよく確認すること。不明な点がある場合は個別の相談に応じるので担当教員まで質問すること。

〔科目内容の位置付け〕
上記の通り

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
レクリエーション理論　レクリエーション実技

K72510

科　目　名	課題研究Ａ（向井）
教　員　名	向井　千代子

〔講義目的〕
　文学作品研究の実際について学ぶ。文学を対象とするにはまず実際の作品の精読が必須であるが、この授業では精読は各人でやっていただいた上で、英米の文学作品についての研究論文を読むことを通じて、さまざまな批評的なアプローチの仕方を学ぶ。また同時に教員採用試験の読解問題に対応できるような英語力の養成を目指す。

〔講義内容〕
１．レポートの書き方の指導。
２．いくつかの文学理論についての紹介。
３．同じ作品について論じた批評文を読み比べる。
４．各人の関心に従って特定の作品を決めて、調べ、自分の意見を入れて、口頭発表を行なう。
５．最終的には400字詰め原稿用紙に10枚程度の批評文をまとめる。

〔講義のすすめ方〕
　最初は教員中心の授業であるが、途中から受講生たちの発表を中心とした授業を行なう。大体の流れは下記のようになる。
１.4月中　教員が中心となって、レポートの書き方、さまざまな批評の方法を紹介。
２.5月～6月　批評理論書を受講生たちがそれぞれ分担して発表する。
３.7月　最終的なレポートの作成および採用試験読解問題への取り組み。

〔教　　材〕
　教材は使わないが次のような参考書を利用する予定である。
「文学の学び方」（南雲堂）、「現代批評理論のすべて」（新書館）、テリー・イーグルトン「文学とは何か」（岩波書店）、ジョナサン・カラー「批評理論」（講談社）、丹治愛編
「文学理論」（岩波書店）

〔成績評価の方法・基準〕
　授業中の発表とレポート及び出席率を考慮して総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　自分たちが中心となる授業なので、積極的に授業に関わり、批評理論の知識を得るばかりでなく、実際に文学を読むことを通じて英語力を向上させてほしい。

〔科目内容の位置付け〕
　4年次の「卒業研究」につながる科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「英米文学Ａ」「英米文学Ｂ」

K72511

科　目　名	課題研究Ａ（滝沢）
	英語教育研究
教　員　名	滝沢　謙三

〔講義目的〕
課題研究は、卒業研究の準備をする役割を持っている。この課題研究のテーマは「英語教育研究」である。英語教育に関連する本をお互いに Book Review し合い、視野を広げ、そして、英語教育研究教員採用試験二次対策を行うことで英語教育の実態を研究し、英語教育を行う上での必要なスキルや知識を養いたい。参加する学生は、科目名「課題研究」が意味するように、このゼミに参加する中で、各自が関心ある「課題」を見つけ、各自「研究」を深めていって、卒業研究の準備を進めて欲しい。

〔講義内容〕
第１回　シラバス説明
第２回　Book Review の仕方について
　それぞれが興味のある英語教育に関連する本（文献、論文、記事なども可）を読み、書評（紹介）を書き、発表し、質問を受け、ディベートをする。それぞれが Book Review をすることで、全員が視野と知識を広げることができ、卒業研究への基礎を培うことが可能となる。
第３～１４回　Book Review、余った時間でロールプレイングまたは集団面接練習
　（１）ロールプレイング
　学級経営における臨床的場面での教師の対応（例えば万引きや喫煙などの問題行動、モンスターペアレンツ、いじめ、不登校、進路３者懇談、清掃指導、生徒の席変え要求、注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤなど）への対応）
　＜ロールプレイングのやり方＞１人ずつ順番に教師役として前に出て演じる。ほかの学生は１人ずつ順番に児童・生徒役をする。保護者などの第三者が関与する場合は３人目の学生が演じる。１回終わるごとに対応について話し合う。
　（２）集団面接練習
　＜集団討論のやり方＞　①グループに課題（過去の出題テーマ）が与えられる。②司会を募る。（面接試験の一環）③司会役を中心に課題について討議する。

〔講義のすすめ方〕
・それぞれが一冊の本について book review を行う。一回２０分（発表１５分、質疑応答５分）
・Book Review の後、教員採用試験対策としてロールプレイングと集団面接の練習を行う。

〔教　　材〕
①各自が作成する Book Review　②配布されるプリント類

〔成績評価の方法・基準〕
Book Review　2回 20点×２回　40%
教員採用試験対策（ロールプレー・集団討論）実技　40%
出席率 / 授業貢献度
20%

〔履修のポイント・注意点〕
課題研究では、自分の研究テーマを定めて、卒業研究につなげることが出来るように配慮する。例えば、課題研究で英語教育に関連した book review を行い、それを元にして、卒業研究で、さらに関連した本を読み（調査・研究を深めて）研究ノート（又は卒業論文）を書くことが出来るようにしたい。その場合、それぞれが Book Review を行う際に、研究ノート（又は卒業論文）を意識したテーマに沿った本を扱うことがいい。

〔科目内容の位置付け〕
この科目の位置づけは、卒業研究の導入である。「将来、何らかの形で、英語を教えたい」と思っている学生が集まり、それぞれが「英語教育」に関連したテーマ（必ずしも学校英語教育でなく企業内英語教育や個人が経営する英語教室という観点でもいい）を研究し、議論し、卒業研究の準備をする。卒業研究は、多少なりとも英語教育に関連したことをテーマにしてもらいたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
卒業研究（研究ノート・卒業論文）に内容・目的ともに直接関連している。

K72610

科　目　名	課題研究Ｂ（小林）
教　員　名	小林　正人

〔講義目的〕
　人類は有史以前から言語に強い関心を持ってきたが、科学としての言語学の歴史はそれほど長くない。
　この科目では、言語学という学問領域を形作ってきた本の一部や論文を毎回一つずつ取り上げ、我々の心において言語がどんな位置を占めているか、言語が異なると我々の思考も変わるのか、といった問題を考える。

〔講義内容〕
　この課題研究では、たとえば下のような言語学者の著書・論文の一部の日本語訳を読んで討論する。
　履修者はどれか一つを選んでハンドアウトを作って発表を行い、結果をレポートとして出すことが求められる。
　あるいはもし調べてみたい文法現象などがある場合は、適当な文献を設定してそれについて発表してもよい。

Ｆ・ソシュール　　「一般言語学講義」
Ｌ・ブルームフィールド　　「言語」
イェスペルセン　　「英語の発達と構造」
マルティネ　　「言語機能論」
サピア　　「言語」
チョムスキー　　「ミニマリスト・プログラム」
ヤーコブソン　　「構造的音韻論」
ディクソン　　「言語の興亡」
ラネカー　　「言語と構造」
ハリデー　　「機能文法概説」
ジャケンドフ　　「言語の基盤」
バーナード・コムリー　　「言語の類型」
スティーブン・ピンカー　　「言語を生みだす本能」

〔講義のすすめ方〕
テキストを講読し、意見交換をする。

〔教　　材〕
プリントにて配布。

〔成績評価の方法・基準〕
毎回の授業への参加30%、発表とレポート70%。

〔履修のポイント・注意点〕
・発表者以外もプリントを読んで授業に臨み、意見を言えるようにすること。
・「英語学概論」の延長線上の内容になるので、成績にかかわらず履修が済んでいることが望ましい。

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究に必要な基礎知識をつけ、研究テーマを見つける科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「英語学概論」が前提科目である。

K72611

科　目　名	課題研究Ｂ（宮里）
	社会言語学と教員採用試験一次対策
教　員　名	宮里　恭子

〔講義目的〕
1. 社会と言語に関連する分野から外国語教育に関する以下のトピックについて考察し、文献学習を通して卒業研究の基礎を培う。
2. 教員試験1次試験の傾向と分析を通して、英語力全般の向上を図る。

〔講義内容〕
1.　諸外国の言語政策 / 日本の言語政策
2.　世界英語
3.　NS-NNS 問題
4.　バイリンガル教育・イマージョン教育
5.　多言語多文化教育
6.　異文化間コミュニケーション
7.　論文の書き方

〔講義のすすめ方〕
　1トピック2週かけて学んでいくが、第１週は教師による講義が中心で、それぞれのトピックに関する知識を広げていく。
また、教員採用試験の英語一次試験の過去問題を概観し、その傾向や対策についても論じる。
　第2週は担当の学生による文献の紹介を発表形式で行い、それについての質疑応答を含めたディスカッションを実施する。
授業の初めに論文の書き方に関する指導を行う。

〔成績評価の方法・基準〕
出席　　２０％
授業貢献　　２０％
発表　　４０％
論文計画書　　２０％

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究の準備的位置づけとなる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
卒業研究をとる場合は、必ずこのコースを履修していること。

K73001

科　目　名	卒業研究（竹島）
教　員　名	竹島　克己

〔講義目的〕
スポーツ健康専攻に所属する学生にとって、スポーツと健康に関する研究を４年次に行うことは、大学生活の集大成としてたいへん意義がある。スポーツと健康に関わり、関心を持ったことについて、１年間研究し論文を作成し発表する。スポーツや健康に関しての研究は、測定・調査・分析・文献研究などを組み合わせ、独自性のあるものが多い。自分なりの研究を深め、スポーツの精神や健康を涵養する姿勢を、体育人として身につけてほしい。

〔講義内容〕
陸上競技を通した研究を行う。陸上競技の「走」「跳」「投」はスポーツの基本である。陸上競技にはスポーツに関するありとあらゆるものが含まれる。関連する事項に興味があれば、陸上競技に限定しない。研究の例としては、次のようなものが挙げられる。
１．「走」「跳」「投」の動作分析の研究
２．筋力・持久力と競技能力の関係の研究
３．生理的能力と競技能力の関係の研究
４．能力差分析の研究
５．トレーニングスケジュールの研究
６．コーチングの研究
７．体型・体格と競技能力の研究
８．運動・栄養・休養と競技能力の関係の研究
９．強化合宿の効果の研究
10．競技大会（オリンピックなど）の分析などの研究
　これらは、ほんの一例である。できれば授業の当初から何らかの測定を継続したい。その測定の結果を結びつけ関連を分析し、より実証性のある内容にしていきたい。

〔講義のすすめ方〕
まず、研究の方向性を明らかにする。課題を決定していない段階でも、なんらかの測定を継続していく。その場合、協力者を依頼する。たとえば、鉄棒運動をある一定期間おこなわせ、「懸垂逆上がり」と走力、「リバウンドジャンプ」と走力についてなど、関連を明らかにし研究の手助けとする。
　興味ある研究課題について、文献研究を行う。実際に利用できそうな知識やアイデアについては発表し、他と意見交換をしあう。

〔教　　材〕
図書館などの文献。各種測定器具など。

〔成績評価の方法・基準〕
１．論文の評価
２．発表の成果
３．参加度（出席状況・積極性）

〔履修のポイント・注意点〕
日頃から問題意識や好奇心を持ってスポーツや健康に注目していてほしい。自分自身の関心が、研究の対象となる。問題意識が様々な工夫となり、スポーツ技術の向上につながり、健康に対する意識づけとなる。

K73002

科　目　名	卒業研究（中谷）
	授業形態：演習
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
　学生時代の後半になると、学習したことの中から、更にこだわって知見を広めたいと動機付けられることがいくつか
出てくるが、そのまま卒業論文に結びつくわけではない。前年の課題ゼミナールこそ、はじめて自分で試行錯誤しながら、
自分をひきつける事象に接近していくチャンスである。
　卒業研究は、ぼんやりとまとまってきた自らの関心事を、担当教員の手引きを得て、研究の形にして行く過程である。その
着眼点は、学生による物だからと言っても、専門家が注目し社会が期待を寄せるものである可能性はある。
　もし卒業後の進路にあって役立つことが想像できれば、研究にまい進し論文として形を成すような指導を受け、完成させることが期待される。
　卒業研究および論文作成は将来の自信にもなり、また着眼点が優れていれば、将来も継続して研究され、キャリアの基礎となる可能性も高い。

〔講義内容〕
　学生は、卒業論文を書き進めるにあたって、次の項を指導の中で学ぶこととする：

・すでに履修し終わった課題研究Ａ、Ｂと連動した方向づけをする。
・関心を寄せている課題をあらためて研究の方向へすえ、研究の目的や方法をあきらかにする。
・より深い研究を進めるために、定期的に段階ごとの研究報告をする。
・研究の意義、オリジナリティーについて、十分に自発的に進められることを求める。
・研究の方法として学生が十分に活用できるものを学び、それを実践する。
・結果、結論を導き出すための十分な分析能力を勉強する。
・作文することをおろそかにしない論文作成の態度を貫く。
・最後に、研究から得られた結果が実際にいかなる意味で役に立つかを考察する。

〔講義のすすめ方〕
１.十分に討論、文献調査、実践的吟味を重ねて方向付けていく研究方法を展開する。
２．実践研究から学び取る地道な研究方法を身につける。
３．考える・探る・試す・取り出す・読み取る・まとめるなどの実践力を身につける。
４．自分の考えを言葉でしっかりと表現できてはじめて論文が書けることを悟らせる。

〔教　　材〕
必要に応じて紹介し、参考とする。

〔成績評価の方法・基準〕
①出席状況
②質の高い論文を構築する。
③論文執筆に当たっての高い文章作成力を求める。

〔履修のポイント・注意点〕
卒論は必修科目ではないので、途中まで進んでいても、努力不足や力不足の学生には断念するように指導者の立場から助言することもあると覚悟して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
学生の自発的な意志に支えられるもので、完成させた暁には、学生として獲得したものの中で
特に意味深いものとなり、自信にもつながると言えよう。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

K73003

科　目　名	卒業研究（荒井洌）
	授業形態：演習
教　員　名	荒井　洌

〔講義目的〕
本卒業研究は、入学後3年間に学んだ、幼児保育を中心とするさまざまなアプローチによる学問的思索の中で、特に魅力を感じた分野を選び、その分野に通ずる指導教員を選び、自らの研究テーマを設定して勉強するという、極めてアクティブな姿勢が求められます。
私を指導教員として選ぶ人は、第1学年から第3学年に至る講義に使用した私の著書をいま一度深く読み、納得する考え方や、心が引かれる思索のありようを確認してください。
そして、1年間にわたっての思索の交換によって、味わいのある論文を作り上げていくことにしましょう。

〔講義内容〕
1世紀半ほど前のアメリカのフロンティアを舞台にして執筆された、ローラ・インガルス・ワイルダーの『大きな森の小さな家』と、1世紀ほど前にベルギーのモーリス・メーテルリンクによって創作された『青い鳥』をテキストにして、それらの作品が、その後の長い間読みつがれてきた意味を追求してみます。

〔講義のすすめ方〕
1. 興味がそそられるキーワードをマークしながら、作品を通読します。
2. タイトルが意味しているものを想像してみます。
3. 世界史的な視野で、時代的背景を把握するようにします。
4. 地理的条件、自然環境、社会的雰囲気などを理解するように努めます。
5. 作品を描くために力をそそいだ、執筆者の心情を模索してみます。
6. 作品に登場する幼な子の心や行為に込めた、作者の人生観に思いを巡らしてみます。
7. 名作として生き続けたのはなぜなのか、を考えてみます。

〔教　　材〕
『大きな森の小さな家』
ローラ・インガルス・ワイルダー作
恩地三保子訳（福音館）
『青い鳥』
モーリス・メーテルリンク作　末松氷海子訳（岩波書店）

〔成績評価の方法・基準〕
研究への姿勢と、完成した論文の内容によります。

〔履修のポイント・注意点〕
大学での勉強のフィナーレとして、思いを残すことのないように、たっぷりと、充実した研究をして下さい。

K73004

科　目　名	卒業研究（荒井弘）
	授業形態：演習
教　員　名	荒井　弘高

〔講義目的〕
「音楽の魅力とは」をテーマに、人と音楽との関わり合いを探りながら各自児童音楽教育に関する題目を決定し、演奏および論文作成を行う。研究を行うことにより、自分自身の音楽的素養を高めることを目的とする。

〔講義内容〕
別紙参照、卒業研究スケジュールに沿って進める。
当授業の目標は以下の通りである。
４月下旬：題目決定
５月初旬：資料の整理及び実技指導開始
９月初旬：論文作成開始
12月初旬：完成

〔講義のすすめ方〕
学生が主体となり、自ら計画を立てた課題に基づき、実技・論文指導を行う。

〔教　　材〕
必要に応じて指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
別紙（卒業研究の内容）を参照

〔履修のポイント・注意点〕
研究内容に対しての準備を積極的に行うこと。

〔科目内容の位置付け〕
音楽関連科目の卒業研究である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究Ａ・Ｂ

K73005

科　目　名	卒業研究（伊崎）
	授業形態：演習
教　員　名	伊崎　純子

〔講義目的〕
学生自身が関心のある社会現象についてなんらかの仮説をたて、心理学的な研究手法を用いて調査研究し、結果をまとめ発表できる能力を養うことを目的とする。

〔講義内容〕
第１期：文献の乱読：テーマの決定
第２期：調査デザインの模索
第３期：実験・調査の実施
第４期：論文作成
第５期：プレゼンテーションの検討

〔講義のすすめ方〕
課題研究（ゼミナール）で学んだ、資料や情報収集・分析・結果に対する考察の仕方を駆使して、自分なりの社会の見方を発表できるように各自が自分のペースで研究をすすめていく。
教員は、必要に応じて、適宜資料を配布したり、方向性を確認したり、学生の研究を援助していく。

〔教　　材〕
適宜指示する

〔成績評価の方法・基準〕
授業への参加態度を重視する。

〔履修のポイント・注意点〕
自分の卒論である。学生自身が目的をもって積極的に学んでいくことを期待する。

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格申請では、「領域Ⅰ・その他の科目」（心理学関連科目）に区分される科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
同じ教員の「課題研究」を履修しておくとよい（場合によっては同時履修も相談の上認めることがある）。

K73006

科　目　名	卒業研究（岩城）
	授業形態：演習
教　員　名	岩城　淳子

〔講義目的〕
本科目の目的は、保育・教育・健康に関する領域から子どもに関する課題を発見し、それを深め問題を解決していくプロセスを学ぶことである。

〔講義内容〕
卒業研究では、３年次に履修した課題研究の成果を振り返り、さらに完成度の高い研究として各自がまとめていくことを目標にする。

〔講義のすすめ方〕
各自によるテーマ設定、中間報告、最終報告を基本とする。

〔教　　材〕
授業の中で指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
研究デザイン、報告、研究結果などで総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
自主的な取り組みを期待している。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究Ａ、課題研究Ｂ

K73007

科　目　名	卒業研究（奥澤）
	授業形態：演習
教　員　名	奥澤　信行

〔講義目的〕
第３学年で履修済みの「課題研究Ａ・Ｂ」での成果を踏まえ、卒論作成にあたって留意する事項を指導する。

〔講義内容〕
卒論のテーマ設定から完成まで順を追って説明する。
①テーマ設定
②テーマに即した調査方法
③ fieldwork の手法
④現地調査に関する事前・事後指導
⑤資料の分析方法
⑥論文構成と執筆要領
⑦中間発表の準備
⑧推敲と清書

〔講義のすすめ方〕
少人数のゼミナール形式であるため、講義と各自の進捗状況に応じた研究発表を組み合わせて進める。

〔教　　材〕
各自の研究テーマに合わせた文献や資料を指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
卒論の完成度を第一に重視するのは言うまでもない。そしてこれに加えて、出席状況と研究の進捗状況に応じた発表内容、さらに授業中の発言などを総合して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
受講生各自が研究テーマを設定することになるが、いずれの場合も特定の地域を事例として取り上げなければならない。そして文献調査に加えて、実際に現地に赴いて景観観察・聞き取り調査・アンケート調査等の fieldwork を行うことを必須とする。また大学生活の集大成である卒論の作成には、多くの困難が伴うであろうが、これを乗り越える強靭な精神力と迅速な行動力が要求される。そして卒論完成という共通目標に向かってお互いに切磋琢磨できる受講生同士の人間関係の構築にも気配りできる心を持ってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
「課題研究Ａ・Ｂ」を継続履修し、関心のあるテーマに対する地理学的視点からの分析能力を身に付けていなければならない。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「課題研究Ａ・Ｂ（担当：奥澤信行）」を履修済みであることが前提となる。

K73008

科　目　名	卒業研究（粕谷）
	授業形態：演習
教　員　名	粕谷　圭司

〔講義目的〕
私たちの身の回りには、絵画や彫刻など、所謂美術と呼ばれている造形が多数存在する。造形は人間だけが発展させてきた活動であり、それは、宗教的思いや、人間のからだの美しさを表現しようとしたり、悲しみや喜びの気持や考えを表わし伝える手段としての造形である。
　当講座においては、造形活動を通して、物の色や形、材質について研究し、新たな形態を創り出すことを目的としたい。

〔講義内容〕
立体の分野における「おもちゃ」について研究を進めていく。
・文献資料の検索
・材質の研究
・形態の研究

〔講義のすすめ方〕
３、４名のグループ別に制作研究をする。
　グループ別にテーマを決定し進める。

〔教　　材〕
テーマ別に費用を徴収する。

〔成績評価の方法・基準〕
作品提出
出席　20％
点数　80％

〔履修のポイント・注意点〕
グループ毎の充分なディスカッションが必要であり、実技中心の講座であるので積極的参加、取り組む姿勢が望まれる。A、B通年を履修すること。

〔科目内容の位置付け〕
主に実践的内容であるが広い知識が必要となる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
造形、造形教材研究

K73009

科　目　名	卒業研究（川瀬）
	授業形態：演習
教　員　名	川瀬　善美

〔講義目的〕
1951年の社会福祉事業法制定以来大きな改正が行われて来なかった、社会福祉事業、社会福祉法人、措置制度など社会福祉の共通基盤制度について、2000年抜本的な見直しを行うため社会福祉事業法が社会福祉法と改正され公布・施行された。
その胎芽は、1990年代初頭から始まっていた。それが決定的なものとなったのは、保育の措置制度から選択制へ、あるいは2000年からスタートした介護保険制度による所が大きい。
措置制度から契約による利用措置への転換を含め福祉サービス提供の仕組みが変更されたのに伴い、社会福祉法人は自主的経営の実践を迫られることとなった。
また、2000年より経営成果を測定するため新たに社会福祉法人会計基準が制定。施行され、同基準によって作成された財務諸表を開示することが義務付けられてもいる。
一方で社会福祉制度の変化によって国民の福祉に対する意識は変化し、さらには規制緩和による市場原理の導入など、福祉経営の環境は激変したといってもよいと考える。
特に、措置制度下で形式的概念にすぎなかった経営概念が実態概念化し、社会福祉サービス供給主体である社会福祉法人は、名実共に、法人の健全なる持続的発展を実現するため主体的適応努力と経営活動の革新を余儀なくされた。
このような変化のなかでサービス供給主体として社会福祉法人が固有の社会的使命を貫徹しながら経営品質の高度化を実現し、サービス品質の向上を図るために何が必要なのかについて学術的に模索してみる。

〔講義内容〕
卒業研究は、各自が定めた（本年度は履修を予定している学生共同で定めた）研究テーマにそって、研究に必要な調査、文献研究等を行い、分析結果等をそれぞれ論文としてまとめる事を最終目標としたものである。

〔講義のすすめ方〕
４－５月　テーマ設定と文献研究
６－８月　調査研究
９－10月　調査結果分析及び中間発表会準備
11－12月　論文作成

〔教　　材〕
必要なものは適時指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
論文（400字詰）75枚程度の論文を作成し、その内容等について主査、副査がそれぞれ査読し、口答試問の結果により判定を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
卒業研究は日々の重み積によって成しとげられると考えられるので、スケジュールを立て、それに添ってコツコツと研鑽すること。

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究は定められた日時に中間発表及び論文提出（規定通りの枚数をもって）が単位取得要件となっている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特にないが、可能なかぎり福祉関連講義は履修することが望ましい。

K73010

科　目　名	卒業研究（小久保）
	授業形態：演習
教　員　名	小久保　裕

〔講義目的〕
子どもにとって、美術に関する諸能力を育てることは、単に、教養や情操の陶冶のみならず、人間性や想像的創造力を育む上で欠くことのできない営みと言える。
　ここでは、美術（主に絵画）と子どもの育ちとの関わりを探りつつ、教師に求められる造形表現力と指導力の獲得をめざす。本年度は以下の項目の中から、各自の興味関心あるテーマを設定し、卒業制作及び研究を行う。

〔講義内容〕
１、絵本や「ミニ・シアター」製作、実践に基く研究
２、絵画制作
　　・油彩による模写、作家研究
　　・自由テーマ
　（50－100号キャンバス）
３、紙で作る（子どもの発達と紙工作）
４、自然からの造形
５、子どもの描画研究（指導実践を含む）
６、その他

〔講義のすすめ方〕
各自テーマに沿って、個別に製作、研究を行う。又、教室外学習、実践活動、美術館見学等も積極的に行いたい。

〔教　　材〕
テキストは使用せず、プリント等配布する。画材については適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
日頃の製作、研究への取り組み状況等も含め、総合的に判断し評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
自主性を期待する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特にないが、課題研究を履修していることが望ましい。

K73011

科　目　名	卒業研究（齋藤一）
教　員　名	齋藤　一人

〔講義目的〕
研究および卒業論文の執筆作成を通じて、専門知識と問題解決に利用できる能力を修得し、さらに計画的に研究を遂行する能力を持つ創造性豊かな学生の育成を目的とする。

〔講義内容〕
学生各自がテーマを持ち研究を行う。テーマ分野の中心は担当教員の専門分野を含んだスポーツ健康全般（野外教育も含む）で、その理論から方法論・マネジメント等の実践論に関するものすべてである。卒業研究中間発表会を行い、学年末に卒業論文を提出して卒業研究発表会を実施する。

〔講義のすすめ方〕
（前期）
自分の選んだテーマについての説明、考察とその根拠となるデータをまとめた内容の経過報告を毎週のゼミで行う。報告の前に、各自必ず報告構想（研究ノート）をまとめ、教員と打ち合わせの時間を持つこと。その内容については以下のとおりである。
(1) 自分の卒業研究に予定するテーマはどういう分野のどういうものなのか。
(2) 問題意識を持つ－自分がなぜそのテーマを選んだ理由、そのテーマの何が問題なのか、どのように論じてゆきたいのか、整理する。
(3) 先行研究－そのテーマについてはこれまでどのような研究があり、自分の問題点についてどこまで明らかにされているのか。また、それが自分の考えにどのような関係を持つのか、その文献や理論をどう評価するのか等。
(4) 問いと仮説－(1)から(3)を踏まえて、「問い」と、それに対する自分の「仮説」を提示。
(5) データ－仮説を検証するために、どのようなデータを集め、どのように分析すればよいか、方針を立てる。
(6) 参考文献、参考資料一覧

（後期）
卒業研究のまとめと卒業論文の執筆

〔教　　材〕
「知的コーチングのすすめ－頂点を目指す競技者育成の鍵－」河野一郎監修　勝田隆著大修館書店他　その都度、必要に応じて授業内で提示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
毎週のゼミの報告と卒業論文で評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
卒業論文の執筆・提出・発表会等の形式や日程を厳守すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究ＡＢ

K73012

科　目　名	卒業研究（冨田）
	授業形態：演習
教　員　名	冨田　英也

〔講義目的〕
音楽は、心を慰め癒し、メッセージを伝え、表現し、喜びを共有して、人間の心に感動を与えることができる。人間特有の反応と行動の行動様式や感性の育成で、音楽の価値が人間の心身の成長に影響を与える。音楽を愛好する心情が培われることで、美的情操を育み望ましい人間形成に繋がることを目的とする。

〔講義内容〕
音楽と人間の歴史や文化、音楽と人間のかかわりを学び、音に対する興味を模索探究し、研究テーマを設定して、最終目的である卒業論文を作成する。

〔講義のすすめ方〕
４月から５月、文献や資料収集、アンケート等調査項目の作成と依頼
６月から８月、テーマの設定と研究
９月から10月、調査集計、項目構成と分析や考察、論文作成
11月から12月、論文作成の完了
1月論文発表

〔教　　材〕
必要に応じ指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
論文の内容、取り組む態度や積極性

〔履修のポイント・注意点〕
決められた授業時間だけで出来るものではない、日常生活で発案することや普段の努力によって達成されるものである。

〔科目内容の位置付け〕
課題研究や今まで培ってきた音楽関連科目の様々な経験を生かし、総まとめの場である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究Ａ・Ｂ

K73013

科　目　名	卒業研究（平田）
	授業形態：演習
教　員　名	平田　乃美

〔講義目的〕
1）問題解決志向を持ち、研究テーマを設定する
2）関連領域の先行研究と研究遂行に必要な技術や倫理等を学ぶ
3）1）、2）を経て、卒業研究（心理学）を作成する

〔講義内容〕
担当教員の指導のもとで、心理学関連領域の研究テーマを設定して論文を作成します。卒業研究への従事を通して、これまでに学んできた知識や技術への理解が深まり、それらが具体的に活用可能な学習者の生きた力になることを目指します。研究課題の設定や、実現可能な計画作成、計画的な研究遂行によって、卒業研究は学習者の自主的な学習態度や行動力を養う機会となることが期待されます。また、ときには指導教員や研究室の仲間との討論・批判に対応することで、卒業研究の経験は論理的な思考や説明技術を鍛える場にもなるでしょう。
研究テーマの設定から論文作成まで、指導教員は個別指導を行いますが、すべての作業には学習者が主体的に取り組まねばなりません。

〔講義のすすめ方〕
担当教員との相談の上、学習者が研究テーマや方法を決定します。実験装置・材料や調査票・データ処理のプログラム等、研究遂行に必要なものは各自が製作します。特定の卒業研究のために研究室が機材やソフトウエア等を新規購入した場合も、操作は各自で主体的に勉強しなくてはなりません。
学業成果の集大成となる卒業研究を、限られた日程の中で最良なものとするため、研究指導では進捗状況に応じた研究計画の修正・更新を随時相談しながら進めていきます。

〔教　　材〕
研究計画の初期段階では、指導教員が参考文献を紹介します。それらの文献をもとに、各自が自主的に関連領域の先行研究を収集します。論文構成や表記方法等については、論文執筆の手引き（アメリカ心理学会、日本心理学会編）を参照します。

〔成績評価の方法・基準〕
研究成果　80％
研究態度　20％

〔科目内容の位置付け〕
認定心理士資格では、「卒業研究」（心理学関連科目）として申請が可能な科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
原則として、本教員「課題研究Ａ・Ｂ」の少なくとも１科目を履修していることを前提とします。

K73014

科　目　名	卒業研究（髙橋）
	授業形態：演習
教　員　名	髙橋　美保

〔講義目的〕
　４年間の学習成果と課題研究を基に、自分の興味や関心を深めて引き続き研究し、論文として集約する。
　そのためには、先ずは自身で研究のテーマを定め、文献検索、資料の蒐集といった初段階の作業をとおして研究方法を模索するなど、卒業研究の基本的な作業に取り組んでいく。
　中間発表においては要旨を作成し、発表を通して研究の方向性を再検討し、迷いや混乱、不安といった精神的負担にも直面しながら、研究の難しさや面白さを経験する。
　常に問題意識を持ち、その解決のためにどのような方法があるのかを探り、学び、論文完成に至るまでのプロセスを通して、課題の具体化や解決力、論文作成にあたっての表現力や文章力などを身につけていく。

〔講義内容〕
１．前期
1回目　イントロダクション
2回目　テーマの決定
3回目　全体の構成と年間スケジュール作成
4回目　文献検索
5回目　資料蒐集①
6回目　資料蒐集②
7回目　資料蒐集③
8回目　研究目的と具体的方法の検討
9回目　研究の方法①
　①フィールドワーク
　②調査や実験の実施
10回目　研究の方法②
　①フィールドワーク
　②調査や実験の実施
11回目　実施場所の選定とアプローチ
12回目　依頼先の選定
13回目　予備研究のまとめや集計作業
14回目　中間発表にむけての要旨作成
15回目　プレゼンテーションの検討

2. 後期
16回目　本研究①
17回目　本研究②
18回目　本研究③
19回目　得られた結果の検討①
20回目　得られた結果の検討②
21回目　得られた結果の検討③
22回目　得られた結果をまとめ考察①
23回目　得られた結果をまとめ考察②
24回目　得られた結果をまとめ考察③
25回目　論文作成①
26回目　論文作成②
27回目　論文作成③
28回目　引用文献、参考文献の整理検討
29回目　全体的な目的、方法、内容の点検
30回目　卒論発表会へむけての検討

〔講義のすすめ方〕
　各自がテーマを設定し、年間スケジュールを立てて進めていくが、時折他者のテーマについても疑問点を出し合い、ディスカッションをとおして共に考えていく。

〔教　　材〕
　必要に応じて随時示す

〔成績評価の方法・基準〕
　論文の完成度（60％）、研究への取り組み姿勢・学習意欲（40％）で評価する

〔履修のポイント・注意点〕
　自己の興味や関心を具体化し、文章化する作業であるため、進めていくうえで困難さをともなう場合が予測される。
　計画通りにいかないことも体験し、自身で乗り越え、完成に向け自己実現しようとする姿勢が求められる。

〔科目内容の位置付け〕
　課題研究で学んだ内容を発展させる専門選択科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　課題研究 A,B の履修が前提となる。

K73015

科　目　名	卒業研究（内山）
教　員　名	内山　須美子

〔講義目的〕
課題研究において設定した研究テーマをもとに卒業論文を作成する。

〔講義内容〕
各自が論文作成計画を立て、研究活動を行う。

〔講義のすすめ方〕
各自が論文作成計画の下に進める。

〔教　　材〕
特に指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕
研究活動への姿勢、論文の内容、プレゼンテーションの内容を含めて総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
自ら進んで学ぶ姿勢を持つこと。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目であり、課題研究を受講していることが卒業研究を受講するための条件である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究Ａ、Ｂ（内山須美子）

K73016

科　目　名	卒業研究（益田）
	授業形態：演習
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
卒業論文の作成。

〔講義内容〕
各自の問題意識に応じたテーマを設定し、卒業論文を作成する。必要に応じて研究資料の収集方法、論文作成の手順について指導する。

〔講義のすすめ方〕
各自のテーマに即して進める。

〔教　　材〕
適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
卒業論文による評価。

〔履修のポイント・注意点〕
思考を根気よく積み上げてゆくこと。

〔科目内容の位置付け〕
課題研究の成果からの発展。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究Ａ／課題研究Ｂ

K73017

科　目　名	卒業研究（伊東）
	授業形態：演習
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
　前年度までに、課題研究等で研究した内容をさらに発展させ、学生各自が興味関心に従って研究を進めるものである。本研究はゼミ形式で、内容や方法に関するアドバイスを教員から受け、また学生同士も活発に討議していくことで、各自が研究の質を高め、最終的には卒業論文を完成させることを目的とする。

〔講義内容〕
　これまで課題研究等で研究した、教育相談や学校カウンセリング等に関する内容をさらに発展させたものを基本とする。

〔講義のすすめ方〕
　各自の研究に関する進捗状況の発表、および討議を基本とする。
　前期は、学校カウンセリングや教育相談に関する文献講読も行う。

〔教　　材〕
　講義の中で適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
　研究への取り組み姿勢と、成果としての卒業論文の内容から、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　強い意志を持って研究を完遂すること。
　困難な状況が生じたら、後回しにせず、その都度的確に対処すること。

〔科目内容の位置付け〕
　研究の内容が心理学に関係しているならば、認定心理士資格申請において「3．その他の科目」に区分される予定の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　同教員による「課題研究 A」「同 B」を受講済みであることを原則とする。

K73018

科　目　名	卒業研究（吉田）
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
卒業研究として選択した題目に即して個別にテーマの決定や研究方法を検討しつつ卒論論文の書き方や資料収集の方法などの指導を行なう。特に、卒論のテーマは個人の興味や関心に応じて選択するが、それらの解決はどのような文献や実験をすることで解決できるかを個別にアドバイスすることとする。

〔講義内容〕
運動学の基礎知識をもとに、さらにそれらを深めるため、各種の運動学関係文献を紹介し、説明する。特にマイネルの『スポーツ運動学』の内容や金子の『身体知の形成』は参考となるので全員に講義することとする。

〔講義のすすめ方〕
テーマに即して個人指導を行なうとともに全員に、論文の書き方、研究の進め方を講義する。

〔教　　材〕
マイネル『スポーツ運動学』
金子明友『技の伝承』
金子明友『身体知の形成』（上）（下）
金子明友『身体知の構造』
その他に必要な研究論文を参考文献とする。

〔成績評価の方法・基準〕
研究の過程での取り組み
研究論文としてのまとまり
論文のオリジナリティー
研究発表における発表能力などを総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
特に上記のうち
研究の過程での取り組み、論文としてのオリジナリティーを重視する。

〔科目内容の位置付け〕
教科専門科目、現在は自由選択単位

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
運動学Ⅰ、Ⅱおよび課題研究Ａ、Ｂを履修していること。

K73020

科　目　名	卒業研究（金田）
教　員　名	金田　健史

〔講義目的〕
卒業研究では、課題研究ＡＢで積み上げてきた各自の興味あるテーマを、より一層洗練されたものとして、研究テーマへと作り上げていく。その際、丁寧且つ正しい手順でまとめることを学び、正確且つ客観的に研究データを捉えられる方法を用い、自分自身で研究テーマを調査していくという一連の流れを学習していく。
　大学生活を通して学んできた論理的に考えるという演習授業の学部段階でのまとめというような意味合いがあるものと思われる。実社会、スポーツに関わる各種の仕事、または教員という仕事では、多くの疑問を解決し、自分自身だけでなく、他者に対してもその疑問に思った内容をしっかりと理解できるように説明できる能力が必要である。卒業研究において、自分の研究テーマを絞り、それを客観的視点から突き詰め、論理的思考をもって考察するということを経験することによって、これから社会へ羽ばたくために必要な最低限の能力を身につける。

〔講義内容〕
卒業論文作成に繋がる過程で必要な事項をひとつひとつクリアしていく。開始当初には、これまで課題研究ＡＢを通して進めてきた各自の研究テーマに即した実験計画を精査していく。実験の実施が可能と判断される実験計画ができあがったのち、被験者、実験スケジュールの調整をおこない、予備実験、本実験へと移行していく。

〔講義のすすめ方〕
各自の研究テーマについて、全体での討論とともに、個人的な方向性の修正、改善へむけた個別相談を実施しながら、各自の研究テーマに関する実験計画を作成し、実験の実施およびデータ処理、論文執筆、発表準備までを各自でおこなう。

〔教　　材〕
○関連する研究テーマを扱った学術論文（英文、和文）
○図書館等にある図書、雑誌類
○測定機器の製造、販売会社のインターネット・ホームページ
○機器の取り扱い説明書

〔成績評価の方法・基準〕
研究へ取り組む姿勢、関連するテーマに関する知識、卒業論文の完成度、発表資料の内容、発表の内容、受け答え等を含めて総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
課題研究において、絞ってきた研究テーマについて卒業論文を作成し、提出、審査までを評価に含むものとする。

〔科目内容の位置付け〕
専門選択科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生理学、運動生理学、スポーツ生理学、体育スポーツの測定と評価、課題研究Ａ、課題研究Ｂ

K73021

科　目　名	卒業研究（齊藤武）
教　員　名	齊藤　武利

〔講義目的〕
課題研究ＡＢで積み上げてきた各自の興味あるテーマを、より一層洗練されたものとして、卒業論文の研究テーマへと作り上げて行く。その際、自分自身で探究する研究テーマの目的に沿って、正しい手順でまとめることを学習する。
　論理的に考えるという、演習授業形式での学部段階でのまとめを卒業研究において行う。自分の研究テーマを絞り、それを客観的視点から突き詰め、論理的思考をもって考察するということを経験することによって実社会で必要な最低限の能力を身につける。

〔講義内容〕
卒業論文作成に繋がる過程で必要な事項について、実現に向けて準備していく。これまでの課題研究ＡＢを通して進めてきた各自の研究テーマに即した実験や調査、分析計画を検討し、実験計画などのスケジュールの調整をおこない、順次に本調査、本実験へと移行していく。

〔講義のすすめ方〕
各自の研究テーマについて、全体での討論とともに、個人的な方向性の修正、改善へむけた個別相談を実施しながら、各自の研究テーマに関する実験計画を作成し、実験の実施およびデータ処理、論文執筆、発表準備までを各自おこなう。

〔教　　材〕
〇関連する研究テーマを扱った学術論文（英文、和文）
〇図書館等にある図書、雑誌類
〇測定機器の製造、販売会社のインターネット・ホームページ
〇機器の取り扱い説明書
〇各種ＶＴＲ

〔成績評価の方法・基準〕
研究へ取り組む姿勢、関連するテーマに関する知識、卒業論文の完成度、発表資料の内容、発表の内容、受け答え等を含めて総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
課題研究において、絞ってきた研究テーマについて、さらに探究し、卒業論文として、体裁を整えて作成し、提出、発表、審査によって評価する。

〔科目内容の位置付け〕
専門選択科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
スポーツリハビリテーション論、スポーツ医学、トレーニング論、ラグビー実技理論、課題研究Ａ、課題研究Ｂ

K73022

科　目　名	卒業研究（藤井）
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
研究の領域は「スポーツ（レクリエーションを含む）のマネジメントとマーケティング」とする。
　課題研究ＡＢで得た基礎的知識に基づき、各自の興味・関心に応じた研究テーマを設定し、卒業論文の作成に取り組む。
　あわせて、「スポーツマネジメント・マーケティング」という領域の中で、自己の調査結果や見解を、論理的に構成し論文として表現していく方法を学ぶ。

〔講義内容〕
①各自の興味・関心に基づく研究テーマの設定
②論文作成を進めていく上での各種方法やルールの理解
③卒業論文への取組
　上記の内容で、原則としては各個人のペースで論文作成のための研究を進める。定期的に発表会を実施し、研究内容についての見直しを行う。

〔講義のすすめ方〕
上記の通り

〔教　　材〕
その都度資料を配付、或いは持ち寄り、それを中心に進めていく。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況、研究活動やワーキングへの取組姿勢、研究内容・成果を含めて総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
指導方針：自発的な学習姿勢、独創的な問題意識・主張、組織的な取組を重視する。

　注意事項：スポーツやレクリエーションのフィールドに自ら飛び出す行動力が必要となる。下記の視察研修や時間外の研究活動などを行う場合もある。最低限、これらに対応できる学生であってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目であり、課題研究ＡＢを受講することが４年次の卒業研究を受講するための条件である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究ＡＢ（藤井）、体育経営管理学、体育社会学、スポーツ行政論、レクリエーション理論Ⅰ・Ⅱなど

K73023

科　目　名	卒業研究（近藤）
	授業形態：演習
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
　これまで体育科教育法や課題研究で学習したことの総まとめが本科目の目的である。

〔講義内容〕
　一人一人研究テーマを設定し、その課題を探求し、論文としてまとめる。テーマ設定、先行研究の収集と検討、研究方法の検討、実地調査、分析、論文の執筆等を行う。中間発表会、論文発表なども行う予定である。

〔講義のすすめ方〕
　週に一度、履修者が全員集まり進捗状況を報告する。さらに、個別の対応が必要な場合には、時間外に集合する。

〔教　　材〕
適宜指定する

〔成績評価の方法・基準〕
　論文の完成度を評価の基準とする。また、実地調査の態度なども評価の観点として加える。

〔履修のポイント・注意点〕
　卒業研究は日常的な講義や演習と異なり、書籍の通読や簡易なレポートではありません。設定した課題に対して深く追求することが大切であり、粘り強く取り組む姿勢が大切である。

〔科目内容の位置付け〕
　課題研究をはじめとした研究の総まとめの活動として位置づけられる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究ＡＢ

K73024

科　目　名	卒業研究（馬場）
	授業形態：演習
教　員　名	馬場　将光

〔講義目的〕
卒業研究は、基本的には学生がテーマを決める。そのテーマにそって資料を収集し、それを読み、まとめて、そこから新しい知見を導き出すものとする。
資料を読み、分析し、まとめる過程を通して、他の人とは違う自分の考え方を持つことができるようになることを目指したいと考えている。もちろん、日本語を書くことができるようになることも目的のひとつである。

〔講義内容〕
卒業研究の指導は、おおよそ次のような過程で進む。
1. テーマを決めるために、基本的な文献を読む。その過程で自分が関心を持てそうないくつかのテーマを考える。それについて、学生と指導教員が話しあうなかから、学生が最終的なテーマを自分で決める。
2. テーマについての文献、資料を収集して、それらを読む。読む際には、必ずメモをとる。文献、資料については、教員が指導する。
3. 論文の構成を必ず教員に前もって提出する。そこで、全体的な構成についての指導を行う。
4. なんでもいいから、どこかにオリジナリテイーのあるものに仕上げる。人まねは避けなければならない。
5. できるだけ単なる事実の紹介的な内容を記述することは避けて、理屈、理論を展開するような論文に仕上げるようにする。

〔講義のすすめ方〕
毎週、自分のテーマに関係した資料をどの程度読んだかを報告する。

〔教　　材〕
とくに指示はしない。自分で文献、資料を収集するようにすること。概説書は避けて、学術書もしくは専門的な図書を読むようにした方がいいし、できるだけ研究論文を読むようにした方がいい。

〔成績評価の方法・基準〕
卒業研究を読んで、その内容について総合的な評価を行う。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究 A、B を履修しておくことが必要である。

K73025

科　目　名	卒業研究（海原）
	授業形態：演習
教　員　名	海原　純子

〔講義目的〕
均等法以来女性の社会進出は進んだようにみえるが、家事と子育て、仕事の両立に悩む女性も多い。子育て後のアイデンティティ喪失によるうつも起きやすい。また女性のストレス性疾患の背景に、まわりに過剰にあわせようとする過剰適応もみられる。
女性が自分の人生を生き生きと生きる為に必要なこと、サポートなどについて考察していくことを目的とする。

〔講義内容〕
各自の興味を感じるテーマを決め、必要な調査・文献研究を行い論文とする。

〔講義のすすめ方〕
４月－５月　テーマ設定・方針を決める
６月－８月　調査
９月－10月　中間発表会準備
11月－12月　論文作成

〔教　　材〕
必要に応じて指示

〔成績評価の方法・基準〕
(400字)75枚の論文作成。
その内容について審査する。

〔履修のポイント・注意点〕
興味あるテーマを研究することは自分の専門分野をつくる大切なこととなる。
自らのアイデンティティを確立する基盤として学問に取り組んでほしい。自分の視点で物事を研究することが大学で学ぶ大切なことだと思う。

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究は中間発表、論文提出が単位必要条件となっている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

K73026

科　目　名	卒業研究（小原）
	授業形態：演習
教　員　名	小原　政敏

〔講義目的〕
課題研究Ａ・Ｂを履修していることが前提である。
　保育園・幼稚園・小学校の理科教育における自然観察方法や実験方法を具体的に研究する。新しい実験方法の開発や科学玩具、おもちゃの研究開発などを目指している。

〔講義内容〕
１）小学校関連
　・理科実験観察の内容調査
　・新しい実験の開発研究
　・小学生向きの科学玩具の開発
　・理科学習用パソコンソフトの開発
２）幼稚園・保育園関連
　・園児が喜ぶおもちゃの開発
　・集中力を高めるおもちゃの研究
　・おもちゃを用いた遊びの開発
　・自然の動植物や石・砂を利用する遊びの開発
　・風・水を利用する遊びの開発
　・光・音を用いた遊びの開発
３）その他理科教育に関するもの
　・理科教育の国際比較研究
　・科学史研究
　・理科教育の歴史研究
　・理科離れについての研究

〔講義のすすめ方〕
受講生一人一人が興味関心を持つ理科教育に関する実験方法や科学玩具などに関して学習・研究・開発を行う。時々、全員で一つの課題について討論し、新しいアイデアや問題解決法を考える機会を設けて学習や研究を推進する機会とする。卒業論文を作成する。

〔教　　材〕
教科書　特に定めないが、多くの関連書物がある。
参考書　必要に応じて紹介する。
VTR・パソコンソフト
補助プリント

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験　　実施しない。
レポート・作品・卒業論文
提出・内容について評価
判定基準
・試験点数　　０％
・出席率　　15％
・卒業論文・作品　　85％

〔履修のポイント・注意点〕
我が国では、子どもの理科離れが進んでいると言われている。保育園・幼稚園・小学校の子どもたちに、自然のおもしろさ・楽しさを訴えられるような研究・理科教育の創造を目指して欲しい。
これまでは、教員が学習内容を決めて指導してきたが、卒業研究では可能な限り自分自身の主体的な考えによって学習を進めることが大切である。

〔科目内容の位置付け〕
この科目は、課題研究Ａ（２単位)・Ｂ（２単位）に引き続き年間を通して実施するものである。
　幼稚園や小学校の理科教育に興味関心を持ち、自分でも新しい理科の指導法の研究や開発を望んでいる人を対象としている。本を読んでその内容についての学習ではなく、具体的な自然現象や事物について物作りや実験を中心に進め、論文や作品を完成するものである。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
前提科目
　理科概説Ⅰ
　理科概説Ⅱ（履修していれば尚可）
　理科教育法
　課題研究Ａ・Ｂ
　保育内容研究・演習
関連科目
・教養科目として「環境科学」、「物理学」、「生物学」、「科学史」がある。

K73027

科　目　名	卒業研究（五十嵐）
	授業形態：演習
教　員　名	五十嵐　敦子

〔講義目的〕
卒業論文作成の指導を行う。

〔講義内容〕
教育学・教育史（幼児教育を含む）に関する基本文献・史料を講読し、教育を研究する方法に習熟し、問題意識を深める。ゼミ参加者は自分自身で選んだテーマに沿って研究を進める。

〔講義のすすめ方〕
１．オリエンテーション（４月）
２．文献資料の収集（４～５月）
３．研究テーマの明確化及び章立て（５月末）
４．先行研究の整理（７月上旬）
５．研究方法の検討（７月中旬）
６．草稿に基づく個人指導、卒論中間発表会（10月下旬）
７．論文についてのアドバイス・修正
８．卒論発表会（２月）

〔教　　材〕
適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
発表、討議、論文など。

〔履修のポイント・注意点〕
個人面談（随時）が中心となると思うので、自己の課題意識を明確にし、積極的かつ意欲的にテーマを追究してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
大学生活四年間の集大成である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究Ａ・Ｂ

K73028

科　目　名	卒業研究（後藤）
	授業形態：演習
教　員　名	後藤 達生

〔講義目的〕
　卒業研究の本来のあり方は，大学の多くの講義，とくに教科概説、教科教育法や課題研究などで学んだことを通して，学生自らがテーマを見つけ研究を深め，その成果をまとめるというのが理想です.
　自らが主体的に学ぶという経験は貴重です．大学生活の締めくくりに，卒業後ももっとも深く印象に残るであろうこの貴重な経験をしてもらうのが，卒業研究の大きな目的です.

〔講義内容〕
　学生一人ひとりがどのような研究テーマを選ぶか，その舵取りが指導教官の最初の仕事です．また，研究の成果を卒業論文としてまとめるために，毎回の授業での積み重ねが大切になります.
　その際パソコンの活用は欠かせません．くわえて算数科の場合，図の挿入が大きな問題になります．適当な作図ツールを使いこなせるようになることも，卒業研究のひとつの課題になります.

〔講義のすすめ方〕
　通常の講義と違って主体は学生にあり，教官が一方的に授業を進めることははありません．研究の進み具合を見ながら，指導教官は適当な資料や文献を与えたり，コメントを与えたりしますが，あくまでも一人ひとりの学生が主体となって研究が進みます．ゼミ生相互による議論も重要です.

〔教　　材〕
　教材は学生それぞれが選んだ研究テーマによって違うことはもちろんです．教官が選んだ文献であったり，学生自らが見つけた資料であったりします.

〔成績評価の方法・基準〕
　卒業研究ではその成果を卒業論文として冊子にまとめます．その内容により成績評価をします．また，冊子の体裁，できばえも評価の対象にします.

〔履修のポイント・注意点〕
　与えられた課題だけをこなすというのでは，よい研究にはなりません.

〔科目内容の位置付け〕
　専門科目のうちの関連科目にあたる .

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
〔前提科目〕課題研究 A, 課題研究 B
〔関連科目〕算数科教育法 , 算数概説 I, 算数概説 II

K73029

科　目　名	卒業研究（今田）
	授業形態：演習
教　員　名	今田　政成

〔講義目的〕
「アンサンブルの音楽」をテーマに、児童教育の音楽に関する分野の中から自分にあったテーマを研究する。論文作成及び演奏を行ない音楽的素養を向上させることを目的とする。

〔講義内容〕
卒業研究スケジュールに沿って進める。
前期：題目決定
　　資料収集・実技指導
後期：論文作成
　　完成

〔講義のすすめ方〕
学生が決めたテーマに基づき、実技・論文指導する

〔教　　材〕
テーマにあった資料及び楽譜を配布する

〔成績評価の方法・基準〕
卒業研究の内容を参照

〔履修のポイント・注意点〕
研究内容の準備を毎回すること。

〔科目内容の位置付け〕
音楽関連科目の卒業研究である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究Ａ・Ｂ

K73030

科　目　名	卒業研究（増田）
	授業形態：演習
教　員　名	増田　仁

〔講義目的〕
本授業は卒業論文を完成させることを目的とする。そのために、論文を書く上での作法や資料の収集のしかた、データの取り方、分析の仕方等について指導を行う。

〔講義内容〕
1、オリエンテーション
2、資料の探し方
3、論文の書き方1
4、論文の書き方2
5、初回発表1
6、初回発表2
7、関連文献の読解1
8、関連文献の読解2
9、フィールドワーク1
10、フィールドワーク2
11、フィールドワーク3
12、前期中間発表1
13、前期中間発表2
14、関連文献の読解3
15、関連文献の読解4
16、インタヴュー調査1
17、インタヴュー調査2
18、インタヴュー調査の分析発表
19、統計データの分析1
20、統計データの分析2
21、統計データの分析結果の発表
22、後期中間発表1
23、後期中間発表2
24、関連文献の読解5
25、関連文献の読解6
26、関連文献の読解7
27、関連文献の読解8
28、最終発表1
29、最終発表2
30、まとめ

〔講義のすすめ方〕
演習形式である。

〔教　　材〕
授業中に適宜提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（20％）、発表レジュメ（80％）で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
自ら問いを発し、考える力を必要とする。

〔科目内容の位置付け〕
応用・発展レヴェルの科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「家庭科概説」「家庭科教育法」

K80001

科　目　名	教師論
	活力ある教師になるための基本を学ぶ
教　員　名	石堂　常世

〔講義目的〕
講義の趣旨
　本講義は、学校の教師そして教職という仕事について、基本的にして多面的な理解をはかり、受講した者が専門職としての教職への自信と理解を深め、教職への使命感、責任感、さらには希望をもち、それらを一層深めることができるようになることをねらいとして構成されている。
　また、教職以外の教育職（たとえば、家庭裁判所調査官、スポーツコーチ等）の進路を考えている受講者にも役に立つように、必要な基本的内容を網羅している。
　この授業を通して、教師という職業を一面的でなく全体的に理解し、教職に就けるように、情熱をもってチャレンジしてほしい。

〔講義内容〕
シラバス（　）内は講義の回数

第１部：教師、教職への問題意識の覚醒：考察・発表・討議
（１）教職の現場から（現場の先生の小論）
（２）ひとつの新聞報道にみる教職の現実の一面：教師の忙しさ（配布）
（３）レポート課題Ａ：「私はなぜ教職をめざすのか」
レポート課題Ｂ：「自分の受けた学校教育で、信頼し尊敬できる先生に出会ったか。
　　その先生との思い出のひとこまや、ありがたかったことについてまとめてみる。
レポート課題Ｃ：「私が思う理想の先生」（Ｂの出会いに恵まれなかった場合）
　A,B,C のいずれかＩ題を選び、Ａ４版1頁（配布）で論述してみよう。１１ポイントで。
　お互いの発表を通し、いかなる教師像が生徒たちによって求められているかがみえてくる。
　文部科学省の中央教育審議会で討議し、都道府県や各自治体で出した「これからの教師」像というものは、どういう教師像であろうか？
　このような考察から、教師について、教師の職務、教職の使命などを多面的に考えていこう。
　そのことは、主観的教師像、教職観から、客観的教師像、教職観に進みゆくことでもある。

第２部：教職・教師の歴史にみる教師像の類型：変わらないものと変わったもの
（４）教師像の研究１：聖職者像
（５）教師像の研究２：師範学校と教師
（６）教師像の研究３：開放制教員養成とは何か
（７）教師像の研究４：日教組の教師像から専門職としての教職観へ

第３部：学校経営・学級経営からみた教師の職務
（８）教育行政からみた教師、教育法規からみた教師
（９）学校の組織と校務分掌
（10）生徒、親と向かい合う能力：地域との連携：開かれた学校と教師の役割
（11）改正教育基本法ならびに新学習指導要領と教師の対応

第４部：これからの教師に求められる資質・能力について
（12）２１世紀の教員養成改革を知る。（資料解読による構造理解）
　　戦後の開放性教員養成制度の限界について：高度な専門性の要求
　　a. 教職大学院、ｂ．教員免許更新制、ｃ．教職課程科目の充実と改革、
（13）採用後の教員研修システム：ライフステージに応じた資質能力向上のための制度
（14）教師の服務規程について
（15）試験

〔講義のすすめ方〕
授業方法
・原則として講義であるが、質問を入れて、読ませたりして、応答形式で進めたい。
・受身的な受講態度、おしゃべりを認容しない。
・レポートについては、次の授業で指名し発表をさせ、相互に自主的な関心を高める授業構成にする。

〔教　　材〕
教科書・参考書
①教科書は準備中につき、毎回、授業レジュメ（概要）と資料を配布し、授業理解の深化をはかる。
②授業中に随時、参考文献を示唆する。
③『教育法』、『教育法規』、『学校教育法規』といった題名の法律関係書をもっていることが望ましい。
　できる限り2008年度版以降のもの。

〔成績評価の方法・基準〕
評価方法

１．授業中に課すレポートの点数（４段階評価）（20％）
２．学期末試験（80％）
３．出席状況と授業態度の積極性をみて、上記１と２の合点に、減点か加算かをする。

〔履修のポイント・注意点〕
・授業を安易に休んではいけない。
・欠席する場合、欠席した場合は、理由書を提出のこと。

〔科目内容の位置付け〕
教育原理または教育基礎論を履修済みであることが望ましい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
教育原理または教育基礎論

K80002

科　目　名	教師論
	授業形態：講義
教　員　名	五十嵐　敦子

〔講義目的〕
現代社会における教師としての責任や役割について考えながら、学校教育をめぐる環境やさまざまな問題を認識し、教師に求められる適性、「教師をめざす」ことの意味を考える。

〔講義内容〕
1．教育と教職①―他の職業との違い
2．教育と教職②―聖職論から労働者論へ
3．教員養成の歴史①
4．教員養成の歴史②
5．教師に求められる資質・能力①
6．教師に求められる資質・能力②
7．幼稚園・保育所における「保育者」①
8．幼稚園・保育所における「保育者」②
9．ゲスト・スピーカー（小学校教諭）による講話
10．現代の教育改革と子どもを取り巻く環境―世界の教育改革と学力の国際比較
11．教師の役割と責任―校務分掌、様々な実践事例など
12．教師としての自己形成―研修の種類
13．ビデオ視聴
14．まとめ
15．試験

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義形式で行うが、リアクションペーパーや小レポートなどを取り入れるなどして、相互交流のできる授業を心掛けていきたい。

〔教　　材〕
森下恭光編著『教師論－教職とその背景』
明星大学出版部

〔成績評価の方法・基準〕
講義の回数の１／３以上欠席した場合は、単位は与えないので、充分注意すること。
①出席状況30％、②小レポートなど20％、③定期試験50％の割合で総合的に評価する。特に出席は重視するので、正当な理由があって欠席する場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

〔科目内容の位置付け〕
教育に関する学問の基礎科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「教育原理」「教育総論」「教育制度論」

K80003

科　目　名	教師論
教　員　名	五十嵐　敦子

〔講義目的〕
現代社会における教師としての責任や役割について考えながら、学校教育をめぐる環境やさまざまな問題を認識し、教師に求められる適性、「教師をめざす」ことの意味を考える。

〔講義内容〕
1．教育と教職①
2．教育と教職②
3．教員養成の歴史①
4．教員養成の歴史②
5．教師に求められる資質・能力①
6．教師に求められる資質・能力②
7．教師の役割と責任―校務分掌、様々な実践事例など
8．教師の仕事―ある先生の一日
9．ゲスト・スピーカーによる講話
10．世界の教育改革と学力低下問題
11．研修とは何か―研修の種類
12．ジェンダーと教育
13．ビデオ視聴
14．まとめ
15．試験

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義形式で行うが、リアクションペーパーや小レポートなどを取り入れるなどして、相互交流のできる授業を心掛けていきたい。

〔教　　材〕
秋田喜代美・佐藤学編著『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ

〔成績評価の方法・基準〕
講義の回数の１／３以上欠席した場合は、単位は与えないので、充分注意すること。
　①出席状況30％、②小レポートなど20％、③定期試験50％の割合で総合的に評価する。特に出席は重視するので、正当な理由があって欠席する場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

〔科目内容の位置付け〕
教育に関する学問の基礎科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「教育原理」「教育総論」「教育制度論」

K80301

科　目　名	幼児教育論
	授業形態：講義
教　員　名	荒井　洌

〔講義目的〕
　いわゆる狭い意味での学力のレベルアップを追い求めるような安易な幼児教育論は、これから長い人生を生きていくスタートの時期にある幼い子どもたちに対して、貧困な園生活を押しつけてしまうことになります。
　このようなことは、人間論として真面目に考えてみると、とても残念なことです。
　貴重な人格としての１人ひとりの子どもたちにとっての、幸せな文化的環境あるいは教育的雰囲気とはいかにあるべきなのか、可能な限りおおらかに、広い視野のもとに思索してみたいと思います。
　われわれ幼児保育を学ぶ者にとっての優れた先輩である倉橋惣三の考え方をテキストにして、深く読み込み、本質論的な幼児教育論の授業でありたいと思っています。

〔講義内容〕
1.「ギンダーガルテン」とは
2.生活の場、生活を美しく
3.自由な遊び
4.家庭生活の続き
5.個人対話の教育価値
6.1人の尊厳
7.心の自由な飛躍
8.幼児保育の芸術性
9.カリキュラム・メーキング
10.独自性の発揮
11.教育における楽しさ
12.文化論的視点からの幼児教育論
13.リベラリズムの視点からの幼児教育論
14.歴史的な視点からの幼児教育論
15.定期試験

〔講義のすすめ方〕
　日本の幼児教育界の重鎮であった倉橋惣三が、数多く書き残したもののエッセンスをまとめた『倉橋惣三　保育へのロマン』（荒井洌著）をテキストにして、彼が主張する根本的な理念を、丹念に読み取っていきたいと思います。
　また、それらの思想を、現在の幼児保育の場にあっての受け止め方や応用といった観点から、現実の保育の状況と照らし合わせながら、じっくりと、かつ具体的に思索していきたいと思います。
　倉橋惣三が、真剣に、深く思索した論理と、それらを表現した味わいのあるセンテンスを、じっくり読み取っていくことにしましょう。

〔教　　材〕
テキスト
『倉橋惣三 保育へのロマン』
　荒井洌著（フレーベル館）

〔成績評価の方法・基準〕
学期末に試験を行います。
出席率を重視します。

〔履修のポイント・注意点〕
　何ごとについても、深く哲学することが希薄な時代です。
　幼児教育のありようについて、しっかりと哲学することを身につけていただきたいと思います。
　表面的な幼児教育論は、互いに人格を尊重し合う姿勢とは相反します。
　テキストの内容と文脈とをじっくりと読み取り、講義の趣旨にしっかりと耳を傾けてください。

〔科目内容の位置付け〕
「保育原理Ⅰ」で学習した基礎的な知識を大いに活用しながら、自らの幼児教育論を築いていくようにしてください。

K80701

科　目　名	教育心理学
教　員　名	神戸　文朗

〔講義目的〕
教育とは個々の子供や大人が社会的に望ましい能力を獲得するように彼らの発達の過程に影響を与える行為であると考えられる。効果的にこの目的を達成するためには、適切な時期・タイミングで、適切な内容の情報を、適切な方法によって、影響を与える必要がある。もし、この３つの条件のいずれか（或いはすべて）が満たされなければ、教育的行為は社会的に望ましい発達を個人にもたらさない可能性がある。それ故、教育に携わろうとするならば人の発達の過程に関する基礎知識は不可欠である。実際、現代日本社会には発達現象への無知に由来する教育観が根強く存在するだけではなく、誤った教育的行為の結果としての親による乳幼児への虐待や青少年における規範力の低下を示す例には事欠かない。但し、教育するものに発達に関する基本的知識があったとしても、それだけでは個々の教育的行為の適切さを保証するものではない。個々の教育的行為に関しては、行為の実行と結果の評価が客観的になされる必要がある。
上記のような問題意識の下、本講では認知的発達と人格的発達の過程をより詳細に検討したい。人の発達はこの２領域に限られるものではないが、これらはかなりの程度相互補完的であり、かつ教育的働きかけに応答性を持った領域であると考えられる。各発達段階の説明の中で、適切な教育的行為における時期、内容、方法の３条件とはどのようなものなのかがより明らかになるであろう。
更に現代の青少年のあり方を理解する一助として、社会化の問題に一項を設け、規範の内在化、道徳性の発達、能力感・自尊心・自発的探索の関連について考察したい。最後に、いじめ、非行、思春期痩せ症といった応用的側面にも触れたい。
実際、我々は様々な場面で解答のない問題に直面する。我々はそれを「常識的判断」や「自己の価値観」に頼って対処しがちである。しかし、その常識や価値観も決して十分に根拠のあるものとは限らないとしたら、我々は安直なマニュアル的知識を求めようとするべきではなく、正しい理解とそれに基づく幅広い応用力を獲得するよう努力するべきであると考える。

〔講義内容〕
１）教育心理学とは何か
応用の学問としての教育心理学
教育と発達の原理（環境と遺伝、学習、正規発達からの逸脱）
教育的行為とその評価
２）認知的発達
ピアジェの理論
同化と調節（循環反応、遊び、模倣）
３）人格発達
フロイトの理論
エリクソンのライフサイクル理論
４）社会化
自我と超自我（母子共生からの離脱、欲求の意識化、社会的規範）
能力感と探索行動・対人能力
道徳性の発達
５）思春期・青年期の危機
無気力と不登校
いじめ・いじめの構造（攻撃性、社会的順位、社会的学習）
家庭内の葛藤（暴力・思春期痩せ症）
非行
６）障害児の発達とその教育

〔講義のすすめ方〕
主として黒板及び口頭での説明を行っていく予定である。

〔教　　材〕
一部図表も用意する予定であるが、資料提示は基本的には黒板への書き込みによる。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験の結果に基づき成績評価を行う。出席率は受験資格を満たしているかどうかの判定にのみ使用し、出席率を成績に反映させることはない。得られた得点分布に基づき各人の得点はカテゴリー分類され、それを成績とする。

〔履修のポイント・注意点〕
口頭及び黒板を使っての説明が主となるので諸君は効率よくノートを取って欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
教職専門科目、認定心理士区分：選択科目Ｅ

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

K80703

科　目　名	教育心理学／教育心理学概論
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	平田　乃美

〔講義目的〕
1）子どもの発達や行動、環境との関わりなどに関する心理学理論の基礎を学ぶ
2）心理学の理論や知見を通して、教育効果を高める要因について理解を深める
3）1）、2）の知見の教育実践での活用について考える

〔講義内容〕
教育心理学には、教育の効果を高めるために役立つ心理学的知見や技術の教育場面への適用という側面と、教育的営みの中で培われる総合的な人間研究という側面があります。本講義では学校現場における保育・教育の実践において、問題行動や発達障害等も含めた子どもの個性や行動を理解するための手掛りとなるであろう教育心理学の基礎知識を紹介します。

［授業計画］

1．研究史：教育心理学
2．教育心理学の研究手法
3．教育における測定と評価
　- 統計データを読む -
4．教育における測定と評価
　- 教育データの数値化 -
5．待つ教育と促す教育：遺伝と環境
6．発達理論と教育環境 - 生涯発達の観点 -
7．発達理論と教育環境 - 親子関係と愛着 -
8．個人差の理解 - 知的能力・認知の発達 -
9．個人差の理解 - 不適応・障害児の理解 -
10．学習の理論
11．学習の理論
12．教育場面における個人と集団
13．学習における動機づけ -
　- 内発的・外発的動機づけ -
14．学習における動機づけ -
　- 子どもの意欲を育む -
15．定期試験（90分）

〔講義のすすめ方〕
講義の区切り毎に定期試験と一部同じ出題形式の「受講のまとめ（自学自習用ワークシート・解説付）」を実施します。成績評価の対象ではありませんが、学習方略の改善や試験対策等に各自活用してください。

〔教　　材〕
授業で紹介されたテーマについて更に関心がある場合は毎回の配布資料に記載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験　100％（相対評価）
成績評価の方法は『履修規程』に準ずる。
受験資格は『白鷗大学試験規則』および『保育士資格規定』に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
［出席について］
全回出席を原則とします。
出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

［課題について］
指定期間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

［成績について］
評価基準の個別対応は一切ありません。
個別の結果について、成績発表前の問い合せには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

［資料について］
講義資料のスライド（動画、写真等）を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための重要な科目です。
教職に関する科目では「教育の基礎理論に関する科目」、保育士関係科目では「保育の対象の理解に関する科目」、認定心理士資格申請では「基礎科目」（心理学概論）または「選択科目」（教育心理学・発達心理学）に区分される科目です。

K83501

科　目　名	総合演習
教　員　名	近藤智靖・齊藤武利・藤井和彦

〔講義目的〕
　本科目では、スポーツ・健康・教育・社会的な問題をテーマとして設定し、調査、発表を行う。こうした一連の活動を通じて、総合的な問題解決能力の育成、あるいは、その解決方法の学習を目的とする。

〔講義内容〕
　本科目は、教員免許取得にあたって必修科目となっている。一人一人がテーマを設定し、そのテーマに対する理論研究、インタビューフローの作成、実地調査、まとめ、発表の順で行う。

〔講義のすすめ方〕
　担当教員別にクラス編成をし、担当教員の指導の下に進めていく。ただし、全体説明が必要な場合には、適宜集合をする。

〔教　　材〕
　特になし

〔成績評価の方法・基準〕
出席30％　調査内容70％

〔履修のポイント・注意点〕
　本科目では、学生が主体となって活動することを重視している。１時間の授業に対して、数時間の宿題や調査等を行なう必要がある。

〔科目内容の位置付け〕
　特になし

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
フレッシュマンセミナーでの調査研究
課題研究
卒業研究

K83502

科　目　名	総合演習
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	荒井洌・福田真奈

〔講義目的〕
【前期】
幼少年期の原体験というものは、その後の長い人生にとって、意味深い役割を果たすと言われています。このことは、私自身の人生に照らしてみても、実際うなずいているところです。
人生にとっての原体験と同時に、現代社会のように極度にシステム化される以前の、近代社会の原点ともいうべき時代の雰囲気とを、重ね合わせてみたらどうかと考えます。
そこで、1世紀から1世紀半くらい前に描かれた、子どもたちが登場する世界的に著名な文学作品のいくつかを、このような視点で読み解いてみようと思います。

【後期】
総合演習では、保育にかかわるさまざまな課題を提示し、その課題について多角的に分析し、問題解決のための判断について検討を行うとともに、カウンセリングマインドをもって子どもに対応し、保護者を援助するとはどのようなことなのか、その技術や方法を習得することを目的としている。

〔講義内容〕
【前期】
1. 子どもが登場する世界的な名作の概要
2. ヨハンナ・シュピーリ『アルプスの少女』（スイス）
3. ウィーダ『フランダースの犬』（ベルギー）
4. ローラ・インガスル・ワイルダー『大きな森の小さな家』（アメリカ）
5. リンドグレーン『やかまし村の子どもたち』（スウェーデン）
6. アナトール・フランス『少年少女』（フランス）
7. オスカー・ワイルド『幸福な王子』（イギリス）
8. モーリス・メーテルリンク『青い鳥』（ベルギー）
9. セルマ・ラーゲルレーフ『ニルスのふしぎな旅』（スウェーデン）
10. トルストイ『鶏の卵ほどの穀物』（ロシア）
11. 中　勘助『銀の匙』（日本）
12. アルフォンズ・ドーデ『最後の授業』（フランス）
13. ルーズ・ベネディクト『菊と刀』（アメリカ）
14. ウイリアム・モリス『ユートピアだより』（イギリス）
15. 定期試験（90分間）

【後期】
1. オリエンテーション
2. 人間関係のメカニズム
3. 親子関係
4. しつけ
5. しかり方、ほめ方
6. 虐待の現状と対応
7. 保育者と子どもの関係
8. 仲間関係①仲間入り
9. 仲間関係②けんか
10. 保育場面における子どもの事例1（発表）
11. 保育場面における子どもの事例2（発表）
12. 保育場面における子どもの事例3（発表）
13. 保育場面における子どもの事例4（発表）
14. 保育場面における子どもの事例5（発表）
15. 総まとめ（定期試験）

〔講義のすすめ方〕
【前期】
2〜3人がひと組になって、前もって原著の翻訳に目を通し、印象に残ったことを報告し、それをステップにして、レクチャーや話し合いを行います。

【後期】
第1〜9回までは、各回に保育にかかわるさまざまな課題を提示し、講義、グループディスカッション等を行う。
第10回〜第14回までは保育場面における子どもの事例を各自が調べ、発表する。

〔教　　材〕
【前期】
テキスト
荒井　洌著　『保育者のための　世界名作への旅』
冨山房インターナショナル

【後期】
テキスト
子ども学講座第1巻『子どもと生活』一藝社

〔**成績評価の方法・基準**〕
　成績評価の方法は、「履修規定」に準じます。
　受験資格は、「保育士資格規定」に準じます。

〔**履修のポイント・注意点**〕
　全回出席を原則とします。

〔**科目内容の位置付け**〕
　保育士資格取得のために欠かせない、大切な科目です。

K83503

科　目　名	総合演習
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	中谷陽子・荒井洌

〔講義目的〕

【前期】

テーマ：「地球的視野」を育む‘遊び’の効用

‘遊び’に対して寄せられる大方の概念や理解は、「楽しむもの」という狭義的なものや年齢の低い子どもの活動、または教育的には二次的な意味を含む全般に曖昧な表現で語られることが多い。

しかし本来の‘遊び’はより広く充実した内容をもつ人間の営みであり、次のように表現できる：‘遊び’は創意工夫の実験の場であり、知恵の貯蔵庫である。

また、‘遊び’を媒体にした人の交わりの世界に境界線はなく、そして勿論‘遊び’は精神の開放をもたらすものである。

以上の視点から、将来教育現場で活躍する学生にとって‘遊び’の効用を認識することは意義深いことである。

【後期】

幼少年期の原体験というものは、その後の長い人生にとって、意味深い役割を果たすと言われています。このことは、私自身の人生に照らしてみても、実際にうなずいているところです。

人生にとっての原体験と同時に、現代社会のように極度にシステム化される以前の、近代社会の原点ともいうべき時代の雰囲気とを、重ね合わせてみたらどうかと考えます。

そこで、1世紀から1世紀半くらい前に描かれた、子どもたちが登場する世界的に著名な文学作品のいくつかを、このような視点で読み解いてみようと思います。

〔講義内容〕

【前期】

1. 導入授業。演習テーマの解釈と‘遊び’の概念の共通意識化を図るための討議。

2－4. 人間の遊びの歴史を、勿論地球規模でひも解き、遊びに込められた人類の‘知’の進歩を発見する。

5. 最も古い遊びのひとつ「凧揚げ」を、大學の敷地続き、思川の広い河川敷で堪能する。

6－7. 学生の持つ情報技術を手段に、異文化との接触を楽しむ。そのなかで、国や文化の違いを超えて遊びが生き続けてきたことを知る。また、学内の留学生との交流研究も意義深い。「遊びは世界中の人を結ぶ強力な手段である」ことを実感し実証させたい。

8－9. 古くから遊びには生活技術の伝承、礼法、人との付き合い方、社会規範などを学ぶ目的が秘められてきたという、世界共通の事実を見出す。

10－11. 自然破壊を強く再認識するうえでも、地球が生み出してきた‘遊び’という恩恵を知らせ、さらに自然の原理（数学や物理学、建築学）を軸にした優れた遊びへの招待も加えたい。

12－15. 仮想授業のプランニング。［中学生用］と［高校生用］を、4分野の生きた授業内容をグループに分かれて立案・発表する。

【後期】

1. 子どもが登場する世界的な名作の概要
2. ヨハンナ・シュピーリ『アルプスの少女』（スイス）
3. ウィーダ『フランダースの犬』（ベルギー）
4. ローラ・インガスル・ワイルダー『大きな森の小さな家』（アメリカ）
5. リンドグレーン『やかまし村の子どもたち』（スウェーデン）
6. アナトール・フランス『少年少女』（フランス）
7. オスカー・ワイルド『幸福な王子』（イギリス）
8. モーリス・メーテルリンク『青い鳥』（ベルギー）
9. セルマ・ラーゲルレーフ『ニルスのふしぎな旅』（スウェーデン）
10. トルストイ『鶏の卵ほどの穀物』（ロシア）
11. 中　勘助『銀の匙』（日本）
12. アルフォンス・ドーデ『最後の授業』（フランス）
13. ルーズ・ベネディクト『菊と刀』（アメリカ）
14. ウイリアム・モリス『ユートピアだより』（イギリス）
15. 定期試験（90分間）

〔講義のすすめ方〕
【前期】
本演習は次のような内容で行なう。
1 授業内容と方法に関する説明
・「総合的な学習の時間」との関係
・取り扱う課題について
・授業の過程について
「課題発見」→「課題探求」→「まとめ」（発表・模擬授業）
2「遊び」は「地球的視野」を歴史性、文化性、伝承性、自然性の４分野にて育むものとし、各々次のように探求する。
①歴史性（人類の知の歴史との重なりを発見）
人類5000年の‘遊びと遊び材’の歴史をひも解き、それがまさに人間の知の進歩の足跡であることを発見する。
②文化性（異文化交流と情報交換）
国際化の進む社会から人材を得、また情報技術を駆使して異文化（当然遊びを含む）を相互に交流させるなどの経験をして、自分も地球市民の仲間入りを果たす。
③伝承性（遊びは伝承文化の重要な一分野）
人は古来から‘遊び’という形で、大切な文化を伝承してきた。「伝承玩具」は勿論、おもちゃと混同されている「ミニチュア」は、実は、生活技術や礼節を伝えるものである。さらに
現代の暮らしの中に感ずる伝承遊びの衰退には、大きな危機感を抱く。
④自然性（自然が育む豊かな遊びの再発見）
地球は自然が育む豊かな遊びとその材料の‘生みの親’である。‘遊び’を守ってきた「野の人・山の人・海の人」の精神と知恵に触れるような体験を工夫する。

【後期】
2〜3人がひと組になって、前もって原著の翻訳に目を通し、印象に残ったことを報告し、それをステップにして、レクチャーや話し合いを行います。

〔教　　材〕
【前期】
・文部省「小学校学習指導要領」
・中谷陽子・豊澤弘伸編「総合演習の研究」
学教図書出版会

【後期】
テキスト
荒井　洌著　『保育者のための　世界名作への旅』
冨山房インターナショナル

〔成績評価の方法・基準〕
【前期】
出席、模擬授業、ポートフォリオなどにより評価する。提出物は決められた日に研究室に持参する。
期末にポートフォリオを作成する（予定）ので、授業内容を常にメモをしっかりとつける習慣をもつように。
ポートフォリオ：授業で学習した内容を振り返り、自分の学習成果が分かるように、「目次」「見出し」「全体の構成」「あとがき」などを考えて作成した学習記録の事。
・受験資格は、「白鷗大学試験規則」に準ずる。

【後期】
成績評価の方法は、「履修規定」に準じます。
受験資格は、「保育士資格規定」に準じます。

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を原則とします。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目として位置づけられています。
教員資格取得のための重要な科目です。
保育士資格取得のために欠かせない、大切な科目です。

K83504

科　目　名	総合演習
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	五十嵐敦子・川瀬善美

〔講義目的〕
【前期】
本演習は、「人類に共通する課題」「我が国の社会全体に関わる課題」について分析、検討することによって理解を深め、その適切な指導ができることを意図して、新たに設けられた授業科目である。本演習では、特に子どもを取り巻く環境や現代における家族の意義、親子関係に関する今日的かつ具体的なテーマを学生が自由に選択し、それについて調べる方法や技術を実践的に習得することを目的とする。

【後期】
この演習は「人類に関する共通の課題」、「我国の社会全体に関する課題」について分析、検討を行う事によって理解を深める事を目的とします。
特に子どもを取り巻く様々な問題に関するテーマを学生が自主的・自由に選び、それについて研究・発表する事を通じて実践力を習得します。

〔講義内容〕
【前期】
1. オリエンテーション
2. 平和教育について学ぶ
3. 国際理解教育について学ぶ
4. 具体的なテーマ
（少子化、幼児虐待、子育て支援、遊びの変遷、育児、児童文化の国際比較、子育て観の変化、家族観の変化など）を設定する。
5. 特定のテーマに基づくグループ活動
6. 特定のテーマに基づくグループ活動
7. 特定のテーマに基づくグレープ活動
8. 個人研究活動
9. 個人研究活動
10. 個人研究活動
11. 個人研究活動
12. レジメや発表の資料の作成
13. プレゼンテーション方法の検討
14. プレゼンテーション（研究発表会）
15. まとめ（レポート作成指導など）

【後期】
1. オリエンテーション
2. 我国の社会福祉の現状と課題について学ぶ
3. 我国の子どもを取り巻く様々な問題について学ぶ
4. それぞれの研究テーマ・方法の設定
5. テーマに基づくグループ活動
6. テーマに基づくグループ活動
7. テーマに基づくグループ活動
8. 具体的な研究活動
9. 具体的な研究活動
10. 具体的な研究活動及び中間発表
11. 発表の資料作成
12. 発表のプレゼンテーション及び討論
13. 発表のプレゼンテーション及び討論
14. 発表のプレゼンテーション及び討論
15. まとめ

〔講義のすすめ方〕
【前期】
演習科目であるので、各自がそれぞれの問題意識に基づいてテーマを設定し、それについて研究をすすめていく。各自が調査・研究した成果を模擬授業形式で発表する。最終的には、研究した成果をレポートにまとめる。

【後期】
1. テーマごとのディスカッション
2. 研究活動
3. 実地見学・調査
4. 研究発表
以上を行う。

〔教　　材〕
【前期】
テキストは使用しない。
プリントなどを配布する。

【後期】
必要に応じて指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
【前期】
レポート、出席状況、発表に対する姿勢や積極性などで総合的に評価する。

【後期】
出席状況50％、発表内容50％で評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
【前期】
授業に取り組む姿勢として、自主性や積極性が期待される。自分の意見を持つこと、それを表現できるように努力してほしい。
１５回出席を原則とする。

【後期】
主体的に積極的に取り組むことを求める。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格関連科目

K83505

科　目　名	総合演習
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	川瀬善美・五十嵐敦子

〔講義目的〕
【前期】
この演習は「人類に関する共通の課題」、「我国の社会全体に関する課題」について分析、検討を行う事によって理解を深める事を目的とします。
特に子どもを取り巻く様々な問題に関するテーマを学生が自主的・自由に選び、それについて研究・発表する事を通じて実践力を習得します。

【後期】
本演習は、「人類に共通する課題」「我が国の社会全体に関わる課題」について分析、検討することによって理解を深め、その適切な指導ができることを意図して、新たに設けられた授業科目である。本演習では、特に子どもを取り巻く環境や現代における家族の意義、親子関係に関する今日的かつ具体的なテーマを学生が自由に選択し、それについて調べる方法や技術を実践的に習得することを目的とする。

〔講義内容〕
【前期】
1. オリエンテーション
2. 我国の社会福祉の現状と課題について学ぶ
3. 我国の子どもを取り巻く様々な問題について学ぶ
4. それぞれの研究テーマ・方法の設定
5. テーマに基づくグループ活動
6. テーマに基づくグループ活動
7. テーマに基づくグループ活動
8. 具体的な研究活動
9. 具体的な研究活動
10. 具体的な研究活動及び中間発表
11. 発表の資料作成
12. 発表のプレゼンテーション及び討論
13. 発表のプレゼンテーション及び討論
14. 発表のプレゼンテーション及び討論
15. まとめ

【後期】
1. オリエンテーション
2. 平和教育について学ぶ
3. 国際理解教育について学ぶ
4. 具体的なテーマ
（少子化、幼児虐待、子育て支援、遊びの変遷、育児、児童文化の国際比較、子育て観の変化、家族観の変化など）を設定する。
5. 特定のテーマに基づくグループ活動
6. 特定のテーマに基づくグループ活動
7. 特定のテーマに基づくグレープ活動
8. 個人研究活動
9. 個人研究活動
10. 個人研究活動
11. 個人研究活動
12. レジメや発表の資料の作成
13. プレゼンテーション方法の検討
14. プレゼンテーション（研究発表会）
15. まとめ（レポート作成指導など）

〔講義のすすめ方〕
【前期】
1. テーマごとのディスカッション
2. 研究活動
3. 実地見学・調査
4. 研究発表
以上を行う。

【後期】
演習科目であるので、各自がそれぞれの問題意識に基づいてテーマを設定し、それについて研究をすすめていく。各自が調査・研究した成果を模擬授業形式で発表する。最終的には、研究した成果をレポートにまとめる。

〔教　　材〕
【前期】
必要に応じて指示する。

【後期】
テキストは使用しない。
プリントなどを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
【前期】
出席状況50％、発表内容50％で評価を行う。

【後期】
レポート、出席状況、発表に対する姿勢や積極性などで総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
【前期】
主体的に積極的に取り組むことを求める。

【後期】
授業に取り組む姿勢として、自主性や積極性が期待される。自分の意見を持つこと、それを表現できるように努力してほしい。
１５回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格関連科目

K83506

科　目　名	総合演習
教　員　名	冨田　英也

〔講義目的〕
平成14年度から小・中・高等学校では、「生きる力」をはぐくむための教育が実施されている。それを推進する「総合的な学習の時間」が新設され、「自らが課題をもち、自ら学び、自ら考え判断し、問題を解決しようとする力」がなされている。 同様に、この授業では指導法を学ぶことではなく、人類においての共通課題や社会的な問題、平和と人権、環境、高齢化、子どもと教育等々のテーマを、自ら学び、考え、判断し、問題の解決に主体的に取り組み、資質能力を磨くことにある。

〔講義内容〕
1、オリエンテーション
2、課題の設定とグループディスカッション
3、課題の設定とグループディスカッション
4、文献や資料の収集
5、資料の収集と課題探求
6、課題探求
7、課題探求
8、まとめとレポート作成の準備
9、レポート作成
10、レポート作成
11、発表準備討議と検討
12、発表準備とプレゼンテーションの方法
13、プレゼンテーションの作成
14、研究発表と活動報告
15、課題の反省とまとめ、レポート作成

〔講義のすすめ方〕
課題例の紹介とディスカッション、グループの設定と調査活動、研究活動と探索、ワークシートによる活動の確認、グループ発表。

〔教　　材〕
プリント等の配布、教材は使用しない。

〔成績評価の方法・基準〕
基本的には研究活動に対する姿勢や態度の平常点、出席率、プレゼンテーション、等々により総合的に評価する。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目。

K83508

科　目　名	総合演習
教　員　名	赤堀　侃司

〔講義目的〕
総合演習とは、小中高等学校で実施されている、総合的な学習の時間の指導ができるように、教職を目指す学生が、大学で学ぶ演習科目である。その趣旨は、自ら課題を見つけ、解決方法を探求し、それを発表し、評価するという、実践的な能力を習得することである。このため、授業計画では、数人を1グループにして、課題の選択から、発表、評価までを、行う。

〔講義内容〕
第１回　テーマＡの選択１
第２回　テーマＡの選択２
第３回　資料の収集
第４回　作品作り１
第５回　作品作り２
第６回　ポスターセッション発表会
第７回　作品の修正
第８回　口頭発表会と相互評価
第９回　別のテーマＢの選択
第10回　資料収集
第11回　作品作り１
第12回　作品作り２
第13回　口頭発表会と相互評価
第14回　総括的まとめ
第15回　予備日

〔講義のすすめ方〕
基本的には、学生が主体である。3人程度のグループを作って、テーマを選択し、解決策に向けて、情報を探索し、それをまとめ、発表し、相互評価を通して、内容の改善を行うという、PDCA のサイクルを実践する。

〔教　　材〕
特に、テキストはなく、授業時間に、必要な資料は、準備する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席点（40点）と作品の相互評価（30点 X2回）によって、行う。グループ内の評価は、3人であれば、他の2人の貢献度を記入してもらって、個人の評価にする。

〔履修のポイント・注意点〕
欠席しないこと、欠席すると、メンバーの相手に迷惑をかけるので、厳しくチェックする。15回の授業数の内、4回以上（4回を含む）欠席すると、単位を出さない。チィームで協力することが、大切である。努力度を、最も高く評価する。

〔科目内容の位置付け〕
教職の免許を取得する学生にとっては、必修科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目として、教育方法論がある。

K83509

科　目　名	総合演習
教　員　名	増田　仁

〔講義目的〕
本講義は教員を志望する学生に対して子どもへの理解を深める授業を提供することを目的とする。授業の前半では歴史学・教育学・教育史の知見を踏まえながら、これまで「子ども」がどのように捉えられてきたのか、学校制度とのかかわりの中で考察する。その際国際比較の視点を重視する。授業の中盤では、現在子どもの社会的状況はどうなっているのか、少子化、虐待、メディアといったトピックに焦点をあてながら具体的にみていく。後半では、以上の授業を踏まえた上で、グループワークやディスカッションをする機会を設ける。最後に、調査方法について解説を行い、「子ども」を客観的に把握する眼を養う。

〔講義内容〕
1、オリエンテーション
2、「子ども」とは何か？
　——歴史学からの問い——
3、「子ども」と学校制度1
　——日本について——
4、「子ども」と学校制度2
　——諸外国との比較——
5、グループワーク（作業1）
6、グループワーク（作業2）
7、グループワーク（発表）
8、「子ども」をめぐる現在の社会的状況1
　——少子化をめぐって——
9、「子ども」をめぐる現在の社会的状況2
　——虐待をめぐって——
10、「子ども」をめぐる現在の社会的状況3
　——メディアと教育をめぐって——
11、グループワーク（作業1）
12、グループワーク（作業2）
13、グループワーク（発表）
14、調査方法について
15、まとめ

〔講義のすすめ方〕
講義形式の授業だけではなく、ビデオの視聴やグループワーク・ディスカッションも行います。意欲的に参加してください。

〔教　　材〕
参考文献：
竹内洋編他著『教育社会学』有斐閣、1992年、1,957円。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（20％）とグループワークの発表（20％）、レポートの内容（60％）から総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
「子どもとは何か」を考えながら、積極的に本（絵本・小説・学術書等）を読んだりビデオをみたり、実際に子どもを観察していってください。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目として位置づけられている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
教養科目の「歴史学」「社会学」と関連がある。

K83511

科　目　名	総合演習
教　員　名	滝沢　謙三

〔講義目的〕
この授業の目的は、人類に共通する課題や我が国社会全体に関わる課題について理解を深め、その視野を広げると共に、これらの内容に関して適切に指導できるようになることである。
　人類に共通課題としては、「地球環境」「異文化理解」「人権と平和」などがあり、また、わが国の社会全体に関わる課題としては、「少子・高齢化」や「食と命」などいろいろな課題があるだろう。各自がこれらの課題からテーマを設定し、それについて調査・分析をして認識を深め、さらに、そのテーマを適切に指導する方法について研究し、その成果をプレゼンテーションとレポートで発表する。
　問題解決に向けて子どもたちが自ら進んで考えることができるように、学び方や考え方、そして問題を解決する方法を育む教育活動ができるようになることをねらいとする。

〔講義内容〕
第１回　教職科目としての総合演習の目的、授業の進め方について
第２～３回　食の命を扱った指導例
第４～５回　人権と世界平和を扱った指導例
第６～８回　異文化理解を扱った指導例
第９～12回　プレゼンテーション：指導案紹介
第13～14回　総合的な学習のありかたについてディスカッション
　知識の詰め込み型の教育とは違う「生きる力」を育成する教育の観点でプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を行う。幾多の問題を抱えている異文化理解、人権、平和、食と命、少子・高齢化、などについて、一つテーマを設定して調査・研究を行い、さらに、子どもたち自身が、将来これらの問題に対して、自らが対応策を探っていけるようになるにはどうしたらいいかという教育の方法も含めてプレゼンテーションをしてもらう。最後に、プレゼンテーションの内容をレポートの形でまとめる。

〔講義のすすめ方〕
クラスメートの中間発表では、発表チェックシートに自分の意見や感想を記入してもらう。

〔教　　材〕
プリントを配布する

〔成績評価の方法・基準〕
プレゼンテーション　50%
レポート　50%

〔履修のポイント・注意点〕
各自が選ぶテーマに関する調査・研究・洞察の深さがポイントである。計画的に研究を掘り下げることが求められる。

〔科目内容の位置付け〕
教職必修科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特にない。

K83512

科　目　名	総合演習
教　員　名	向井　千代子

〔講義目的〕
総合演習とは小中学校における「総合的な学習の時間」に対応する教職科目の一つである。これは子供たちに「生きる力」をはぐくむため、「考える力」「調べる力」そして「問題解決能力」「発表力」などをつけるための科目である。それを踏まえて、この授業では、まず教員が異文化理解と女性問題を中心として講義を行い、次に学生たちがさまざまなテーマに取り組んで、調べ、発表し、人間尊重の精神を学び、教育者としての視野を広げることを目的とする。

〔講義内容〕
異文化理解については、外国での生活体験に基づいた、文化的な差によるコミュニケーション上の問題を取り扱う。女性問題については、イギリスにおける女性運動および女性解放思想の歴史を紹介し、日本における女性解放運動の歴史にも触れた上で、現在の女性をめぐる諸問題について考えてみる。さらに女性だけでなく、弱者に対する虐めや差別の実態についても取り上げ、それらをなくすためにはどのようにすればよいのかを話し合う。その上で、各自が研究課題を設定し、研究し、最終的には発表を行う。発表は最低二回行う。最終発表は実際の授業を想定して、模擬授業の形式で行う。

〔講義のすすめ方〕
①テーマの紹介、②テーマに対する自由討論、③グループもしくは個人単位での研究調査活動（インタヴューを含む）と報告、④実際に指導する場合の教案つくりの順で行う。
学生たちはまず身近なところから問題を抽出し、新聞雑誌その他の図書を用いて調べるだけでなく、身近な人々へのインタヴュー活動を行い、その結果をまとめて発表する。
テーマは異文化理解や女性問題に限定せず、履修する学生の問題意識に沿ったテーマを選んでよい。

〔教　　材〕
プリントを使用。

〔成績評価の方法・基準〕
基本的に平常点評価。平常点は、出席率、レポート、授業中の態度と参加度、プレゼンテーションをもととして総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕
学生諸君を中心とした授業となるので、常日頃から新聞をよく読み、さまざまな問題（特に教育現場における）に関心を持ってほしい。話し合いのテーマになりそうな新聞雑誌の記事があれば切抜きを作っておくとよい。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目として位置づけられている。現実の社会状況を理解し、幅広い見識を持つことにより、将来的に教育者として「総合的な学習の時間」の指導を行えるような準備をする。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特にない。

K83513

科　目　名	総合演習
教　員　名	神戸　文朗

〔講義目的〕
本演習の目的は教員志望者に、人類の直面する問題（例：環境問題、エネルギー消費、途上国の経済発展、宗教と民主主義）や日本という国家・社会に関わる問題（例：少子・高齢化、負担と給付、自立と福祉、自由と規範意識、達成動機と平等主義）について理解を深めさせ、視野を広げさせることにある。しかしこうした大きな問題は人々の利害や見解が交錯し、一刀両断の解決法も存在しない。むしろ我々は当該の問題に関する基本的なデータと多様な見解を理解した上で、実行可能な解決手段が存在するかを検討することが必要になる。本演習ではクラスを５名から７名程度のチームに分割して、特定の問題解決法に関し１チームにはそれに賛成（現状変更）の立場を、他チームにはそれに反対（現状維持）の立場を与え、両チーム間でディベートを行う。ディベート開催は演習最終日に設定するが、それに先立ち各チームは信頼できる関連データを集積して自らの立論を堅固にし、相手の論拠を打破すべく努力しなければならない。自らの議論を説得的にするためには一面的、イメージ的な理解ではなく自らの立論の根拠となる証拠と相手が立脚する証拠の評価が不可欠である。これらの作業によって諸君は特定の問題に関する多面的な理解と解決法に関する実現可能性の評価の技能を身につけることが期待されている。ディベートの判定は私（及び出来れば他教員）にとってより説得的な議論を展開したチームの勝ちとする。若干中立な審判の立場とは矛盾するが、私は演習の全段階において各チームのデータ、立論、反論の内容について評価と指導を行う。

〔講義内容〕
１　ディベートの説明、スケジュールの説明、問題の提示、チームの編成、
２　データ収集法、データの信頼性、引用方法の説明、ディベートにおける注意点
３　データ収集
４　チーム別収集データの発表と評価
５　自己申告によるデータ収集に関する貢献度調査
６　チーム別立論の発表と評価
７　自己申告による立論に関する貢献度調査
８　模擬ディベート
９　立論・反論の評価と修正
10 ディベート開催と勝利チームの決定、自己申告によるディベートに関する貢献度調査

〔講義のすすめ方〕
受講者は所属するチームの勝利のために自発的、積極的に各作業に参画しなければならない。また全ての講義日への出席が求められている。判定基準は審判者にいかにデータに基づき説得的に議論を展開できたかという点にある。データに基づかない一人よがりの議論を展開したり、反論に対して適切な再反論が出来なかったり、相手チームに感情的に反発したりすることは説得性を失わせる行為である。

〔教　　材〕
必要資料を配布する。データ収集は各人が最良の努力をもって行う。

〔成績評価の方法・基準〕
出席５０％、ディベートにおけるチームの勝敗３０％（勝ち３０％；負け２０％）＊、自己申告によるチームへの貢献度２０％（大２０％；中１０％；小０％）。＊もし両チームの論拠が互角の場合は、あえて現状を変更するに十分な説得性を与えられなかったとして現状維持のチームの勝ちとする。

〔履修のポイント・注意点〕
前述のように全ての段階においてチームのために積極的に貢献すること。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目、総合演習

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
なし

L00101

科　目　名	国語概説Ⅰ（書写を含む）/ 国語概説
	授業形態：講義
教　員　名	井上　次夫

〔講義目的〕
国語概説では、国語に関する基礎的・基本的な知識を分析的視点より探究すると同時に、小学校の国語科の指導内容を三領域「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」及び一事項「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」にわたって探究する。これらはいずれも国語科の授業（学習指導）を展開するに際し、その基盤となる内容である。
上記のことを踏まえ、特に国語科における授業（学習指導）実践を視野においた模擬授業の設計について研究していくことにする。

〔講義内容〕
本科目では、国語科における実践的指導力の基礎の育成を志向し、概ね以下のような内容について検討する。
1　言語生活の様相
2　表現と理解との関連
3　表現過程と理解過程
4　表記法
5　教育漢字
6　国語科の内容の構成
・「A話すこと・聞くこと」
・「B書くこと」
・「C読むこと」
・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
7　教材の授業設計
・教材の分析
・指導目標の検討
・指導事項の検討
・指導の手順の検討
・発問事項等の検討
・教材・教具の検討

〔講義のすすめ方〕
講義、演習、グループ学習、プレゼンテーション等を中心に授業を進めていく。
本科目では、国語科における授業設計力の獲得を目指しているため、受講生は毎回の授業内容が次の授業へと継続・発展していくことを認識しておくこと。

〔教　　材〕
テキスト　文部省「小学校学習指導要領解説国語編」東洋館出版社　その他については、最初の授業時に連絡する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況、授業内テスト、課題プリントやポートフォリオ等の提出物、授業での応答、発表等授業への貢献度により総合的に評価する。
〇出席
〇テスト
〇提出物
〇授業への貢献度

〔履修のポイント・注意点〕
出席をとる。授業の３分の２以上出席した受講生を評価対象者とする。失礼な遅刻は３回で１回の欠席とする。
授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。
期末にポートフォリオ（授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて作成した学習記録。すなわち、これまでの学習を凝縮したオリジナルな学習記録のこと。）を提出してもらう予定なので、授業内容は随時メモしておくこと。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目（「国語科教育法」）等の基礎科目として位置付けられている。国語科の授業（学習指導）を行う際の基盤となる科目であるという認識のもとに授業に臨むこと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
国語表現法Ａ・Ｂ、国語科教育法

L00201

科　目　名	国語概説Ⅱ（書写含む）/ 初等国語
	敬語・方言と国語教育
	授業形態：講義
教　員　名	佐藤　高司

〔講義目的〕
①内容
・現代日本語の敬語について基礎知識を学び、国語教育に生かす教材を作ります。
・子どもの遊びや学校に関する方言を調べ考察し、国語科における調べ学習を実体験します。
②目的
・小学校教師として日本語に関する教養を高める。
・調査、統計、考察、発表等の調べ学習における活動を体験する。
・教材作りや統計処理等にＰＣを活用する能力を高める。
③最終到達目標
・日本語に関する高い教養を持った教員
・調べ学習を指導できる教員
・教材作成や統計処理に強い教員
となることを目的とします。

〔講義内容〕
第１回　ガイダンス（授業の概要）
第２回　現代日本語の敬語・役割分担
第３回　敬語に関する教材作り１
第４回　敬語に関する教材作り２
第５回　敬語に関する教材作り３
第６回　子どもの遊びや学校に関する方言
第７回　敬語に関する教材の発表会１
第８回　敬語に関する教材の発表会２
第９回　子どもの遊びや学校に関する方言調査の統計処理１
第10回　子どもの遊びや学校に関する方言調査の統計処理２
第11回　子どもの遊びや学校に関する方言調査の考察１
第12回　子どもの遊びや学校に関する方言調査の考察２
第13回　子どもの遊びや学校に関する方言調査の発表会１
第14回　子どもの遊びや学校に関する方言調査の発表会２
第15回　まとめ

〔講義のすすめ方〕
前半では、現代日本語の敬語について基礎知識を学び、国語教育に生かす教材をパワーポイントで作り、発表します。
後半では、子どもの遊びや学校に関する方言を調べ、統計処理し、考察し、発表します。
教員は必要に応じ、説明の補足、指示及びアドバイスを行います。

〔教　　材〕
教科書：『その敬語では恥をかく！』・井上史雄・PHP 研究所・1200円（税別）
参考図書：『出身地がわかる！　気づかない方言』・篠崎晃一＋毎日新聞社・毎日新聞社・900円（税別）

〔成績評価の方法・基準〕
出席数・授業中の意見交換や討論への取り組み(40％)
発表(30％)
レポート(30％)

〔履修のポイント・注意点〕
＜重要＞
第1回及び第2回は必ず出席すること（グループ分け、役割分担をします)。
＜重要＞
次の(1)～(3)のいずれか一つでも該当する場合には評価の対象としません。
(1)3分の1以上の欠席
(2)発表（2回）を行わない
(3)レポートを作成・提出しない

〔科目内容の位置付け〕
小学校教諭免許のための「教科に関する科目」（国語（書写を含む。））として位置付けられています。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
『国語科教育法』を受講後に本演習を受講することが望ましい。

L01001

科　目　名	社会科概説Ⅰ／社会科概説
	授業形態：講義
教　員　名	奥澤　信行

〔講義目的〕
小学校社会科の学習内容のうち主として地理的分野を扱う。社会科は第３学年から履修が始まるが、第３学年から第５学年では地理、第６学年で歴史および公民の内容を扱っており、地理に関する分量が多くなっている。地理的な内容で扱う空間については、身近な地域から始まって、市町村・都道府県・国・世界の中の日本へと面的スケールを順次拡大させる構成になっているが、それぞれの空間に関して、単に地名や特産品を暗記させる無味乾燥な学習を排除し、地理的事象を観察、調査した上で具体的な資料を効果的に活用して、地域社会の特色や地域間相互の関係を考える「問題解決能力」の育成が重視されている。本講義ではこのような地理の本来あるべき姿に主眼を置いて、地理の面白さを受講生が感じ取れるようにした上で、さらにこれを児童に伝える方法にまで踏み込んだ説明を行う。

〔講義内容〕
Ⅰ社会科の成立と変遷
①社会科の成立
②小学校社会科の変遷
Ⅱ社会科教育の目標
①教科目標
②学年目標
Ⅲ社会科教育の内容
①第３学年および第４学年の内容
②第５学年の内容
③第６学年の内容
Ⅳ社会科の実践課題
①地図や地図帳の活用
②情報の収集と活用
③「総合的な学習の時間」との関連

〔講義のすすめ方〕
小学校の社会科についてその概観を理解することが目的であるため、講義が中心となる授業である。なお小学校を現場とした諸問題が発生した場合にはこれを授業で即座に取り上げ、ディスカッションにより教育への関心をより深化させたい。

〔教　　材〕
テキストは特に使用せず必要に応じてプリントを配布する。

参考書　『社会科教育の研究』佐々木昭著
学文社
『改訂小学校学習指導要領の展開社会科編』北俊夫編著　明治図書

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と試験の成績で評価する。出席については、毎時間出席カードを配布して厳格に記録にとどめ、これを点数化するので出席状況が評価を左右することがある。学生証によるタッチ式の出席も併用するが、カードとタッチ式の出席状況に差異が生じた場合には、カードによる記録を優先する。定期試験は論述式により解答する形式で、授業で取り上げたテーマから出題する。なおノート等の持ち込みは一切認めない。規定回数以上出席した受講生を評価対象者とし、試験の成績75％、出席点25％の割合で評価する。また授業中の積極的な発言はプラス点として加味したい。

〔履修のポイント・注意点〕
小学校教員免許取得希望者が履修している点を踏まえ、教育現場の実態についても具体例を挙げて説明するので、受講生も常に教育問題に関心を持って授業に臨んでもらいたい。学校や教育に関わる社会問題については、これを生きた教材として利用したいので、自分なりの考えをまとめる習慣を身に付けておくことを希望する。また教員希望であるからには、基本的に真面目であることが前提となるであろう。真摯な態度で授業に取り組んでもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
小学校社会科で扱う内容について、基本となる事項について説明する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
教職のための地理という性格が強い科目であるため、地理学全般を概観する意味から教養科目の「地理学Ａ・Ｂ」を履修することを薦める。

L01101

科　目　名	社会科概説Ⅱ / 初等社会科
	授業形態：講義
教　員　名	高田　雄康

〔講義目的〕
　小学校社会科の授業設計や授業実践の方法や技術の基礎を培う。演習や模擬授業を中心に行い、常に児童の立場に立って、分かりやすく楽しい授業とは何か問い続けながら、小学校社会科のねらいが達成できる教科指導の在り方を求めていく。

〔講義内容〕
1　小学校中学年の社会科学習指導（主として地理的内容）
　ア　社会科学習指導案作成の手順
　イ　単元観
　　単元目標と小学校学習指導要領・社会科との関連
　　社会科の観点別目標
　ウ　単元展開計画
　　社会科の学習指導過程
　オ　本時の学習指導案
　　〇教材作成（主として地図等の活用法）
　　〇発問・板書計画
　　〇評価計画
2　社会科における見学・観察学習
3　小学校高学年の社会科学習指導（主として歴史的内容）
　ア　学習指導案作成
　　〇単元観
　　〇単元展開計画
　　〇本時の指導計画
　イ　模擬授業
4　小学校社会科の主な学習内容と留意点

〔講義のすすめ方〕
　まず、学習指導案や教材などの共同作成を通して、授業設計の基礎の理解を図り、最終的に一人で学習指導案作成ができるようにする。更に、模擬授業を通して、指導技術の基礎を養う。

〔教　　材〕
〇小学校学習指導要領解説・社会編（文部科学省）
〇小学校社会科教科書、副読本
〇プリント等

参考書
『新学力観に立つ社会科』　北　俊夫著　明治図書

〔成績評価の方法・基準〕
〇出席状況、演習中の発表や態度　３０％
〇レポート　３０％
〇授業内テスト（２回）　４０％

〔履修のポイント・注意点〕
〇　社会科概説、社会科教育法を履修していることを前提に講義を進める。したがって、これらの科目を履修してから受講してほしい。
〇　学習指導案作成や模擬授業の演習を効果的にするためには、課題を持って臨むことと事前の準備が必要である。
〇　自己向上のためには他から学び取ろうとする真摯な態度と広い心が大切である。
〇　初等社会科を履修してから小学校の教育実習に臨むことが望ましい。教育実習後又は並行して受講する場合は、そこで経験したことを演習等に積極的に生かすこと。

〔科目内容の位置付け〕
〇　小学校の社会科指導の実践力を養う。
〇　小学校教員免許取得希望者は、小学校での教育実習が必須であり、小学校の教員は、全教科の指導ができることを原則としているので、小学校社会科指導の実践力の基礎を身に付けていく必要がある。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
〇前提科目　社会科概説、社会科教育法
〇関連科目　小学校教育実習

L02001

科　目　名	算数概説Ⅰ／算数概説
	授業形態：講義
教　員　名	後藤 達生

〔講義目的〕

小学校算数の全体について概説します．算数科の大きな特徴ですが，根底にあって理解すべきことは，あまり多くはありません．この数少ない基本事項の理解を徹底するのが，この講義の大きな目的です．

算数の指導内容は４領域に分割され，さらに幾つかの小項目に分かれています．多くの項目は学年ごとに繰り返し扱われ，回り階段を昇るようにして進んでいきます．例えば，位取り記数法を用いて表される数は，第１学年では百までの自然数ですが，学年を追って桁数を増し，第４学年では億,兆までになります．さらに小数の記数法が扱われますが，これらはすべて十進位取り記数法というひとつの原理に基づいています．たったひとつのこの原理から，多くの興味深い事柄を導くことができます．

この講義で扱われる教材は小学校算数科の教材が中心ですが，中学校数学の教材にも触れます．数の概念、図形の概念など微妙に扱いが違うところがあります．

算数や数学は決して暗記科目ではありません．根本にある数少ない原理を理解すれば，そこから多くのことを学ぶことができます．学生諸君の一人でも多くの者が算数好き，数学好きになってもらうことがこの講義の最大の目的です．

〔講義内容〕

第１回　ガイダンス
第２回　整数と記数法
第３回　約数と倍数
第４回　小数と記数法
第５回　乗法の意味
第６回　除法の意味
第７回　分数
第８回　無理数
第９回　円周率
第10回　作図
第11回　等積変形
第12回　角の３等分
第13回　正5角形
第14回　立体と展開図
第15回　テスト

〔講義のすすめ方〕

講義中心に進める．また、出席を確認するために毎回小テストを行う．小テストで取り上げた問題の類題が学期末の試験でも出題される．

〔教　　材〕

「教科書」　教科書はとくに使わない．
「参考書」「小学校学習指導要領解説・算数編　平成20年8月（文部科学省）」東洋館出版社，250円

〔成績評価の方法・基準〕

出席点(30%)，毎回の講義での小テストおよび期末試験など（70%）による．

〔履修のポイント・注意点〕

毎回の講義ではノートをきちんと取ること．教科書がないこの講義ではノートがとくに大切になります．

〔科目内容の位置付け〕

算数科教育法の基礎科目で，小学校教員免許状関連の「教科に関する科目」．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕

前提科目はないが，しいて言えば中学校数学．（算数・数学嫌いを克服したいと思ったら中学校の教科書を読み直すことを勧めます．）関連科目としては算数概説 II/ 初等算数．

L02101

科　目　名	算数概説Ⅱ / 初等算数
	授業形態：講義
教　員　名	後藤 達生

〔講義目的〕
　算数概説と講義目的の本質は変わりません．小学校算数で取り上げられる教材の根底にあるものをさらに詳しく解説します．算数概説では中学校数学との関連にも触れましたが、この講義では小学校の教材に絞っています．算数概説や算数科教育法で取り上げられなかった教材や，教材の別の捉え方などを講義します．
　また実際の授業を展開するとき、犯しがちな過ちの具体的な例を通して授業作りの工夫の仕方についても触れます．算数概説、算数科教育法と初等算数で小学校算数科の全体像が見えてくる筈です．

〔講義内容〕
第１回　計算のきまり
第２回　数学的な考え方
第３回　図と立式
第４回　倍の三用法
第５回　面積公式再考
第６回　角の意味
第７回　三角定規と作図
第８回　合同と相似
第９回　立体と展開図
第10回　体積
第11回　資料と平均
第12回　単位量あたりの大きさ
第13回　関数の考え
第14回　比と比例
第15回　テスト

〔講義のすすめ方〕
　講義形式で授業を進めるが、毎時間出席をとるかわりに問題演習の小テストをおこないます．出題は授業で取り上げた教材に関連する、過去の教員採用試験問題が中心です．

〔教　　材〕
「参考書」
・「小学校学習指導要領解説・算数編（文部科学省)」東洋館出版社，250円
・「間違いだらけの算数指導」片桐重男 , 明治図書 , 2058円

〔成績評価の方法・基準〕
　出席点（30%)、毎回の小テストおよび学期末試験など(70%）による．

〔履修のポイント・注意点〕
　毎回の講義ではノートをきちんと取ること．教科書がないこの講義ではノートはとくに大切になります．

〔科目内容の位置付け〕
「講義の目的」で述べたように，算数概説，算数科教育法で取り上げられなかった算数の教材を中心に，算数の基本にあるものをゆっくり，のんびりと解説したいと思います．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
　前提とする科目は算数概説 I．関連科目は算数科教育法．

L03001

科　目　名	理科概説Ⅰ／理科概説
	授業形態：講義
教　員　名	小原　政敏

〔講義目的〕
小学校の理科の内容について学習指導要領を中心に理科の目標と内容についての全体像を把握することと小学校理科指導の基本的な考え方や評価の観点について学習する。

〔講義内容〕
1）小学校学習指導要領と理科
　学習指導要領の目標
　理科の目標
2）理科と生活科
3）各学年の理科
　３年生の理科の目標と内容
　４年生の理科の目標と内容
　５年生の理科の目標と内容
　６年生の理科の目標と内容
4）理科の評価の観点
5）理科と総合的な学習
6）人間形成と理科教育
7）探究活動と理科教育
8）素朴概念と科学概念
9）期末考査（６０分）

〔講義のすすめ方〕
学習指導要領理科の内容を全般的に理解できるように講義を中心に解説する。内容によっては簡単な演示実験を示しながら解説する。

〔教　　材〕
教科書
　①小学校学習指導要領理科編（文部科学省）
　②改訂小学校学習指導要領の展開理科編（変更の可能性あり、講義で指示する。）
　①、②は必ず備えること。
参考書　必要に応じて紹介する。
VTR・補助プリント
パソコンソフト

〔成績評価の方法・基準〕
小学校理科の理解、児童に理科を楽しく興味関心を高められるような指導への意欲や努力を評価する。
筆記試験　学期末の定期試験
レポート　提出・内容について評価
（必要に応じて指示する。）
判定基準（講義内容で変更あり）
　・試験点数　　65％あるいは85％（レポートを課さない場合）
　・出席率　　15％
　・レポート　　20％あるいは0％

〔履修のポイント・注意点〕
小学校の理科の内容は、単純なものであり、児童が興味を持ちやすい内容である。　多くの児童は、理科には興味関心を示す。　児童には理論的な説明を高度には求めることはないが、理科を指導するものとして科学的な認識や原理原則をしっかりと理解することが大切である。
小学生の素朴な疑問に正対して答えるには、教師が自然現象についてしっかりと理論的に原理原則から科学的に理解していることが必要であり、小学校理科の内容の全般にわたる解説はこの講座のみであるので意欲的に学習して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
小学校の理科の内容の内容について最初に学ぶ講座である。この講座で小学校理科の内容と考え方を理解することが必要である。
この科目の内容の理解を基礎にして「理科概説Ⅱ」、「理科教育法」に進むことができる。
新学習指導要領では、理数系の学習内容が大幅に増加し、学習内容も高度になっている。理科の内容について全般にわたり扱う科目はこの科目に限られるので日頃から理科に関わる内容について興味関心をも持ち、理科全般にわたる内容解説科目として大切な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　なし。
関連科目
・教養科目として「環境科学」がある。
引き続く科目
「理科概説Ⅱ」
「理科教育法」

L03002

科　目　名	理科概説Ⅰ／理科概説
	授業形態：講義
教　員　名	鈴木　宏昭

〔講義目的〕
小学校の理科を教える教員としての基本的な力量を身につけることを目的とする。そのため、現代理科教育研究の動向を踏まえつつ、理科の目的論、内容論、教授学習論、教材論、評価論をはじめたとした、初等理科教育の理論と実践について解説する。特に、理科の目標と内容構成について重点的に解説する。

〔講義内容〕
1) 現代の理科教育を取り巻く諸問題
　①国際学力調査の結果の解説
　②実際の理科授業をビデオで視聴
2) 初等理科教育の意義と目標
（小学校学習指導要領の目標を中心に）
3) 理科の歴史
（日本や欧米の初等理科教育の変遷）
4) 初等理科教育内容の内容構成
　A：物質・エネルギー
　B：生命・地球
5) 現代理科教授・学習論
　①構成主義学習論
　②問題解決学習
6) 理科教育教材論
（理科教材の変遷、小学校理科の教科書の特徴）
7) 理科教育評価論
（絶対評価・観点別評価を中心に）
8) 理科教育実験における安全管理
　①観察実験活動における事故対策
　②理科に関連する薬品管理
9) 学習指導案の作成

〔講義のすすめ方〕
学習指導要領理科の内容を全般的に理解できるように講義を中心の形式をとる。内容によっては簡単な演示実験を示しながら解説する。また、必要に応じて作業を随時取り入れたい。
実験・観察は、関連科目である「理科教育法」で実施する。

〔教　　材〕
教科書は、特になし。
適宜、印刷資料を配付する。
参考文献は、そのつど紹介していく。
できれば、以下の文献を入手してほしい。
〇文部科学省、小学校指導要領解説、理科編、
大日本図書、平成20年8月。

〔成績評価の方法・基準〕
試験、レポート、授業時の発表、出席（出席状況も十分に評価に加味する。授業日数の2/3以上の出席が定期試験の受験基礎資格とする。）を総合して行う。
・試験点数　60％
・出席率　20％
・レポート，その他　20％

〔履修のポイント・注意点〕
小学校の理科は、どのような目標と内容が設定された教科であるのかを理解してほしい。そのため、小学校学習指導要領で書かれている内容を正確に理解することが重要である。また、現代理科教育が抱える様々な問題点についても解説する。自分自身が受けてきた理科授業を思い出しながら、それらの問題点の改善に真摯に取り組み、有効な方策を考えてみてほしい。

〔科目内容の位置付け〕
小学校の理科について最初に学ぶ講座である。そこで、この講義では、小学校理科の目的と内容構成を理解することがもとめられる。この科目の内容の理解をもとにして「初等理科」（「理科概説Ⅱ」）、「理科教育法」が展開される。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目はない。関連科目には、「理科教育法」がある。また、教養科目に「生物学」、「物理学」、「環境科学」がある。

L03101

科　目　名	理科概説Ⅱ / 初等理科
	授業形態：講義
教　員　名	小原　政敏

〔講義目的〕
小学校の理科という教科について全体的・一般的な理解を深めるとともに理科概説の基礎の上に「理科教育法」で扱うことの出来なかった化学と地学・生物に関する内容を実験的に学ぶことが目的である。可能な限り、実験を中心にして実験を通して理科の内容について理解を図ることを目指している。
さらに、学生による理科の模擬授業を可能な限り実施し、理科の授業における指導力の育成と教育実習への対応を図ることを目指している。
「理科教育法」に加えてさらに理科についての指導力を高め、幅をひろげたいと望む学生に対応することを目指している。

〔講義内容〕
1）自然環境と物質
・大学の周りの自然観察
・空気の温度・圧力の実験
・水溶液の実験（溶解度と温度）
・酸性とアルカリ性の実験
・燃焼実験（酸素と炭酸ガスの確認）
・気体濃度の測定（酸素・炭酸ガス）
2）地球と宇宙
・日陰と日なたの比較実験
・太陽・地球・月の位置と時間の関係
・水と水蒸気の実験
・岩石の観察
・化石の観察
3）模擬授業と授業研究（模擬授業の回数は受講生数により調整する。）
・学生による模擬授業と授業研究Ⅰ
・学生による模擬授業と授業研究Ⅱ
・学生による模擬授業と授業研究Ⅲ
4）期末考査（６０分）

〔講義のすすめ方〕
小学校を中心にして理科全般の理解を目的としているので、この講座では実験を中心に理科について幅広く知識を広め、理解を深められるようにする。実験には中学校・高等学校の内容も加えることがある。必要に応じてVTRやパソコンを利用する。原則として毎回実験レポートを提出する。学生による模擬授業を可能な限り多く実施し、理科の授業の方法に習熟するとともに理科の授業研究を行う。

〔教　　材〕
教科書　小学校理科指導の研究　建帛社（理科教育法の教科書と同様）
参考書　必要に応じて紹介する。
VTR・パソコンソフト
補助プリント

〔成績評価の方法・基準〕
科学的思考力、自然科学に対する興味関心、理科を楽しくしようとする意欲や模擬授業への工夫や努力等を評価する。
筆記試験　学期末の定期試験
レポート　提出・内容について評価
（必要に応じて指示する。）

判定基準
・試験点数　65％
・出席率　15％
・レポート・模擬授業　20％

〔履修のポイント・注意点〕
小学校理科の内容について知識を広め、体系的に原理原則から理解を深める努力が必要である。知識と同時に実験技術の習得や科学的に考えることが大切である。小学校の児童は日々の活動をを通して自然や物についても純粋な疑問を発するものである。子どものそのような質問に興味深く答えられるようになりたいものである。
理科授業の実践力を高める努力を期待したい。

〔科目内容の位置付け〕
科学技術に囲まれて生きる子ども達に科学について興味関心を高める最初の機会となる小学校の理科の役割は極めて大きい。
教師自身が科学に興味関心を示すことによって子ども達にも理科に関心を高めるための刺激を与えられる知識・技能・指導力を身に付けたい。
「理科教育法」では、時間不足で扱うことの出来なかった内容の実験的学習と模擬授業による授業実践力を高めることを目指している。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　理科概説Ⅰ
関連科目
・理科教育法
・教養科目として「生物学」「物理学」「環境科学」「科学史」

L04001

科　目　名	生活科概説Ⅰ／生活科概説
	授業形態：講義
教　員　名	石井 智子

〔講義目的〕
① 小学校低学年の教科生活科に関する理解を深める。
② 小学校低学年の教科生活科の理念、教科目標、学年目標、教科構成、計画立案、子ども理解と支援、指導法、評価法、教材研究法等について、テキストや実践事例を基に理解を深める。
③「生活科概説Ⅰ/ 生活科概説」を通して、教師としての資質の基礎を養う。

〔講義内容〕
第1回の授業で、講義目的や授業方針等の説明と各回の授業予定を提示する。
○ 教科の理解を深める講義
・生活科新設の背景・趣旨と生活科の意義
・生活科の理念と教科目標・学年目標
・生活科の内容構成と９つの内容
・指導計画の作成と内容の取扱い
・生活科における学習指導と子ども理解・支援
○ 生活科における教師の役割の理解を深める演習等
・単元配列・年間指導計画・単元計画の分析・考察
・環境構成や指導計画
・栽培活動
・獣医師による飼育活動法
・情報交換や発表活動と相互評価

〔講義のすすめ方〕
○「小学校学習指導要領解説・生活編」をテキストとして生活科の概要を理解するための講義と、子どもの思いや願いを大切にした実践事例や単元展開案等を活用し、演習、作業、獣医師による飼育活動等の体験を重視する。

〔教　　材〕
○ 小学校学習指導要領解説・生活編（平成２０年８月）・文部科学省・日本文教出版・101円
第１回授業から使用するので持参すること（第１回授業で販売予定）
○ 自作プリント、実践事例、展開案、年間指導計画等（随時）
○ その他は第１回授業で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
○ 毎回の授業にて提出のレポート、小テスト等（出席状況）（３０％）
○ 演習等での作成物・作品、発表活動での作品・相互評価、栽培活動での作成物、ポートフォリオ作成と自己評価等（７０％）

〔履修のポイント・注意点〕
○ 第１回授業で配付する授業予定表に示される内容に関連する「小学校学習指導要領解説・生活編」を読み予習すること。
○ 作成方針に基づきポートフォリオを作成すること。
○ 授業内容に関係する実践事例や資料等を自主的に収集し活用すること。

〔科目内容の位置付け〕
○ 教科生活科の理論や構成等の理解を中心とする基礎的な内容を主とし、体験的な内容を取り入れる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
○ 関連科目：生活科教育法　　生活科概説Ⅱ/初等生活科

L04101

科　目　名	生活科概説Ⅱ / 初等生活科
	授業形態：講義
教　員　名	石井 智子

〔講義目的〕
①　「生活科概説Ⅰ / 生活科概説」及び「生活科教育法」の内容を踏まえ、応用・発展化を図り実践力を高める。
②　生活科の授業参観、事例研究、活動案作成等を通して、低学年生活科の学習指導の在り方について理解する。
③　「生活科概説Ⅱ / 初等生活科」を通して、教師としての資質の基礎を養う。

〔講義内容〕
第1回の授業で、講義目的や授業方針等の説明と各回の授業予定を提示する
○　教科の理解を深める講義
　・生活科指導における教師の役割
　・生活科で育成する学力と指導
　・生活科における教材研究や教材開発、子ども理解法
　・子どもにとって魅力ある生活科の指導計画等
○　指導の具体化を図る立案演習
　・活動や体験に関する実態把握
　・生活科の学習過程と単元構成
　・単元構成と学習環境の構成
　・子どもに即した指導と評価の一体化
　・子ども理解の事例分析
○　小山市立小山第一小学校における生活科の授業参観（１～２回）
　・授業参観前の指導計画略案作成
　・授業参観の記録
　・授業参観後の分析・考察

〔講義のすすめ方〕
○　既習の「生活科概説Ⅰ / 生活科概説」「生活科教育法」の内容を踏まえ、子どもの思いや願いを大切にした実践事例や単元展開案等を活用・発展させ、演習、作業、授業参観等の体験を重視する。

〔教　　材〕
○　小学校学習指導要領解説・生活編（平成２０年８月）・文部科学省・日本文教出版・101円
　　第１回授業から使用するので持参すること（第１回授業で販売予定）
○　自作プリント、実践事例、展開案、年間指導計画等（随時）
○　その他は第１回授業で提示する。

〔成績評価の方法・基準〕
○　毎回の授業にて提出のレポート、小テスト等（出席状況）（３０％）
○　演習等での作成物・作品、授業参観に関する作成物、発表活動での作品・相互評価、ポートフォリオ作成と自己評価等（７０％）

〔履修のポイント・注意点〕
○　第１回授業で配付する授業予定表に示される内容に関連する「小学校学習指導要領解説・生活編」を読み予習するとともに、既習の「生活科概説Ⅰ/　生活科概説」及び「生活科教育法」で作成したポートフォリオで復習しておくこと。
○　授業内容に関係する資料、実践事例等を自主的に収集し活用すること。
○　作成方針に基づきポートフォリオを作成すること。

〔科目内容の位置付け〕
○　教科生活科の基礎的内容の「生活科概説Ⅰ / 生活科概説」、実践的内容の「生活科教育法」の履修者を対象とし、「生活科概説Ⅱ / 初等生活科」では応用発展的な内容を主とする。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
○　前提科目：生活科概説Ⅰ / 生活科概説　　生活科教育法

L05001

科　目　名	家庭科概説Ⅰ／家庭科概説
	授業形態：講義
教　員　名	増田　仁

〔講義目的〕
本講義の前半では、家政学教育の歴史を振り返りながら、社会における家政学教育科への期待や家政学教育が実際に果たしてきた役割を確認する。まず明治期から戦時期における家政学教育が学校においてどのような位置づけをされ、どのような教育実践を行っていったのかを見ていく。次に、戦後教育改革期における日本の家庭科の成立過程について分析し、家庭科という教科がその当初からもつ特質を明らかにしていく。さらに「高度経済成長期」における家庭科教育の変容について分析を加えていく。当該期には産業構造の変化と共に、都市部を中心に主婦になる女性が増え、家庭科、特に高等学校家庭科は主婦養成科目という性質を色濃くしていく。最後に1980年代以降を見ていくが、この時代になると家庭科の男女共修をめぐって様々な議論がなされ、実際に男女共修が実現したが、その社会的背景やその後の家庭科教育の変化について解説を加えていく。
授業の半ばでは家庭科教育の親学問である家政学の知見を援用しながら、家庭科教育を教えるうえでの基礎知識を確実にしていく。授業の後半では、少子高齢化が進む現在の日本社会において、家庭経営はいかにあるべきかビデオ等を視聴しながら皆さんとともに考えていきたい。

〔講義内容〕
1、オリエンテーション
2、明治初期から戦時期までの家政学教育1
3、明治初期から戦時期までの家政学教育2
4、家庭科の戦後史１
　――家庭科の誕生1――
5、家庭科の戦後史2
　――家庭科の誕生2――
6、家庭科の戦後史3
　――家庭科の位置づけをめぐって――
7、家庭科の戦後史4
　――「高度経済成長期」と家庭科教育――
8、家庭科の戦後史5
　――男女共修の家庭科の成立過程――
9、家庭科教育と家政学1
　――衣生活領域において――
10、家庭科教育と家政学2
　――食生活領域において――
11、家庭科教育と家政学3
　――住生活領域において――
12、家庭科教育と家政学4
　――家族・家庭生活領域において――
13、これからの家庭科教育1
　――仕事と家庭のバランスを目指して――
14、これからの家庭科教育2
　――少子化社会が問いかけるもの――
15、まとめ

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義形式であるが、授業中にリアクションペーパー等で受講者の意見をきく機会を設ける。関連ビデオの視聴も行う。

〔教　　材〕
指定図書：
柳昌子・中屋紀子編著『家庭科の授業をつくる―授業技術と基礎知識―』学術図書出版社、2009年。

参考文献：
朴木佳緒留・鈴木敏子共編『資料から見る戦後家庭科のあゆみ』学術図書出版社、1995年、2,060円。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（20％）とテスト（80％）から総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
「家庭科とは何か」という問いを発しながら、家庭科教育の射程範囲の広さを味わってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
入門・導入的な科目である。

L05101

科　目　名	家庭科概説Ⅱ / 初等家庭科
	授業形態：講義
教　員　名	増田　仁

〔講義目的〕
本講義では、まず子どもが家事労働を行うことの社会的意味について理論的・歴史的に考えていきたい。そのうえで子どもに対して行う家事労働教育はいかにあるべきか、子どもが自らの生活の中から課題を発見させる家庭科教育の授業はいかにしたら可能か考えていきたい。次に戦後教育改革期に小学校家庭科がどのような経緯で成立したのか、その紆余曲折について解説しながら、家庭科教育全体における小学校家庭科の位置を明らかにしていく。3番目に現在、衣・食・住それぞれの領域において小学校家庭科がどのような授業を展開する事が望ましいとされているか、学習指導要領等を参考にしながら考察する。最後に、現在小学校家庭科で取り組まれている授業実践を紹介したうえで、受講生に家庭科の学習指導案を作成してもらい、模擬授業の発表、講評を行う。

〔講義内容〕
1、オリエンテーション
2、子どもと家事労働
3、子どものための家事労働教育
4、戦後教育改革期の家庭科教育における初等家庭科の位置づけ
5、1950年代における初等家庭科をめぐる議論
6、初等家庭科と学習指導要領1
　――衣生活をめぐって――
7、初等家庭科と学習指導要領2
　――食生活をめぐって――
8、初等家庭科と学習指導要領3
　――住生活をめぐって――
9、現在における初等家庭科の取り組み1
　――衣生活をめぐって――
10、現在における初等家庭科の取り組み2
　――食生活をめぐって――
11、現在における初等家庭科の取り組み3
　――住生活をめぐって――
12、模擬授業1
13、模擬授業2
14、模擬授業3
15、まとめ

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義形式（授業の後半では実習形式）であるが、授業中にリアクションペーパー等で受講者の意見をきく機会を設ける。

〔教　　材〕
指定図書：
文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』2008年、95円。

参考文献：
小学校家庭科教科書
柳昌子・野村康代編著「家庭科の授業と家政学（小学校編）」北大路書房、1989年、2,200円。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（20％）と模擬授業（30％）、レポートの内容（50％）から総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
生徒に教えるに値する家庭科とは何か、考えながら聴講してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
応用・発展レヴェルの科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「家庭科概説」、「家庭科教育法」

L06001

科　目　名	音楽概説Ⅰ
	授業形態：講義
教　員　名	冨田　英也

〔講義目的〕
音楽の基礎を理解し、音楽の意味や機能（はたらき）を捉え、豊かな感性と認知能力の向上をねらいとする。さらに音楽の歴史と教育者や思想家の教育観や理念を理解し、生涯にわたって音楽に親しみ、芸術文化のよさを味わい、生活や社会に生かし豊かにする態度を育成することを目的とする。

〔講義内容〕
我が国の音楽文化において歌い継がれてきた日本のうたや和楽器の伝統音楽を再認識し、表現や鑑賞の幅広い活動を味わい、音によるコミュニケーションを通して生活や社会と豊かにかかわり、親しみ継承する態度を育む。精神面で人の心や感情を左右する音楽について探究し、現代社会の色々なジャンルの音楽が氾濫した中で、人と音文化の流れや、音楽の有効的活用や音楽環境等について見つめ直し考察する。

〔講義のすすめ方〕
第１回、音楽って何だろう（音楽の起源・語源・特質）
第２回、西洋音楽歴史と我が国の音楽の歩み
第３回、世界の音楽教育と音楽教育学者・思想家Ⅰ
第４回、世界の音楽教育と音楽教育学者・思想家Ⅱ
第５回、音楽の基礎Ⅰ（読譜力、音階と音程）
第６回、音楽の基礎Ⅱ（調とその関係、移調と転調）
第７回、音楽の基礎Ⅲ（和音と和声、記号と標語）
第８回、音楽の基礎Ⅳ（楽式論）
第９回、音楽の楽しみ（西洋音楽）
第10回、音楽の楽しみ（民族音楽）
第11回、音楽の楽しみ（日本音楽）
第12回、サウンドスケープ（音の風景）
第13回、環境音楽とアメニティ
第14回、アコースティック音楽とメディア音楽
第15回、まとめ、音楽の歴史や理論を学び生涯にわたり音楽を愛好する態度が育成されたか評価する

〔教　　材〕
参考図書
１、小学校課程のための教科教育法　音楽編　教育芸術者　1470円
２、「音楽の歴史と音楽観」 笠原潔著　日本放送出版協会
３、「はじめての音楽史」 片桐功他共著　音楽之友社
４、「奏でることの力」 若尾裕　春秋社

〔成績評価の方法・基準〕
レポートや学期末試験出席等の総合評価、 出席率30%、学期末試験70%

〔履修のポイント・注意点〕
音楽の役割や目標を考えると、人間の根源的で基本的な幸福の価値観にあると思われる。それは、現代社会の問題点を映し出しており、人とのかかわりから心や愛情に問題のあることが計り知れる。そうした時代を超越して音楽について概観する。

〔科目内容の位置付け〕
小学校教諭資格取得関連科目、幼稚園教諭資格取得関連科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
音楽科教育法、音楽実技Ⅰ（ピアノ）、音楽実技Ⅱ（子どもの音楽）、ソルフェージュ、（音楽理論、ピアノ演奏技術、童謡や子どもの歌、等々）

L06101

科　目　名	音楽概説Ⅱ（声楽）
	授業形態：講義
教　員　名	荒井　弘高

〔講義目的〕
　音楽科の目標は「表現及び鑑賞を通して音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的能力を培い、豊かな情操を養う。」である。これらを実現するには、まず教育者自身に音楽を愛好する心情、感性が備わっていなければならない。本授業は、学年毎の歌唱教材研究を主な柱として、音楽科の内容である表現・鑑賞領域の歌唱についての理解を深めることを目的とする。同時に自らの音楽技術を高め、音楽を楽しむ心及び感性を養うことを目標としたい。
　なお、教員採用試験のための「弾き歌い」の指導も行いたい。

〔講義内容〕
第１回　授業の概要説明、発声法①
第２回　子どもの歌及び唱歌の歴史、発声法②
第３回　第１学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導、発声法③
第４回　第２学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導、発声法④
第５回　第１学年・第２学年歌唱教材の歌唱表現指導、及び鑑賞
第６回　第３学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導、発声法⑤
第７回　第４学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導、発声法⑥
第８回　第３学年・第４学年歌唱教材の歌唱表現指導、及び鑑賞
第９回　第５学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導、発声法⑦
第10回　第６学年の歌唱教材研究と歌唱表現指導、発声法⑧
第11回　第５学年・第６学年歌唱教材の歌唱表現指導、及び鑑賞
第12回　個別歌唱法指導①
第13回　個別歌唱法指導②
第14回　個別歌唱法指導のまとめ
第15回　公開演習（定期試験）

〔講義のすすめ方〕
・講義内容に沿って実技中心の講義を行う。
・お互いに伴奏を弾き合い、伴奏と歌唱両面から歌唱表現法を指導する。

〔教　　材〕
・必要に応じて資料を配布する

〔成績評価の方法・基準〕
・出席50％、平常点及び発表会形式による定期試験50％により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
・歌唱教材の暗譜を目標に、日々努力すること。

〔科目内容の位置付け〕
・音楽概説Ⅰの歌唱表現・鑑賞分野をより具体的に理解する科目である。
・小学校の学年別に配置されている曲を主として取上げる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
・ソルフェージュを必ず履修済みであること。
・音楽実技Ⅰ、音楽概説を履修済みであることが望ましい。

L06201

科　目　名	音楽概説Ⅲ（器楽）
	授業形態：講義
教　員　名	今田　政成

〔講義目的〕
音楽における表現・鑑賞領域の教育内容の器楽について理解を深めます。
音楽表現の能力とは、リズム、旋律、強弱、速度、音色、和音や和声、拍の流れやフレーズなど、音楽を特徴付けている諸要素に対する感受性と、それらを基盤とした音楽的な表現の技能及び楽譜についての理解や聴奏等の能力を指し、音楽を確実に表現するためには身につけていなければならない。
ピアノを演奏する際に必要なメカニック及び表現の習得法を具体的に学び更にピアノの歴史や表現様式の変遷等にも触れます。
音楽の授業で必要とされる和音（コード）伴奏の理解や、弾き歌いの技術も学びます。

〔講義内容〕
第１回　授業の概要と進め方を説明
第２回　鍵盤楽器の種類及びその歴史について
第３回　ピアノ演奏の基本を学ぶ（座り方、腕の位置、ピアノからの距離）
第４回　ピアノ演奏の基本を学ぶ（指使い、タッチ、ペダルの効果）
第５回　演奏解釈への展開（楽譜の読み方、練習の仕方）
第６回　音楽理論（音階と音程）
第７回　音楽理論（調とその関係）
第８回　音楽理論（和音、主要三和音）
第９回　コード伴奏及びコード伴奏で弾き歌い1
第10回　コード伴奏及びコード伴奏で弾き歌い2
第11回　バロック・古典派・ロマン派の演奏様式について
第12回　連弾・２台ピアノ及びピアノアンサンブル1
第13回　連弾・２台ピアノ及びピアノアンサンブル2
第14回　連弾・２台ピアノ及びピアノアンサンブル3
第15回　発表（演奏形式）

〔講義のすすめ方〕
講義内容にしたがってピアノ練習・演奏を中心にすすめていく

〔教　　材〕
毎時間用意します

〔成績評価の方法・基準〕
後期の実技試験、平常の態度や進度努力、出席状況

〔履修のポイント・注意点〕
日々の努力と探求心により、毎時間の課題をしっかり消化し、次のステップとなるための予習、復習を必ず行うこと。

〔科目内容の位置付け〕
音楽実技Ⅰにおいて基礎を学び、当授業において現場に必要な技術を習得する

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
音楽実技Ⅰ（基礎）音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）

L07001

科　目　名	図画工作概説Ⅰ
	授業形態：講義
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
　明治以降の美術教育の歴史を概観し、「図画工作科」が成立した経緯を学ぶ。それをもとに現在の初等教育における図画工作科の意義、果たすべき役割とそれを達成するために必要とされる学習内容について、学習指導要領とその変遷を踏まえて概説する。

〔講義内容〕
1．美術教育の歴史(1)
　明治初期：鉛筆画時代
2．美術教育の歴史(2)
　明治中期：毛筆画時代
3．美術教育の歴史(3)
　明治後期：教育的図画時代
4．美術教育の歴史(4)
　大正期：自由画教育時代
5．美術教育の歴史(5)
　昭和初期：戦時下と戦後
6．学習指導要領の変遷
7．学習指導要領の解説(1)
　材料や場所をもとにした造形活動
8．学習指導要領の解説(2)
　絵や立体で表す
9．学習指導要領の解説(3)
　材料と用具
10．学習指導要領の解説(4)
　鑑賞
11．評価について
12．絵画指導の方法論(1)
13．絵画指導の方法論(2)
14．図画工作科の意義と役割

〔講義のすすめ方〕
　要点をスライドで写し、解説を加える。

〔教　　材〕
　教科書は使用しない。必要に応じて参考資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験による評価。
　定期試験　　100％

〔履修のポイント・注意点〕
　問題意識をもって受講して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
　小学校教員免許を取得する学生のための科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　なし。

L07101

科　目　名	図画工作概説Ⅱ（立体）
	授業形態：講義
教　員　名	粕谷　圭司

〔講義目的〕
当講座では、現在の初等教育における図画工作教育の果たす役割とその意義について、学習指導要領を踏まえて概説する内容としたい。特に我々の身近にある三次元である、立体について考察することを主たる目的に据えて学ぶこととする。

〔講義内容〕
① 立体彫刻を知る優れた作品の解説
② 石膏の取扱いについて学ぶ
③ 立体造形製作のための道具とその使用方法を学ぶ
④ 美術館　博物館等での解説を含めた鑑賞

〔講義のすすめ方〕
参考資料等のプリントや板書で説明と同時演習も加える。

〔教　　材〕
参考資料プリントを使用し参考書は使用しない。

〔成績評価の方法・基準〕
出席８０％　レポート２０％

〔履修のポイント・注意点〕
身近にある三次元（立体）について興味を持ち、その中から問題意識が芽生えることを期待する。

〔科目内容の位置付け〕
初等教育免許を取得する目的の学生対象

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
図画工作概説Ⅰ

L07201

科　目　名	図画工作概説Ⅲ（平面）
	授業形態：講義
教　員　名	小久保　裕

〔講義目的〕
子供の美術表現は人間性を養うための重要な営みであり、絵を描くことを通して、対象の理解や自分の世界が深められ、感動する心、イメージする力を培うことが出来る。さらに作品を創る過程において、あるいは完成した作品を通して、対象理解や感動を共有することが出来る。このように心を共有しあえるという側面は、クラスの子供たちの相互理解や信頼感を高めるために今日、重視されるべきことである。
　ここでは、主に絵画を通して、美術に関する諸能力を高めることを主眼に置き、絵画、版画、デザインなどについての理解を深めることを目的とする。

〔講義内容〕
第１回　子供の絵画表現
第２回　絵画　①
　モチーフ（題材）とテーマ（主題）について
第３回　絵画　②
　ドローイングとペインティングについて
第４回　絵画　③
　　ペンと鉛筆
第５回　絵画　④
　　コンテと木炭
第６回　絵画　⑤
　　クレヨンとマーカー
第７回　絵画　⑥
　　クレパスとパステル
第８回　絵画　⑦
　　透明水彩と不透明水彩
第９回　絵画　⑧
　　構図と構成について
第10回　版画　①
　　版画とは・版画の種類
第11回　版画　②
　　各種版画の試み
第12回　版画　③
　　各種版画の試み
第13回　デザイン　①
　　デザインの基礎
第14回　デザイン　②
　　色彩の感情効果について
第15回　デザイン　③
　　文字のデザイン

〔講義のすすめ方〕
要点はプリント、板書、参考作品によって解説を加える。その理解のために小グループによる実技実習から発表まで行う。

〔教　　材〕
テキストは使用せず、プリント等配布する。画材を必要とするが、その都度指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
「履修規程」に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
小学校教員免許を取得する学生の為の科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
図画工作概説Ⅰ、Ⅱ

L08001

科　目　名	体育概説Ⅰ
	授業形態：講義
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
本科目の目的は、小学校学習指導要領に明示されている体育の内容に関して学ぶことである。

〔講義内容〕
本科目の内容は、小学校学習指導要領の概要と高学年で示されている７領域のうち「体つくり運動」「表現運動」「ボール運動」の技術や理論について体を動かしながら学ぶことである。
小学校学習指導要領の概要については、教科の目標、各領域の大まかな内容と構造等について学んでいく。加えて、小学生の体力の現状や体育授業の現状についても事例をもとに学んでいく。
「体つくり運動」については、「体力を高める運動」や「体ほぐしの運動」について、理論と簡易な実技を通じて、その考え方を学んでいく。
「表現運動」については、「フォークダンス」や「創作表現」をしていく上での基礎的な動きやリズムに合わせた動き等を学んでいく。
「ボール運動」では、攻防入り乱れ型のゲーム形式のうち、シュート型の代表として、バスケットボール（場合によっては、ポートボール）を取り上げる。
なお、「器械運動」「陸上運動」の内容については、体育概説Ⅱで扱うこととする。また、各領域の指導方法については、体育科教育法で扱う。

〔講義のすすめ方〕
授業は、複数の教員で担当をする。はじめはガイダンス及び全体講義とする。それ以降は、グループに分かれて授業を行う。毎時間は、理論と実技で構成される。グループ分け、あるいは全体指導等については、適宜授業で指示をする。

〔教　　材〕
参考図書
小学校学習指導要領解説体育編・文部科学省・東洋館出版社

〔成績評価の方法・基準〕
出席 50%
レポート 30%
普段の活動の様子 20%

〔履修のポイント・注意点〕
本科目は、単に体を動かすだけの科目ではない。小学校の体育において必要とされる技術的なポイントや動きの基礎などを知的に理解することも含んでおり、「できる」と「わかる」の統一を目指している。そのため、毎時間、必ず、筆記用具を持参し、ポイントを積極的にメモすること。また、実技を兼ねて行う場合、運動着で参加をすること。
体育は、教育実習においても指導しなくてはならない可能性が高く、子どもの安全管理に直結する科目でもある。実習先で困惑しないためにも、しっかりと基礎的なルールや技術を理解してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
体育概説Ⅰは、小学校において体育を指導するための入門となる科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本科目は、体育科教育法、体育概説Ⅱと関連している。

L08101

科　目　名	体育概説Ⅱ
	授業形態：講義
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
本科目の目的は、小学校学習指導要領に明示されている体育の内容に関して学ぶことである。

〔講義内容〕
本科目の内容は、小学校学習指導要領の概要と高学年で示されている７領域のうち「陸上運動」「器械運動」「水泳」の技術や理論の学習に加え、模擬授業を実施し、小学校において体育を指導できるようにすることである。なお、水泳は条件が整い次第実施する。

〔講義のすすめ方〕
本科目は、教室・体育館のいずれも使用する。教室では現場の授業のビデオを試聴し、指導のポイントや背後にある理論について学ぶ。体育館では、体を使って実技をしながら、教室で学んだポイントを確認する。

〔教　　材〕
適宜指定する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席 50%
レポート 30%
普段の活動の様子 20%

〔履修のポイント・注意点〕
本科目の履修者は３年生以上であり、教育実習を目前に控えている学生がいる。教育実習先で安全且つ楽しく授業を進めるには授業者の用意周到な準備が必要となる。本科目では、「陸上運動」「器械運動」の実技を交えながら、そうした準備の重要性を実感してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
体育概説Ⅱは、小学校において体育を指導するための応用科目として位置づけている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本科目は、体育科教育法、体育概説Ⅰと関連している。

L09001

科　目　名	子どもの運動
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	内山　須美子

〔講義目的〕
体育という教科から見るとき、保育者あるいは教員として、次の事柄が重要であると考えられるので、以下の項目を達成することを講義の目的とする。
(1) 保育者、教員自身が健康であり、体力のあること、(2) 子どもの身体の発達や運動能力の発達について理解していること、(3) 体育指導の基礎的な理解と指導援助法を身につけていること

〔講義内容〕
（1）について
①保育士や教員の仕事を学ぶことによって、健康の維持や体力の必要性に気付く②体力づくりを実施する
（2）について
①年齢による身体発達・運動能力の発達について理解する②一般的な身体発達・運動能力の発達について理解する
（3）について
①年齢に見合った運動遊びや体育の学習内容について調べる②運動遊びや体育の学習が、身体・運動発達だけでなく、社会性や協調性、さらには思考力を育むものであることを理解する③具体的な運動遊びや体育の学習を通して、安全管理のポイント、指導・援助の方法について学ぶ

〔講義のすすめ方〕
保育園、幼稚園での運動遊びの内容を学んだ上で、自分達で調べた遊びをプログラム化し、模擬的に指導を実施する。

〔教　　材〕
特に指定しない

〔成績評価の方法・基準〕
出席、授業への姿勢、レポート等を含めて総合的に評価する

〔履修のポイント・注意点〕
自ら学ぶ姿勢を持つこと

L09501

科　目　名	教育基礎論
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
いま教育に危機感を抱く人が多い。教育基本法をはじめ学校教育法の改正など、日常的に「教育」が語られることが多い。
　さらに次世代を担う子どもや青年たちの教育ばかりでなく、その日常の生活の中でも危機感をつのらせているのが現状である。
　本講義の目指すところは「学生諸君が教育的な視点から身近な問題をしっかりとらえる力を持ち、一市民として自分なりの意見が持てて、必要な場ではそれを自分のことばで語れること」である。

〔講義内容〕
①　子どもの歴史をひも解く。
②　過去５年間の教育資料を解く（教育の意義と目的）
③　現代の教育を支える歴史上の人物描写
④　教育課程の基準の指導のねらい（４本の柱）を学び、演習（以下に進める）の方針を確認する。
・豊かな人間性や社会性を育成すること
・自ら学び、自ら考える力を育成すること
・基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること
・特色ある教育、特色ある学校づくりをすすめること
⑤　④を踏まえ、演習形式で学習を進める：テーマを得て、グループ活動の形式で、自主的に生徒達の学習計画を立案する面白さを発見する。
⑥　学習指導要領の変遷を知り、現在の教育のよりどころを確認する。
⑦　いじめ、不登校の理解

〔講義のすすめ方〕
１．上記講義内容①？④は教育の現状を根本から正しく認識するために、講義形式で学ぶ。
２．講義を踏まえて、続く具体的な教育活動への接近を試みる《演習形式で》。
３．教育の４本の柱を、学部の特徴を生かしながら仲間と練って、教育の本質を初歩段階ながら実感し、それを発表する。
＊時間の余裕があったらくはなのたより＞を読む。
はなのたよりとは：
青木雅夫先生による「校長通信」であるが、便りの行間から、現代社会の課題を理解し、現場からの教育への提言を読み取る。

〔教　　材〕
テキスト：「教育学概論」生野・中谷・金田共著（＊開講後に指示）

〔成績評価の方法・基準〕
①　出席状況
②　普段の努力（グループ形式で討議しながら進める自由研究）
③　学期末の試験

〔科目内容の位置付け〕
教員採用試験（教採）を考えるとき、本講義には関連した内容が連なっていることを発見するであろう。

L09502

科　目　名	教育基礎論
教　員　名	赤堀　侃司

〔講義目的〕
教育基礎論の目的は、現実の教育現場におきる様々な問題や現象を、教育の本質から考察し、理解する視点を養うことである。教師は、教育現場においては、多様な問題に遭遇し、その度に適切な判断を求められる。その判断は、生きている子ども達を対象にしているので、責任があると同時に、状況に応じては、きわめて難しい。正解を求めることよりも、教育の本質から、あるべき姿を求め続ける態度を養うことも、本科目の目的である。

〔講義内容〕
第１回　学ぶということ
第２回　教育の価値を知ること
第３回　教育の目的は何か
第４回　諸外国と日本の教育
第５回　教師とは何か
第６回　学校教育と学校外教育
第７回　学校教育の変遷
第８回　勉強すること
第９回　評価すること
第10回　カリキュラムとは何か
第11回　教科書とは何か
第12回　生徒指導とは何か
第13回　いじめや不登校の課題
第14回　家庭教育とは何か
第15回　まとめと試験

〔講義のすすめ方〕
始めに、具体的な教育の課題を提示する。その課題について、問題をどうとらえるか、どう理解するか、どう対応するかについて、自分の意見を、ワークシートまたはノートに書く。その後で、各自に意見を述べて、自分で納得した考えを、意見の修正として、書き込む。その後、この問題に関連する理論的な解説を行う。最後に、自分の意見をまとめる。この方法によって、教育現場の問題を、どう判断するかという視点と態度を養う。

〔教　　材〕
以下のテキストを使用する。
「問いとしての教育学」（福村出版）、沼田弘之、増淵幸男、\2200＋税金

〔成績評価の方法・基準〕
基本的には、出席点（50％）とレポート点（50%）の合計点で、行う。レポートは、中間レポートと学期末レポートの2回を想定している。いずれも、授業の中で行い、その場で、問題を提示して、与えられた時間内に書いて提出する。ノートなどの持ち込みは、可とする。

〔履修のポイント・注意点〕
自分で考える習慣を身につけること、人前で自分の意見を発表できることが、基本になる。授業では、必ず自分の意見を求められるので、恥ずかしがらないで、意見を述べること。それと、ノートすること、まとめて書くことが、基本なので、毎時間の授業で、練習していただきたい。

〔科目内容の位置付け〕
教職の免許を取得する学生にとっては、必修科目であり、教育学の基礎的な内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目として、教育課程論、教育方法論、教育制度論、教師論がある。

L09503

科　目　名	教育基礎論／教育原理
	保育士や教師になるための教育学入門
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	石堂　常世

〔講義目的〕

本科目は、保育士養成教育課程で「保育の本質・目的の理解に関する科目」として位置づけられている。さらに、保育士資格のみならず、幼稚園、小学校一種の教員免許取得に対しても必修科目として配当されている基本科目である。

本授業では、教育についての基本的な原理を理解させることを目的としているが、上記の資格取得からして、生徒一般よりもとくに幼き「子ども」に焦点を置き、教育の意義、目的、幼児教育の歴史と思想、子どもの発達と成長、教育制度と法規約、実践原理と今日的動向について考察を深めさせる。

最終的に、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されている諸原則を、社会の変化を踏まえてより多角的に、さらには国際的見地からも考察を深められるよう、合わせて、子どもの健全育成を願う暖かい指導者として活躍できる人材育成をめざす。

〔講義内容〕

第１回　序論　教育とは何か　家庭教育・学校教育・社会教育の一体化
　　（課題１：私の受けた家庭教育）
第２回　家庭教育の意義、母親の役目と子育ての意味（発表・討論）
第３回　家庭教育と保育所・幼稚園との連続性・連携
第４回　幼児教育の歴史と思想（新教育思想）そのⅠ
第５回　幼児教育の歴史と思想（新教育思想）その２
第６回　子どもの成長・発達の原理
第７回　子どもにおける道徳性・規範意識の育成
第８回　保育士の姿勢と役割
　　（課題２：私のめざす保育士）
第９回　幼児教育の健康・安全に関する諸問題、保育所のリスクマネージメント
第10回　学校とは何か、学校制度、教育法規
第11回　教育課程、学習指導要領　教育施策
第12回　幼稚園教育要領の原理、小１問題、幼保一元化などの動向
第13回　保育所保育指針にみる保育の原理
第14回　社会の変化と子どもの健全育成上の諸問題、地域子育て支援体制について
第15回　定期試験（９０分）実施

〔講義のすすめ方〕

・講義式であるが、教科書の他に、毎回授業レジュメを配布して理解の徹底を計る。
・また、関連資料の配布も行い、ものごとを実証的に理解させる。
・レポート課題は原則２回出す予定で、教育の原理の理解を自分自身の主体性と連動させていくように計らう。
・課題は次の授業で発表させたりすることによって、自分の成果と他者の成果を比較検討させ、子育て理解や教育の重要性を共通認識できるようにはからう。
・毎回質問があるかどうかを確認しながらそれに応じ、興味を促しながらの相互交流方式で、楽しく明るく授業を展開する。

〔教　　材〕

・特定教科書は使わずに、毎回、授業レジュメ（配布）、関連資料（配布）を使用する＜重要＞。
・参考書として、『小学校新学習指導要領　ポイント総整理』東洋館出版社、2008
　『幼稚園教育要領・保育所保育指針』チャイルド本社、2008
　『幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷』萌文書院、2008
　『幼児期から児童期への教育』国立教育政策研究所、ひかりのくに社、2008
　『幼児教育と小学校教育の連携と接続』光生館、2008
　『幼児期の尊さと教育』田中亨胤・中嶋紀子編著ミネルヴァ書房

〔成績評価の方法・基準〕

以下の３項目の総合評価とする。
１　定期試験（９０分）８０％
　受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。
２　レポート課題（２回）１０％
３　出席率、その他、授業における積極性　１０％

〔履修のポイント・注意点〕

全回出席を原則とする。欠席が半分以上の場合、不可とする。

保育士資格取得のための重要な科目である

〔科目内容の位置付け〕

保育士資格取得のための重要な科目である。

何よりも、教職課程科目で最初に履修していただきたい。

L09504

科　目　名	教育基礎論／教育原理
	教職に対して真摯な関心をいだくための入門講座
教　員　名	石堂　常世

〔講義目的〕
授業のねらい
　本講義は教職課程科目の基本科目であり、この授業を通して、教育の理念および教育の歴史と思想に関する基礎・アウトライン・課題を理解させる。受講者は、教育を無意識的に受けてきた立場から、客観的に教育という問題を解明し、検討する立場に転じる。この連関性を効果的につけることで、人間の成長・発達や社会における教育という機能の大切さに目覚めることを可能とする。先ず、教育の理念は、「教育は何のために」の問いを基にして、人間教育の意義と目的を理解させる。その際、教育の思想史的考察を用いる。次いで、教育の歴史について、学校の発達の歴史と変遷を制度史と思想史の両面から説明し、西洋社会の教育の歴史と、わが国の教育の歴史を立体的に理解できるようにしていく。
　中学校、高等学校の教員免許取得につないでいけるよう、教職の基本的認識がつくように講義する。

〔講義内容〕
授業計画
1．序　教育の意義：家庭・学校・社会
　積極的教育と消極的教育
　個人の成長としての教育と社会的機能としての教育
2．課題研究：私が受けた教育―その意義を考察する―
3．人間の教育を問う：飼育と訓練と教育の違い
4．教育の目的を問う：プラトン・アリストテレス、コメニウス
5．人間の認識と感覚の位置付け：ソクラテス、モンテーニュ、ロック
6．新教育とは何か　子ども理解の思想・学説の系譜
　ルソー・ペスタロッチ、フレーベル、エレン・ケイ・デューイ
7．経験主義の教育思想　戦後教育の展開
8．教育の歴史　古代―中世－近世―近代－現代
9．学校設立の思想：西洋　コンドルセ、ランジュヴァン＝ワロン教育改革案
10.　同上　　日本　藩校の教育原理、「学制序文」
11. 日本の学校の規定　変遷と現状　「教育勅語」から「教育基本法」
12. 教育基本法の改正、学習指導要領の改訂について
13. 教育課程とは何か　教師の使命
14. 社会変動の中の子どもたち：青少年育成問題と教育の環境整備
15. 試験（まとめ）

〔講義のすすめ方〕
・授業は、順を追って進めているので、安易に休まないこと。
・講義式であるが、時々、発表をさせる。
・授業で配布する資料を読ませることもある。

〔教　　材〕
●毎回、授業のレジュメと関係資料のプリントを配布する。＜最重要＞
　課題レポートとしては、授業内容に関係のある教育雑誌掲載論文を読ませて考察させる場合もある。
教科書：安彦・石堂『現代教育の原理と方法』（勁草書房）2,200円
参考書：授業中に随時、参考文献を示唆する。

〔成績評価の方法・基準〕
評価（総合点）
1．授業中に出すレポートの点数（４段階評価）（20%）
2．出席状況と授業態度の積極性（10%）
3．学期末試験（70%）

其の他：レポートを発表させ、相互に考察を広めていく主体的な授業構成とする。

〔履修のポイント・注意点〕
教職課程の科目の中では、最初の年度に受講するのが望ましい。

L10001

科　目　名	教育課程論 P/ 教育課程論
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	桑原　憲一

〔講義目的〕
教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の目標や内容、授業時数などを総合的に組織した学校の教育計画である。この教育課程は、校長を中心として全教職員の参画の下に、学校が主体性を持って編成していかなければならない。
したがって、教職に携わる者は、教育課程に関する基礎的・基本的な事項を修得しておかなければその使命と責務を果たすことはできない。
本講義では、平成２０年に改訂された学習指導要領を踏まえ、教育課程の概念や意義、教育課程編成の一般方針、指導計画の作成、編成の手順と評価等について研究を深めつつ実践能力をはぐくむことを目的とする。

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション
　　教育課程の概念と意義
第２回　教育課程の基準
第３回　教育課程編成の主体と原則
第４回　教育課程編成の基本方針
第５回　各教科等の授業時数等
第６回　指導計画の作成
第７回　学習指導要領の意義と法的根拠
第８回　学習指導要領の内容
第９回　各教科等の指導内容
第10回　教育課程実施上の配慮事項
第11回　演習　週日課の作成
第13回　演習　時間割の作成
第14回　教育課程編成の手順
第15回　教育課程の評価と改善

〔講義のすすめ方〕
本講義では、講義、グループワーク、演習等を中心に実践的に授業を進めていく。適宜、参考資料を配布するのでファイリングをすること。

〔教　　材〕
参考図書：小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省）

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（３０％）、課題レポート（２０％）、試験（５０％）により、出席３分の２以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。平常点は、出席状況、研究姿勢、授業時のワークシートの内容等を総合的に勘案して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
各講義は内容相互の関連性が深く、系統的、発展的に計画されていることに留意して履修すること。講義は、現場教師の誰もが有していなければならない基本的事項であるので、受動的な聴講とならないようにすること。
また、創造力や計画力を高めて実践的能力を育成することに主眼をおくこと。机上には講義に必要な物以外は置かないこと。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目として位置付けられている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
各教科指導法、道徳教育の研究、生徒指導論、教師論

L10002

科　目　名	教育課程論 P/ 教育課程論
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	福田　真奈

〔講義目的〕
①　平易な科目内容
　保育所保育指針の保育課程・幼稚園教育要領の教育課程について、保育目標と保育実践の関係、指導計画の立て方、指導計画の書き方、指導計画と評価に関して講義する。

②　講義の目的
　指導計画を立てる意義は何であろうか。どのように保育者が目標を設定するかによって、保育の内容が変わり、子どもたちが活動の中で経験すること、子どもの心の育ちに違いが見られることはいうまでもない。子どもが安心感と信頼感を持って生活し、子どもが主体となった活動が展開できるように、環境を構成し、指導計画を作成することが求められてくるのである。
　本講義では、保育所保育指針の保育課程・幼稚園教育要領の教育課程とは何か、教育課程、保育課程と指導計画、乳幼児の姿を具体的に考慮し指導計画の作成する際の留意点、指導計画の立て方、指導計画の書き方を教授する。そして学生自らが指導計画を作成、評価し、保育者に求められる子ども理解と保育を計画する力を育成する。

③　最終到達目標
　保育所保育指針の保育課程、幼稚園教育要領の教育課程について理解する。
　子どもの姿に沿って保育目標を立て、指導計画を作成し、評価する。

〔講義内容〕
第１回　保育の基本と指導計画の意義
第２回　幼稚園教育要領と教育課程
第３回　保育所保育指針と保育課程
第４回　保育における記録の意味
第５回　教育課程、保育課程と指導計画
第６回　子どもの主体性と指導計画
第７回　指導計画の作成上の留意点
第８回　指導計画の立て方
第９回　指導計画の書き方
第10回　指導計画の作成①
第11回　指導計画の作成②
第12回　指導計画と保育実践
第13回　指導計画とその評価
第14回　指導計画の点検
第15回　試験

〔講義のすすめ方〕
　指導計画は各自が作成する。必要に応じて、グループワークを取り入れる。

〔教　　材〕
幼児教育課程・保育計画総論（第3版）　建帛社
保育所保育指針　幼稚園教育要領

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価の方法は「履修規定」に準ずる。
受験資格は「保育士資格規程」に準ずる。
学期末試験　（評価の50％）
レポート、課題への取り組み　（評価の40％）
小テスト及び小レポート　（評価の10％）

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　保育内容五領域に関する講義を受けていることが望ましい。

L10501

科　目　名	教育法演習 A/ 初等教材研究 A(言語・文化系)
	授業形態：演習
教　員　名	佐藤　高司

〔講義目的〕
①内容
『小学校学習指導要領』国語科の内容を具体化した授業展開例を学び、模擬授業を行います。
模擬授業後には授業研究会を行います。
②目的
小学校国語科教育に関する実践力を向上させることです。
③最終到達目標
明日からでも教壇に立てる小学校の教員となれるよう、充実した国語科の学習指導ができるようになることを目的とします。

〔講義内容〕
第１回　ガイダンス（授業の概要）
第２回　小学校国語科の学習指導案
第３回　授業プラン１（話すこと・聞くことの領域）（書くことの領域）（読むことの領域）
第４回　授業プラン２（伝統的な言語文化に関する事項）（言葉の特徴やきまり・文字及び書写に関する事項）
第５回　模擬授業・授業研究１（話すこと・聞くことの領域）
第６回　模擬授業・授業研究２（書くことの領域）
第７回　模擬授業・授業研究３（読むことの領域）
第８回　模擬授業・授業研究４（伝統的な言語文化に関する事項）
第９回　模擬授業・授業研究５（言葉の特徴やきまり・文字及び書写に関する事項）
第10回　授業研究・授業研究６（話すこと・聞くことの領域）
第11回　授業研究・授業研究７（書くことの領域）
第12回　模擬授業・授業研究８（読むことの領域）
第13回　模擬授業・授業研究９（伝統的な言語文化に関する事項）
第14回　模擬授業・授業研究10（言葉の特徴やきまり・文字及び書写に関する事項）
第15回　まとめ

〔講義のすすめ方〕
前半では、小学校国語科の学習指導案の書き方を学び、授業プランを作成します。
後半では、作成した授業プランをもとに模擬授業を行い、授業研究会を行います。
教員は必要に応じ、説明の補足、指示及びアドバイスを行います。

〔教　　材〕
教科書：『小学校新学習指導要領の展開　国語科編』・新しい国語教育を創造する会・明治図書・1785円
参考図書：『小学校学習指導要領』（平成20年）・文部科学省・東京書籍・238円
参考図書：『小学校学習指導要領　国語編』（平成20年）・文部科学省・東洋館出版社・122円

〔成績評価の方法・基準〕
出席数・授業中の意見交換や討論への取り組み(40％)
模擬授業(30％)
学習指導案(30％)

〔履修のポイント・注意点〕
＜重要＞
第1回及び第2回は必ず出席すること（グループ分け、役割分担をします)。
＜重要＞
次の(1)～(3)のいずれか一つでも該当する場合には評価の対象としません。
(1)3分の1以上の欠席
(2)模擬授業を行わない
(3)学習指導案を作成・提出しない

〔科目内容の位置付け〕
小学校教諭になることを目指す方のための実践的内容の科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
『国語科教育法』を受講後に本演習を受講することが望ましい。

L10601

科　目　名	教育法演習 B/ 初等教材研究 B(生活・人間系)
	授業形態：演習
教　員　名	増田　仁

〔講義目的〕
授業の導入部では、現代の家庭生活について概観する。授業の半ばでは、現代の食生活や衣生活について検討しながら、実際に数回にわたって調理実習や被服製作を行い、教育現場での実践力を養う。授業の終盤では『家庭科ワークブック』（牧野カツコ編著）を参考にしながら、教材としての有効性について再検討を行う。具体的なトピックとして、消費者教育やメディアと生活等を取り上げる。どのようにテキストを用いれば生徒に説得力のある授業が展開できるのか、また生活者としての力を身につけさせることができるのか共に考えていきたい。

〔講義内容〕
1、オリエンテーション
2、家族について考える
　――現代の課題――
3、子どもの発達と権利
　――「子どもの権利条約」を読み直す――
4、世界の子供たちは今
5、生活の質とエイジング
6、高齢化社会を読み解く
7、食生活を見直す
　――食の安全と栄養のバランスを考える――
8、調理実習1
9、調理実習2
10、快適な衣生活には何が必要か
　――着る「喜び」のために――
11、被服製作1
12、被服製作2
13、自分の住まいを再考する
　――どう「住まう」か――
14、自律的な消費者になるために
　――生活の「豊かさ」と環境への配慮を求めて――
15、まとめ

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義形式と実習であるが、講義ではリアクションペーパー等で受講者の意見をきく機会を設ける。

〔教　　材〕
参考文献：
文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』2008年、95円。
『小学校家庭科教科書』東京書籍および開隆堂。
牧野カツコ編著『人間と家族を学ぶ家庭科ワークブック』国土社、2007年、2,000円。
牧野カツコ編著『自分らしい生活をつくる家庭科ワークブック②』国土社、2000年、2,000円。
牧野カツコ編著『家庭科ワークブック　人間の発達と保育』東京書籍、2002年、2,000円。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（20％）とレポートの内容(60％)、提出作品の完成度（20％）から総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
自分の生活を振り返り、「よりよく生きる」、「よりよく生活する」ことの意味を考えながら講義を聴いて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
応用・発展レヴェルの科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「家庭科概説」、「家庭科教育法」

L10701

科　目　名	教育法演習 C/ 初等教材研究 C(表現・技術系)
	授業形態：演習
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
　図画工作科の学習指導案の作成、模擬授業とそれらの検討を通して実践的指導力の獲得を目指す。

〔講義内容〕
1．学習指導案の作成と検討(1)
2．学習指導案の作成と検討(2)
3．模擬授業（造形遊び１）
4．模擬授業（造形遊び２）
5．模擬授業（絵で表す１）
6．模擬授業（絵で表す２）
7．模擬授業（絵で表す３）
8．模擬授業（立体で表す１）
9．模擬授業（立体で表す２）
10. 模擬授業（版で表す）
11. 模擬授業（デザイン／工作１）
12. 模擬授業（デザイン／工作２）
13. 模擬授業（鑑賞１）
14. 模擬授業（鑑賞２）

〔講義のすすめ方〕
　グループ単位で学習指導案の作成および模擬授業を行ない、問題点を検討する。

〔教　　材〕
　教科書は使用しない。

〔成績評価の方法・基準〕
　学習指導案と模擬授業による評価。
　学習指導案　５０％
　模擬授業　　５０％

〔履修のポイント・注意点〕
　模擬授業に必要な材料や用具、教材等の準備は各グループで行なうことになるので、計画を立て、効率的に進めること。

〔科目内容の位置付け〕
　図画工作科教育法の発展的内容となる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
　図画工作概説Ⅰ
　図画工作科教育法

L11001

科　目　名	保育内容指導法（健康）/ 保育内容研究（健康）
	授業形態：講義
教　員　名	岩城　淳子

〔講義目的〕
本講義は、保育内容演習（健康）の応用として、実際の保育場面を想定しての健康教育活動の立案と実施を行なうものである。現在、乳幼児の生活は急速な社会状況の変化や価値観の多様化などにより、あまり健康的ではない方向へと変容している。将来保育者として、子どもの置かれている状況と健康生活との調整ができるよう、子どもや保護者に対するよりよい対応の可能性を探ることを目的とする。

〔講義内容〕
第１回　健康の概念、健康観
第２回　保健管理
第３回　管理活動の検討
第４回　健康行動の形成
第５回　データから読み取る子どもの実態
第６回　健康問題の発見
第７回　健康問題グループ発表
第８回　健康教育と保健指導
第９回　指導法の検討
第10回　指導内容の計画
第11回　保健教材の作成
第12回　健康教育活動発表
第13回　健康教育活動発表
第14回　評価と統括討議
第15回　定期試験

〔講義のすすめ方〕
講義とグループワークである。

〔教　　材〕
授業の中で指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験　40％
発表　　30％
出席状況　30％

〔履修のポイント・注意点〕
自主的な取り組みと、創意工夫を期待する。

〔科目内容の位置付け〕
幼稚園教諭免許状取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容演習（健康）

L11301

科　目　名	保育内容指導法（人間関係）/ 保育内容研究（人間関係）
	授業形態：講義
教　員　名	中山　昌樹

〔講義目的〕
この講義では、「遊びを核にした保育」というものを理解し、幼児期の子どもにとって、今、必要とされている生活はいかなるものなのかを探ろうと思う。言うまでもないことだが、『遊び』は、幼児期の子どもの暮しを豊かにするものであると同時に、この時期の子どもを大きく成長させる活動でもある。学びという点からすると、『遊び』は、幼児期の子どもの学習のスタイルであると言える。放任保育でもなく、強制的なつめ込み保育でもない、幼児期の子どもが自分から学べるような保育を考えるとき、『遊び』は必要不可欠な活動となる。

〔講義内容〕
まず、ある幼稚園のビデオを使い、３歳・４歳・５歳児の育ちゆく姿を見る。このことを通して、「遊びを核にした保育」を具体的にイメージしたい。
その後、『遊び』そのものに焦点をあて、なに故に『遊び』が幼児期の子どもの学習のスタイルなのかを考える。そこでは、「子どもは遊びたいから遊ぶ。そして、その結果として、子どもは保育者の期待する様々なことがらを、保育者に言われてではなく自分から身に付ける。」ということを理解することになるだろう。
その上で、この講義のテーマである子どもの人間関係能力の育ちを考える。子どもの人間関係能力は、上で述べた『遊び』によってもたらされるところが大きい。さらに、保育者が遊び以外の場面で“きっかけ”作りをすることも必要となると思われるので、「グループ活動」や「当番活動」などについてもふれたい。

〔講義のすすめ方〕
ひとつには、なるべく保育の具体的な場面を教材としたいので、ビデオや保育現場で実際に使われた手紙類を使って講義をすすめる。
さらに、一方的に説明を聞くことに終始するのではなく、なるべく対話的な講義になるように願うことから、ビデオを見た後に感想・質問を書いてもらい、それに応えることで次の講義をすすめるようなやり方を心がけたい。

〔教　　材〕
具体的な保育場面を記録したビデオ、保育現場で実際に使われた手紙類、その他プリントした資料を、その都度用意する。

〔成績評価の方法・基準〕
定期テストにて行う。さらに、評価のボーダーにおいては、出欠状況などの受講態度も加味される。

〔履修のポイント・注意点〕
既存の幼稚園・保育園のイメージを一度捨て、子どもや『遊び』について改めて考え直してみよう。

〔科目内容の位置付け〕
「人間関係」は、単なる領域の１つであるということ以上に、「遊びを核にした保育」
の中心に位置付けられるテーマであると考える。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
なるべく、後期の保育内容演習の前提となることを意図している。

L11601

科　目　名	保育内容指導法（環境）/ 保育内容研究（環境）
	授業形態：講義
教　員　名	川添　敏弘

〔講義目的〕
「環境」という領域は、身近な環境に対する幼児の心情・意欲・態度を育てる領域である。つまり、保育者が適切な環境を通して幼児とかかわることが大切であり、そのために必要な知識と感性を学ぶことを講義の目的とする。実際に、学生自身が周りの環境に気付き、感じていく気持ちを持てるような活動を重視していく。それは、保育者自身が身近な環境に対して様々なことを感じる力を持つことが求められるからである。その上で、幼稚園・保育所の園内環境を設定し、活用していく力をつけていくこととする。また、地域環境を含めた環境教育も実施し、グローバルな視点からも園内環境を考えることができるようにする。

〔講義内容〕
第１回　ガイダンス。幼稚園教育要領をとり上げ、領域「環境」についての基礎知識を学ぶ。
第２回　散歩①：散歩の意義。活動方法。
第３回　散歩②：フィールド・ビンゴの作成。
第４回　散歩③：お散歩マップの作成。
第５回　飼育栽培①：うさぎについて。
第６回　飼育栽培②：その他の動物。
第７回　子どもと虫とのかかわり。ビオトープについて。
第８回　幼児期環境、幼児期体験の重要性について。
第９回　食育
第10回　園内環境、園庭環境の「スペース」について考える。
第11回　地球環境（オゾン層について）と保育。
第12回　ESD と幼稚園から意識する循環型の生活。
第13回　ドイツの幼少期環境教育。理想の幼稚園。
第14回　園庭における「科学性の芽生え」。
第15回　テスト、まとめ。

〔講義のすすめ方〕
基本は講義形式である。また、PowerPoint や OHC を用いることで子どもや保育者たちの活動をイメージしやすいように展開したい。さらに、ワークショップ形式も導入することで自ら考え、感じる力も大切にしていきたい。そして、多くの研究事例を紹介することで、自然や生物と関わることでどのような考察ができるのか、考えていく機会を多く作っていく予定である。

〔教　　材〕
講義はプリントを用い、随時配布する。また、活動によっては身近にあるものを教材として活用する。講義の内容によって、色鉛筆やペン、ハサミ、糊などを用いることがあるが、その場合は事前に通達する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績は課題の提出物（30%）、出席・授業態度（40%）、試験（30%）で評価する。

全般的に、積極的に取り組む姿勢や何事にも楽しんでいく態度など、幼稚園・保育所で必要とされる部分を高く評価する。よって、提出物は「丁寧さ」「上手さ」と同時に、「保育で活用する上で有効なものであるか」を重視する。また、常習的な遅刻には厳しく対応する。

〔履修のポイント・注意点〕
授業を通して、幼稚園教育者・保育士としての感性を磨いてほしい。
幼児期という大切な時期に関わる人間であることを意識して授業に臨むこと。
課題は確実に提出すること。
授業中の私語に対しては厳しく対応する。

〔科目内容の位置付け〕
「環境」は、幼稚園教育要領の５領域のひとつであり、幼児期教育に重要な科目である。また、「保育内容研究（環境）」は、幼稚園教諭、保育士を育成するために必要とされている必須科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

L11901

科　目　名	保育内容指導法（言葉）/ 保育内容研究（言葉）
	授業形態：講義
教　員　名	松本　和美

〔講義目的〕
子どもは言葉を人間関係を含む全ての生活とかかわりながら、自然に獲得していく。そこで言葉の持つ意味や人の言葉の特質、その言葉を獲得する乳幼児の様子と成長・発達の流れについて事例を通して把握し、それに関わる保育者の役割について考えていきたい。
また、子どもの言葉環境を豊かにする文化財を授業の中で毎回紹介していく。それらを実演したり、創作したり、話し合ったりすることによって、自分自身の言葉の感性を磨き、豊かな感性と表現力を持った保育者をめざしてほしい。

〔講義内容〕
（1）オリエンテーション
（2）幼児教育学からの言葉指導の目標
（3）言葉で楽しむ・言葉を楽しむ
（4）ことば遊びの世界
（5）お話の世界
（6）劇遊びの世界
（7）言葉習得の道のりと指導
（8）言葉の準備期
（9）一語文期
(10) 2、3歳児の言葉の発達と指導
(11) 4、5歳児の言葉の発達と指導
(12) 文字言葉入門期
(13) 気になる言葉の問題
(14) 保育者の言葉生活
　　保育者の言葉・実習生の言葉
(15) まとめ

〔講義のすすめ方〕
子どもにとって言葉とは何か、どのように言葉を獲得していくのか、そして言葉を育てるためにどのように援助していったらよいかを、ビデオ視聴やディスカッション、観察を取り入れながら、ともに模索したい。
また、実技演習を多く取り入れ、保育技術の錬磨に直接役立つように構成し、実践的な指導力を身につけるよう指導する。

〔教　　材〕
教科書
『ことばが生まれことばが育つ－「言葉」指導実践のために－』加古明子・松本和美他著（宣協社）

参考図書
『おはなしおばさんの小道具』藤田浩子著　（一声社）

留意事項
はさみ、のり等を使う作業を行うことがあるので、授業時持参してください。

〔成績評価の方法・基準〕
授業時の活動や発表、及び提出物、レポートによる。

〔履修のポイント・注意点〕
言葉の発達を促す教材作りや言葉遊びを授業内で行う。
積極的に授業に参加し、発表を行うことを望む。

〔科目内容の位置付け〕
この講義科目は通知科目の中の保育内容「言葉」に関する科目である。
関連する科目には、必修の「保育の内容・方法の理解」系列の保育内容総論に該当する科目として「保育内容の研究Ⅰ」があり、保育内容についての総論的な取り扱いをしている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
それを基盤として領域区分「言葉」からみた保育内容論として講ずるのが、この授業科目であり、「保育内容総論」に対応した領域各論（言葉）にあたる。

科　目　名	保育内容指導法（表現①）/ 保育内容研究（音楽表現）
	授業形態：講義
教　員　名	冨田　英也

〔講義目的〕
自発的な活動としての幼児のあそびは、心身の調和の取れた発達の基礎を培うものである。また、幼児の発達は心身の諸側面が関連し合い多様な経過をたどって成し遂げられるものである。本講義の目的は、幼児の主体的な活動を促し、自己を十分発揮できるような幼児一人一人の特性に応じ、発達の過程に即した指導や援助を行えるような保育者を目的とする。

〔講義内容〕
1、オリエンテーション、保育内容領域「表現」のプロセスと認識
2、教育要領と保育指針
3、乳幼児の心身の発達と音楽的機能の発達
4、童謡の変遷とこどもの歌の重要性
5、感性と表現の理解、お遊戯と身体表現1
6、イメージと動き、お遊戯と身体表現2
7、手あそび指あそび１、特性と意義
8、手あそび指あそび２、発達の視点で捉える
9、わらべ歌あそびの重要性1、乳幼児のわらべ歌あそびと伝承あそび
10、わらべ歌あそび重要性2、幼児のわらべ歌あそびと集団あそび
11、楽器の基礎技能と演奏法（リズム楽器、打楽器、和楽器、合奏）1
12、楽器の基礎技能と演奏法（リズム楽器、打楽器、和楽器、合奏）2
13、教材研究と指導計画の作成1
14、教材研究と指導計画の作成2
15、定期試験（90分間）または授業を実施する

〔講義のすすめ方〕
幼児の主体的な活動を促すには、興味・意欲・関心を育てることであり、幼児の表現しようとする意欲を受け止め生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことである。本講義「音楽表現」では、教育の基本やねらいを捉え、領域相互の関連を考慮しながら、学生自らの感性を磨き、表現する喜びを味わい、創造性を育もうとするものである。さらに、こどもの心身の発達と音楽的能力を認識し、季節や行事と様々な事象等に相応しい音楽表現活動の実践と計画をする。

〔教　　材〕
・テキスト、楽しい音楽表現　圭文社　2,500円＋税
・参考図書、ポケットいっぱいのうた　教育芸術社　鈴木恵津子・冨田英也監修編著　2,100円税込
うたっておどっておもちゃ箱 Part2
教育芸術社　2,200円＋税

〔成績評価の方法・基準〕
受験資格は『白鷗大学試験規則』に準ずる。学期末試験と提出物および平常の取組む意欲や態度。出席率30%、試験70%

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための重要な科目である。こどもの目線でこどもの立場になって物事を考え理解する視点が必要である。幼稚園教諭資格取得関連科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容指導法（音楽表現）演習、ソルフェージュ、音楽実技Ⅰ（ピアノ基礎技能）、音楽実技Ⅱ（子どもの音楽）を履修し童謡の課題を習得していることが望ましい。

L12301

科　目　名	保育内容指導法（表現②）/ 保育内容研究（美術表現）
	授業形態：講義
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
明治以降の幼児造形教育の歴史と子どもの造形表現の特性について学ぶ。
幼児造形教育の歴史を概観することで、造形表現に何が求められてきたかを知り、子どもにとっての造形表現の意義と役割について考察する。
子どもは１歳前後から絵を描き始めるが、その形態は抽象的で写実的な絵画を見慣れた大人の目には奇異なものに映り、子どもが何を表現しようとしたかを理解することは困難である。しかし、子どもの絵の発達の段階を注意深く観察することで、子どもの絵には大人とは異なる固有の原理があることがわかってくる。子どもはなぜ描くのか、子どもが描く独特の形にどのような意味があるのかを理解してはじめてその造形表現の指導も可能となる。

〔講義内容〕
１．表現という言葉
２．造形表現の歴史(1)
　古代から中世へ
３．造形表現の歴史(2)
　ルネサンスから近世へ
４．造形表現の歴史(3)
　19世紀から20世紀へ
５．芸術の必要性
６．幼児造形教育の歴史(1)
　明治前期：フレーベル
７．幼児造形教育の歴史(2)
　明治後期から大正：モンテッソーリ
８．幼児造形教育の歴史(3)
　昭和初期から第二次世界大戦
９．幼児造形教育の歴史(4)
　第二次大戦後：ローウェンフェルド
10．幼児造形教育の歴史(5)
　シュタイナー教育
12．児童画の発達段階(1)
　なぐりがき期／象徴期
13．児童画の発達段階(2)
　前図式期／図式期
14．幼稚園教育要領

〔講義のすすめ方〕
要点をスライドで写し、解説を加える。発達段階の講義においては実際に子どもが描いた絵をもとに話を進め、受講生にも子どもの絵を集めてもらう。

〔教　　材〕
教科書：『たのしい造形表現』子どもの造形表現研究会編、圭文社。
参考書：『児童画のロゴス』鬼丸吉弘著、勁草書房。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験による評価。
定期試験　100％

〔履修のポイント・注意点〕
この授業では作品制作は行なわないが、日頃から子どもの描いたもの、作ったものに関心をもち、その意味について考えてみることが大切である。なぜその色や形なのか？疑問をもつことが子どもの造形表現を理解する出発点となる。

〔科目内容の位置付け〕
幼稚園及び小学校教諭免許を取得する学生のための科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容演習（美術表現）

L12401

科　目　名	保育内容指導法（表現③）/ 保育内容研究（身体表現）
	授業形態：講義
教　員　名	高橋　美穂子

〔講義目的〕
子ども達の全身全霊の身体運動を受けとめるには、まず保育者が身体感覚を通して子どもの感性に共感できる、「開かれた身体」を持つべきだと考えます。
本授業では隅々まで感覚を呼び覚ます身体運動を経験し、身体や動きの新たな可能性を探るとともに、体得した運動をもとに保育の現場で生きる応用力、指導力を身につけることを目的としています。

〔講義内容〕
本授業では①身体の感覚を呼び覚ます、②様々なリズムを捉えて表現する、③身体感覚を通して他者と共感する、④実際に保育の現場で生きる力となる子どものためのダンスを創作する、など、
様々な側面から身体表現の特性を楽しみ、また創作したダンスを発表するまでの創作過程、練習過程、発表、講評という全体の流れを把握し、「創作活動」の持つ意義を学ぶ授業展開をします。

〔講義のすすめ方〕
1. オリエンテーション
　授業内容についてのオリエンテーションと身体ならし
2. 様々なステップ及びリズムダンス
　いろいろなステップ、足運びを体験し、簡単なリズムダンスを覚え、友達と関わって踊る
3. リズムダンス２
　リズムダンスを覚えつつ、友達と一緒に一部分を創作、振り付けしてみる
4. リズムダンス３
　一つの短い曲を、創作した部分も含めて最後まで踊りきる
5. 音楽のイメージをとらえて創作する
　様々なリズムの音楽を聴き、反応して即興的に動いたり、その特徴をじっくり捉えて表現することに挑戦する
6. 日常の動作をアレンジする
　「飲む」「食べる」「読む」「書く」などの日常的な動作を抽出し、そのテンポやリズムを変えたり、反復させたりすることでできる表現の面白さを体験する
7. 模擬授業
　指導案を作成し、互いに指導者、子どもになりきって指導を試みる
8. 模擬授業2
9. 模擬授業3、及び次の課題の説明、取り組み
　お互いに授業内容を講評し合い、さらに次のグループ作品創作への取り組みを開始する
10. 共通の課題をもとにした表現（創作）
11. 共通の課題をもとにした表現（創作）
12. 共通の課題をもとにした表現（創作）
13. 共通の課題をもとにした表現（創作）
14. 発表会
15. ビデオ鑑賞、授業のまとめ

〔教　　材〕
特になし（必要に応じて配布する）

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況、授業内発表、学び方、授業内ノートによって総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
動きやすい服装で参加すること。
出席して体験することが重要な授業なので、原則的に欠席は極力しないこと。
やむを得ない理由で動けない場合には、理由を明らかにしたうえで見学すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容演習（身体表現）

L12701

科　目　名	道徳教育の理論と方法Ｐ／道徳教育の研究
	児童生徒の心に響き，心の力が育つ道徳授業の指導法の研究
	授業形態：講義
教　員　名	中山　和彦

〔講義目的〕
本科目の目的として、次の４点を設定する。
1 学校教育全体を通して行われる道徳教育の意義について、具体例を通して理解する。
2 小・中学校における道徳教育の中心となっている「道徳の時間」の役割とその意義について具体例を通して理解する。
3 小・中学校における道徳授業の具体例を示すことにより、指導法について追求するとともに、今後求められる道徳授業における多様な指導法について具体例をもとに学ぶ。
4　本科目の講義を通して、教職に対する夢やあこがれを一層高めるようにする。

〔講義内容〕
1 道徳教育の歴史的変遷と基本的なあり方
2 新学習指導要領における道徳の目標及び内容
3 道徳の指導計画
※特に、学校で作成している具体例をもとに、「学級における道徳教育指導計画」（試案）を作成し、学級経営との関連について考える。
4 道徳授業の指導法
（1）中学校における道徳授業
（2）小学校における道徳授業
5 心のノートについて
6 学習指導案作成
（1）中学校における道徳授業
（2）小学校における道徳授業
7 中山の道徳の模擬授業を体験する（中学校・小学校）
8 道徳授業の一部を学生が行う。（導入・展開・終末）
9 道徳授業の指導の基本型及び多様な指導法について学ぶ

〔講義のすすめ方〕
小・中学校で作成し、実践されている指導計画、指導案、資料等を示しながら、また、時には、私自身が学生に対して模擬授業を展開しながら、小・中学校における道徳教育及び道徳授業について講義を進める。理論を丁寧に整理しながら，理論を踏まえてのより実践的な講義内容とする。また、毎時間「ミニレポート」の時間を確保したり，学生に「マイク発言」を求めたりすることで，「学びの当事者」としの意識を高める。

〔教　　材〕
毎時間の資料は、印刷して配付する。
参考資料として、できるだけ次の図書を購入してほしい。
・『小学校学習指導要領解説 道徳編』（平成２０年８月）
・『中学校学習指導要領解説 道徳編』（平成２０年８月）

〔成績評価の方法・基準〕
ミニレポートやミニテストを講義の中で行い、その成績を累積して評価する。（６０％）講義中の態度や取組の意欲について観察により評価し、その結果を重視する。（２０％）教師を目指す者として、児童・生徒の取組の意欲やプロセスを大切にする意識を今から持ってほしいという強い思いがある。私は現職の校長として、所属教職員の勤務意欲や取組のプロセスを最重視している。最終的なまとめとして定期テストも行う。（４０％）

〔履修のポイント・注意点〕
次の３点をポイントとして設定する。
1 講義を聴く（傾聴する）態度を重視する。児童・生徒の学ぶ姿勢の基本は「聴くこと」である。教師は、まず「聴くこと」を児童・生徒に求めるはずである。
2 演習と意見発表を重視する。
3 ミニレポートには、必ず自分自身の意見と感想をまとめること。

〔科目内容の位置付け〕
・教職に関する科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
教育活動全体を通して行う道徳教育は、教職に関する全科目に関連することは当然のことである。また、各教科等の専門科目についても、児童・生徒理解を基盤とした学ぶ意欲育成という観点から、道徳教育と深く関連する。

L12702

科　目　名	道徳教育の理論と方法Ｐ／道徳教育の研究
	豊かな道徳性を育てる道徳教育の 理論と実際
	授業形態：講義
教　員　名	人見　克也

〔講義目的〕
　この科目は教職を志す学生が、道徳教育の理論と指導法を学ぶとともに自らの道徳教育観を高め、道徳教育の「実践的指導力」の基礎の習得することをめざす。そのため、・道徳教育の意義や必要性等の基礎理論を理解すること・学習指導要領に示された道徳教育の目標、内容を理解すること・道徳の時間の指導法の理論や実際を理解すること・自己の教育観や道徳観を向上させ教職への志向を強めることを目標とする。

〔講義内容〕
第１回　現代社会と道徳教育
　　道徳教育の意義と必要性を社会的視点から考える
第２回　道徳教育の歴史的変遷
第３回　道徳教育の目標と内容
　　教育課程との関連から理解する
第４回　道徳性の発達
　　道徳性の構造や発達、形成要因を理解する
第５回　道徳教育の全体計画、年間指導計画
第６回　道徳教育の主題構成
　　構成の要件と手順、方法を学ぶ
第７回　道徳の時間のあり方
　　指導過程、指導方法、資料を具体例をもとに理解する
第８回　道徳の授業の指導案作成（１）
　　実際に指導案を作り、その手順や方法を理解する
第９回　道徳の授業の指導案作成（２）
第10回　道徳の授業の模擬授業
　　作成指導案の模擬授業を実施する
第11回　道徳教育の評価
　　指導計画、指導法及び道徳性の評価のあり方を理解する
第12回　道徳教育と教師のあり方
第13回　道徳教育と家庭、地域社会との連携
第14回　道徳教育の問題点と今後の課題
　　家庭や社会の変化と道徳教育の課題を考える
第15回　学習成果のまとめと振り返り

〔講義のすすめ方〕
　授業は講義と演習等で展開する。講義は具体的な資料を使い明解で実践的なものにする。なお、資料は随時配布する。また、指導案やレポート作成、グループデスカッションなど演習的な活動をとりいれていく。自分なりの見解を明らかにするなどして主体的に積極的に取り組んでほしい

〔教　　材〕
　参考図書「小学校学習指導要領解説　総則編」
　　「小学校学習指導要領解説　道徳編」

　　「中学校学習指導要領解説　道徳編」
　　いずれも文部科学省
　　「心のノート１～６年」　３分冊
　　いずれも文部科学省

　なお、授業展開上必要な教材資料は適宜配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
　次のような方法・基準で総合判断し評価する。
　出席・履修態度２０％　レポート等提出物２０％　期末テスト６０％の配分とする。
レポート等は課題を主体的にとらえているか、自己の見解や解決策が具体的に示されているか。期末テストは授業内容の理解度や習得した道徳教育観等の深浅の程度はどうかを評価の基準とする。

〔履修のポイント・注意点〕
・この科目で扱う諸課題に対しては、教育原理等の基礎的関連科目で得た知識や知見を活用・関連づけるなどして、常に広い視野から考え、その解決策に客観性と深みをもたせてほしい。
・授業以外のマスコミ報道にも、インターネットにも、日常生活の中などにも道徳教育を考える情報素材は無数にある。そこから有用な情報を引き出し役立てるかは、一人ひとりの学習意欲次第である。このような素材源にも積極的な姿勢で取り組んでほしい。

〔科目内容の位置付け〕
　・教職に関する科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　道徳教育はひとえに、人間を道徳的に形成するしごと、作用である。したがって道徳教育を考えるにあたっては、教育とは、道徳とは、善悪とは何かや、道徳性のメカニズムや形成過程等の問題を追究課題とする哲学、倫理学、社会学、教育原理、教育心理等の諸科目の知見が大きくかかわってくる。

L13001

科　目　名	特別活動の理論と方法 P/ 特別活動の研究
	授業形態：講義
教　員　名	桑原　憲一

〔講義目的〕
特別活動は、教育課程に位置づけられた必修の教育活動であり、望ましい集団活動を通して児童生徒自らがよりよい学級や学校の生活を築いていこうとする自主的、実践的な態度を育成するとともに、豊かな社会性や望ましい人間関係の形成を目標としている。
本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけ、意義と特質、目標と内容、指導計画の作成と指導方法及び評価のあり方などの理論を研究するとともに、実践的指導力を育成することを目的とする。

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション
　　講義内容の概要、履修上の注意、
　　特別活動の経験、意義と特質
第２回　教育課程と特別活動
　　特別活動の目標と内容
　　特別活動の変遷
　　各教科、道徳、総合的な学習の時間と特別活動
第３回　生徒指導と特別活動
　　人間関係づくりと特別活動
第４回　社会性の育成と特別活動
　　教師力、学校力と特別活動
第５回　特別活動の指導計画・演習
第６回　学級活動の実践
　　目標と内容
　　指導計画と指導案作成・演習
第７回　授業の進め方・演習
第８回　児童会活動の実践
　　目標と内容
第９回　指導計画と指導上の配慮事項
第10回　クラブ活動の実践
　　目標と内容
第11回　指導計画と指導上の配慮事項
第12回　学校行事の実践
　　目標と内容
第13回　指導計画と指導案の作成
第14回　特別活動と学校、学年、学級経営
第15回　特別活動における評価

〔講義のすすめ方〕
本講義では、講義、グループワーク、演習等を中心に実践的に授業を進めていく。適宜、参考資料を配布するのでファイリングをすること。

〔教　　材〕
教科書：「実践的指導力をはぐくむ『特別活動指導法』」渡部邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編著（日本文教出版）
参考図書：小学校学習指導要領解説特別活動編（文部科学省）

〔成績評価の方法・基準〕
教科書添付のワークシート（３０％）、平常点（２０％）、試験（５０％）により、出席３分の２以上の受講者を対象として総合的に評価する。平常点は、出席状況、研究姿勢、課題提出等を総合的に勘案して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
各講義は内容相互の関連性が深く、系統的、発展的に計画されていることに留意して履修すること。講義は、現場教師の誰もが担わなければならない重要な教育活動であるので、受動的な聴講によらないよう留意すること。
また、創造力や計画力を高めて実践的指導力を育成することに主眼をおくこと。机上には講義に必要な物以外は置かないこと。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目として位置付けられている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
各教科指導法、道徳教育の研究、教育課程論、生徒指導論、教師論

L13501

科　目　名	教育方法論Ｐ／教育方法論Ⅰ
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	五十嵐　敦子

〔講義目的〕
学習指導の意味・役割、技術を中心に、教育活動全体を通して、教師が学校で教えるということは子どもたちにとって何を意味するのか、子どもたちが価値ある学びをするために、教師は何ができるのか、ということを考えたい。

〔講義内容〕
１．授業とは何か
２．教育課程の構造と類型
３．学習指導要領の変遷
４．現代の教授理論①デューイらによる問題解決学習
５．現代の教授理論②ブルーナーの発見学習
６．現代の教授理論③オープン学習―緒川小学校（愛知県）の実践例（ビデオ視聴）
７．授業のプログラム―指導案、学習者の動機
８．ヘルバルトの四段階教授説
９．陰山英男先生の教育実践例他
10. 教育における評価と改善
11. 情報化社会における教育の問題
12. 授業の技術
13. 教育における新聞活用法（NIE）について
14. まとめ
14. 試験（９０分）

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義形式で行うが、リアクション・ペーパー、小レポートなどを取り入れるなどして、相互交流のできる授業を心掛けたい。

〔教　　材〕
多田敏文編『教育の方法と技術』学芸図書

〔成績評価の方法・基準〕
１４回の授業出席者に対し、定期試験の受験資格が与えられる。
①出席状況30％、②小レポートなど20％、③定期試験50％の割合で総合的に評価する。
特に出席は重視するので、正当な理由があって欠席する場合、欠席した場合は、必ず申し出ること。

〔履修のポイント・注意点〕
１５回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
教育に関する学問の基礎科目
保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「教育課程論」

L14001

科　目　名	生徒指導論（進路指導を含む）／生徒指導Ⅰ
	キャリア開発の視点から生徒指導を問い直す
教　員　名	榎本　和生

〔講義目的〕
生徒指導の意義は、個々の児童生徒が社会的な自立を図るために必要な能力や態度の育成にあります。すなわち、人間いかに生きるべきかという自己指導能力に裏打ちされた人間形成への教育的な営みと捉えることができます。本講義では、教育の機能的及び領域的な側面から、生徒指導の原理、歴史的変遷、学校現場における実践上の課題等を踏まえ、生徒指導（進路指導を含む）の理論と実践力を深め、今日的な教育課題に対応できる教師の育成を目指した授業を展開します。

〔講義内容〕
第１回　生徒指導被体験からの想起
第２回　今日的な児童生徒の現状と課題
第３回　生徒指導の歴史と用語の多義性
第４回　生徒指導の意義と役割
第５回　ガイダンスの機能の充実とは
第６回　教育課程の編成と生徒指導
第７回　生徒指導主事の役割と校内体制
第８回　学級経営、特別活動等と生徒指導
第９回　問題行動対応と発達課題の関連
第10回　生徒指導と懲戒、出席停止、体罰
第11回　サポートチームの活用と生徒指導
第12回　進路指導の現状と課題
第13回　キャリア教育の現状と課題
第14回　まとめ

〔講義のすすめ方〕
講義は、毎時間のつながりを重視して（今日の疑問が次時に解明される）展開しますので、休まず受講すること。各自、予めテキストを熟読し、各章の概要を作成します。その概要作成したものを発表し、討論する方法で授業を進めます。また、生徒指導の被体験談等を基に、学校における様々な教育場面における生徒指導を考察していきます。

〔教　　材〕
教科書：「生徒指導・教育相談・進路指導」仙崎武ほか編　田研出版2400円＋税
（教育相談 S/ 生徒指導Ⅱの参考書と併用）
参考書：「生徒指導の手びき」
文部省400円

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（受講態度と発言等）40％、期末試験60％を総合的に勘案して評価

〔履修のポイント・注意点〕
テキストや配布した資料を前もって熟読しておくこと。配布する資料等を保存するための専用クリアホルダー（Ａ４、30ポケットで可）の準備を願いたい。

〔科目内容の位置付け〕
今日、教員が直面する課題は、多忙感であると多くの教師が答えています。その背景として、生徒指導における種々の困難性に加え、保護者や地域からの非難の目（責任放棄、非協力）から、教師の自信もゆらぎ、忙しさが多忙感として心理的な圧迫要因に変質するものと考えます。また、生徒指導を「難しく大変」と受け止め、一人で悩み、その絶望感から教師を辞めたい思う教師も少なくありません。本講義では、発達課題の達成を指導・援助する生徒指導の本質を理解し、だれもが協働できる、開かれた（児童生徒も参加できる）生徒指導を習得するなど、教師生命の根幹を身につける授業と理解されたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
機能としての生徒指導は特別活動の領域で実践されます。したがって特別活動の講義内容も確実に理解することを希望します。

L14003

科　目　名	生徒指導論（進路指導を含む）／生徒指導論
	授業形態：講義
教　員　名	本間　研一

〔講義目的〕
生徒指導の問題は児童の心についての理解が重要である。単にいじめや暴力行為、不登校など表面的に現れた問題行動への対応だけではない。児童の内面に目を向け、心身のよりよい成長を援助し、個別的な発達に応じた自己指導能力を育成するような方向性をもった指導が求められている。教師として生徒の生き方を総合的に援助できるような正しい生徒指導を学習する。

〔講義内容〕
1．教育と生徒指導
　生徒指導・教育相談とは
　生徒指導の意義
2．学習指導要領での生徒指導の機能と指導上の留意点について
3．生徒指導の内容と方法
　生徒指導の目的と本質　内容の検討
4．教育的集団とはなにか
　集団活動の意義　集団の構造と機能
　リーダーシップの心理　対人認知の心理
5．教師と生徒指導
　教師の役割　指導と管理　説明と説得
　子どもを取り巻く状況と難しさ
6．集団の指導の方法
　教育的グループ作り　リーダーの指導
　生徒の生活と自己指導力の育成
7．集会の指導
　子どもの自主的な管理組織作り
　「決めること」の指導　集団の風土作り
8．道徳教育と生徒指導
　集団の規範意識の形成
　問題行動と生徒指導
　青年期の生き方と生徒指導
9．進路指導の本質
　進路指導とは
　キャリア教育の基礎理論
10．進路指導の発達的展開
　発達段階に応じた進路指導
　進路指導の実際
　学校における進路指導の役割
11．教育相談と生徒指導☆学校における教育相談
　教育相談体制の確立
　関係機関との連携
　危機対応の対策
12．教育相談活動と組織
　「教育相談」と「カウンセリング」との違い
　関係機関の機能とその役割
　児童生徒の心の発達・問題行動・身体症状についての理解
　その記録と保管、評価について
13．現代の青少年と生徒指導
　社会の病理と青少年☆事例研究「学級崩壊」など
　ロールプレイ
14．性的な発達への指導
　各教科、道徳、総合的な学習の時間との関連性に関する社会環境
　性情報の氾濫
15．諸外国における生徒指導の動向
　生徒指導体制の国際比較　校則や制服などの国際比較

〔講義のすすめ方〕
講義・演習・グループ学習、ビデオ視聴，構成的グループエンカウンターによる演習

〔教　　材〕
テキスト　小学校学習指導要領
「解説　特別活動編」
文部科学省

〔成績評価の方法・基準〕
生徒を指導する立場に立つものが、教師から指導されるようではいけない。出席・毎回の課題・指導案のリポート・期末試験を総合して判定する。欠席５回以上は評価の対象としない。

〔履修のポイント・注意点〕
毎回10分200字のミニ論文を書く。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目に位置付けられている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特別活動の研究
道徳教育の研究
教育相談

L14501

科　目　名	教育相談Ｐ／教育相談
	授業形態：講義
教　員　名	伊崎　純子

〔講義目的〕
1）体験を通して教育相談の基礎を学ぶ
2）講義やいくつかの実習を通して、コミュニケーション能力を養う
3）時事問題について自主学習できる力（スタディ・スキル）を養う

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション
第２回　発達検査（講義）
第３回　発達検査（実習）
第４回　行動観察（講義）
第５回　行動観察（実習）
第６回　カウンセリングの基本的な技術（講義）
第７回　カウンセリングの基本的な技術（実習）
第８回　危機管理
第９回　情報の収集（概説）
第10回　情報の収集（練習）
第11回　情報の収集（実習）
第12回　保護者への対応
第13回　情報の収集（実習）
第14回　生徒指導、進路指導との関係
第15回　まとめ

〔講義のすすめ方〕
教育相談は、幼稚園および小学校という教育現場における幼児・児童とその保護者を対象とした相談である。いわゆるクリニックや児童相談所といった相談機関におけるカウンセリングとの違いは、①幼稚園や小学校に通園・通学している間のみ相談を受けるという期間限定的な関係であること、②幼児・児童という言葉のみによるカウンセリングに限界のある年齢の子どもの相談が中心であること、③多様な保護者と上手に関係を作り、相談終了後もその関係を維持する必要があること、④相談を受けつつも、その他の生活場面も共にすること、⑤受容しつつも、対象となる親子の将来を見据えた教育的側面も必要になること、⑥マスコミがとりあげる時事問題に則した相談内容が多くなりやすいこと、⑦学外専門機関との連携の重要性があげられる。上記の特徴を踏まえて、この講義では、幼児・児童の特徴を理解するための方法を先行研究から学び、時事問題に対するマクロ的な視野を得るべく情報を収集・分析する能力を養い、それを幼児や児童およびその保護者にどのように伝えるのかという表現を模索し、いかに適切かつ誠実に相談にのっていくのかというカウンセリングの基本的な技術を学ぶ内容とする。

〔教　　材〕
講義の中で適宜指示

〔成績評価の方法・基準〕
実習後には体験レポートの提出が必須
出席20%、授業態度30%、期末レポート50%で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
積極的に授業に参加すること。
教職科目であるため、幼稚園教諭一種免許あるいは小学校教諭一種免許取得希望者ならびに他専攻免許希望者のみが履修可能。

〔科目内容の位置付け〕
幼稚園教諭一種免許および小学校教諭一種・二種免許の必修科目【教職に関する科目：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法／（幼稚園教諭のみ）幼児理解の理論及び方法】に該当する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

L15001

科　目　名	音楽実技Ⅰ／音楽実技Ⅰ（基礎）
	授業形態：演習 / 授業回数：30 回（60 時間）
教　員　名	音楽担当教員

〔講義目的〕
　教育現場での実践に不可欠なピアノ演奏技術修得のために、当授業では基礎力向上をはかります。
ML（Music Laboratory）システムを使用して、ピアノ基礎指導の授業を行う。
　ピアノ技術は個々の音楽経験により、それぞれの進度がまちまちであるため、能力に応じた進度別グループに分け指導を行う。
　１：入門グループ…教本「ピアノへのアプローチ」ステップ１
　２：初級グループ…教本「ピアノへのアプローチ」ステップ２以上
　３：中級グループ…教本「ピアノへのアプローチ」ステップ３以上曲集　ソナチネ・ソナタ
　目安として以上のグループが考えられる。
　　基本姿勢、打鍵法、運指法、レガート奏法等の内容を組み合わせながら授業を行う。

〔講義内容〕
第１回　グループ分け（経験者は演奏）
第２回　各グループ課題曲、基本姿勢
第３回　各グループ課題曲、楽典1音名
第４回　各グループ課題曲、打鍵法
第５回　各グループ課題曲、楽典2譜表
第６回　各グループ課題曲、運指法
第７回　各グループ課題曲、楽典3音符
第８回　各グループ課題曲、レガート奏法
第９回　各グループ課題曲、楽典4休符
第10回　各グループ課題曲、音階奏
第11回　各グループ課題曲、楽典5拍子
第12回　各グループ課題曲、楽典6譜表
第13回　各グループ課題曲、楽典7リズム
第14回　各グループ課題曲、楽典8記号
第15回　演奏（演奏会形式で発表）
第16回　各グループ課題曲、調性
第17回　各グループ課題曲、楽典9音程1
第18回　各グループ課題曲、拍子
第19回　各グループ課題曲、楽典10音程2
第20回　各グループ課題曲、テンポ
第21回　各グループ課題曲、楽典11音程3
第22回　各グループ課題曲、フレージング
第23回　各グループ課題曲、楽典11複縦線
第24回　各グループ課題曲、メロディー
第25回　各グループ課題曲、伴奏法1
第26回　各グループ課題曲、楽典12連符
第27回　各グループ課題曲、伴奏法2
第28回　各グループ課題曲、楽典まとめ
第29回　各グループ課題曲（試験曲）
第30回　試験（演奏会形式）

〔講義のすすめ方〕
ML（Music Laboratory）システムを使用して、担当教員が１人ずつ指導する授業を行う。
中間に楽典やテーマの説明をいれる。

〔教　　材〕
グループ分けの結果、各グループ教材（バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ集・ソナタ集）

〔成績評価の方法・基準〕
受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席を原則とする。
日々の努力と探求心により、毎時間の課題曲をしっかり消化し、次の音楽実技Ⅱへのステップとなるための予習、復習を必ず行うこと。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
ソルフェージュ

L15101

科　目　名	音楽実技Ⅱ／音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）
	授業形態：演習
教　員　名	今田　政成

〔講義目的〕

ML（Music Laboratory）システムを使用して、童謡・唱歌など「こどもの歌」の弾き歌いを指導する。具体的には、こどもの生活や行事、季節を題材とした童謡やこどもの歌、行進曲など児童教育の現場においてすぐに役立つ弾き歌いや伴奏法を指導する。

前期…春・夏の季節に関する歌、行事やいろいろな歌等

後期…秋・冬の季節に関する歌、行事やいろいろな歌等

また、コードネームの説明（ハ長調、ト長調、ヘ長調の主要三和音、属七和音）を行い、楽譜に頼らない自由な伴奏を行える弾き歌いも指導する。

〔講義内容〕

第１回　春の季節に関する歌３曲　コードＣ
第２回　春の季節に関する歌３曲　コードＣ
第３回　春の季節に関する歌３曲　コードＣ
第４回　夏の季節に関する歌３曲　コードＣ
第５回　夏の季節に関する歌３曲　コードＦ
第６回　夏の季節に関する歌３曲　コードＦ
第７回　行事に関する歌３曲　コードＦ
第８回　行事に関する歌３曲　コードＦ
第９回　行事に関する歌３曲　コードＧ
第10回　行事に関する歌３曲　コードＧ
第11回　いろいろなジャンルの歌　コードＧ
第12回　いろいろなジャンルの歌　コードＧ
第13回　いろいろなジャンルの歌　コードＢ
第14回　いろいろなジャンルの歌　コードＢ
第15回　演奏（演奏会形式で発表）
第16回　秋の季節に関する歌３曲　コードＢ
第17回　秋の季節に関する歌３曲　コードＢ
第18回　秋の季節に関する歌３曲　コードＤ
第19回　冬の季節に関する歌３曲　コードＤ
第20回　冬の季節に関する歌３曲　コードＤ
第21回　冬の季節に関する歌３曲　コードＤ
第22回　行事に関する歌３曲　コード伴奏曲
第23回　行事に関する歌３曲　コード伴奏曲
第24回　行事に関する歌３曲　コード伴奏曲
第25回　行事に関する歌３曲　コード伴奏曲
第26回　いろいろなジャンルの歌　伴奏曲
第27回　いろいろなジャンルの歌　伴奏曲
第28回　いろいろなジャンルの歌　伴奏曲
第29回　いろいろなジャンルの歌　伴奏曲
第30回　試験（演奏会形式）

〔講義のすすめ方〕

講義内容にしたがって、弾き歌いの授業を中心に進める。

〔教　　材〕

音楽リズム（幼児のうた楽譜集）
やさしいピアノ伴奏法

〔成績評価の方法・基準〕

前期・後期の実技試験、平常の態度や進度努力、出席状況

〔履修のポイント・注意点〕

音楽実技Ⅰ（基礎）同様、弾き歌いの能力向上を目指し、日々の予習・復習を必ずすること

〔科目内容の位置付け〕

音楽実技Ⅰにおいて基礎を学び、当授業において現場に必要な技術を習得する

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

音楽実技Ⅰが履修済みが前提条件である。音楽実技Ⅰでピアノの基礎技術を身につけることにより、幼稚園・保育園・小学校の現場で求められる弾き歌いの技術を充分身につけることができる。さらに音楽実技Ⅲ Ａ・Ｂ と進むことができる

L15201

科　目　名	音楽実技ⅢＡ / 音楽実技ⅢＡ（応用）
	授業形態：演習
教　員　名	音楽担当教員

〔講義目的〕
①ピアノを使い基本的技術の確認を行うと共により確実な演奏法を身につける。
②子供達の「感じる心」を育む上で音楽との関わりは大切なものの１つである。個々の音楽に対する感動の経験が指導者となる上での感性をも高めることにもなる。
　本科目では、１・２年次で学んだ基礎を土台とし、各自がより自在に楽器をこなせるよう技術・表現力を習得することを目的とする。
　さらに、幼児曲等のレパートリーを広げると共により確実な弾き歌いができるようにする。
③実習等に即対応できる能力を身につける。最終的に各曲は暗譜で仕上げる。チェックシートⅠの各々の課題は全てこなすこととする。

〔講義内容〕
第１回　授業のガイダンス（チェックシート＝CSの説明・演奏時のポイント・留意点についての説明等）
第２回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰ共通課題１・２）
第３回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰ共通課題３・４）
第４回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰ共通課題５・６）
第５回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰ月別必修曲課題）
第６回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰ月別必修曲課題）・連弾曲の選曲
第７回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰ月別必修曲課題）・連弾曲１
第８回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰ選択曲又はⅢ第1学年の曲）・連弾曲１
第９回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰ選択曲又はⅢ第１学年の曲）・連弾曲１
第10回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅰ選択曲又はⅢ第２学年の曲）・連弾曲１
第11回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱ選択曲又はⅢ第２学年の曲）・連弾曲２
第12回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱ選択曲又はⅢ第３学年の曲）・連弾曲２
第13回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱ選択曲又はⅢ第３学年の曲）・連弾曲２
第14回　幼児曲・小学校のうたの指導（CS Ⅱ選択曲又はⅢ第３学年の曲）・連弾曲２
第15回　発表会（演奏会形式）・後期課題曲の選曲
第16回　課題曲の指導・幼児曲より春のうた又はCS Ⅲ第４学年の曲
第17回　課題曲の指導・幼児曲より春のうた又はCS Ⅲ第４学年の曲・課題曲に関するレポート提出
第18回　課題曲の指導・幼児曲より夏のうた又はCS Ⅲ第４学年の曲
第19回　課題曲の指導・幼児曲より夏のうた又はCS Ⅲ第４学年の曲
第20回　課題曲の指導・幼児曲より秋のうた又はCS Ⅲ第５学年の曲
第21回　課題曲の指導・幼児曲より秋のうた又はCS Ⅲ第５学年の曲
第22回　課題曲の指導・幼児曲より冬のうた又はCS Ⅲ第５学年の曲
第23回　課題曲の指導・幼児曲より冬のうた又はCS Ⅲ第５学年の曲
第24回　課題曲の指導・幼児曲より行事のうた又はCS Ⅲ第６学年の曲
第25回　課題曲の指導・幼児曲より行事のうた又はCS Ⅲ第６学年の曲
第26回　課題曲の指導・幼児曲より行事のうた又はCS Ⅲ第６学年の曲
第27回　課題曲の指導・幼児曲より行事のうた又はCS Ⅲ第６学年の曲
第28回　幼児曲・小学校のうたの試験
第29回　課題曲の指導・仕上げ
第30回　試験（演奏会形式）

〔講義のすすめ方〕
・各自の課題曲を授業の中で個別指導する。
・前期は幼児曲・小学校のうたを中心に、後期は各自が決めた自由曲（２～３曲以上）も行う。
・指の分離・運指法習得の為、毎回ハノン・バイエル後半の教材を練習する。
・弾き歌い時には指導現場を想定し、曲への導入の仕方・歌詞の説明・演奏しながら次の歌詞を言う練習等も行う。

〔教　　材〕
　授業内にて指示する。（ハノン等に関しては担当教員が各学生のレベルに合う教材を指定する）
　Ａ４のクリアファイルを用意すること。

〔成績評価の方法・基準〕
　能力の個人差も考慮した上で、日々の課題への取り組み方や前期実技発表、後期実技試験における到達度を評価する。

＜判定基準＞
出席率　30%
平常点　20%
試験（前期発表・後期うたの試験も考慮）　50%

〔履修のポイント・注意点〕
・本科目は実技が中心となる。従って各自、日々の練習・努力に努めること。
・チェックシートⅠ・Ⅱ・Ⅲはピアノレッスンノートに貼付し授業時において担当教員の確認印をもらうこと。
「継続は力なり」である。能力を問わず意欲ある者の受講を望む。

〔科目内容の位置付け〕
基礎をふまえた上での応用レベルである

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
音楽実技Ⅰ・Ⅱ・ソルフェージュ既習者対象

L16001

科　目　名	造形Ⅱ
	授業形態：演習
教　員　名	小久保　裕

〔講義目的〕
人類を定義づけて、ホモ・ファーベル（工作人）と呼ぶことがある。ものを作る、絵を描く、といった創造的造形活動は、ヒトが人間的感性を身につけるた為の重要な活動であり、そこから生まれる喜びは、強い生命力の源泉となる。この活動を通して、人間が生きていく上での基礎的な諸能力、特に創造的想像力や他者を理解する能力を培うことができる。また、幼児、児童教育を目指す学生にとっては、子供の絵を理解し、指導力を身につけるためにも必要不可欠な学習であるといえる。
　造形Ⅱでは、造形の授業で習得した表現力と知識を土台に、より自由な場で自発性と創造性に富んだ実践活動を行う。水彩、油絵具、アクリル絵具などを軸にした制作などを通して、より高い専門的技能を修得することをめざす。また、美術館見学等による鑑賞も重視する。

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション
第２回　基礎デッサン　①
　　ペンと鉛筆で
第３回　基礎デッサン　②
　　コンテと木炭で
第４回　鑑賞
第５回　水彩による表現
第６回　アクリルによる表現
第７回　油彩による表現　①
第８回　油彩による表現　②
第９回　人形劇　①
　　紙粘土で人形制作
第10回　人形劇　②
　　着彩、ニス塗り
第11回　人形劇　③
　　舞台製作
第12回　発表
第13回　パネル・シアター
第14回　エプロン・シアター
第15回　発表

〔講義のすすめ方〕
主に絵画実技及びテーブル・シアター実技を受講生の希望、能力に沿ってグループ分けし、自主性を重んじた授業を行う。

〔教　　材〕
テキストは使用せず、プリントなど配布する。画材は各自負担、その都度説明、指示します。

〔成績評価の方法・基準〕
提出作品と発表による。「履修規程」に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
全回出席が原則。自主的に取り組む姿勢が求められる。

〔科目内容の位置付け〕
美術に関する応用的科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
造形、造形教材研究、絵画表現法

L16501

科　目　名	人権教育
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	横島 章

〔講義目的〕
1．同和問題における差別を理解する
2．さまざまな領域における差別を理解する
3．差別解消のみならず基本的人権の確立を考える

〔講義内容〕
1．同和問題の概要を説明する
2．被差別部落の人々に対する非人間的扱いを理解する
3．同和問題に関する文献や学習方法を理解する
4．人権擁護推進審議会の設置及び２つの答申を説明する
5．２つの答申の内容を深く理解する
6．女性の課題、子どもの課題を論じる
7．障害者の課題、高齢者の課題を論じる
8．ハンセン病及びエイズの課題を論じる
9．難病の患者の課題を論じる
10．その他の私人間の課題を考える
11．公権力による人権侵害を考える
12．文部科学省の「人権教育」に関する方針を説明する
13．少数者の権利の強化という視点を構築する
14．この分野に関する自己反省をまとめる
15．試験を実施する

〔講義のすすめ方〕
講義形式をとり、随時小テストを致します。

〔教　　材〕
その都度、コピーを配布します。

〔成績評価の方法・基準〕
試験および小テスト。
その前提として規定以上の出席が必要。

〔履修のポイント・注意点〕
授業に出席し、時々参考図書等を指示しますから、自宅学習を御願いします。

〔科目内容の位置付け〕
教科の位置づけは道徳教育に近いが、内容はかなり異なる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
歴史学、社会学、心理学

L17001

科　目　名	特別支援教育概論
	授業形態：講義
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
①障害の程度や種類に応じて別に場を設けて行う「特殊教育」から、個に応じた的確な「特別支援教育」への転換によって、日本の新たな障害児教育が始まったことを学ぶ。
②平成21年度開講される新しい科目で、平成19年4月文部科学省が告示した「特別支援教育の実施」を受けて、教職科目に加えられたものである。
③日本の教育に長く位置づけられてきた障害児教育・特殊教育が、その本質を時代の認識に合せる形で「特別支援教育」となり、名称だけでなく、教育の本質や対象症例に至るまで新に説明しなおしたことを、本学の教職課程で勉強中のすべての学生（幼児・小中、高校対象）にはしっかりと学んでほしいのである。

〔講義内容〕
第Ⅰ部　理解編
　1．教育基本法第4条の意義
　2．特別支援教育の意義と概要
　3．特別支援教育のシステム
　4．子どもの特性の理解

第Ⅱ部　指導編
　1．一人ひとりのニーズに応じた教育
　　①視覚障害
　　②聴覚障害
　　③知的障害
　　④肢体不自由・病弱教育
　　⑤言語障害
　　⑥広汎性発達障害
　　⑦重複障害教育
　2．軽度発達障害の教育
　　LD,ADHD, 高機能自閉症などの特別支援教育

第Ⅲ部　教育と医学・医療

第Ⅳ部　家庭・社会との連携

〔講義のすすめ方〕
1．本来30回授業を必要とする程度の質と量の専門分野である。
2．義務教育の教員免許取得を希望する学生は「介護体験」を経験するが、全般に特別支援教育は通常の生活における接点が必ずしも多いとはいえないので、受講生には努めて障害との接点を体験してもらうことを希望する。
3．授業は講義を中心に行う。
4．通常の学級には6.4％の割合で軽度発達障害の子どもたちが在籍していると云われるので、すべての教員が教室で「特別支援教育」に携わることが予想される。従って、講義内容では、特に軽度発達障害の教育の部分に、重点を置いて講義を行う。

〔教　　材〕
①教科書：「軽度発達障害の教育」・上野一彦・花熊　暁編・日本文化科学社・1800＋ tax
②その他必要に応じて、多様な資料提供をする。
③講義者の中谷は長年障害児教育を研究してきて、特に軽度発達障害児教育で使用する教材の開発に関心が高いので、試案の教材を時々持参すると思われる。

〔成績評価の方法・基準〕
①まず、講義を聞いて理解を深めることが必要である。
　従って、出席状況は評価の対象となる。
②新しい分野なので、ときどき受講生の理解状況を聞かせてもらう。
③主な評価法はレポートである。

〔履修のポイント・注意点〕
初回授業なので、特にない。

〔科目内容の位置付け〕
特にない。

L18501

科　目　名	保育内容総論
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	金崎　芙美子

〔講義目的〕
本授業は、保育士資格取得のための必修科目として開講され、保育所保育内容を組み立てる力を養うこと目的としている。具体的には①保育所の役割や②これまでの保育観や保育内容の変遷について学び③日本の国の基準である「保育所保育指針」の保育内容や施設設備等について、また、④子どもの成長発達を促す保育内容について理解を深め、保育実践のための指導計画を作成できる能力を培う。

〔講義内容〕
第１回　保育所について（制度）
第２回　保育所をめぐる状況（少子化　父母の就労の多様化　幼稚園との関係など）
第３回　保育所の一年（ビデオ視聴）
第４回　保育内容の変遷（保育「項目」の時代）
第５回　保育内容の変遷（保育要領から保育所保育指針へ）
第６回　保育所保育指針について①（保育所保育の基本と目標）
第７回　保育所保育指針について②（保育所保育の特徴と課題）
第８回　発達過程と保育内容（1歳3ヶ月未満児）
第９回　発達過程と保育内容（1・2歳児）
第10回　発達過程と保育内容（3・4歳児）
第11回　発達過程と保育内容（5・6歳児）
第12回　遊びの実際と指導計画（手遊び、折り紙など）
第13回　遊びの実際と指導計画（全身運動あそび）
第14回　生活と指導計画（給食と食育）
第15回　まとめ（試験）

〔講義のすすめ方〕
学生による発表や討論を行うなど学生参加の授業をすすめる。

〔教　　材〕
保育内容総論（ミネルヴァ書房）の教科書を使用する

〔成績評価の方法・基準〕
受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
前回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための必修科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容の5領域に関する授業を受けていることが望ましい。

L19001

科　目　名	保育内容演習（表現①）／保育内容演習（音楽表現）
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	冨田　英也

〔講義目的〕
この授業は、保育内容研究（音楽表現）の履修者、又は、ソルフェージュや音楽実技Ⅰ（基礎）音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）で基本的な技能を修得したものがさらなる表現力と応用力を身につけることを目的とする。
具体的には、音楽の要素を捉え、幼児から児童までの発達段階における音楽とあそびにおいて、感性を育みイメージを豊かにし、色々な事象にあった音楽表現活動を行う。又、保育者自身のイメージトレーニングとパフォーマンス等を行うものである。

〔講義内容〕
毎時間10分程度幼児の歌と表現あそびを行う。
さらに、ステップバイステップで次のようなあそびとパフォーマンスを体験する。
1、ゼスチャーとパントマイムの試み1
2、ゼスチャーとパントマイムの試み2
3、絵本や紙芝居と楽器あそび1
4、絵本や紙芝居と楽器あそび2
5、劇あそびと音楽1
（指人形、手袋人形、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、等々より選択と作製）
6、劇あそびと音楽2
（つくってみよう、あそんでみよう）
7、劇あそびと音楽3
（発表と評価）
8、音楽と身体表現、イメージを動きにする
9、ミュージカルやオペレッタの試み１
（既製の作品から概要の理解と選択）
10、ミュージカルやオペレッタの試み２
（音楽や内容の理解と配役の決定）
11、ミュージカルやオペレッタの試み３
（歌や振り演技の理解）
12、ミュージカルやオペレッタの試み４
（歌や振り演技の理解）
13、ミュージカルやオペレッタの試み５
（全体のとおし稽古）
14、ミュージカルやオペレッタの試み６
（全体のとおし稽古）
15、ミュージカルやオペレッタの試み７
（発表と評価）

〔講義のすすめ方〕
生活を通した総合的な視点から、幼児の主体性を十分発揮して展開できるような、環境にあった音楽表現活動を模索する。こどもの心身の発達と音楽的能力・リズムと身体表現・等々を認識しながら、楽器あそび、劇あそび、音楽と身体表現、音楽表現活動を行う。

〔教　　材〕
テキスト、「ポケットいっぱいのうた」 教育芸術社　2,100円税込
その他必要に応じプリントする。
参考図書、「楽しい音楽表現」 圭文社　2,500円＋税
「うたっておどっておもちゃ箱２」 教育芸術社　2,310円税込

〔成績評価の方法・基準〕
受験資格は、『白鷗大学試験規則』に準ずる。課題の提出・発表内容や取り組む態度等（平常点70%）。出席率30%、

〔履修のポイント・注意点〕
幼児の生活の実態をふまえた創意工夫が大切であり、興味をもって積極的に取り組む姿勢を重要視する。こどもの目線でこどもの立場になって物事を考え理解する視点が必要である。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格・幼稚園教諭取得関連科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容研究（音楽表現）、音楽実技Ⅰ、音楽実技Ⅱ、音楽実技Ⅲ、ソルフェージュ、等々。

L19101

科　目　名	保育内容演習（表現②）／保育内容演習（美術表現）
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	小久保　裕

〔講義目的〕
幼児の日常生活は、新鮮な発見と驚きの連続であり、美しいもの、優れたもの、心に残るような出来事に出会う、などして人間的な感性か培われていく。それを励まし、表現する意欲へと高め、想像力豊かな人間を育成することが、幼児指導者に課せられた責務である。
　幼児の表現手段は多種であり、初期の身体的表現から、造形的、音楽的表現、さらに言語的表現に至る表現過程は、あたかも類人猿から人間への長い進化の道程を、集約して見るかのごとき、驚きと感動を覚える。この講座の「表現」とは、幼児の造形的表現を指す。授業では幼児の成長段階に応じた理解と指導力、さらに自らが高い造形的表現能力を持った幼児指導者としてのセンスと技能の習得をめざす。

〔講義内容〕
第１回　　オリエンテーション
第２回　　プレゼントカード　（基礎）
第３回　　プレゼントカード　（応用）
第４回　　組み紙　　（直線）
第５回　　組み紙　　（曲線、応用）
第６回　　小麦粉ねんどを作る
第７回　　ちり紙ねんどを作る
第８回　　指人形制作
第９回　　グループ発表
第10回　　壁面構成
第11回　　パネル・シアター
第12回　　エプロン・シアター
第13回　　紙芝居、スピード絵本
第14回　　発表会準備
第15回　　発表会　授業実施

〔講義のすすめ方〕
相互批評やディスカッションを交えた課題制作を行う。

〔教　　材〕
テキスト　「楽しい造形表現」圭文社
画材については適宜、説明、指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
「履修規程」に準ずる。提出作品の質と完成度による。受験資格は「保育士資格規定」に準ずる。

〔履修のポイント・注意点〕
個性と創造性を重視する。固定概念にとらわれない自由な発想で、作品完成までのプロセスを楽しんでほしい。課題作品は期限までに必ず提出すること。
全回出席を原則とする。

〔科目内容の位置付け〕
保育士資格取得のための重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「造形」、「絵画表現法」、「造形教材研究」、「美学」

L19201

科　目　名	保育内容演習（表現③）／保育内容演習（身体表現）
	授業形態：演習 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	高橋　美穂子

〔講義目的〕
身体表現（表現遊び、ダンス）を中心に、自らの身体感覚を呼び覚まし、他者と共感できる身体を作ることを目指します。他者と共感し、新たな動きの可能性、関わりを探りながら身体表現を通して、身体表現能力とコミュニケーションの能力を高めることを目指します。

〔講義内容〕
本授業では①感じたことや考えたことを自分なりに身体表現する、②人と関わって身体表現をする、③表現遊びやダンス小品を創作する、④発表し、意見を交わし合うなどの多様な側面から身体表現の特性を楽しみ、身体感覚を通して他者と共感する意義を学びます。

〔講義のすすめ方〕
1. オリエンテーション
　授業内容についてのオリエンテーションと簡単なステップ、表現遊び
2. 表現遊び
　いろいろな表現遊びを学び、それをもとに発展、応用させて工夫を楽しむ
3. リズムにのって
　いろいろなリズムにのって音楽の特性を生かした動きを工夫する
4. リズムにのって２
　音楽のイメージをとらえて友達と一緒に踊り、表現を工夫する
5. 動きの組み合わせ
　動詞カードなどで遊びながら動きを組み合わせ、一連の動作、表現になるようにチャレンジする
6. 小道具を使って
　身の回りにある道具を何かに見立て、表現する
7. 日常の動作をもとに表現の工夫をする
8. グループ創作
　絵本や物語を題材に創作、身体表現する
9. グループ創作2
　芸術作品を題材に創作、身体表現する
10. 共通課題をもとにした創作
11. 共通課題をもとにした創作
12. 共通課題をもとにした創作
13. 共通課題をもとにした創作
14. 共通課題をもとにした創作
15. ビデオ鑑賞と授業のまとめ

〔教　　材〕
特になし（必要に応じて配布する）

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況、授業内発表、学び方、授業内ノートによって総合的に判断、評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
動きやすい服装で参加すること（ジーンズ不可）。
出席して体験することが大切なので、欠席はしないこと。
やむを得ない理由で動けない場合には理由を明らかにしたうえで、見学すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容研究（身体表現）

L20001

科　目　名	ゼミナール（荒井洌）
	授業形態：演習
教　員　名	荒井　洌

〔講義目的〕
　世界的に著名なエレン・ケイ（Ellen Key）の『児童の世紀』（1900年）を、まずは子育てをする親の立場に立って読み解くこととします。
なぜなら、この本は、子どもを育てる親に向けてという姿勢で執筆されたからです。
　次に、『児童の世界』の中で展開される教育についての考え方は、20世紀初頭の新教育運動、すなわち "vom Kinde aus”「子どもから」という、児童中心主義の教育運動にとっての大きな力となりました。それは、教えられる側に立っての教育哲学であったからです。
　現在の子どもの教育をめぐるさまざまな深刻な実態を考えるとき、『児童の世紀』の中で述べられているセンスやフィロソフィーや方法などは、味わいのある糧となり得る可能性があるように思います。

〔講義内容〕
（前期）
1.Ellen Karolina Sofia Key について
2.『児童の世紀』の誕生について
3. 日本での紹介について
4. 子どもの自由な遊び
5. 子どもと遊べる者
6. 未来の学校へのロマン
7. 子どものいたずらの意味
8. 家庭生活のアーティスト
9. 根と花の相互関係
10. 美しい糸を織り込む
11. 自然の美や芸術の美
12.『恋愛と結婚』の執筆について
13. 恋愛の進化
14. 社会における母性の役割
15.「青踏」の人たちの受けとめ方

（後期）
1. スウェーデンの歴史
2. 日本とスウェーデンとの関係
3.『児童の世紀』の翻訳について
4. 訳者・小野寺　信氏の業績について
5. 子どもの母親を選ぶ権利
6. 子どもの母親の保護
7. 女性解放運動と母性保護
8. 女性の選挙権と子どもの権利
9. 教育というものについて
10. 未来の学校
11. 宗教の授業
12. 学校におけるストレス
13. 家庭の喪失
14. 本と教科書について
15. エレン・ケイに思想にふれて

〔講義のすすめ方〕
　テキストを、講義内容のレジュメに沿いないがら、丁寧に、深く読みこんでいくようにします。

〔教　　材〕
（前期）
　荒井　洌著
『エレン・ケイ　保育への夢』 フレーベル館

（後期）
　エレン・ケイ著、小野寺　信・小野寺百合子訳
『児童の世紀』 冨山房百科文庫

〔成績評価の方法・基準〕
　出席を重視します。
　必要に応じて、リポートを提出していただきます。

〔履修のポイント・注意点〕
　少人数での、ゼミナールという形での学習の機会を大切にして下さい。

〔科目内容の位置付け〕
　大学での学習の、ひとつの大切なポイントとして認識して下さい。

L20002

科　目　名	ゼミナール（荒井弘）
	授業形態：演習
教　員　名	荒井　弘高

〔講義目的〕
「音楽の魅力とは」をテーマに歌唱を中心とした表現活動研究を行い、同時に自分自身の音楽的素養を高めることを目的とする。
具体的には、わらべうた・童謡・現代のこどものうたなどを主な教材とし、その中から幼稚園・保育所及び小学校などの現場で使用するであろう「うた」をピックアップ、その「うた」のつくられた時代背景・ルーツ・作曲家・作詞家・歌詞の内容および伴奏法・歌唱表現法などから、学生自身が課題を設定し、研究を行なうこととする。
また、歌唱にピアノ・ハンドベル・打楽器・リコーダーなどの楽器を加えての音楽における総合表現法の研究を行い、幼稚園・小学校などでの発表会などにも挑戦したい。
そのための音楽的感性を高めることを目的とし、積極的に童謡コンクール・ミュージカルなど様々な演奏会に足を運びたい。

〔講義内容〕
歌唱を中心に、主に現場においてどんな教材が使用されているかを調査し、文献・楽譜等を参考にしながら自分自身の課題を見つけ、研究を行なう。

当授業は以下の日程で行う予定である。
４月：各自テーマ決定
５月：資料の整理、実技指導
６月：各自のテーマによる発表会
７月：前期まとめ
９月：後期テーマ決定
10月：資料の整理、実技指導
12月：各自のテーマによる発表会
１月：幼稚園又は小学校での音楽会開催

〔講義のすすめ方〕
学生が主体となり、自ら計画を立て、課題を決定する。これらに基づき指導を行う。

〔教　　材〕
・必要に応じて指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席を重視し、課題研究の取組状況、内容等により評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
研究内容に対しての準備を積極的に行うこと。

〔科目内容の位置付け〕
音楽研究活動の実践の場、および卒業研究のための基礎研究の場としたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
・ソルフェージュを履修済みであること。

L20003

科　目　名	ゼミナール（五十嵐）
	幼児教育理論の研究―モンテッソーリを学ぶ
	授業形態：演習
教　員　名	五十嵐　敦子

〔講義目的〕
イタリアの女性医師であり、幼児教育者であったマリア・モンテッソーリの幼児教育理論と教育実践について探求する。

〔講義内容〕
モンテッソーリは、自ら開発した教具を使うモンテッソーリ・メソッドを生み出したことで、広く世界的に知られている。モンテッソーリの代表的な著作を丁寧に読みながら、モンテッソーリの生涯、子ども観、世界観、メソッドの特徴、教具について学び、彼女の幼児教育理論への理解を深める。また、日本におけるモンテッソーリ・メソッド実践園の事例についても学び、モンテッソーリ教育について理論と実践の両面から研究・検討する。最近のモンテッソーリ研究についても触れる。半日程度の実践園への見学（観察）を実施する予定である。

〔講義のすすめ方〕
文献を読んで、理解したことをまとめてレジュメ（要旨）を作成し、発表する。

〔教　　材〕
モンテッソーリ著『幼児の秘密』国土社

〔成績評価の方法・基準〕
出席、発表・討論への参加、最終レポートなどで、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
文献講読が中心になるので、それを覚悟のうえで受講すること。また、受講生全員が積極的に参加できる討論を目標としているので、積極的で前向きな姿勢を持つ学生を期待する。

〔科目内容の位置付け〕
原則として、課題研究Aと課題研究Bを連続して履修すること。
課題研究ABを受講することが、4年次の卒業研究を受講するための条件である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
課題研究B

L20004

科　目　名	ゼミナール（今田）
	授業形態：演習
教　員　名	今田　政成

〔講義目的〕
「器楽（ピアノ）のアンサンブルの魅力とは」をテーマに器楽音楽の研究を行い、音楽表現の基礎を高めることを目的とする。
　具体的には、ピアノの連弾曲や２台のピアノ曲などを教材として、アンサンブルの研究を行う。幼稚園、小学校などで使われている曲の伴奏法等の研究を行う。研究課題は学生自身が設定する。

〔講義内容〕
現場におけるいろいろな音楽教材のピアノ曲や伴奏法などを、さらに充実させるため、アンサンブル的教育価値観の高い連弾や２台ピアノの研究を行う。ML システムのクラビノーバ多重録音機能を使い、アンサンブルの研究を行う。

〔講義のすすめ方〕
関心のある作曲家・曲等具体的に自ら設定し、計画をたてて課題を決定する。これらに基づき指導を行う。

〔教　　材〕
必要に応じてプリントする。

〔成績評価の方法・基準〕
課題研究への取り組み姿勢や、内容により総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
研究内容に対しての練習、準備を行うこと。

〔科目内容の位置付け〕
課題研究Ｂも続いて履修すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
音楽実技Ⅰ（基礎）音楽実技Ⅱ（こどもの音楽）

L20005

科　目　名	ゼミナール（岩城）
	授業形態：演習
教　員　名	岩城　淳子

〔講義目的〕
本科目の目的は、保育・教育・健康に関する領域から子どもに関する課題を発見し、それを深め問題を解決していくプロセスを学ぶことである。

〔講義内容〕
まず保育・教育・健康を理解する基礎力を養成するために、文献を輪読する。その過程では、レジュメの作成やプレゼンテーションの方法などを学ぶ。また全体討議を通して、問題の焦点化と共有化を図り、共同研究テーマを設定する。ほかに子育て支援活動や学童保育クラブへの参加を考えている。

〔講義のすすめ方〕
演習形式で、各自の発表、全体討論を中心とする。

〔教　　材〕
授業の中で指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
課題へのアプローチ、レジュメの内容、ディスカッションへの参加状況、活動への取り組み、報告レポートなどで総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
得られた知識や情報は自身の思考で再構成することにより、初めて知恵として活用出来るようになる。学ぶ姿勢を重視する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容演習（健康）
保育内容指導法（健康）

L20006

科　目　名	ゼミナール（奥澤）
	授業形態：演習
教　員　名	奥澤　信行

〔講義目的〕
小学校の社会科学習では、地理的分野の比率が高く、その中でも総合的な学習との関わりで、地域学習が重視されている。居住地や通学区の地理的事象を客観的に把握し、その成立要因を探求するという地理学における基本的な姿勢は、面的スケールを拡大することによって、市町村・都道府県・国家・世界各国の状況を理解する際にも有効である。それでは地域の実態を把握する際に、人々のどのような活動に着目しているのだろうか。1980年代までは農業や工業などの生産活動に主眼を置いた学習が中心であった。しかし現在は消費の面からみた商業活動や、情報技術に関する事項に重点が置かれ、まさにわが国の産業構造の変容を理解させる内容となっている。そしてこれらの活動の舞台である都市の姿を正しく理解することが不可欠となっている。本講では、都市における経済活動の実態を把握することで「地域の見方」を指導するとともに、「課題研究Ｂ」で予定している地域調査の概略にも言及する。

〔講義内容〕
都市における経済活動（特に商業における消費行動）について説明する。また地域調査の基礎的事項にも触れる。前期の授業では、経済地理学もしくは都市地理学に関する文献の輪読を行う。分担箇所のレジュメを作成し、20分程度の発表の後、ディスカッションを行う。後期の授業では、小山市周辺の都市において、景観観察や聞き取り調査などのフィールドワークを実施する。調査結果は分担してレポートにまとめ、報告書として調査に協力して頂いた機関に配布する。

〔講義のすすめ方〕
少人数のゼミナール形式であるため、文献講読については、各自が担当箇所のレジュメを作成し、関連事項の検索結果とともにその内容を発表する。地域調査法に関しては、講義形式で行う。

〔教　　材〕
経済地理学または都市地理学に関する文献を使用するが、詳細については開講時に指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と担当箇所の発表内容、さらに授業中の発言などを総合して評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
最近の学生は、無駄なお喋りには大声を張り上げるが、肝心の授業となると自分の意見も満足に言えず、発言しても蚊の鳴くような声である。必要なことをきちんと明瞭な声で発言できないのは、とりわけ教員を目指す人にとっては致命的なことといえる。もし受講生諸君がこのように小声で発言しているのであれば、この授業によってそのような態度を改めてもらいたい。この科目はゼミ形式であるので、それが可能なのである。そして自信ある発言ができるためには、授業で扱う内容だけでなく世の中の出来事に常に関心を払い、自分なりの考えをまとめる訓練をすることが大切である。活気あるゼミとするために、物事に積極的に取り組む姿勢を見せてもらいたい。さてゼミ形式の授業は大学生活の中核をなすものである。教職であれ、民間企業であれ、就職に際してゼミで何を学んできたかが問われるのは常識である。それは学問に関することだけでなく、そこで培われた教員とゼミ生、またゼミ生同士の人間関係こそが、就職のときに重要な意味を持つことによる。したがってゼミの行事には積極的に参加し、有意義な学生生活を送ってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
高校で「地理」を履修していなくても問題ない。地理的な物の見方の基本から指導したい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本講では人文地理に関する内容が主となるので、自然地理についても扱う「地理学Ａ・Ｂ」を履修することを希望する。

L20007

科　目　名	ゼミナール（粕谷）
	授業形態：演習
教　員　名	粕谷　圭司

〔講義目的〕
私たちの身の回りには、絵画や彫刻など、所謂美術と呼ばれている造形が多数存在する。造形は人間だけが発展させてきた活動であり、それは、宗教的思いや、人間のからだの美しさを表現しようとしたり、悲しみや喜びの気持や考えを表わし伝える手段としての造形である。
　当講座においては、造形活動を通して、物の色や形、材質について研究し、新たな形態を創り出すことを目的としたい。

〔講義内容〕
立体の分野における「おもちゃ」について研究を進めていく。
・文献資料の検索
・材質の研究
・形態の研究

〔講義のすすめ方〕
３、４名のグループ別に制作研究をする。
　グループ別にテーマを決定し進める。

〔教　　材〕
テーマ別に費用を徴収する。

〔成績評価の方法・基準〕
作品提出
出席　20％
点数　80％

〔履修のポイント・注意点〕
グループ毎の充分なディスカッションが必要であり、実技中心の講座であるので積極的参加、取り組む姿勢が望まれる。A、B通年を履修すること。

〔科目内容の位置付け〕
主に実践的内容であるが広い知識が必要となる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
造形、造形教材研究

L20008

科　目　名	ゼミナール（川瀬）
	授業形態：演習
教　員　名	川瀬　善美

〔講義目的〕
「社会福祉構造改革」以降、社会福祉の様相は一変した。それは、介護保険制度導入、障害者自立支援法等の成立
となって具体化され、そのことによりさらに変化は加速されることとなった。
　児童福祉の分野に目を転ずると、児童手当の支給年齢の引き上げ、障害者自立支援法との関連で障害児に対する
制度も変更となるなど様々な変化が見られる。保育においても大都会の保育待機児童解消のために、東京都では
「認証保育園」をスタートさせるなど、従来の認可保育所と無認可保育所というものの他の形態が出現している。
その一つが「認定こども園」であろう。
　このように、ある意味で激動とも言えるほどの急激な変化の中にあって、こう言う時期だからこそ今一度社会
福祉とは何かについて、考えて見たい。

〔講義内容〕
4.5月　ゼミ生それぞれが興味・関心のある社会福祉分野での事象の中から研究テーマを設定する
6.7月　設定したテーマへの研究・アプローチ方法について検討を行う
9.10　　研究活動と研究成果の理論化・文章化
11.12月
1月　　研究発表・プレゼンテーション

〔講義のすすめ方〕
ゼミ生がそれぞれ設定した研究テーマへの取組みの中で、必要な指導・助言を行う

〔教　　材〕
『レポート・論文の書き方』 河野哲也著　又は、『レポート・論文の書き方』桜井雅夫著

〔成績評価の方法・基準〕
日常の研究活動の状況、取り組む姿勢、態度及び研究発表での成果　６０％
ゼミの出席状況　４０％　で評価を行う

〔履修のポイント・注意点〕
卒業研究につながる研究を行うこと

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会福祉Ｂ、福祉施設経営論、福祉とボランティアの未履修者は履修すること

L20009

科　目　名	ゼミナール（小久保）
	授業形態：演習
教　員　名	小久保　裕

〔講義目的〕
今日、急速な科学技術の進展に反比例するかのように、現代人における想像力や思考力の貧困、さらには環境汚染に象徴されるような心の荒廃が進みつつある。多くの子ども達もまた、生きる目的や学ぶ意欲を喪失し、心暖まる人間関係を結べないでいる。こうした子ども達にとって、豊かな実体験や自由な創造的表現活動は必須のものであり、学校教育においてもさらなる充実が求められよう。とりわけ絵を描き、ものを作るなど、手を使い、せいいっぱい五感を働かせた造形表現活動は、みずみずしい人間的感性や想像力を目覚めさせ、他者への共感や感動を分かち合う心を育てるであろう。
　ここでは、自主的な課題製作を中心に、子どもの描画指導の実践も含めて、より専門的な技能と指導力の習得をめざしたい。

〔講義内容〕
以下のテーマを選択し、自主製作、研究を行う。
１．絵画実技（油絵、アクリル、水彩）
２．創作絵本
３．紙芝居などミニ・シアター
４．自然物からの造形
５．美術館鑑賞

〔講義のすすめ方〕
選択したテーマに沿って、個人あるいはグループで、ディスカッションを交え制作研究を行う。

〔教　　材〕
テキストは使用せず、プリント等配布する。
画材については適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
提出作品、レポート等による。

〔履修のポイント・注意点〕
実技中心の授業であるから自主的に取り組み、各自納得するまで制作、研究を行ってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
ひとつのテーマの中から独自の形や色、技法を生み出すには充分時間が必要であり、課題研究Ａ、Ｂを連続して履修することが望まれる。

L20010

科　目　名	ゼミナール（後藤）
	授業形態：演習
教　員　名	後藤 達生

〔講義目的〕
小学校算数の教材は広く多岐にわたり，奥が深い．その背景には気の遠くなるような数学の長い歴史があります．この講義では，算数教材の背景にあるものを様々な資料や文献により，さらに深く探求することを目的とします．例えば，分数の歴史は古く，古代エジプトの時代まで遡ります．そのころ既に今日の我々が理解できないような複雑な式が扱われています．
今日小学校が抱える様々な問題から古代文明が解き明かしたさまざな真理まで，諸君自らが検索し，資料や文献を読みこなすことの楽しさを知ってもらうこと，これがこの講義の主たる目的です．

〔講義内容〕
ゼミに集まったメンバーがどんなことに関心があるかによりますが，次のようなテーマが候補になります．

1）算数の教材研究
2）図形ソフトなどを用いた教材の開発
3）数学史からの話題
4）各種学力調査の研究
5）教員採用試験の過去問の研究

2）については，多くのソフトはシェアウェアですが，フリーソフトでもなかなかの優れモノっがあります．また，動画を用いた教材も考えられます．パソコンに関心のある学生は歓迎します．

〔講義のすすめ方〕
ゼミ形式で授業を進める．レポーターによる報告が中心となります．

〔教　　材〕
適宜資料を配付する．

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況，授業でのレポート等により評価します．

〔履修のポイント・注意点〕
小学校教員を目指す学生を優先します．

〔科目内容の位置付け〕
少人数のゼミ形式によるこの授業は，卒業研究の基礎科目になります．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提とする科目は特にありませんが，算数概説 I，II，算数科教育法とは深く関わっています．また，課題研究 A，B は連続して受講することを原則とします．

L20011

科　目　名	ゼミナール（小原）
	授業形態：演習
教　員　名	小原　政敏

〔講義目的〕
幼児・児童の教育分野は広範囲にわたるが、ここでは理科教育を中心に研究する。
理科教育では、自然観察や実験が不可欠であり、自然観察方法や実験方法を具体的に研究する。新しい実験方法の開発や科学玩具の研究開発などを目指している。
卒業研究に結びつく課題を研究することを目指している。

〔講義内容〕
1）小学校
・理科実験観察の内容調査
・実験の追試
・新しい実験の開発研究
・小学生向きの科学玩具の開発
・理科学習用パソコンソフトの開発
2）幼稚園・保育園
・園児が遊ぶおもちゃの調査
・園児が喜ぶおもちゃの開発
・集中力を高めるおもちゃの研究
・おもちゃを用いた遊びの開発
・自然の動植物や石・砂を利用する遊びの開発
・風・水を利用する遊びの開発
・光・音を用いた遊びの開発
3）その他理科教育に関するもの
・理科離れについての研究
・外国の理科教育の比較研究
・科学史の研究
・理科教育の歴史的研究

〔講義のすすめ方〕
受講生一人一人が興味関心を持つ理科教育に関する実験方法や科学玩具などに関して学習・研究・開発を行う。時々、全員で一つの課題について討論し、新しいアイデアや問題解決法を考える機会を設けて学習や研究を推進する機会とする。

〔教　　材〕
教科書　特に定めないが、多くの関連書物がある。
参考書　必要に応じて紹介する。
実験材料　少額の実験材料については個人で負担してもらうこともある。
VTR・パソコンソフト
補助プリント

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験　実施しない。
レポート・作品
提出・内容について評価
判定基準（講義内容で変更あり）
・試験点数０％
・出席率15％
・レポート・作品　85％

〔履修のポイント・注意点〕
我が国では、子どもの理科離れが進んでいると言われている。保育園・幼稚園・小学校の子どもたちに、自然のおもしろさ・楽しさを訴えられるような理科教育の創造を目指して欲しい。
自分の課題を見つけ主体的に学習することを期待している。

〔科目内容の位置付け〕
幼稚園や小学校の理科教育に興味関心を持ち、自分でも新しい理科の指導法の研究や開発を望んでいる人を対象としている。本を読んでその内容についての学習ではなく、具体的な自然現象や事物について物作りや実験を中心に進めるものである。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　理科概説Ⅰ、
関連科目
・教養科目として「環境科学」、「物理学」、「生物学」、「科学史」がある。

L20012

科　目　名	ゼミナール（渋川）
	効果的な学習教材の作成法
	授業形態：演習
教　員　名	渋川　美紀

〔講義目的〕
本ゼミナールでは教材という物づくりを楽しむとともに、研究活動を通じて未知のものを知る楽しさを感じてほしいと思っています。少子化により一人一人の個別の教育が重んじられるようになった現代では，個人の個性に柔軟に対応した効果的な教育を実現することが重要な問題となっています。このような教育を実現するためには，教材や教育方法の工夫に対応して，教育の効果や進捗度を客観的に評価・測定することが欠かせません。そこでより個人に適した教材の開発とともに学習の進捗度の客観的な計量法について考えていきます。それぞれの教材をパソコン等を利用して作成し定量的に比較しながら、より効果的な学習教材の開発を目指します。それとともに学習の進捗度や効果の客観的な計量法について考え，学習の定着を判断する指標を構築する試みを行っていきたいと思います。

〔講義内容〕
第１～３回 Excel の学習
第４～８回 Visual Basic の学習
第９～16回 その他のアプリケーションの学習
第15・16回 プログラミング言語について復習
第17～23回 教材の開発
第24～29回 教材の評価・考察
第30回 まとめ

〔講義のすすめ方〕
実習を中心に進めていきます。

〔教　　材〕
教科書および参考書は講義開始時に指定します。

〔成績評価の方法・基準〕
成績の評価は以下１・２によって評価します。
１出席は講義回数の2/3以上。
２レポート等の提出。

〔履修のポイント・注意点〕
遅刻や欠席をしないように心がけましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう（欠席扱いにします)。また、遅刻３回で欠席１回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。

〔科目内容の位置付け〕
教育の現場においては常に創意工夫に努めなければなりません。それぞれの児童の個性に応じたよりよい教材の開発はこれからの教育においてますます必要となることと思います。そのための基礎学習となる授業です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
前提科目は特にありません。プログラムについての知識がなくても大丈夫です。

L20014

科　目　名	ゼミナール（髙橋）
	授業形態：演習
教　員　名	髙橋　美保

〔講義目的〕
前期は、子どもの発達や保育環境に関する研究、さらには保育や子育てに関する歴史的な検討など、子どもの発達と食育、遊育に対する内容について、各自が関心あるテーマを絞り込みながら、その基礎的な研究方法について学ぶ。また、保育現場での基本的な観察方法や記録のとり方なども身に付ける。
後期は、次年度に行う卒業研究にむけての準備とする。そのためには、問題意識、研究の方法、論の整理といった手順を獲得していく時間としたい。各自が設定した課題を食育や遊育の視点から、子ども達が成長していくプロセスやそこでの保育者の援助、保育・生活環境のあり方についてなど、関心の在り様により個別あるいはテーマ別に探求していく。

〔講義内容〕
1．保育における食育、遊育の意義を知る
1回　自己紹介とガイダンス
2回　基本文献の紹介と文献検索の方法

2．子どもの発達に関する文献研究を進める
3回　資料や文献を収集する
4回　テーマに関連づけて整理し読み込む
5回　読み取った結果を考察し発表する①
6回　読み取った結果を考察し発表する②
7回　読み取った結果を考察し発表する③
8回　読み取った結果を考察し発表する④
9回　保育現場(1)　【見学】

3．保育者・関係者に聞き取り調査を実施する
10回　テーマを選定し、内容や方法を検討する

11回　保育現場(2)　【聞き取り調査】
12回　調査結果をまとめる　①集計の仕方
②考察の書き方
③報告書を作成

13回　調査結果を報告する①
13回　調査結果を報告する②
14回　調査結果を報告する③
15回　調査結果を報告する④
各自夏休みの課題を提示する

4．テーマにそって研究を進める
16回　オリエンテーション
17回　研究テーマの設定と方法の選定
18回　研究方法の検討
19回　調査用紙作成、実験方法、媒体の製作①
20回　調査用紙作成、実験方法、媒体の製作②
21回　保育現場(3)　【フィールドワーク】
22回　発表のまとめ方
22回　プレゼンテーション①
23回　プレゼンテーション②
24回　プレゼンテーション③
25回　プレゼンテーション④
26回　プレゼンテーション⑤
27回　プレゼンテーション⑥
28回　プレゼンテーション⑦
29回　取り組みの成果を文章にする
30回　ゼミの要旨集を作成する

〔講義のすすめ方〕
前期は、興味のある文献研究をとおして自分の意見を発表し、互いのテーマについてディスカッションしながら進める。また、保育者自身の考え方を知るために聞き取り調査を行い、その結果から実態を考察し、報告しあう。
夏休み前に自分の課題を発表し、後期には自分のテーマを明確化して、その解決にむけての取り組み方や表現する方法を学び、プレ卒業研究としてまとめる。

〔教　　材〕
随時、紹介していく

〔成績評価の方法・基準〕
授業への参加態度(20％)、文献研究への取り組み姿勢(20％)、調査報告書(20％)、プレゼンテーション(40％)を、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
今、なぜ食育が強調されるのか、なぜ遊育が求められるのか、そうした問題意識を持って授業に臨み、積極的な態度で討議に加わり、自分の保育感を築いて欲しい。
必要に応じて、時間外の活動やゼミ合宿等もありうる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
卒業研究のテーマを決定し、卒業論文の作成へと進めていくため、自主的な努力が必要となる。

L20015

科　目　名	ゼミナール（冨田）
	音楽と人間のかかわり
	授業形態：演習
教　員　名	冨田　英也

〔講義目的〕
音楽を通しての研究を目的とする。ただ単に音楽と言っても非常に範囲が広い。しかし自分の求める興味や関心のあるものから出発することが望ましい。楽器の演奏であっても、声楽であっても、それらに関連する疑問点であっても可能である。

〔講義内容〕
将来の仕事である乳幼児・児童等の教育を意識して取り組むことも勿論良いが、人間のかかわり、生活の中での心の支え、気持の表現等々として音楽を研究することもすばらしいことである。音とは何か、音を考える、音を作る、音を通じて触れ合う、音楽の演奏活動、楽器製作、音楽の利用方法など様々な音楽活動を通して音楽を研究するテーマを決めることである。

〔講義のすすめ方〕
※始めにゼミナールの概説を行う。毎時間初めと終わりに話し合いを持つ。
※最初からテーマが決まらないのは当然である、テーマを探す方法として興味あることを試してみることが大切である。次にその事例と試みを示す。
※サウンドスケープ＝小山地区大学近辺、自分の住居近辺、等々音を収集し、音の地図や音の絵を作成し、どんな音環境にいるかを認識する。さらにどんな環境音楽が理想なのか模索する。
※楽器作り＝音の楽しみ方として楽器を作り、音の美しさ、不思議さ、面白さ等を体験し、それをどう活用したらよいのか考える。
※その他の活動＝オリジナル手あそび制作、手あそび、童歌あそび、リズムあそび、ボディパーッカショ ン、リトミック、パネルシアター、劇あそびやミュージカル、等々
※夏休等で合宿を行い、同じテーマでの活動や教員と受講生同士の絆を育む。

〔教　　材〕
必要に応じてプリントする

〔成績評価の方法・基準〕
立派な作品や良い結果を期待するものではない。課題に取り組む姿勢や過程を評価したい、したがって、努力といかに意欲を持って取り組んだかも評価の対象となる。

〔履修のポイント・注意点〕
どんな容易な課題であっても実体験して初めてその喜びや楽しみが味わえるものである。焦らず小さな努力を惜しむことなく新しい発見に努めること。

L20016

科　目　名	ゼミナール（中谷）
	授業形態：演習
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
1．“受身的学び”を体験してきた1,2年次時代を卒業し、“研究的な姿勢・目的で学ぶ”ことを獲得してほしい。（研究的姿勢の獲得）
2．自分の“関心事”に気付き、それを研究課題に発展させる努力が大切であり、それはゼミ生自身の生涯学習の基礎となる。（研究課題の発見）
3．受講生がバラバラに課題探しをするのではなく、ある共通点を互いに持つ仲間が集まって、協議したり知恵を出し合って進歩する研究構成で進む。（協調性と協議する力）
4．はじめは小さな研究課題であっても、一年間追求し続け、4年生での「卒業論文」への挑戦を励みに努力する。（研究心の育成）

〔講義内容〕
1．指定参考書を輪読などによって読みこなしていく努力をする。
2．「軽度発達障害児童に向けた教材開発」を主テーマに、小学校課程の軽度発達障害児特別支援教育理解に取り組む。
3．通称「遊び材」を学校教育における教材に（科学的視点から）重ねて考えるという、比較的新しい研究方に取り組む。
4．3のためには、徹底的に「遊びやおもちゃ」に精通することが必要になってくる。
5．軽度発達障害児が在籍する教育現場での取り組みや資料分析などを通して、課題意識を深める。
6．各自が自らの取り組みや創意など、研究活動のすべてを正確に「文章化」できるよう、「書く力」を高めるトレーニングを重視する。

〔講義のすすめ方〕
1．まず、ゼミ生の条件・自立し、探究心を持ち、協調性が高く、努力する生き方を初回で話しあう。
2．自分の意見を持ち、それを発表することに喜びを感じ、ゼミ生相互に尊敬し合う学び方を実践的に確認し合う。
3．指定参考書を中心に、自分たちの研究テーマが現代教育界で関心の高い内容であることを認識する努力をする。
4．学究的にハングリーな若者であることに誇りをもつべく、ゼミの授業時間を問わず、研究室内の研究シートに発想や情報を書き込み・添付して、お互いの活動に役立てる。
5．学外で学究的活動を行う場合には、定例の授業時間に振り換えるることもある。（学務課の事前承認の上で）
6．各自の研究の一方で、多くの論文を読んで読後記録を取り、「論文の書き方」に慣れておくことを特徴とする。

〔教　　材〕
①教科書は無いが、指定参考書として次の書籍を挙げる：
　　新設科目「特別支援教育概論（児教新カリ3年生）のテキストと重複する。
　　「軽度発達障害の教育」/ 上野・花熊編 / 日本文化科学社発行 / ２００６年 /1800円＋税
②研究に相応しい教材探し（書籍、資料など）も研究の基礎とし、ゼミ生と担当教員の協力が望まれる。

〔成績評価の方法・基準〕
①出欠状況は学生の参加意欲を表現するものとし、自己申請式をとり、異動には理由書提出を義務づける。
②真剣に取り組まない学生は年度の途中でも「不可」評価することがあり、それは同時に卒業論文が書けないになる。

〔履修のポイント・注意点〕
1．原則として、「ゼロ免」の学生の履修は遠慮してもらいたい。
2．原則として小学校教員免許取得希望者向きゼミであるが、明確な研究意志を持つ学生にはチャンスである。
3．次年度に卒業論文を継続的に書くことを前提に、履修して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
　前期の科目の位置付けは、研究課題を学生自らが探し、研究方法を学び、自らの関心に触れるような研究を進める面白さを学び取ってほしい。
　そして、後期課題研究Ｂに引き継がせていくことである。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

L20017

科　目　名	ゼミナール（馬場）
	授業形態：演習
教　員　名	馬場　将光

〔講義目的〕
本ゼミナールでは、日本の教育のかたちとはどのようなものであるかを比較法を用いて考察したいと考えている。よく自分を見失ったら、己と他人とを比較せよ、そうすれば自分がどのような人間であるかがわかる、といわれる。われわれが受けてきた日本の教育とはどのようなかたちをしているのであろうか。それを明らかにするために、日本の教育と他国の教育と比較することを通じてその特徴を明らかにし、“なぜ”日本の教育がそのようなかたちになっているかを考察する。

〔講義内容〕
演習の時間には、まず基礎的な文献として垣吉僚子『人間形成の日米比較』（中公新書）、佐藤淑子『イギリスのいい子日本のいい子』（中公新書）を読む。そこでは、われわれが受けた日本の教育がアメリカの教育やイギリスの教育といかに違うかを学習する。２つの図書とも幼児教育から小学校の教育を中心に紹介されていて、内容はむずかしくなく読みやすいので、楽しく学習を深めることができる。アジアの教育にも触れたいと考えている。
さらに、基礎的な文献として二宮皓『世界の学校』（学事出版）を読む。そこでは、われわれが受けた日本の教育が外国の教育といかに違うかを理解する。その基本的な学習に基づいて、いくつかの関心のあるテーマに分かれて、個人もしくはグループで資料収集、資料分析、まとめを行い、それを発表する。ここで何を調べるかについては、もちろん個人がとくに関心、興味のあるテーマを自由に選んでいいが、何をしたらいいかわからない場合は、わたしの方から助言をする。

〔講義のすすめ方〕
演習のすすめ方は、文献を読んでそれを個人もしくはグループで発表する形式をとる。
①文献をきめる。
②担当を決める。
③発表する内容を要約する。
④プリントにまとめて発表をする。
⑤全員でディスカッションをする。
⑥まとめる。

〔教　　材〕
上記の３冊の他にも、必要に応じて入手することになろうと思われるが、できるだけ文庫本を中心にしたいと考えている。

〔成績評価の方法・基準〕
成績の評価は次のように評価する。
出席状況　20％
発表　40％
レポート　40％

〔履修のポイント・注意点〕
今日、社会のあらゆる場面でグローバル化が進行している。中田、イチロー、松井は日本人である。彼らだけではない。われわれは世界の国の人々と日常的に話をすることが多くなってきた。日本で行われている教育とまったく同じ教育が他の国でも行われているのではない。他の国ではどのような教育が行われているのであろうか。そのようなことに関心と興味をもってほしい。そこがこの講義の出発点である。

〔科目内容の位置付け〕
ゼミナールは、学生諸君が普通の講義で教員から話を聞くという受動的な学習とは異なり、自分達が自主的になにかのテーマに関心をもち、調べ、そしてそれをまとめて、発表する、という自主的な学習方法をとるところに特徴がある。

L20018

科　目　名	ゼミナール（増田）
	授業形態：演習
教　員　名	増田　仁

〔講義目的〕
本ゼミナールでは、前半は家庭科教育学でますます注目されてきている「家事労働」に焦点を当てる。私たちが当たり前の行為とみなしている、家事・育児・介護等を「家事労働」として概念化したとき、どのようなことがみえてくるのか。具体的には柏木博著『家事の政治学』を読み進めながら、「家事労働」の歴史性や「家事労働」と社会との関係性について考察していきたい。ゼミの後半では、米国の公教育における男女共学過程に関する英書（David Tyack“Learning Together”）を講読しながら、家庭科に関する章を精読する。ここから家庭科教育の社会学がどのような知見をもたらしうるのか考えていきたい。

〔講義内容〕
1，前期オリエンテーション
2，第1章の講読と討論
3，第2章の講読と討論
4，第3章の講読と討論
5，第4章の講読と討論
6，第5章の講読と討論
7，第6章の講読と討論
8，第7章の講読と討論
9，第8章の講読と討論
10，第9章の講読と討論
11，第10章の講読と討論
12，第11章の講読と討論
13，第12章の講読と討論
14，全体の総括と討論
15，前期まとめ
16，後期オリエンテーション
17，イントロダクションの講読と討論1
18，イントロダクションの講読と討論2
19，第8章イントロダクションの講読と討論
20，第8章1節の講読と討論1
21，第8章1節の講読と討論2
22，第8章2節の講読と討論1
23，第8章2節の講読と討論2
24，第8章3節の講読と討論1
25，第8章3節の講読と討論2
26，第8章4節の講読と討論1
27，第8章4節の講読と討論2
28，第8章5節の講読と討論1
29，第8章5節の講読と討論2
30，後期まとめ

〔講義のすすめ方〕
テキストの輪読および討論

〔教　　材〕
柏木博著『家事の政治学』2000年、青土社。（テキストはコピーして配布する。）
David Tyack“Learning Together”1990 Yale University Press（テキストはコピーして配布する。）
その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（20％）、発表内容（80％）から総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
担当者はきちんとした発表レジュメを作ってきてください。
積極的に議論に参加することを望みます。
有意義な時間を共に過ごしましょう。

〔科目内容の位置付け〕
応用・発展レヴェルの科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本科目は「家庭科概説」「家庭科教育法」を前提としている。

科　目　名	ゼミナール（益田）
	授業形態：演習
教　員　名	益田　勇一

〔講義内容〕

西洋における近代絵画成立の時期については、ロマン主義（18世紀末～19世紀前半）以降とする場合と、印象主義（19世紀後半）以降とるする場合がある。絵画で扱われる主題の変化に着目すれば、ロマン主義における変化を見逃すわけにはいかないし、目に見える表現様式の変化という点では、印象主義以降の絵画に近代の特色を見出すことができる。いずれにせよ、18世紀末から19世紀にかけて西洋絵画に大きな変化が生じていたことは確かである。それはルネサンス以降のいわゆる古典主義絵画の主題と表現様式に対して変革を迫るものであった。すなわち、宗教・歴史・寓意といった主題を透視図法と明暗法によって描くという古典主義絵画の常識に揺さぶりをかけた最初の動きがロマン主義であり、印象主義であったということになる。

ロマン主義においては、古典主義の主題の有する普遍性に対して、芸術家個人の内面性の表現を重視し、個性的で多様な作品が制作されるようになる。印象主義は色彩分割や点描画法という新しい表現技法によって、伝統的な明暗法や透視図法に頼らない絵画空間を提示した。なぜ、このような変化が19世紀に生じたのであろうか。19世紀という時代はそれ以前と比較して、どのような違いがあるのだろうか。19世紀は政治、経済、自然科学、文化、あらゆる側面で大きな変化が生じた時代であるといえるわけではあるが、このゼミナールにおいては、それらのなかでも特に、視覚世界の捉え方において生じた変化に着目して、それと19世紀絵画の新たな試みとの関連について調べてみたい。

＜前期＞

・ジョナサン・クレーリーのテキストを読みながら、17・18世紀の古典主義的視覚モデルから19世紀の新しい視覚モデルへの移行についての概要を把握する。

・19世紀の視覚モデルに基づいて、エドゥアール・マネの色彩と絵画空間の新しさについて考察する。

＜後期＞

19世紀の視覚理論、光学、生理学、画家、芸術論のなかから受講生それぞれが自らのテーマを設定し、調べた内容を発表する。

〔講義のすすめ方〕

前期はテキストの講読と意見交換。後期は各自が設定したテーマについて調べ、発表する。

〔教　　材〕

＜テキスト＞

『観察者の系譜』ジョナサン・クレーリー著、以文社、2005.

＜参考図書＞

『沈黙の絵画―マネ論―』ジョルジュ・バタイユ著、二見書房、1972.

『マネの絵画』ミシェル・フーコー著、筑摩書房、2006.

『色彩心理学入門』大山　正著、中公新書、1994.

『色彩の心理学』金子隆芳著、岩波新書、1990.

『美はなぜ乱調にあるのか』大澤真幸著、青土社、2005.

〔成績評価の方法・基準〕

レポートと発表内容による評価。

レポート　60％

発表　40％

〔履修のポイント・注意点〕

発表者以外の受講生もあらかじめテキストを読み、疑問点や自分の考えをまとめて授業に出席すること。

〔科目内容の位置付け〕

卒業研究へとつながる演習科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

なし。

L20020

科　目　名	ゼミナール（海原）
	女性と仕事・男性と仕事−そのストレスの背景にある心理的、社会的側面についての研究、特にコミュニケーションという視点から−
	授業形態：演習
教　員　名	海原　純子

〔講義目的〕
均等法以来、女性の社会進出は進んだ様に見える。しかし、「女は女らしく」という思いにとらわれ、自己表現が苦手であったり、家事、介護など従来からの女性の役割と仕事の両立にバーンアウトするケースも多い。
一方、男性もまた「男らしく」という思いに縛られ、社会組織と一体化してアイデンティティを確立してきたものの、バブル崩壊後不況、リストラの波により所属する場を失い、自殺に至るケースもふえている。
男女それぞれの、生育過程の問題点、心理的背景、格差について研究していきたい。
また、コミュニケーション不全による疾患についての研究も進めていきたい。

〔講義内容〕
1. 女性の生き方、生育環境の特徴
2. 男らしさ、女らしさとは
3. 女性の仕事をめぐるストレスの背景にあるもの
4. 女性と病気　特に自己表現が難しく、コミュニケーション不全が原因でおきる疾患についての研究
5. 女性のアイデンティティ
   男性のアイデンティティ
6. マズローの欲求説について
7. いかに女性が自己実現を進めていくか
8. 女性と自己表現について

〔講義のすすめ方〕
女性と仕事をめぐるストレスの背景に社会的要因や文化的要因、心理要因がどれだけ影響しているかについて、ケースレポートを紹介しながら学ぶ。
実際に学生諸君が実施でアンケート調査などを行いながら「自分のこと」として仕事をストレス・生き方の選択肢について考えて欲しい。

〔教　　材〕
「すぐ結婚する女　なかなか結婚しない女」
　海原純子著　大和書房
「自分らしさを生かせる女　生かせない女」
　海原純子著　ちくま文庫
「こころの格差社会」
　海原純子著　角川書店
「家族のなかの弱者と強者」
　海原純子著　集英社　など

〔成績評価の方法・基準〕
レポート及び意見発表。
特に自分の言葉で自らの意見を発表することを評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
自分の今後の生き方の基盤になることを期待しています。

〔科目内容の位置付け〕
論文を読んだり、自分の考えを論文に書く基礎作りになればと思っています。
各人が興味をもった点を追求することで、ゼミとしてより内容のある他では学べない新しい視点を展開していきましょう。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
いかに自らがアイデンティティを確立し仕事と関わるかについて考えていきましょう。

科　目　名	ゼミナール（赤堀）
	授業研究とメディア研究
	授業形態：演習
教　員　名	赤堀　侃司

〔講義目的〕
本ゼミナールのテーマは、授業研究とメディア研究である。研究という名前の通り、探求することを、目的とする。各自が自分の興味あるテーマを見つけて、調べたり、レポートを書いたり、発表するなど、学生が主体的に活動することが、中心なので講義ではない。テーマは、講義内容に記載している通りである。部屋は、教員の研究室である。

〔講義内容〕
授業研究とは、学生の興味ある教科を対象にして、わかる授業を実現する方法を、学ぶ。またメディア研究は、授業におけるメディアの活用法について学ぶ。具体的には、以下の通りである。
① ビデオ研究
　これまでに収録された小中学校のビデオを見ながら、気づいたことを話し合い、授業スキルを学ぶ。
② 教材ワークシート研究
　学校では、教材やワークシートが重要な役割を果たす。ゼミ学生が、教材やワークシートを作成し、発表し合い、その特徴について学ぶ。
③ メディア活用研究
　自分の得意な教科で、子供達への説明として、黒板、写真、コンピュータ、インターネットなどを用いて、その活用法を工夫して、発表し合い、その特徴について学ぶ。
④ マイクロティーチィイング
　自分の得意な教科で、指導案を作成し、ゼミ学生の前で、模擬授業を行い、特徴について学ぶ。
⑤　フィールド研究
　小中学校を訪問調査して、授業を参観し、授業者の教員にインタビューして、授業方法について、学ぶ。
⑥　文献研究
　授業に関する基礎的な文献を輪読して、討論する。

第１回　オリエンテーション
第２回　各学生が、研究計画を発表する。
第３回　各学生が、研究計画を発表する。
第４回　各学生が、関連文献を読んで、発表する。
第５回　各学生が、関連文献を読んで、発表する。
第６回　ビデオ班の発表会
第７回　ビデオ班の発表会
第８回　教材ワークシート班の発表会
第９回　教材ワークシート班の発表会
第10回　メディア活用班の発表会
第11回　メディア活用班の発表会
第12回　マイクロティーチィイング班の発表会
第13回　マイクロティーチィイング班の発表会
第14回　学校訪問によるフィールド研究
第15回　前期のレポート提出と評価
第16回～第30回　基本的に、第1回から第15回と同じ。

〔講義のすすめ方〕
全員出席を原則にする。コンピュータは、自由に利用できる。夏休みなどに、合宿を行うかもしれない。ゼミのルールをしっかり守る。ゼミ長などの係を決めて、行う。

〔教　　材〕
講義ではないので、特にない。文献は、インターネットなどで、自分で探して、読む。

〔成績評価の方法・基準〕
毎回出席とする。欠席が３回以上で、単位は認めない。出席（30％）、研究計画（20%）、発表（30%）、レポート（20%）で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
ゼミナールの経験が、教員生活にとって重要であり、その姿勢を評価する。私がいる時間は、研究室を学生に開放するので、自由に勉強できるようにする。研究室のルールを守ることが、前提で、ルール違反があれば、単位を認めない。

〔科目内容の位置付け〕
教職希望の学生にとっても、企業に就職する学生にとっても、きわめて重要な内容であり、もっとも大学生らしい活動が、ゼミナールである。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目として、教育方法論、教育課程論がある。

L20022

科　目　名	ゼミナール（福田）
	授業形態：演習
教　員　名	福田　真奈

〔講義目的〕
（前期）
子どもの心や行動を理解し援助するには、どのような視点を持ち関わっていけばよいのであろうか。本ゼミナールでは、子どもを理解し、子どもの生活を豊かにしていくために、発達の観点から子ども理解を促す。

（後期）
子ども理解を更に深めるために、子どもの社会性の発達、子どもの仲間関係、養育者のソーシャルサポートについて学んでいく。

〔講義内容〕
（前期）
子どもの心や行動がどのように明らかにされてきたか、またどのような方法を用いることにより結論が導き出されたのか、またそれらの研究がその後どのように発展してきたかなど、前期は主に発達心理学の中でも影響力のあった重要な研究を概観していく。後期のテーマを理解していくために、発達心理学におけるさまざまな研究、研究方法を知り、子ども理解へと促す。

（後期）
前期において、子どもに関わる研究、研究方法を学んだ後に、子どもの社会性がどのように発達していくか、どのように友達と関わり、仲間関係を形成していくのか、母親はどのようなサポートを望んでいるのかを学んでいく。

〔講義のすすめ方〕
（前期）
下記の3点のテキスト、または指定した論文（和雑誌）の中から、各自が興味深いテーマを選ぶ。
発表担当者はレジュメを作成、発表する。ゼミ生全員で討議を行っていく。

（後期）
発表担当者はレジュメを作成、発表する。ゼミ生全員で討議を行っていく。
前期に、研究結果を導くための方法を概観したが、後期では次年度に備え、簡単な統計処理についてもふれていく。

〔教　　材〕
（前期）
内田伸子　2005　心理学ーこころの不思議を解き明かす―　光生館
H．R．シェ―ファー　無藤隆　佐藤恵理子訳　2001　子どもの養育に心理学がいえること　新曜社
ロジャー・R・ホック編著　梶川達也監訳　2007　心理学を変えた40の研究―心理学の“常識”はこうして生まれた　ピアソン・エデュケーション

（後期）
未定（後日伝達する）
指定した英文テキスト、洋雑誌にて、原典購読する。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点、発表内容から総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
文献を読み、書き、発表、討議することが中心になる。
学ぶことが好きであり、積極的な学生を期待したい。

L20501

科　目　名	福祉とボランティア
	授業形態：講義
教　員　名	川瀬　善美

〔講義目的〕
ボランティア活動は、人間だけができる行為である。それは自由を前提として、はじめて存在できる行為です。
　また、違う視点から考えるとボランティア活動は、「しょうがい」者や高齢者や病人などがかかえている福祉的課題を解決するために、これを他人事とせず、進んで仲間となり、問題にかかわり、協働し重荷を分かち合うことであると考えます。
　福祉は、かつては与えられるものだと考えられてきましたが、今や「作る福祉」「消費する福祉」へと時代は変化してきました。
　このような時代の中で、ボランティアとは何かを問い直す必要性が生まれてきており、この講義ではそれを行うことにします。

〔講義内容〕
1．ボランティア活動をどうとらえるか
2．ボランティア活動は何を課題にするか
3．在宅福祉活動の進め方
4．施設ボランティアの活動と役割
5．ボランティア・グループの運営
6．ボランティア活動に求められる技術
7．ＮＰＯとボランティア活動
8．実践事例研究(1)
9．実践事例研究(2)
10．実践事例研究(3)

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義スタイルをとるが、実践活動研究の一環として、テーマを決め１回以上実際に活動をおこなう。

〔教　　材〕
必要に応じ、適時指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況と、ボランティア活動実践法高所により評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
社会福祉は刻々とそれを求める人々やニーズを変え、社会が求めるものや制度も変え続けています。そこで常に、福祉をめぐる社会状況の変化に注目するために、日常的にマスメディアに登場する、社会福祉に関する話題に関心を払うことを求めます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
社会福祉を理解するため、関連科目の取得が望ましい。

L21001

科　目　名	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ理論／ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ理論Ⅰ
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
今日、「レクリエーション」という用語は様々な場所や機会に使用されるようになったが、改めて考えてみるとその概念の多義性や曖昧性に気づく。
そもそも「レクリエーション」とは何か？「レクリエーション」をめぐる理論的な定義、現代における社会的要請・意義、制度的側面、事業を遂行する各種組織や団体の役割や機能といった側面から、「レクリエーション」の意味に迫り、解説や議論を通して理解を深めることをねらいとする。

〔講義内容〕
①今日の地域スポーツ振興とレクリエーション・インストラクターの役割
②レクリエーションの基礎理論(1)現代社会とレクリエーション
③レクリエーションの基礎理論(2)レクリエーション運動の歴史
④レクリエーション支援論(1)支援の概念と全体像
⑤レクリエーション支援論(2)レクリエーション素材の内容と支援の実感
⑥レクリエーション支援論(3)コミュニケーション・ワーク
⑦レクリエーション支援論(4)各レクリエーション種目ほか
⑧目的にあわせたレクリエーション・ワークと素材の選択
⑨対象にあわせたレクリエーション・ワークの基本技術
⑩レクレーション事業論(1)レクリエーション事業の考え方
⑪レクレーション事業論(2)レクリエーション事業の計画
⑫レクレーション事業論(3)レクリエーション事業の実施と評価
⑬まとめと試験対策
※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕
講義形式を中心として進める。下記の指定テキストの内容に対応した講義ノート（資料）を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。この他、２～３度のレポート課題を課す。

〔教　　材〕
「レクリエーション支援の基礎 楽しさ・心地よさを活かす理論と技術」日本レクリエーション協会編　2100円　を参考教材とする。

〔成績評価の方法・基準〕
テスト１回（期末）、レポート学期２～３回。
レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価は試験得点（70％）＋出席点（30％）を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。
試験は、持込は不可とし、キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。
出席点は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回３点満点で加算し評価の材料とする。

〔履修のポイント・注意点〕
レクリエーションの楽しさは誰にでも味わうことができるが、その楽しさを最大限に発揮させ他者に楽しんでもらう役割を担う場合には、一定の理論的な土台と技術が必要である。この講座は「理論編」でありその意味では「楽しさを提供できるようになるための土台づくり」でもある。このことを理解した上で、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。
履修年次は２年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕
レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
レクリエーション実技、体育・スポーツ経営学など

L21002

科　目　名	ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ理論／ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ理論Ⅰ
	授業形態：講義
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
今日、「レクリエーション」という用語は様々な場所や機会に使用されるようになったが、改めて考えてみるとその概念の多義性や曖昧性に気づく。
そもそも「レクリエーション」とは何か？「レクリエーション」をめぐる理論的な定義、現代における社会的要請・意義、制度的側面、事業を遂行する各種組織や団体の役割や機能といった側面から、「レクリエーション」の意味に迫り、解説や議論を通して理解を深めることをねらいとする。

〔講義内容〕
①今日の地域スポーツ振興とレクリエーション・インストラクターの役割
②レクリエーションの基礎理論(1)現代社会とレクリエーション
③レクリエーションの基礎理論(2)レクリエーション運動の歴史
④レクリエーション支援論(1)支援の概念と全体像
⑤レクリエーション支援論(2)レクリエーション素材の内容と支援の実感
⑥レクリエーション支援論(3)コミュニケーション・ワーク
⑦レクリエーション支援論(4)各レクリエーション種目ほか
⑧目的にあわせたレクリエーション・ワークと素材の選択
⑨対象にあわせたレクリエーション・ワークの基本技術
⑩レクレーション事業論(1)レクリエーション事業の考え方
⑪レクレーション事業論(2)レクリエーション事業の計画
⑫レクレーション事業論(3)レクリエーション事業の実施と評価
⑬まとめと試験対策
※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕
講義形式を中心として進める。下記の指定テキストの内容に対応した講義ノート（資料）を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。この他、２～３度のレポート課題を課す。

〔教　　材〕
「レクリエーション支援の基礎 楽しさ・心地よさを活かす理論と技術」日本レクリエーション協会編　2100円　を参考教材とする。

〔成績評価の方法・基準〕
テスト１回（期末）、レポート学期２?３回。
レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価は試験得点（70％）＋出席点（30％）を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。
試験は、持込は不可とし、キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。
出席点は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回３点満点で加算し評価の材料とする。

〔履修のポイント・注意点〕
レクリエーションの楽しさは誰にでも味わうことができるが、その楽しさを最大限に発揮させ他者に楽しんでもらう役割を担う場合には、一定の理論的な土台と技術が必要である。この講座は「理論編」でありその意味では「楽しさを提供できるようになるための土台づくり」でもある。このことを理解した上で、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。
履修年次は２年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕
レクリエーション・インストラクター資格取得希望者は必修

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
レクリエーション実技、体育・スポーツ経営学など

L21501

科　目　名	野外運動Ａ（ｷｬﾝﾌﾟ）／野外運動Ａ
	授業形態：演習
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
教育現代の教育課題である「生きる力」の育成を射程に入れて展開する。野外体験系宿泊集中授業を通して、学生が自らのこころと身体を使い、仲間と切磋琢磨する「体験」の機会を組織し、こうした対人関係の深まりの中で、自己理解、他者理解、自然（環境）等への気付きを助長することを目的とする。

〔講義内容〕
キャンプの幅広い教育効果を理解するように体験学習し、指導的な立場から企画立案し、実施する。キャンプの捉え方は各分野や方面によって多岐にわたるが、組織キャンプの多くの目的は、大自然の中で「原体験」や共同生活を通して、人間形成を図ろうとするものと考えられる。すなわち、自然と野外を最大限活用しなければ、その教育目的は達成されない。したがって、下記を狙いとし実践活動をこの実習で行う。
①自然の中で集団的、自立的生活をすることによって自己を見つめ、真の協力・共同生活を体験し送ること。
②キャンプ生活の技術を学びつつ、生活全体の諸活動を通して自分の心身を鍛えること。
③将来キャンピングを指導する立場におかれたとき、企画立案でき、民主的運営ができること。

〔講義のすすめ方〕
野外体験系宿泊集中授業形式で行う。プログラムについては、「困難」「挑戦」「課題解決」「達成感」「感動」の一連の流れを核にするという視点で構成し、その中で様々な「体験」の場を保障することをねらいとし、次のとおりである。
①普段、気付くことのなかった自分の姿を発見する体験（自己理解）
②普段、気付くことのなかった友人の姿を発見する体験（他者理解）
③困難な活動や生活に挑戦し、それを成し遂げる体験（課題解決能力）
④仲間との協力によって、「何か」を成し遂げる体験（友情、連帯、役割、責任、感動）
⑤経験ない活動を行い、自分の世界を拡大する体験（新しい技能の獲得）
　上記のねらいを達成するための具体的方策としてのプログラムは以下の４点に留意して行う。
①通常の時間枠では行うことのできない活動。
②意味のある活動であるのにも関わらず活動の機会が得られにくい活動。
③集団の協力によって成立する要素の高い活動。
④地域文化と接点のある活動。

〔教　　材〕
特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席、レポート、グループ貢献度によって総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
場所・日程については４月上旬の事前説明会で詳しく説明いたします。
　専攻別で夏期休業期間に集中で行います。
（児童教育専攻・スポーツ健康専攻それぞれ別々）
　事前説明会や事前指導講義が数回予定されています。（欠席の場合は、履修・単位の修得ができませんので注意してください。）
　また、宿泊集中授業なので実習費がかかります。

〔科目内容の位置付け〕
より充実した学業・学生生活や生涯スポーツ・レクリエーション基礎活動として位置づけられます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
野外運動Ｂ

L21601

科　目　名	野外運動Ｂ（雪上）／野外運動Ｂ
	授業形態：演習
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
教育現代の教育課題である「生きる力」の育成を射程に入れて展開する。野外体験系宿泊集中授業を通して、学生が自らのこころと身体を使い、仲間と切磋琢磨する「体験」の機会を組織し、こうした対人関係の深まりの中で、自己理解、他者理解、自然（環境）等への気付きを助長することを目的とする。

〔講義内容〕
野外体験系宿泊集中授業形式で行う。アウトドアスポーツとして、学校体育のみならず生涯スポーツとしても今も幅広く社会全体に親しまれているスキー・スノーボードについて、その運動特性、技術、指導法及び生涯スポーツとしてのあり方、自然との親しみの心を持つことを習得し、団体行動・生活を通じてそのあり方をも研修する。また、基礎技術、応用技術、発展技術だけでなく救急処置についても講義を行う。

〔講義のすすめ方〕
プログラムについては、「挑戦」「課題解決」「成功体験」「達成感」「感動」の一連の流れを核にするという視点で構成し、その中で様々な「体験」の場を保障することをねらいとし、次のとおりである。
①普段、気付くことのなかった自分の姿を発見する体験（自己理解）
②普段、気付くことのなかった友人の姿を発見する体験（他者理解）
③困難な活動や生活に挑戦し、それを成し遂げる体験（課題解決能力）
④「何か」を成し遂げる体験（友情、連帯、役割、責任、感動）
⑤経験ない活動を行い、自分の世界を拡大する体験（新しい技能の獲得）

〔教　　材〕
特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
レポート、スキルテストによって総合的に評価します。バッジテストも計画中です。

〔履修のポイント・注意点〕
場所・日程については４月上旬の事前説明会で詳しく説明いたします。
発達科学部２専攻，教育学部４専攻同時開講で冬期休業中もしくは春期休業中に行われます。
事前説明会や事前指導が数回予定されています。（欠席の場合は、履修・単位の修得ができませんので注意してください。）
また、宿泊集中授業なので実習費がかかります。

〔科目内容の位置付け〕
より充実した学業・学生生活や生涯スポーツ・レクリエーション基礎活動として位置づけられます。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
野外運動Ａ

L22001

科　目　名	早期英語教育／英語であそぼう
	Teaching English to Young Learners
	授業形態：講義
教　員　名	Lorraine Reinbold

〔講義目的〕
The objective of this course is to help students become effective teachers of English to young learners. To reach these goals、topics to be covered include: a brief introduction to theory、planning a child-centered lesson、integrating the four skills (reading/writing、listening/speaking) to create meaningful communicative language games and songs、and managing classroom behavior.

〔講義内容〕
In this course, students will work on the following topics and activities that are covered in the textbook:

Introduction to vocabulary and language that is often used in the classroom

Step-by-step guidance in how to select, adapt, and set up meaningful and communicative language games and songs

Advice and suggestions on classroom organization, lesson planning, management, and the role of the teacher

Games and activities

〔講義のすすめ方〕
Class work consists of discussions、group work、and presentations on related topics in English. For assignments、students will be required to read、write outlines, summarize、and report to the class a given passage from a text. In addition, they will practice teaching educational games and present them to the class. There will be periodic quizzes based on class discussions, the textbook, and supplementary material.

〔教　　材〕
Teaching English to Young Learners: An Illustrated Guide for EFL Teacher Development
Authors: Marcia Fisk Ong and Vinodini Murugesan
Compass Publishing
ISBN 978-1-59966-096-7

〔成績評価の方法・基準〕
Grades on this course will be determined by the following criteria:
● Regular attendance 30%
According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.
● Active participation 10%
The more you speak in English、the better your grades.
● Homework grades/quizzes 20%
NO LATE HOMEWORK will be accepted without a valid reason. If you are absent、ask a friend or the instructor about the assignment.
● Final Presentation/Chapter Presentation 40%

〔履修のポイント・注意点〕
Please do not be confused with the course title. YOU WILL NOT BE PLAYING GAMES in English. You will create games in English to teach children the fundamentals of the English language.
(英語で遊ぶ講義ではありません。英語で英語教育を目的としたゲームなどを作ります。) Be prepared to study hard. Come to class with an open mind and be creative when planning to teach educational games to children.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
You should have completed two years of English and received high grades in order to successfully complete this course.

L22502

科　目　名	e - ラーニング
	授業形態：演習
教　員　名	小林　正人　Jeffrey Miller

〔講義目的〕
[Course Objectives]
E-Learning is a computer-based TOEFL/TOEIC course that allows learners to practice as much as they want outside of class. Therefore、it is ideal for highly motivated students who want to progress at their own speed. It is very possible to practice two、three、or more times as much as there are class meetings during the semester. It is up to each student to see how much he or she is willing to practice and thereby to improve his or her English.

Furthermore、the online course has many different types of practice questions found on the TOEIC and TOEFL standardized tests. Therefore、each student can practice in those areas that he or she is weakest in、thereby significantly raising his or her overall score.

〔講義内容〕
[Course Content]
To improve TOEIC and TOEFL scores the most effective method is to practice individually with materials specifically designed to teach the needed English skills、one-by-one. This class will use an online multimedia approach to help learners raise their test scores.

During the class、the instructor will move around the room helping students with individual grammar、vocabulary、and syntax questions. These individual questions will form the basis for a brief Q & A-based lecture toward the end of class on specific problems that arose during that practice session.

〔講義のすすめ方〕
[Course Progress]
Learners will first log into their individual accounts and be tested to evaluate their respective English levels. After the evaluation、each student will automatically receive appropriate materials for his or her level from the server. Learners will work on these practice exercises by computer when outside of class or when at home. They will however、attend weekly classes to answer questions about their practice. These classes will be conducted in seminar fashion to discuss English grammar and vocabulary expressions.

〔教　　材〕
{Course Materials]
The E-Learning course is entirely online and available to registered students 24 hours a day、every day.

〔成績評価の方法・基準〕
[Course Grading]
Regular class attendance will be 30 percent of the overall grade. How much outside-of-class practice a student does (both the total number of times he or she logged on as well as the level practiced) will make up 50 percent of the final grade. And、a TOEIC/TOEFL-based standardized examination will be 20 percent of the final grade.

〔履修のポイント・注意点〕
[Successful Study Points]
E-Learning is a unique course in that the students have almost complete control over how much TOEFL/TOEIC practice they do outside of class. Students may practice at a PC at home or in one of the Hakuoh computer labs. Obviously、the more one practices the better one becomes. Therefore、it is entirely up to the student to motivate him or herself to practice regularly and often. In this respect、E-Learning is like sports training (or driving school) as the total amount of effort (i.e. online practice time) equals the results. Please do your best (for your future)!

Today in Japan's globalized society it is not enough to be able to effectively use English、one must also be able to prove that one is able to use English. The three most recognized and accepted tests here are TOEIC、TOEFL、and the upper levels of Eiken. Once a student、future Japanese English teacher、or member of society has a high TOEIC、TOEFL、or Eiken grade they can use that score as proof of their English ability.

〔科目内容の位置付け〕
[Related Subsequent Courses]
TOEIC

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
[Prerequisites]
None

L23001

科　目　名	教育情報処理
	授業形態：演習
教　員　名	渋川　美紀

〔講義目的〕
　ユビキタス・ネットワーク社会が発展し続ける現代、小学校教育においてもパソコンが導入され授業で使用されています。また、それぞれの教育現場において目的に応じた教材を作成することは、児童の学習意欲の高揚に役立ち、学習に対する動機付けを与えることも可能となります。そこで、このような教材の自己開発技能を会得することを目指し、本講義では Word・Excel を使いこなすことに加えて、パソコンについてより広い学習を行います。

〔講義内容〕
第１回 Word の実習・論文形式の文書の作成
第２回 Word の実習・論文形式の文書の作成
第３回 Word の実習・HP 作成
第４回 HTML 実習・HP 作成
第５回 PowerPoint による教材の作成
第６回 PowerPoint による教材の作成
第７回 Access の実習
第８回 Access の実習
第９回 Excel の実習・関数
第10回 Excel の実習・関数
第11回 Excel の実習・グラフ
第12回 Excel の実習・VBA
第13回 Excel の実習・VBA
第14回 Excel の実習・VBA
第15回その他

〔講義のすすめ方〕
　テキスト・プリント・その他を使用して実習を行います。例題を解いたのち、課題を作成するという形式ですすめていきます。

〔教　　材〕
　教科書「情報科学の基礎と応用」・同友館・2,800円

〔成績評価の方法・基準〕
　出席状況・実習課題によって判断します。

〔履修のポイント・注意点〕
　遅刻や欠席をしないように心がけましょう。特に、30分以上遅刻をしないようにしましょう（欠席扱いにします）。出欠は出席カードで調べますが、必ず授業開始30分以内にカードを受け取ってください。また、遅刻３回で欠席１回とします。やむをえない理由で早退する場合は断って退出して下さい。早退は遅刻と同じ扱いとします。カードは授業内に提出して下さい。

〔科目内容の位置付け〕
　全ての科目で必要とされるレポートの作成力・データの分析力を養う科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　情報処理の続きとなる科目ですので、情報処理が前提科目です。

L26001

科　目　名	陸上運動Ⅰ／実技理論・実習　陸上運動Ⅰ
教　員　名	竹島　克己

〔講義目的〕
陸上競技について正しい練習方法、指導方法を学ぶ。

〔講義内容〕
陸上運動Ⅰではウオーキングとジョギング、短距離走、障害走、投てきの４種目を行う。1回目、2回目　ウォーキング、ジョッグ　3回目から4回目　投てき（砲丸投げ）　7回目から10回目　障害走（80mハードル）　11回から14回　短距離走（100m）

〔講義のすすめ方〕
　まず、体調を整えるため正しい歩き方、ジョギングの基本を学ぶ。
　投てきでは主に砲丸投げを行う。砲丸投げに必要な筋力のつけ方、跳躍力、動作、投てき技術を学び、計測を行う。
　障害走（80mハードル）ではこの種目に必要な補強運動、振り上げ脚や抜き足の動作、タイムトライヤルを行う。
　短距離走ではウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチ、スプリントドリル、スタートダッシュ、中間走、加速走、タイムトライヤル等を行う。

〔教　　材〕
資料は配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
●参加度　出席を評価する
授業への取り組む姿勢
●貢献度　授業の準備・かたづけ・デモンストレーションへの貢献度
●技能・運動能力水準
技能・能力の到達度
●授業目的達成度
トレーニング科学に関するレポート・実技ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕
実技ノートをつくりポイントとなる事項については書きとめておくようにする。
　指導する側に立った観点を望む。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目。教員免許取得に必要な単位。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
陸上運動Ⅱ

L26101

科　目　名	陸上運動Ⅱ／実技理論・実習　陸上運動Ⅱ
教　員　名	竹島　克己

〔講義目的〕
陸上競技について正しい練習方法、指導方法を学ぶ。

〔講義内容〕
陸上運動Ⅱでは走り幅跳び、障害走、長距離走の３種目を行なう。1回目、2回目　ウォーキング、ジョギング（準備運動として）　3回目から6回目　走り幅跳　7回目から10回目　障害走（80mハードル）11回目から14回目　長距離走　（男子1500m 女子1000m）

〔講義のすすめ方〕
走り幅跳びでは関連する立幅跳び、立三段跳などを行う。また助走、踏み切り動作などの練習をしてより遠く跳躍できるよう練習する。
　障害走（80mハードル）ではこの種目に必要な補強運動、振り上げ脚や抜き足の動作、タイムトライヤルを行う。陸上運動Ⅰでも行うが教員採用試験の試験種目となることが多いので更に技術を向上させたい。
　瞬発力を要する種目は気温の低い時期には向かない。冬期は長距離走を行う。長距離の練習の方法を知り、健康に良いエアロビクス運動に親しんでほしい。特に正しいウオーキング・ジョギングについては、身近な健康的運動方法である認識をもってほしい。

〔教　　材〕
資料は配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
●参加度　出席を評価する
授業への取り組む姿勢
●貢献度　授業の準備・かたづけ・デモンストレーションへの貢献度
●技能・運動能力水準
技能・能力の到達度
●授業目的達成度
トレーニング科学に関するレポート・実技ノートの完成度

〔履修のポイント・注意点〕
実技ノートをつくりポイントとなる事項については書きとめておくようにする。
　指導する側に立った観点を望む。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目。教員免許取得に必要な単位。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
陸上運動Ⅰ

L26501

科　目　名	器械運動Ⅰ／実技理論・実習　器械運動Ⅰ
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
小学校から高等学校まで、学校体育の主要教材となっている器械運動の技能の習得や教材としての特性を理解し、教員としての資質の向上を図ることを主要な目的としている。また、体操教室やスポーツクラブ等での教員以外の指導場面にも対応できるよう、補助法の実習やトランポリンの初歩的実技も加える。

〔講義内容〕
器械運動Ⅰでは、初歩的段階として小学校から中学校までの教材を取り扱い、主としてマット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動の内容を中心に技能の習得とともに運動のコツや技術、さらには技の構造的理解を図る。また、指導の方法や指導力としての観察力の養成を主眼とする。さらにトランポリンの初歩的実技も加える。

〔講義のすすめ方〕
まず、マット運動を取り扱い、倒立位や回転感覚などを養い、自己の身体支配能力を高める。次に、跳び箱運動、鉄棒運動を取り扱い、自分で技のコツが把握できるよう「自己観察能力」や「統覚能力」を養うことができるよう段階的に種目間の関連を計りながら進める。

〔教　　材〕
参考図書として、次のものを参考にして下さい。
『器械運動指導ハンドブック』中島、太田、吉田、三浦著（大修館）
『マット運動』『鉄棒運動』『跳び箱、平均台運動』金子明友著（大修館）
『中学・高校器械運動の授業づくり』三木四郎、加藤沢男他（大修館）

〔成績評価の方法・基準〕
技能テストによる技能評価：各種目の代表的な技を課題として実技テストを行う。60点以上を合格ラインとする。
レポートによる評価：コツに関する言表をノートに記入して提出し、それらを評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
出席を重視する。
自分で会得したコツをノートに書きとめ学習ノートを提出する。
地道に根気良く練習する。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目。教員免許取得に必要な単位。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

L26601

科　目　名	器械運動Ⅱ／実技理論・実習　器械運動Ⅱ
教　員　名	吉田　茂

〔**講義目的**〕
器械運動Ⅱでは、Ⅰで習得した技能を踏まえて、やや高い技能の習得を目指す。マット運動では個人や集団での楽しみ方としての発表会などを計画する。また、鉄棒運動、跳び箱運動、平均台運動でも連続して技ができるよう演技の発表や集団での発表を加えてスポーツ教材としての特性を理解する。

〔**講義内容**〕
マット運動では、「前方倒立回転とび」、鉄棒運動では、「蹴上がり」、跳び箱運動では「前方倒立回転とび」を最終目標として、それ以前に習得する必要のある易しい運動で類似の運動感覚が養える運動を取り扱う。自分で、個々の技のコツが把握できるよう常に、自己の運動の変化を記録しコツの創発能力を高める努力をするよう促す。また、学習ノートを作成して提出する。

〔**講義のすすめ方**〕
器械運動Ⅰの履修を前提に、２種目または３種目のローテーション方式で、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動、平均台運動（女子）を練習する。初歩的な慣れの運動からやや高度な技まで段階的に取り扱い、最終目標である技へと到達するよう課題を組み立てて練習する。

〔**教　　材**〕
参考図書として、次のものを参考にして下さい。
『器械運動指導ハンドブック』中島、太田、吉田、三浦著（大修館）
『マット運動』『鉄棒運動』『跳び箱、平均台運動』金子明友著（大修館）
『中学・高校器械運動の授業づくり』三木四郎、加藤沢男他（大修館）

〔**成績評価の方法・基準**〕
技能テストによる技能評価：各種目の最終目標となる技またはそれ以前に習得するべき技を課題として実技テストを行う。60点以上を合格ラインとする。
レポートによる評価：コツに関する言表をノートに記入して提出し、それらを評価する。

〔**履修のポイント・注意点**〕
出席を重視する。
自分で会得したコツをノートに書きとめ学習ノートを提出する。
地道に根気良く練習する。

〔**科目内容の位置付け**〕
専門科目。選択必修の実技科目

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
器械運動Ⅰの履修。

L27001

科　目　名	ダンスⅠ／実技理論・実習　ダンスⅠ
教　員　名	内山　須美子

〔講義目的〕
1．学習指導要領を基に、中学・高校でのダンス指導について学ぶ。
2．中学・高校で学ばれるダンスの内容（「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」「その他のダンス」）をそれぞれ学ぶ。
3．グループで作品を創る。

〔講義内容〕
1．実技
エアロビックダンス・ストリートダンス・チアダンス・創作ダンス
フォークダンス・社交ダンス
2．理論
学習指導要領におけるダンスの内容・指導法・評価について

〔講義のすすめ方〕
1．オリエンテーション、グループ分け
2．エアロビックダンス
3．社交ダンス
4．創作ダンス
5．フォークダンス
6．チアダンス
7．ストリートダンス
8．ストリートダンス
9．ストリートダンス
10．作品創作
11．作品創作
12．作品創作
13．作品発表、鑑賞、評価

〔教　　材〕
必要に応じて配布

〔成績評価の方法・基準〕
1．出席状況：50点
2．創作作品：30点
3．レポート：20点

〔履修のポイント・注意点〕
1．動きやすい服装
2．室内履き
3．予習と復習

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
引き続き、実技理論・実習ダンスⅡを履修することが望ましい。

L27101

科　目　名	ダンスⅡ／実技理論・実習　ダンスⅡ
教　員　名	内山　須美子

〔講義目的〕
ダンスの表現法、創作法、作品構成、音響効果、
衣装、道具等について理解し、更に上演の実践を
通して表現力、創作力、上演能力を養う。

〔講義内容〕
1．実技
ダンス作品の創作と発表
2．理論
ダンスの表現法・創作法

〔講義のすすめ方〕
1．オリエンテーション、グループ分け
2－4．レパートリーワーク
1）ダンステクニック
2）作品化への技法
3）表現形式の理解とその技法
5－6．作品創作への準備と練習
7－12．グループワーク
1）作品創作と踊り込み
13．作品発表・鑑賞・評価

〔教　　材〕
必要に応じて配布

〔成績評価の方法・基準〕
1．出席状況：50点
2．創作作品：30点
3．レポート：20点

〔履修のポイント・注意点〕
1．動きやすい服装
2．室内履き
3．予習と復習

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
実技理論・実習ダンスⅠからの履修が望ましい。

L27501

科　目　名	ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ／実技理論・実習　ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ
教　員　名	齋藤　一人

〔講義目的〕
バスケットボールにおける様々な技術の構造、ルールを理解し、その特性を通して技術・戦術論の立場から集団的技能や個人的技能を分析、考察を加え、それらを構成する体力・技術・戦術の習得を中心として、基礎的なゲーム展開の方法を実習する。また、このスポーツを通して、体力の向上・スポーツの楽しみ方・モラルの育成・競技の歴史などを学習し、生涯スポーツを楽しめるスタンスを生むようなモデルを提案し実習する。

〔講義内容〕
①オリエンテーション
② FUN　DRILLS
③基礎技術の理解と習得および応用した技術への発展（簡易ゲーム展開）ゴールへの攻撃－１ON１－基礎技術シュートの解説と練習方法と指導法に関する実技
④ゴールへの攻撃－２ON２－基礎技術ドリブルの解説と練習方法と指導法に関する実技
⑤ゴールへの攻撃－３ON３－基礎技術パスの解説と練習方法と指導法に関する実技
⑥モーションオフェンス－３ON３－スクリーンプレイ技術の理解と習得およびチームとしての集団技術への発展
⑦トランジション－５ON５－攻防の切り替えの解説と練習方法と指導法に関する実技
⑧アウトナンバープレイ－戦術としてのファーストブレイクの練習法と指導法の理解
⑨トランジション－戦術としてのフォーメーションに関する基本的考え方の理解と実践
⑩リーグ戦－５ON５－バスケットボール・ルールの理解と審判法およびゲームの進め方

〔講義のすすめ方〕
「ゲーム－発問・応答・考察－練習－ゲーム」という流れで授業を展開し、技術練習を毎時間の適切な場面で行うことやゲームにおける戦術的状況の中で技術を用いることで、戦術と技術を関連付けて指導する。そこで戦術的気づき（問題解決能力の選択能力）を助長する。

〔教　　材〕
特になし（バスケットボール関係の書籍全般）。必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席、レポート、スキルテスト等によって総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
特に出席が重視されます。体育館シューズ・運動できる服装で出席する事。

〔科目内容の位置付け〕
教職の教科の科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
専門演習に発展していく

L27801

科　目　名	テニス／実技理論・実習 テニス
教　員　名	野間　明紀

〔講義目的〕
大学卒業後に就職した現場において活用できる様にテニスの基本的技術、理論、ルール等を実技を通して指導していく考えです。

〔講義のすすめ方〕
①班分け
②ラケットとボールになれる（初心者）
③ストロークの練習
④サーブの練習
⑤ボレー、スマッシュの練習
⑥ゲーム、ルールの説明
（雨天の場合は教室でビデオ等の観賞）

〔教　　材〕
・テニスシューズが必要です。
・ラケットは貸し出します。
・服装は運動しやすいもの（ジーパン等の普段着は不可）

〔成績評価の方法・基準〕
出席率、授業態度、技術で評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
欠席は３回までとし、４回以上欠席した場合、単位は修得できません。遅刻は２回で欠席１回とします。コートの面数の関係上人数制限（24名以下）があります。

〔科目内容の位置付け〕
１から４年次の選択科目です。

L28101

科　目　名	サッカー／実技理論・実習　サッカー
教　員　名	小谷　克彦

〔講義目的〕
ゲームを中心に行い，サッカーの技術・戦術の基本を習得すると共に，楽しくゲームを進めるためのゲームの行い方を学習する．
具体的には，ボールを運ぶ，飛ばす，受ける，奪うといった基本技能を楽しみながら習得する方法を工夫する．
また，老若男女問わず誰もが楽しめるための色々な特別ルールを考えるなどをして，楽しく試合を行うための工夫をしながら活動をしていく．
そして，最終的には，サッカーというスポーツを通じて，身体活動の意義とその実践についての理解を深める．

〔講義内容〕
第１回　内容及び展開に関するオリエンテーション
第２回　道具（ボール・マーカー・コーンなど）を使った遊びとゲーム
第３回　コミュニケーション＆ゲーム
第４回　ボールを運ぶ＆ゲーム
第５回　ボールを飛ばす＆ゲーム
第６回　ボールを受ける＆ゲーム
第７回　ボールを奪う＆ゲーム
第８回　ゴールを決める＆ゲーム
第９回　ゴールを守る＆ゲーム
第10回　グループ戦術＆ゲーム
第11回　リーグ戦（第１節）
第12回　リーグ戦（第２節）
第13回　リーグ戦（第３節）
第14回　リーグ戦（第４節）
第15回　プレーオフ・トーナメント

〔講義のすすめ方〕
グラウンドに集合し，各自でウォーミングアップを行い，不慮の怪我を未然に防ぐことを注意する．
授業の始めには，楽しく活動するための導入として，準備運動に遊び要素を取り入れた活動を行う中で，ボールを運ぶ，飛ばす，受ける，奪うといった技能を高めるための練習を授業の前半で行う．
そして後半はゲーム実践を行う．また，学期の後半には，チームを固定してリーグ戦を行う．

〔教　　材〕
必要に応じて資料を配付する．

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況（60％），個人の授業態度（20％），リーグ戦の結果（授業全体の雰囲気）（10％），学期末のレポート課題（10％）等を総合的に評価する．

〔履修のポイント・注意点〕
１．自分が楽しく活動することができること．
２．グループで楽しく活動することができること．
３．楽しくするための工夫をすることができること．

〔科目内容の位置付け〕
サッカーというスポーツを新たな視点から捉えるための授業となる．そのため，技術の向上のみを目的とはしない．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

L28401

科　目　名	水泳／実技理論・実習　水泳
教　員　名	椿本　昇三

〔講義目的〕
水泳について理論・実習を学習する。主に、学校体育の水泳指導方法論を理解する。また、自らの水泳技能の向上を目指す。

〔講義内容〕
＜学習内容＞
1.
・水の物理的特性：「水遊び」と「Elementary stroke（初歩的な泳法）」
・ビート板を用いた遊び（グループ学習体験）の工夫・発表会
・エレメンタリー・ストローク（浮くこと、呼吸をすること、進むことの初歩的な泳法）の体験

2.
・水中での「体ほぐし運動」と「体力作りのプログラム」の趣旨を踏まえた指導
・水中 walking(歩行)
　Forward stride(ナンバ歩き、twist)
　Backward stride(floating, balance)
　Side stride(cross, 四股)

3. グループ学習
・感想文の書き方「心・技・体」
・10分間泳後の感想記述による用語の分析（未発表資料）

4. 着衣泳・水中ボールゲーム・リズム泳

5. タイム・泳法の測定と評価

〔講義のすすめ方〕
集中授業で学外実習のため、若干日程が不規則になるので、学生各自の予習復習を重要視する。

1. オリエンテーション（グループ分け）
2. 初心者指導（水慣れ、水中遊戯）
3. エレメンタリ - ストローク（初歩的な泳法指導）
4. 泳法指導（クロール、平泳、背泳、バタフライ）
5. 水中ボールゲーム
6. 水中リズム泳
7. 水中運動（ウォーキング、エクササイズ）
8. 水中安全教育（セルフリスキュー）
9. 生涯スポーツとしての水泳
10. まとめ

〔教　　材〕
必要に応じて配布

〔成績評価の方法・基準〕
・出席状況（50点）
・泳法検査（25m泳法検査；４種目×5点＝20点）
・復習のレポート（自己評価と課題、20点）
・グループ記録証（グループ活動の記録、10点）

〔履修のポイント・注意点〕
集中授業のため、出席が重要視される。
・競泳用水着、ゴーグル、スイムキャップ
・タオル、T- シャツ、学生教育災害保険加入者のみ

〔科目内容の位置付け〕
教職の教科の科目

L28701

科　目　名	柔道／実技理論・実習　柔道
教　員　名	蓬田　正郎

〔講義目的〕
柔道の基本である、体さばきや受身の技術向上はもちろん、それらの練習を通して、日常生活における障害防止や護身にも役立つことを学習する。また、固め技や投げ技を習得することによって、技術も向上し柔軟性も高まることを知る。そして、武道としての特性から相手を尊重する態度や、協力する態度を養い、社会人として必要な礼儀作法を身につけるとともに健康・安全に留意することの大切さを学ぶ。

〔講義のすすめ方〕
1. オリエンテーション
（授業に関する諸注意・進め方・ねらい等について説明）
2. 礼法（座礼・立礼・服装や態度の指導）
3. 投げ技の基本動作
（姿勢・組み手・崩し・体さばき・受身）
4. 固め技の基本動作
（固め技の体さばき・固め技への入り方）
5. 投げ技（手技・腰技・足技）
6. 立ち技の連絡変化（大内刈り？大外刈りなど）
7. 寝技の連絡変化（けさ固め？上四方固めなど）
8. 試合の進め方（試合場についての説明）
9. 審判・勝負規定
（国内ルール・国際ルールの説明）
10. 世界の柔道について

〔教　　材〕
参考書
『ベスト柔道』
猪熊功・佐藤宣践共著　講談社インターナショナル
『寝技で勝つ柔道』
柏崎克彦著　ベースボールマガジン社
『闘魂の柔道』
山下泰裕著　ベースボールマガジン社
『DVD でわかる！柔道入門』
中西英敏著　若松範彦発行　（株）西東社

〔成績評価の方法・基準〕
出席、授業に対し取り組む姿勢、実技テストによって総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
出席重視、用具（柔道着）

L29001

科　目　名	剣道
教　員　名	荒井　一美

〔講義目的〕
武道は格闘形式の運動であり、打ち合う動作に伴って生じやすい人間の本能的感情を抑制したり、克己心を養うことが大切である。
また、武道は礼儀作法や相手を尊重する態度・公正な態度、さらには健康や安全に配慮する態度が重視される。と考える。今後、生きていく上で必要なこれらの態度を、剣道の試合や練習の場で実践し、体験し学ばせたいと考える。

〔講義内容〕
(1) 剣道の礼儀作法や基本動作を正しく身につけ、互いに相手を尊重しながら公正な態度で練習や試合ができる。(関心・意欲・態度)
(2) 自己の技能の程度により課題を設定し、その解決のために練習の方法や内容を工夫することができる。(思考・判断)
(3) 基本動作と対人的技能を身につけ、簡易ルールでの試合ができる。(技能)
(4) 練習や簡易ルールによる試合を通じて、剣道の特性や有効打突について理解できる。
(知識・理解)

〔講義のすすめ方〕
1. 一斉学習
(剣道の歴史・基本動作・素振り・打ち抜ける技)
スキルテスト(ボール打ち・竹刀連打・竹刀縦打ち)
2. 一斉学習
(防具のつけ方・一本打ち・元立ちの方法)
スキルテスト(竹刀連打・竹刀縦打ち・ライン間往復・跳躍面)
3. 一斉学習
(体当たり・引き技・追い打ち)
スキルテスト(連続打ち)試合練習(互角練習・使えた技の発見)
4. 一斉学習
(二・三段の技・払い技)
スキルテスト(連続打ち)試合練習(互角練習・使えた技の発見)
5. 一斉学習
(応じ技・引き技・出端技・互角練習の仕方について)
スキルテスト(ボール打ち・跳躍面)試合練習(互角練習・使えた技の発見)
6. 一斉学習
(応じ技・すり上げ技・試合、審判法について)
スキルテスト(跳躍面・すり上げ面)試合練習(試合、審判の練習・使えた技の確認)
7. 一斉学習
(応じ技・返し技・試合を6人組で行う)
スキルテスト(面返し胴)試合練習(試合・審判の練習・得意技の確認と練習)
8. 一斉学習
(応じ技の研究・団体試合)
スキルテスト(各班で設定した課題をもとに)
試合練習(団体戦の方法・得意技の練習と課題の発見)
9. 8に同じ(実技テスト)
10. －14. 指導法の研究
(教師役と生徒役に分かれ、模擬授業を行い互いを評価し合いながら、より良い指導法を身につける)
15. 授業のまとめと簡易筆記テスト

〔教　　材〕
剣道具一式・竹刀は学校で準備。
手ぬぐいと垂れネーム(ゼッケン)は各自で用意。(希望者に剣道着・袴・小手下・面下)

〔成績評価の方法・基準〕
ア. 運動への関心・意欲・態度
①自分に適した技を習得し、相手の動きや技に対応した攻防や勝敗を競い合う武道の楽しさや喜びを味わおうとする。
②礼儀作法を重んじて相手を尊重し、自分で自分を律する態度を取ろうとする。
③勝敗や結果を受け入れようとする。
④用具や服装、練習場などの安全を確かめたり、禁じ技を用いないなど、練習や試合をする上での安全に留意しようとする。

イ. 運動についての思考・判断
①基本動作と対人的な技能との関連を図っている。
②得意技を身につけることができるよう練習や試合の中で、隙や打突する方法を見つけている。
③試合では、個人・団体形式や体格別などを踏まえて、それぞれ判定の基準などを選んだりしている。

ウ. 運動の技能
①基本動作と自分の能力に適した対人的技能で練習することができる。
②自分の能力に適した対人的技能のうちから得意

技とすることができる。
③得意技で相手の動きに対応した練習や試合をすることができる。

エ．運動についての知識・理解
①剣道の特性や学習の進め方、基本動作や対人的な技術の構造、自分や相手の課題にあった練習や試合の仕方、練習計画の立て方を知っている。

〔履修のポイント・注意点〕
『五気』やる気・元気・本気・根気・活気を持ち、武道の精神を学ぼうとする意欲的な態度で、一緒に授業に取り組みましょう。

〔科目内容の位置付け〕
体育授業に、武道が必修とされます。それにともない、体育教師にも武道の資格（級や段位）が義務づけられてくると思われます。初心者は一級審査にチャレンジしてみましょう。

L29301

科　目　名	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ / 実技理論・実習　ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ
教　員　名	大関　孝雄

〔講義目的〕
初心者にとっては「難しい、痛い、楽しくない。」と思われることの多いバレーボールを、自らがゲームを楽しめる技術を習得するとともに、指導者として楽しませることができるような指導方法を学習する。
安全管理、技術、指導方法やルールの学習を基本として、主に部活動として行われている競技性の高い６人制と、競技性とレクリエーション性のバランスのとれた９人制両方について実習していく。
将来の指導者として、技術の習得のみならず、理論も大切にしていきたい。

〔講義内容〕
①オリエンテーション
②施設や用具の点検確認及び設置方法等について
③パスの基本と応用
④サーブ及びサーブレシーブの練習
⑤スパイク、トス、ブロックの練習
⑥６人制のゲーム、ルール説明
⑦９人制のゲーム、ルール説明
⑧救急処置（足首のテーピング）

〔講義のすすめ方〕
上記の講義内容について、漠然と技術のみを練習するのではなく、プリントを利用してポイントやコツを学びながら技術を習得する。必要に応じてプリントに書き込み、指導者としての意識も高める。

〔教　　材〕
資料は配付します。

〔成績評価の方法・基準〕
出席率、授業態度、授業への貢献度（準備・かたづけ・デモンストレーション・審判等）、技術等で総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
１、運動着・体育館用シューズ・筆記用具を用意すること。
２、怪我防止の為、アクセサリ類（指輪・ネックレス・ピアス等）や爪は注意して欲しい。
３、出席や授業態度等、技術以外の部分も重視します。
４、将来、指導する立場になることを意識して欲しい。

L29601

科　目　名	野球（ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ）/ 実技理論・実習 野球（ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ）
教　員　名	栗山　英樹

〔講義目的〕
健康維持はもちろん、社会で活躍するために体力を培うことは、大切な要素。さらに余暇のすごし方や観戦の楽しみもまた、生活にゆとりを与えてくれるもの。そういったスポーツに対する距離感を作りたいと思います。種目としてはソフトボール・野球という団体スポーツでありながら、個人競技の要素を高く持つスポーツの選択です。

〔講義内容〕
①オリエンテーション
（班分けや授業内容の確認）
②道具の使い方、ルールの確認
③キャッチボールなど基本練習
④ペッパーなど攻撃の基本練習
⑤内野、外野の連携プレー、
　ダブルプレーなどの練習
⑥ゲーム形式の練習
⑦班ごとによるリーグ戦

〔教　　材〕
運動着、シューズが必要です。
野球道具の基本的なものは学校で用意しますが、慣れたグラブなどぜひ持参されたし。

〔成績評価の方法・基準〕
出欠席、遅刻を重要な要素とし、技術向上による加算制。

〔履修のポイント・注意点〕
屋外の授業になるため、着替え、シャワーなどの用意をきちんとすること。
出来る、出来ないではなく、どれだけ楽しく取り組めるがポイント。

L29901

科　目　名	ラグビー／実技理論・実習 ﾗｸﾞﾋﾞｰ
教　員　名	齊藤武利・Paulo Nawalu

〔講義目的〕
団体球技系スポーツ種目、特にラグビーを研究するにあたり、必要となるラグビー競技の特性を理解し、わが国における青少年のラグビー指導のあり方を検証する。また、ラグビーの指導法研究を推進するための専門的な知識と指導能力を得ることを目標とする。

〔講義内容〕
Ⅰ．ラグビーの特性と特徴について
　・ラグビーの基本原理
　・ラグビー憲章について

Ⅱ．ラグビーゲームの構造について
・ランニング、コンタクト、パス、キックについて
・スクラム、ラインアウト、キックオフ、PK、FK について

Ⅲ．ラグビーのコーチング、および指導方法について
（男女別で実技は実施し、女子については、小、中学生を対象としたノンコンタクトの教材を用いて授業を行うこととする。）
・各種リードアップゲームについて
・タグラグビー、フラッグフットボールについて
・タッチラグビーについて
・７人制ラグビーについて

Ⅳ．ラグビーの競技規則（ルール）について
・レフリーについて
・U19以下の競技規則について

〔講義のすすめ方〕
必要な資料は、毎回配布し、特に教科書は指定しない。

〔教　　材〕
OHP、VTR など視聴覚教材を使用する。
　参考書として、競技規則（LAWS of the geme）を購入予定。

〔成績評価の方法・基準〕
理論および実習なので、全てを出席し、経験することを優先する。
　毎回ごとにレポートなど、課題を提出する。
　成績の評価は、出欠状況、課題の遂行状況、およびレポートの内容などによる。
　やむを得ない事情により、欠席する場合は、補講を別途行う。

〔履修のポイント・注意点〕
今後、ラグビーの指導者を志すもの。あるいは、ラグビーに関係した専攻科目を希望するものが履修すること。
　３年次以降、課題研究を履修するものは、必ず履修すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
実習では、実際に実技を実施するため、運動できる服装で汚れても問題のないもの。

L30201

科　目　名	体つくり運動／実技理論・実習 体つくり運動
教　員　名	山田 美穂

〔講義目的〕
「体つくり運動」の主たる活動は、「体力を高める運動」と「体ほぐしの運動」である。本科目では、学習指導要領でも明示されているこの「体つくり運動」の考え方に基づき、これらを正しく進めるための、準備運動、整理運動も含めた一連の運動の方法（実技）と理論的根拠を学んでいくことを目的とする。

〔講義内容〕
本科目は概ね以下の三つの点から成り立っている。
1．体つくり運動の基本となるストレッチングや柔軟体操の意味や具体的方法を学ぶ。これらに関する正しい理解に基づき、ウォーミングアップ、クーリングダウンの実践について、具体的な実技と理論的根拠を対応させながら考える。
2．体力を高める運動では、Gボール、長縄、短縄などの道具や音楽を用いながら、簡易にしかも楽しく運動をしていく方法を学ぶ。
3．体ほぐしの運動では、「気づき」「調整」「交流」という三つの柱を学習する。そこで、弛緩法などの体気づきのプログラムを行ったり、チャレンジ運動などの仲間つくりプログラムなどを組み合わせて行う。

〔講義のすすめ方〕
実技を中心に行う。運動の課題によって個人、ペア、グループ、全員で取り組むものを適宜設定する。

〔教　　材〕
参考図書
「健康スポーツの心理学」竹中晃二編　大修館書店

〔成績評価の方法・基準〕
出席　60%
レポート　20%
毎時間の様子　20%

〔履修のポイント・注意点〕
本科目は、体力の有無、技能の高低、経験の有無などとはほとんど関係しないような運動を実施する予定である。競技と異なり、体を動かすことの楽しさや仲間と一緒に動く楽しさを味わって欲しい。また、心と体を一体とし捉える観点から「体つくり運動」に対する理解や必要性の認識を深めることを期待する。
なお、毎時間、必ず実技と理論的な説明を行うので、運動着のみならず筆記用具も持参すること。

〔科目内容の位置付け〕
簡易な運動や活動を取り上げるために、前提となるような予備知識は問わない。しかし、生涯スポーツという考え方に立った場合、本科目による経験が、一つの基礎になるのではないかと考える。
「体つくり運動」は学習指導要領の中では、中学校・高等学校の保健体育科の必修領域である。どの教師も指導できなくてはならないため、必要充足という考え方の下でこの領域が位置づけられている。

L30501

科　目　名	体育・ｽﾎﾟｰﾂ経営学／体育経営管理学
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
本講座では、今日の多様な体育・スポーツに関わる現象を視野に入れながら、体育・スポーツ経営学の基礎的な理論を解説する。この学問は歴史の浅い学問ではあるが、その時々の体育やスポーツの実践現場における「管理」や「経営」といった営みの必要性に応える形で発展してきた。「体育管理学」から「スポーツ経営学」への流れを理解し、「体育・スポーツ経営」とはどの様な活動かを理解することを目的とする。学校体育や地域スポーツなどの領域について、体育・スポーツ経営学の立場から今日的な課題や今後の方向性等について自分なりの見解を持つことができるようになることを講義の最終的な到達目標とする。

〔講義内容〕
①体育・スポーツへの「接近行動」を考える
②スポーツ科学としての体育・スポーツ経営学
③「経営」の意味と体育・スポーツ経営学の概念・構造
④「運動者」と「運動生活」
⑤「運動者行動」の捉え方(1)
⑥「運動者行動」の捉え方(2)
⑦体育・スポーツ事業論(1)エリアサービス事業
⑧体育・スポーツ事業論(2)プログラムサービス事業
⑨体育・スポーツ事業論(3)クラブサービス事業
⑩スポーツ行政論（スポーツ振興基本計画の読み解き）
⑪学校体育経営論
⑫地域スポーツ経営論
⑬フィットネスクラブの経営論
⑭まとめと試験対策
※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕
講義形式で進める。下記の参考テキストの内容に対応した講義ノート（資料）を毎回配布する。講義では、解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。主要な感想や質問については次回の講義の冒頭で再度取り上げ、解説する。この他、２－３度のレポート課題を課す。

〔教　　材〕
「体育・スポーツ経営学講義」
八代勉・中村平編著
大修館書店　2200円＋税
を参考テキストとする。体育・スポーツ経営学の入門書として購入することを強く進める。

〔成績評価の方法・基準〕
テスト１回（期末）、レポート学期２?３回。
　レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価は試験得点（70％）＋出席点（30％）を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。
　試験は、テキスト及び配布された講義ノート（自筆のもののみ）の持込を可とし、キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。
　出席点は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回３点満点で加算し評価の材料とする。

〔履修のポイント・注意点〕
教職のために必要な科目であるばかりでなく、体育・スポーツの専門家として体育・スポーツ経営の考え方を理解しておくことは不可欠であると考えるため、その自覚を持って授業に臨んでいただきたい。
　履修年次は２年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕
体育・スポーツ経営学の概論、入門編と位置づける。関連科目の学習やゼミナールなどの演習を通して更に理解を深めて行くことを期待する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育社会学、スポーツ行政論、スポーツ・マーケティング論など

L31001

科　目　名	スポーツ社会学／体育社会学
教　員　名	中村　祐司

〔講義目的〕
現代社会における体育・スポーツをめぐる今日的な諸問題について、学校体育や地域スポーツからプロスポーツ、メディアとの関連まで、いくつかの事例を通して、政治・経済・文化・教育との関連から、あるいは高度化・大衆化といった点から考察を加える。また、スポーツレジャー産業やスポーツ・文化産業といった余暇産業に関わる民間企業によって形成される市場の動きにも注目する。スポーツ社会を単にスポーツ選手やスポーツ愛好者のみで構成される固有な社会と認識させるのではなく、さまざまな諸アクターが参入する小世界（マイクロコズム＝ microcosm）における相互作用のダイナミズムとして認識させる。このように現代スポーツ世界を多角的に検討することによって、体育・スポーツが人間社会に果たす役割と課題を明確にしていきたい。

〔講義内容〕
1．体育・スポーツ社会学研究の意義
2．学校体育施設と地域のスポーツ活動
3．公共スポーツ施設と地域社会
4．体育・スポーツの歴史と社会
5．体育・スポーツの高度化と大衆化
6．中央政府・地方自治体と体育・スポーツ
7．産業市場における体育・スポーツ
8．国家戦略と体育・スポーツ活動
9．レジャー・余暇活動と体育・スポーツ
10．体育・スポーツ社会のこれからの課題

〔講義のすすめ方〕
体育・スポーツを研究の対象とする意義について認識させた上で、日本とイギリス・オーストラリアなどの事例を揚げつつ、現代社会における体育・スポーツ活動は変容しつつあることを指摘する。そして、体育・スポーツを取り巻く様々な課題、例えば、サッカーワールドカップ大会やオリンピック大会のような大規模スポーツイベントが国家戦略やスポンサー企業の経営戦略とどのように絡み合っているのかについて論じる。また、消費活動としての「見るスポーツ」など、現代社会において体育・スポーツ活動の置かれている特異性についても触れる中で、体系的・多角的に体育・スポーツ社会を把握していきたい。なお、講義では受講生に対する質問を心掛ける。

〔教　　材〕
テキストとして、『" とちぎ発 " 地域社会を見るポイント１００』（下野新聞新書２、1000円）を使用します。第２回目ないしは第３回目の授業時に教室において販売するので、事前に購入する必要はありません。また、必要に応じて資料を適宜配布する.

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況および定期試験によって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
どのようなものであれ、体育・スポーツとこれに関連する課題に対する問題意識を持って授業に臨んでほしい。質問の時間もできるだけ確保したいので、事実確認以上に考え方や視点をめぐる質問を積極的に行ってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
どちらかといえば、この授業では「広く浅く」を心掛け、体育・スポーツの抱える課題を満遍なく網羅的に把握していくので、取り上げた個々の課題のより深い追求は「スポーツ行政論」でやっていきたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育・スポーツ活動に従事しているかいないかにかかわらず、また、好き嫌いにかかわらず、体育・スポーツに対する何らかの関心を有していることを受講の前提としたい。また、関連科目として「スポーツ行政論」がある。

L31501

科　目　名	運動生理学／運動生理学Ⅰ
教　員　名	金田　健史

〔**講義目的**〕
生理学で学習した内容を基礎として、神経系、骨格筋系、呼吸循環系などの諸機能が運動・スポーツをすることに対してどのように関わっているか、また体育・スポーツ場面において実際に関連している応用的知識について、基礎的知識の確認も行ないながらしっかりと理解する。
　上記の目的は運動生理学、スポーツ生理学を通じて同一と考えている。

〔**講義内容**〕
1．運動生理学の概要．我々人間にとって、運動はどのような役割を果たしているか？運動の必要性について考える．
2．筋収縮の様式、筋力に影響する要因
3．運動・トレーニングと骨格筋
4．運動と循環系（スポーツ心臓、血流量の配分）
5．運動と呼吸系（最大酸素摂取量、乳酸性作業閾値（LT））
6．運動単位の活動パターン、筋力増強のメカニズム
7．神経系の機能（大脳皮質の機能局在、小脳、大脳基底核）
8．神経系の機能（骨格筋の感覚器、反射）
9．脳の可塑性、運動の調節
10．血液の役割、体液の調節
11．貧血、免疫機能
12．内分泌系の機能
13．睡眠覚醒の発現機構
14．体温調節機能
15．試験

〔**講義のすすめ方**〕
授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

〔**教　　材**〕
○運動生理学20講　第２版（朝倉書店）
○トレーニング生理学（杏林書院）
○運動適応の科学（杏林書院）

〔**成績評価の方法・基準**〕
出席および、学期末試験において評価する。

〔**履修のポイント・注意点**〕
一年次に履修した生理学において学習した内容をさらに深めて授業を進めていくため、生理学を履修した後、本講義を受講することが望ましい．

〔**科目内容の位置付け**〕
専門科目、教員免許取得に必要となる単位
健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
生理学、スポーツ生理学，専門演習 AB

L32001

科　目　名	スポーツ科学入門
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
スポーツ健康専攻の学生の導入科目として、スポーツ科学の全体像を解説する。「スポーツ」は万人に認知された一般的な用語であるが、学問の対象としてどの様に捉えられるのか。「スポーツ」という用語の定義、身体や運動に関わる知識、「スポーツ」という現象の理解、その歴史や現状、「スポーツと人との関わり」など、様々なスポーツをめぐる学問的「切り口」をオムニバス形式で解説する。

これから４年間の専門的学びのスタートに際し、スポーツ科学全体に対する興味関心を高めると同時に、カリキュラムに設定されている各科目の特性や位置づけに関する理解を深め、一人ひとりが自らの専門性を構築していく土台づくりとなる知識の獲得を目指す。

〔講義内容〕
①オリエンテーション
②今日のスポーツの現状－制度、環境・実施率・課題（ビジョン）－
③運動する人間(1)－舞踊・ダンスの哲学－
④運動する人間(2)－長距離選手はなぜ走る？－
⑤運動する人間(3)－運動とは何か？スポーツとは何か？－
⑥運動に応える身体(1)－身体のしくみと生理的反応－
⑦運動に応える身体(2)－トレーニングの概念と効果－
⑧運動に応える身体(3)－スポーツと医学のメカニズム－
⑨スポーツと現代社会(1)－プロスポーツの与える感動－
⑩スポーツと現代社会(2)－トップアスリートとコーチング－
⑪スポーツと現代社会(3)－コミュニティスポーツの役割－
⑫スポーツと教育－教育としての「体育」を問い直す－
⑬まとめとレポート
※上記を中心に構成するが、順番・内容を変更することもある。

〔講義のすすめ方〕
講義形式で行う。オムニバス形式のため各回完結の講義となる。担当教員の指示により授業の感想或いは小レポートの提出がある。

定期試験は実施せず、最終回にまとめのレポートを課す。

〔教　　材〕
各回の担当教員より、必要に応じてその都度資料が配付される。

〔成績評価の方法・基準〕
出席点（50％）及び平常点（各回の感想・小レポート、まとめのレポート）（50％）で評価を行う。

〔履修のポイント・注意点〕
大学での学びは、講義科目といえども全て受け身の姿勢ではいけない。質問や感想などを積極的に述べ、主体的な姿勢で授業に参加すること。この科目に対する取組姿勢が４年間の大学生活への取組姿勢に反映するといっても過言ではない。重要な導入の科目として高い意識で取り組むことを期待する。

〔科目内容の位置付け〕
スポーツ健康専攻１年生の必修科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
なし。
本科目が、スポーツ健康専攻の専門科目の前提となる。

L32501

科　目　名	解剖学（基礎）／解剖学
	ヒト身体の柔軟性と巧妙性を知る
教　員　名	早川　敏之

〔講義目的〕
解剖学では人体の構造とその働きを知る上で必須の学問である。
医学部の解剖学とは異なり、将来スポーツ医学や児童教育に携わる諸君に実際に役立つ実践的な解剖学を学んでもらうことを目的にする。
このため単に、身体のしくみを学ぶだけでなく、人体の発生、骨や関節などの動きやその働きなどの機能的な面まで幅広く講義していきたい。

〔講義内容〕
1. 人体の発生
2. 骨と筋肉の構造と働き
3. 脳の発達とそのメカニズム
4. 頭頚部の構造とその働き
5. 上肢の構造とその働き
6. 脊柱、胸郭の構造とその働き
7. 骨盤の構造とその働き
8. 下肢の構造とその働き
9. 骨、関節の運動（単関節筋と多関節筋の働き）
10. 心肺機能
11. 消化器の解剖とその働き
12. 肝臓の機能とアルコール代謝
13. 腎機能のしくみ
14. 生殖系の構造とその働き
15. 試験

〔講義のすすめ方〕
板書並びに配布資料による講座

〔教　　材〕
特に指定なし

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験（70%）
出席及び授業参加の姿勢（30%）

〔履修のポイント・注意点〕
大学生としての意識を持って参加してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
自己の基礎知識となる解剖学を学んでほしい。

L33001

科　目　名	トレーニング論Ⅰ／トレーニング論
教　員　名	齊藤　武利

〔講義目的〕
スポーツ場面における様々なトレーニングについて、多角的（体力的、精神的、技術的、戦術的）に捉えて、トレーニング全般を概説し、スポーツ現場におけるトレーニングの方法論等についても言及する。特に、スポーツ指導者の視点に立って、発育発達、老化や性別など様々な体力トレーニングの意義や方法等についても概説する。

〔講義内容〕
トレーニングの原理、原則について

トレーニングの目標、手段、計画、評価について
・発育、発達（特に、青少年期）とトレーニング目標、計画の実際
・加齢、老化、性差におけるトレーニングの目標と計画の実際

トレーニングの条件およびトレーニング強度について
・トレーニングの強度や頻度、時間等の設定方法など
・トレーニングの環境

トレーニングによる効果について
・トレーニングによる生体の反応に及ぼす影響について
（筋肉、神経、有酸素能力、パワーなど）
・体力的トレーニングの考え方とその方法
・トレーニングや運動による行動変容
（運動行動の変容含む）に及ぼす影響について

体力トレーニングの具体的な方法について
・筋力トレーニング（筋肥大、筋パワー増大）の方法とその効果
・有酸素能力向上（エアロビックス）のためのトレーニング方法と効果
・筋持久力向上のためのトレーニングの方法と効果
・各スポーツ競技、スポーツ種目別の専門的トレーニングの方法と効果

〔講義のすすめ方〕
教科書は、特に指定しない。
　参考となる図書等については、その都度、授業中に紹介する。

〔教　　材〕
OHP、VTR など視聴覚教材を使用する。
　また、必要に応じてプリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
全体の２／３以上の出席が　試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。２／３以上、出席した学生のみ、最後に、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。
　評価基準　（出席30％　テストおよびレポート60％　総合評価10％）

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
運動生理学を受講済みの方がよい。

L33101

科　目　名	トレーニング論Ⅱ
教　員　名	齊藤　武利

〔講義目的〕
スポーツ場面における様々なトレーニングについて、多角的（心理的、技術的、戦術的）に捉えて、トレーニング全般を概説し、スポーツ現場におけるトレーニングの方法論等についても言及する。特に、スポーツ指導者の視点に立って、発育発達、老化や性別など様々な体力トレーニングの意義や方法等についても概説する。
トレーニング論Ⅰでは、主に、体力トレーニング等を概説したため、トレーニング論Ⅱでは、技術トレーニングと戦術トレーニングの実際について、主に概説する。また、スポーツ現場で実施されている様々な複合的な、トレーニング方法等についても、紹介する。

〔講義内容〕
具体的な体力トレーニングの実際、について
・SAQ トレーニング
・スロートレーニング
・筋持久力向上のためのトレーニングの方法と効果
・その他

技術的トレーニングの現状と方法
①、スポーツにおける技術とは？
②、スポーツの技術とスポーツパフォーマンスについて
③、運動の分析と技術獲得の方法論について
④、技術獲得と運動学習との関連性について
⑤、技術トレーニングの方法論に関する一般的原則と理論
⑥、技術トレーニングにおける問題点

心理的トレーニングの現状と方法
①、メンタルトレーニングの実際
②、イメージトレーニングの実際

戦術的トレーニングの現状と方法
①、スポーツにおける戦術とは？
②、戦術トレーニングとは？
③、戦術トレーニングの方法論における一般的理論について
④、球技系スポーツと戦術トレーニングの関連性について
⑤、戦術トレーニングとテクニカル活動について
⑥、最新の戦術トレーニングの実際

各種スポーツ競技、スポーツ種目別の専門的トレーニングの方法と効果より

〔講義のすすめ方〕
OHP、VTR など視聴覚教材を使用する。また、必要に応じてプリントを配布する。
課題について、ｸﾞﾙｰﾌﾟでの討議、発表形式の時間もある。

〔教　　材〕
教科書は、特に指定しない。
参考となる図書等については、その都度、授業中に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
全体の２／３以上の出席が　試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。２／３以上、出席した学生のみ、最後に、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。
評価基準　（出席30％　テストおよびレポート60％　総合評価10％）

〔履修のポイント・注意点〕
トレーニング論Ⅰ、トレーニング実習Ⅰの双方を習得済みのこと

〔科目内容の位置付け〕
スポーツ健康専攻の専門的科目であり、基本的なスポーツ関連の用語等については、予習してくること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
運動生理学、解剖学、トレーニング論Ⅰ　トレーニング実習Ⅰ　の単位修得済み　の学生を対象とする。

L33501

科　目　名	ｽﾎﾟｰﾂ指導者論Ⅰ
教　員　名	齋藤　一人

〔講義目的〕
本講義は、スポーツ指導現場・活動において、スポーツ指導者として社会に求められる背景と役割について理解し、その活動内容を的確に効果的に指導するための指導者の心構えと視点・競技者育成プログラム等について学ぶ。また、指導を実践する上で基本となる、スポーツ科学・コーチングスキル・一貫指導システム・競技者個人やチームを対象とした指導計画と評価等を修得する。

〔講義内容〕
1. オリエンテーション
2. スポーツ指導者とは（役割・現状）
3. 指導者の心構え・視点について
4. 一競技者育成プログラムの理念について①
5. 一競技者育成プログラムの理念について②
（一貫指導システム等）
6. スポーツ活動と安全管理について
7. コーチング・スキルについて①
8. コーチング・スキルについて②
9. コーチング・スキルについて③
10. スポーツ科学－トレーニング理論とその方法について①
11. スポーツ科学－トレーニング理論とその方法について②
12. 指導計画およびトレーニング計画について①
13. 指導計画およびトレーニング計画について②
14. 指導計画およびトレーニング計画について③
15. まとめ

〔講義のすすめ方〕
基本的には講義形式で進めていくが、コーチングスキル・指導計画立案等などで、対象別や専門競技等でグループ別の作業 - ディスカッション - 発表を行っていく予定である。

〔教　　材〕
特になし。必要に応じて、授業中に配布するプリント等。なお、参考図書として（財）日本体育協会　公認スポーツ指導者養成テキストがある。

〔成績評価の方法・基準〕
出席、レポート等によって総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
7割以上出席と課題提出。

〔科目内容の位置付け〕
スポーツ指導者を目指すものを対象とします。

L33601

科　目　名	ｽﾎﾟｰﾂ指導者論Ⅱ
	イベント（白鷗大学ダンス発表会）を通して学ぶリーダーシップ
教　員　名	内山　須美子

〔講義目的〕
地域に対し、ダンスの魅力をいかに伝えるか？地域貢献事業の一環である白鷗大学ダンス発表会を実際に企画・運営することにより、発表会開催の運営方法を学習する。その中で、「スポーツイベントを成功させる」ということに対して自らの方法論とスキルを確立し、リーダーシップの真髄を習得する。

〔講義内容〕
1．オリエンテーション
2．発表会要項
3．募集からプログラム作成
4．協賛企業の選択と依頼
5．組織作り
6．運営役員の業務
7．各業務の内容（1）
8．各業務の内容（2）
9．各業務の内容（3）
10. リスクへの対策
11. 成功に伏在する有能であることの意味
12. 有能ということの内実
13. リーダーシップの内実
14. 対象者のニーズに応えるということ
15. まとめ

〔講義のすすめ方〕
基本事項のレクチャーもあるが、グループ別の作業やディスカッションを中心に行う予定である。

〔教　　材〕
特に指定しない。

〔成績評価の方法・基準〕
出席、レポート等によって総合的に判断する。

〔履修のポイント・注意点〕
自ら考え、学ぶ姿勢を持つこと

L34001

科　目　名	スポーツ生理学／運動生理学Ⅱ
教　員　名	金田　健史

〔講義目的〕
　生理学で学習した内容を基礎として、神経系、骨格筋系、呼吸循環系などの諸機能が運動・スポーツをすることに対してどのように関わっているか、また体育・スポーツ場面において実際に関連している応用的知識について、基礎的知識の確認も行ないながらしっかりと理解する.
　上記の目的は生理学、運動生理学を通じて同一と考えている.

〔講義内容〕
1．運動生理学の概要、運動といろいろな要素との関わり
2．持久的運動とからだ（呼吸循環機能を中心に）
3．レジスタンス運動とからだ（骨格筋を中心に）
4．運動・スポーツと疲労
5．運動・スポーツと休養、睡眠
6．運動・スポーツと栄養（1）
7．運動・スポーツと栄養（2）、水分補給
8．運動・スポーツと環境（1）（高所、暑熱、寒冷、水中等）
9．運動・スポーツと環境（2）（高所、暑熱、寒冷、水中等）、体温調節
10．運動・スポーツと発育発達
11．運動・スポーツと老化・加齢
12．運動・スポーツと内分泌系の関わり、（ホルモン、代謝）
13．運動・スポーツと記憶、学習
14．女性と運動・スポーツ
15．試験

〔講義のすすめ方〕
授業では、パワーポイントなどを用い、視覚的にイメージをしやすいようにし、またプリントなどから復習できるように進めていく予定である。

〔教　　材〕
〇運動生理学20講　第２版（朝倉書店）
〇トレーニング生理学（杏林書院）
〇運動適応の科学（杏林書院）

〔成績評価の方法・基準〕
出席および、学期末試験において評価する。

〔科目内容の位置付け〕
専門科目、教員免許取得に必要となる単位
健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生理学、運動生理学，専門演習 AB，卒業研究

L34501

科　目　名	スポーツ医学概論／スポーツ医学Ⅰ
教　員　名	大畠　襄

〔講義目的〕
　スポーツ関連の仕事に携わる諸君にとって医学的知識は不可欠である。
　医学的知識があってはじめて効果的な成果をあげ，自己や故障の少ないスポーツ活動やトレーニングが可能となると思われる。
　スポーツ医学概論では，内科的，外科的な視点でスポーツと医療との関わりを捉えていく。

〔講義内容〕
・生体のホメオスタシス
・加齢に伴う機能低下の予防と運動・スポーツ
・生活習慣病予防と運動・スポーツ
・内科的障害と予防
・上肢の外科的傷害
・下肢，脊髄の外科的傷害
・健康診断の測定項目，結果，基準値と考え方
・スポーツの実施現場と診断
（メディカルチェック）との関わりと考え方
・アスレティックリハビリテーション
・介護予防としてのスポーツの役割
・子どもや高齢者でのスポーツ障害，外傷
※上記の内容について，適宜１～２時間をかけて学習していく。

〔講義のすすめ方〕
実践的処置を学ぶための学外講師などの参加も予定している。

〔教　　材〕
特になし

〔成績評価の方法・基準〕
出席と定期試験

〔履修のポイント・注意点〕
スポーツに関する知識だけでなく，医学的な知識をも身につけることが健康，スポーツの現場では求められている。ただ運動をおこなう実践者であるだけでなく，知識をも備えた社会人となってほしい。

〔科目内容の位置付け〕
健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
運動と健康（運動処方論）と併せて履修するとより理解力が深まる。

L35001

科　目　名	ｽﾎﾟｰﾂﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
スポーツに関わる仕事の多くは、スポーツサービスというサービス財を、（指導対象者や選手、児童・生徒、顧客などの）多様な対象に生産・提供することであるといえる。
これらの仕事の中では、対象のニーズや欲求を満たす質の良いサービスを生産することに加えて、質の良いサービスを如何にスムーズに効率的に生産・提供できるかということが重要である。単純に良いものであれば売れる・普及するというわけではなく、対象者との関係づくりがうまくいかなければ良いものでも広まらないという例がみられるのである。
この様にサービス財の生産者がその対象となるマーケットとの関係性を形成していくための活動がマーケティングであり、本講義ではスポーツサービスに関わるマーケティングの基礎理論と現状について解説していく。

〔講義内容〕
①オリエンテーション～スポーツビジネス、スポーツ産業の全体像
②マーケティングの概念とスポーツマーケティング
③非営利組織や公共組織のマーケティング
④マーケティングのプロセスとターゲッティング
⑤マーケティング・ミックスの基礎理論
⑥スポーツサービスの基本特性
⑦スポーツサービスへの接近・購買行動
⑧スポーツサービスの普及過程
⑨スポーツプロダクトの概念と構造
⑩スポーツプロダクトのライフサイクル
⑪フィットネス産業におけるマーケティングの実際
⑫トップレベル（プロスポーツ）におけるマーケティングの実際
⑬スポーツ行政、スポーツ NPO におけるマーケティングの実際
⑭まとめと試験対策
※上記の内容を中心に構成するが時間（時限）の配分は適宜調整しながら進める。

〔講義のすすめ方〕
講義ノート（資料）を毎回配布し、講義形式で進める。解説を聞きながら各自がその講義ノートを作成していくことになる。講義の終わりには「講義の感想・質問票」を毎回提出する。この他、２～３度のレポート課題を課す。

〔教　　材〕
マーケティング及びスポーツマーケティングに関する文献を適宜紹介していく。

〔成績評価の方法・基準〕
テスト１回（期末）、レポート学期２～３回。レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価は試験得点（70％）＋出席点（30％）を規準とする。レポートは最終的な判定時にその内容を考慮する。
試験は、持込は不可とし、キーワードに関する穴埋め問題と、論述問題から構成される。
出席点は、毎回の「講義の感想・質問票」の内容から出席の有無、講義に望む態度を判断し各回３点満点で加算し評価の材料とする。

〔履修のポイント・注意点〕
マーケティングは、体育・スポーツに関する専門的な知識として役立つばかりでなく、自身が「仕事」を遂行していく上での考え方や哲学に深く関わるものと考えている。
講義を将来の進路の決定に役立て、マーケティングから生き方を学んで欲しい。
履修年次は３年次を標準と考えている。

〔科目内容の位置付け〕
内容的には、体育・スポーツ経営学の発展編と位置づけられる。専門演習等と合わせて更に理解を深めて行くことを期待する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育・スポーツ経営学　体育・スポーツ実践事例研究　スポーツ・インターンシップ　スポーツ社会学　スポーツ行政論　など

L35501

科　目　名	健康・ｽﾎﾟｰﾂ測定と評価 / 体育測定評価
教　員　名	野間　明紀

〔講義目的〕
スポーツをおこなう上での身体の動き、体力、運動能力を知ることは大切なことであり、そのためにはそれぞれの測定項目にあった方法を知ることが必要である．また、科学的な測定、分析を行い、個人の情報を多く知れば、個別の指導にも大いに役立つと考えられる．また、体育の授業においても上記のことが必要と考えられる．このことから本授業においては、形態から運動能力等までの測定方法及び評価方法を講義する．

〔講義のすすめ方〕
①身体組成の測定法
　・形態の測定評価他
②③体力・運動能力に関する測定法の理解
　・基礎運動能力の測定評価
　・全身持久力の測定
以下では、対象の違いをふまえた体力測定と評価を理解する
④⑤児童・生徒への体力測定について
　・対象者の特徴と、測定項目
　・対象者の特徴をふまえた評価と実践
⑥⑦成人・中年への体力測定について
　・新体力テスト、フィールドテストの項目と評価
　・対象者の特徴をふまえた評価と実践
⑧⑨高齢者への体力測定について
　・対象者の特徴と、測定項目
　・対象者の特徴をふまえた評価と実践
⑩⑪介護予防の観点での体力測定について
　・対象者の特徴と、測定項目
　・対象者の特徴をふまえた評価と実践
⑫運動負荷テスト
⑬筋力・筋持久力の測定法と評価
⑭呼吸循環系能力の測定と評価
※その他、データの測定やその評価と健康づくり、体力恒常への取り組みについて考察していく．

〔教　　材〕
授業中に資料を配布する
〇参考図書 体力測定法（松浦義行）　朝倉書店
体力、運動能力測定法（西薗秀嗣他）大修館書店

〔成績評価の方法・基準〕
〇テスト１回及び出欠席で評価する．場合によってはレポートの提出もある．

〔履修のポイント・注意点〕
〇遅刻は2回で欠席1回となる．
〇2/3の以上の出席がテストを受験する条件である．

〔科目内容の位置付け〕
2～4年次の選択科目である．
健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生理学、運動生理学、スポーツ生理学及び解剖学

L36001

科　目　名	ｽﾎﾟｰﾂﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ論（ﾃｰﾋﾟﾝｸﾞ含む）/ ｽﾎﾟｰﾂﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ論
教　員　名	齊藤武利・廣瀬文彦

〔講義目的〕
スポーツにおけるリハビリテーションの意義、役割を学習し、その実践的な方法やあり方を考え、実際のスポーツ現場のリハビリテーション活動について検証する。

〔講義内容〕
1　スポーツ現場におけるリハビリテーションとは、（アスレティックリハビリテーション）
2　わが国におけるトレーナー制度、活動について
3　スポーツリハビリテーションに従事する人たちについて
4　競技力向上におけるスポーツリハビリテーションの実際について
5　生涯スポーツにおけるスポーツリハビリテーションについて
6　具体的な方法論の検討　（実技を含む）
・テーピングについて　（集中形式での実技練習を行う。）
・スポーツマッサージについて
・アイシングについて
・ストレッチングについて
・応急処置について
・理学療法について
・鍼灸について
・柔道整復および整体について
・その他
7　メディカルチェックの重要性とコンディショニング
・メディカルチェックとリハビリテーションの関連
・運動療法と運動プログラムの作成と実践
・コンディショニングと医学的リハビリテーション（手術、通院、投薬状況など）との関連について

〔講義のすすめ方〕
必要な資料は、毎回配布する。または、副読本の内容から抜粋して講義を進める。
2名体制での授業となり、実習形式での授業内容（テーピング実技）を織り交ぜて実施する。

〔教　　材〕
・OHP、VTR など視聴覚教材を使用する。
参考書、および参考資料については、講義で紹介する。
・副読本として、健康運動指導士養成講習会テキスト（上）（下）があるとより理解しやすい。
・テーピング実習では、各自テーピングテープ等の必要量と頻度が異なるため、一定量以上の実習教　材については、各自実費の教材購入が必要である。（約1000円程度）

〔成績評価の方法・基準〕
全体の２／３以上の出席が　試験を受けるため、もしくはレポート提出のための前提条件です。
２／３以上、出席した学生のみ評価対象となる。
最後に、実技テスト、試験もしくは、レポートの提出によって、成績評価を実施。
評価基準（出席30％　テスト（実習含む）およびレポート60％　総合評価10％）

〔履修のポイント・注意点〕
「テーピング実技」が授業内容に含まれる。集中形式での実技練習の時間が後日、授業時間内で案内、指定される。この実技への参加は、最終的な成績評価のための必要条件となる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
スポーツ医学概論、スポーツ医学Ⅰとあわせて履修すると理解が深まる。

L36501

科　目　名	障害者ｽﾎﾟｰﾂ
教　員　名	齊藤　武利

〔**講義目的**〕
医療において治療の手段として取り入れられたことから始まった「障害者のスポーツ」について、その歴史的経緯や発展の過程、現在の状況等を概説し、今後のわが国における障害者（児）のスポーツのあり方について考える。

〔**講義内容**〕
1「障害者 （児)」とは何か
・障害者の定義や分類等

2 障害者のスポーツの歴史と発展過程について
・医療およびリハビリテーションスポーツとしての歴史等について
・グッドマン博士の活動について
・日本における「障害者のスポーツ」の歴史と経緯について
・東京オリンピックと東京パラリンピック（1964）について
・全国における各種障害者スポーツ大会の開催等について
・各地域のリハビリテーションセンターの役割について
・障害者（児）スポーツの現場における、様々な指導者について

3 障害者にとって、スポーツとは？
・精神的効果
・健康増進や体力維持に及ぼす効果
・残存機能の向上および二次的疾病の予防
・QOL との関係から
・自立・社会参加への促進
・アダプテッドスポーツとは

4　競技スポーツとしての「障害者スポーツ」について
・パラリンピックの歴史
・文化的価値、社会的意義としてのスポーツとパラリンピックの関係
・オリンピックとパラリンピックの歴史的経緯と発展
・最新パラリンピック事情
・様々な（身体、知的、視覚、聴覚）障害者のスポーツ大会とパラリンピックとの関係

〔**講義のすすめ方**〕
　基本的な知識や考え方等には、講義形式の形式で実施する。特に、授業で使用する必要な資料については、その都度配布する予定である。
　講義の後半では、フィールドワークを行う。実際に「障害者のスポーツ」の現場を見学し、その体験から、グループ討議により、共通理解を深め、グループの発表を行う。
　見学先等については、学外の施設で行う予定である。詳細については、授業内で案内する。

〔**教　　材**〕
参考図書：障害者スポーツ概論

〔**成績評価の方法・基準**〕
出席率、グループ学習の成果、各種課題とレポート評価、定期テストで総合評価を行う。

〔**履修のポイント・注意点**〕
スポーツ健康専攻の専門的科目のため、履修のためには、既履修の科目を注意すること。

〔**科目内容の位置付け**〕
医療、福祉、教育、スポーツなど様々な分野の基礎的、基本的知識を有した上で、受講してほしい。

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容)**〕
生理学、解剖学、運動生理学、救急法、スポーツ医学概論、介護等体験を履修済みのこと

L37001

科　目　名	運動と健康（運動処方論）
教　員　名	大畠　襄

〔講義目的〕
現在，多くの健康問題が叫ばれている社会において，運動が心身の健康において重要であることが明らかにされてきている。本講義を通して，スポーツ・運動指導の専門家として健康作りの重要性を認識・理解することを目的としている。スポーツ・運動指導にあたる者としては，健常者だけでなく，有疾患患者や高齢者なども対象とした運動処方が的確に行えるように実践に即した理論的背景となる知識や実践能力を身につけてもらいたい。
また，このような対象に対して，どのようなかたちで運動を与えていくかについても理解してもらいたい。

〔講義内容〕
・健康の概念，健康と医学，健康と運動の関わり
・メタボリックシンドロームとは
・生活習慣病とは，生活習慣病の予防と運動の関わり
・肥満とは，肥満の予防と運動の関わり
・高血圧とは，高血圧の予防と運動の関わり
・高脂血症とは，高脂血症への運動の関わり
・糖尿病とは，糖尿病の予防と運動の関わり
・虚血性心疾患と運動の関わり
・骨疾患（骨粗鬆症など）や関節の疾患と運動の関わり
・運動負荷テストの狙いと内容
※上記の内容について，適宜１～２時間をかけて学習していく。

〔講義のすすめ方〕
実践的処置を学ぶための学外講師などの参加も予定している。

〔教　　材〕
特になし。

〔成績評価の方法・基準〕
出席と定期試験

〔履修のポイント・注意点〕
将来スポーツに関わる仕事に就く，またリハビリや介護などに従事する仕事に関わる人にとっては役立つ知識となるはずです。

〔科目内容の位置付け〕
健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
スポーツ医学概論と併せて履修するとより理解力が深まる。

L37501

科　目　名	ｽﾎﾟｰﾂ栄養学
教　員　名	鈴木　いづみ

〔講義目的〕
　競技力向上のためには日々のトレーニングが不可欠であり、それを支えるのが栄養である。本講義では、スポーツ選手における栄養の意義、各栄養素とスポーツとの関わりを学び、さらにはスポーツの現場における栄養マネジメントについて知識を深めていく。

〔講義内容〕
第１回　運動・スポーツと食生活
第２回　五大栄養素の機能と代謝
第３回　栄養素の消化と吸収
第４回　トレーニングとエネルギー消費量①
第５回　トレーニングとエネルギー消費量②
第６回　トレーニングと食事
　　（グリコーゲン補給／回復）
第７回　スポーツ選手の身体組成と
　　貯蔵エネルギー
第８回　筋肉づくりとたんぱく質摂取
第９回　骨づくりとカルシウム摂取
第10回　貧血予防と鉄／たんぱく質摂取
第11回　コンディショニング維持と
　　ビタミン摂取
第12回　運動・スポーツ時の水分補給
　　（水分・電解質・糖質）
第13回　サプリメントと
　　エルゴジェニックエイド
第14回　スポーツ選手の栄養マネジメント
　　（アセスメント・ケアプログラム）
第15回　スポーツ選手の栄養マネジメント
　　（栄養ケア・評価）

〔講義のすすめ方〕
　基本的にテキストにそって講義を進めるが、授業においてプリントを配布する場合がある。また、必要に応じてスライド（パワーポイント）を用い、スポーツ栄養マネジメントの現場やスポーツ栄養に関する今日的話題を取り上げ、理解を深めていく。

〔教　　材〕
教科書：「コンディショニングとパフォーマンス向上のスポーツ栄養学」・樋口　満　編著・市村出版・2500円

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
定期テスト　80％
出席・受講態度　20％

〔科目内容の位置付け〕
健康運動指導士養成校制度での認定科目

L38001

科　目　名	ｽﾎﾟｰﾂ指導のﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ
教　員　名	川村　卓

〔講義目的〕
スポーツ動作を指導するにあたって，その動作のどこに注目するかはとても大切なポイントとなる。スポーツ動作をみる際に，その動作を分解し，四肢の動きやその繋がりに注目し，身体で起こる力とその効果について学習するといったスポーツバイオメカニクス的な視点はとても重要である。本講義では，バイオメカにクスの基礎的な知識を概説し知識を身につけるとともに，走・跳・投運動等を身体運動のバイオメカニクス的視点によって勉強する。これにより，実際のスポーツ指導場面において生かせる知識を獲得する。

〔講義内容〕
1．身体の力学的特性
2．運動と身体の重心
3．運動量と力積
4．運動における力学的エネルギーと仕事，パワー
5．運動と力のモーメント
6．角運動量と慣性モーメント
7．関節トルクと関節パワー
8．動きのバイオメカニクス的原則
9．歩行・疾走動作のバイオメカニクス
10．跳躍動作のバイオメカニクス
11．投球動作のバイオメカニクス
12．泳動作のバイオメカニクス
13．スポーツ指導とバイオメカニクス研究との繋がり①
14．スポーツ指導とバイオメカニクス研究との繋がり②
15．試験

〔講義のすすめ方〕
難解な力学の基礎をスポーツ動作の事例を出しながら平易な講義に努めます。

〔教　　材〕
特にありませんが，スポーツバイオメカニクス20講，阿江通良ほか，朝倉書店を読むことを勧めます。

〔成績評価の方法・基準〕
出席40％，小テスト20％，最終テスト40％で判断します。

〔履修のポイント・注意点〕
講義を静粛に受けること，基本的なマナー（飲食・遅刻厳禁）は厳守してください。

〔科目内容の位置付け〕
健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

L38501

科　目　名	ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
　生涯スポーツの振興に伴い、様々なニュースポーツ（レクリエーションスポーツ）が誕生し、普及してきている。今日では地域のスポーツイベントや大会などでも、これらニュースポーツがその中心に位置づけられるようになってきている。
　ニュースポーツの最大の特徴は、子どもからお年寄りまで、また障がいを持った方まで、誰もが今持つ力で、スポーツの競い合う楽しさ、体を動かす楽しさに触れることができる点である。それは、既存のスポーツ種目をもとにしたり、スポーツ以外の活動をヒントにしたりしながら、用具やルールを工夫することによって可能になっている。
　本科目では、多様なニュースポーツを体験し、生涯スポーツ指導者やレクリエーション指導者としてのバリエーションを増やしより高い実践力を身につけることを目的としている。

〔講義内容〕
　以下のようなニュースポーツを順次教材として取り上げていく。
〇ディスク系・・・フライングディスク、ドッジビー、ディスクゴルフなど
〇ゴルフ・スティック系・・・グラウンドゴルフ、ターゲットバードゴルフなど
〇ネットプレー系・・・インディアカ、インディアカテニス、ラケットテニスなど
〇ゴール＆シュート系・・・ユニバーサルホッケーなど
〇ボール系・・・レクリエーションバレー、キンボールなど
〇的あて系・・・輪投げ、ユニカール、ニチレクボールなど
※履修者数などにより内容を適宜選択しながらすすめていく。

〔講義のすすめ方〕
　実技を中心とするが必要に応じて教室での解説や支援計画作成・グループ討議などの時間をとる。単にニュースポーツの体験に終わらないように、そのニュースポーツ素材を活用しながら、自分たちで活動内容の設定・進行ができるような形を目指す。適宜実技の感想やレポート課題を課す。

〔教　　材〕
　ニュースポーツ全般や各々の種目の解説などの書籍・資料を適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
　期末のレポート課題、学期中の感想やレポート提出数回。
　成績評価は期末のレポート得点（50％）＋出席点（20％）＋日常的な授業への参加姿勢（30％）を勘案して総合的に判定する。日常的な授業への参加姿勢は、学期中に適宜課す感想やレポートの提出も含む。

〔履修のポイント・注意点〕
　履修年次は３年次を標準と考えている。できればレクリエーション理論や実技を履修済みであることが望ましい。
　レクリエーション実技と同様に、ニュースポーツにおいてもそこに参加する一人ひとりの、楽しもうという姿勢が極めて重要である。このことを理解した上で存分に楽しもうという意識を持って授業に臨んでいただきたい。

〔科目内容の位置付け〕
　レクリエーション・インストラクター資格とは無関係であるが、レクリエーション実技の中でニュースポーツ種目に特化した科目内容と考えて差し支えない。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　レクリエーション理論　レクリエーション実技

L39001

科　目　名	野外運動 C(ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽ)
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
　体育科教員や地域スポーツ指導者、子どもスポーツの指導者に必要な、野外活動に関する経験や知識を得ることを目的とする。
　野外運動Ａの上級編に位置づくアドバンスキャンプであり、履修者一人ひとりが役割を持ちながら自律的に計画・運営をすすめていく組織キャンプである。

〔講義内容〕
　野外活動に関わる上級スキルを獲得するために、設定された過酷な野外環境に対して、綿密な活動計画を立案してそれぞれのプログラムに取り組み、成果をフィードバックしていく。
　上級スキル獲得のためのプログラム（予定）
・かまどの設営と野外調理
・ビニールシートによるテント設営
・イニシアティブゲーム
・ネイチャーゲーム
・ナイトハイク
・アウティング（ソロでのテント泊）
・キャンプファイヤー　ほか
　事前指導では、これらの活動に必要なロープワークや各種アクティビティに関する知識を解説する。その上で活動班ごとに活動の計画を立案（例えば野外調理の食材メニュー等も含めて）し、準備を行っていく。

〔講義のすすめ方〕
　野外運動Ｃの実施期間は前期試験終了直後の８月初旬を予定している。日程は３泊４日で行う。この他オリエンテーションや活動計画作成のための事前指導の時間を数時間行うが、詳細は履修者確定後に掲示等で連絡する。

〔教　　材〕
　事前指導において資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
　事前指導への取り組み、本番のキャンプ活動への取り組み、事後レポートの作成内容等から総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　設定された環境の中とはいえ、野外活動には常に危険がつきまとう。アドバンスキャンプとなればその危険性はさらに高くなる。野外活動に対する強い関心と、未知の経験に対する強い欲求を持った学生のみに履修してもらいたい。特に、計画の段階で自律的な取り組みがみられない場合には本番のキャンプへの参加を認めないこともある。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
野外運動Ａ　レクリエーション理論　レクリエーション実技

L39501

科　目　名	体育・ｽﾎﾟｰﾂ実践事例研究
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
現代社会に見られる体育・スポーツ現象は多種多様である。人々と体育・スポーツとの関わりは、スポーツ経営活動の結果として生み出されるスポーツサービスを介して成立する。今日では実に様々なスポーツサービスが存在している。それらは営利目的のスポーツビジネスとして成立している場合もあれば、ＮＰＯや地域住民組織により非営利で生産・提供されるものもある。その実践領域も民間施設・民間企業、地域社会、学校、競技スポーツ団体など様々である。
本科目では、この様に様々なスポーツ実践の事例に焦点をあて、ゲストスピーカーを招きながら、その理念や目的、実際のスポーツサービスの内容等を研究していく。これらを通じて体育・スポーツ経営の全体像及び各領域への理解を深めることを目的とする。

〔講義内容〕
以下の内容で進めていく。
①オリエンテーション
②体育・スポーツ実践事例の読み解き(1)地域スポーツ振興
③体育・スポーツ実践事例の読み解き(2)フィットネス産業
④体育・スポーツ実践事例の読み解き(3)トップレベルスポーツ
⑤スポーツコラムの作成(1)
⑥スポーツコラムの作成(2)
⑦ゲストスピーカー受講ノートの作成
⑧ゲストスピーカー(1)
⑨ゲストスピーカー(2)
⑩ゲストスピーカー(3)
⑪ゲストスピーカー(4)
⑫ゲストスピーカー(5)
⑬ゲストスピーカー(6)
⑭まとめのレポート

※ゲストスピーカーは、「地域スポーツ振興」、「フィットネス産業」、「トップレベルスポーツ」の各領域から、都道府県教育委員会スポーツ振興課担当者、都道府県体育協会生涯スポーツ課担当者、大手フィットネスクラブ人事部担当者、プロスポーツチームフロント責任者等をお招きする。
※平成20年度は、栃木県教育委員会、栃木県体育協会、（株）ルネサンス、（株）ティップネス、リンク栃木ブレックスについての講演を実施した。

〔講義のすすめ方〕
各実践事例については、ゲストスピーカーの講演を挟む形で、事前の事例研究、事後の事例評価等を進めていく。詳細なスケジュールについては初回のオリエンテーション時に説明する。

〔教　　材〕
その都度、資料を配付する。また、関連書籍や参考資料等は適宜紹介していく。

〔成績評価の方法・基準〕
まとめのレポート１回（期末）、中間レポート（スポーツコラム等）随時
中間レポートの提出は必修とし単位取得のための条件とする。成績評価はレポート得点（70％）＋出席点（30％）を規準とする。

〔履修のポイント・注意点〕
学外の講師をお招きするので、礼儀と節度を持って授業に臨んでもらいたい。また、積極的に質問するなど、その機会を最大限に活用してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
特にスポーツ関連企業への進路を考えている学生には強く勧めたい。本科目を、インターンシップ等と関連づけながら、在学中から積極的にスポーツの実践現場に関わっていくことを勧める。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
スポーツ科学入門　スポーツ・インターンシップ　体育・スポーツ経営学　スポーツ産業論　スポーツマーケティング論　など

L40001

科　目　名	ｽﾎﾟｰﾂ科学実験演習
教　員　名	体育担当教員

〔講義目的〕
　多くの講義によって得られる情報をただ受講しているだけでなく、実際に自分自身で測定したり、プログラムを作成したりすることによって、より深い知識や理解を目指すことを目的としている．演習においていろいろな機器を用いることによって、自分自身の興味や関心を深め、三年次以降に自分の専門性を絞っていく際や、卒業研究で実際に使用する際の良いきっかけになるものとも考えている．

　海原純子 A、金田健史 B、斎藤一人 C、斎藤武利 D
※いくつかの種類の演習内容に対して、担当教官が貼り付いて実施する．

〔講義内容〕
スポーツ、医療の現場において実施されている運動負荷テストや動作解析、呼気ガス分析、心電図、脳波といった項目に関する測定および分析方法を学ぶとともに、実践的な知識と技能を獲得する．
A．運動負荷テストの実施と理解
B．呼気ガス分析、心電図、筋電図、脳波等の電気生理学的実験分析
C．運動パフォーマンスの動作解析
D．等尺性、等速性最大筋力の測定と分析

〔講義のすすめ方〕
　A から D それぞれの実験内容について担当教員がつき、受講生は4グループに分かれ、そのグループ毎で各実験をローテーションしておこなう．それぞれの実験の中身については上記の通りである．これまで色々な講義科目で学んできた知識を基にして．実際に自分自身の手で積極的に関わることで得られるものが多いので、積極的に取り組んでほしい．
　本演習は集中形式で3から4日程度で集中的におこなう．

〔教　　材〕
特になし

〔成績評価の方法・基準〕
出席とレポート

〔履修のポイント・注意点〕
ただ受講することが狙いではないので、受身的な姿勢ではなく、積極的に機器の操作や測定に関わり、学習していくことが望まれる．

〔科目内容の位置付け〕
健康運動指導士養成校制度での認定科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生理学、運動生理学、スポーツ生理学、体育・スポーツの測定と評価、運動と健康（運動処方）、スポーツ医学概論、トレーニング論Ⅰ、Ⅱ、トレーニング実習Ⅰ、Ⅱ

L40501

科　目　名	ｽﾎﾟｰﾂｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
スポーツに関わる仕事の範囲は、今日では非常に多岐に渡るようになった。それぞれの業務の遂行には自らの実技能力や指導力などの専門的スキルだけでなく、マネジメントやプログラミング、マーケティングなどの広範な知識・スキルも求められる。これらの仕事に関わるスキルには、将来職務を遂行していく中で身につけていくものも多いが、学生時代の職場体験等でそのスキルに対する理解を深め、必要性を確認しておくことは非常に有効な学習である。
本講義では、実際にスポーツに関わる職場においてインターンシップを実施することにより、それぞれの職務において求められる専門的なスキルに対する理解を深めるとともに、学生時代に獲得可能な基本的実践スキルの獲得を目指すものである。

〔講義内容〕
1　事前オリエンテーション
2　本実習（7日間以上）
3　事後指導

大学の定めるインターンシップ受け入れ先企業・組織の中から希望する実習先を選びインターンシップを行う。受け入れ可能人数・希望者等の状況により調整を行い実習先を決定する。なお、実習先としては民間フィットネスクラブ（健康産業施設）、社会体育行政組織、社会教育行政組織、公共スポーツ施設、プロスポーツ球団（チーム）等がある。

〔講義のすすめ方〕
事前オリエンテーションから事後指導までを含め、「スポーツインターンシップ日誌」を用いて目標の設定、活動の記録、自己評価等を進めていく。

〔教　　材〕
特になし

〔成績評価の方法・基準〕
現場での取り組み、現場からの評価票の内容、「インターンシップ日誌」の作成状況、事後レポートから総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
健康運動指導士養成校制度での認定科目となもなるが、全ての実習先が健康産業施設等現場実習に対応しているわけではないので、実習先の選択には注意が必要となる。
また、レクリエーション・インストラクター資格取得希望者においては、当該科目は教育実習と共に、レクリエーション実習の認定科目ともなる（インターンシップまたは教育実習を行うものは、レクリエーション実習の履修が必要なくなる）。この場合も、全ての実習先が健康産業施設等現場実習に対応しているわけではないので、実習先の選択には注意が必要となる。
上記二つの資格に関連した実習先の選別・調整はオリエンテーション時に行う。なお、今年度も、実習先の確保のため、３０名までに履修人数の制限を行う。

〔科目内容の位置付け〕
要件を満たす実習先に関しては、健康運動指導士養成校制度での健康産業施設等現場実習に置き換える。
（主たる要件）
・民間フィットネスクラブ等の健康産業施設
・実習期間７日間以上
・有資格者による実習指導（健康運動指導士）
・プログラム作成、運動指導等、一定の実習内容を含むこと

同様に要件を満たす実習先に関しては、レクリエーション・インストラクター養成校制度でのレクリエーション実習に置き換える。
（主たる要件）
・スポーツやレクリエーションに関わる民間（企業の）施設の他、公共スポーツ施設や財団法人等の施設
・受け入れ先の実習担当者による実習指導があること
・施設利用者やプログラム参加者等とのコミュニケーションを図る場面が設定されていること

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育・スポーツ実践事例研究（前提科目）

L41001

科　目　名	専門演習 A1
教　員　名	内山　須美子

〔講義目的〕
　あなたが、社会の中でリーダーとなった時、構成員のモチベーションをあげることができたら、その人は、勝手にぐんぐん伸びていきます。できなければ誰もついてきません。どうしたら、人のモチベーションをあげることができるのでしょうか？
　教師になっても、コーチになっても、インストラクターになっても、母親になっても、父親になっても、営業職に就いても・・・何になるとしても、いかにして相手のモチベーションをあげるかを学んでおけば、必ずどこかで役立ちます。それを皆で学びましょう。

〔講義内容〕
　モチベーションについての本は、本屋さんにはたくさんあります。スポーツ関係の優秀なコーチのものも数多く出ています。それだけ、モチベーションについては世間の関心が高いのでしょう。たくさんの本の中から、自分が読んでみたい本を一冊選んでレポートをまとめてみる。それが演習の内容です。

〔講義のすすめ方〕
初回は受講生全員を対象に説明を行います。
その後、各自で資料を収集し、発表や、討議を通して、レポートを作成します。

〔教　　材〕
特に指定はしません。演習の中で紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
出席とレポートなどを総合的に判断します。

〔履修のポイント・注意点〕
自ら学ぶ姿勢を持つこと。

L41002

科　目　名	専門演習 A1
教　員　名	金田　健史

〔講義目的〕
専門演習では，これまで履修してきた生理学，運動生理学，スポーツ生理学の知識を深めるとともに，授業内で紹介した色々な知識や各種の測定・実験を実施する上で必要な基礎知識，注意事項を理解する．また，実際に測定機器を用いて測定を実施することから，その方法やデータの読み取り方を演習する．

だれしもが日々の生活の中や運動経験の中で「なぜ？」「どうして？」といった疑問を感じる機会は少なからずあると思うが，その疑問を解決したり，その疑問から新たな発見や課題をみつけたりするなどということまでおこなうことができる者は少ない．実社会やスポーツ指導の現場などに進んでいく者にとって，このような姿勢や意識をもっていうことはとても重要で，しかもその人の魅力を高めてくれるものであると思われる．これまで経験してきた与えられる授業から，専門演習では自ら獲得していく授業へと意識を切り替えて臨んでもらいたい．

〔講義内容〕
1．授業内容の説明，グループ決め，テーマ決め
2．運動生理学データの分析方法演習①
3．運動生理学データの分析方法演習②
4．実験計画作成方法，および注意点①
5．実験計画作成方法，および注意点②
6．データ測定演習①血中乳酸値の測定
7．データ測定演習②安静時心拍数と最大心拍数
8．データ測定演習③筋電図，心電図
9．データ測定演習④脳波（1）
10．データ測定演習⑤脳波（2）
11．データの入力，分析方法①
12．データの入力，分析方法，図表の作成②
13．統計ソフトを用いたデータ分析①
14．統計ソフトを用いたデータ分析②
15．まとめ

〔講義のすすめ方〕
授業内ではパソコン室における実習，実験室における実験などを中心におこなうが，各個人の研究テーマを決める作業を授業時間以外にも用意する．研究テーマおよび研究内容の発表会などもおこなう予定である．

〔教　　材〕
特になし．

〔成績評価の方法・基準〕
出席とレポート

〔履修のポイント・注意点〕
専門演習 AB では，前期，後期のいずれにおいても同内容の専門的な知識について学んでいくため，いずれかの該当する時間割での受講が望ましいが，受講者人数が多い場合には人数調整をおこなうことがある．

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究受講のための前提科目である．専門演習 AB において，運動生理学分野に興味をもったテーマについて卒業研究を進めていく上で基礎となる内容である．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生理学、運動生理学，スポーツ生理学

L41003

科　目　名	専門演習 A1
教　員　名	近藤　智靖

〔**講義目的**〕
本専門演習の目的は、体育科教育学の基礎知識を深めることである。

〔**講義内容**〕
２年次の保健体育科教育法で学んだ内容をさらに深め、専門的な内容を学習する。特に体育科教育の目的・運動領域論・教材教具論といった内容をテキスト中心に行っていく。15回の授業は次の通りである。

1 オリエンテーション
2 体育科教育学の性格と領域
3 体育科はどのような教科か・選択制授業と男女共習授業の進め方
4 学習主体について知る・学習カードモデル
5 目標論・体力を高める運動の授業作り
6 運動領域論・体ほぐしの授業作り
7 教材教具論・器械運動の授業作り
8 学習形態論・武道の授業作り
9 指導技術論・ネット型ゲームの授業作り
10 評価論・進入方ゲームの教材作り
11 卒業研究に関わっての先行研究の検討①
12 卒業研究に関わっての先行研究の検討②
13 卒業研究に関わっての先行研究の検討③
14 卒業研究に関わっての先行研究の検討④
15 まとめ

〔**講義のすすめ方**〕
毎週担当者を決め、内容についての要約・発表・質疑を行う。

〔**教　　材**〕
高橋健夫・岡出美則著「体育科教育学入門」（大修館書店）

〔**成績評価の方法・基準**〕
出席（30％）、要約・発表・質疑など（70％）を総合的に判断して行う。

〔**履修のポイント・注意点**〕
教職を志すからという理由だけで本演習を履修することは勧めません。教職を志すという理由であれば、他の専門演習でも十分にその意味を果たしていると考えます。本演習では、「体育科教育学」という学問に関心のある学生に集まってもらいたいと考えています。そのため、教育実習ですぐに役立つことは学べないと考えておいた方が良いです。また、部活や仲間で誘い合って集まるのはやめてください。

〔**科目内容の位置付け**〕
卒業研究に繋がる科目と考える。

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
保健体育科教育法、教育実習事前事後指導と関連がある。

L41004

科　目　名	専門演習 A1
教　員　名	齋藤　一人

〔講義目的〕
様々な活動現場における指導実践を行うために、コーチ学研究の立場や指導者の視点に立ち、指導するために必要な知識・技術論・指導法・コミュニケーション能力等を個々のテーマに応じて学習する。そこで、今後の自らの実践活動に対して、積極的な関与ができるような活動の方法論等を見つけだし、議論等により知識を深め興味を絞っていくことを目的とする。

〔講義内容〕
・チームスポーツ（ボールゲーム）・野外運動の指導実践に関する内容
（指導現場の実践活動に関する運営＜チームマネジメント＞、科学的分析、戦略・戦術・技術・指導法等についてコーチ学、指導論、方法論の立場からのアプローチ）
・一貫指導に関する内容
（幼児期・児童期からの知的能力開発・育成・支援に関するもの）

〔講義のすすめ方〕
講義の中で、指導現場での実践活動に向けての指導能力を身につける。実践もしくは他者への指導法における実践活動を対象として、そこで生じた課題や問題点について掘り下げ、問題解決型あるいは問題提起型の課題研究としてまとめる。
①オリエンテーション
②コーチの資質について
③論文・著書・映像を通じての学習及び研究
④実践活動の実施計画について
⑤研究調査方法について
⑥グループ討議および事前準備
⑦リーダー論について

〔教　　材〕
特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席、レポート、総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
学生相互間、教師と学生との緊密なコミュニケーションが重要なので、特に出席が重視されます。

〔科目内容の位置付け〕
より充実した学業・学生生活や将来の専門研究活動（卒業研究）への導入としての基礎研究として位置づけられます。

L41005

科　目　名	専門演習 A1
教　員　名	齊藤　武利

〔講義目的〕
・学校教育現場における様々な運動様式（特にボールゲーム）について、科学的視点を持って分析するために、体力、技術、メンタル、戦術面など様々な角度からスポーツを捕らえ、指導者の視点に立って課題を見つけだし、検討する。

・スポーツ医・科学分野における様々な評価の方法等に言及し、メディカルチェックの意義や方法、体力測定の方法（特に、筋力測定やフィールドテスト）について、実際のＤＡＴＡを基に、活用方法等について検討する。

〔講義内容〕
自分の興味のある競技や運動種目やその他、スポーツに関する科学的領域に視点を当て、知識を深め、自分自身の課題を探すために、方法論の検討や議論も行う。
主な課題
・スポーツ最前線のトピックスを探る。
・スポーツを支える人々の活動について
・スポーツ医学の最前線
・オリンピックなどエリートスポーツ選手の活動とそのサポートシステムについて
・団体スポーツのテクニカル活動について
・ボールゲームにおける情報戦略活動の実際について
・ボールゲームにおけるゲーム分析とその応用について
・ボールゲームにおけるテクニカルコーチ、コンディショニングコーチの役割について
・その他

〔教　　材〕
特別に、教科書等は指定しない。ただし、個人の課題が明確に選定された場合は、個人の課題研究領域によっては、参考図書を指定し、研究を進める。
　個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

〔成績評価の方法・基準〕
全体の２／３以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。個人発表やディスカッションも行うため、授業の導入は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。
成績の評価基準
出席　30％
テストおよびレポート　30％
小レポートや各種課題の提出　30％
その他総合評価　10％

〔履修のポイント・注意点〕
参加する学生は、自分が積極的に参加し、自らが興味のある課題を探求しようとして参加すること。学期の中途で履修を放棄することのないように積極的に参画すること。

〔科目内容の位置付け〕
スポーツ

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
運動生理学、トレーニング論Ⅰ、トレーニング論Ⅱを受講しておいた方が、よい。

L41006

科　目　名	専門演習 A1
教　員　名	竹島　克己

〔講義目的〕
　スポーツや健康に関する研究分野には様々なものがある。スポーツや健康に関しての研究は、測定・調査・分析・文献研究などを組み合わせ、独自性のあるものが多い。3年次には卒業研究をどの様なテーマで行うかなかなか決まらないであろう。本専門演習ではスポーツや健康に関して科学的な視点を持ち、スポーツや健康に関する知識を高めてほしい。各自の研究の足がかりとして下記のような講義内容によって授業を進めていく。短期間ではあるが、資料を読み、まとめる経験を積んでもらいたい。

〔講義内容〕
　特に次の3点に着目して授業を進めていく。
1．スポーツにおける自己実現。
2．スポーツにおける基本。
3．トレーニングの研究、特に持久力について。
　スポーツ選手は、トレーニングも大事であるが、その動機づけが非常に大事である。それを誤ったために選手生活を無為なものにしてしまったり、指導者では選手に充実感を与えることができなかったりすることがある。何のためにスポーツを行なうのか、大義名分がどうしても必要である。それは個人によって異なる。スポーツにおける自己実現とは何か考えてみる。スポーツは基本を大事にしなければならない。その基本とは何をさすのか。基本には深い意味がある。基本を深く追求してみたい。スポーツは体力がなければ勝つことは難しい。持久力も大事な要素である。強く、正確な動作を相手より長く続けられる者が勝利を手にすることができる。持久力を中心に、トレーニングで体がどのように変化するか関心を持ってもらいたい。

〔講義のすすめ方〕
1．オリエンテーションで、講義の方向性を確認する。
2．課題に沿った資料を集める。
3．資料を読み、課題ごとに自分の考えをまとめる。
4．課題ごとのレポートを提出し、評価を受ける。

〔教　　材〕
　図書、新聞、インターネット、新聞、雑誌など。各種測定器具による実験。

〔成績評価の方法・基準〕
1．レポートの評価。
2．参加度。

〔履修のポイント・注意点〕
　日頃から問題意識や好奇心を持ってスポーツや健康に注目してほしい。自分自身の関心事が研究の対象となる。問題意識が様々な工夫につながり、スポーツ技術の向上につながり、健康に対する意識づけとなる。スポーツが好きで、健康への関心が人一倍強いスポーツ人、体育人になってほしい。

L41007

科　目　名	専門演習 A1
	スポーツマネジメント・経営調査専門演習
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
本専門演習は、スポーツマネジメントについて、中でも経営調査の手法を学ぶことを中心に据えて、内容を構成していく。
スポーツ経営とは、人々のスポーツへの接近行動の成立・維持・発展を目的とした組織的な営みである。具体的には経営資源を調達し、各種スポーツ事業を効率よく進めていく活動といえる。これら経営活動の効率性に関わる概念がスポーツのマネジメントであり、その効率性を測定・把握する方法が経営調査ということになる。
本専門演習では、以上のようなスポーツ経営やスポーツマネジメントの概念の理解を出発点に、質問紙調査等各種調査の手法や、コンピュータを使ったデータの解析方法等を学んでいく。

〔講義内容〕
各回の内容は以下の通りである。
①オリエンテーション
②スポーツ経営の基礎理論演習 (1) スポーツ経営の概念と構造
③スポーツ経営の基礎理論演習 (2) スポーツ生活の捉え方とスポーツ事業
④調査テーマ設定のためのグループワーク演習 (1)
⑤調査テーマ設定のためのグループワーク演習 (2)
⑥調査法入門　概念の操作化と尺度の設定方法
⑦調査票作成演習 (1)
⑧調査票作成演習 (2)
⑨調査データの入力（コーディング）方法
⑩統計ソフトを用いたデータ解析演習 (1)
⑪統計ソフトを用いたデータ解析演習 (2)
⑫統計ソフトを用いたデータ解析演習 (3)
⑬調査結果のまとめ方と分析レポートの作成方法
⑭予備日（予定通り進んだ場合は「分析レポート発表会」）
※上記の内容を中心に進めるが、進捗状況等によって多少変更する場合もある。

〔講義のすすめ方〕
上記の講義内容で進める。

〔教　　材〕
八代勉・中村平編著「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店 を指定テキストとする。前半の演習はこのテキストの内容を中心に進めていく。
この他、適宜資料を配付する。

〔成績評価の方法・基準〕
平常の授業への取り組みと分析レポートの成果から総合的に評価する。

〔科目内容の位置付け〕
本専門演習の履修・単位取得をしていることが、４年次の卒業研究（藤井和彦担当）履修の条件となる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育・スポーツ経営学　スポーツ社会学　スポーツ行政論　体育・スポーツ実践事例研究　等を履修していることが望ましい。

L41008

科　目　名	専門演習 A1
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
人間の行動や行為の根幹をなす「身体知」に関する現象学的人間学的理解を深め、各種スポーツ運動の〈覚える－覚えさせる〉関係系の中で、どのように身体知が形成されるのか、また人間の身体知はどのような〈知恵〉として構成されるのかを、金子明友著『身体知の形成（下)』の講読を通じて、身体知を現象学的人間学的に理解する。具体的には、コツを創発するための身体知について探求することとする。
人間は、誕生から老年に致るまで、常に身体知を駆使して、スポーツや日常生活、労働や表現運動を生み出し実現していく存在である。豊かな人生を送るためにも、この身体知が限り無く形成されるべきでその意味でも、指導者の役割は大きい。

〔講義内容〕
身体知は、いいかえれば〈身体で覚える〉という表現に如実に示されている。いまここに息づいて動きつつ感じ、感じつつ動く身体が形成され、運動と感覚が一体となっている世界に身を置くことができることである。
この身体知の形成を理解することで新たな指導者としての指導の有り方が理解され、指導者としての自己の能力を向上させられるようになるよう、促発身体知の構成化能力を、学生がこれまでに経験にしたスポーツ種目に関して分析することを中心的な課題とする。現在自分が持っている動感素材化身体知である観察能力、交信能力、代行能力を具体的に話題として提供し、動感処方化身体知としての道しるべ構成化能力、呈示構成化能力、起点構成化能力などにどのように生かすかを検討していく。

〔講義のすすめ方〕
ゼミ参加者を対象に、相互に色々な指導方法を検証し、実際の指導場面を VTR 撮影するなど分析能力の向上を計る。

〔教　　材〕
金子明友著『身体知の形成（下)』をテキストとして使用する。

〔成績評価の方法・基準〕
上記の内容をレポートとして提供する。
また、パワーポイント等の発表手段を使いこなせるようになってほしい。

〔履修のポイント・注意点〕
自己研究のテーマが設定できるよう、いくつかの運動について分析を試みる。
分担を責任持って果たすこと。

〔科目内容の位置付け〕
卒業論文成作の第一歩と位置づける。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
運動学Ⅰ、運動学Ⅱ

L41101

科　目　名	専門演習 A2
教　員　名	内山　須美子

〔講義目的〕
　あなたが、社会の中でリーダーとなった時、構成員のモチベーションをあげることができたら、その人は、勝手にぐんぐん伸びていきます。できなければ誰もついてきません。どうしたら、人のモチベーションをあげることができるのでしょうか？
　教師になっても、コーチになっても、インストラクターになっても、母親になっても、父親になっても、営業職に就いても・・・何になるとしても、いかにして相手のモチベーションをあげるかを学んでおけば、必ずどこかで役立ちます。それを皆で学びましょう。

〔講義内容〕
　モチベーションについての本は、本屋さんにはたくさんあります。スポーツ関係の優秀なコーチのものも数多く出ています。それだけ、モチベーションについては世間の関心が高いのでしょう。たくさんの本の中から、自分が読んでみたい本を一冊選んでレポートをまとめてみる。それが演習の内容です。

〔講義のすすめ方〕
初回は受講生全員を対象に説明を行います。
その後、各自で資料を収集し、発表や、討議を通して、レポートを作成します。

〔教　　材〕
特に指定はしません。演習の中で紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
出席とレポートなどを総合的に判断します。

〔履修のポイント・注意点〕
自ら学ぶ姿勢を持つこと。

L41102

科　目　名	専門演習 A2
教　員　名	金田　健史

〔講義目的〕
　専門演習では，これまで履修してきた生理学，運動生理学，スポーツ生理学の知識を深めるとともに，授業内で紹介した色々な知識や各種の測定・実験を実施する上で必要な基礎知識，注意事項を理解する．また，実際に測定機器を用いて測定を実施することから，その方法やデータの読み取り方を演習する．
　だれしもが日々の生活の中や運動経験の中で「なぜ？」「どうして？」といった疑問を感じる機会は少なからずあると思うが，その疑問を解決したり，その疑問から新たな発見や課題をみつけたりするなどということまでおこなうことができる者は少ない．実社会やスポーツ指導の現場などに進んでいく者にとって，このような姿勢や意識をもっていうことはとても重要で，しかもその人の魅力を高めてくれるものであると思われる．これまで経験してきた与えられる授業から，専門演習では自ら獲得していく授業へと意識を切り替えて臨んでもらいたい．

〔講義内容〕
1．授業内容の説明，グループ決め，テーマ決め
2．運動生理学データの分析方法演習①
3．運動生理学データの分析方法演習②
4．実験計画作成方法，および注意点①
5．実験計画作成方法，および注意点②
6．データ測定演習①血中乳酸値の測定
7．データ測定演習②安静時心拍数と最大心拍数
8．データ測定演習③筋電図，心電図
9．データ測定演習④脳波（1）
10．データ測定演習⑤脳波（2）
11．データの入力，分析方法①
12．データの入力，分析方法，図表の作成②
13．統計ソフトを用いたデータ分析①
14．統計ソフトを用いたデータ分析②
15．まとめ

〔講義のすすめ方〕
授業内ではパソコン室における実習，実験室における実験などを中心におこなうが，各個人の研究テーマを決める作業を授業時間以外にも用意する．研究テーマおよび研究内容の発表会などもおこなう予定である．

〔教　　材〕
特になし．

〔成績評価の方法・基準〕
出席とレポート

〔履修のポイント・注意点〕
　専門演習 AB では，前期，後期のいずれにおいても同内容の専門的な知識について学んでいくため，いずれかの該当する時間割での受講が望ましいが，受講者人数が多い場合には人数調整をおこなうことがある．

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究受講のための前提科目である．専門演習 AB において，運動生理学分野に興味をもったテーマについて卒業研究を進めていく上で基礎となる内容である．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生理学，運動生理学，スポーツ生理学

L41103

科　目　名	専門演習 A2
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
本専門演習の目的は、体育科教育学の基礎知識を深めることである。

〔講義内容〕
２年次の保健体育科教育法で学んだ内容をさらに深め、専門的な内容を学習する。特に体育科教育の目的・運動領域論・教材教具論といった内容をテキスト中心に行っていく。15回の授業は次の通りである。

1 オリエンテーション
2 体育科教育学の性格と領域
3 体育科はどのような教科か・選択制授業と男女共習授業の進め方
4 学習主体について知る・学習カードモデル
5 目標論・体力を高める運動の授業作り
6 運動領域論・体ほぐしの授業作り
7 教材教具論・器械運動の授業作り
8 学習形態論・武道の授業作り
9 指導技術論・ネット型ゲームの授業作り
10 評価論・進入方ゲームの教材作り
11 卒業研究に関わっての先行研究の検討①
12 卒業研究に関わっての先行研究の検討②
13 卒業研究に関わっての先行研究の検討③
14 卒業研究に関わっての先行研究の検討④
15 まとめ

〔講義のすすめ方〕
毎週担当者を決め、内容についての要約・発表・質疑を行う。

〔教　　材〕
高橋健夫・岡出美則著「体育科教育学入門」（大修館書店）

〔成績評価の方法・基準〕
出席（30％）、要約・発表・質疑など（70％）を総合的に判断して行う。

〔履修のポイント・注意点〕
教職を志すからという理由だけで本演習を履修することは勧めません。教職を志すという理由であれば、他の専門演習でも十分にその意味を果たしていると考えます。本演習では、「体育科教育学」という学問に関心のある学生に集まってもらいたいと考えています。そのため、教育実習ですぐに役立つことは学べないと考えておいた方が良いです。また、部活や仲間で誘い合って集まるのはやめてください。

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究に繋がる科目と考える。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保健体育科教育法、教育実習事前事後指導と関連がある。

L41104

科　目　名	専門演習 A2
教　員　名	齋藤　一人

〔講義目的〕
様々な活動現場における指導実践を行うために、コーチ学研究の立場や指導者の視点に立ち、指導するために必要な知識・技術論・指導法・コミュニケーション能力等を個々のテーマに応じて学習する。そこで、今後の自らの実践活動に対して、積極的な関与ができるような活動の方法論等を見つけだし、議論等により知識を深め興味を絞っていくことを目的とする。

〔講義内容〕
・チームスポーツ（ボールゲーム）・野外運動の指導実践に関する内容
（指導現場の実践活動に関する運営＜チームマネジメント＞、科学的分析、戦略・戦術・技術・指導法等についてコーチ学、指導論、方法論の立場からのアプローチ）
・一貫指導に関する内容
（幼児期・児童期からの知的能力開発・育成・支援に関するもの）

〔講義のすすめ方〕
講義の中で、指導現場での実践活動に向けての指導能力を身につける。実践もしくは他者への指導法における実践活動を対象として、そこで生じた課題や問題点について掘り下げ、問題解決型あるいは問題提起型の課題研究としてまとめる。
①オリエンテーション
②コーチの資質について
③論文・著書・映像を通じての学習及び研究
④実践活動の実施計画について
⑤研究調査方法について
⑥グループ討議および事前準備
⑦リーダー論について

〔教　　材〕
特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席、レポート、総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
学生相互間、教師と学生との緊密なコミュニケーションが重要なので、特に出席が重視されます。

〔科目内容の位置付け〕
より充実した学業・学生生活や将来の専門研究活動（卒業研究）への導入としての基礎研究として位置づけられます。

L41105

科　目　名	専門演習 A2
教　員　名	齊藤　武利

〔講義目的〕
・学校教育現場における様々な運動様式（特にボールゲーム）について、科学的視点を持って分析するために、体力、技術、メンタル、戦術面など様々な角度からスポーツを捕らえ、指導者の視点に立って課題を見つけだし、検討する。

・スポーツ医・科学分野における様々な評価の方法等に言及し、メディカルチェックの意義や方法、体力測定の方法（特に、筋力測定やフィールドテスト）について、実際のＤＡＴＡを基に、活用方法等について検討する。

〔講義内容〕
自分の興味のある競技や運動種目やその他、スポーツに関する科学的領域に視点を当て、知識を深め、自分自身の課題を探すために、方法論の検討や議論も行う。
主な課題
・スポーツ最前線のトピックスを探る。
・スポーツを支える人々の活動について
・スポーツ医・科学の最前線
・オリンピックなどエリートスポーツ選手の活動とそのサポートシステムについて
・団体スポーツのテクニカル活動について
・ボールゲームにおける情報戦略活動の実際について
・ボールゲームにおけるゲーム分析とその応用について
・ボールゲームにおけるテクニカルコーチ、コンディショニングコーチの役割について
・その他

〔講義のすすめ方〕
特別に、教科書等は指定しない。ただし、個人の課題が明確に選定された場合は、個人の課題研究領域によっては、参考図書を指定し、研究を進める。
　個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

〔成績評価の方法・基準〕
全体の２／３以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。個人発表やディスカッションも行うため、授業の導入は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。
成績の評価基準
出席　30％
テストおよびレポート　30％
小レポートや各種課題の提出　30％
その他総合評価　10％

〔履修のポイント・注意点〕
参加する学生は、自分が積極的に参加し、自らが興味のある課題を探求しようとして参加すること。学期の中途で履修を放棄することのないように積極的に参画すること。

L41106

科　目　名	専門演習 A2
教　員　名	竹島　克己

〔講義目的〕
スポーツや健康に関する研究分野には様々なものがある。スポーツや健康に関しての研究は、測定・調査・分析・文献研究などを組み合わせ、独自性のあるものが多い。3年次には卒業研究をどの様なテーマで行うかなかなか決まらないであろう。本専門演習ではスポーツや健康に関して科学的な視点を持ち、スポーツや健康に関する知識を高めてほしい。各自の研究の足がかりとして下記のような講義内容によって授業を進めていく。短期間ではあるが、資料を読み、まとめる経験を積んでもらいたい。

〔講義内容〕
　特に次の3点に着目して授業を進めていく。
1．スポーツにおける自己実現。
2．スポーツにおける基本。
3．トレーニングの研究、特に持久力について。
　スポーツ選手は、トレーニングも大事であるが、その動機づけが非常に大事である。それを誤ったために選手生活を無為なものにしてしまったり、指導者では選手に充実感を与えることができなかったりすることがある。何のためにスポーツを行なうのか、大義名分がどうしても必要である。それは個人によって異なる。スポーツにおける自己実現とは何か考えてみる。スポーツは基本を大事にしなければならない。その基本とは何をさすのか。基本には深い意味がある。基本を深く追求してみたい。スポーツは体力がなければ勝つことは難しい。持久力も大事な要素である。強く、正確な動作を相手より長く続けられる者が勝利を手にすることができる。持久力を中心に、トレーニングで体がどのように変化するか関心を持ってもらいたい。

〔講義のすすめ方〕
1．オリエンテーションで、講義の方向性を確認する。
2．課題に沿った資料を集める。
3．資料を読み、課題ごとに自分の考えをまとめる。
4．課題ごとのレポートを提出し、評価を受ける。

〔教　　材〕
図書、新聞、インターネット、新聞、雑誌など。
各種測定器具による実験。

〔成績評価の方法・基準〕
1．レポートの評価。
2．参加度。

〔履修のポイント・注意点〕
日頃から問題意識や好奇心を持ってスポーツや健康に注目してほしい。自分自身の関心事が研究の対象となる。問題意識が様々な工夫につながり、スポーツ技術の向上につながり、健康に対する意識づけとなる。スポーツが好きで、健康への関心が人一倍強いスポーツ人、体育人になってほしい。

L41107

科　目　名	専門演習 A2
	スポーツマネジメント・経営調査専門演習
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
本専門演習は、スポーツマネジメントについて、中でも経営調査の手法を学ぶことを中心に据えて、内容を構成していく。
スポーツ経営とは、人々のスポーツへの接近行動の成立・維持・発展を目的とした組織的な営みである。具体的には経営資源を調達し、各種スポーツ事業を効率よく進めていく活動といえる。これら経営活動の効率性に関わる概念がスポーツのマネジメントであり、その効率性を測定・把握する方法が経営調査ということになる。
本専門演習では、以上のようなスポーツ経営やスポーツマネジメントの概念の理解を出発点に、質問紙調査等各種調査の手法や、コンピュータを使ったデータの解析方法等を学んでいく。

〔講義内容〕
各回の内容は以下の通りである。
①オリエンテーション
②スポーツ経営の基礎理論演習 (1) スポーツ経営の概念と構造
③スポーツ経営の基礎理論演習 (2) スポーツ生活の捉え方とスポーツ事業
④調査テーマ設定のためのグループワーク演習 (1)
⑤調査テーマ設定のためのグループワーク演習 (2)
⑥調査法入門　概念の操作化と尺度の設定方法
⑦調査票作成演習 (1)
⑧調査票作成演習 (2)
⑨調査データの入力（コーディング）方法
⑩統計ソフトを用いたデータ解析演習 (1)
⑪統計ソフトを用いたデータ解析演習 (2)
⑫統計ソフトを用いたデータ解析演習 (3)
⑬調査結果のまとめ方と分析レポートの作成方法
⑭予備日（予定通り進んだ場合は「分析レポート発表会」）
※上記の内容を中心に進めるが、進捗状況等によって多少変更する場合もある。

〔講義のすすめ方〕
上記の講義内容で進める。

〔教　　材〕
八代勉・中村平編著「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店 を指定テキストとする。前半の演習はこのテキストの内容を中心に進めていく。
この他、適宜資料を配付する。

〔成績評価の方法・基準〕
平常の授業への取り組みと分析レポートの成果から総合的に評価する。

〔科目内容の位置付け〕
本専門演習の履修・単位取得をしていることが、４年次の卒業研究（藤井和彦担当）履修の条件となる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育・スポーツ経営学　スポーツ社会学　スポーツ行政論　体育・スポーツ実践事例研究　等を履修していることが望ましい。

L41108

科　目　名	専門演習 A2
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
人間の行動や行為の根幹をなす「身体知」に関する現象学的人間学的理解を深め、各種スポーツ運動の〈覚える－覚えさせる〉関係系の中で、どのように身体知が形成されるのか、また人間の身体知はどのような〈知恵〉として構成されるのかを、金子明友著『身体知の形成（下)』の講読を通じて、身体知を現象学的人間学的に理解する。具体的には、コツを創発するための身体知について探求することとする。
人間は、誕生から老年に致るまで、常に身体知を駆使して、スポーツや日常生活、労働や表現運動を生み出し実現していく存在である。豊かな人生を送るためにも、この身体知が限り無く形成されるべきでその意味でも、指導者の役割は大きい。

〔講義内容〕
身体知は、いいかえれば〈身体で覚える〉という表現に如実に示されている。いまここに息づいて動きつつ感じ、感じつつ動く身体が形成され、運動と感覚が一体となっている世界に身を置くことができることである。
この身体知の形成を理解することで新たな指導者としての指導の有り方が理解され、指導者としての自己の能力を向上させられるようになるよう、促発身体知の構成化能力を、学生がこれまでに経験にしたスポーツ種目に関して分析することを中心的な課題とする。現在自分が持っている動感素材化身体知である観察能力、交信能力、代行能力を具体的に話題として提供し、動感処方化身体知としての道しるべ構成化能力、呈示構成化能力、起点構成化能力などにどのように生かすかを検討していく。

〔講義のすすめ方〕
ゼミ参加者を対象に、相互に色々な指導方法を検証し、実際の指導場面を VTR 撮影するなど分析能力の向上を計る。

〔教　　材〕
金子明友著『身体知の形成（下)』をテキストとして使用する。

〔成績評価の方法・基準〕
上記の内容をレポートとして提供する。
また、パワーポイント等の発表手段を使いこなせるようになってほしい。

〔履修のポイント・注意点〕
自己研究のテーマが設定できるよう、いくつかの運動について分析を試みる。
分担を責任持って果たすこと。

〔科目内容の位置付け〕
卒業論文成作の第一歩と位置づける。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
運動学Ⅰ、運動学Ⅱ

L41501

科　目　名	専門演習 B1
教　員　名	内山　須美子

〔講義目的〕
　あなたが、社会の中でリーダーとなった時、構成員のモチベーションをあげることができたら、その人は、勝手にぐんぐん伸びていきます。できなければ誰もついてきません。どうしたら、人のモチベーションをあげることができるのでしょうか？
　教師になっても、コーチになっても、インストラクターになっても、母親になっても、父親になっても、営業職に就いても・・・何になるとしても、いかにして相手のモチベーションをあげるかを学んでおけば、必ずどこかで役立ちます。それを皆で学びましょう。

〔講義内容〕
　モチベーションについての本は、本屋さんにはたくさんあります。スポーツ関係の優秀なコーチのものも数多く出ています。それだけ、モチベーションについては世間の関心が高いのでしょう。たくさんの本の中から、自分が読んでみたい本を一冊選んでレポートをまとめてみる。それが演習の内容です。

〔講義のすすめ方〕
初回は受講生全員を対象に説明を行います。
その後、各自で資料を収集し、発表や、討議を通して、レポートを作成します。

〔教　　材〕
特に指定はしません。演習の中で紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
出席とレポートなどを総合的に判断します。

〔履修のポイント・注意点〕
自ら学ぶ姿勢を持つこと。

L41502

科　目　名	専門演習 B1
教　員　名	金田　健史

〔講義目的〕
専門演習では，これまで履修してきた生理学，運動生理学，スポーツ生理学の知識を深めるとともに，授業内で紹介した色々な知識や各種の測定・実験を実施する上で必要な基礎知識，注意事項を理解する．また，実際に測定機器を用いて測定を実施することから，その方法やデータの読み取り方を演習する．

だれしもが日々の生活の中や運動経験の中で「なぜ？」「どうして？」といった疑問を感じる機会は少なからずあると思うが，その疑問を解決したり，その疑問から新たな発見や課題をみつけたりするなどということまでおこなうことができる者は少ない．実社会やスポーツ指導の現場などに進んでいく者にとって，このような姿勢や意識をもっていうことはとても重要で，しかもその人の魅力を高めてくれるものであると思われる．これまで経験してきた与えられる授業から，専門演習では自ら獲得していく授業へと意識を切り替えて臨んでもらいたい．

〔講義内容〕
1．授業内容の説明，グループ決め，テーマ決め
2．運動生理学データの分析方法演習①
3．運動生理学データの分析方法演習②
4．実験計画作成方法，および注意点①
5．実験計画作成方法，および注意点②
6．データ測定演習①血中乳酸値の測定
7．データ測定演習②安静時心拍数と最大心拍数
8．データ測定演習③筋電図，心電図
9．データ測定演習④脳波（1）
10．データ測定演習⑤脳波（2）
11．データの入力，分析方法①
12．データの入力，分析方法，図表の作成②
13．統計ソフトを用いたデータ分析①
14．統計ソフトを用いたデータ分析②
15．まとめ

〔講義のすすめ方〕
授業内ではパソコン室における実習，実験室における実験などを中心におこなうが，各個人の研究テーマを決める作業を授業時間以外にも用意する．研究テーマおよび研究内容の発表会などもおこなう予定である．

〔教　　材〕
特になし．

〔成績評価の方法・基準〕
出席とレポート

〔履修のポイント・注意点〕
専門演習 AB では，前期，後期のいずれにおいても同内容の専門的な知識について学んでいくため，いずれかの該当する時間割での受講が望ましいが，受講者人数が多い場合には人数調整をおこなうことがある．

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究受講のための前提科目である．専門演習 AB において，運動生理学分野に興味をもったテーマについて卒業研究を進めていく上で基礎となる内容である．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生理学、運動生理学，スポーツ生理学

L41503

科　目　名	専門演習 B1
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
本専門演習の目的は、体育科教育学の基礎知識を深めることである。

〔講義内容〕
２年次の保健体育科教育法で学んだ内容をさらに深め、専門的な内容を学習する。特に体育科教育の目的・運動領域論・教材教具論といった内容をテキスト中心に行っていく。15回の授業は次の通りである。

1 オリエンテーション
2 体育科教育学の性格と領域
3 体育科はどのような教科か・選択制授業と男女共習授業の進め方
4 学習主体について知る・学習カードモデル
5 目標論・体力を高める運動の授業作り
6 運動領域論・体ほぐしの授業作り
7 教材教具論・器械運動の授業作り
8 学習形態論・武道の授業作り
9 指導技術論・ネット型ゲームの授業作り
10 評価論・進入方ゲームの教材作り
11 卒業研究に関わっての先行研究の検討①
12 卒業研究に関わっての先行研究の検討②
13 卒業研究に関わっての先行研究の検討③
14 卒業研究に関わっての先行研究の検討④
15 まとめ

〔講義のすすめ方〕
毎週担当者を決め、内容についての要約・発表・質疑を行う。

〔教　　材〕
高橋健夫・岡出美則著「体育科教育学入門」（大修館書店）

〔成績評価の方法・基準〕
出席（30%）、要約・発表・質疑など（70%）を総合的に判断して行う。

〔履修のポイント・注意点〕
教職を志すからという理由だけで本演習を履修することは勧めません。教職を志すという理由であれば、他の専門演習でも十分にその意味を果たしていると考えます。本演習では、「体育科教育学」という学問に関心のある学生に集まってもらいたいと考えています。そのため、教育実習ですぐに役立つことは学べないと考えておいた方が良いです。また、部活や仲間で誘い合って集まるのはやめてください。

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究に繋がる科目と考える。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保健体育科教育法、教育実習事前事後指導と関連がある。

L41504

科　目　名	専門演習 B1
教　員　名	齋藤　一人

〔講義目的〕
様々な活動現場における指導実践を行うために、コーチ学研究の立場や指導者の視点に立ち、指導するために必要な知識・技術論・指導法・コミュニケーション能力等を個々のテーマに応じて学習する。そこで、今後の自らの実践活動に対して、積極的な関与ができるような活動の方法論等を見つけだし、議論等により知識を深め興味を絞っていくことを目的とする。

〔講義内容〕
・チームスポーツ（ボールゲーム）・野外運動の指導実践に関する内容
（指導現場の実践活動に関する運営＜チームマネジメント＞、科学的分析、戦略・戦術・技術・指導法等についてコーチ学、指導論、方法論の立場からのアプローチ）
・一貫指導に関する内容
（幼児期・児童期からの知的能力開発・育成・支援に関するもの）

〔講義のすすめ方〕
講義の中で、指導現場での実践活動に向けての指導能力を身につける。実践もしくは他者への指導法における実践活動を対象として、そこで生じた課題や問題点について掘り下げ、問題解決型あるいは問題提起型の課題研究としてまとめる。
①オリエンテーション
②コーチの資質について
③論文・著書・映像を通じての学習及び研究
④実践活動の実施計画について
⑤研究調査方法について
⑥グループ討議および事前準備
⑦リーダー論について

〔教　　材〕
特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席、レポート、総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
学生相互間、教師と学生との緊密なコミュニケーションが重要なので、特に出席が重視されます。

〔科目内容の位置付け〕
より充実した学業・学生生活や将来の専門研究活動（卒業研究）への導入としての基礎研究として位置づけられます。

L41505

科　目　名	専門演習 B1
教　員　名	齊藤　武利

〔講義目的〕
・学校教育現場における様々な運動様式（特にボールゲーム）について、科学的視点を持って分析するために、体力、技術、メンタル、戦術面など様々な角度からスポーツを捕らえ、指導者の視点に立って課題を見つけだし、検討する。

・スポーツ医・科学分野における様々な評価の方法等に言及し、メディカルチェックの意義や方法、体力測定の方法（特に、筋力測定やフィールドテスト）について、実際のＤＡＴＡを基に、活用方法等について検討する。

〔講義内容〕
自分の興味のある競技や運動種目やその他、スポーツに関する科学的領域に視点を当て、知識を深め、自分自身の課題を探すために、方法論の検討や議論も行う。
主な課題
・スポーツ最前線のトピックスを探る。
・スポーツを支える人々の活動について
・スポーツ医学の最前線
・オリンピックなどエリートスポーツ選手の活動とそのサポートシステムについて
・団体スポーツのテクニカル活動について
・ボールゲームにおける情報戦略活動の実際について
・ボールゲームにおけるゲーム分析とその応用について
・ボールゲームにおけるテクニカルコーチ、コンディショニングコーチの役割について
・その他

〔講義のすすめ方〕
特別に、教科書等は指定しない。ただし、個人の課題が明確に選定された場合は、個人の課題研究領域によっては、参考図書を指定し、研究を進める。
　個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

〔成績評価の方法・基準〕
全体の２／３以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。個人発表やディスカッションも行うため、授業の導入は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。
成績の評価基準
出席　30％
テストおよびレポート　30％
小レポートや各種課題の提出　30％
その他総合評価　10％

〔履修のポイント・注意点〕
参加する学生は、自分が積極的に参加し、自らが興味のある課題を探求しようとして参加すること。学期の中途で履修を放棄することのないように積極的に参画すること。

L41506

科　目　名	専門演習 B1
教　員　名	竹島　克己

〔講義目的〕
スポーツや健康に関する研究分野には様々なものがある。スポーツや健康に関しての研究は、測定・調査・分析・文献研究などを組み合わせ、独自性のあるものが多い。3年次には卒業研究をどの様なテーマで行うかなかなか決まらないであろう。本専門演習ではスポーツや健康に関して科学的な視点を持ち、スポーツや健康に関する知識を高めてほしい。各自の研究の足がかりとして下記のような講義内容によって授業を進めていく。短期間ではあるが、資料を読み、まとめる経験を積んでもらいたい。

〔講義内容〕
　特に次の3点に着目して授業を進めていく。
1．スポーツにおける自己実現。
2．スポーツにおける基本。
3．トレーニングの研究、特に持久力について。
　スポーツ選手は、トレーニングも大事であるが、その動機づけが非常に大事である。それを誤ったために選手生活を無為なものにしてしまったり、指導者では選手に充実感を与えることができなかったりすることがある。何のためにスポーツを行なうのか、大義名分がどうしても必要である。それは個人によって異なる。スポーツにおける自己実現とは何か考えてみる。スポーツは基本を大事にしなければならない。その基本とは何をさすのか。基本には深い意味がある。基本を深く追求してみたい。スポーツは体力がなければ勝つことは難しい。持久力も大事な要素である。強く、正確な動作を相手より長く続けられる者が勝利を手にすることができる。持久力を中心に、トレーニングで体がどのように変化するか関心を持ってもらいたい。

〔講義のすすめ方〕
1．オリエンテーションで、講義の方向性を確認する。
2．課題に沿った資料を集める。
3．資料を読み、課題ごとに自分の考えをまとめる。
4．課題ごとのレポートを提出し、評価を受ける。

〔教　　材〕
図書、新聞、インターネット、新聞、雑誌など。
各種測定器具による実験。

〔成績評価の方法・基準〕
1．レポートの評価。
2．参加度。

〔履修のポイント・注意点〕
日頃から問題意識や好奇心を持ってスポーツや健康に注目してほしい。自分自身の関心事が研究の対象となる。問題意識が様々な工夫につながり、スポーツ技術の向上につながり、健康に対する意識づけとなる。スポーツが好きで、健康への関心が人一倍強いスポーツ人、体育人になってほしい。

L41507

科　目　名	専門演習 B1
	スポーツマネジメント・経営調査専門演習
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
本専門演習は、スポーツマネジメントについて、中でも経営調査の手法を学ぶことを中心に据えて、内容を構成していく。
スポーツ経営とは、人々のスポーツへの接近行動の成立・維持・発展を目的とした組織的な営みである。具体的には経営資源を調達し、各種スポーツ事業を効率よく進めていく活動といえる。これら経営活動の効率性に関わる概念がスポーツのマネジメントであり、その効率性を測定・把握する方法が経営調査ということになる。
本専門演習では、以上のようなスポーツ経営やスポーツマネジメントの概念の理解を出発点に、質問紙調査等各種調査の手法や、コンピュータを使ったデータの解析方法等を学んでいく。

〔講義内容〕
各回の内容は以下の通りである。
①オリエンテーション
②スポーツ経営の基礎理論演習 (1) スポーツ経営の概念と構造
③スポーツ経営の基礎理論演習 (2) スポーツ生活の捉え方とスポーツ事業
④調査テーマ設定のためのグループワーク演習 (1)
⑤調査テーマ設定のためのグループワーク演習 (2)
⑥調査法入門　概念の操作化と尺度の設定方法
⑦調査票作成演習 (1)
⑧調査票作成演習 (2)
⑨調査データの入力（コーディング）方法
⑩統計ソフトを用いたデータ解析演習 (1)
⑪統計ソフトを用いたデータ解析演習 (2)
⑫統計ソフトを用いたデータ解析演習 (3)
⑬調査結果のまとめ方と分析レポートの作成方法
⑭予備日（予定通り進んだ場合は「分析レポート発表会」）
※上記の内容を中心に進めるが、進捗状況等によって多少変更する場合もある。

〔講義のすすめ方〕
上記の講義内容で進める。

〔教　　材〕
八代勉・中村平編著「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店 を指定テキストとする。前半の演習はこのテキストの内容を中心に進めていく。
この他、適宜資料を配付する。

〔成績評価の方法・基準〕
平常の授業への取り組みと分析レポートの成果から総合的に評価する。

〔科目内容の位置付け〕
本専門演習の履修・単位取得をしていることが、４年次の卒業研究（藤井和彦担当）履修の条件となる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育・スポーツ経営学　スポーツ社会学　スポーツ行政論　体育・スポーツ実践事例研究　等を履修していることが望ましい。

L41508

科　目　名	専門演習 B1
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
人間の行動や行為の根幹をなす「身体知」に関する現象学的人間学的理解を深め、各種スポーツ運動の〈覚える－覚えさせる〉関係系の中で、どのように身体知が形成されるのか、また人間の身体知はどのような〈知恵〉として構成されるのかを、金子明友著『身体知の形成（下)』の講読を通じて、身体知を現象学的人間学的に理解する。具体的には、コツを創発するための身体知について探求することとする。
人間は、誕生から老年に致るまで、常に身体知を駆使して、スポーツや日常生活、労働や表現運動を生み出し実現していく存在である。豊かな人生を送るためにも、この身体知が限り無く形成されるべきでその意味でも、指導者の役割は大きい。

〔講義内容〕
身体知は、いいかえれば〈身体で覚える〉という表現に如実に示されている。いまここに息づいて動きつつ感じ、感じつつ動く身体が形成され、運動と感覚が一体となっている世界に身を置くことができることである。
この身体知の形成を理解することで新たな指導者としての指導の有り方が理解され、指導者としての自己の能力を向上させられるようになるよう、促発身体知の構成化能力を、学生がこれまでに経験にしたスポーツ種目に関して分析することを中心的な課題とする。現在自分が持っている動感素材化身体知である観察能力、交信能力、代行能力を具体的に話題として提供し、動感処方化身体知としての道しるべ構成化能力、呈示構成化能力、起点構成化能力などにどのように生かすかを検討していく。

〔講義のすすめ方〕
ゼミ参加者を対象に、相互に色々な指導方法を検証し、実際の指導場面を VTR 撮影するなど分析能力の向上を計る。

〔教　　材〕
金子明友著『身体知の形成（下)』をテキストとして使用する。

〔成績評価の方法・基準〕
上記の内容をレポートとして提供する。
また、パワーポイント等の発表手段を使いこなせるようになってほしい。

〔履修のポイント・注意点〕
自己研究のテーマが設定できるよう、いくつかの運動について分析を試みる。
分担を責任持って果たすこと。

〔科目内容の位置付け〕
卒業論文のテーマ決定、卒業論文作成へと順次進められるよう努力する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
運動学Ⅰ、運動学Ⅱ

L41601

科　目　名	専門演習 B2
教　員　名	内山　須美子

〔講義目的〕
　あなたが、社会の中でリーダーとなった時、構成員のモチベーションをあげることができたら、その人は、勝手にぐんぐん伸びていきます。できなければ誰もついてきません。どうしたら、人のモチベーションをあげることができるのでしょうか？
　教師になっても、コーチになっても、インストラクターになっても、母親になっても、父親になっても、営業職に就いても・・・何になるとしても、いかにして相手のモチベーションをあげるかを学んでおけば、必ずどこかで役立ちます。それを皆で学びましょう。

〔講義内容〕
　モチベーションについての本は、本屋さんにはたくさんあります。スポーツ関係の優秀なコーチのものも数多く出ています。それだけ、モチベーションについては世間の関心が高いのでしょう。たくさんの本の中から、自分が読んでみたい本を一冊選んでレポートをまとめてみる。それが演習の内容です。

〔講義のすすめ方〕
初回は受講生全員を対象に説明を行います。
その後、各自で資料を収集し、発表や、討議を通して、レポートを作成します。

〔教　　材〕
特に指定はしません。演習の中で紹介します。

〔成績評価の方法・基準〕
出席とレポートなどを総合的に判断します。

〔履修のポイント・注意点〕
自ら学ぶ姿勢を持つこと。

L41602

科　目　名	専門演習 B2
教　員　名	金田　健史

〔講義目的〕
専門演習では，これまで履修してきた生理学，運動生理学，スポーツ生理学の知識を深めるとともに，授業内で紹介した色々な知識や各種の測定・実験を実施する上で必要な基礎知識，注意事項を理解する．また，実際に測定機器を用いて測定を実施することから，その方法やデータの読み取り方を演習する．

だれしもが日々の生活の中や運動経験の中で「なぜ？」「どうして？」といった疑問を感じる機会は少なからずあると思うが，その疑問を解決したり，その疑問から新たな発見や課題をみつけたりするなどということまでおこなうことができる者は少ない．実社会やスポーツ指導の現場などに進んでいく者にとって，このような姿勢や意識をもっていうことはとても重要で，しかもその人の魅力を高めてくれるものであると思われる．これまで経験してきた与えられる授業から，専門演習では自ら獲得していく授業へと意識を切り替えて臨んでもらいたい．

〔講義内容〕
1．授業内容の説明，グループ決め，テーマ決め
2．運動生理学データの分析方法演習①
3．運動生理学データの分析方法演習②
4．実験計画作成方法，および注意点①
5．実験計画作成方法，および注意点②
6．データ測定演習①血中乳酸値の測定
7．データ測定演習②安静時心拍数と最大心拍数
8．データ測定演習③筋電図，心電図
9．データ測定演習④脳波（1）
10．データ測定演習⑤脳波（2）
11．データの入力，分析方法①
12．データの入力，分析方法，図表の作成②
13．統計ソフトを用いたデータ分析①
14．統計ソフトを用いたデータ分析②
15．まとめ

〔講義のすすめ方〕
授業内ではパソコン室における実習，実験室における実験などを中心におこなうが，各個人の研究テーマを決める作業を授業時間以外にも用意する．研究テーマおよび研究内容の発表会などもおこなう予定である．

〔教　　材〕
特になし．

〔成績評価の方法・基準〕
出席とレポート

〔履修のポイント・注意点〕
専門演習 AB では，前期，後期のいずれにおいても同内容の専門的な知識について学んでいくため，いずれかの該当する時間割での受講が望ましいが，受講者人数が多い場合には人数調整をおこなうことがある．

〔科目内容の位置付け〕
卒業研究受講のための前提科目である．専門演習 AB において，運動生理学分野に興味をもったテーマについて卒業研究を進めていく上で基礎となる内容である．

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生理学，運動生理学，スポーツ生理学

L41603

科　目　名	専門演習 B2
教　員　名	近藤　智靖

〔**講義目的**〕
本専門演習の目的は、体育科教育学の基礎知識を深めることである。

〔**講義内容**〕
２年次の保健体育科教育法で学んだ内容をさらに深め、専門的な内容を学習する。特に体育科教育の目的・運動領域論・教材教具論といった内容をテキスト中心に行っていく。15回の授業は次の通りである。

1 オリエンテーション
2 体育科教育学の性格と領域
3 体育科はどのような教科か・選択制授業と男女共習授業の進め方
4 学習主体について知る・学習カードモデル
5 目標論・体力を高める運動の授業作り
6 運動領域論・体ほぐしの授業作り
7 教材教具論・器械運動の授業作り
8 学習形態論・武道の授業作り
9 指導技術論・ネット型ゲームの授業作り
10 評価論・進入方ゲームの教材作り
11 卒業研究に関わっての先行研究の検討①
12 卒業研究に関わっての先行研究の検討②
13 卒業研究に関わっての先行研究の検討③
14 卒業研究に関わっての先行研究の検討④
15 まとめ

〔**講義のすすめ方**〕
毎週担当者を決め、内容についての要約・発表・質疑を行う。

〔**教　　材**〕
高橋健夫・岡出美則著「体育科教育学入門」（大修館書店）

〔**成績評価の方法・基準**〕
出席（30%）、要約・発表・質疑など（70%）を総合的に判断して行う。

〔**履修のポイント・注意点**〕
教職を志すからという理由だけで本演習を履修することは勧めません。教職を志すという理由であれば、他の専門演習でも十分にその意味を果たしていると考えます。本演習では、「体育科教育学」という学問に関心のある学生に集まってもらいたいと考えています。そのため、教育実習ですぐに役立つことは学べないと考えておいた方が良いです。また、部活や仲間で誘い合って集まるのはやめてください。

〔**科目内容の位置付け**〕
卒業研究に繋がる科目と考える。

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
保健体育科教育法、教育実習事前事後指導と関連がある。

L41604

科　目　名	専門演習 B2
教　員　名	齋藤　一人

〔講義目的〕
様々な活動現場における指導実践を行うために、コーチ学研究の立場や指導者の視点に立ち、指導するために必要な知識・技術論・指導法・コミュニケーション能力等を個々のテーマに応じて学習する。そこで、今後の自らの実践活動に対して、積極的な関与ができるような活動の方法論等を見つけだし、議論等により知識を深め興味を絞っていくことを目的とする。

〔講義内容〕
・チームスポーツ（ボールゲーム）・野外運動の指導実践に関する内容
（指導現場の実践活動に関する運営＜チームマネジメント＞、科学的分析、戦略・戦術・技術・指導法等についてコーチ学、指導論、方法論の立場からのアプローチ）
・一貫指導に関する内容
（幼児期・児童期からの知的能力開発・育成・支援に関するもの）

〔講義のすすめ方〕
講義の中で、指導現場での実践活動に向けての指導能力を身につける。実践もしくは他者への指導法における実践活動を対象として、そこで生じた課題や問題点について掘り下げ、問題解決型あるいは問題提起型の課題研究としてまとめる。
①オリエンテーション
②コーチの資質について
③論文・著書・映像を通じての学習及び研究
④実践活動の実施計画について
⑤研究調査方法について
⑥グループ討議および事前準備
⑦リーダー論について

〔教　　材〕
特に指定する教材はないが、必要な場合はその都度指示します。また、必要に応じて資料を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席、レポート、総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
学生相互間、教師と学生との緊密なコミュニケーションが重要なので、特に出席が重視されます。

〔科目内容の位置付け〕
より充実した学業・学生生活や将来の専門研究活動（卒業研究）への導入としての基礎研究として位置づけられます。

L41605

科　目　名	専門演習 B2
教　員　名	齊藤　武利

〔講義目的〕
・学校教育現場における様々な運動様式（特にボールゲーム）について、科学的視点を持って分析するために、体力、技術、メンタル、戦術面など様々な角度からスポーツを捕らえ、指導者の視点に立って課題を見つけだし、検討する。

・スポーツ医・科学分野における様々な評価の方法等に言及し、メディカルチェックの意義や方法、体力測定の方法（特に、筋力測定やフィールドテスト）について、実際のＤＡＴＡを基に、活用方法等について検討する。

〔講義内容〕
自分の興味・関心のあるスポーツ競技や運動種目やその他、様々なスポーツ種目に関する科学的領域に視点を当て、知識を深め、自分自身の課題を探すために、方法論の検討や議論も行う。

主な課題

・競技スポーツ最前線のトピックスを探る。
・スポーツを支える人々の活動について
・スポーツ医・科学の最前線の情報について、
・オリンピックなどエリートスポーツ選手の活動とそのサポートシステムについて、
・団体球技系スポーツ種目における、テクニカル活動について
・ボールゲームにおける情報戦略活動の実際について
・ボールゲームにおけるゲーム分析とその応用について
・ボールゲームにおけるテクニカルコーチ、コンディショニングコーチの役割について
・その他

〔講義のすすめ方〕
特別に、教科書等は指定しない。ただし、個人の課題が明確に選定された場合は、個人の課題研究領域によっては、参考図書を指定し、研究を進める。
　個人の発表などの場合、視聴覚機材を使って、プレゼンテーションを行うこともある。

〔成績評価の方法・基準〕
全体の２／３以上の出席（授業の参加）が、期末試験やレポート提出により成績を評価するための前提条件とする。個人発表やディスカッションも行うため、授業の導入は非常に重要であり、原則的に遅刻は、認めない。
成績の評価基準
出席　30％
テストおよびレポート　30％
小レポートや各種課題の提出　30％
その他総合評価　10％

〔履修のポイント・注意点〕
参加する学生は、自分が積極的に参加し、自らが興味のある課題を探求しようとして参加すること。学期の中途で履修を放棄することのないように積極的に参画すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生理学、運動生理学、トレーニング論Ⅰ、トレーニング論Ⅱなどは、履修済みが望ましい。

L41606

科　目　名	専門演習 B2
教　員　名	竹島　克己

〔講義目的〕
スポーツや健康に関する研究分野には様々なものがある。スポーツや健康に関しての研究は、測定・調査・分析・文献研究などを組み合わせ、独自性のあるものが多い。3年次には卒業研究をどの様なテーマで行うかなかなか決まらないであろう。本専門演習ではスポーツや健康に関して科学的な視点を持ち、スポーツや健康に関する知識を高めてほしい。各自の研究の足がかりとして下記のような講義内容によって授業を進めていく。短期間ではあるが、資料を読み、まとめる経験を積んでもらいたい。

〔講義内容〕
　特に次の3点に着目して授業を進めていく。
1．スポーツにおける自己実現。
2．スポーツにおける基本。
3．トレーニングの研究、特に持久力について。
　スポーツ選手は、トレーニングも大事であるが、その動機づけが非常に大事である。それを誤ったために選手生活を無為なものにしてしまったり、指導者では選手に充実感を与えることができなかったりすることがある。何のためにスポーツを行なうのか、大義名分がどうしても必要である。それは個人によって異なる。スポーツにおける自己実現とは何か考えてみる。スポーツは基本を大事にしなければならない。その基本とは何をさすのか。基本には深い意味がある。基本を深く追求してみたい。スポーツは体力がなければ勝つことは難しい。持久力も大事な要素である。強く、正確な動作を相手より長く続けられる者が勝利を手にすることができる。持久力を中心に、トレーニングで体がどのように変化するか関心を持ってもらいたい。

〔講義のすすめ方〕
1．オリエンテーションで、講義の方向性を確認する。
2．課題に沿った資料を集める。
3．資料を読み、課題ごとに自分の考えをまとめる。
4．課題ごとのレポートを提出し、評価を受ける。

〔教　　材〕
図書、新聞、インターネット、新聞、雑誌など。
各種測定器具による実験。

〔成績評価の方法・基準〕
1．レポートの評価。
2．参加度。

〔履修のポイント・注意点〕
日頃から問題意識や好奇心を持ってスポーツや健康に注目してほしい。自分自身の関心事が研究の対象となる。問題意識が様々な工夫につながり、スポーツ技術の向上につながり、健康に対する意識づけとなる。スポーツが好きで、健康への関心が人一倍強いスポーツ人、体育人になってほしい。

L41607

科　目　名	専門演習 B2
	スポーツマネジメント・経営調査専門演習
教　員　名	藤井　和彦

〔講義目的〕
本専門演習は、スポーツマネジメントについて、中でも経営調査の手法を学ぶことを中心に据えて、内容を構成していく。
スポーツ経営とは、人々のスポーツへの接近行動の成立・維持・発展を目的とした組織的な営みである。具体的には経営資源を調達し、各種スポーツ事業を効率よく進めていく活動といえる。これら経営活動の効率性に関わる概念がスポーツのマネジメントであり、その効率性を測定・把握する方法が経営調査ということになる。
本専門演習では、以上のようなスポーツ経営やスポーツマネジメントの概念の理解を出発点に、質問紙調査等各種調査の手法や、コンピュータを使ったデータの解析方法等を学んでいく。

〔講義内容〕
各回の内容は以下の通りである。
①オリエンテーション
②スポーツ経営の基礎理論演習 (1) スポーツ経営の概念と構造
③スポーツ経営の基礎理論演習 (2) スポーツ生活の捉え方とスポーツ事業
④調査テーマ設定のためのグループワーク演習 (1)
⑤調査テーマ設定のためのグループワーク演習 (2)
⑥調査法入門　概念の操作化と尺度の設定方法
⑦調査票作成演習 (1)
⑧調査票作成演習 (2)
⑨調査データの入力（コーディング）方法
⑩統計ソフトを用いたデータ解析演習 (1)
⑪統計ソフトを用いたデータ解析演習 (2)
⑫統計ソフトを用いたデータ解析演習 (3)
⑬調査結果のまとめ方と分析レポートの作成方法
⑭予備日（予定通り進んだ場合は「分析レポート発表会」）
※上記の内容を中心に進めるが、進捗状況等によって多少変更する場合もある。

〔講義のすすめ方〕
上記の講義内容で進める。

〔教　　材〕
八代勉・中村平編著「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店 を指定テキストとする。前半の演習はこのテキストの内容を中心に進めていく。
この他、適宜資料を配付する。

〔成績評価の方法・基準〕
平常の授業への取り組みと分析レポートの成果から総合的に評価する。

〔科目内容の位置付け〕
本専門演習の履修・単位取得をしていることが、４年次の卒業研究（藤井和彦担当）履修の条件となる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育・スポーツ経営学　スポーツ社会学　スポーツ行政論　体育・スポーツ実践事例研究　等を履修していることが望ましい。

L41608

科　目　名	専門演習 B2
教　員　名	吉田　茂

〔講義目的〕
人間の行動や行為の根幹をなす「身体知」に関する現象学的人間学的理解を深め、各種スポーツ運動の〈覚える－覚えさせる〉関係系の中で、どのように身体知が形成されるのか、また人間の身体知はどのような〈知恵〉として構成されるのかを、金子明友著『身体知の形成（下)』の講読を通じて、身体知を現象学的人間学的に理解する。具体的には、コツを創発するための身体知について探求することとする。
人間は、誕生から老年に致るまで、常に身体知を駆使して、スポーツや日常生活、労働や表現運動を生み出し実現していく存在である。豊かな人生を送るためにも、この身体知が限り無く形成されるべきでその意味でも、指導者の役割は大きい。

〔講義内容〕
身体知は、いいかえれば〈身体で覚える〉という表現に如実に示されている。いまここに息づいて動きつつ感じ、感じつつ動く身体が形成され、運動と感覚が一体となっている世界に身を置くことができることである。
この身体知の形成を理解することで新たな指導者としての指導の有り方が理解され、指導者としての自己の能力を向上させられるようになるよう、促発身体知の構成化能力を、学生がこれまでに経験にしたスポーツ種目に関して分析することを中心的な課題とする。現在自分が持っている動感素材化身体知である観察能力、交信能力、代行能力を具体的に話題として提供し、動感処方化身体知としての道しるべ構成化能力、呈示構成化能力、起点構成化能力などにどのように生かすかを検討していく。

〔講義のすすめ方〕
ゼミ参加者を対象に、相互に色々な指導方法を検証し、実際の指導場面を VTR 撮影するなど分析能力の向上を計る。

〔教　　材〕
金子明友著『身体知の形成（下)』をテキストとして使用する。

〔成績評価の方法・基準〕
上記の内容をレポートとして提供する。
また、パワーポイント等の発表手段を使いこなせるようになってほしい。

〔履修のポイント・注意点〕
自己研究のテーマが設定できるよう、いくつかの運動について分析を試みる。
分担を責任持って果たすこと。

〔科目内容の位置付け〕
卒業論文のテーマ決定、卒業論文作成へと順次進めまれるようそ力する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
運動学Ⅰ、運動学Ⅱ

L42001

科　目　名	教育課程論 S/ 教育課程論
	授業形態：講義 / 授業回数：15 回（30 時間）
教　員　名	赤堀　侃司

〔講義目的〕
教育課程は、教育内容を体系的に構成したものであるが、具体的な内容は、学年や教科科目毎に、学習指導要領に明示される。本講義では、カリキュラム構成のような基礎的な内容も含むが、中心は、現在の教育課程の内容を取り扱う。現在では、キャリア教育、情報教育、小中連携など、新しい話題が関心を集めている。これらの取組の現状と課題、あるべき姿について、議論する。また、我が国では、文科省で認定された研究開発学校が、実践的に新しいカリキュラム開発に取り組んでいるので、その内容についても触れる。

〔講義内容〕
第１回　教育課程の変遷
第２回　研究開発学校の取組
第３回　教育理念とカリキュラム
第４回　新学習指導要領の概要１
第５回　新学習指導要領の概要２
第６回　教育課程の編成１
第７回　教育課程の編成２
第８回　教育課程の編成３
第９回　キャリア教育
第10回　情報教育
第11回　保護者との関わり
第12回　小中連携
第13回　コミュニケーション
第14回　学力調査・国際学力比較
第15回　まとめと試験

〔講義のすすめ方〕
前半は、教育課程論の基礎的な内容であり、後半は、現在の教育課程のトピックスである。前半については、課題を提示し、その課題について、各学生が自分の考えを、設問にしたがって、書く。その後討論に移り、それぞれの考えを交換する。そして、背景となる理論的な内容を解説する。その後、各学生は、自分の意見をまとめる。後半は、最近のトピックなので、資料を準備するので、個人またはグループで担当し、その資料を読んで、2ページ以内のレジュメにまとめ、印刷して全員に配付し、発表する。発表の中で、議論を行う。各学生は、その討論の後で、内容について、まとめる。

〔教　　材〕
テキストは、特定の本ではないが、授業における必要な資料は、大学の授業ページに掲載して、ダウンロードできるようにする。トッピクの発表者は、ダウンロードして、レジュメを作成する。印刷は、発表する前の週に、済ませておく。

〔成績評価の方法・基準〕
基本的には、出席点（50％）とレポート点（50%）の合計点で、行う。レポートは、中間レポートと学期末レポートの2回を想定している。いずれも、授業の中で行い、その場で、問題を提示して、与えられた時間内に書いて提出する。ノートなどの持ち込みは、可とする。

〔履修のポイント・注意点〕
自分で考える習慣を身につけること、人前で自分の意見を発表できることが、基本になる。授業では、必ず自分の意見を求められるので、恥ずかしがらないで、意見を述べること。それと、ノートすること、まとめて書くことが、基本なので、毎時間の授業で、練習していただきたい。

〔科目内容の位置付け〕
教職の免許を取得する学生にとっては、必修科目であり、教育学の基礎的な内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目として、教育基礎論、教育方法論、教育制度論、教師論がある。

L42501

科　目　名	保健体育科教育法Ⅰ／体育科教育法Ⅰ
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
本科目の目的は、中高等学校の体育授業の指導方法や理論について学ぶことである。

〔講義内容〕
講義内容は、次の通りである。

①質の高い体育授業の作り方
②体育授業の評価方法

体育授業といっても、その内容は、体つくり運動、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンス、体育理論と多岐にわたっている。そのため、本科目において全ての領域にわたり、理論とその指導方法を詳細に学習することは難しい。そこで本科目では、いくつかの典型的な領域を取り上げ、質の高い体育授業の作り方（すぐれた教師の指導行動・教材教具・マネジメント・説明や指示の方法など）や体育授業の評価方法を学んでいく。

〔講義のすすめ方〕
本科目は、教室を中心に行う。なるべく授業のビデオを視聴しながら、指導のポイントや理論について学ぶ。

〔教　　材〕
〈購入図書〉
本科目のみならず教育実習事前指導、教育実習、教員採用試験等を想定し、以下の著書を全員購入すること。購入方法は、本科目１回目に指示する。
①中学校学習指導要領
②ビジュアル　新しい体育実技・東京書籍・740円
〈参考書〉
体育の授業を観察評価する・高橋健夫編著・明和出版・2200円
体育の授業を創る・高橋健夫編著・大修館書店・2200円

〔成績評価の方法・基準〕
出　　席　　40％
レポート　　40％
普段の活動の様子　20％

〔履修のポイント・注意点〕
本科目は、保健体育科教育法Ⅱ・Ⅳと併せてひとまとまりの科目である。なるべくⅠⅡⅣを併せて履修すること。

〔科目内容の位置付け〕
本科目は、教員養成の導入として位置づけられ、教育実習に直結する科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
本科目は、これまで学んできたあらゆる種目の実技、特別活動、学校保健など、全て関連している。

L42601

科　目　名	保健体育科教育法Ⅱ / 体育科教育法Ⅱ
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
　本科目の目的は、体育授業の分析・評価方法を学習することである。

〔講義内容〕
　内容は、次の通りである。
①教師役や生徒役として体育授業を作る。
②分析役として体育授業を評価する。
　体育科教育法Ⅰ並びに教育実習の事前指導と連動しながら、本科目では、実際にグループ単位で実技の授業を作り、教師役、生徒役、観察分析役に分かれる。
　模擬授業の終了後にデータを分析し、授業の評価並びに議論を行う。

〔講義のすすめ方〕
　本科目は、体育館を中心に行う。教育実習を想定して多くの学生には教師役をしてもらう予定である。

〔教　　材〕
〈参考書〉
体育の授業を観察評価する・高橋健夫編著・明和出版・2200円
体育の授業を創る・高橋健夫編著・大修館書店・2200円

〔成績評価の方法・基準〕
出　　席　40％
レポート　40％
普段の活動の様子（模擬授業の貢献度）20％

〔履修のポイント・注意点〕
特になし

〔科目内容の位置付け〕
　本科目は、教育実習事前指導や保健体育科教育法ⅠⅣと大きく関連している。そのため、保健体育科教育法ⅠⅣも必ず履修していること。また、本科目は体育教員養成の中核科目の一つとして位置づけられる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　本科目は、これまで学んできた実技、特別活動、学校保健、体育科教育法ⅠⅢⅣなど全て関連している。

L42701

科　目　名	保健体育科教育法Ⅲ（保健）/ 保健科教育法
教　員　名	七木田 文彦

〔講義目的〕
　小学校、中学校、高等学校における保健科教育の推移と現状を理解する。
　保健学習の教材研究並びに授業づくりの方法を理解する。
　保健学習における指導案作成の意義とその作り方を理解する。
　学習者の学びについて理解を深める。

〔講義内容〕
1．保健科教育の構造と変遷
2．小・中・高等学校の保健学習目標・内容論
3．保健の教材・教具論
4．学習者論（子どもの認識の発達）
5．経験と教育（健康の考え方と教育方法）
6．学習集団の構成（学校・授業改革論と学びの共同体）
7．学習と評価
8．指導案の作成方法
9．指導案づくり
10．模擬授業とその検討①
11．模擬授業とその検討②
12．模擬授業とその検討③
13．多様な事後研修会の紹介（ストップモーション方式による保健授業の検討等）
14．総括
15．試験

〔講義のすすめ方〕
基本的な内容については講義形式で解説する。
　具体的或いは実践的な内容については、作業を多く取り入れ。最終的には授業の模擬実践やその集団検討を行う。

〔教　　材〕
・参考図書
　中学校学習指導要領
　高等学校学習指導要領
　検定保健体育科教科書（小・中・高等学校）

〔成績評価の方法・基準〕
作業への取組状況及び試験（課題又はレポートの提出を求めることがある）により総合的に評価する。
　出席が２／３以上で、総合評価が60点以上を合格とする。

〔履修のポイント・注意点〕
授業への積極的学習参加を求める。現代の健康問題について興味をもって履修してもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
教育学関係科目。中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）取得に必要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
体育科教育法、生理学、公衆衛生学、学校保健学、精神保健学、発育発達学、スポーツ医学、解剖学

L42801

科　目　名	保健体育科教育法Ⅳ / 体つくり運動指導法
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
　本科目の目的は、体育授業の典型教材について実技を通じて理解していくことである。

〔講義内容〕
　本科目の内容は、授業担当者によって提案された運動を体験し、その可能性や改善点について検討をしていく。

〔講義のすすめ方〕
　本科目では内容にも示したとおり、授業者が典型的な教材を示し、実際に学生が実技をしながらその可能性について考える。たとえば、鉄棒のコウモリ振り降り、走り高跳びの指導の基礎、体ほぐしの運動など、いくつかの典型教材について考える。毎回、教材シートの提出を行う。

〔教　　材〕
適宜指定する

〔成績評価の方法・基準〕
出席 50%
レポート　30%
普段の活動の様子　20%

〔履修のポイント・注意点〕
　教室と体育館の両方で行うので、実技の準備をすること。

〔科目内容の位置付け〕
　本科目は体育教員養成の中核科目の一つとして位置づけられる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　保健体育科教育法ⅠⅡと教育実習事前指導

L43501

科　目　名	道徳教育の理論と方法Ｓ／道徳教育の研究
	児童生徒の心に響き，心の力が育つ道徳授業の指導法の研究を中心にして
教　員　名	中山　和彦

〔講義目的〕
本科目の目的として、次の4点を設定する。
1 小・中学校教育全体を通して行われる道徳教育の意義について、具体例を通して理解する。
2 小・中学校における道徳教育の中心となっている「道徳の時間」の役割とその意義について具体例を通して理解する。
3 小・中学校における道徳授業の具体例を示すことにより、指導法について追求するとともに、今後求められる道徳授業における多様な指導法について具体例をもとに学ぶ。
4　本科目の講義を通して、教職に対する夢やあこがれを一層高めるようにする。

〔講義内容〕
1 道徳教育の歴史的変遷と基本的なあり方
2 新学習指導要領における道徳の目標及び内容
3 道徳の指導計画の意義及び内容
※特に、学校で作成している具体例をもとに、「学級における道徳教育指導計画」（試案）を作成し、学級経営は道徳教育そのものであることを確認し合う。
4 道徳授業の指導法について
（1）中学校における道徳授業
（2）小学校における道徳授業
5 心のノートについて
6 学習指導案作成
（1）中学校における道徳授業
（2）小学校における道徳授業
7 中山が行う道徳の模擬授業を体験する（中学校・小学校）
8 道徳授業の一部を学生が行う。（導入・展開・終末）
9 道徳授業の指導の基本型及び多様な指導法について整理する。

〔講義のすすめ方〕
小・中学校で作成し、実践されている指導計画、指導案、資料等を示しながら、また、時には、私自身が学生に対して模擬授業を展開しながら、小・中学校における道徳教育及び道徳授業について講義を進める。理論を丁寧に整理しながら，理論を踏まえてのより実践的な講義内容とする。また、毎時間「ミニレポート」の時間を確保したり，学生に「マイク発言」を求めたりすることで，「学びの当事者」としての意識を高める。

〔教　　材〕
毎時間の資料は、印刷して配付する。
参考資料として、できるだけ次の図書を購入してほしい。
・『小学校学習指導要領解説 道徳編』（平成２０年８月）
・『中学校学習指導要領解説 道徳編』（平成２０年８月）

〔成績評価の方法・基準〕
ミニレポートやミニテストを講義の中で行い、その成績を累積して総括評価の６０％とする。また，講義中の態度や取組の意欲について重視する。総括評価の２０％とする。教職を目指す者として，児童・生徒の取組の意欲やプロセスを大切にしようという意識を今から持ってほしいという強い思いがある。私は現職の校長として，所属職員の取組の意欲やプロセスを最重視している。児童・生徒も教師もモチベーション管理が最も大切だと考えている。最終的なまとめとして定期テストも行う。これを４０％とし，総括の評価を明確にする。

〔履修のポイント・注意点〕
次の３点をポイントとして設定する。
1 講義を聴く（傾聴する）態度を重視する。児童・生徒の学ぶ姿勢の基本は「聴くこと」である。教師は、まず「聴くこと」を児童・生徒に求めるはずである。
2 演習と意見発表を重視する。
3 ミニレポートには、必ず自分自身の意見と感想をまとめること。

〔科目内容の位置付け〕
・教職に関する科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
教育活動全体を通して行う道徳教育は、教職に関する全科目に関連することは当然のことである。また、各教科等の専門科目についても、児童・生徒理解を基盤にした学ぶ意欲育成という観点から，道徳教育と深く関連する。

L43502

科　目　名	道徳理論方法Ｓ〔教職 道徳教育〕
	児童生徒の心に響き，心の力が育つ道徳授業の指導法の研究
教　員　名	中山　和彦

〔講義目的〕
本科目の目的として、次の4点を設定する。
１ 学校教育全体を通して行われる道徳教育の意義について、具体例を通して理解する。
２ 小・中学校における道徳教育の中心となっている「道徳の時間」の役割とその意義について具体例を通して理解する。
３ 小・中学校における道徳授業の具体例を示すことにより、指導法について追求するとともに、今後求められる道徳授業における多様な指導法について具体例をもとに学ぶ。
４　本科目の講義を通して、教職に対する夢やあこがれを一層高めるようにする。

〔講義内容〕
１ 道徳教育の歴史的変遷と基本的なあり方
２ 新学習指導要領における道徳の目標及び内容
３ 道徳の指導計画
　※特に、学校で作成している具体例をもとに、「学級における道徳教育指導計画」（試案）を作成し、学級経営との関連について考える。
４ 道徳授業の指導法
（１）中学校における道徳授業
（２）小学校における道徳授業
５ 心のノートについて
６ 学習指導案作成
（１）中学校における道徳授業
（２）小学校における道徳授業
７ 中山が行う道徳の模擬授業を体験する（中学校・小学校）
８ 道徳授業の一部を行う。（導入・展開・終末）
９ 道徳授業の指導の基本型及び多様な指導法について整理する。

〔講義のすすめ方〕
小・中学校で作成し、実践されている指導計画、指導案、資料等を示しながら、また、時には、私自身が学生に対して模擬授業を展開しながら、小・中学校における道徳教育及び道徳授業について講義を進める。理論を丁寧に整理しながら，理論を踏まえてのより実践的な講義内容とする。また、毎時間「ミニレポート」の時間を確保したり，学生に「マイク発言」を求めたりすることで，「学びの当事者」としての意識を高める。

〔教　　材〕
毎時間の資料は、印刷して配付する。
　参考資料として、できるだけ次の図書を購入してほしい。
・『小学校学習指導要領解説 道徳編』（平成２０年８月）
・『中学校学習指導要領解説 道徳編』（平成２０年８月）

〔成績評価の方法・基準〕
ミニレポートやミニテストを講義の中で行い、その成績を累積して総括評価の６０％とする。また，講義中の態度や取組の意欲について観察により評価し、その結果を重視する。総括評価の２０％とする。教師を目指す者として、児童・生徒の取組の意欲やプロセスを大切にしようとする意識を今から持ってほしいという強い思いがある。私は現職の校長として、所属教職員の勤務意欲や取組のプロセスを最重視している。児童・生徒も教師もモチベーション管理が最も大切だと考えている。最終的なまとめとして定期テストも行う。これを４０％とし，総括の評価を明確にする。

〔履修のポイント・注意点〕
　次の３点をポイントとして設定する。
１ 講義を聴く（傾聴する）態度を重視する。児童・生徒の学ぶ姿勢の基本は「聴くこと」である。教師は、まず「聴くこと」を児童・生徒に求めるはずである。
２ 演習と意見発表を重視する。
３ ミニレポートには、必ず自分自身の意見と感想をまとめること。

〔科目内容の位置付け〕
・教職に関する科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
教育活動全体を通して行う道徳教育は、教職に関する全科目に関連することは当然のことである。また、各教科等の専門科目についても、児童・生徒理解を基盤とした学ぶ意欲育成という観点から、道徳教育と深く関連する。

L44001

科　目　名	特別活動の理論と方法 S/ 特別活動の研究
教　員　名	本間　研一

〔講義目的〕
児童生徒の人間形成に特別活動の果たす役割は大きい。その基本には教師と生徒、生徒相互の暖かな人間関係や信頼関係が不可欠である。学級が生徒の心の居場所になるような経営が必要である。学級を単位に学習指導や生徒指導などの効果を上げるための諸条件を整備し、効果的に運営するのが学級経営である。特別活動の基本である望ましい集団はまず学級から始まる。望ましい集団活動を通して、自律し共生することの大切さを学び、人間としての生き方や在り方を自覚させるための特別活動の役割は大きい。学習指導要領の三つの領域、教科・科目、道徳、特別活動は、それぞれが相互に関連し、補完しあって「生きる力」の育成を目指すのである。本講義ではそれらをふまえ、教科書の無い特別活動を正しく指導できる教師の育成を目指す。

〔講義内容〕
1、特別活動の原理と目標
2、学級活動・ホームルーム活動
3、児童会・生徒会活動
4、学校行事
5、特別活動の指導方法・技術
6、特別活動の課題

〔講義のすすめ方〕
「なすことによって学ぶ」特別活動は、生徒も教師も一緒に活動するところに教科・科目や道徳とは異なる特徴がある。教育実習に行った時に使えるようなグループエンカウンターを紹介したり、ディベートやゲームを行い、指導法を身につける。ガイダンスの機能を充実させるための資料の提供やカウンセリング・教育相談の基礎も行う。講義・演習・グループ学習など実践に繋がるように指導する。

〔教　　材〕
テキスト　中学校学習指導要領　解説「特別活動」編　文部科学省

〔成績評価の方法・基準〕
出席・毎回の課題・指導案の作成・期末評価テスト　を総合して行う。
　毎回10分200字のミニ論文を論・例・策で記述する。たとえ教職につかないとしても教師の職業を理解するためにも、学校の秩序維持のために「校則」があるように授業の秩序維持に協力してもらう。

〔履修のポイント・注意点〕
特別活動は教科書が無いので、実際教師になった時に困らないよう、毎回の出席を希望する。５回以上の欠席は、毎回の課題の提出も無いことになるので、評価の対象としない。

〔科目内容の位置付け〕
教職科目として必修である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生徒指導Ⅰ・Ⅱ、道徳教育の研究、各教科・科目の指導法など。

L44503

科　目　名	教育方法論Ｓ／教育工学
教　員　名	赤堀　侃司

〔講義目的〕
教育方法論は、狭義には、教授学習過程、すなわち、授業を対象にして、学習指導の方法を体系的に解説することが目的である。しかし、実践的には、効果的な方法を、その背景となる理論を理解すると共に、実際の場面で使えるように習得することが、必要である。そこで、本科目では、講義と演習を組み合わせた授業形態によって、背景的な理論と実践的な方法の両方を習得させるように、授業計画を構成している。

〔講義内容〕
第１回　行動変容としての学習理論
第２回　理解過程としての学習理論
第３回　状況における学習理論
第４回　古典的な教授方法
第５回　近代的な教授方法
第６回　授業デザインと授業パターン
第７回　授業のシナリオ構成
第８回　学習課題の分析
第９回　ワークシート作成
第10回　Webbing 法
第11回　ハイパーカード教材
第12回　ドリル教材
第13回　情報の表現
第14回　授業の分析
第15回　まとめと試験

〔講義のすすめ方〕
本科目は、実践的な内容である。基本的に、始めに背景や理論的な内容を講義する。その講義を理解して、実際に演習的な活動を行う。教育方法には、様々な技法があるが、代表的な技法を紹介し、習得することを、目的とする。そのため、宿題として課すこともある。欠席すると、前週の講義が理解できないので、演習が困難になることが多いので、欠席しないでほしい。

〔教　　材〕
テキストではないが、参考になるので、強く推奨したい。
赤堀侃司（著）「授業デザイン－教育方法論テキスト－」（高陵社、2009年4月発刊予定）、レポートを書くときに、参考にしてほしい。

〔成績評価の方法・基準〕
基本的には、出席点（30％）と作品とレポート（70点）の合計点で、行う。作品とレポートは、作品だけでなく、レポートも添付する。

〔履修のポイント・注意点〕
教育方法論は、実践的な力を身につけることがねらいであり、欠席すると作品ができないことが多いので、出席には、十分注意すること。作品の評価は、学生同志の相互評価も導入したい。努力することが、履修のポイントである。

〔科目内容の位置付け〕
教職の免許を取得する学生にとっては、必修科目であり、教育学の基礎的な内容である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
関連科目として、教育課程論、教育基礎論、教育制度論、教師論がある。

L45001

科　目　名	教育相談Ｓ／生徒指導Ⅱ
	キャリア開発の視点から教育相談を問い直す
教　員　名	榎本　和生

〔講義目的〕
生徒指導Ⅰにおける理論的な学習の上に、教師が教育相談を行うにあたって必要とされる基礎的な知識を身につけることを目的とするとともに、カウンセリングの模擬的演習を行い、学校教育相談を行う実践的な指導力を養う。

〔講義内容〕
第１回　学校教育相談とは何か
第２回　開発的・予防的な教育相談
第３回　学校教育相談の組織・運営
第４回　発達課題の理解
第５回　個別・グループ面接のすすめ方
第６回　親へのかかわり方
第７回　相談係、学級担任が行う教育相談
第８回　教科担任等の行う教育相談
第９回　「いじめ・暴力行為」の理解と対応
第10回　「不登校」の理解と対応
第11回　「ＬＤ、ＡＤＨＤ」の理解と対応
第12回　人間関係づくりの方法
第13回　学校教育相談の問題と課題
第14回　まとめ

〔講義のすすめ方〕
講義の都度に配布する資料等を基にして発表・討議で授業を進めます。したがって受講生からの質問等による対話を重視するとともに、学校教育の場で実際に行われる教育相談を想定した演習も多く実施する。積極的な発言や参加を期待したい。

〔教　　材〕
教育相談 S/ 生徒指導Ⅱ用の教科書は使用しない
　参考書：「生徒指導・教育相談・進路指導」仙崎武ほか編
田研出版2400円＋税〔生徒指導論（進路指導）/ 生徒指導Ⅰの教科書と併用〕

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（受講態度　発言演習への参加）40％　期末試験60％を総合的に勘案して評価

〔履修のポイント・注意点〕
テキストや配布した資料を前もって熟読しておくこと。毎回配布する資料等を保存するための専用クリアホルダー（Ａ４、30ポケットで可）の準備を願いたい。

〔科目内容の位置付け〕
本講義では、治癒的な心理療法に基づくカウンセリングの技法習得ではなく、学校教育の専門家としての教師に求められる教育相談についての基礎・基本の習得を目指すものである。したがって講義の性格上、教育心理学を既習、または履修中であることが望ましい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
生徒指導論（進路指導）/ 生徒指導Ⅰの実践・発展としてのⅡであるため、連続して履修することが効果的である。

L47001

科　目　名	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ A
教　員　名	Harry Harris・Jeffrey Miller・Michael Morgan

〔講義目的〕
[Course Objectives]
Communication Ⅰ A、and the following course Communication Ⅱ A (which will use the latter half of the same textbook)、are designed to help students develop and use effective communication strategies through mastering theme-specific sentence patterns and vocabulary. Through pair-work, group-work, and individual guided practice、the students will activate the passive English in their brains and connect the patterns and phrases to authentic communication situations.

Emphasis will be on enjoyably mastering strategies、grammatical patterns、and vocabulary expressions that can be actively used (not merely understood)、thereby developing student communicative confidence. This kind of confidence is needed to teach English (or go into the business world and use English as a tool).

〔講義内容〕
[Course Contents]
Each of the first seven or eight lessons will focus on a specific theme (e.g. "friends" or "free time") for which students will develop situation-based communication strategies、sentence patterns、and vocabulary. These strategies、patterns、and vocabulary expressions will be personalized by the students in pairs and individually to communicate their ideas about the theme from different points of view. Much practice will center on reinforcing active use of sentence patterns and vocabulary expressions through collocation sets and recycling.

In addition to the textbook、learners will be expected to visit the English Lounge and Hakuoh library Self-Access Learning Center to practice what they have studied. Also、especially students most serious about mastering communicative English (e.g. those who plan to be teachers of English) are strongly encouraged to purchase and use the audio tapes or CDs that accompany Communication Strategies (see Course Materials below).

〔講義のすすめ方〕
[Course Progress]
Communication Ⅰ A、and the following course Communication Ⅱ A、are learner-centered courses with active student speaking expected. The class atmosphere will be "fun and active" with students communicating their ideas on a variety of topics in rapid、understandable English.

Textbook-based lessons will follow six steps: first theme sentence patterns and vocabulary will be introduced、explained、and practiced (using competitive pair-work or group-work games). Second、students will listen to and later read the different points of view presented. Third、students will personalize the theme by presenting and discussing their ideas. Fourth、in pairs students will engage in activities (e.g. role play) to reinforce the theme patterns and vocabulary. In the fifth part、learners will use collocation sets and speeches、and in the sixth part there will be a consolidation and recycling game with some writing practice.

〔教　　材〕
[Course Materials]
The main textbook (for both Communication Ⅰ A and Communication Ⅱ A) is "Communication Strategies" by David Paul、Thomson Learning (ISBN-13 978-981-243-016-8) and must be purchased by the students. It will be supplemented with additional teacher-selected material.

Students、especially those who plan to become English teachers、are also strongly encouraged to buy and listen to the audio tapes (981-243-018-2) or audio CDs (981-243-019-9) available from Thomson Learning <elt@tlj.co.jp>. It is most effective if the audio CDs or tapes are listened to three of four times a week for short periods of time (20 minutes).

〔成績評価の方法・基準〕
[Course Grading]
Weekly classwork、including presentations、pair-work、group-work, and homework

will make up 50 percent of the final grade. Attendance will be 30 percent、and a final exam will be 20 percent of the final grade.

〔履修のポイント・注意点〕

[Successful Study Points]

As Communication Ⅰ A (and Communication Ⅰ B) are participatory courses、regular attendance and active involvement in the learning activities are essential. Students should realize that English communication is a skill、so that only through practice will the learner improve and develop the necessary confidence in his or her English.

Similarly、too much worry about making mistakes (usually in grammar construction) or finding the exact English translation of a Japanese term makes the user's English hesitant and unnatural. One effective measure of communicative fluency is the total number (or flow) of words used. Therefore、overall understandability is much more important than individual word or phrase accuracy.

To develop this type of fluency、regular outside-of-class practice at the English Lounge and Hakuoh library Self-Access Learning Center is essential and will be part of the course.

〔科目内容の位置付け〕

[Related Subsequent Courses]

Communication Ⅱ B as well as Reading and Vocabulary Ⅰ、Ⅱ and Ⅲ.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

[Prerequisites]

English Study Skills and Oral Presentation

L47102

科　目　名	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ B
教　員　名	Harry Harris・Lorraine Reinbold・Michael Morgan

〔講義目的〕
[Course Objectives]
Communication Ⅰ B、and the following course Communication Ⅱ B (which will use the latter half of the same textbook)、are designed to help students develop and use effective communication strategies through mastering theme-specific sentence patterns and vocabulary. Through pair-work and individual guided practice、the students will activate the passive English in their brains and connect the patterns and phrases to authentic communication situations.

Emphasis will be on enjoyably mastering strategies、grammatical patterns、and vocabulary expressions that can be actively used (not merely understood)、thereby developing student communicative confidence. This kind of confidence is needed to teach English (or go into the business world and use English as a tool).

〔講義内容〕
[Course Contents]
Each of the first seven or eight lessons will focus on a specific theme (e.g. "friends" or "free time") for which students will develop situation-based communication strategies、sentence patterns、and vocabulary. These strategies、patterns、and vocabulary expressions will be personalized by the students in pairs and individually to communicate their ideas about the theme from different points of view. Much practice will center on reinforcing active use of sentence patterns and vocabulary expressions through collocation sets and recycling.

In addition to the textbook、learners will be expected to visit the English Lounge and Hakuoh library Self-Access Learning Center to practice what they have studied. Also、especially students most serious about mastering communicative English (e.g. those who plan to be teachers of English) are strongly encouraged to purchase and use the audio tapes or CDs that accompany Communication Strategies (see Course Materials below).

〔講義のすすめ方〕
[Course Progress]
Communication Ⅰ B、and the following course Communication Ⅱ B、are learner-centered courses with active student speaking expected. The class atmosphere will be "fun and active" with students communicating their ideas on a variety of topics in rapid、understandable English.

Textbook-based lessons will follow six steps: first theme sentence patterns and vocabulary will be introduced、explained、and practiced (using competitive pair-work games). Second、students will listen to and later read the different points of view presented. Third、students will personalize the theme by presenting and discussing their ideas. Fourth、in pairs students will engage in activities (e.g. role play) to reinforce the theme patterns and vocabulary. In the fifth part、learners will use collocation sets and speeches、and in the sixth part there will be a consolidation and recycling game with some writing practice.

〔教　　材〕
[Course Materials]
The main textbook (for both Communication Ⅰ B and Communication Ⅱ B) is "Communication Strategies" by David Paul、Thomson Learning (ISBN-13 978-981-243-016-8) and must be purchased by the students. It will be supplemented with additional teacher-selected material.

Students、especially those who plan to become English teachers、are also strongly encouraged to buy and listen to the audio tapes (981-243-018-2) or audio CDs (981-243-019-9) available from Thomson Learning <elt@tlj.co.jp>. It is most effective if the audio CDs or tapes are listened to three of four times a week for short periods of time (20 minutes).

〔成績評価の方法・基準〕
[Course Grading]
Weekly classwork, including presentations、pair-work、and homework will make up 50

percent of the final grade. Attendance will be 30 percent、and a final exam will be 20 percent of the final grade.

〔履修のポイント・注意点〕
[Successful Study Points]
As Communication Ⅰ B (and Communication Ⅰ A) are participatory courses、regular attendance and active involvement in the learning activities are essential. Students should realize that English communication is a skill、so that only through practice will the learner improve and develop the necessary confidence in his or her English.

Similarly、too much worry about making mistakes (usually in grammar construction) or finding the exact English translation of a Japanese term makes the user's English hesitant and unnatural. One effective measure of communicative fluency is the total number (or flow) of words used. Therefore、overall understandability is much more important than individual word or phrase accuracy.

To develop this type of fluency、regular outside-of-class practice at the English Lounge and Hakuoh library Self-Access Learning Center is essential and will be part of the course.

〔科目内容の位置付け〕
[Related Subsequent Courses]
Communication Ⅱ A as well as Reading and Vocabulary Ⅰ、Ⅱ and Ⅲ.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
[Prerequisites]
English Study Skills and Oral Presentation

L47502

科　目　名	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ A
	English Communication IIA
教　員　名	Harry Harris・Lorraine Reinbold

〔講義目的〕
Communication IIA is the third in a series of English Speaking courses designed to help students improve oral communication skills. Students will work with vocabulary, language patterns, and collocations to enable them to use English as a "tool" and have a command of the language. Students will be encouraged to apply the patterns and phrases they have learned to real life situations.

〔講義内容〕
Students who successfully complete this course should:

Meet the objectives of previous Speaking courses;

Show an ability to use language for more than just exchanging information, such as by using simple metaphors and humor;

Be actively increasing their vocabulary, with more accurate and appropriate word choices;

Identify some differences between formal/informal language;

Characterize emotional content and recognize verbal cues that tell emotional content;

Exhibit some sensitivity to the verbal mechanisms used to convince, persuade, or inform, such as the use of reasons and arguments, tone of voice, humor and sarcasm;

Exhibit some sensitivity to the information contained in non-verbal cues, such as those signifying emotion, opinion, and status;

Exhibit some sensitivity to implied or cultural information;

Be able to speak more effectively in conversations or in front of groups on topics that they have already spent time considering, on which they have the background and vocabulary to handle because of particular interests and/or special fields of competence;

Be able to manage description, narrative, and explanations of processes;

Be able to express the same idea in different ways depending on the situation and pursue a topic to its logical conclusion;

Use increasingly more complex structures, such as conditionals, and a variety of discourse markers, such as transition words and pronouns;

Have speech which is increasingly continuous;

Be equipped with adequate vocabulary and be able to speak confidently and communicate effectively with other English speakers.

〔講義のすすめ方〕
Lessons will focus on specific topics to enable students to develop situation-based communication strategies、speech functions, collocations, and vocabulary. There will be group discussions and debates (if time permits) on real life issues that apply to them.

In class, students will learn and practice new vocabulary, useful expressions, and then use them to express themselves accurately with confidence. Specifically, (1)topic centered sentence patterns, vocabulary, and collocations will be introduced/practiced, (2)students will listen to and later read the different points of view presented, (3)students will personalize the theme by presenting and discussing their ideas to reinforce the newly learned material, and (4)there will be a consolidation and recycling of the materials covered with some writing practice.

〔教　　材〕
To be announced.

〔成績評価の方法・基準〕
Students will be evaluated on the following:

Assignments and weekly homework 50%

(Students will go to the SALC and English Lounge.)

Attendance and active participation 30%

Final examination or project 20%

〔履修のポイント・注意点〕
Students can improve their English speaking skills and develop confidence through constant practice and regular attendance.

〔科目内容の位置付け〕
[Related Subsequent Courses]
Communication IIB

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
[Prerequisites]
English Study Skills, Communication IA, Communication IB.

L47602

科　目　名	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ B
	Communication IIB
教　員　名	Harry Harris・Lorraine Reinbold

〔講義目的〕
Communication IIB is the fourth in a series of English Speaking courses designed to help students improve oral communication skills. They will continue to work with vocabulary, language patterns, and collocations to enable them to use English as a "tool" and have a command of the language. Students will be encouraged to apply the patterns and phrases they have learned to real life situations.

〔講義内容〕
Students who successfully complete this course should:

Meet the objectives of previous Speaking courses;

Understand the general message of spoken English from different sources;

Differentiate between major and peripheral information;

Exhibit increased sensitivity to implied or cultural information;

Be able somewhat to control the course of a conversation (e.g. changing the subject and direction of a conversation) on a variety of familiar and unfamiliar topics;

Be able to maintain some continuity and coherence through the course of a conversation;

Be able to participate in a group discussion where different opinions are being expressed and where the student him/herself is not being directly addressed and take sides and argue effectively when it is appropriate to do so;

Be able to use sufficient detail and elaboration to make their conversation interesting and informative to the listener;

Attempt to make their speech interesting through the use of such elements as humor;

More frequently use a variety of complex structures such as conditionals and modals;

Speculate about the past, present, and future, and talk about hypothetical situations;

Have pronunciation and intonation that contribute to fluency;

Be able to speak freely and have something to say with little or no preparation time and handle a variety of familiar and unfamiliar situations, using appropriate verbal and non-verbal communication;

Be equipped with adequate vocabulary and be able to speak confidently and communicate effectively with other English speakers.

〔講義のすすめ方〕
Lessons will focus on specific topics to enable students to develop situation-based communication strategies、speech functions, collocations, and vocabulary. There will be group discussions and debates (if time permits) on real life issues that apply to them.

In class, students will continue to learn and practice new vocabulary, useful expressions, and then use them to express themselves accurately with confidence. Specifically, (1)topic centered sentence patterns, vocabulary, and collocations will be introduced/practiced, (2)students will listen to and later read the different points of view presented, (3)students will personalize the theme by presenting and discussing their ideas to reinforce the newly learned material, and (4)there will be a consolidation and recycling of the materials covered with some writing practice.

〔教　　材〕
To be announced.

〔成績評価の方法・基準〕
Evaluation will be based on the following:

Assignments and weekly homework 50%

(Students will go to the SALC and English Lounge.)

Attendance and active participation 30%

Final examination or project 20%

〔履修のポイント・注意点〕
Students should realize that English communication is a skill, so that only through practice will the learner improve and develop the necessary confidence in his or her English.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
[Prerequisites]
English Study Skills, Oral Presentation, Communication IA, Communication IB, and Communication IIA

L48001

科　目　名	リーディング＆ボキャブラリーⅠ
	Reading and Vocabulary I
教　員　名	Harry Harris・Lorraine Reinbold

〔講義目的〕
Reading is the most vital skill for independent learning. People read for general comprehension、and to search、learn、and evaluate information.

This course is the first in a series of English Reading courses designed to help students learn to become fluent readers by focusing on strategic learning. Students will work with various texts doing different activities before、during、and after their reading to develop basic reading comprehension skills. To support English language acquisition、they will increase their vocabulary、learn to recognize the complex nature of reading、and gain improved reading skills through extensive and intensive reading.

〔講義内容〕
In this course, students will review or be introduced to and practice the following skills:

Preview and predict what will come later in a text
Scan for information
Skim through a passage
Make inferences
Find topics and understand main ideas
Paraphrase
Summarize
Answer comprehension and discussion questions
Formulate questions based on a text
Increase reading speed
Build vocabulary

Students who successfully complete the requirements of this course will be able to approach independent learning by using a combination of extensive reading and self-study strategies.　They should have an improved ability to read for knowledge and enjoyment.

〔講義のすすめ方〕
Class time will include numerous individual, pair, and group English activities based on in-class and out-of-class readings.　There will also be periodic quizzes based on the readings and class discussions.

〔教　　材〕
Beatrice S. Mikulecky and Linda Jeffries.
More Reading Power: Second Edition, N.Y.: Longman, 2004

SRA

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be based on the following criteria:

Attendance: 20%
Class participation/Attitude: 30%
Assignments/Quizzes/SALC: 30%
Final Exam: 20%

Please note:

According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course.　Being late three times will count as one absence.

If a student plagiarizes, copies papers or passages written by other people, s/he will fail this course.

No late homework will be accepted unless there is a valid reason.　If you are absent, ask your friend or the instructor about the assignment.

〔履修のポイント・注意点〕
Students will be required to read and listen to 2 to 5 Graded Readers from the library Self-Access Learning Center, to listen to the accompanying CDs, and to start a Vocabulary Notebook.

〔科目内容の位置付け〕
This is a required course for students who wish to take Reading and Vocabulary Building Level II and III.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
English Study Skills is a prerequisite for this course.

L48101

科　目　名	リーディング＆ボキャブラリーⅡ
	Reading and Vocabulary II
教　員　名	Harry Harris・Lorraine Reinbold

〔講義目的〕
This course is the second in a series of English Reading courses designed to help students become fluent readers by focusing on strategic learning. Students will work with various texts doing different activities before, during, and after their reading to develop basic reading comprehension skills. To support English language acquisition, they will increase their vocabulary, learn to recognize the complex nature of reading, and gain improved reading skills through extensive and intensive reading.

〔講義内容〕
In this course, students will work on improvement of the following skills:

.using headings as guides to the contents of a reading

.paraphrasing and summmarizing the main and supporting ideas of a text with increasing accuracy

.using information from a reading in discussions and other activities

.identifying differences between written/spoken and formal/informal language

.identifying theme/author's viewpoint and arguments

.incorporating words from readings into their active vocabulary

.scanning for information

Students who successfully complete course requirements will be more able to approach independent learning with a combination of extensive reading and self-study strategies. They should have an improved ability to read for knowledge and enjoyment.

〔講義のすすめ方〕
Class time will include numerous individual, pair, and group English activities based on in-class and out-of-class readings. There will also be periodic quizzes based on the readings and class discussions.

〔教　　材〕
Beatrice S. Mikulecky and Linda Jeffries. More Reading Power: Second Edition. N.Y.: Longman, 2004

SRA

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be based on the following criteria:

Regular Attendance: 20%

Class participation/Attitude: 30%

Assignments/Quizzes/SALC: 30%

Final Exam: 20%

Please note:

.According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.

.Late homework will not be accepted without a valid reason. If you are absent, ask a friend or the instructor about the assignment.

.Students who plagiarize can fail the course.

〔履修のポイント・注意点〕
Students will be required to read 2 to 5 Graded Readers from the library Self-Access Learning Center, to listen to the accompanying CDs, and to start a Vocabulary Notebook.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
English Study Skills and Reading and Vocabulary I are prerequisites for this course.

英語スタディースキルズとリーディング＆ボキャブラリーⅠを履修していることが、この講座の必須条件である。

L48201

科　目　名	ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ ＆ﾎﾞｷｬﾌﾞﾗﾘｰⅢ
	Reading and Vocabulary III
教　員　名	Harry Harris

〔講義目的〕
This course is the third in a series of English reading courses designed to help students become fluent readers by focusing on strategic learning. Students will work with various texts doing different activities before, during, and after their reading to develop reading comprehension skills. To support English language acquisition, they will increase their vocabulary, learn to recognize the complex nature of reading, and gain improved reading skills through extensive and intensive reading.

〔講義内容〕
In this course, students will work on improvement of the following skills:

.using English text as sources for academic purposes

.identifying patterns of organization in written English

.taking notes from a text

.making inferences about unstated information

.identifying irony and bias

.analyzing and finding support for/against a hypothesis

.applying what they have learned from readings to different activities

.expanding their passive and active vocabulary

Students who successfully complete course requirements will be more able to approach independent learning with a combination of extensive reading and self-study strategies. They should have an improved ability to read for knowledge and enjoyment.

〔講義のすすめ方〕
Class time will include numerous individual, pair, and group English activities based on in-class and out-of-class readings. There will also be periodic quizzes based on the readings and class discussions.

〔教　　材〕
Textbook to be announced

SRA

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be based on the following criteria:

Regular Attendance: 20%

Class participation/Attitude: 30%

Assignments/Quizzes/SALC: 30%

Final Exam: 20%

Please note:

.According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.

.Late homework will not be accepted without a valid reason. If you are absent, ask a friend or the instructor about the assignment.

.Students who plagiarize can fail the course.

〔履修のポイント・注意点〕
Students will be required to read 2 to 5 Graded Readers from the library Self-Access Learning Center, to listen to the accompanying CDs, and to start a Vocabulary Notebook.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
English Study Skills, Reading and Vocabulary I, and Reading and Vocabulary II are prerequisites for this course.

英語スタディースキルズ、リーディング＆ボキャブラリーⅠ、リーディング＆ボキャブラリーⅡを履修していることが、この講座の必須条件である。

L48502

科　目　名	ライティング初級
	Basic Writing
教　員　名	Asha Vannimmen・Harry Harris・Michael Sorey

〔講義目的〕
Basic Writing is the first in a series of four courses designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments. Students who successfully complete Basic Writing should be able to do the following:

ライティング初級は、学術及びその他の分野での英語のライティングスキルを伸ばすために、構成された４コースの最初のコースである。履修学生は以下の事を必要とされる。

Meet deadlines.
作文提出の締切日厳守。

Use basic writing conventions with increasing accuracy and consistency.
正確且つ妥当な英語表現を増やしつつ、基礎的なライティングを学ぶこと。

Use various writing strategies, alone and in cooperation with others, to help formulate ideas, organize writing, and improve it.
考えを明確に表現し、ライティングで整理し、その力を伸ばすために、個人または他の学生と協力しあって様々なライティング技術を使うこと。

Produce coherent paragraphs and short essays with some details and examples appropriate to the assignment, with increasingly complex language.
課題に合った、細かい情報や例などをあげ、複合語を増やしながら、理路整然とした文節や短いエッセイの作成。

Write on topics related to their daily lives.
履修学生の日常生活に関連した課題のライティング。

〔講義内容〕
Students will be asked to write multiple drafts based on models of six rhetorical patterns that will be introduced during the semester. They will also be asked to keep journals, write e-mail, and do other assignments. In class, students will participate by doing individual and group work. The instructor will provide both written and conference-style feedback.

学期の間に学ぶ６つの修辞形のモデルに基づいて、履修学生は多数の原稿を提出しなければならない。日記をつけたり、Ｅメールを書いたり、その他の課題も求められる。個人作業とグループ作業の両方をしながら、クラス参加をする。講師は文書や会議のようなスタイルで指導意見を伝え、講義を進行する。

〔講義のすすめ方〕
CLASS 1: Course introduction; journal partner set up; title exercise
HOMEWORK: JOURNALS

CLASS 2: Precis introduction; brainstorming
HOMEWORK: DRAFT 1 PRECIS; JOURNALS

CLASS 3: Peer evaluation; connector handout; FANBOYS; punctuation handout 1
HOMEWORK: DRAFT 2 PRECIS; JOURNALS

CLASS 4: Spatial description introduction; Introduction/Conclusion handout; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 SPATIAL DESCRIPTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 5: Peer evaluation; punctuation Group B connectors; Punctuation handout 2
HOMEWORK: DRAFT 2 SPATIAL DESCRIPTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 6: Personal description introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 PERSONAL DESCRIPTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 7: Peer evaluation; Group C connectors; punctuation handout 3
HOMEWORK: DRAFT 2 PERSONAL DESCRIPTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 8: Chronological introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 CHRONOLOGICAL; REWRITES; JOURNALS

CLASS 9: Peer evaluation; punctuation handout 4
HOMEWORK: DRAFT 2 CHRONOLOGICAL; REWRITES; JOURNALS

CLASS 10: Process introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 PROCESS; REWRITES; JOURNALS

CLASS 11: Peer evaluation; punctuation handout 5
HOMEWORK: DRAFT 2 PROCESS; REWRITES; JOURNALS

CLASS 12: Prediction introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 PREDICTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 13: Peer evaluation; punctuation handout 6; Catch-up work
HOMEWORK: DRAFT 2 PREDICTION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 14: Conferencing; Catch-up work
HOMEWORK: CATCH UP ON WRITING ASSIGNMENTS

〔教　　材〕
Materials for the course will be teacher-generated.

教材は講師作成のもの

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be determined based on the following criteria:

A. Active Participation: 20% (peer review, etc.)

B. Punctual Assignments: 60% (42% for writing assignments; 18% for journal entries)

C. Regular Attendance: 20%

Students who miss more than one third of class sessions will fail the course. Being late three times will count as an absence. Late means arriving in class after your name has been called. If you are more than 20 minutes late or leave early、you are absent.

下記の基準に基づいて、成績評価を行う。

・出席率　２０％

・クラス活動参加　２０％

・宿題提出の期限厳守　及び最終試験　６０％

本大学の方針により、1/3の講義に欠席した者はこの講義を落第することとなる。更に、履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

1 absence = 95 maximum grade
2 absences = 90 maximum grade
3 absences = 85 maximum grade
4 absences = 80 maximum grade

5 OR MORE ABSENCES = AUTOMATIC FAILURE

L48602

科　目　名	ライティング中級
	Intermediate Writing
教　員　名	Asha Vannimmen・Harry Harris・Michael Sorey

〔講義目的〕
Intermediate Writing is the second in a series of four courses designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments. Students who successfully complete Intermediate Writing should be able to do the following:

ライティング中級は、学術及びその他の分野での英語のライティングスキルを伸ばすために、構成された４コースの第２のコースである。ライティング初級を履修していることが、この講座の必須条件である。　講座履修の為に講師の特別許可が必要となる場合もある。本講座の目的は下記の通りである。

Meet objectives for Basic Writing.
ライティング初級の目的を達成していること。

Demonstrate a growing awareness of reader needs, evaluate their own writing success, and identify and correct some writing problems.
読み手のニーズの深い認識を実際に説明し、自分自身のライティングの正確な評価、及びライティングの間違をある程度見つけ、訂正すること。

Use cohesive devices with increasing accuracy.
より正確な結合法を使うこと。

Paraphrase and summarize with increasing accuracy.
正確な要約や表現の言い換え。

Show some awareness of the appropriateness of formal and informal language to a written context.
文章の内容について、フォーマル、インフォーマルな適切な英語を認識すること。

Write on topics not necessarily related to their daily lives.
日常生活に関連しない課題についての作文。

〔講義内容〕
Students will be asked to write multiple drafts based on models of six rhetorical patterns that will be introduced during the semester. They will also be asked to keep journals, write e-mail, and do other assignments. In class, students will participate by doing individual and group work. The instructor will provide both written and conference-style feedback.

学期の間に学ぶ６つの修辞形のモデルに基づいて、履修学生は多数の原稿を提出しなければならない。日記をつけたり、E メールを書いたり、その他の課題も求められる。個人作業とグループ作業の両方をしながら、クラス参加をする。講師は文書や会議のようなスタイルで指導意見を伝え、講義を進行する。

〔講義のすすめ方〕
CLASS 1: Course introduction; journal partner set up
HOMEWORK: JOURNALS

CLASS 2: Enumeration/Classification introduction
HOMEWORK: DRAFT 1 ENUMERATION/CLASSIFICATION; JOURNALS

CLASS 3: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 ENUMERATION/CLASSIFICATION; JOURNALS

CLASS 4: Cause and Effect introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 CAUSE/EFFECT; REWRITES; JOURNALS

CLASS 5: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 CAUSE/EFFECT; REWRITES; JOURNALS

CLASS 6: Comparison introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 COMPARISON; REWRITES; JOURNALS

CLASS 7: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 COMPARISON; REWRITES; JOURNALS

CLASS 8: Definition by Example introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 DEFINITION BY

EXAMPLE; REWRITES; JOURNALS

CLASS 9: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 DEFINITION BY EXAMPLE; REWRITES; JOURNALS

CLASS 10: Reporting introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 REPORTING; REWRITES; JOURNALS

CLASS 11: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 REPORTING; REWRITES; JOURNALS

CLASS 12: Resume and cover letter introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 RESUME AND COVER LETTER; REWRITES; JOURNALS

CLASS 13: Peer evaluation; Catch-up work
HOMEWORK: DRAFT 2 RESUME AND COVER LETTER; REWRITES; JOURNALS

CLASS 14: Conferencing; Catch-up work
HOMEWORK: CATCH UP ON WRITING ASSIGNMENTS

〔教　　材〕
Materials for the course will be teacher-generated.

教材は講師作成のもの

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be determined based on the following criteria:

A. Active Participation: 20% (peer review, etc.)

B. Punctual Assignments: 60% (42% for writing assignments; 18% for journal entries)

C. Regular Attendance: 20%

Students who miss more than one third of class sessions will fail the course. Being late three times will count as an absence. Late means arriving in class after your name has been called. If you are more than 20 minutes late or leave early、you are absent.

下記の基準に基づいて、成績評価を行う。

・出席率　２０％

・クラス活動参加　２０％

・宿題提出の期限厳守　及び最終試験　６０％

本大学の方針により、1/3の講義に欠席した者はこの講義を落第することとなる。更に、履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

1 absence = 95 maximum grade
2 absences = 90 maximum grade
3 absences = 85 maximum grade
4 absences = 80 maximum grade

5 OR MORE ABSENCES = AUTOMATIC FAILURE

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
Basic Writing is a prerequisite for this course. The course may also be taken upon special permission from the instructor.

ライティング初級を履修していることが、この講座の必須条件である。　講座履修の為に講師の特別許可が必要となる場合もある。

L48701

科　目　名	ライティング上級
	Advanced Writing
教　員　名	Harry Harris・Lorraine Reinbold

〔講義目的〕
Advanced Writing is the third in a series of four courses designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments. Students who successfully complete Advanced Writing should be able to do the following:

ライティング上級は、学術及びその他の分野での英語のライティングスキルを伸ばすために、構成された４コースの第３のコースである。ライティング初級と中級を履修していることが、この講座の必須条件である。　講座履修の為に講師の特別許可が必要となる場合もある。本講座の目的は下記の通りである。

meet the Intermediate Writing objectives,
ライティング中級の目的を達成している、

use a greater variety of cohesive devices with increasing accuracy,
より正確且つヴァラエティに富んだ結合法を使う、

write on a greater variety of topics not related to their daily lives,
日常生活から離れた種々な課題について作文を書く、

gauge the need for simple or complex structures in a writing context,
作文の分脈や内容により、簡単又は複雑な文章構成の必要性を判断す、

use similes, metaphors, and basic analogies,
直喩、比喩、基本な類似を使う、

use more elaborate supporting details and examples appropriate to the needs of the assignment,
宿題の課題の必要性に適した、より精巧な説明詳細や例を使う、

use formal or informal language and styles in their writing with some appropriateness and recognize it in that of others.
適確な作文でフォーマル、インフォーマルな英語の単語と文章表現を使い、他者の文書でその使い分けを認識する。

〔講義内容〕
Students will be asked to write multiple drafts based on models of six rhetorical patterns that will be introduced during the semester. They will also be asked to keep journals, write e-mail, and do other assignments. In class, students will participate by doing individual and group work. The instructor will provide both written and conference-style feedback.

学期の間に学ぶ６つの修辞形のモデルに基づいて、履修学生は多数の原稿を提出しなければならない。日記をつけたり、E メールを書いたり、その他の課題も求められる。個人作業とグループ作業の両方をしながら、クラス参加をする。講師は文書や会議のようなスタイルで指導意見を伝え、講義を進行する。

〔講義のすすめ方〕
CLASS 1: Course introduction; journal partner set up
HOMEWORK: JOURNALS

CLASS 2: Persuasion/Argumentation introduction
HOMEWORK: DRAFT 1 PERSUASION/ARGUMENTATION; JOURNALS

CLASS 3: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 PERSUASION/ARGUMENTATION; JOURNALS

CLASS 4: Speculation introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 SPECULATION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 5: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 SPECULATION; REWRITES; JOURNALS

CLASS 6: Analogy introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 ANALOGY; REWRITES; JOURNALS

CLASS 7: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 ANALOGY; REWRITES; JOURNALS

CLASS 8: Analysis introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 ANALYSIS; REWRITES; JOURNALS

CLASS 9: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 ANALYSIS; REWRITES; JOURNALS

CLASS 10: Critical Review introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 CRITICAL REVIEW; REWRITES; JOURNALS

CLASS 11: Peer evaluation
HOMEWORK: DRAFT 2 CRITICAL REVIEW; REWRITES; JOURNALS

CLASS 12: Business letter introduction; brainstorming; conferencing
HOMEWORK: DRAFT 1 BUSINESS LETTER; REWRITES; JOURNALS

CLASS 13: Peer evaluation; Catch-up work
HOMEWORK: DRAFT 2 BUSINESS LETTER; REWRITES; JOURNALS

CLASS 14: Conferencing; Catch-up work
HOMEWORK: CATCH UP ON WRITING ASSIGNMENTS

〔教　　材〕
Materials for the course will be teacher-generated.

教材は講師作成のもの

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be determined based on the following criteria:

A. Active Participation: 20% (peer review、etc.)

B. Punctual Assignments: 60% (42% for writing assignments; 18% for journal entries)

C. Regular Attendance: 20%

Students who miss more than one third of class sessions will fail the course. Being late three times will count as an absence. Late means arriving in class after your name has been called. If you are more than 20 minutes late or leave early、you are absent.

下記の基準に基づいて、成績評価を行う。

・出席率　２０％

・クラス活動参加　２０％

・宿題提出の期限厳守　及び最終試験　６０％

本大学の方針により、1/3の講義に欠席した者はこの講義を落第することとなる。更に、履修学生の学習機会を増すために、常時出席を薦める。

1 absence = 95 maximum grade
2 absences = 90 maximum grade
3 absences = 85 maximum grade
4 absences = 80 maximum grade

5 OR MORE ABSENCES = AUTOMATIC FAILURE

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
Basic and Intermediate Writing are prerequisites for this course. The course may also be taken upon special permission from the instructor.

ライティング初級と中級を履修していることが、この講座の必須条件である。　講座履修の為に講師の特別許可が必要となる場合もある。

L49001

科　目　名	ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾗｲﾃｨﾝｸﾞ
	Academic Writing
教　員　名	Lorraine Reinbold

〔講義目的〕
Academic Writing is the fourth in a four-course series designed to help students develop English writing skills for use in academic and other environments. Students who successfully complete Academic Writing should be able to do the following:

A. meet the Basic, Intermediate, and Advanced Writing objectives;

B. write, minimally, a five-page research paper (double-spaced, on A4 paper) in English;

C. find and use evidence in support of their ideas, to include

1. locating reference materials in the library and on the Internet,
2. taking notes from different sources for use in their writing,
3. creating a bibliography for a research paper in the APA format with references in English or Japanese,
4. recognizing plagiarism and knowing how to avoid it,
5. paraphrasing/summarizing material from references,
6. integrating quotations from references into an argument;

D. read more critically, to include

1. distinguishing facts from opinion,
2. analyzing the logic in written arguments,
3. identifying the point of view of an essay,
4. outlining the organization of an essay;

E. explain their conclusions in a short oral presentation.

〔講義内容〕
This course is designed to teach students research skills, to select references, to review the use and paraphrase of quotations, to summarize content, to organize a bibliography, and to complete a 5-page research paper in English.

〔講義のすすめ方〕
CLASS 1　Parts of a research paper; APA template

CLASS 2　Preparation for library tour; bring three potential topics

CLASS 3　Library tour; bring practice bibliography of 3 types of items

CLASS 4　Refinement of topic into a thesis; bring preliminary bibliography

CLASS 5　Research paper outlining; bring a thesis statement

CLASS 6　Introductory paragraph work; bring rough outline

CLASS 7　Quotations; bring topic sentences, note cards, and quotations

CLASS 8　Work in progress; bring first draft

CLASS 9　Work in progress

CLASS 10 Work in progress; bring second draft

CLASS 11 Work in progress; bring third draft

CLASS 12 Work in progress

CLASS 13 Oral presentations

CLASS 14 Oral presentations

〔教　　材〕
David E. Kluge & Matthew A. Taylor. Basic Steps to Writing Research Papers. Tokyo: Centage Learning, 2007.

Other, teacher-provided, materials

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be based on the following criteria:

A. Active Participation: 20%

B. Punctual Assignments: 60%

C. Regular Attendance: 20%

Students who miss more than one third of the class will fail the course. Being late three times will count as an absence. Late means arriving in class after your name has been called. If you are more than 20 minutes late or leave early, you are absent.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
Basic, Intermediate, and Advanced Writing are prerequisites for this course. The course may also be taken upon special permission from the instructor.

ライティング初級、中級、上級を履修していることが、この講座の必須条件である。講座履修の為に講師の特別許可が必要となる場合もある。

L49501

科　目　名	英文法Ⅰ
教　員　名	向井　千代子

〔講義目的〕
中学校から高等学校初期程度の基礎英文法の知識の再修得を目的とする。英検準二級程度の英語基礎力を身につけるためになるべく多くの練習問題に取り組む。

〔講義内容〕
主に扱う文法事項は、品詞、文の構造と種類、時制、受動態、動名詞、不定詞、接続詞など。特に動詞の用法に中心を置く。文法項目についての教員による説明の後、簡単な練習問題を解き、簡単な読解問題に取り組む。

〔講義のすすめ方〕
まず最初に各文法事項の説明に続いて練習問題を解いていくという形で行なう。教科書の練習問題は少ないので、適宜補足する。またリーディングの問題を通じてある程度の基礎的な語彙力を身につけるようにする。

〔教　　材〕
Mastering Basic English Grammar (成美堂)

〔成績評価の方法・基準〕
小テストを含むテストの点数　50％
平常点（授業中の態度や宿題の提出頻度）　30％
出席点　20％
以上を基準としての総合評価。

〔履修のポイント・注意点〕
英文法は英語を読み、聞き、話し、書く上での要となる科目である。授業内で学ぶことだけで満足せず、自主的に参考書を手に入れて勉強し、力をつけて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
英文法の基礎。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英文法Ⅱ、英文法Ⅲ。

L49601

科　目　名	英文法Ⅱ
教　員　名	小林　正人

〔講義目的〕
「英文法Ⅱ」では、「英文法Ⅰ」で確認した英文法の基礎の上に、より細かな文法事象に焦点を当て、その文法事象の背後にある文法のしくみを考える。

〔講義内容〕
本講義では、省略、分裂文、限定と叙述、従属節、冠詞、数、アスペクト、関係節といった文法現象を毎回一つ取り上げ、それに関する問題を解くとともに、「なぜそのようなことが起こるのか」を考察する。

〔講義のすすめ方〕
毎回設定したトピックについて講義と実習を行い、宿題を課す。

〔教　　材〕
初回授業で指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席・宿題　50%、学期末試験　50%

〔科目内容の位置付け〕
英文法の中級科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「英文法Ⅰ」を履修していることが望ましい。
「英語学概論」の内容と一部関連している。

L49701

科　目　名	英文法Ⅲ
教　員　名	新川　清治

〔講義目的〕
基本的な文法事項から微妙な語法の違いまで自分で調べられるようにし、それを効果的に説明できるように訓練する。

〔講義内容〕
生徒の質問に答えるという設定で、指定された質問を各自調べ、解説する。

〔講義のすすめ方〕
事前に指定した質問を各自調べ、それを授業で解説し、他の学生からの質問を受ける。

〔教　　材〕
使用しない。参考図書に関しては授業時に紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
模擬授業　40%
定期試験　60%

〔履修のポイント・注意点〕
時間の制約があるので、授業内で身につけられる知識には限界がある。このクラスでは文法事項を教えることよりも文法の調べ方や考え方の指導に焦点を当てる。

〔科目内容の位置付け〕
受講者の準備次第で初級にも上級にもなり得る。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英文法Ⅰ、Ⅱ

L50001

科　目　名	英語学概論
教　員　名	小林　正人

〔講義目的〕
　英語の綴りや語順など文法事項の背後にある原理を研究するのが英語学である。
　この授業では、英語学の基本的な考え方を身につけ、言語についての科学的な言説と非科学的な言説を区別できるようにする。
　英語を教える立場で、「浴びるほど英語を聞けば発音がよくなる」とか「日本語は論理的な言語ではない」といった言説に対して、言語学的な答えができるようにし、語学教育者としての基本的教養を作ることを目指す。

〔講義内容〕
　言語学の知見に基づいて、語の内部構造、語順の原理、意味論と談話分析、英語の史的変遷を順に取り上げていく。

講義の予定：
第１回　形態論
第２回　形態論
第３回　形態論
第４回　統語論（生成文法）
第５回　統語論（生成文法）
第６回　統語論（生成文法）
第７回　統語論（機能主義）
第８回　統語論（機能主義）
第９回　統語論（機能主義）
第10回　意味論
第11回　語用論
第12回　英語史
第13回　音韻論
第14回　音韻論

〔講義のすすめ方〕
　毎回教科書の指定箇所を読み練習問題を解いたことを前提として受講者は授業に臨む。
　授業においては宿題の解説の後、講義に進む。

〔教　　材〕
西光義弘編『日英語対照による英語学概論』くろしお出版。

〔成績評価の方法・基準〕
出席・発表　50%、学期末試験　50%。

〔履修のポイント・注意点〕
受講者は教科書の指定箇所を読み、練習問題を解いた上で授業に臨むことが求められる。初回授業では p.48－62 が指定箇所である。

〔科目内容の位置付け〕
英語学の入門科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
なし。英語学のうち音声学と社会言語学に関しては、「音声学」で取り扱う。

L50501

科　目　名	音声学演習
	English Pronunciation
教　員　名	Lorraine Reinbold

〔講義目的〕
The purpose of this course is to provide students with a basic knowledge of the sound system of English. Students will learn how to listen to and pronounce the sounds of English more accurately、and practice words and short sentences with particular reference to pronunciation problems that Japanese people may have. They will also learn to speak more efficiently by using the right rhythm, a change in pitch, or stress. Students who successfully complete English Pronunciation should be able to communicate more easily and clearly in English.

〔講義内容〕
Students will cover the following areas in class:

● Syllables
● Vowels and vowel rules
● Consonants
● Continuants and stops
● Word stress
● Emphasizing content words
● De-emphasizing structure words
● Linking words
● Thought groups
● Rhythm、intonation、pitch、and melody

〔講義のすすめ方〕
Class work will mostly consist of formulating sounds, reviewing important points in the textbook, and pair activities.

〔教　　材〕
Clear Speech: Third Edition
Judy B. Gilbert
Cambridge University Press
2005

〔成績評価の方法・基準〕
Grades will be determined based on the following criteria:
● Regular Attendance 30%
According to university policy、students who miss more than 1/3 of class sessions will not pass the course. Being late three times will count as one absence.
● Active Participation 20%
● Assignments and Final Exam 50%
No late homework will be accepted. If you are sick、ask a friend or the instructor about the assignment.

〔履修のポイント・注意点〕
To master a new sound, it is necessary to practice it 1000 times! It is important to speak loudly and enunciate clearly.

L51001

科　目　名	音声学
教　員　名	小林　正人

〔講義目的〕
英語の音声の特徴や、日本語と英語の音声の違いを、理論と音声分析によって学びながら、実際に聴き取りと発音の練習をすることで、理解力と発音を向上させることを目指します。

〔講義内容〕
1．IPA（発音記号）をマスターしよう
2．Speech Analyzer による音声の分析
3．自分の発音を分析しよう
4．音声スペクトログラフィー
5．アクセント、イントネーションとリズム
6．単語がつながって起きる変化
7．音の変化を法則化すること
8．音組織から見た日本語と英語の違い
9．注意すべき母音、子音の発音
10．読み方を注意すべき単語
11．接辞と発音の変化
12．アメリカ英語の方言
13．社会言語学

〔講義のすすめ方〕
授業は、英語の音声についての講義の部分と、聴き取り練習、発音練習、音声分析といった作業や実習の部分から成ります。
聴き取りや音のスペクトル分析、宿題提出などではコンピュータを使用します。

〔教　　材〕
プリントを配布します。
『LDC アメリカ英語読み上げ辞典 インターネット版』やラジオドラマ、ビデオなどを使用。

〔成績評価の方法・基準〕
出席点　50%
　試験　50%

〔履修のポイント・注意点〕
実習など参加しなければ学べない内容が多いので、出席が重要です。
やむをえず欠席する場合は、事前または直後に連絡して指示を受けてください。

〔科目内容の位置付け〕
この授業は英語の発音のしくみを学ぶものであり、「音声学演習」とあわせて履習するといっそう効果的です。
一年生にとっては難解に思える内容もありますが、英語の聞き取りや発音を練習していく上で、いずれ役に立つときがくると思います。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英語とコンピュータのどちらに関しても、特別な知識は必要としません。

L51501

科　目　名	英文学概論
教　員　名	向井　千代子

〔講義目的〕
イギリス文学の歴史についての概括的な基礎知識を獲得することを目的とする。シェイクスピアやミルトン、ディッケンズなどイギリス文学を代表する作家たちの作品に接して理解すると共に、イギリスの歴史や社会についての知識を修得する。

〔講義内容〕
イギリスの歴史、社会の紹介を含めて、イギリスの主な文学作品と作家についての紹介を講義形式で行う。シェイクスピアから始まって20世紀までの代表的な作家と作品を扱う。学生たちには作品の一部を実際に読むことを通じて、文学の魅力を味わっていただきたい。

〔講義のすすめ方〕
イギリスの歴史に沿ってその時代時代の主な作家と作品を紹介する形で進めていく。
　大体の講義概要は以下のようになる。
1．古英語時代からチョーサーまで。
2．シェイクスピアを中心に。
3．ミルトン、ドライデン。
4．リチャードソン、フィールディング。
5．ロマン主義の詩人たちと恐怖小説。
6．オースティン、ディッケンズなど。
7．テニスン、ブラウニング。
8．ハーディー、オスカー・ワイルド。
9．フォスター、ウルフ、ジョイスなど。
10. T.S. エリオット、イエイツ。
11. アイリス・マードックから現代の小説家たち。
　毎回作家の紹介とともに作品の一部を実際に鑑賞することにより英文学の作品にじかに触れるようにする。

〔教　　材〕
　教科書は使用しない。

〔成績評価の方法・基準〕
平常点（授業中の態度と感想文）　30％
出席点　20％
テストまたは感想文　50％
　以上を基準点としての総合評価。

〔履修のポイント・注意点〕
これは英語教師として最低限の常識に属することを学ぶ科目である。楽しみつつ学んで欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
英文学の基礎知識。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
米文学概論。

L52001

科　目　名	米文学概論
教　員　名	針生　進

〔講義目的〕
米文学にかかわる一般常識をもっていただく。親しみやすいこともあり、小説作品を主にとりあげる。

〔講義内容〕
文学作品にだけ限った文学論に終始すれば飽きられてしまうだろうし、こちらも話しにくい。アメリカ史という文脈を常に意識して講義をすすめていきたい。いいかえれば、そして理想をいえば、個々の文学作品を通じてアメリカという国の歴史の流れを少しでも理解していただければと思う。

〔講義のすすめ方〕
いわゆる文学など見当たらない17世紀の植民地時代から、まず話しはじめる。各週ごとの講義内容の予定を表題という形でまとめて並べれば、以下のようになろうか。

第一回：マサチューセッツ植民地とピューリタニズム
第二回：Ｗ．アーヴィングと伝説の谷間
第三回：Ｊ．Ｆ．クーパーと開拓地
第四回：エマスン、ソロー、自然
第五回：ホーソンと暗い森
第六回：メルヴィルと白い鯨
第七回：ポーとアメリカンゴシック
第八回：ハックルベリー・フィンを知っているか

これ以降につづく細かい講義区分は未定だけど、半期科目という制約もあり、20世紀半ばあたりまで見られればいいだろう。
作品名や作者名を並べるだけの講義にはしたくないので、原作からの引用も頻繁に行いたい。とはいっても、そのごく一部しか教室ではとりあげられないので、受講生には、翻訳でよいので（興味を感じたものだけでも）各作品に直接ふれることを期待する。そのためにも、翻訳があり、かつ本学図書館に蔵書がある、あるいは文庫本などで購入しやすい作品を主にとりあげていきたい。

〔教　　材〕
特に教科書は使わない。こちらでまとめた教材を配付する。

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験を学期末の定期試験期間内に行う。これは、いかに多くの正確な知識を身につけたかを問うもので、個人の感想や見解を求めるものではない。この試験の結果が成績評価に大きく関わる。結果が思わしくない場合でも、レポートなどを提出させて試験の点数に加算、換算するような措置は講じない。出席状況が最終評価にしめる割合も少なくない。強いて数値であらわせば、
　試験の得点：75％
　出席率　　：25％
ぐらいなるだろうか。ただし、あくまで単純計算のための数値をあげれば、である。

〔履修のポイント・注意点〕
受講に際して予備知識の有無は特に問わない。というより、くり返せば、そのような知識をあたえるのがこの講義の目的である。

〔科目内容の位置付け〕
教職課程の受講生には、これは必修科目ということだが、こちらとしては、そのような意識は特にもたずに、一般学生に聞いてもらうという感覚で講義をすすめていく。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「文学Ａ」、「文学Ｂ」

L52501

科　目　名	英米文学A
教　員　名	向井　千代子

〔講義目的〕
20世紀の英米の作家の紹介と、文学作品の読解力の養成。

〔講義内容〕
　英米のよく知られた作家による短編小説を読む。短いものは一回で、長いものは2、3回で読みきる予定。最初のうちは短い英文で要旨を書く練習を入れる。内容理解のためのディスカッションと読みの練習、慣れてきたらより分析的に読む練習をする。文学を読む場合は、語句の理解以外に背景となる時代や国、文化の理解というものが必要になってくるので、その面にも注意しつつ授業を進めて行きたい。

〔講義のすすめ方〕
毎回決められた分量を各自で読んできた上で、議論をするという形の授業。慣れてきたらレポーターを決めてレポーター中心の授業にしていく。

〔教　　材〕
　未定。

〔成績評価の方法・基準〕
授業内評価（１００％）。授業内評価には、授業態度、授業中の学習意欲、授業内の小テスト、出席などが含まれる。

〔履修のポイント・注意点〕
文学への興味があり、読解力をつけたい人に向いている科目である。教科書以外にも同じ作家の作品にに当たってみると楽しいと思う。

〔科目内容の位置付け〕
中級程度の英文読解。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英文学概論、米文学概論、英米文学 B。

L52601

科　目　名	英米文学Ｂ
教　員　名	向井　千代子

〔講義目的〕
英米の詩およびエッセイを読み、文学作品への読解力を高める。

〔講義内容〕
英米の詩を読み、詩の独特の表現形式に親しむ。詩（韻文）だけでは物足りないと思うので、その他にエッセイをいくつか読む。取り上げる詩人は現在考慮中であるが、ロマン派の詩人あるいは20世紀の英米の詩人の詩を読む。エッセイについては20世紀の英米の作家の書いたものの中から適宜選んで読む予定。読んで内容を理解するだけではなく、詩の技法を理解したり、音声的な魅力を味わったりすることも大切である。また子供向けの詩である『マザーグース』の詩も紹介する予定である。

〔講義のすすめ方〕
授業の初めには教員が詩人や作家についての解説をするが、中心は参加する学生であるので、各自が毎回決められた詩とエッセイを読んできた上で、感想やディスカッションを中心とした授業をする。
慣れてきたらレポーターを決めて、レポーターの発表を中心とした進め方に変えていく。

〔教　　材〕
未定だが、教材としては詩を中心としたものを使い、エッセイは教員が毎回プリントを用意する。

〔成績評価の方法・基準〕
授業内評価（１００％）。授業内評価には、授業態度、授業中の学習意欲、授業内の小テスト、出席などが含まれる。

〔履修のポイント・注意点〕
学生を中心とした授業であるので、毎回予習を欠かさないようにしてください。授業への積極的な参加が求められる授業であるので、そのつもりで履修のこと。

〔科目内容の位置付け〕
英米の詩のさまざまな形態に触れ、エッセイを通して読解力の養成を図る。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英文学概論、米文学概論、英米文学Ａ。

L52701

科　目　名	英米文学 C
教　員　名	Jeffrey Miller

〔講義目的〕
[Course Objectives]
Postmodern Literature in English, the third and final course of English and American Literature, focuses on contemporary works in English (since 1945) by chiefly non-UK or US authors, mostly still writing today. The course will be taught entirely in higher-level English by a native-speaker to better acquaint future elementary and secondary English teachers with current 21st century issues from a wide variety of writing (from different backgrounds). Through extensive reading of many shorter works, the students' English ability and vocabulary will significantly expand, as will their understanding and sensitivity to different cultures in today's complex international English world.

Furthermore, Postmodern Literature in English, will provide students with opportunities to - in English - discuss, research, and present on postmodern English literature topics of personal interest.

〔講義内容〕
[Course Contents]
In Postmodern Literature in English students will do the following:
・Link themes from pre-1945 English and American Literature (the English and American Literature A and B courses) to contemporary concerns,
・Read, report on, and discuss selected original English shorter postwar works by non-UK or US authors from Asia, Africa, the Caribbean and Latin America,
・Use appropriate Hakuoh library 'graded readers' to improve understanding speed and comprehension skills without extensive dictionary reliance,
・Expand English vocabulary by keeping a collocation-based vocabulary notebook based on current high-frequency usage,
・Research (in English) and write a three-page (750, or more, word) paper - complete with proper citations - on any of the authors, literary background issues, or subsequent developments from selected works read,
・Develop a sensitivity to other postmodern English-using cultures while learning about (and possibly experiencing) contemporary literature aesthetically.

A mixture of traditional lecture (in higher-level English), oral readings from key works, student discussion, outside reading (with collocation-based contempory vocabulary study) and term-paper research will characterize the class.

〔講義のすすめ方〕
[Course Progress]
The class will meet weekly to discuss specific works or broader trends from the assigned outside reading and vocabulary study. Students MUST complete the weekly reading homework, reflect on the work, and come to class ready to discuss the ideas contained in the work. (The class periods will spend almost no time "explaining what happened in the story.") Hopefully, some students will also be able to relate ideas learned in English and American Literature A and B, however those classes are not necessary to take this course.

As mentioned above, all students must research, write (including proper citation), and submit a three-page term-paper on a subject of their selection by the day of the final exam. The final exam will cover general material from the postmodern English literature canon.

〔教　　材〕
[Course Materials]
There is no single textbook, but the instructor will choose shorter works, sections of longer works, and background material. Photocopies will be distributed whenever possible. Also, certain books will be put on reserve in the Hakuoh Library for students to read there (thus allowing everyone access to the material). All students are expected to bring their collocation-based vocabulary notebooks to class each time.

〔成績評価の方法・基準〕
[Course Grading]
Class participation in weekly discussions, pop

quizzes, regular collocation-based vocabulary work, and occasional presentations will make up 25% of the grade. Regular attendance will be 25% of the grade, and the term-paper and final exam will each make up 25% of the grade.

〔履修のポイント・注意点〕
[Successful Study Points]
For the class to be “enjoyable” and “informative” students MUST do the assigned reading and actively discuss in class. A strong “Yes, we can” attitude will enable each student to succeed, and have fun time doing so. The opportunity to do your own research (without plagiarizing) in English will help prepare students who wish to go to graduate school.

〔科目内容の位置付け〕
[Related Subsequent Courses]
Students who have not taken English and American Literature A and B, or English Speaking Area Studies, are strongly encouraged to do so after completing this course.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
[Prerequisites]
None. However, English and American Literature A and B, as well as English Speaking Area Studies, are strongly recommended.

L53001

科　目　名	異文化理解
教　員　名	宮里　恭子

〔講義目的〕
日米比較文化をテーマに、リーディングやディスカッションを通して異文化及び自文化を認識し理解を深めることを目的とする。

〔講義内容〕
授業は、前半はテキストを使って英語による読解を行う。後半は主にグループでのディスカッションやスキット、ロールプレイなどを通して自分の意見を発表しあう場とする。扱うトピックは次の通り。

1．Equality and seniority
2．
3．Informality and formality
4．
5．Directness and indirectness
6．
7．Individualism and groupism
8．
9．Independence and dependence
10.
11. Competition and harmony
12.
13. Privacy and community
14. In-class test

〔講義のすすめ方〕
前半は教師によるミニレクチャー、テキスト解説、後半はグループ・クラスでのディスカッションやアクティビティーなどの学生参加型授業。1回で1単元ずつ進んでいく予定。

〔教　　材〕
Discover Your Own Culture－自文化再発見
Wayne Sumida、Kyoko Miyazato 著　英宝社

〔成績評価の方法・基準〕
出席・授業貢献　20%
スキット・発表　30%
In-class exam　30%
エッセイ　20%

〔履修のポイント・注意点〕
* ディスカッションやアクティビティーを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する。
* 毎回始業時に出席をとる。遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、4.5回以上欠席の場合は、Ｈとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価Ｂ以下となる。
* ディスカッションを毎回行うので、積極的に自分の意見を述べるだけでなく、他人の意見にも真剣に耳を傾ける姿勢をもってもらいたい。
* リーディング部分の予習が前提となるので欠かさないで自宅学習すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
できる限り、異文化コミュニケーション論を履修する前に履修しておくことが望ましい。

L53501

科　目　名	異文化間コミュニケーション論
教　員　名	宮里　恭子

〔講義目的〕
21世紀に暮らす私たちはグローバリゼーションの時代を生きている。つまり、私たちの実生活において、海外勤務などや国内においても多様な外国人と働き暮らす可能性が高くなることを意味する。その際、異文化による摩擦を回避し適切に対応していく能力を培うことが重要であることは言うまでもない。このコースでは、異文化への認識、知識、感情、適応スキルをテーマに、教師によるレクチャー、及び、学生参加型の体験学習を通して、これらの問題を探求する。

〔講義内容〕
以下のテーマについて、前半は教師による知識伝授型のレクチャーを通して、異文化について多様な角度から考察する。後半はグループでの討論、ペアワーク、クラスディスカッションなどを通して、学生参加型の体験学習を行う。

1. 異文化、自文化の Awareness（認識）
2. 文化についての Knowledge（知識）
3. culture shock、identity crisis などの文化的価値観と Emotions（感情）
4. 異文化による誤解時の適応 Skills、Training（スキル）

〔講義のすすめ方〕
前半は教師のレクチャーによる知識伝授型、後半はグループやクラス全体によるディスカッションやアクティビティーなどの学生参加型授業。

〔教　　材〕
異文化トレーニング --- ボーダレス社会を生きる
　　八代他著　三修社

〔成績評価の方法・基準〕
　普段の授業での貢献度などの平常点、及び、出席なども加味して最終の判定を行う。目安としては次のようになるが、詳しくは初回時に詳しく説明する。

プレゼン	30%
試験	50%
平常点・授業貢献度	10%
出席率	10%

〔履修のポイント・注意点〕
* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、4.5回以上欠席の場合は、Ｈとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価Ｂ以下となる。
* ディスカッションやアクティビティーを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
異文化理解を履修していることが望ましい。

L54001

科　目　名	英語圏地域研究
	English Speaking Area Studies
教　員　名	Jeffrey Miller

〔講義目的〕
[Course Objectives]
English Speaking Area Studies（英語圏地域研究）traces the development of English and its spread around the world into eight main branches. To understand the English world of today and tomorrow、we must know how the language came into being、how it has changed、and how it is likely to change in our lifetimes.

Furthermore、English Speaking Area Studies provides students with an opportunity to discuss、research、and present about English language topics of personal interest.

〔講義内容〕
[Course Contents]
English Speaking Area Studies（英語圏地域研究）begins with an overview of the 1、500 years of English language evolution and spread from the UK、to the US、Canada、Ireland、Australia、New Zealand、South Africa、and the Caribbean for background. However、the focus of the course is not on the past but how today's English is continuing to change. Also、how these changes、such as"World Englishes" and EU English、affect our present and future world - especially here in Asia.

Print and broadcast media materials will be used to introduce problems and trends in international English for discussion. By the fourth week、students will select a research topic for their oral presentations and written research papers due at the end of the term. There will be no single textbook、however the instructor will select appropriate print and video material. Students will be required to make an five-minute presentation (with PowerPoint or handmade visual aids) and write an original three-page (750、or more、word) research paper、in English、based on a topic of their choice.

A mixture of lecture (in intermediate level English)、video、student discussion、individual research on a topic of interest、and student presentations will characterize the class.

〔講義のすすめ方〕
[Course Progress]
The class will meet once a week for a semester. For the first few classes、lectures、outside reading、and video excerpts will provide the necessary information on the historic development of English. However、the main focus of the class is English language in the postwar and especially post2000 period、and how the language will change in the future. For these important questions、seminar-style discussions and research presentations will be used. Therefore、students are expected to be interested in and reasonably well informed about major world events.

As explained above、English Speaking Area Studies requires students to do their own research for a presentation and three page English term paper on a subject they are interested in. There also will be a final exam.

〔教　　材〕
[Course Materials]
There is no one textbook、but the course will use instructor-written and selected printed as well as video materials (such as selections from the PBS video"The Story of English"). Students are expected to take notes during lectures and when viewing video clips、as well as to keep all distributed material in a folder that they bring to class each time.

〔成績評価の方法・基準〕
[Course Grading]
The five-minute presentation of individual research topics will make up 20% of the overall grade. The three-page (750、or more、word) research papers on the same topic will also be 20　% of the overall grade. Attendance will be 30 % of the grade; and、a short comprehensive final examination will also be 30 % of the total grade.

〔履修のポイント・注意点〕
[Successful Study Points]
This course should be both "enjoyable" and "informative" as well as giving students the

opportunity to do original research in English. A strong motivation to both learn much and "have a lot of fun" is key!

As there is much material to cover、regular attendance is vital. Also important is an interest in following world events. And lastly、when doing original research on (for example、the origins and background of McDonald's catchphrase "I'm lovin' it") students must not plagiarize、but cite and adapt other peoples' ideas in their own words.

〔科目内容の位置付け〕

[Related Subsequent Courses]

English & American Literature A、English & American Literature B、and especially English & American C (Postmodern Literature、which will deal with postwar writing in English) are related.

Obviously、this course contains essential background for future Japanese Teachers of English.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕

[Prerequisites]

None. However、as English Speaking Area Studies will be taught in intermediate level English with outside English reading and research required、a reasonably strong command of spoken and written English is necessary.

L54502

科　目　名	英語科教育法Ⅰ
教　員　名	滝沢謙三・宮里恭子

〔講義目的〕
英語科指導法に関する基礎知識と理論を概観し、現在の英語教育のあり方について考察する。下にあげるテーマをもとに英語教育全般の基礎知識を講義形式で学び、ディスカッション等でどのように現場の授業に生かすかを各自考える。
現在、日本の英語教育は、「英語が使える日本人の育成戦略」（2002文部科学省）の枠組みに沿った改革が進行している。英語教育に関する基本的な知識を身につけ、現在日本の英語教育に求められていることが具体的に何なのかを知り、どのようにそれに応えられるのかを考える。

〔講義内容〕
授業では以下のテーマを扱う予定である。
（1）英語教育の目的・学習指導要領
（2）英語の国際化と日本の英語教育
（3）第二言語習得と英語教育
（4）学習者
（5）英語教員
（6）英語教師の役割
（7）早期・小学校英語教育
（8）英語教授法
（9）コミュニケーション能力の育成
（10）４技能（聞き / 話し / 読み / 書く）指導
（11）文法・語彙指導
（12）英語教育の将来に向けて（言語政策、World Englishes など）
その他

〔講義のすすめ方〕
授業は、講義、学生の発表、それとディスカッションから成る。毎回の授業のテーマを前もって指示するので、必ず、テキストを事前に予習しておくこと。オーラル・リポート（発表）や、グループ・クラス全体での討論の場を作るので、積極的な参加を期待する。

〔教　　材〕
「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」望月昭彦　編著　大修館書店　2300円

〔成績評価の方法・基準〕
プレゼンテーション
15%
エッセイ
15%
定期試験
50%
出席率
10%
授業貢献度
10%

〔履修のポイント・注意点〕
* この授業は、英語教員になるための基礎知識を構築するための大切な授業である。この知識なしに、英語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳに進むことはできない。よって、免許取得のために真剣に取り組むべき授業であることを心に留め、全出席を目指してもらいたい。
* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない場合を除き、4.5回以上欠席の場合は、Ｈとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価Ｂ以下となる。
* 授業内容を理解することが大切な科目である。まじめに授業に臨み、各章ごとにきちんと理解しておかないとこの授業をパスすることは難しい。特に前半は理論的枠組みについての講義なのでかなり難しい。後半は、具体的な項目についてのテクニックの紹介となる。定期試験はかなり難しいので、日頃から予習、復習を欠かさないこと。
* ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。クラスでの発言について、授業貢献度のなかで考慮する。

〔科目内容の位置付け〕
教育実習に行くにあたり、最低限の基礎知識となる。英語科教育法Ⅱ及びⅢは、内容・目的ともに直接関連している。

L54601

科　目　名	英語科教育法Ⅱ
教　員　名	滝沢謙三・藤森吉之

〔講義目的〕
このクラスでは、英語で行う各種のコミュニケーション活動を学ぶ。日本の英語教育が目指す「英語が使える日本人」育成のための英語教育では、教室で英語を使うことを通してコミュニケーション能力を養うことが求められている。具体的にどのようなコミュニケーション活動を採用すればいいのかについて学ぶ。さらに、コミュニケーション活動を中心とするミニ模擬授業を行い、ミニ授業終了後、授業分析することで、授業力を養う。

〔講義内容〕
第１回　「英語が使える日本人」の育成のための行動計画（２００３）について
第２～３回　コミュニケーション教育に必要なこと（教室英語、発問スキルやコミュニケーションストラティジーなど）
第４～９回　教室でのコミュニケーション活動紹介（各種ディクテーション、シャドーイング、TPR、インフォメーションギャップ、発音ゲームなど）
第１０～１４回　コミュニケーション活動を使ったミニ模擬授業
第１５回　定期試験

〔講義のすすめ方〕
授業の指示、および、質疑応答の半分を英語で行い、コミュニケーション能力向上を図る。
講義、ディスカッション、教材作り、ミニ模擬授業、全体でのミニ模擬授業の分析など、多面的な学習活動を展開する。

〔教　　材〕
・英語科教育法Ⅰの教材を引き続き使用する
・（推薦辞典）白畑知彦他　『英語教育用語辞典』大修館書店　2500円

〔成績評価の方法・基準〕
レポート（教室英語）　　１回 20%
ミニ模擬授業　　１回　20%
定期試験　　1回 40%
出席率 / 授業貢献度　　20%

〔履修のポイント・注意点〕
* 5回以上欠席の場合は、理由に関わらずＨとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価Ｂ以下となる。
* ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。
* イングリッシュラウンジやセルフアクセスランゲージセンターを利用して英語を聞いたり話したりする経験を増やすこと。
* 英語は実技科目である。教育実習には一定の英語力が必要である。TOEFL450点（英検2級レベル）に到達してから実習に行くように計画すること。

〔科目内容の位置付け〕
この科目の位置づけは、英語科教育法Ⅰの知識をさらに深めると同時に、英語科教育法Ⅲでの模擬授業に備える、知識から実践への橋渡しとなる科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英語科教育法Ⅰ、Ⅲ、Ⅳは、内容・目的ともに直接関連している。

L54701

科　目　名	英語科教育法Ⅲ
教　員　名	滝沢　謙三・藤森　吉之・宮里　恭子

〔講義目的〕
この科目の目的は、中学校または高等学校における外国語としての英語の授業で、学習指導要領に示されている目標を達成するに足る実践的な指導能力を養うことにある。英語指導法に関して英語科教育法Ⅰ、Ⅱなどで学んだ理論と実践を展開し、具体的な授業を想定し、中学校・高等学校の教科書を使用して指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業の後では、批評会を持ち、指導上の諸問題を検討する。検討を重ねることを通して、より効果的な指導技術を身に付けると共に、今後取り組むべき課題を明確にする。
教育実習を想定して実際に自らが授業を行い、また、クラスメートの模擬授業を見て相互に学び合うことで実践的な授業力を養う。

〔講義内容〕
第　1回　シラバス説明
第２～５回　指導案の書き方を学習し、指導案を作成する。導入展開？整理までの一連の授業の流れを計画する。具体的な板書計画、発問計画を立て、適切な補助教材プリントなどを作成する。
（1）ウオームアップ～導入～展開～整理
（2）題材の選定、補助プリント作成など
（3）具体的な板書計画、発問計画など
（4）授業観察の方法（授業チェックリスト）など
第６～１４回　模擬授業を行う。模擬授業の実践を通して、基礎知識の指導、英語によるコミュニケーション能力養成のための指導、教具・教育機器の扱い方、小テスト作成などを実践する。 模擬授業後、全体討論で授業の分析と評価を行う。 さらに、授業に関連した諸問題（教室英語、テームテーチング、コミュニケーション指導、文法指導、楽しい英語授業、わかる英語授業、感動する英語授業、意欲を高める授業等）について問題点と解決策を議論する。

〔講義のすすめ方〕
講義、ディスカッション、模擬授業、全体での模擬授業の分析と評価など多面的な活動をする。講義の運営・指示などの半分を英語で行い、コミュニケーション能力向上を図る。

〔教　　材〕
「中学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省 開隆堂出版　69円
必要に応じてプリント等を随時配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
模擬授業、出席率、授業への貢献度、課題への取組みなど加味して総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
教育実習に備え自らの課題を見つけて自主的にその向上に取り組む（自律学習）ことが大切である。また、イングリッシュラウンジやセルフアクセスランゲージセンターを利用し英語を聞いたり話したりする機会を増やすこと。

〔科目内容の位置付け〕
模擬授業を経験することで教育実習にそなえる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英語科教育法Ⅰ及びⅡは、内容・目的ともに直接関連している。

L54801

科　目　名	英語科教育法Ⅳ
教　員　名	滝沢　謙三

〔講義目的〕
この科目では、英語で授業ができるための授業力を養う。「英語で授業を行う」ことをテーマにして、英語での模擬授業を行う。日本の英語教育が目指す英語教育は、英語教師が教室で英語を使い、生徒が英語を使う各種コミュニカティブな活動を工夫し、英語を使うことを通して英語のコミュニケーション能力を身につけることを目指している。英語で授業を行うための知識とスキルを整理し、実際に英語を使って英語の授業を成立させるためのミニ模擬授業を行う。その際、授業の半分以上で英語を使うことを課題とする。ミニ授業終了後、授業分析についての討論を行う。

〔講義内容〕
第１回　シラバス説明
第２～５回　英語で授業を行うために必要な知識とスキル（教室英語、コミュニケーションストラティジー、英語を使うアクティビティーやタスク）を整理する。
第６～１３回　指導案を作成し、英語を使った模擬授業を行い、模擬授業についてデスカッションする。
第１４回　総括

〔講義のすすめ方〕
「英語で授業を行う」ことを目標にして、教材作りと模擬授業を行うが、全体での模擬授業の分析やデスカッションを通して、実践力を養成する。受講者が大きな声で英語で指示できるようにする。

〔教　　材〕
「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」（２００３、文部科学省）の英語版

必要に応じてプリントを配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
模擬授業、出席率、授業への貢献度、課題への取組みなど加味して総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
* やむを得ない状況を除き、5回以上欠席の場合は、理由に関わらずＨとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価Ｂ以下となる。
* ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。クラスでの発言は授業貢献として評価する。
* 英語は実技科目である。日頃、イングリッシュラウンジやセルフアクセスランゲージセンターを利用して英語を聞いたり話す機会を増やすこと。

〔科目内容の位置付け〕
この科目は、特に「英語を使って」の英語の授業力養成に重点を置く。これは、現在の日本の英語教師の課題となっている。
英語科教育法Ⅳのミラー先生のクラスでは、ほぼすべて英語で授業を行うことにチャレンジし、滝沢担当クラスでは、半分以上を目指す。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、内容・目的ともに直接関連している。

L54802

科　目　名	英語科教育法Ⅳ
	Teaching English as a Foreign Language Methodology IV
教　員　名	Jeffrey Miller

〔講義目的〕
[Course Objectives]
This course is a "hands-on" application of Second Language Acquisition (SLA) theory for elementary and secondary JTEs beginning with the landmark 2003 MEXT "Regarding the Establishment of an Action Plan to Cultivate 'Japanese with English Abilities.'" After a firm grounding in SLA theory, especially as it is applied to Japan's elementary and secondary schools, students will practice how the theories can best be applied to actual classrooms (in light of shifting perceptions of Japanese and East Asian English educational needs).

〔講義内容〕
[Course Contents]
After going through the English (and Japanese) 2003 MEXT "Regarding the Establishment of an Action Plan to Cultivate 'Japanese with English Abilities,'" students will use the 2002 MEXT "Handbook for Team Teaching - revised edition" to conduct JTE - ALT team-teaching model lessons.

Other topics treated in the course include: an overview of postwar English education in Japan (especially focusing on the most recent trends), the role of the JTE in elementary and secondary schools, grammar-based instruction, learner-centered instruction, cooperative learning, pluses and minus of translation into L1, teaching 'oral communication,' teaching reading, elementary school English, English for entrance examinations, communicative textbook evaluation, class management, JTE in-service, dictionary use, etc.

〔講義のすすめ方〕
[Course Progress]
The class will meet weekly for a semester to apply SLA theories to the actual conditions of Japanese elementary and secondary classrooms. Instruction and discussion will be in higher-level English (to further each future JTE's command of and confidence in the language). Although there will be some traditional instructor lecturing, most of the time will be spent with students practice teaching (especially in simulated team-teaching situations).

〔教　　材〕
[Course Materials]
There is no single textbook, but the instructor will photocopy sections from the English 2003 MEXT "Regarding the Establishment of an Action Plan to Cultivate 'Japanese with English Abilities'" and "Handbook for Team Teaching - revised edition." Also, certain books will be put on reserve in the Hakuoh Library for students to read there (thus allowing everyone access to the material).

〔成績評価の方法・基準〕
[Course Grading]
Class participation in discussions, occasional pop quizzes and evaluation of fellow students actual teaching, and regular in-class practice will make up 50% of the grade. Regular weekly attendance will be 20% of the grade, and a final exam will make up 30% of the grade.

〔履修のポイント・注意点〕
[Successful Study Points]
For the class to be “enjoyable” and “informative” students MUST actively try to apply the SLA theories in class. A strong “Yes, we can” attitude will enable each student to succeed, and have fun time doing so.

〔科目内容の位置付け〕
[Related Subsequent Courses]
Students are strongly encouraged to take the related I, II, and III level courses in this series to deepen their knowledge and practical teaching skills. This, the level IV course, will require students to learn how to teach and practice teaching English "in English."

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
[Prerequisites]
None. However, students are strongly encouraged to take the related I, II, and III level courses in this series to deepen their knowledge and practical teaching skills. This, the level IV course, will require students to learn how to teach and practice teaching English "in English."

L55501

科　目　名	教材研究
教　員　名	宮里　恭子

〔講義目的〕
1．教材研究のマクロ的視野として、様々な学校教科書の教材分析と比較研究することにより、それぞれの教科書の言語観・教育観やカリキュラムの相違点を見出し、自分の教育観に照らし合わせる。
2．教材研究のミクロ的ノウハウを学ぶ一環として、授業の補助として使えるさまざまな教材と教具についての知識を深める。
3．批判的教材研究を行い、足りないものを補ったりや省いたり作り変えたりしながら補助教材作りのノウハウを学び、独自の補助教材を作成する。
4．独自教材をマイクロティーチングのなかで実践し教える練習をする。
5．クラスメートのオリジナルな教材やティーチングから学び合う。

〔講義内容〕
1．コース説明・教材研究、教材分析（教：p.191-194）
2．教材評価（教：p. 195-202）
3．教科書教材分析準備（グループ）
4．中学教科書教材研究発表　中1・中2・中3
5．校教科書教材研究発表　oral communication Ⅰ・Ⅱ・reading
6．英語Ⅰ・Ⅱ・writing
7．授業の工夫例
8．補助教材発表（ゲームアクティビティー教材、TT 教材）
9．いろいろな教材（指導用マニュアル、コンピュータ教材）と教育機器・独自
　補助教材作成準備（各自）
10. 独自補助教材発表・マイクロティーチング
11. 独自補助教材発表・マイクロティーチング
12. 独自補助教材発表・マイクロティーチング
13. 独自補助教材発表・マイクロティーチング（6X4=24）
14. ディスカッション：「教科書でおしえる」、授業評価、レポート提出

〔講義のすすめ方〕
講義については、教材論を概観し、各教材の評価・分析などの諸問題についてを中心に学ぶ。クループでそれぞれの教科書教材について長所や改善すべき点などについて考察し、全体での発表・ディスカッションを通してそれぞれの教材に関する特質を探求する。次に、様々なアクティビティーとその目的、やり方などを学習し、最後に自分の言語観に見合うオリジナルアクティビティー作成し、模擬授業を通して発表する。

〔教　　材〕
教材は特に使用しないが、ハンドアウト集を購入すること。最初の授業時にクラスで販売する。

〔成績評価の方法・基準〕
普段の授業での貢献度や小テストなどの平常点、及び、出席なども加味して最終の判定を行う。目安としては次のようになるが、詳しくは担当教員の判定基準に従うこと。

出席	10%
授業貢献度	10%
教科書分析発表	30%
独自教材説明レポート	10%
マイクロティーチング	30%
TT 教材発表	10%

〔履修のポイント・注意点〕
* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、4.5回以上欠席の場合はＨとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価Ｂ以下となる。
* ディスカッションやアクティビティーを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

L56001

科　目　名	コミュニカティブ英語指導法
	Communicative English Teaching
教　員　名	Jeffrey Miller

〔講義目的〕
[Course Objectives]
Communicative English Teaching（コミュニカティブ英語指導法）is designed to provide future Japanese Teachers of English (JTEs) with the confidence and experience to successfully teach English classes in English. This classes will focus on using English as a communicative tool to maximize student classroom "output."

Photocopies of officially approved Ministry of Education and Science (MEXT) junior and senior high school English textbooks and teachers' manuals will be used. Additionally、through extensive interaction with mock Assistant Language Teachers (ALTs)、future JTEs will master the actual give-and-take dynamics of team-teaching as used in Oral Communications classes.

〔講義内容〕
[Course Contents]
Communicative English Teaching（コミュニカティブ英語指導法）is a“hands on" course allowing students to practice teaching using actual junior and senior high school textbooks and teachers' manuals. After a brief theoretical overview、future JTEs will learn how to make lesson plans、design interactive listening and speaking exercises、and effectively control a class.

For the Oral Communication team-teaching situations、the instructor (or Hakuoh foreign exchange students) will act as the ALT for future JTEs to team-teach with in micro-teaching sessions. Other students will be the "learners" and will evaluate the effectiveness of the micro-teaching session.

Official MEXT English curricula for elementary school English will be used as it becomes available. In the interim、current Oyama elementary school English curricula will be used.

〔講義のすすめ方〕
[Course Contents]
The course will meet once a week for a semester and will be taught entirely in intermediate level English. No set textbook will be used but the instructor will provide photocopies of all the needed material. Also、regular visits to the English Lounge and the Hakuoh library's Self-Access Learning Center to practice English will be expected.

The instructor will rarely lecture、but usually coordinate activities that are both learner-centered and output-oriented. As a result、students are expected to actively use the classroom English that they already know with greater accuracy and more natural speed and articulation. Although MEXT approved textbooks and additional print-based material will be used、the thrust of the course is having students master classroom speaking、writing、listening、and reading skills in authentic and natural English.

〔教　　材〕
[Course Materials]
There will not be one fixed textbook but the instructor will photocopy material from a number of sources. In addition to weekly "hands on" practice activities、there will be a final exam based on the distributed material. Therefore、the students are expected to keep all the material in a folder that they bring to class every time.

〔成績評価の方法・基準〕
[Course Grading]
Individual micro-teaching and subsequent evaluation、lesson-plan preparation、MEXT English textbook teacher manual-based homework and class presentations will be regularly graded and make up 50　% of the overall grade. Attendance will be 30　% of the grade and、a final examination will also be 20% of the total grade.

〔履修のポイント・注意点〕
[Successful Study Points]
Regular attendance is the only way to master Communicative English Teaching. Furthermore、learners will be expected to use outside-of-class opportunities like the English Lounge and the Hakuoh library Self-Access Learning Center as much as possible. Also、as teaching is a social skill、aspiring teachers should be active、outgoing、and serious.

Communicative English Teaching（コミュニカティブ英語指導法）should be "enjoyable and fun" as well as beneficial for future JTEs.

〔科目内容の位置付け〕
[Related Subsequent Courses]
教材研究、英語コミュニケーション教育特講、小学校英語教育

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
[Prerequisites]
None

L56501

科　目　名	小学校英語教育
教　員　名	宮里　恭子

〔講義目的〕
1．小学校英語教育の現状と問題点を概観し、その意義と目的を考察する。
2．指導法や評価、TT などの諸問題について学ぶ。
3．児童に適した言語活動やゲームなどについて具体的なやり方を学ぶ。
4．実際のティーチング実践の中で、知識をどう実践の中で活用するか、自らの体験やクラスメートの授業から学び合う。

〔講義内容〕
1．コース説明、小学校英語教育の現状
2．諸外国における小学校英語教育
3．小学校英語教育是非　ディスカッション
4．児童期に適した教授法・指導法（発音訓練/音声指導，classroom English）・諸問題（評価のありかた、TT、求められる資質
5．いろいろなゲーム、言語活動発表・授業順番決定
6．小学校指導要領解説、英語ノート教材研究（カリキュラム、年間指導計画）・指導案づくり・授業実践評価方法・
7．授業実践 5年　単元 1・2・3
8．　　4・5・6
9．　　7・8・9
10．　6年　単元 1・2・3
11．　　4・5・6
12．　　7・8・9
13．　（予備）
14. 授業実践全体評価会、ディスカッション「英語ノートを使った感想、改善の
余地について」、小学校英語教育の将来、授業評価

〔講義のすすめ方〕
コース前半は、小学校の英語教育に対する様々な見解やその位置づけ、各国小学校英語教育の実態、小学校英語教師にもとめられる教師像、TTへの心構え、国際理解・異文化理解授業の長所や問題点などを講義する。
後半は、講義を通して得た言語観を反映しながら、小学校英語教材「英語ノート」を実際に使用してマイクロティーチングを行う。

〔教　　材〕
ハンドアウト集を最初の授業時に購入すること。
推薦図書は
「日本の小学校英語を考える」　バトラー後藤裕子　　三省堂　　2400円
「小学校英語教育の進め方」　　岡・金森編著
　　成美堂　2500円

〔成績評価の方法・基準〕
普段の授業での貢献度や小テストなどの平常点、及び、出席なども加味して最終の判定を行う。目安としては次のようになるが、詳しくは初回授業時に詳しく説明する。

出席	10％
授業態度・貢献	10％
ゲームグループ発表	10％
レポート	25％
マイクロティーチング	25％
指導案	10％
授業後レポート	10％

〔履修のポイント・注意点〕
* 遅刻は30分まで認める。その日のうちに遅刻を自ら申し出ること。後の訂正は原則として認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。やむを得ない状況を除き、4.5回以上欠席の場合は、Hとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価Ｂ以下となる。
* ディスカッションやアクティビティーを毎回行うので、積極的に参加すること。クラスでの発言・参加について、授業貢献度のなかで考慮する。

〔科目内容の位置付け〕
英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

L57001

科　目　名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育特講
教　員　名	滝沢　謙三

〔講義目的〕
今回の英語コミュニケーション教育特講のテーマは「英語コミュニケーション教育の基礎理論からの展開」である。英語コミュニケーション教育の基礎理論を原書文献の抜粋を精読することで学ぶ。また、同時に英語コミュニケーション教育を実践できる力をいかに養うか検討する。この講座を受講することで、英語コミュニケーション教育の基礎理論が理解でき、実践面での自信を深めることができるだろう。

〔講義内容〕
第１回　シラバス説明
第２～３回　コミュニケーション能力の定義（原書講読と整理）
第４～５回　「インプット仮説」（原書講読と整理）
第６～７回　「インターアクション仮説」（原書講読と整理）
第８～９回　「アウトプット仮説」（原書講読と整理）
第１０～１１回　ゲストスピーカー（英語コミュニケーション教育の実践者）から学ぶ
第１２～１４回　英語コミュニケーション・スタイルの特質と英語教育

〔講義のすすめ方〕
１．理論と実践が大切である。そこで、授業の始めに毎回の１分間英語スピーチを練習する（一例、英語授業の教室で生徒に話しかけることを想定して授業の導入や個人的な体験談をスピーチしたり、社会の出来事などを「Asahi Weekly」や「週刊 ST」などの学生向け英字新聞の記事を要約してスピーチしたり、個人的な出来事の報告や感想を述べるなど広範囲なスピーチでよい）
２．原文論文の抜粋の読み合わせは、グループで分担をして担当する。あまり負担にならない分量とする。
３．２００９年度のゲストスピーカー講義は「英語演劇を通して行う英語コミュニケーション教育」（予定）である。
４．英語コミュニケーション・スタイルについては、「英語の空気が読めるか」をテーマにして、コミュニケーション能力の
　一角である社会文化的側面を整理する。
５．受講者には、すすんで下記の実践活動のいずれかに関わることを勧めたい。実践を報告し合い、ディスカッションを行う時間を設ける予定である。
　①スクールサポート事業（小学校・中学校においての学習支援）などの実践活動
　②英語を使う場面を創出する企画（英語合宿、留学生を招いての討論会など）・・・可能なら実践する
　③その他、短期海外研修参加、留学生との交流、地域の国際交流活動への参加など

〔教　　材〕
適宜、プリントを用意する。

〔成績評価の方法・基準〕
プレゼンテーション＆レポート
70%
出席率 / 授業貢献度　　30%

〔履修のポイント・注意点〕
* 理由に関わらず5回以上欠席の場合はＨとなる。また、原則3回以上欠席した場合は総合評価Ｂ以下となる。
* ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。

〔科目内容の位置付け〕
この科目の位置づけは、現代の英語教育が求める英語コミュニケーション能力育成について基礎理論から理解を深めることである。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
英語科教育法、教育実習、卒業研究に関連している。

L57501

科　目　名	英語で話す日本文化
	Japanese Culture in English
教　員　名	Lorraine Reinbold

〔講義目的〕
This course is designed to promote intercultural awareness and successful communication in English for Japanese students. They will practice using the four skills of English (reading, writing, listening, and speaking) and think critically while examining cultural diversity.

Quite often people think of Japanese culture as Tea Ceremony or Kabuki, but culture also includes language, customs, values, and communication styles. Actions of people from different cultures can be misinterpreted and cause friction. With this in mind, the purpose of this course is to enable students to interact with a wide range of people by letting them reflect upon their own culture. By developing self-consciousness of their own culture, they can begin to appreciate people of other cultures.

〔講義内容〕
Topics to be covered will include cultural awareness, identity, diversity, stereotypes, translation misunderstandings, values, multiculturalism in Japan, culture shock, and traditional and modern Japanese culture.

〔講義のすすめ方〕
Class sessions will consist of reading articles, lectures, and group discussions. Several group activities will be held in the Cooperative Learning Style where students will work together to accomplish mutual goals. Each participant will be responsible for being active and contributing to their group members' support, encouragement, and assistance. Students will take turns in taking the role as the Group Leader, Recorder, and Speaker. The leader must prepare for the discussion, make comprehension and discussion questions for the group, and is responsible for seeing that each person has a chance to speak and voice opinions in English. The recorder should summarize and write the main ideas that were brought up during the discussion, and the speaker should present them to the other groups in the class. For some sessions where there are reading assignments, students will have roles such as the Reader, Recorder, and Checker. The Reader will read, the Recorder will write the main or good ideas, and the Checker will make sure that everyone is participating actively and that everyone understands.

〔教　　材〕
Instructor will provide materials.

〔成績評価の方法・基準〕
Grades on this course will be determined by the following criteria:

● Regular attendance: 30%
According to university policy, students who miss more than 1/3 of class sessions, will not pass the course. Being late three times will count as one absence. Being late for more than 20 minutes is considered one absence.

● Class participation: 20%

● Assignments/Quizzes/Presentations: 30%
NO LATE HOMEWORK will be accepted without a valid reason. If you are absent, ask the instructor or a friend about the assignment.

● Final assignment: 20%

〔履修のポイント・注意点〕
Since the class will consist of mostly group activities, it is imperative that students come to class each week.

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
Prerequisites to this course are: English Study Skills, Reading and Vocabulary Building Level I, and Writing Level I.

L62001

科　目　名	基礎心理学A
	心理学入門
教　員　名	田多 英興

〔講義目的〕
心理学専攻の学生のための初めての心理学ということになるが、基本的には他の専攻学生のための「心理学Ａ・B」と大きな差はない。つまり、これから勉強を始める心理学専攻の入門として、「人間の心と行動の科学的理解」の基本的な枠組みを知ることを目的とする。一般心理学が主として扱う「正常な個人の成人」の心と行動の理解を主題とする。

〔講義内容〕
1　心理学とは
　1.1　心理学とはどんな学問か
　1.2　心理学の歴史（科学的心理学以前と以後）
　1.3　心理学の研究方法、対象、研究領域
2　行動の生理的基礎
　2.1　脳と心
　2.2　脳神経系の働き
　2.3　生理学と心理学
3　行動の生物学的基礎
　3.1　行動の種類
　3.2　生得的行動と初期経験
　3.3　進化的適応
4　知覚
　4.1　物理的環境と主観的環境
　4.2　知覚の一般的特性
　4.3　知覚の諸現象
　4.4　動的知覚
5　学習
　5.1　学習とは
　5.2　条件づけ学習
　5.3　洞察学習
6　記憶
　6.1　３つの記憶
　6.2　長期記憶の諸問題
　6.3　忘却過程と記憶の変容

〔講義のすすめ方〕
基本的は教科書に基づいてのパワーポイントと板書(黒板)による講義になる。一方的に喋りますから、しっかりノートが取れるようにして下さい。自分なりのノートが取れるようになることが大学生の第１歩です。

〔教　　材〕
教科書：今田・宮田・賀集共編の「心理学の基礎　３訂版」　陪風館

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学期末の定期試験の成績と、他に毎時間最後に課す小さなレポートも出席点として評価する。さらに、１回程度はレポートを課すこともあるので、その点数も加味して総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
心理学的思考の訓練の第１歩です。しっかり聞いて、ノートを取れるようにして下さい。

〔科目内容の位置付け〕
大学生としての第１歩の全く基礎的な教養科目の学習で、かつ心理学専攻の出発点です。認定心理士資格では(1)a. の心理学概論に当たります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
この科目には前提になる科目履修はないが、基礎心理学Ａと基礎心理学Ｂで入門の心理学の全体をカバーするつもりなので、基礎心理学Ｂも続けて履修することが望ましい。

L62101

科　目　名	基礎心理学Ｂ
	心理学入門
教　員　名	田多 英興

〔講義目的〕
基礎心理学Ａの続編であるので、〔目的〕はそちらを参照されたい。基礎心理学Ａを履修したことを前提に進める。

〔講義内容〕
１　動機づけ
1.1　　行動の原動力としての動機
1.2　　動機の分類法
1.3　　動機間の関係
２　欲求と欲求不満
2.1　　欲求不満の原因・反応・状況
2.2　　ストレス
2.3　　自我防衛機制
３　感情
3.1　　感情の分類
3.2　　情動の理論
3.3　　情動と身体的表出
４　人格
4.1　　人格の理論
4.2　　人格の形成
4.3　　人格の測定
５　知能
5.1　　知能とは何か
5.2　　知能の構造的把握
5.3　　知能の測定
６　自我
6.1　　２つの自我
6.2　　自我の理論
6.3　　成熟した自己

〔講義のすすめ方〕
基本的は、教科書に基づいてのパワーポイントと板書(黒板)による講義になる。一方的に喋りますから、しっかりノートが取れるようにして下さい。自分なりのノートが取れるようになることが大学生の第１歩です。

〔教　　材〕
教科書：今田・宮田・賀集共編の「心理学の基礎　３訂版」　陪風館

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学期末の定期試験の成績と、他に毎時間最後に課す小さなレポートも出席点として評価する。さらに、１回程度はレポートを課すこともあるので、その点数も加味して総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
科学的・心理学的思考の訓練の第１歩です。しっかり聞いて、ノートを取れるようにして下さい。

〔科目内容の位置付け〕
大学生としての第１歩の全く基礎的な教養科目の学習で、大学教育の出発点です。認定心理士資格では(1)a. の心理学概論に当たります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
この科目には前提になる履修科目はないが、基礎心理学Ａと基礎心理学Ｂで入門の心理学の全体をカバーするつもりなので、基礎心理学Ａを受講していることが前提である。

L62501

科　目　名	心理統計法
教　員　名	飯田 成敏

〔講義目的〕
心理学では、実験や調査のデータ処理等において、統計学が必須である。この科目では、卒業論文や実験実習等において心理学の研究を実践する際に必要となる、推計学の基本的事項を学ぶ。具体的には、まず平均や標準偏差等の記述統計学の基本を学び、次いで統計的な処理技法の中でも基本的な、t検定、分散分析、相関係数について説明する。

〔講義内容〕
第１回　導入
第２回　尺度について
第３回　代表値と散布度
第４回　標本と母集団
第５回　実験計画法と有意差検定
第６回　対応のないｔ検定
第７回　対応のあるｔ検定
第８回　１要因の分散分析
第９回　多重比較
第10回　２要因の分散分析　－２要因とも対応のない場合－
第11回　２要因の分散分析　－１要因のみ対応のある場合－
第12回　交互作用と単純主効果の検定
第13回　ノンパラメトリック検定
第14回　相関係数
第15回　統計ソフトの紹介

〔講義のすすめ方〕
各種統計ソフトの操作等をプロジェクターから提示しながら講義を行う。必要に応じて、学生自身でパソコンを使用して体験する場面も設ける予定である。

〔教　　材〕
教科書「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」森敏昭・吉田寿夫（著）　北大路書房　3772円（税別）　教科書は必ず購入すること。

〔成績評価の方法・基準〕
学期末にテストを課す。評価は、この結果（約70%）に出席状況（約30%）を加味して行う。

〔履修のポイント・注意点〕
本講では、科目の特性上、数学、特に確率・統計が関係する。文系の学生向けに、出来る限り、数学的な専門知識はなくても理解できるよう講義を進めていく予定であるが、ある程度は、数学が関係してくることを心得ておいて欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
心理学を実践していく上で、心理統計学は必須である。そのため、心理学専攻の学生は、必ず履修することを望む。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

L63001

科　目　名	心理学基礎実験演習
	授業形態：実験
教　員　名	田多・神戸・平田

〔講義目的〕
1)　心理学実験の一連の手続きを実習する
2)　仮説と実験結果を客観的に記述・検証する科学的枠組みを学ぶ
3)　1)、2) を通して、心理学研究に従事するための基礎能力を養う

〔講義内容〕
次の６つの実験を実習します。

【1】自律指標の記録：虚偽検出と情動変化
情動変化に伴う主観的・自覚的体験と並んで行動的・他覚的変化の測定と記録を行います。情動操作としては、虚偽検出と負荷実験課題などを設け、指標としては自律神経系の中で、心拍数、呼吸、指尖容積脈波、それに皮膚電気反応の数種類を記録して、その内容の変化を定量的に解析することを学習します。用意されたソフトを用いて、刺激の作成の仕方も学習します。
【2】脳波の測定：事象関連電位の記録
脳波には背景脳波と事象関連電位の測定があるが、実験心理学的は事象関連電位が興味深い。ここでは、聴覚のオッドバール課題遂行時の頭頂脳波を記録した後、脳波の処理法としての平均加算などの過程を実際に経験し、「事象に関連する電位の変化」をある程度定量的に観察します。実際に被験者と実験者を経験しながら、数ある心理学の測定法の中でもっとも精巧な技術の一端を体験します。
【3】鏡映描写
図形をなぞる時、直接図形やペン先を見るのではなく、鏡に映った像を通して見ると、像は左右が反転しているため、ヒトがそれまでに学習してきた知覚系と運動系の協応関係に不適応が生じます。しかし更にこの鏡映描写を繰り返すと知覚系と運動系の協応関係に新たな適応が生じてきます。ここでは、知覚・運動学習に影響を与える条件とは何か、また１側で生じた運動学習が他側に転移することはどのような意味を持っているかについて検討します。
【4】錯視実験
われわれは外側の世界の多くを視覚によって知りますが、目（厳密には網膜）に映った外側の世界は極めて曖昧なものです。その曖昧な網膜情報から信頼できる視覚世界を構築するために脳内では様々な情報処理や（擬人的に言えば）無意識的な解釈を行っています。しかし場合によっては解釈が行き過ぎてしまうことがあるかも知れません。ここでは、有名なミューラー・リヤー錯視を取り上げ、刺激条件と錯視量の関係を確かめようと思います。
【5】ストレス測定
近年、生理心理学の領域では、唾液から抽出できるストレス指標や免疫指標の研究が始まっています。特に唾液抽出による測定は、血液や尿採取に比べて被験者の苦痛が少なく、また内観報告法や尺度評定法よりも直接的な測定が可能です。ここでは、実験課題（ストループ効果や計算課題）によって与えられた心理的負荷や緊張が、ストレス指標（唾液アミラーゼ活性濃度）に及ぼす影響を検討します。
【6】重量感覚
物理量に対応して生起する心理量を測定する感覚尺度の構成を通して、精神物理学的な測定手法を学びます。ここでは、Y=f(X)：物理量（重量 X）を独立変数、心理量（重さの判断 Y）を従属変数とする因果の関係を検討すること（関数の決定）を学びます。関数の決定（対数関数とベキ乗関数の当てはめ）では線形回帰の適用について解説します。最後に、マグニチュード推定法とカテゴリー評定法の２手法の実験データに基づく感覚尺度を構成して、仮説（物理量と心理量の関係性）と２尺度の論理的な関係式（関数関係）とを検証します。

〔講義のすすめ方〕
実習はグループで行いますが、結果の検証、統計的検定、報告書作成は個別に行います。

〔成績評価の方法・基準〕
実験レポート（全６回）　100％（絶対評価）
原則として全課題に実験者・被験者として実習参加の上、指定期限内に毎回レポートを提出した場合のみ、成績評価対象となります。

〔履修のポイント・注意点〕
※ 実験器具の関係上、定員25名程度のグループに分かれて実習します。グループ編成・実習予定の変更等は、初回授業または掲示された日時の説明会で確認してください。説明会に欠席した場合は、履修登録できません。

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格では、「基礎科目 C」（心理学実験実習）に区分される科目です。

L63501

科　目　名	学習心理学
教　員　名	飯田 成敏

〔講義目的〕
学習とは、経験による行動変容を言う。この行動変容のメカニズムとして考えられる、２つの条件づけ（古典的条件づけとオペラント条件づけ）を本講では主に取り上げる。半期の講義を通じて、条件づけに関する基本的な理解を目指すと共に、心理学が行動の科学と言われる所以や、行動の原因を生体内部ではなく環境におく考え方にふれてもらいたい。

〔講義内容〕
第１回　学習心理の基礎と歴史
第２回　本能的行動と学習による行動
第３回　古典的条件づけ①
第４回　古典的条件づけ②
第５回　古典的条件づけ③
第６回　オペラント条件づけ①
第７回　オペラント条件づけ②
第８回　オペラント条件づけ③
第９回　嫌悪統制
第10回　選択行動
第11回　刺激性制御
第12回　行動分析学
第13回　単一被験体法
第14回　社会的学習
第15回　知覚運動学習

〔講義のすすめ方〕
板書をしながらの講義形式で行う。必要に応じて、ビデオ等の供覧も行う。また、指定した教科書以外の参考図書の紹介や資料の配布は適宜行う予定である。

〔教　　材〕
教科書「学習の心理　行動のメカニズムを探る」 実森正子・中島定彦（著） サイエンス社 1500円（税込） 教科書は必ず購入すること。

〔成績評価の方法・基準〕
評価は、学期末に１回行うテストの結果（約70%）に出席状況（約30%）を加味して行う。

〔履修のポイント・注意点〕
我々の日常の行動は、そのほとんどが生後の経験を通して獲得・変容したものであることから、学習心理学の理解は心と行動を考える上で非常に重要であると言える。また、行動療法は学習心理学の知識や理論に基づいた心理療法であるように、教育や臨床などの応用場面においても、学習心理学は大きな貢献をしている。そのため、心理学に関心のある学生には、学習心理学の考え方に是非ふれてもらいたい。履修にあたっては、心理学に関する予備知識は一切必要としない。むしろ、漠然と抱いている心理学に対するイメージに固執せずに学んでもらいたい。

〔科目内容の位置付け〕
学習心理学は実験心理学・基礎心理学の一分野であり、歴史的にも心理学の中心的な分野の１つであったと言える。一方で、行動療法や応用行動分析の基礎でもあり、応用分野と関わりの深い分野である。そのため、基礎系の心理学を学びたい学生のみならず、臨床・応用系に関心のある学生の選択も望まれる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

L64001

科　目　名	発達心理学Ⅰ
教　員　名	津野田　聡子

〔講義目的〕
発達心理学は、生涯にわたっての心理的な変化をあつかう学問領域である。生涯にわたる心理的変化のうち、本講義では胎児期から青年期までにおける発達を中心として、発達心理学における基礎的なトピックを取り上げる。本講義の目的は、発達過程の基礎を学ぶことを通して、人の発達的変化について理解を深めることである。

〔講義内容〕
講義で取り上げる主なトピックは次の通りである。

発達心理学とは
胎児の発達：運動機能、感覚機能
乳児の認知とコミュニケーション：評価法、
　視知覚、認知発達、コミュニケーション
乳児の運動：対象物への手の動き
乳幼児の家族関係：愛着の成立、
　きょうだいの影響
認知：発達段階、「心の理論」
ことば：喃語、三項関係
動機づけ：内発的動機づけ、
自我、自己：自己意識の発達段階
生涯発達の理論：エリクソンの発達段階

〔講義のすすめ方〕
基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行う。必要に応じて視覚的補助資料等も用いる予定である。

〔教　　材〕
教科書：「発達心理学入門Ⅰ　乳児・幼児・児童」・無藤隆、高橋惠子、田島信元（編）・東京大学出版会
参考図書：適宜、講義において紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は、学期末の定期試験（70％）、出席状況（30％）による。

〔履修のポイント・注意点〕
身のまわりや社会の話題の中で、発達心理学に関連すると思われることがらに関心を持ち、積極的に考える姿勢を持って受講していただきたい。

〔科目内容の位置付け〕
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目（E．教育心理学・発達心理学）に区分される予定の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「基礎心理学A」「基礎心理学B」をすでに受講済みであること。

L64501

科　目　名	生理心理学
教　員　名	田多 英興

〔講義目的〕
心理学と生理学の中間にある研究領域で、主に「脳と心」あるいは「身体と心」の問題を取り扱う。さらにやや詳しくいえば、主に動物を中心に研究をする狭義の生理心理学と人間を対象にして進める精神(心理)生理学とがあるが、本講は後者を講ずる。つまり、人間の心の変化が身体的変化とどんな対応があるかを研究する領域の概説である。近代科学の出発点の一つであった「心身二元論」を何とかして「心身一元論」に返そうとする試みの一つとも考えられる。

〔講義内容〕
1　生理心理学とは何か
　1.1　生理心理学と精神生理学
　1.2　精神心理学の問題と方法
　1.3　生理心理学の関連領域
　1.4　生体反応の概観
　1.5　身体の調節に関する二つの働き
2　中枢神経系の活動
　2.1　脳波とは
　2.2　背景脳波と覚醒水準
　2.3　臨床脳波
　2.4　事象関連電位
3　自律神経活動
　3.1　心臓血管系の活動：心拍と血圧
　3.2　呼吸活動
　3.3　皮膚電気活動
　3.4　体温調節系
4　視覚運動系活動
　4.1　骨格筋活動
　4.2　眼球運動
　4.3　瞬目活動
　4.4　瞳孔運動
5　免疫．内分泌系活動
　5.1　神経内分泌系指標
　5.2　ストレス反応と免疫指標
　5.3　非侵襲性指標：唾液中コルチゾール・アミラーゼ

〔講義のすすめ方〕
教科書とプリントを用意して，パワーポイントと板書による講義で、ほぼ一方的に喋べりますが、時に学生諸君へ質問もしながら進めます。

〔教　　材〕
教科書：宮田洋監修　藤澤・柿木・山崎編集「新生理心理学　1巻　生理心理学の基礎」北大路書房　1998

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学期末の定期試験の成績と、他に毎時間最後に課す小さなレポートも出席点として評価する。さらに、1回程度はレポートを課すこともあるので、その点数も加味して総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
上級心理学コースの一つです。多少専門用語が多くなる、特に電気などの理科の用語や解剖用語が多くなるが、あまり気にしないで、めげないようにして下さい。

〔科目内容の位置付け〕
基礎心理学ＡやＢの上級心理学の一つです。多少特殊な専門用語が多くなる。認定心理士資格では、(2)選択科目の一つになります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
基礎心理学Ａや基礎心理学Ｂを受講していることが前提である。脳や生体反応に興味のある人を歓迎します。

L65001

科　目　名	比較心理学
教　員　名	田多 英興

〔講義目的〕
一般心理学（基礎心理学）では主に正常な個人の成人を対象にした心理学の体系を講ずることになるが、それ以外の、異常、集団、子ども、などの研究から人間の本性を比較研究することも可能である。その中で、特に種間の比較、つまりヒトと動物の比較をして、両者が同じ基盤にあることと違う基盤にあることを明らかにして、人間の本性を考えようとするのが比較心理学の主な目的である。したがって，動物心理学とも進化心理学といえる領域と重なる。

〔講義内容〕
1 比較心理学とは
　1.1 一般心理学と比較心理学
　1.2 比較心理学
　1.3 動物心理学
　1.4 進化心理学・進化生物学
　1.5 比較認知科学
2 比較心理学の目的と方法
　2.1 生物としてのヒト
　2.2 認知機能の系統発生
　2.3 進化的妥当性と進化モデル
　2.4 比較認知科学の研究方法
3 学習
　3.1 学習の原理
　3.2 強化スケジュール
　3.3 学習の生物学的制約
　3.4 プログラムされた学習
4 感覚と知覚
　4.1 視覚
　4.2 聴覚
5 記憶
　5.1 ヒトの記憶の仕組み
　5.2 記憶の保持
　5.3 順行抑制・逆行抑制
　5.4 系列位置効果
　5.5 記憶の積極性
6 概念学習
　6.1 概念とは
　6.2 動物の概念（自然・関係）
7 数・推理・思考
　7.1 数の認識
　7.2 系列的表象の形成
　7.3 問題解決
8 言語とコミュニケーション
　8.1 生得的コミュニケーション行動
　8.2 自然環境での音声コミュニケーション
　8.3 類人猿の言語習得
9 社会的認知
　9.1 種の認知
　9.2 固体の認知
　9.3 個体関係の認知
　9.4 表情の認知
10 社会的知性
　10.1 情報の操作　－欺き行動－
　10.2 駆け引き　－欺きを見抜く－
　10.3 心の理論
11 「心」と「意識」
　11.1 「心」と「意識」とは何か
　11.2 動物の「心」と「意識」
　11.3 動物福祉
12 内因性瞬目の系統発生的研究
　12.1 動物の瞬目
　12.2 霊長類の瞬目における系統差
　12.3 夜行性と昼行性
　12.4 樹上生活と地上生活

〔講義のすすめ方〕
パワーポイントと板書による講義以外に、チンパンジー研究のビデオを使う。時に学生諸君へ質問もします。

〔教　　材〕
参考書：
1）藤田和生著 「比較認知科学への招待」 ナカニシヤ出版 1998
2）松沢哲郎著 「進化の隣人 ヒトとチンパンジー」 岩波新書 2002
他の関連参考書はその都度示す。

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学期末の定期試験の成績と、他に毎時間最後に課す小さなレポートも出席点として評価する。さらに、1回程度はレポートを課すこともあるので、その点数も加味して総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
上級心理学コースの一つです。動物に興味のある人は特に歓迎する。

〔科目内容の位置付け〕
基礎心理学ＡやＢの上級心理学の一つです。多少特殊な専門用語が多くなる。認定心理士資格では、(2)選択科目の一つになります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
基礎心理学Ａや基礎心理学Ｂを受講していること
とが前提である。

L65501

科　目　名	人格心理学
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
人格（パーソナリティ）とは何か。持って生まれた気質をもとに、さまざまな経験が加わってできあがった、その人の特徴的な行動や考えなどを決定するものである。また外部の観察者の視点に立つならば、その人の行動や考えに共通するパターンであるといえる。「性格」という語も、ほぼ同じような意味で使われることが多い。
本講義では、人格について多面的に学習し、人格に関する基礎的知識を身につけると同時に、自身を含めた人間の理解を深めることを目的とする。

〔講義内容〕
1．人格、性格、気質
2．人格理論いろいろ
3．人格理解の方法
4．類型論
5．特性論
6．人格の形成過程
7．人格と家族関係
8．人格と人間関係
9．適性とは
10. 人格と問題行動
11. 人格の異常と障がい
12. 人格の適応的変化
13. 人格と文化
14. まとめ
15. 定期試験

〔講義のすすめ方〕
人格について多角的に学ぶ本講義では、過去から現在に至る人格理論と研究の成果、人格理解の方法、人格の形成過程、および人格に関する問題等、幅広く学ぶこととする。
講義は教科書を用いて進めるが、一部補助教材としてプリントを配布する。

〔教　　材〕
教科書：詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊「性格心理学への招待・改訂版」サイエンス社　2003
その他、参考書については講義の中で適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学期末の試験（70％）と出席状況（30％）による。

〔履修のポイント・注意点〕
人格について学ぶことは、ある意味、人間そのものを学ぶことと同義である。青年期の受講生にとって、きわめて大切な体験になるであろうし、当然、自己理解も深まることが予想される。本講義の意義を充分に理解した上で、真摯な姿勢で受講してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。
また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目（Ｇ．臨床心理学・人格心理学）に区分される予定の科目である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「基礎心理学Ａ」「基礎心理学Ｂ」をすでに受講済みのこと。

L66001

科　目　名	健康心理学
教　員　名	本多　麻子

〔**講義目的**〕
1）心と身体の関連，ストレス，生活習慣病の予防，健康行動への行動変容などを中心として，健康心理学の基礎的内容を理解する．
2）健康心理学は，疾病の予防と，健康の維持・増進を目指す応用心理学のひとつである．健康心理学の基礎理論を学ぶとともに，健康心理アセスメントを体験することによって，自らの心理・行動の特徴を明らかとする．
3）健康心理学の基礎理論と実践方法について理解を深めて，心身の健康増進に関するセルフマネジメントの実践を最終目標とする．

〔**講義内容**〕
主な講義内容は以下の通りである．
1）健康心理学の基礎理論 (1)：健康心理学とは
2）健康心理学の基礎理論 (2)：健康心理学に関する基礎理論
3）心と身体の関連 (1)：日常生活での体験，生理心理学的メカニズム，ホメオスタシス
4）心と身体の関連 (2)：神経系の分類，脳の構造
5）ストレスと健康 (1)：ストレスとは，ストレス反応
6）ストレスと健康 (2)：心理社会的ストレス理論，認知的評価，コーピング
7）パーソナリティと健康：パーソナリティ理論，健康をつくるパーソナリティ
8）生活習慣と健康行動 (1)：健康行動とは，健康行動に関するモデル
9）生活習慣と健康行動 (2)：健康な生活習慣，生活習慣病とは
10) 生活習慣と健康行動 (3)：生活習慣病とその予防
11) 健康行動への行動変容：行動変容ステージモデル
12) 健康教育：健康教育とは，生涯発達段階および生活の場に応じた健康教育
13) 健康心理アセスメント (1)：アセスメントとは
14) 健康心理アセスメント (2)：アセスメントの実施
15) 試験

〔**講義のすすめ方**〕
上記内容について配布資料とパワーポイントを用いて講義を進める．適宜，健康心理アセスメントを行う．具体的には関連する心理検査を実施し，その結果や解釈を小レポートとして提出する．

〔**教　　材**〕
毎回資料を配布する．参考文献は授業中に紹介する．教科書は指定しない．

〔**成績評価の方法・基準**〕
出席および小レポート40%，定期試験60%として評価する．

〔**履修のポイント・注意点**〕
毎回，授業時間内に小レポートを提出することによって，出席および講義内容の理解の確認とする．

〔**科目内容の位置付け**〕
「認定心理士」資格申請を希望する場合は受講することが望ましい．本講義は，心と身体の関連，ストレス，生活習慣病の予防，行動変容などへの理解を深めることによって，心と身体の健康の維持・増進について学ぶ科目として位置づけられる．

〔**前提・関連科目（科目間関連の内容）**〕
前提科目は特にないが，心理学関連科目の履修を勧める．

L66501

科　目　名	心身医学
教　員　名	海原　純子

〔講義目的〕
心の病に悩む人が増加している。
人の健康は心と体に分けて論じられるが実際には、人の心に配慮しないでは病気は治らない。
心は体に影響し、体は心に影響する。ここでは基本的な心の病の概念を学び、自己チェックを含め日常生活や将来の仕事の現場で役立つ学問としたい。

〔講義内容〕
・心身医学とは
・体の病と心の病
・心の病の分類
・脳の変調と精神障害
・症状の捉え方
・心因反応・神経症
・うつ病
・子どもの精神的問題
・働き盛りの精神的問題
・老年期の精神的問題
・女性の精神医学
・災害とストレス疾患
・カウンセリング

〔講義のすすめ方〕
講義と共にビデオなどで実践的な心身医学を学ぶ。

〔教　　材〕
特に指定なし。
そのつど印刷物配布。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験（70％）
出席及び授業参加の姿勢（30％）

〔履修のポイント・注意点〕
自分でも問題意識を持って参加して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
今後社会人として生きていく上の基礎知識としての医学を学んで欲しい。

L67001

科　目　名	障がい児・者心理学
教　員　名	金丸 隆太

〔講義目的〕
①平易な科目内容
障がいを持つということはどういうことなのか。本人と家族の心理を理解するための知識を学ぶ。
②講義の目的
自分自身や身近な人が障がいを持った時に役立つ知識を身につける。さらに将来、障がいを持つ人の援助に携わる仕事に就く際に必要なことを学ぶ。
③最終到達目標
自分が障がいを持った時、他者が障がいを持っている時、その心理を適切に理解し、必要な援助を手に入れたり提供したりするための基礎知識を身につける。

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション
第２回　様々な障がい
第３回　障がいと福祉サービス
第４回　身体障がい
第５回　知的障がい
第６回　精神障がい
第７回　軽度発達障がい①
第８回　軽度発達障がい②
第９回　中間テスト
第10回　障がいと家族
第11回　自分が障がいを持ったとき
第12回　障がい児・者の援助①
第13回　障がい児・者の援助②
第14回　障がい児・者の援助③
第15回　まとめと最終テスト

〔講義のすすめ方〕
実際に障がいを持つ人や家族たちが登場するビデオやブログなどの視聴覚教材を用いながら、障がいを特別なことではなく、身近に感じられるように講義を進める。少人数での話し合いや質問の時間もおりまぜる。

〔教　　材〕
教科書　指定図書は無し。授業中に適宜資料を配付する。
参考書　「発達障害白書2009年度版」日本発達障害福祉連盟・2940円
「怒りの川田さん－全盲だから見えた日本のリアル」川田隆一・オクムラ書店・1470円
　参考書は必読ではないが、当事者と家族以外にはわかりにくい発達障がいについての本を一冊、障がいを持つ人自身が書いた本を一冊示した。これらを例に、自身で色々な関連書籍を手にとってほしい。

〔成績評価の方法・基準〕
テスト　授業時間中に２回（中間および最終）
判定基準　中間テスト30%、最終テスト50%、出席20%

〔履修のポイント・注意点〕
授業中に小人数での話し合いの時間を取るので、自分の意見を積極的に他人と交換したいという学生に履修してほしい。集中講義なので予習よりも復習を重視する。障がいについて授業中に関心を持った話題をインターネットで検索し、様々なウェブサイトを見ることが復習の第一として勧められる。

〔科目内容の位置付け〕
心理学は非常に幅の広い学問であり、心理学全体から見ればこの科目は応用的な科目である。しかし障がいに関する心理学という点では入門編の授業なので、特に前提となる知識や科目はない。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目はないが、関連科目は心理学関連の科目全てである。心理学を特定の狭い学問と見なさないよう、この科目も含めた様々な心理学の科目を履修し、心理学の全体を見渡してほしい。そうすれば将来、障がいを持つ人に関わるときにこの科目で学んだ内容をさらに効果的に活かすことが出来る。それは障がい者を援助する仕事の場合もあるし、そうではない職種の場合もあろう。

L68001

科　目　名	カウンセリング論
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
心理学の実践というと、学生諸君がまっ先に思い浮かべるのは「カウンセリング」ではないだろうか。もともとは「助言」を意味する語であるが、わざわざ片仮名で表示することからも明らかなように、それ以外の意味を併せ持った、独自の語となっている。
本講義では、心理学全体における「カウンセリング」の位置づけを理解するとともに、カウンセリングとはどのような理論に基づき、どのように展開されるものであるかを学ぶことを目的とする。

〔講義内容〕
1．心理学とカウンセリング
2．カウンセリングにおける倫理
3．ロジャースの生涯と思想
4．ロジャースのパーソナリティ理論
5．パーソン・センタード・アプローチ1
6．パーソン・センタード・アプローチ2
7．エンカウンター・グループ
8．類型論的見方と現象学的見方
9．家族カウンセリング
10．交流分析（TA）
11．ブリーフ・セラピー
12．スクール・カウンセリング1
13．スクール・カウンセリング2
14．事例研究
15．定期試験

〔講義のすすめ方〕
わが国では「カウンセリング」というと、カール・ロジャースの理論に基づく実践を指すことが多い。そこで本講義では、前半でロジャースの思想、理論と実践について、教科書を用いて講義する。
後半は、他のカウンセリング理論やさまざまな実践の基礎について、プリント等の教材を用いて講義する。

〔教　　材〕
教科書：佐治守夫・飯長喜一郎編「ロジャース　クライエント中心療法」有斐閣新書　1983
その他、参考書については講義の中で適宜紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学期末の試験（70％）と出席状況（30％）による。

〔履修のポイント・注意点〕
カウンセリングという、きわめて専門性の高い理論と援助技法の基礎を学ぶ講義であり、本講義を受講しただけで、カウンセリングが行えるようになるわけではない。専門的なカウンセリング技法は、充分かつ適切なトレーニングと実践を通じて身につけるものである。
ただ、基礎とはいえ、カウンセリングという「こころの深層」に触れる領域を学ぶこととなる。そこではさまざまな場面で、自己理解を求められることになる。自らを見つめる覚悟をした上で、受講していただきたい。

〔科目内容の位置付け〕
カウンセリングは、対人援助の心理学的実践の代表である。学問の分野としては、主として臨床心理学の領域に位置するが、精神医学や、発達心理学等さまざまな心理学領域とも密接なかかわりを持つ。
また臨床心理学領域の各科目（臨床心理学検査実習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学相談実習Ⅰ・Ⅱ、精神分析学、交流分析、臨床心理実務倫理、芸術療法、心理療法論）の基礎ともいえる科目である。
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。
また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目（G．臨床心理学・人格心理学）に区分される予定の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「基礎心理学A」「基礎心理学B」をすでに受講済みであり、「臨床心理学」を受講していること。
3年次以降の受講が望ましい。

L68501

科　目　名	環境心理学Ⅰ
教　員　名	平田　乃美

〔講義目的〕
1）人間 - 環境の相互作用の視点から、人間の知覚・認知・行動の特性と背景を理解する
2）心理学領域で発展してきた環境の測定・評価の手法について学ぶ
3）1）、2）を生活空間の改善やデザインに応用するための環境心理学的視点について考える

〔講義内容〕
環境心理学は、心理学の諸理論及び心理学の領域で発展してきた測定手法を生かして、環境と人間行動との関わりを明らかにしようとする学際的な研究領域です。この領域では、人間の行動に効果をもつ「環境」について、個々の要因分析とともに、全体としての効果やその文脈が検討されます。本授業では、人間 - 環境の相互作用から生じる人間の知覚・認知・行動の特性と背景を学び、それらの知見を生活空間の改善や景観のデザインに応用するための環境心理学的視点・手法について考えます。

［授業計画］

研究史
(1) 人間と環境
(2) 環境心理学の諸相
環境の認知
(1) 感覚・知覚・記憶の基礎知識
(2) 視覚の特性を経験する
環境の測定・評価
(1) 測定・評価のための基礎知識
(2)SD 法による景観評価
錯視体験
(1) エイムズの部屋
環境の経験
(1) 閉眼歩行
(2) パーソナルスペース
(3) 身体部位の文字認識
環境との対話
(1) 場所との対話
(2) サウンドスケープ

〔講義のすすめ方〕
環境の測定、評価、記述等の技法については、一部実習形式を取り入れて学びます。実習課題には数名程度のグループで取り組みますが、報告書は各自作成・提出します。

〔教　　材〕
授業で紹介されたテーマについて更に関心がある場合は毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験　70％（相対評価）
課　　題　30％（絶対評価）

〔履修のポイント・注意点〕
［出席について］
出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

［課題について］
実施時間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

［成績について］
評価基準の個別対応は一切ありません。
個別の結果について、成績発表前の問い合せには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

［資料について］
講義資料のスライド（動画、写真等）を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格申請では、「選択科目」（社会心理学・産業心理学）に区分される科目です。

L68601

科　目　名	環境心理学Ⅱ
教　員　名	平田　乃美

〔講義目的〕
1）人間 - 環境の相互作用の視点から、人間の知覚・認知・行動の特性と背景を理解する
2）心理学領域で発展してきた環境の測定・評価の手法について学ぶ
3）1）、2）を生活空間の改善やデザインに応用するための環境心理学的視点について考える

〔講義内容〕
環境心理学は、心理学の諸理論及び心理学の領域で発展してきた測定手法を生かして、環境と人間行動との関わりを明らかにしようとする学際的な研究領域です。この領域では、人間の行動に効果をもつ「環境」について、個々の要因分析とともに、全体としての効果やその文脈が検討されます。本授業では、人間 - 環境の相互作用から生じる人間の知覚・認知・行動の特性と背景を学び、それらの知見を生活空間の改善や景観のデザインに応用するための環境心理学的視点・手法について考えます。
［授業計画］
空間心理学
(1) 空間認知
(2) 認知地図
色彩心理学
(1) 色彩とはなにか
(2) 色彩の知覚
(3) 色彩のイメージと心理的効果
実験美学
(1) 美しさの評定
(2) デザインの性質と情動的評価
環境の評価
(1) タイトスペース
(2) 都市のイメージ
環境の認知
(1) 認知地図
(2) 距離認知

〔講義のすすめ方〕
環境の測定、評価、記述等の技法については、一部実習形式を取り入れて学びます。実習課題には数名程度のグループで取り組みますが、報告書は各自作成・提出します。

〔教　　材〕
授業で紹介されたテーマについて更に関心がある場合は毎回の配付資料に掲載される「参考文献」を参照してください。

〔成績評価の方法・基準〕
筆記試験　70％（相対評価）
課　　題　30％（絶対評価）

〔履修のポイント・注意点〕
［出席について］
出席確認はカード型端末機のみで行い、学生証不携帯は欠席扱いとなります。

［課題について］
実施時間に提出した場合のみ、成績評価対象とします。未提出への対応策はありません。

［成績について］
評価基準の個別対応は一切ありません。
個別の結果について、成績発表前の問い合せには返答できません。評価内容についても、成績調査期間外に調べることはできません。

［資料について］
講義資料のスライド（動画、写真等）を複製してお譲りすることはお断りしています。再度確認したい資料があれば、授業終了後、機器の電源を切る前に声を掛けてください。

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格申請では、「選択科目」（社会心理学・産業心理学）に区分される科目です。

L69001

科　目　名	臨床心理学検査実習Ⅰ
教　員　名	伊崎　純子

〔講義目的〕
1）心理検査を実習を通して学ぶ
2）心理検査は心理アセスメントに必要な知識であり、体験しながら理解を深めることを目的とする
3）知能検査・発達検査・人格検査（質問紙・作業検査・投影法）から代表的なテストを検査者・被検査者として体験する

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション
第２回　心理検査について
第３回　知能検査：ビネーⅤ
第４回　知能検査：WISC- Ⅲ
第５回　発達検査：JDDST-R
第６回　発達検査：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法
第７回　発達検査：PEP- Ⅲ
第８回　人格検査：MMPI
第９回　人格検査：YG
第10回　人格検査：CMI
第11回　人格検査：内田クレペリン精神検査
第12回　人格検査：SCT
第13回　人格検査：バウムテスト・HTP
第14回　人格検査：ロールシャッハテスト
第15回　まとめ

〔講義のすすめ方〕
医療・教育・福祉・産業などのメンタルヘルスに関する分野では、必要に応じて心理検査が用いられる。心理学専攻の学生として多少は心理検査の知識が必要だろう。
しかしながら全ての心理検査を網羅することは時間的な制約から不可能であり、テスターとしての力量をつけることも困難である。ここでは代表的なものを「知っている」ことを最終的な目標とする。
講義では、概略を説明し、検査道具に触れてもらい、いくつかの課題を時間の許す限り検査者・被検査者として体験してもらう。
同時に、報告書の書き方についても触れ、その読み取りに主眼をおきたい。

〔教　　材〕
授業内に適宜資料を配布
参考書
『第４版　心理テスト法入門　基礎知識と技法習得のために』・松原達哉　編著・日本文化科学社
『エッセンシャルズ　心理アセスメントレポートの書き方』・E.O. リヒテンバーガー他　著・日本文化科学社

〔成績評価の方法・基準〕
レポート50点・出席50点で評価する

〔履修のポイント・注意点〕
遊びでの参加は遠慮したい。また、受講者以外への安易な知識の乱用は禁忌である。

〔科目内容の位置付け〕
心理学の基礎科目である

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

L69501

科　目　名	臨床心理学相談実習Ⅰ
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
臨床心理相談は、さまざまな観点から分類される。学派別、目的別、対象別、場所別等。
本実習では、主として学派ごと(一部目的ごと）に臨床心理相談を学ぶ。それぞれ基本的な考え方を理解し、実際にセッションを見て、自らもセラピスト／クライエント体験をすることで、各学派について基礎的な理解をすることを目的とする。

〔講義内容〕
1.臨床心理相談の分類
2.パーソン・センタード・アプローチ1
3.パーソン・センタード・アプローチ2
4.パーソン・センタード・アプローチ3（ロールプレイ）
5.精神分析1
6.精神分析2
7.認知行動療法1
8.認知行動療法2(クライエント体験)
9.ゲシュタルト療法1
10.ゲシュタルト療法2（クライエント体験）
11.ブリーフ・セラピー1
12.ブリーフ・セラピー2（ロールプレイ）
13.キャリア・カウンセリング
14.教育相談（ロールプレイ）
15.まとめ

〔講義のすすめ方〕
各学派（および目的別相談）の基本的な考え方や約束ごと等を学んだ後、実際にその技法を体験してもらうことを基本とする。
各学派の体験学習は、セラピストークライエントに分かれて体験をしてもらうロールプレイをするものと、担当教員がセラピストとなって実施するクライエント体験をするものとに分かれる。なお「精神分析」については、体験学習は行わない。
全ての体験学習は、実施後1週間以内にレポートを提出するものとする。

〔教　　材〕
教科書は特に指定しない。
必要に応じて、参考書を紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は、受講態度（50％）およびレポート（全5回、50％）によって行う。

〔履修のポイント・注意点〕
臨床心理相談という、きわめて専門性の高い相談援助技法の基礎を体験的に学ぶ実習であり、本演習を受講しただけで、実際の相談援助活動が行えるようになるわけではない。専門的な相談援助は、大学院臨床心理学専攻等に進学の後、充分かつ適切なトレーニングと実践を通じて身につけるものである。
本演習では、安全面には充分に配慮するが、それでも自他の「こころ」に触れる体験をすることとなる。将来、心理臨床に進むことを考えている学生のみ、受講していただきたい。

〔科目内容の位置付け〕
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。
また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目（G.臨床心理学・人格心理学）に区分される予定の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
「臨床心理学」をすでに受講済みで、「カウンセリング論」を受講していること。

L70001

科　目　名	脳と心理
教　員　名	津野田　聡子

〔講義目的〕
脳と心のしくみを探るために、これまでさまざまなアプローチでの研究が行われてきている。こういったアプローチのひとつに神経心理学が位置付けられる。脳が何らかの損傷を受けると、言語や認知、記憶といった心的機能に障害が認められることがある。このような脳の損傷と心的機能の障害についてあつかう分野が神経心理学である。本講義では、神経心理学における基礎的なトピックを取り上げる。本講義の目的は、神経心理学の基礎を理解することを通して、言語や認知・記憶といった心的機能と脳との関係を考察することを目的とする。

〔講義内容〕
講義で取り上げる主なトピックは次の通りである。

神経心理学とは
脳の基礎知識：脳の構造、脳イメージング
脳の機能局在
言語の障害と脳：言語に関連する脳部位、
言語の障害（失語、失書）
行為の障害と脳：行為のモデル、
行為の障害（失行）
認知の障害と脳：視覚認知のモデル、
視覚認知の障害（視覚失認）、
他モダリティの認知障害
記憶の障害と脳：記憶のモデル、記憶の障害
遂行機能の障害と脳：前頭葉と遂行機能
脳梁：離断症状とそのメカニズム
視知覚の障害と脳：半側空間無視、構成障害

〔講義のすすめ方〕
基本的には、パワーポイントを中心とした講義形式で行う。必要に応じて視覚的補助資料等も用いる予定である。

〔教　　材〕
教科書：特に指定しない。
参考図書：適宜、講義において紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
成績評価は、学期末の定期試験（70％）、出席状況（30％）による。

〔履修のポイント・注意点〕
身のまわりや社会の話題の中で、脳と心に関連すると思われることがらに関心を持ちつつ、積極的に自ら考える姿勢を持って受講していただきたい。講義では、脳や神経心理学の専門用語も用いる。

〔科目内容の位置付け〕
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目（F．生理心理学・比較心理学）に区分される予定の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「基礎心理学 A」「基礎心理学 B」をすでに受講済みであること。

L70501

科　目　名	人間工学
教　員　名	舩田　眞里子

〔講義目的〕
本講義は、人間工学を簡単に概観し、人間工学の分野で計測されるデータをどのように扱うかに関して多変量解析を用いて紹介します。心理や教育の分野で、収集されたデータから目的とする情報をどのようにして抽出したらよいかなどに関心のある学生に適した科目です。

〔講義内容〕
次の内容と順序で講義を進めます。
第１回　本講義の内容と進め方の紹介
第２回　人間工学とは
第３回　人間工学とデータ解析
第４回　重回帰分析の考え方
第５回　数量化Ⅰ類
第６回　重回帰分析と数量化Ⅰ類の演習
第７回　2群の判別分析
第８回　数量化Ⅱ類
第９回　多群の判別分析
第10回　判別分析の演習
第11回　主成分分析
第12回　主成分分析の演習
第13回　数量化Ⅲ類
第14回　数量化Ⅲ類の演習

〔講義のすすめ方〕
実際のデータ解析に多変量解析を適切に使用できるようになるためには、理論の理解が不可欠です。万能な解析法はありませんから、どのような手法でも限界があります。このことを理解して有効に多変量解析を活用できるようになるために、理論の理解に力点をおきます。ただし、統計ソフトの使用法も一方で知っておく必要がありますので、本年度はSPSSを用いた演習を行います。理論と実際を対比しながら理解を深めてください。

〔教　　材〕
教科書
・次のテキストを主な内容とします。
・「多変量解析法入門」永田靖・棟近雅彦共著、サイエンス社
・毎時間資料を電子的に配布するので購入を強制しません。
指定図書
・「《改訂版》多変量解析法」、奥野忠一、久米均、芳賀敏郎、吉澤正著、日科技連
・「多変量解析入門　自由に使いこなすコツ」、大野高裕、同友館
・「統計解析入門」、篠崎信雄著、サイエンス社
参考書
・「多変量解析の実践　下」、菅　民郎著、現代数学社

〔成績評価の方法・基準〕
全講義回数の2/3以上出席の学生について以下の方法で評価します。
(1) 演習関連の提出物・小テスト・宿題の総計を20点満点で評価
(2) 定期試験中の試験結果を80点で評価
(3) (1)、(2) の合計が60点以上を合格

〔履修のポイント・注意点〕
(1)1年時必修の情報関連の実習経験者（2年生以上）を対象としています。
(2) 線型代数学の基礎的知識と偏微分を使用します。事前知識がなくても問題ありませんが、根気が必要です。
(3) 理論は積み重ねられていくものなので、欠席しないことが重要です。

〔科目内容の位置付け〕
1年時の必修基礎科目終了後に、卒業論文をかくための専門的知識を得たいと願う学生に適した科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目
・情報基礎、(可能な範囲で)線型代数学または情報数理論Ⅰ・Ⅱ
関連科目
・データ解析を伴う心理学、心理学関連の卒業研究

L71501

科　目　名	原書講読 A
	Understanding Your Baby
教　員　名	伊崎　純子

〔講義目的〕
1）心理学に関する内容の英語文献を精読する
2）心理学は海外から学ぶことが多く、うまく日本語に置き換えることが難しい場合もあるため、翻訳に頼らず原語で読む努力も必要である
3）大学院入試を多少意識しつつ、英語を読む習慣を身につけたい

〔講義内容〕
第1回　オリエンテーション
第2回～第14回　文献の担当部分を翻訳し、全員で内容を理解していく
第15回　まとめ

〔講義のすすめ方〕
毎回、教員を含む参加者全員で輪読する。わからない単語は英和辞典（電子辞書でも可）を、専門用語は心理学辞典などをひきながら、一文ずつ翻訳していく。

〔教　　材〕
Understanding Your Baby,Sophie Boswell,2004,Jessica Kingsley Publishers, $13.95

英国にあるタビストッククリニックは、臨床、研究、精神保健に関する事業を行うことで有名な施設である。
今回選んだ Understanding Your Baby は大人になり、good enough な親であると実感できるためにタビストッククリニックのスタッフによって編集されたシリーズの第１巻である。
保育・教育に将来関わる人にも読んでほしい一冊である。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験は実施しない。
授業態度で評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
英語が苦手だと自覚する人は、特に予習が必要である。

〔科目内容の位置付け〕
特になし

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

L71701

科　目　名	原書講読 C
教　員　名	神戸　文朗

〔講義目的〕
この講座の目的は受講者各人の心理学的知識の増進と英語読解力の増進を目指すことにある。

〔講義内容〕
アメリカ心理学会（APA）の雑誌，特に American Psychologist を適切と考えている、から受講者が興味を引く論文を取り上げ、それに対する日本語の要約文を作成し、発表する。各受講者が出来るだけ多数回発表できるよう1日あたり２，３人の発表者を割り当てようと思う。

〔講義のすすめ方〕
論文選択後、各受講者に要約発表の予定日と担当範囲を指定する。受講者は必ず予定日までに要約文の作成と受講者全員分の要約文のコピーを準備しておかなければならない。各人1回あたりの担当範囲は1ページ程度、1日で２～５ページの進行を予定している。要約は段落単位で行うこと。

〔教　　材〕
ＡＰＡ発行の雑誌から受講者の多数が関心を持つ論文を選定する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席状況（４０％）、発表内容（６０％）。

〔履修のポイント・注意点〕
担当予定日に必ず要約文を完成して発表すること。

〔科目内容の位置付け〕
認定心理士区分：その他の科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
なし。

L73001

科　目　名	臨床心理実務倫理
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
本講義は、臨床心理実務に関する倫理についての講義であるが、広く心理学研究全般についての倫理に関しても取り上げ、心理学専攻学生として必要な倫理的な姿勢を身につけることを目的とする。

〔講義内容〕
1.心理学研究と倫理
2.ＡＰＡ倫理規準
3.心理学実験と倫理1－ワトソンの実験
4.心理学実験と倫理2－ミルグラムの実験
5.臨床心理実務倫理とは
6.守秘義務と例外
7.倫理違反
8.倫理と価値観
9.スクールカウンセリングにおける倫理問題
10.事例検討1
11.事例検討2
12.事例検討3
13.事例検討4
14.まとめ
15.定期試験

〔講義のすすめ方〕
前半は、主に教科書を用いて講義形式ですすめる。参考書からも、一部抜粋引用して紹介する。
後半の事例検討では、ディスカッションを通じて、心理学における倫理について実際に深く考える機会をもつ。

〔教　　材〕
教科書：
水野修次郎「よくわかるカウンセリング倫理」河出書房新社　2005
参考書：
鈴木光太郎「オオカミ少女はいなかった」新曜社　2008
トーマス・ブラス　野島久雄・藍澤美紀訳「服従実験とは何だったのか」誠信書房　2008
トマス・F・ネイギー　村本詔司監訳「APA倫理基準による心理学倫理問題事例集」創元社　2007

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学期末の試験（70％）と出席状況（30％）による。

〔履修のポイント・注意点〕
倫理という、明確な解答のない問題について、その規準を理解した上で、自分なりにしっかりと考え、一定の結論を導き出せるようになることは、どのような心理学研究を行う場合にも、非常に重要である。講義を通じて一般的な倫理についての考え方を学び、また事例を通して自分なりに考えるトレーニングを行うことで、倫理観を養うことができる。積極的かつ真摯な受講態度を期待する。

〔科目内容の位置付け〕
心理学専攻カリキュラムの中では、専攻専門科目として位置づけられる。
また本講義は、認定心理士資格申請の選択科目（Ｇ.臨床心理学・人格心理学）に区分される予定の科目である。資格取得希望者は、計画的な履修を行うこと。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「臨床心理学」をすでに受講済みであること。

L73501

科　目　名	芸術療法
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
心理療法は、いわゆるカウンセリングに代表される言語的アプローチと、それ以外の表現を媒介として用いる非言語的アプローチとに大別される。芸術療法は、後者の代表的な心理療法である。
本講義においては、芸術療法、遊戯療法など、非言語的表現を用いる心理療法に主たる焦点を当て、その理論や実際について学ぶことを目的とする。こうした学習を通して、自己表現についての意味や意義を考えることも重要である。

〔講義内容〕
1. 言語的アプローチと非言語的アプローチ
2. 自己表現の意味と意義
3. 非言語的アプローチの対象と期待される効果
4. 芸術療法の歴史
5. アクスラインの８原則
6. 遊戯療法の理論と実際
7. 芸術療法の諸理論
8. 箱庭療法
9. 絵画療法
10. スクリブルとスクイグル
11. 音楽療法
12. サイコドラマ
13. その他の芸術療法
14. まとめ
15. 定期試験

〔講義のすすめ方〕
前半は主に教科書を用いて講義を進める。補足説明のため、プリントも配布する。
後半の各療法の講義では、療法の全体的な説明に続き、事例研究を通して学習する。療法によっては、実際にそれを体験することもある。

〔教　　材〕
教科書：ジャン＝ピエール・クライン　阿部恵一郎・高江洲義英訳「芸術療法入門」白水社文庫クセジュ　2004

〔成績評価の方法・基準〕
成績は、学年末の試験(70％)と出席状況(30％)とによる。

〔履修のポイント・注意点〕
芸術療法について学ぶことを通して、人間にとっての表現について、深く考えることになる。心理臨床を目指す者に限らず、人間の表現そのものに興味を持つ者にも広く受講してほしい。
また、実際に芸術療法を体験する機会もあるので、自らを見つめる覚悟をもって履修してほしい。

〔科目内容の位置付け〕
本講義は、認定心理士資格申請において「Ｇ. 臨床心理学・人格心理学」に区分される予定の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「臨床心理学」をすでに受講済みのこと。

L74502

科　目　名	心理学特別研究 A
	フロイトを読む
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
臨床心理学の領域に限らず、人間心理を、あるいは人間社会を深く学びたい者にとって、「精神分析学」は避けて通ることのできない理論であり、臨床実践である。精神分析は、心理療法の一学説・一治療法にとどまらず、現代思想の基礎ともいえる重要な学問であり、創始者であるフロイトと、彼に続く多くの研究者実践者によって、広大な一大領域をなすに至っている。本研究では、そうした精神分析の基礎を学ぶことを目的とする。

〔講義内容〕
本研究では、フロイトが1915～17年、および1932年にかけて行った講義の原稿である「正・続精神分析入門」を主たるテキストとして、精神分析の基礎を学ぶ。
将来、臨床心理学を更に学びたい者、あるいは、人間の心理や社会の事象について深く学びたい者にとっては、基礎的な知識を身につける場となろう。

〔講義のすすめ方〕
講義は毎回担当者を決め、指定されたパートを報告し、それに基づいて全員でディスカッションするという形式を取る。当然、履修者全員が予習してくることを前提とするので、しっかりと学習する覚悟を持って履修すること。
またＡ・Ｂの履修者合同で、自己理解のためのワークショップ（合宿形式）を開催する予定である。

〔教　　材〕
フロイト（高橋 義孝・下坂 幸三 訳）「精神分析入門（上）・（下）」新潮文庫
他は必要に応じて指定する。

〔成績評価の方法・基準〕
授業への参加態度とレポートによって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
将来、心理職等の対人援助職を目指す者にとって、精神分析の基礎を学ぶことは、進路に直結する大切な学習機会となろう。
また心理学全体という観点からみても、フロイトの思想や方法論は、人間存在を深く理解する上で、大いに役立つと思われる。
自らのキャリアをしっかりと意識し、目的意識を十分に持った上で、本研究に主体的に参加する意志を持って受講すること。

〔科目内容の位置付け〕
本課題研究は、認定心理士資格申請において「その他の科目」に区分される予定の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「心理学特別研究Ａ」「同Ｂ」は、同一内容である。
「卒業研究」で本教員の指導を希望する際は、同教員によるＡ・Ｂいずれかを受講していることを原則とする。

L74503

科　目　名	心理学特別研究 A
教　員　名	神戸　文朗

〔講義目的〕
　この半期間の講座によって認知心理学について、更には実験心理学的方法全般についての基本的理解が得られることを目指している。皆さんはこの講座を通して認知心理学の問題意識とは何か、そしてそれを確かめるためにどのように実験が考案されてきたかを学んで欲しい。使用する文献は記憶に関する研究の紹介書であるが、これ以外の認知心理学的テーマに関心のある学生に対しても関連文献の紹介等により対応しようと思う。実証的研究に興味のある学生の受講を期待している。本講は卒業研究の準備のためのものではないが、新年度初頭（４月）の段階で認知心理学的なテーマを卒業研究としたいと考えている学生がいればそのことを申し出て欲しい。

〔講義内容〕
１　　全般的説明と分担の決定
２　　第１章　　記憶のしくみ
３　　第２章　　記憶をさぐる
４　　第３章　　注意
５　　第４章　　短期記憶と作動記憶
６　　第５章　　長期記憶 I　情報の獲得
７　　第６章　　長期記憶 II　知識の構造
８　　第７章　　長期記憶 III　想起と忘却
９　　第８章　　記憶力
１０　第９章　　記憶の喪失
１１　第１０章　潜在記憶
１２　第１１章　日常記憶
１３　予備日
１４　全員による討論

〔講義のすすめ方〕
本講座では各学生は文献中の指定された範囲に関する要約を準備すること。要約作成にあたっては必要に応じて当該文献外で調べた情報も注として加えることができる。担当者は要約内容を発表するとともに、受講者同士で活発に議論することにより問題への理解を深めて欲しい。

〔教　　材〕
高野陽太郎（編）　認知心理学２　記憶　東京大学出版会

〔成績評価の方法・基準〕
出席率　４０％
担当部分要約及び発表　５０％
議論への参加度　１０％

〔履修のポイント・注意点〕
必ず出席すること。また、担当部分に関しては事前に要約を作り、人数分のコピーを準備して授業へ臨むことを必須とする。

〔科目内容の位置付け〕
ゼミナール形式。認定心理士区分：その他の科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
心理学 B（神戸）及び認知心理学が関連科目である。特に認知心理学は内容的に本講と一部重複するが、本講ではより実験手続面を詳しく論じる。それ故、認知心理学も受講して欲しい。

L74504

科　目　名	心理学特別研究 A
教　員　名	田多 英興

〔講義目的〕
心理学で論文やレポートを書くための、特に当面は卒業論文を書くための、基礎的な演習を目的にする。そのためには、文献の探し方、論文の読み方、論文の紹介の仕方、テーマの設定の仕方・絞り方、実験計画の立て方、実行の際の諸問題、論文の作成、論文作法、プレゼンテーションの方法、など多岐にわたる内容について、それぞれをざっと学習して、卒業論文の準備をし、心理学的な研究の仕方とは何かの一端に触れることを目指す。

〔講義内容〕
1) 文献渉猟の仕方
2) 論文の紹介の仕方
3) 主題の絞り方、
4) 実験計画の立て方
5) 論文作法
レポート作成のための主題選びは、全体としては実験心理学すべての領域からの心理学的主題を考えて良いが、やはり中心は生理心理学からのアプローチが望ましい．したがって，主観的内容・印象と客観的指標の両方を使って「心」に迫ることになります．その際，客観的指標には，従来の実験心理学の道具である反応時間や作業成績などのマクロな行動指標に加えて，ミクロな行動指標である生理指標も駆使して，人間理解に迫る科学的方法のいくつかを実際に経験しながら学習する。

〔講義のすすめ方〕
1. まずは自分の興味に従って、心理学の文献を調べ、それを各自紹介する、というゼミ発表を5回くらい
2. 次に自分のテーマを決定して、実験計画を立て、実行し、結果の整理をし、図表を作成し、論文構成を考える、を7回程度
3. 最後は . レポートの作成とプレゼンテーションを3回程度と構想していますが、さまざまな制約があるので、実際には教員が相当程度に指示的に指導していく。そして、その中で出来る限りのことをします。

〔教　　材〕
1. 宮田洋監修「新生理心理学1巻」木大路書房 1998　を常に参照することが望まれる.
3. 他に副読本や文献はその都度示します,

〔成績評価の方法・基準〕
1. ゼミですからまず第1に、毎回の出席が必須の条件です。欠席は基本的に認めません。
3. 他に、最終的なレポート、途中でのプレゼンテーション、論文紹介、問題の提起、などの際の成績を勘案します。
3. 以上すべてを総合的に評価します。

〔履修のポイント・注意点〕
休みなく、毎回出席すること。参加することに最大の意義がある科目。

〔科目内容の位置付け〕
心理学で卒業論文を書く人のための準備科目で、認定心理士資格では (3) その他の i に当たります

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
心理学一般、特に実験心理学の基礎的素養のあることが望ましい

L74505

科　目　名	心理学特別研究 A
教　員　名	平田　乃美

〔講義目的〕
1．心理学領域（特に感覚・知覚、生理、測定法、感情・情緒、社会・文化、産業等）の科学論文を広く精読する。
2．心理学実験計画法、心理尺度構成法、及び研究遂行の実際や倫理等を学ぶ。
3．少人数（10名程度）の演習形式を活かしてコンピュータや関数電卓を用いた基本的なデータ分析を実習する。

〔講義内容〕
文献講読では、心理学研究を幅広く学ぶことを目的に、一人ひとりが興味関心のあるテーマの論文を検索することから始めます。色・香り・音楽、表情やしぐさ・ファッション・化粧等にはどのような心理的効果があるのでしょうか。公共空間のデザイン・混み合い・広さ、絵画・樹木の設置や落書き・ゴミの存在等は人間の行動や印象にどんな影響を与えるでしょうか。一人ひとりが担当箇所の報告を行い、質疑応答の時間を設けます。
　毎回の発表を通して、心理学の諸理論や実験計画法、測定手法を学びます。また内容に応じて、表計算・統計解析ソフトウエアを用いたデータ分析の実習を行い、基本的なデータ処理を一人ひとりが実習します。

〔講義のすすめ方〕
1．文献講読は英語の場合もありますが、ここでの授業目的は英語の読解力を養うことではなく、心理学研究の内容理解と科学論文に読み慣れることです。そこで論文執筆の手引き（アメリカ心理学会、日本心理学会編）の部分的な紹介を交え論文構成や表記方法等についても理解を深めます。
2．統計の学習では、数式の少ない配布資料を準備して、おおよその仕組みの理解を目指します。
3．データ分析の実習は、初心者向けです。

〔教　　材〕
初回授業で提示します（1冊程度を購入して戴く場合があります)。

〔成績評価の方法・基準〕
【方法】次の総合点で絶対評価を行います。
1．文献報告（内容・発表技術・配付資料）
2．データ分析の習得度
3．授業貢献（課題への参加や他者の発表に対する協力の程度、議論での発言頻度等）

【基準】
　得点の配分は、文献報告50％、データ分析30％、授業貢献20％とします。

〔科目内容の位置付け〕
認定心理士資格では、「その他の科目」（心理学関連科目）に区分される科目です。

L74506

科　目　名	心理学特別研究 A
教　員　名	結城　史隆

〔講義目的〕
　本ゼミナールのタイトルは「まちづくり・国際協力・ボランティア」である。この三つに共通するのは、自分たちや困っている人が住んでいる地域を少しでも良くしたいという「情熱」と「行動力」である。そしてそれは自分の思考力を鍛えるとともに、さまざまな人々と触れ合うことで自分の居場所を見つけ、充実した時間をもつことにつながる。
　そして将来的には地域のリーダーやファシリテーターとして活動、活躍するための基礎をつくることを目的としている。
　具体的には、地域活性化に関する基本を学ぶとともに、ボランティアをはじめとした実践活動が重要となる。

〔講義内容〕
「まちづくり・国際協力・ボランティア」で最低限学ぶべきことは以下の点である。
１．対象となる地域が抱えている全体的状況を把握する。
２．その地域の問題や資源を発掘する。
３．他の地域の事例を学び研究する。
４．活動のための手法を習得する。
５．現場において企画し、運営にあたる。
６．実践をすすめ、問題解決に努めることによって、活動のありかたを学ぶ。

〔講義のすすめ方〕
発表、ワークショップ、ミーティングなど実践活動が中心となる。講義の時間以外にも活動があるのでそれに参加することが重要。

〔教　　材〕
状況に合わせて随時紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
ゼミ活動への参加意識、プレゼンテーション能力の向上、積極的な質疑応答、実践活動、合宿での研究成果などを総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　最低限でも社会人になって恥ずかしくない問題発掘能力、プレゼンテーション能力、企画力、交渉力、運営力だけは身につけて欲しい。
　また、ゼミ生どうしの連絡網をつくり、連絡を密にするだけでなく、親睦をはかっていきたい。

〔科目内容の位置付け〕
特になし

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

L74601

科　目　名	心理学特別研究 B
	発達・臨床ゼミナール
教　員　名	伊崎　純子

〔講義目的〕
心理学の分野の中から、発達・臨床の分野の先行研究を学ぶ。

〔講義内容〕
第１回　オリエンテーション
第２回　人間の発達１
第３回　人間の発達２
第４回　情動と動機づけ１
第５回　情動と動機づけ２
第６回　パーソナリティ１
第７回　パーソナリティ２
第８回　精神病理学１
第９回　精神病理学２
第10回　心理療法１
第11回　心理療法２
第12回　社会心理学１
第13回　社会心理学２
第14回　まとめ
第15回　卒業研究に向けて

課外には、実態調査やボランティアとして直接支援を試みる。
（例）小山こども発達支援センター「リズム園」での勉強会や行事への参加
　　とちぎ YMCA 主催の障害児対象のボランティア活動「F2サークル」の企画・参加

〔講義のすすめ方〕
1．『心理学を変えた40の研究』（ロジャー・ホック編）をテキストとする
2．具体的には、第5章～第9章に掲載される20の研究をとりあげる
3．一人2本ずつ研究を要約した資料（レジュメ）をつくる担当となる
4．担当者は指定された日に、担当した研究をレジュメをもとに発表する
5．受講者は事前にそれらの研究を読んで参加し、質疑に参加する
6．およそ、1回のゼミで2人ずつ発表する

〔教　　材〕
教科書
『心理学を変えた40の研究』・ロジャー・ホック編・ピアソンエデュケーション・3800円

〔成績評価の方法・基準〕
授業への参加態度を重視する。

〔履修のポイント・注意点〕
対社会的な活動も行うので、常識ある態度を踏まえること。失敗を恐れず果敢にチャレンジしてみること。今回は、フィールドの用意があるために障害児とその親を中心としたテーマを掲げている。しかしながら本来の地域子育て支援は、障害児に限らず全ての子育て世帯を対象とするものである。従って、学生自身が目的をもって他の「子育て支援」や「親子関係」に関わる課題に取り組む意思をもつ場合は、その応援を惜しまない。

〔科目内容の位置付け〕
「認定心理士」資格申請では別紙にて領域を確認すること。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

L74602

科　目　名	心理学特別研究 B
	フロイトを読む
教　員　名	伊東　孝郎

〔講義目的〕
臨床心理学の領域に限らず、人間心理を、あるいは人間社会を深く学びたい者にとって、「精神分析学」は避けて通ることのできない理論であり、臨床実践である。精神分析は、心理療法の一学説・一治療法にとどまらず、現代思想の基礎ともいえる重要な学問であり、創始者であるフロイトと、彼に続く多くの研究者実践者によって、広大な一大領域をなすに至っている。本研究では、そうした精神分析の基礎を学ぶことを目的とする。

〔講義内容〕
本研究では、フロイトが1915～17年、および1932年にかけて行った講義の原稿である「正・続精神分析入門」を主たるテキストとして、精神分析の基礎を学ぶ。
将来、臨床心理学を更に学びたい者、あるいは、人間の心理や社会の事象について深く学びたい者にとっては、基礎的な知識を身につける場となろう。

〔講義のすすめ方〕
講義は毎回担当者を決め、指定されたパートを報告し、それに基づいて全員でディスカッションするという形式を取る。当然、履修者全員が予習してくることを前提とするので、しっかりと学習する覚悟を持って履修すること。
またＡ・Ｂの履修者合同で、自己理解のためのワークショップ（合宿形式）を開催する予定である。

〔教　　材〕
フロイト（高橋 義孝・下坂 幸三 訳）「精神分析入門（上）・（下）」新潮文庫
他は必要に応じて指定する。

〔成績評価の方法・基準〕
授業への参加態度とレポートによって評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
将来、心理職等の対人援助職を目指す者にとって、精神分析の基礎を学ぶことは、進路に直結する大切な学習機会となろう。
また心理学全体という観点からみても、フロイトの思想や方法論は、人間存在を深く理解する上で、大いに役立つと思われる。
自らのキャリアをしっかりと意識し、目的意識を十分に持った上で、本研究に主体的に参加する意志を持って受講すること。

〔科目内容の位置付け〕
本課題研究は、認定心理士資格申請において「その他の科目」に区分される予定の科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
「心理学特別研究Ａ」「同Ｂ」は、同一内容である。
「卒業研究」で本教員の指導を希望する際は、同教員によるＡ・Ｂいずれかを受講していることを原則とする。

L74603

科　目　名	心理学特別研究 B
教　員　名	神戸　文朗

〔講義目的〕
この半期間の講座によって認知心理学について、更には実験心理学的方法全般についての基本的理解が得られることを目指している。皆さんはこの講座を通して認知心理学の問題意識とは何か、そしてそれを確かめるためにどのように実験が考案されてきたかを学んで欲しい。使用する文献は記憶に関する研究の紹介書であるが、これ以外の認知心理学的テーマに関心のある学生に対しても関連文献の紹介等により対応しようと思う。実証的研究に興味のある学生の受講を期待している。本講は卒業研究の準備のためのものではないが、新年度初頭（４月）の段階で認知心理学的なテーマを卒業研究としたいと考えている学生がいればそのことを申し出て欲しい。

〔講義内容〕
１　　全般的説明と分担の決定
２　　第１章　　記憶のしくみ
３　　第２章　　記憶をさぐる
４　　第３章　　注意
５　　第４章　　短期記憶と作動記憶
６　　第５章　　長期記憶 I　情報の獲得
７　　第６章　　長期記憶 II　知識の構造
８　　第７章　　長期記憶 III　想起と忘却
９　　第８章　　記憶力
１０　第９章　　記憶の喪失
１１　第１０章　潜在記憶
１２　第１１章　日常記憶
１３　予備日
１４　全員による討論

〔講義のすすめ方〕
本講座では各学生は文献中の指定された範囲に関する要約を準備すること。要約作成にあたっては必要に応じて当該文献外で調べた情報も注として加えることができる。担当者は要約内容を発表するとともに、受講者同士で活発に議論することにより問題への理解を深めて欲しい。

〔教　　材〕
高野陽太郎（編）　認知心理学２　記憶　東京大学出版会

〔成績評価の方法・基準〕
出席率　４０％
担当部分要約及び発表　５０％
議論への参加度　１０％

〔履修のポイント・注意点〕
必ず出席すること。また、担当部分に関しては事前に要約を作り、人数分のコピーを準備して授業へ臨むことを必須とする。

〔科目内容の位置付け〕
ゼミナール形式。認定心理士区分：その他の科目。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
心理学 B（神戸）及び認知心理学が関連科目である。特に認知心理学は内容的に本講と一部重複するが、本講ではより実験手続面を詳しく論じる。それ故、認知心理学も受講して欲しい。

L74604

科　目　名	心理学特別研究 B
教　員　名	田多 英興

〔講義目的〕
心理学で論文やレポートを書くための、特に当面は卒業論文を書くための、基礎的な演習を目的にする。そのためには、文献の探し方、論文の読み方、論文の紹介の仕方、テーマの設定の仕方・絞り方、実験計画の立て方、実行の際の諸問題、論文の作成、論文作法、プレゼンテーションの方法、など多岐にわたる内容ついて、それぞれをざっと学習して、卒業論文策の準備をし、心理学的な研究の仕方とは何かとは何かの一端に触れることを目指す。

〔講義内容〕
1）文献渉猟の仕方
2）論文の紹介の仕方
3）主題の絞り方、
4）実験計画の立て方
5）論文作法
レポート作成のための主題選びは、全体としては実験心理学すべての領域からの心理学的主題を考えて良いが、やはり中心は生理心理学からのアプローチが望ましい．したがって，主観的内容・印象と客観的指標の両方を使って「心」に迫ることになります．その際，客観的指標には，従来の実験心理学の道具である反応時間や作業成績などのマクロな行動指標に加えて，ミクロな行動指標である生理指標も駆使して，人間理解に迫る科学的方法のいくつかを実際に経験しながら学習する。

〔講義のすすめ方〕
1. まずは自分の興味に従って、心理学の文献を調べ、それを各自紹介する、というゼミ発表を5回くらい。
2. 次に、自分のテーマを決定して、実験計画を立てて、実行し、結果を整理し、統計処理をし、図表を作成し、論文構成をかなえる、を7回程度。
3. 最後は、レポートの作成とプレゼンテーションを3回程度と構想していますが、さまざまな制約があるので、実際には教員がとうとう程度に指示的に介入して、指導する。

〔教　　材〕
1. 宮田洋監修 「新生理心理学1巻」北大路書房 1998 を常に参照することが望まれる。
2. 他に副読本や文献はその都度示します。

〔成績評価の方法・基準〕
1. ゼミだから、まず第1に毎回の出席が必須の条件です。欠席は基本的に認めません。
2. 他に、最終的なレポート、途中でのプレゼンテーション、論文紹介、問題の提起、などの際の成績を勘案します。
3. 上記のすべてを総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
参加することに最大の意義があるので、休みなく毎回出席すること。

〔科目内容の位置付け〕
心理学で卒業論文を書く人のための準備科目で、認定心理士資格では（3）のその他 i に当たります。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
心理学一般、特に実験心理学の基礎的素養のあることが望ましい。

L74605

科　目　名	心理学特別研究 B
教　員　名	平田　乃美

〔講義目的〕
1．心理学領域（特に感覚・知覚、生理、測定法、感情・情緒、社会・文化、産業等）の科学論文を広く精読する。
2．心理学実験計画法、心理尺度構成法、及び研究遂行の実際や倫理等を学ぶ。
3．少人数（10名程度）の演習形式を活かしてコンピュータや関数電卓を用いた基本的なデータ分析を実習する。

〔講義内容〕
文献講読では、心理学研究を幅広く学ぶことを目的に、一人ひとりが興味関心のあるテーマの論文を検索することから始めます。色・香り・音楽、表情やしぐさ・ファッション・化粧等にはどのような心理的効果があるのでしょうか。公共空間のデザイン・混み合い・広さ、絵画・樹木の設置や落書き・ゴミの存在等は人間の行動や印象にどんな影響を与えるでしょうか。一人ひとりが担当箇所の報告を行い、質疑応答の時間を設けます。
　毎回の発表を通して、心理学の諸理論や実験計画法、測定手法を学びます。また内容に応じて、表計算・統計解析ソフトウエアを用いたデータ分析の実習を行い、基本的なデータ処理を一人ひとりが実習します。

〔講義のすすめ方〕
1．文献講読は英語の場合もありますが、ここでの授業目的は英語の読解力を養うことではなく、心理学研究の内容理解と科学論文に読み慣れることです。そこで論文執筆の手引き（アメリカ心理学会、日本心理学会編）の部分的な紹介を交え論文構成や表記方法等についても理解を深めます。
2．統計の学習では、数式の少ない配布資料を準備して、おおよその仕組みの理解を目指します。
3．データ分析の実習は、初心者向けです。

〔教　　材〕
初回授業で提示します（1冊程度を購入して戴く場合があります)。

〔成績評価の方法・基準〕
【方法】次の総合点で絶対評価を行います。
1．文献報告（内容・発表技術・配付資料）
2．データ分析の習得度
3．授業貢献（課題への参加や他者の発表に対する協力の程度、議論での発言頻度等）

【基準】
　得点の配分は、文献報告50％、データ分析30％、授業貢献20％とします。

〔科目内容の位置付け〕
認定心理士資格では、「その他の科目」（心理学関連科目）に区分される科目です。

L74606

科　目　名	心理学特別研究 B
教　員　名	結城　史隆

〔講義目的〕
　本ゼミナールのタイトルは「まちづくり・国際協力・ボランティア」である。この三つに共通するのは、自分たちや困っている人が住んでいる地域を少しでも良くしたいという「情熱」と「行動力」である。そしてそれは自分の思考力を鍛えるとともに、さまざまな人々と触れ合うことで自分の居場所を見つけ、充実した時間をもつことにつながる。
　そして将来的には地域のリーダーやファシリテーターとして活動、活躍するための基礎をつくることを目的としている。
　具体的には、地域活性化に関する基本を学ぶとともに、ボランティアをはじめとした実践活動が重要となる。

〔講義内容〕
「まちづくり・国際協力・ボランティア」で最低限学ぶべきことは以下の点である。
１．対象となる地域が抱えている全体的状況を把握する。
２．その地域の問題や資源を発掘する。
３．他の地域の事例を学び研究する。
４．活動のための手法を習得する。
５．現場において企画し、運営にあたる。
６．実践をすすめ、問題解決に努めることによって、活動のありかたを学ぶ。

〔講義のすすめ方〕
発表、ワークショップ、ミーティングなど実践活動が中心となる。講義の時間以外にも活動があるのでそれに参加することが重要。

〔教　　材〕
状況に合わせて随時紹介する。

〔成績評価の方法・基準〕
ゼミ活動への参加意識、プレゼンテーション能力の向上、積極的な質疑応答、実践活動、合宿での研究成果などを総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
　最低限でも社会人になって恥ずかしくない問題発掘能力、プレゼンテーション能力、企画力、交渉力、運営力だけは身につけて欲しい。
　また、ゼミ生どうしの連絡網をつくり、連絡を密にするだけでなく、親睦をはかっていきたい。

〔科目内容の位置付け〕
特になし

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし

L78001

科　目　名	社会科・公民科教育法
教　員　名	熊田　禎介

〔講義目的〕
この講義は、中学校「社会」および高等学校「公民」の教員免許状の取得希望者のために、開講する教職科目である（なお、高等学校「公民」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなくてはならない教職科目である）。本講義の目的は、中等社会科公民的分野の持つ基本理念や各領域・科目の目標・内容・方法について検討を加えること、そしてこれらの知識を基に具体的な教材研究の方法を学ぶことを通して、社会科・公民科教員として最低限必要な知識と技能を習得してもらうことである。

〔講義内容〕
社会科・公民科教育法の講義は、以下の予定に基づき進められる。
1．社会科・公民科教育法で何を学ぶのか
　（オリエンテーション）
2．中等社会科公民的分野の基本理念
3．中学校社会科公民的分野の目標・内容・方法
4．高等学校公民科の目標・内容・方法
5．中学校社会科公民的分野・高等学校公民科における教材研究の方法
6．総括

〔講義のすすめ方〕
基本的には、講義概要を示したレジュメを基に講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書を参照する。また、各項目については、実践例を参考としながら、各領域・科目の目標・内容・方法を検討する。必要に応じて、学習課題に基づく意見交換や活動なども取り入れ、中等社会科公民的分野において育成すべき社会観や価値観、並びに教職としての専門性を獲得するという本講義の目的に資するため、将来の教職を目指す受講者自らが抱く課題意識を積極的に表現する機会を多く設定したい。さらに、中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の教育内容を基に、テーマ・題材を設定し、グループで教材研究の方法を具体的かつ実践的に学ぶ活動を取り入れる。

〔教　　材〕
教 科 書　文部科学省『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－社会編－』（大阪書籍、平成11年９月）
　文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』（日本文教出版、平成20年９月）
　文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編』（実教出版、平成11年12月）
参 考 書　講義時に適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席（30％）、平常点（20％）、模擬授業（20％）、試験（30％）による総合評価。
○出席について、３分の２以上の出席を満たした者を評価対象とする。
○遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。
○平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。
○試験について、学年末に実施する。

〔履修のポイント・注意点〕
中学校社会科・高等学校公民科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提として講義を進める。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

〔科目内容の位置付け〕
教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　他の教職科目。
関連科目　社会科教育法Ⅰ、会科教育法Ⅱ、会科教育法Ⅲ、民科教育法。
　なお、科目では、育実習を行う際の基本的な内容を扱っているので、育実習に行く前に履修すること。

L78501

科　目　名	公民科教育法
教　員　名	熊田　禎介

〔講義目的〕
この講義は、高等学校「公民」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなくてはならない教職科目である。本講義の目的は、高等学校公民科の目標・内容・方法をふまえた上で、学習指導案作成並びに模擬授業を実施し、公民科教員として必要な技能を実践的に習得することである。

〔講義内容〕
公民科教育法の講義は、以下の予定に基づき進められる。
1．公民科教育法で何を学ぶのか
　（オリエンテーション）
2．模擬授業の計画
3．過去の実践例の検討
4．学習指導案作成の実際
5．模擬授業の実施と評価・検討
6．総括

〔講義のすすめ方〕
基本的には、講義概要を示したレジュメを基に講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書を参照する。また、各項目については、実践例を参考としながら、各科目の目標・内容・方法を検討する。必要に応じて、学習課題に基づく意見交換や活動なども取り入れ、公民科教育が育成すべき社会観や価値観、並びに教職としての専門性を獲得するという本講義の目的に資するため、将来の教職を目指す受講者自らが抱く課題意識を積極的に表現する機会を多く設定したい。さらに、公民科の教育内容を基に、各自が学習指導案作成を行い、それに基づき模擬授業を行う。この模擬授業またはプレゼンテーションの様子、そして学習指導案を、生徒役である受講学生から評価してもらう形式をとる。

〔教　　材〕
教科書　文部科学省『高等学校学習指導要領解説　公民編』（実教出版、平成11年12月）
参考書　講義時に適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席（30％）、平常点（20％）、模擬授業（20％）、試験（30％）による総合評価。
○出席について、３分の２以上の出席を満たした者を評価対象とする。
○遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。
○平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。
○模擬授業について、学習指導案・模擬授業の様子を評価対象とする。
○試験について、学年末に実施する。

〔履修のポイント・注意点〕
高等学校公民科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提として講義を進める。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

〔科目内容の位置付け〕
教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　他の教職科目。
関連科目　社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱ、社会科教育法Ⅲ、社会科・公民科教育法。
　なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているので、教育実習に行く前に履修すること。

m00601

科　目　名	教育本質論
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
いま教育に危機感を抱く人が多い。教育基本法をはじめ学校教育法の改正など、日常的に「教育」が語られることが多い。
　さらに次世代を担う子どもや青年たちの教育ばかりでなく、その日常の生活の中でも危機感をつのらせているのが現状である。
　本講義の目指すところは「学生諸君が教育的な視点から身近な問題をしっかりとらえる力を持ち、一市民として自分なりの意見が持てて、必要な場ではそれを自分のことばで語れること」である。

〔講義内容〕
①　子どもの歴史をひも解く。
②　過去５年間の教育資料を解く（教育の意義と目的）
③　現代の教育を支える歴史上の人物描写
④　教育課程の基準の指導のねらい（４本の柱）を学び、演習（以下に進める）の方針を確認する。
・豊かな人間性や社会性を育成すること
・自ら学び、自ら考える力を育成すること
・基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること
・特色ある教育、特色ある学校づくりをすすめること
⑤　④を踏まえ、演習形式で学習を進める：テーマを得て、グループ活動の形式で、自主的に生徒達の学習計画を立案する面白さを発見する。
⑥　学習指導要領の変遷を知り、現在の教育のよりどころを確認する。
⑦　いじめ・不登校の理解

〔講義のすすめ方〕
１．上記講義内容①－④は教育の現状を根本から正しく認識するために、講義形式で学ぶ。
２．講義を踏まえて、続く具体的な教育活動への接近を試みる《演習形式で》。
３．教育の４本の柱を、学部の特徴を生かしながら仲間と練って、教育の本質を初歩段階ながら実感し、それを発表する。

＊　時間の余裕があったらくはなのたより＞を読む。
はなのたよりとは：
　青木雅夫先生による「校長通信」であるが、便りの行間から、現代社会の課題を理解し、現場からの教育への提言を読み取る。

〔教　　材〕
テキスト：「教育学概論」生野・中谷・金田共著
（開講後指示）

〔成績評価の方法・基準〕
①　出席状況
②　普段の努力（グループ形式で討議しながら進める自由研究）
③　学期末の試験

〔科目内容の位置付け〕
教員採用試験（教採）を考えるとき、本講義には関連した内容が連なっていることを発見するであろう。

m01101

科　目　名	教育心理学
教　員　名	神戸　文朗

〔講義目的〕
教育とは個々の子供や大人が社会的に望ましい能力を獲得するように彼らの発達の過程に影響を与える行為であると考えられる。効果的にこの目的を達成するためには、適切な時期・タイミングで、適切な内容の情報を、適切な方法によって、影響を与える必要がある。もし、この３つの条件のいずれか（或いはすべて）が満たされなければ、教育的行為は社会的に望ましい発達を個人にもたらさない可能性がある。それ故、教育に携わろうとするならば人の発達の過程に関する基礎知識は不可欠である。実際、現代日本社会には発達現象への無知に由来する教育観が根強く存在するだけではなく、誤った教育的行為の結果としての親による乳幼児への虐待や青少年における規範力の低下を示す例には事欠かない。但し、教育するものに発達に関する基本的知識があったとしても、それだけでは個々の教育的行為の適切さを保証するものではない。個々の教育的行為に関しては、行為の実行と結果の評価が客観的になされる必要がある。
上記のような問題意識の下、本講では認知的発達と人格的発達の過程をより詳細に検討したい。人の発達はこの２領域に限られるものではないが、これらはかなりの程度相互補完的であり、かつ教育的働きかけに応答性を持った領域であると考えられる。各発達段階の説明の中で、適切な教育的行為における時期、内容、方法の３条件とはどのようなものなのかがより明らかになるであろう。
更に現代の青少年のあり方を理解する一助として、社会化の問題に一項を設け、規範の内在化、道徳性の発達、能力感・自尊心・自発的探索の関連について考察したい。最後に、いじめ、非行、思春期痩せ症といった応用的側面にも触れたい。
実際、我々は様々な場面で解答のない問題に直面する。我々はそれを「常識的判断」や「自己の価値観」に頼って対処しがちである。しかし、その常識や価値観も決して十分に根拠のあるものとは限らないとしたら、我々は安直なマニュアル的知識を求めようとするべきではなく、正しい理解とそれに基づく幅広い応用力を獲得するよう努力するべきであると考える。

〔講義内容〕
１）教育心理学とは何か
応用の学問としての教育心理学
教育と発達の原理（環境と遺伝、学習、正規発達からの逸脱）
教育的行為とその評価
２）認知的発達
ピアジェの理論
同化と調節（循環反応、遊び、模倣）
３）人格発達
フロイトの理論
エリクソンのライフサイクル理論
４）社会化
自我と超自我（母子共生からの離脱、欲求の意識化、社会的規範）
能力感と探索行動・対人能力
道徳性の発達
５）思春期・青年期の危機
無気力と不登校
いじめ・いじめの構造（攻撃性、社会的順位、社会的学習）
家庭内の葛藤（暴力・思春期痩せ症）
非行
６）障害児の発達とその教育

〔講義のすすめ方〕
主として黒板及び口頭での説明を行っていく予定である。

〔教　　材〕
一部図表も用意する予定であるが、資料提示は基本的には黒板への書き込みによる。

〔成績評価の方法・基準〕
定期試験の結果に基づき成績評価を行う。出席率は受験資格を満たしているかどうかの判定にのみ使用し、出席率を成績に反映させることはない。得られた得点分布に基づき各人の得点はカテゴリー分類され、それを成績とする。

〔履修のポイント・注意点〕
口頭及び黒板を使っての説明が主となるので諸君は効率よくノートを取って欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

m12101

科　目　名	社会科教育法Ⅰ
教　員　名	熊田　禎介

〔講義目的〕
この講義は、社会科教育法ⅡおよびⅢとともに、中学校「社会」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなければならない教職科目である。本講義の目的は、わが国の社会科の成立と展開について、戦前期にさかのぼる思想的系譜、戦後の教育改革における初期社会科の理念、学習指導要領に見る社会科教育の変遷、そして社会科教育が抱えている諸課題を取り上げ、社会科教育に関する基本的な理解を深めることである。

〔講義内容〕
社会科教育法Ⅰの講義は、以下の予定に基づき進められる。
1．社会科教育法で何を学ぶのか
　（オリエンテーション）
2．社会科はどのような教科なのか
　（基本理念、思想的系譜、初期社会科）
3．社会科はどのように変わってきたのか
　（学習指導要領、教科書）
4．社会科はどのように実践されてきたのか
　（カリキュラム構造、授業論）
5．社会科はどのような課題を抱えているのか
　（教科書問題、総合的な学習の時間、等）

〔講義のすすめ方〕
基本的には、講義概要を示したレジュメを基に講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書を参照する。また必要に応じて、学習課題に基づく意見交換や活動なども取り入れ、社会科教育が育成すべき社会観や価値観、並びに教職としての専門性を獲得するという本講義の目的に資するため、将来の教職を目指す受講者自らが抱く社会科教育に関する課題意識を積極的に表現する機会を多く設定したい。

〔教　　材〕
教科書　文部科学省『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－社会編－』（大阪書籍、平成11年９月）
　文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』（日本文教出版、平成20年９月）
参考書　講義時に適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席（30％）、平常点（20％）、試験（50％）による総合評価。
○出席について、３分の２以上の出席を満たした者を評価対象とする。
○遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。
○平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。
○試験について、学年末に実施する。

〔履修のポイント・注意点〕
中学校社会科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提としている。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

〔科目内容の位置付け〕
教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　他の教職科目。
関連科目　社会科教育法Ⅱ、Ⅲ、社会科・公民科教育法。特に、社会科教育法Ⅱ、Ⅲの前提となっており、目的・内容ともに関連をはかっている。

m12201

科　目　名	社会科教育法Ⅱ
教　員　名	熊田　禎介

〔講義目的〕
この講義は、社会科教育法ⅠおよびⅢとともに、中学校「社会」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなければならない教職科目である。本講義の目的は、中学校社会科を構成する各分野の目標・内容・方法について検討し、社会科教育を担う教員に必要かつ基本的な知識と技能を習得することである。

〔講義内容〕
社会科教育法Ⅱの講義は、以下の予定に基づき進められる。
１．社会科教育法Ⅰの既習事項確認
　（オリエンテーション）
２．中学校社会科地理的分野の内容構成
　（目標・内容・方法）
３．中学校社会科歴史的分野の内容構成
　（目標・内容・方法）
４．中学校社会科公民的分野の内容構成
　（目標・内容・方法）
５．中学校選択教科「社会」のあり方
６．中学校社会科と「総合的な学習の時間」との関連
７．中学校社会科が抱える課題
　（評価のあり方、等）

〔講義のすすめ方〕
基本的には、講義概要を示したレジュメを基に講義形式で進めるが、適宜資料を配付し、教科書や参考書も参照する。また、各項目については、実践例を参考としながら、各分野の目標・内容・方法を検討する。さらに、必要に応じて、実践例に対する意見や感想を求めたり、一部分を実際に行うことで改善策を考えてもらったりする。

〔教　　材〕
教科書　文部科学省『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－社会編－』（大阪書籍、平成11年９月）
　文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』（日本文教出版、平成20年９月）
参考書　講義時に適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席（30％）、平常点（20％）、試験（50％）による総合評価。
○出席について、３分の２以上の出席を満たした者を評価対象とする。
○遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。
○平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。
○試験について、学年末に実施する。

〔履修のポイント・注意点〕
中学校社会科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提としている。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

〔科目内容の位置付け〕
教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　他の教職科目、社会科教育法Ⅰ。
関連科目　社会科教育Ⅲ、社会科・公民科教育法。特に、社会科教育法Ⅲの前提となっており、目的・内容ともに関連をはかっている。
　なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているので、教育実習に行く前に履修すること。

m12301

科　目　名	社会科教育法Ⅲ
教　員　名	熊田　禎介

〔講義目的〕
この講義は、社会科教育法ⅠおよびⅡとともに、中学校「社会」の教員免許状を取得するためには、必ず履修しなければならない教職科目である。本講義の目的は、社会科教育法Ⅱで検討した社会科を構成する各分野の目標・内容・方法を基に、学習指導案作成並びに模擬授業を実施し、社会科教員として必要な技能を実践的に習得することである。

〔講義内容〕
社会科教育法Ⅲの講義は、以下の予定に基づき進められる。
１．模擬授業の計画
２．過去の実践例の検討
３．学習指導案作成の実際
４．模擬授業の実施と評価・検討
５．総括

〔講義のすすめ方〕
中学校社会科の教育内容を基に、各自が学習指導案作成を行い、それに基づき模擬授業を行う。受講人数が多い場合には、各自が作成した模擬授業案に関するプレゼンテーションを実施することも視野に入れる。基本的には、学習指導案と、これを用いた模擬授業またはプレゼンテーションの様子を、生徒役である受講学生から評価してもらう形式をとる。

〔教　　材〕
教科書　文部科学省編『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－社会編－』（大阪書籍、平成11年９月）
　　文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』（日本文教出版、平成20年９月）
参考書　講義時に適宜指示する。

〔成績評価の方法・基準〕
出席（30％）、平常点（20％）、模擬授業（20％）、試験（30％）による総合評価。
○出席について、３分の２以上の出席を満たした者を評価対象とする。
○遅刻・早退は、原則として欠席と見なす。
○平常点について、講義毎に課す小課題並びに講義中の学習課題への取り組み態度を評価対象とする。
○模擬授業について、学習指導案・模擬授業の様子を評価対象とする。
○試験について、学年末に実施する。

〔履修のポイント・注意点〕
中学校社会科教員として教職に就くことを強く希望し、かつ近年の教員採用試験の難化を乗り越えて教職を目指す覚悟を有する学生の受講を前提としている。したがって、単に教員免許だけを取得するという安易な考えで履修しないこと。

〔科目内容の位置付け〕
教職科目の中では、具体的な教科の授業に関わるという意味で実践的な科目である。一方で、他の教職科目で培った、教育という営為のあり方や現代の教育問題など、教育の本質に関わる学習成果を前提として成り立つ科目でもある。抽象から具体、そして抽象へ。本講義で学ぶ具体的な授業のあり方から、教育一般に通ずる問題、人間形成に関わる問題を考えてもらいたい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
前提科目　他の教職科目、社会科教育法Ⅰ、社会科教育法Ⅱ。
関連科目　社会科・公民科教育法。
　なお、本科目では、教育実習を行う際の基本的な内容を扱っているので、教育実習に行く前に履修すること。

m16902

科　目　名	生徒指導論（進路指導を含む）
教　員　名	本間　研一

〔講義目的〕
生徒指導は学校の教育目標を達成していくために欠くことのできない機能のひとつである。単にいじめや暴力行為、不登校など表面的に現れた問題行動への対応だけではない。児童生徒の内面に目を向け、心身のよりよい成長を援助し、個別的な発達に応じた自己指導能力を育成するような方向性をもった指導である。教師として生徒の生き方を総合的に援助できるよう正しい生徒指導を学習する。

〔講義内容〕
1、教育と生徒指導　生徒指導・教育相談とは
生徒指導の意義
2、学習指導要領での生徒指導の機能と指導上の留意点について
3、生徒指導の内容と方法
生徒指導の目的と本質　内容の検討
4、教育的集団とはなにか
　集団活動の意義　集団の構造と機能　リーダーシップの心理　対人認知の心理
5、教師と生徒指導
　教師の役割　指導と管理　説明と説得　子どもを取り巻く状況と難しさ
6、集団の指導の方法
　教育的グループ作り　リーダーの指導　生徒の生活と自己指導力の育成
7、集会の指導
　子どもの自主的な管理組織作り　「決めること」の指導　集団の風土作り
8、道徳教育と生徒指導
　集団の規範意識の形成　問題行動と生徒指導
青年期の生き方と生徒指導
9、進路指導の本質
　進路指導とは　キャリア教育の基礎理論
10、進路指導の発達的展開
　発達段階に応じた進路指導　進路指導の実際
学校における進路指導の役割
11、教育相談と生徒指導
　学校における教育相談　教育相談体制の確立
関係機関との連携　危機対応の対策
　ガイダンスの機能の充実
12、教育相談活動と組織「教育相談」と「カウンセリング」との違い
　関係機関の機能とその役割　児童生徒の心の発達・問題行動・身体症状についての理解その記録と保管、評価について
13、現代の青少年と生徒指導
　社会の病理と青少年
　事例研究「学級崩壊」など　ロールプレイ
14、性的な発達への指導
　各教科、道徳、総合的な学習の時間との関連
性に関する社会環境　性情報の氾濫
15、諸外国における生徒指導の動向
　生徒指導体制の国際比較　校則や制服などの国際比較

〔講義のすすめ方〕
講義・演習・グループ学習、ビデオ視聴

〔教　　材〕
テキスト　中学校学習指導要領　解説　特別活動編　文科省

〔成績評価の方法・基準〕
生徒を指導する立場に立つものが、教師から指導されるようではいけない。出席・毎回の課題・指導案のリポート・期末試験を総合して判定する。欠席５回以上は評価の対象としない。

〔履修のポイント・注意点〕
毎回10分200字のミニ論文を書く。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目に位置付けられている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特別活動の研究　道徳教育の研究　生徒指導Ⅱ

m17001

科　目　名	教育相談Ｓ
	学校カウンセリングの実際
教　員　名	中谷　陽子

〔講義目的〕
① 社会の急激な価値観の変化に起因して、学校教育上の諸問題や課題が、児童生徒の周辺に急激に発生してきていることを知ること。
② 最も発達の著しい児童生徒期の子ども達が背負い込む「ストレス・心身の不調・不適応状態」を正確に、そして具体的に理解すること。
③ 学校と教師は「子ども達の苦しみを受け取り、相談に乗り、こころの傷を癒す」機能を引き受けなければならない。それは時には家庭や地域以上に重く、教師の持つ資質と学校教育相談が行える教師の臨床的能力を育てること。

以上の3点を授業のねらいとする。

〔講義内容〕
1．制度化された≪学校カウンセリングの場（専門のスクールカウンセラーが受持つ）≫について学ぶ。
2．教育相談の望まれる活用の実際は、「生徒達がやや追い詰められないと、なかなかやって来ない」という特徴がある。
3．しかし一方では、日常的に教師が丁寧に手助けする機会があれば、生徒達の悩みが深刻化するのを防ぐことができる。
4．講義では、1，2，3を踏まえた上で、特に③について、受講生の実践力の育成を重視し、授業時間中に実習的なプログラムをおき、すべての受講生にそれをクリアーすることを課す。

〔講義のすすめ方〕
1．生徒達が抱えてくる多様な問題について対応できることが求められる。
・学業や健康上の相談
・家族、友達、いじめなど人間関係上の問題
・不登校など非社会的な問題
・心身症的、神経症的な問題
2．問題行動に対する理解とその内容に見合った助言・相談・指導が出来ることが求められる。特に反社会的な行動には、慎重に関わることが求められる。

3．授業では次のようなトレーニングを実施する：
ａ　カウンセリングマインドの理解
ｂ　ソーシャルスキルのトレーニング
ｃ　教師と生徒の日常生活を再現させ、カウンセリン的かかわりや助言の実習をロールプレイの形式で練習する。

〔教　　材〕
1．生徒指導Ⅱ用のテキストは指定せずに、多くの資料を利用する。
＊指定参考書としては、
①「子どもの成長　教師の成長―学校臨床の展開―」
近藤・岡村・保坂（編）
東京大学出版会発行
●教育臨床では人気の高い書籍である。

②新訂「生徒指導」新井・住田・岡崎（編）
放送大学教育振興会発行
2．教育相談には多様な生徒の状況と事例が存在するので、その一つ一つに対応させて資料をの形で用意するので、学生は各自≪相談の手引き≫と称して編集し、自分で使いやすい資料集を作成して実際の相談に役立てる準備をすることは、大変充実感のある勉強法となる。

〔成績評価の方法・基準〕
① 《相談力・理解力》の評価は授業内実習で行う。必ず数回は役を実演することを課す。
② 期末にはレポートの提出を求める。
③ 出席状況

〔履修のポイント・注意点〕
1．「技術を学ぶのだ」と思う人が多いが、相談はその精神を十分に理解した上でそのための技術やこつなどを修得することが大切である。

2．受講生の人数にもよるが、実習（トレーニング）を恥ずかしがったり、嫌がったりして体験しない学生は、単位取得不可に繋がるので、注意して欲しい。

〔科目内容の位置付け〕
注：学習内容の位置づけからすると、生徒指導Ⅰの次に生徒指導Ⅱ（あるいは教育相談）を履修して欲しいが、時間割配置の都合上、両授業が前後してしまうことも考えられる。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
特になし。

m25001

科　目　名	教育実習Ⅰ / 教育実習（幼稚園）
	幼稚園実習
	授業形態：実習
教　員　名	五十嵐　敦子

〔講義目的〕
大学での理論学習を基礎に、教員としての実践力を養うために、実習園での担当教員の指導を受けつつ「部分実習」「責任実習」等の活動を体験する。園組織の実際、教員の職務、園児の実態についての理解を深めるとともに、教員としての自覚と使命感を高める。

〔成績評価の方法・基準〕
実習園の評価、「実習ノート」の内容、出席状況、授業への取り組み姿勢などを加味し、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
教育実習では、大学での授業とは異なり、社会、学校、子ども（園児）を相手とする仕事であるので、教育実習ガイダンスへの出席、提出物などの諸手続きの期日、時間厳守は当然のことであり、受講者には強い自覚と責任感が求められる。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容研究科目及び保育内容演習科目

m25501

科　目　名	教育実習Ⅰ / 教育実習（小学校）
	授業形態：実習
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
教育実習の第一の目的は、現在教員に求められている実践的指導力や倫理性の基礎訓練を、学校現場という現実の環境で実地研究するところにある。換言すれば、教育実習は、体験を通して実感を捉えるのではなく、教職に関する知識、理論、技術等大学において学んだ内容を教育実習の実施体験を通して、学校現場の営みの内容を捉え、実践的指導力の基礎を形成することを目的としている。

〔講義内容〕
教育実習においては、以下の内容の研究を深める。
1　授業観察の着眼点
・授業過程における教師と児童の活動
・目標（課題）の設定（導入）
・課題探究（展開）
・整理・評価（終末）
2　授業づくりの原則
・教材の内容分析（教材観）
・指導目標（目標）
・指導事項
・児童の実態把握（児童観）
・指導の手順と指導過程の構成
・学習指導案の作成
・教材、教具等の準備
・発問計画、板書計画

〔教　　材〕
白鷗大学発達科学部編『教育実地研究（教育実習）の手引き』（小学校）
　豊澤弘伸・齊藤武利・齋藤一人『実習における指導の技術』教育出版

〔履修のポイント・注意点〕
教育実習においては、謙虚に現実の教育を学ぶように努力して欲しい。
　教育実習事前事後研究（指導）と学校教育実習との両者が完了した段階で単位は付与される。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目として位置付けられている。実践的な指導力の基礎を体得して欲しい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
３年次に教育実習を希望する場合、その原則、又は必要要件は別途指示する。４年次に教育実習を希望する場合、「教育職員免許状および資格取得の手引き」を参照し、その条件を充たしておく。

m26101

科　目　名	教育実習（中学校）
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
　教職に就くことを前提として、教育現場において実地体験を積むことが本科目の目的である。

〔講義内容〕
　教育実習では、主に下記の指導を観察したり、実際に自ら教師として指導したりする。

1　生徒指導
2　学習指導
3　部活動指導

　指導の時間数・内容等については実習校によって異なるため、実習校の指導に従う。

〔講義のすすめ方〕
　実習校の指導に従うこと。

〔教　　材〕
　実習校から指定されたものを各自準備する。

〔成績評価の方法・基準〕
　教育実習校による「教育実習評価表」「教育実習ノート」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。教育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

〔履修のポイント・注意点〕
　中学校免許のみ希望者および中高両免許希望者は「教育実習（中）」（４単位）を履修し、中学校での実習に参加すること。

〔科目内容の位置付け〕
　教職課程の集大成ともいうべき実習である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　教職に関する科目、各教科に関する科目全般。

m26801

科　目　名	教育実習（高等学校）
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
　教職に就くことを前提として、教育現場において実地体験を積むことが本科目の目的である。

〔講義内容〕
　教育実習では、主に下記の指導を観察したり、実際に自ら教師として指導したりする。

1　生徒指導
2　学習指導
3　部活動指導

　指導の時間数・内容等については実習校によって異なるため、実習校の指導に従う。

〔講義のすすめ方〕
　教育実習校の指導に従うこと。

〔教　　材〕
　教育実習校から指定されたものを各自準備する。

〔成績評価の方法・基準〕
　教育実習校による「教育実習評価表」「教育実習ノート」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。教育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

〔履修のポイント・注意点〕
　高等学校免許のみ希望者は「教育実習（高）」（２単位）を履修し、高校での実習に参加すること。

〔科目内容の位置付け〕
　教職課程の集大成ともいうべき実習である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　教職に関する科目、各教科に関する科目全般。

m30001

科　目　名	教育実習の事前事後指導 P/ 教育実習の事前事後指導 (幼稚園)
	幼稚園
	授業形態：講義
教　員　名	五十嵐　敦子

〔講義目的〕
幼稚園における実習の目的、内容、方法、必要な手続き、留意事項などを具体的に理解し、実習日誌などの記録方法、指導計画の作成、基礎的な保育技能を身につけるとともに、実習後の学習の課題と進め方を各自が明確にする。

〔講義内容〕
1．教育実習の目的と方法
2．幼稚園教育の理解①保育所との比較
3．幼稚園教育の理解②多様な幼児教育
4．幼稚園教育の理解③五領域について
5．幼稚園教育の理解④幼稚園での一日の生活の流れ
6．ゲスト・スピーカーによる講話―実践技術を学ぶ
7．幼児期の発達特性について
8．保育記録の方法について
9．幼稚園教育実習の理解―勤務をする際の留意事項、実習園でのオリエンテーションなど
10. 指導計画（指導案）の立て方①
11. 指導計画（指導案）の立て方②
12. 保育者としてのマナー―保護者への対応など
13. 実習の反省と自己評価
14. 新しい自己課題の発見

〔講義のすすめ方〕
基本的には、講義形式であるが、課題を与えることが多い。

〔教　　材〕
テキスト：『教育実習（幼稚園）のためのガイドブック』
　　『幼稚園教育要領』
参考書：豊澤弘伸他編『実習における指導の技術－指導案の書き方－』教育出版

〔成績評価の方法・基準〕
真剣に誠実に取り組む決心をして受講して欲しい。したがって、重大な理由がない限り欠席しないこと。理由がある場合は必ず証明書を提出し、事前に連絡を入れること。遅刻ももちろん認めない。
出席を重視し、課題への取り組み、提出物などで総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
履修には一定の条件があるので、「資格・免許等の履修に関する手引き」で確認すること。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容研究科目及び保育内容演習科目

m31001

科　目　名	教育実習の事前事後指導Ｐ / 教育実習の事前事後指導（小学校）
	小学校
	授業形態：講義
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
　小学校において教育実習を行う学生が受講する科目である。教育実習を行うに当たって必要となる基礎知識や授業実践について学ぶ事前指導と、教育実習終了後に行う事後指導とによって構成される。事前指導では、教育実習に関する諸手続き、教育実習の意義や目的、学習指導案の作成、模擬授業等を通して充実した実習のための基礎を構築する。事後指導では、実習先で行なった研究授業で作成した学習指導案や授業記録等を基に学習指導のあり方について考察する。

〔講義内容〕
１．教育実習の意義や目的
２．実習前・実習中の諸注意
３～１３．模擬授業
　・学習指導案の作成
　・学習指導案の検討
　・教材・教具の作成
　・板書計画の作成
　・発問計画の作成
　・模擬授業の検討
１４．教育実習の報告と反省
　・研究授業指導案の提出
　・実習レポート提出
　・グループごとにテーマを設定し、教科指導や生活指導について話し合う。

〔講義のすすめ方〕
　模擬授業を中心にすすめる。

〔教　　材〕
　教科書は使用しない。

〔成績評価の方法・基準〕
　出席と模擬授業による評価。
　出席　60％
　模擬授業　40％

〔履修のポイント・注意点〕
　毎回、出席すること。

〔科目内容の位置付け〕
　教職に関する科目に位置付けられている。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　各教科の指導法に関する科目、教科に関する科目。

m32001

科　目　名	教育実習の事前事後指導 S/ 教育実習の事前事後指導 (保体)
	保健体育
教　員　名	近藤　智靖

〔講義目的〕
　本科目の目的は、次の通りである。
①教育実習に臨む上で事前に必要とされる諸々の知識、技能、態度を身につけること（事前指導)。
②教育実習の経験を省察すること（事後指導)。

〔講義内容〕
　本科目では、教育実習を想定して、次のような学習をする。
①実習生としての心構えや実習期間中の仕事内容について学ぶこと。
②体育科教育法と連動しながら、学習指導案の作成や模擬授業を行うこと。なお、体育科教育法では扱えなかった領域や内容について触れる。
③教育実習終了後にレポート発表を行うこと。

〔講義のすすめ方〕
　事前指導は、学生が主体となり模擬授業を行ったり、スピーチ練習を行ったりする。また、毎回リフレクションシートの提出を行う。
　事後指導では、教育実習のレポートを作成し、発表する。また、研究授業で使用した学習指導案の提出・検討を行う。

〔教　　材〕
　大学で配布する手引き、並びに学習指導要領や教科書を使用する。

〔成績評価の方法・基準〕
　評価は、出席・提出物・模擬授業への参加態度など総合的に行う。

〔履修のポイント・注意点〕
　欠席は原則として認めない。

〔科目内容の位置付け〕
　本科目は、教員養成の中核科目として位置づけられ、教育実習に直結している。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
　本科目は、これまで学んできたあらゆる実技、特別活動、学校保健、保健体育科教育法、教育実習事前指導など、全て関連している。

m33001

科　目　名	教育実習の事前事後指導 S
	英語
教　員　名	滝沢　謙三

〔講義目的〕
この科目は英語の教育実習を行う者が受講する。教育実習前の「事前指導」と実習後の「事後指導」からなる教職必修科目１単位である。事前指導では、実習の意義から教師の心得、観察参加実習などを行う。事後指導では実習反省会が主な内容となる。

〔講義内容〕
・実習の時期に合わせて受講の時期を決める。３年秋に実習に行く学生は前期のクラスに登録し、４年春に実習に行く学生は後期のクラスに登録すること。どちらも、年間を通して講義や演習がある。
・前期の事前事後指導に登録の学生は、秋に教育実習をした後、１２月に実習反省討論会などの事後指導がある。
・後期の事前事後指導に登録の学生は、前期の６月に観察参加実習があり、教育実習は翌年春で、７月に事後指導がある。
＜事前指導の内容＞
・シラバス説明　、教育実習の意義と目標
・教師の心得・職務
・特別活動とその指導など
・観察参加実習の心得
・観察参加実習（前期受講者・後期受講者とも６月）
・現職職員による講義
・教育実習終了者から学ぶ
・教育実習直前指導
＜事後指導の内容＞
・実習反省討論会
・実習報告発表会

〔講義のすすめ方〕
授業の多くは前もって設定された日時になるが、観察参加実習〔６月〕、現職教員からの指導、実習終了後の事後指導など、日時が未定なことがあるので注意してもらいたい。毎回ちゃんと出席することで、スケジュールが分かり、欠席を避けることが出来る。

〔教　　材〕
・「教育実習の手引き」（白鷗大学）

〔成績評価の方法・基準〕
プレゼンテーションとレポートをもとに総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
* 中途半端な姿勢で実習に行くことは出来ないので、欠席は原則として認めない。特別な場合は、事前に理由を添えて申し出ること。
* ディスカッションを毎回行うので、積極的に発言すること。クラスでの発言について、授業貢献度のなかで考慮する。

〔科目内容の位置付け〕
この科目の位置づけは、教員養成の中核となる教育実習の前後に行われる「事前指導」と「事後指導」である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
教育実習と一体である。

m34001

科　目　名	教育実習の事前事後指導 S
	中学・高校
教　員　名	黒澤　和人

〔講義目的〕
　教育実習に参加するに当たっての事前の準備（これを事前指導という）と、教育実習に参加した後のまとめ（これを事後指導という）を行う。
　事前指導では、教育実習の意義、心得、指導案の作成法等について学習する。
　事後指導では、教育実習の全体を振り返り、教師としての実践力強化のために今後さらに何が必要かを考える。

〔講義内容〕
［事前指導］
（１）教育実習の意義と目標
（２）教師の心得・職務
（３）特別活動とその指導
（４）観察参加実習の心得
（５～７）観察参加実習
（８）指導案作り
（９）実習終了者の体験談
(10～11）実習直前指導（２回）
［事後指導］
(12）実習反省討論会（1回）
※4年次実習対象者は、3年次実習対象者の実習反省討論会（１回）に参加する。
(13～14）実習反省討論会（２回）
※3年次実習対象者は、4年次実習対象者の実習反省討論会（２回）に参加する。

〔講義のすすめ方〕
　講義、演習、グループ学習、プレゼンテーションなどの形を織り交ぜながら進めていく。
　現職教員をゲストスピーカーとして招き、講義を受けることもある。

〔教　　材〕
　本学編集の「教育実習の手引き」を利用する。
　必要に応じて印刷教材を配布する。

〔成績評価の方法・基準〕
　定期試験はない。出席状況、レポート、授業への参加度（討議、発表等）による。
　出席点　３０％
　提出物　３０％
　発表等　４０％

〔履修のポイント・注意点〕
　教育実習を成功させるには、周到な準備が必要である。気軽に考えず、謙虚な気持ちで臨むこと。
　実習先との事前事後の諸連絡に際しては、相手の立場に立ち、誠意を持って臨むこと。そういったことも含めて、ここではあらゆることが学習・体験の対象となっていると考えること。
　専門教科の勉強を怠らず、その成果を指導案作りに活かすよう努力すること。

〔科目内容の位置付け〕
　文字通り、教育実習を補完するために設けられた授業科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　関連科目：教職に関する科目すべて。

m35001

科　目　名	教育実習Ⅰ
	授業形態：実習
教　員　名	近藤智靖　滝沢謙三　黒澤和人

〔講義目的〕
　教職に就くことを前提として、教育現場において実地体験を積むことが本科目の目的である。

〔講義内容〕
　教育実習では、主に下記の指導を観察したり、実際に自ら教師として指導したりする。
1　生徒指導
2　学習指導
3　部活動指導
　指導の時間数・内容等については実習校によって異なるため、実習校の指導に従う。

〔講義のすすめ方〕
　実習校の指導に従うこと。

〔教　　材〕
　実習校から指定されたものを各自準備する。

〔成績評価の方法・基準〕
　教育実習校による「教育実習評価表」「教育実習ノート」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。教育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

〔履修のポイント・注意点〕
　中学校免許のみ希望者および中高両免許希望者は「教育実習Ⅰ」（4単位）を履修し、原則として中学校での実習に参加すること。

〔科目内容の位置付け〕
　教職課程の集大成ともいうべき実習である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　教職に関する科目、各教科に関する科目全般。

m36001

科　目　名	教育実習Ⅱ
	授業形態：実習
教　員　名	近藤智靖　滝沢謙三　黒澤和人

〔講義目的〕
　教職に就くことを前提として、教育現場において実地体験を積むことが本科目の目的である。

〔講義内容〕
　教育実習では、主に下記の指導を観察したり、実際に自ら教師として指導したりする。
1 生徒指導
2 学習指導
3 部活動指導
　指導の時間数・内容等については実習校によって異なるため、実習校の指導に従う。

〔講義のすすめ方〕
　教育実習校の指導に従うこと。

〔教　　材〕
　教育実習校から指定されたものを各自準備する。

〔成績評価の方法・基準〕
　教育実習校による「教育実習評価表」「教育実習ノート」の内容を教職等課程委員会で検討し、総合的に評価する。教育実習期間を満了することで単位が付与されるわけではない。

〔履修のポイント・注意点〕
　高等学校免許のみ希望者は「教育実習Ⅱ」（2単位）を履修し、高校での実習に参加すること。

〔科目内容の位置付け〕
　教職課程の集大成ともいうべき実習である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
　教職に関する科目、各教科に関する科目全般。

m36002

科　目　名	教育実習Ⅱ
	幼稚園実習
	授業形態：実習
教　員　名	五十嵐　敦子

〔講義目的〕
大学での理論学習を基礎に、教員としての実践力を養うために、実習園での担当教員の指導を受けつつ「部分実習」「責任実習」等の活動を体験する。園組織の実際、教員の職務、園児の実態についての理解を深めるとともに、教員としての自覚と使命感を高める。

〔成績評価の方法・基準〕
実習園の評価、「実習ノート」の内容、出席状況、授業への取り組み姿勢などを加味し、総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
教育実習では、大学での授業とは異なり、社会、学校、子ども（園児）を相手とする仕事であるので、教育実習ガイダンスへの出席、提出物などの諸手続きの期日、時間厳守は当然のことであり、受講者には強い自覚と責任感が求められる。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
保育内容研究科目及び保育内容演習科目

m36003

科　目　名	教育実習Ⅱ
	授業形態：実習
教　員　名	益田　勇一

〔講義目的〕
教育実習の第一の目的は、現在教員に求められている実践的指導力や倫理性の基礎訓練を、学校現場という現実の環境で実地研究するところにある。換言すれば、教育実習は、体験を通して実感を捉えるのではなく、教職に関する知識、理論、技術等大学において学んだ内容を教育実習の実施体験を通して、学校現場の営みの内容を捉え、実践的指導力の基礎を形成することを目的としている。

〔講義内容〕
教育実習においては、以下の内容の研究を深める。
1　授業観察の着眼点
・授業過程における教師と児童の活動
・目標（課題）の設定（導入）
・課題探究（展開）
・整理・評価（終末）
2　授業づくりの原則
・教材の内容分析（教材観）
・指導目標（目標）
・指導事項
・児童の実態把握（児童観）
・指導の手順と指導過程の構成
・学習指導案の作成
・教材、教具等の準備
・発問計画、板書計画

〔教　　材〕
白鷗大学発達科学部編『教育実地研究（教育実習）の手引き』（小学校）
　豊澤弘伸・齊藤武利・齋藤一人『実習における指導の技術』教育出版

〔履修のポイント・注意点〕
教育実習においては、謙虚に現実の教育を学ぶように努力して欲しい。
　教育実習事前事後研究（指導）と学校教育実習との両者が完了した段階で単位は付与される。

〔科目内容の位置付け〕
教職に関する科目として位置付けられている。実践的な指導力の基礎を体得して欲しい。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
３年次に教育実習を希望する場合、その原則、又は必要要件は別途指示する。４年次に教育実習を希望する場合、「教育職員免許状および資格取得の手引き」を参照し、その条件を充たしておく。

zt0101

科　目　名	学校経営と学校図書館
	授業形態：講義
教　員　名	紺野　順子

〔講義目的〕
本講は司書教諭課程の総論にあたる科目である。まず、学校図書館の学校教育における意義と役割を明らかにし、学校図書館の理念、発展過程、経営のあり方、今後の課題など、学校図書館全般についての基本的理解を目指す。
　とりわけ、学校図書館の教育的意義、司書教諭の任務と職務について体得することを到達目標とする。

〔講義内容〕
1　学校図書館の理念と教育的意義
2　学校図書館の発達過程と課題
3　教育行政と学校図書館
4　学校経営組織と学校図書館
5　学校図書館経営の原理
6　学校図書館環境のあり方と整備
7　図書館ネットワークと学校図書館
8　司書教諭の任務と職務
9　学校内の協力体制と司書教諭
10　学校図書館メディアの教育的意義
11　学校図書館メディアの内容と構築
12　学校図書館メディアの管理と提供
13　学校図書館活動の意義
14　学校図書館活動の内容と方法
15　学校図書館の課題と展望

〔講義のすすめ方〕
司書教諭は、子どもたちに各種メディアを活用させ、自主的に学習する方法・態度を学ばせる任務をもつ教員である。したがって司書教諭資格取得を目指す学習者は、当然、自主的・自発的に学ばなければならない。このことをふまえ本講座は、一方的講義を排し、学生自身による調査・研究、発表、討議等可能なかぎり自主的・自発的で参加型の学習を進める。

〔教　　材〕
教科書：全国学校図書館協議会編『学校図書館・司書教諭講習資料』第5版全国学校図書館協議会　2006年　2000円
（法規・基準・ガイドライン・学校図書館の施設・設備・メディア・活動など、司書教諭の活動に必要な基本的資料を網羅した資料集である。司書教諭課程５科目共通に利用できる）
指定図書：笠原良郎監修『シリーズいま、学校図書館のやるべきこと』（全６巻　ポプラ社　2005年）
（学校図書館の役割・資料・情報の整備・メディア活用能力育成・読書指導・情報活用・総合的学習を支援する学校図書館など、現在の学校図書館の課題を実践的にわかりやすく解説したシリーズ）

〔成績評価の方法・基準〕
授業の進行に応じて提出を求める小レポート40％、課題「私の考える理想の学校図書館」作成40％、出席20％

〔履修のポイント・注意点〕
本講は資格科目であり、安易な学習姿勢・態度はゆるされない。また集中講義という限られた時間内での学習なので効率的に取り組む必要がある。

〔科目内容の位置付け〕
学校図書館学は教育学と図書館情報科学との二つの領域にまたがる内容を含む。単なる知識・技能の習得にとどまらず教育的実践をふまえた科目内容である。とくに本科目は司書教諭課程５科目の総論的な位置づけの科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
司書教諭資格取得は教職課程履修が前提である。この科目を履修することによって、図書館情報学の専門家としてのあり方および教師としての教育課題がより明確になる。ほかの４科目修得の基礎科目である。

zt0201

科　目　名	学校図書館メディアの構成
	授業形態：講義
教　員　名	早野　喜久江

〔講義目的〕
各種メディアは、学校図書館の生命である。そのメディアを児童・生徒が活用するために、どう構成するかは司書教諭の重要な任務である。本講では、メディアの構成に関する理論的理解と、その実務能力の育成を図ることを目的とする。

〔講義内容〕
1　学校図書館メディアの意義とその教育的な役割
2　学校図書館の各種メディアとその特性
3　学校図書館メディア構築の基本
4　学校図書館メディアの収書方針と選択
5　学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス
6　学校図書館メディアの分類の意義と機能
7　日本十進分類法の理解と利用
8　分類作業の実際（1）
9　分類作業の実際（2）
10　主題検索の意義と機能
11　件名目録作成の実際
12　目録の意義と機能、目録の種類と構成
13　目録規則と目録作業の実際（1）
14　目録作業の実際（2）
15　図書の配架と図書以外のメディアの組織化

〔講義のすすめ方〕
学校図書館の各種メディアの組織化について理論的に理解することも重要であるが、具体的・実際的な実務能力の体得が一層重要である。したがって本講では、可能な限り実践的な方法で学習をすすめる。

〔教　　材〕
　教科書：笠原良郎・紺野順子著『シリーズいま、学校図書館のやるべきこと　2．資料・情報を整備しよう　学校図書館メディアの選択と組織化』ポプラ社　2005年　1575円
指定図書：全国学校図書館協議会編『学校図書館・司書教諭講習資料』第5版　全国学校図書館協議会　2006年　2000円

〔成績評価の方法・基準〕
講義の進行に応じて行う小レポート（40％）、分類・目録演習（30％）、理解度確認の最終試験（30％）で総合的に評価する。

〔履修のポイント・注意点〕
本講は資格科目であり、学校図書館のメディア組織化の実務能力は司書教諭に欠くことのできない課題である。理論と実務の習得をめざすものであり、特に実務の演習を中心にすすめる。集中講義という限られた時間内での学習であるが積極的に取り組む必要がある。

〔科目内容の位置付け〕
司書教諭科目5科目のうち「学校図書館メディアの構成」は、最も具体的であり、かつ実務的な科目である。図書館情報学におけるメディア組織論を踏まえ、学校図書館独自の観点と方法を追求する。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
学校経営と学校図書館で学んだ意義、機能を踏まえ学校図書館メディアに関し、その理念の具現化を図る科目である。

zt0301

科　目　名	学習指導と学校図書館
	授業形態：講義
教　員　名	紺野　順子

〔講義目的〕
児童生徒が自主的・主体的に学習を進めるためには、図書館及び、各種メディアを活用する能力が必須であり、その育成は教員としての司書教諭の重要な使命である。本講では、まず「メディア活用能力」育成の意義・理念を明確にし、指導内容、指導計画については課題演習・発表を通して究明していく。ついで、具体的な指導方法についての理解を図ったうえで「指導案」の作成を課す。できるだけ実践的に学習を進める。

〔講義内容〕
1　教育課程の展開と学校図書館の役割
2　主体的学習とメディア活用能力
3　メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4　指導内容の具体的検討（課題調査および発表）
5　指導内容の具体的検討（課題調査および発表）
6　指導内容の調査結果の発表・討議
7　指導計画作成のための原理
8　指導内容の体系化（グループ討議）
9　指導内容の体系化（グループ討議）
10　メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11　メディア活用能力育成指導の方法
12　特定学年の単位時間内での指導案作成
13　集団指導・個別指導の意義とその展開
14　メディア活用能力育成と情報サービス
15　教員に対する支援と働きかけ

〔講義のすすめ方〕
子どもたちに各種メディアを有効に活用する方法を学ばせるためには、その指導者である司書教諭が自ら有効適切なメディア活用方法を体得していることが前提である。このことを踏まえ、本講座では学生自身による調査研究発表・討議等、可能なかぎり自主的かつ実践的方法で学習をすすめる。

〔教　　材〕
教科書：全国学校図書館協議会『学校図書館・司書教諭講習資料』第5版　全国学校図書館協議会　2006年2000円
（「学校経営と学校図書館」と共用）
指定図書：笠原良郎監修『シリーズいま、学校図書館のやるべきこと』（全６巻　ポプラ社　2005年）
（「学校経営と学校図書館」と共用）

〔成績評価の方法・基準〕
課題についての調査および発表３０％、メディア活用能力育成のための「指導案」作成３０％、理解度確認のための論述レポート４０％

〔履修のポイント・注意点〕
本講は、教師による一方的な「教え込む教育」を排し、子ども自らが自主的・自発的に学ぶ「学び方」指導の方法を学ぶ科目である。したがって、その方法を学ぶ学生自身が「自ら考える」自主的・自発的学習姿勢が必要である。また、集中講義という限られた時間内での学習なので効率的に取り組むことが求められる。

〔科目内容の位置付け〕
学校図書館は日々の学習指導の中で活用されることが基本的な機能である。その具体的な方法を学ぶ本科目は、こうした学校図書館の目的・課題からみて司書教諭課程５科目のうち、最も切実かつ重要な科目である。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
教職課程の社会科教育法、理科教育法など、各教科教育法と密接な関係を持つ。

zt0401

科　目　名	読書と豊かな人間性
	授業形態：講義
教　員　名	後路　好章

〔講義目的〕
読書が好きですか？あなたは、読書でどんな喜びを得てきましたか？
　本講座では、読書の楽しさを改めて考え直し、まずあなた自身が、「読書大好き人間」になることが大前提です。
　次に、児童・生徒が利用する多様な読書資料の分析です。資料には、その資料独自の役割があることを理解していきます。
　３番目には、その資料をどうやって児童・生徒に手渡し、読書の喜びを感得させていったらいいのか、読書指導の具体策を学習します。
　最終的には、教員としての司書教諭の役割を理解することです。家庭・地域までも含めた全校の読書計画を立案・実行していくのが司書教諭の大事な役割です。学校司書との違いをしっかり認識し、司書教諭の役割を具体的にイメージできるよう学習していきます。

〔講義内容〕
①「わたし」の読書体験
②児童・生徒の読書状況
③読書の意義と学校教育における読書の位置づけ
④読書資料の種類と特性
⑤発達段階に応じた読書指導
＊読みのレディネスの促進
＊読書資料の選択と評価
＊調べ学習と読書資料の分析
＊ヤングアダルトの読書活動の支援
⑥読書指導の実践
＊読み語り（読み聞かせ）
＊ブックトーク
＊ブックリストの作成
＊読書相談
＊読書感想文
＊読書感想画
＊読書ゆうびん
＊読書会
＊その他の実践
⑦読書推進活動と司書教諭の役割
＊家庭・地域を含めた全校の読書推進活動
＊関連施設との連携
＊読書資料の整備充実
＊国の読書推進策

〔講義のすすめ方〕
講義と実習・発表を織り交ぜながら進めていきます。
　毎日、数人の履修者に「わたしのおすすめ本」を紹介してもらいます。
　毎日、講義終了時、履修者全員に「きょうの感想」を200字以内で書いてもらいます。
　わたしの講義は「むつかしいことをやさしく、やさしいことをおもしろく」がモットーです。遠慮せずに、どんどん注文をつけてください。

〔教　　材〕
『読書の楽しさを伝えよう』知と心を育てる読書の教育笠原良郎編著　ポプラ社

〔成績評価の方法・基準〕
出席率　40％
授業態度　30％
レポート　30％

〔履修のポイント・注意点〕
・積極的に発言する。
・発言する際、履修者全員に伝わるように明瞭に話す
　履修者の疑問や問題解決を、みんなで分かち合いたいと思っています。そのために、楽しく学び合う空間を履修者全員に工夫してもらいます。

〔科目内容の位置付け〕
読書はすべての教科の基礎になる、きわめて大事な行為です。豊かな人間性を作る基本となります。「読書しない国に未来はない」ということばがあります。「好きこそものの上手なれ」です。５日間の履修で、自己変革できるよう努力してください。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容）〕
教育課程の履修が前提であり、司書教諭資格のための以下の４科目と関連します。
「学校経営と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」「情報メディアの活用」

zt0501

科　目　名	情報メディアの活用
	授業形態：講義
教　員　名	石川　賀一

〔講義目的〕
今日，知識や情報の検索はインターネットやデータベースの活用が中心である。主体的な学習を支援する学校図書館においてもデジタルメディアの活用は不可欠といえる。本講義では、学校図書館における多様な情報メディアの特性、活用方法等について学習する。

〔講義内容〕
講義と演習の組み合わせ。
主な内容
１．高度情報社会と人間
２．情報メディアの特性と選択
３．視聴覚メディアの活用
４．コンピュータの活用
・教育用ソフトウェアの活用
・データベースと情報検索
・インターネットによる情報検索と発信
５．学校図書館メディアと著作権

〔講義のすすめ方〕
第１回：科目ガイダンス、高度情報社会と人間①（情報メディアの発達と社会、情報リテラシー）
第２回：高度情報社会と人間②（高度情報社会における学校、図書館について）
第３回：情報メディアの特性と選択①（各情報メディアの特性と選択について）
第４回：情報メディアの特性と選択②（情報メディアの収集、複合的な活用について）
第５回：視聴覚メディアの活用
第６回：コンピュータの導入の意義、学校図書館とコンピュータについて
第７回：教育用ソフトウェアの意義、教育用ソフトウェアの選択と活用について
第８回：データベースと情報検索（データベースの基礎知識、検索プロセス、技法、評価）
第９回：インターネットのしくみ、インターネットの光と影
第10回：インターネットを活用した情報検索①（サーチエンジンによる情報検索演習）
第11回：インターネットを活用した情報検索②（オンラインデータベースからの情報検索演習）
第12回：学校図書館とホームページ、学習に役立つリンク集作成演習①
第13回：学習に役立つリンク集作成演習②
第14回：学校図書館メディアと著作権
第15回：テスト

〔教　　材〕
教科書：「情報メディアの活用（古賀節子監修　司書教諭テキストシリーズ05)」井口磯夫編　樹村房
参考図書は、講義の中で適宜紹介します。
講義内で関連資料を配付します。
その他用意するもの：記録媒体（ＵＳＢフラッシュメモリなど）

〔成績評価の方法・基準〕
評価の前提条件：３分の２以上の出席
演習課題：学期２－３回
テスト：学期１回
判定基準：演習課題とテストを総合的に評価する。演習課題（50％)、テスト（50％）

〔履修のポイント・注意点〕
・学習に役立つリンク集作成演習では、学習の目的を明確にするため指導案をもとにリンク集を作成する。したがって、受講前に各自で指導案を必ず作成してくること。
・各自が目指している教員の校種や科目の知識だけでなく、日常生活の出来事や時事問題にも関心をもって取り組んでください。
・集中講義のため、欠席は通常期の講義以上に学習の欠落を伴う。やむ得ない事情で欠席する場合は必ずその旨を連絡すること。

〔科目内容の位置付け〕
「情報メディアの活用」は、学校図書館司書教諭５科目のひとつです。位置づけはデジタルメディア、ネットワークメディアを中心とした情報メディアの運用管理とアクセス提供論について学ぶ科目です。

〔前提・関連科目（科目間関連の内容)〕
社会科教育法、理科教育法など教職科目において、指導案の作成について学習していることを前提とする。児童生徒の学習段階・発達段階に着目した「学習指導と学校図書館」や「読書と豊かな人間性」との関連にも注目する。また、「学校図書館メディアの構成」で学んだ図書館にコレクションできる物理的実態があるメディアとの関連と差違についても考える。

2009年度　シラバス（講義概要）
白鷗大学 教育学部・発達科学部

平成21年４月１日　発行
編集・発行　白鷗大学事務局
〒323－8585
栃木県小山市大行寺1117番地
電話　0285－22－1111(代表)
ホームページ　http://hakuoh.jp/